

# 西原大塚遺跡 第235地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

埼玉県志木市教育委員会

志木市の文化財 第89集

# 西原大塚遺跡 第235地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

埼玉県志木市教育委員会







1. 調査区全景（合成空中写真）





1. 20号石器集中地点・5号礫群遺物出土状態（南から）



2. 20号石器集中地点出土遺物





1. 644 号住居跡遺物出土状態（南から）



2. 651 号住居跡遺物出土状態（南東から）





1. 5号掘立柱建築遺構全景（西から）



2. 5号掘立柱建築遺構出土遺物

# はじめに

志木市教育委員会  
教育長 柚木 博

ここに刊行する『西原大塚遺跡第 235 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和 3 年度に受託事業として実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

現在、市内には、15 か所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

また、西原大塚遺跡については、これまでの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

さて、今回報告する西原大塚遺跡第 235 地点では、旧石器時代～近世にかけての遺構・遺物が多数発見されました。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者、そして深い御理解と御協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

# 例 言

1. 本書は、令和3年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する西原大塚遺跡第235地点の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、分譲住宅建設及び道路新設工事に伴う記録保存のための発掘調査として、文化財保護法第99条に基づき、志木市教育委員会が調査主体者として実施したものである。
3. 本調査の実施にあたり、工事主体者・志木市教育委員会・大成エンジニアリング株式会社（代表取締役 石川 勇（～令和4年6月22日）・岩崎信治（令和4年6月23日～））の三者による協定を締結した上で、大成エンジニアリング株式会社が発掘調査支援業務を行った。
4. 発掘作業は令和3年10月25日から令和4年3月31日まで行い、整理作業・報告書刊行作業を令和5年3月31日まで行った。
5. 本書の作成は尾形則敏・徳留彰紀・大久保 聡・木村結香が監修し、編集は市川康弘が行った。執筆は第1章、第2章第1節を尾形、第2章第2節から第4章を市川が担当した。
6. 中世以降の遺物については、和光市文化財調査指導員の野澤 均氏にご教示いただいた。
7. 本書に掲載した石器については、文化財整理こうけんに実測・トレースを委託した。
8. 自然科学分析については、株式会社パレオ・ラボ、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
9. 発掘作業における表土剥ぎ作業については、合同会社久松（代表社員 久松洋次郎）に委託した。
10. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。
11. 調査組織は以下のとおりである。

## 【志木市教育委員会組織】

調 査 主 体 者	志木市教育委員会
教 育 長	柚 木 博
教 育 政 策 部 長	北 村 竜 一（～令和3年度）
〃	今 野 美 香（令和4年度～）
生 涯 学 習 課 長	土 崎 健 太
生 涯 学 習 副 課 長	吉 成 和 重
生 涯 学 習 課 主 幹	浅 見 千 穂
生 涯 学 習 課 主 査	尾 形 則 敏（～令和3年度）
〃	徳 留 彰 紀
〃	大 久 保 聡（令和4年度～）
生 涯 学 習 課 主 任	尾 形 則 敏（令和4年度～）
〃	大 久 保 聡（～令和3年度）
〃	石 川 千 尋
生 涯 学 習 課 主 事	塚 原 会 理（令和4年度～）
生 涯 学 習 課 主 事 補	木 村 結 香（令和3年8月～）
〃	遠 藤 彪 雅（～令和3年度）

志木市文化財保護審議会 井上 國夫 (会長)  
" 深瀬 克 (委員)  
" 上野守嘉 (委員)  
" 新田泰男 (委員)  
" 金子博一 (委員)  
調査担当者 尾形則敏・徳留彰紀・大久保 聡・木村結香

【大成エンジニアリング株式会社】

○発掘調査

調査員 市川康弘  
現場代理人 小林秀樹  
調査補助員 服部美咲・久嶋 衛・黒濟和彦・山中菊乃  
作業員 石川まゆみ・石田智幸・今井雄太・植村智美・大橋太郎・小野寺 信  
柏木麻友子・加藤優李・川口沙織・北村好明・小林 光・佐久間正崇  
佐々木史郎・佐々木 裕・神 巖・菅谷吉洋・鈴木雅大・関口 魁  
瀬戸宏征・高橋 葵・田原 浩・綱島昭四郎・並木智子・長谷川賢二  
宮崎文隆・宮澤洋美・矢野 正・山口玲奈・山本紗恵子・米島妙子

○整理作業

調査員 市川康弘  
調査補助員 宇田武史・斎藤資高・服部美咲・山崎裕子  
作業員 大平宏典・岡崎千津子・可知直子・菊池直美・栗山結花・志塚翔磨  
菅沼晶子・竹内千晴・中丸洋沙愛・中村君江・西川英里・平野聡志  
藤瀬和枝・堀田 勉・松本義弘・吉岡明子・渡部 文・渡邊幹子

12.発掘作業及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会  
朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

13.本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記のとおりである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和3年10月13日付け 教文資第4-1449号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和4年6月17日付け 教文資第7-26号



# 凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図 1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

第2図 1：5,000 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成27年4月発行  
株式会社ゼンリン

2. 本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に即している。

3. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

4. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。

5. ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。

6. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。

7. 挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。

8. 土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は〔 〕、推定値は（ ）を付した。

高：器高 口：口径 底：底径 脚：脚部径 厚：器厚

9. 遺構などの略記号は、以下のとおりである。

U = 旧石器時代の石器集中地点 礫 = 旧石器時代の礫群 TP = 旧石器時代の試掘坑

FP = 縄文時代の炉穴 Y = 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡

H = 古墳時代後期の住居跡 T = 掘立柱建築遺構 D = 土坑 W = 井戸跡

畝 = 畝状遺構 P = ピット

# 目 次

巻頭図版／はじめに

例 言／凡 例／目 次／挿図目次／表 目 次／図版目次

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2節 遺跡の概要	8
第2章 発掘調査の概要	11
第1節 調査に至る経緯	11
第2節 発掘調査の経過	13
第3節 基本層序と地形	16
第3章 検出された遺構と遺物	22
第1節 旧石器時代の遺構・遺物	22
第2節 縄文時代の遺構・遺物	93
第3節 弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物	95
第4節 古墳時代後期の遺構・遺物	146
第5節 中世以降の遺構・遺物	154
第6節 遺構外出土遺物	183
第4章 調査のまとめ	193
第1節 旧石器時代	193
第2節 弥生時代後期～古墳時代前期	203
第3節 古墳時代後期	214
第4節 中世以降	219

[付編] 自然科学分析

I. 西原大塚遺跡第 235 地点の放射性炭素年代測定	227
II. 西原大塚遺跡第 235 地点の黒曜石産地同定	230
III. 西原大塚遺跡第 235 地点の炭化材樹種同定	238
IV. 西原大塚遺跡第 235 地点の土器種実圧痕同定	239

図 版

報告書抄録

## 挿 図 目 次

第 1 図	市域の地形と遺跡分布 (1 / 20,000)	2
第 2 図	西原大塚遺跡の調査地点 (1 / 5,000)	10
第 3 図	確認調査時の遺構分布 (1 / 300)	12
第 4 図	調査区配置図 (1 / 800)	14
第 5 図	等高線図 (1 / 300)	17
第 6 図	試掘坑配置図 (1 / 300)	18
第 7 図	基本層序 1 (1 / 80)	19
第 8 図	基本層序 2 (1 / 80)	20
第 9 図	遺構分布図 (1 / 300)	21
第 10 図	旧石器時代遺構分布図 (1 / 300)	23
第 11 図	20 号石器集中地点 器種別分布図 (1 / 80)	24
第 12 図	20 号石器集中地点 石質別分布図 (1 / 80)	25
第 13 図	20 号石器集中地点出土遺物 1 (4 / 5)	26
第 14 図	20 号石器集中地点出土遺物 2 (4 / 5)	27
第 15 図	20 号石器集中地点出土遺物 3 (4 / 5)	28
第 16 図	20 号石器集中地点出土遺物 4 (1 / 2)	29
第 17 図	20 号石器集中地点出土遺物 5 (4 / 5)	31
第 18 図	20 号石器集中地点出土遺物 6 (1 / 2・4 / 5)	32
第 19 図	20 号石器集中地点出土遺物 7 (1 / 2・4 / 5)	33
第 20 図	20 号石器集中地点出土遺物 8 (4 / 5)	34
第 21 図	20 号石器集中地点出土遺物 9 (4 / 5)	35
第 22 図	20 号石器集中地点出土遺物 10 (4 / 5)	36
第 23 図	20 号石器集中地点出土遺物 11 (4 / 5)	37
第 24 図	20 号石器集中地点出土遺物 12 (4 / 5)	38
第 25 図	20 号石器集中地点出土遺物 13 (4 / 5)	39
第 26 図	21 号石器集中地点 器種別分布図 (1 / 60)	42
第 27 図	21 号石器集中地点 石質別分布図 (1 / 60)	43
第 28 図	21 号石器集中地点出土遺物 1 (4 / 5)	44
第 29 図	21 号石器集中地点出土遺物 2 (4 / 5)	45
第 30 図	21 号石器集中地点出土遺物 3 (4 / 5)	46
第 31 図	21 号石器集中地点出土遺物 4 (4 / 5)	47
第 32 図	22 号石器集中地点 器種別分布図 (1 / 60)	51
第 33 図	22 号石器集中地点 石質別分布図 (1 / 60)	52
第 34 図	22 号石器集中地点出土遺物 (4 / 5)	52
第 35 図	5号礫群 遺物出土状態 (1 / 60)	54
第 36 図	5号礫群 石質別分布図 (1 / 60)	55
第 37 図	5号礫群 重量別分布図 (1 / 80)	57
第 38 図	5号礫群 重量別分布図 (砂岩) (1 / 80)	58
第 39 図	5号礫群 重量別分布図 (チャート) (1 / 80)	59
第 40 図	5号礫群 重量別分布図 (泥岩) (1 / 80)	60

第 41 図	5号礫群 重量別分布図 (礫岩) (1 / 80)	61
第 42 図	5号礫群 重量別分布図 (ホルンフェルス) (1 / 80)	62
第 43 図	6号礫群 石質別分布図 (1 / 60)	86
第 44 図	6号礫群 重量別分布図 (1 / 60)	87
第 45 図	7号礫群 石質別分布図 (1 / 60)	88
第 46 図	7号礫群 重量別分布図 (1 / 60)	89
第 47 図	14号旧石器試掘坑遺物出土状態 (1 / 60)	90
第 48 図	3・7号旧石器試掘坑遺物出土状態 (1 / 60)	91
第 49 図	旧石器試掘坑出土遺物 (4 / 5)	92
第 50 図	22号炉穴 (1 / 60)	93
第 51 図	28号ピット (1 / 60)	93
第 52 図	縄文時代遺構分布図 (1 / 300)	94
第 53 図	弥生時代後期～古墳時代前期遺構分布図 (1 / 300)	96
第 54 図	640号住居跡 (1 / 60・1 / 30)	97
第 55 図	640号住居跡遺物出土状態 (1 / 60)	98
第 56 図	640号住居跡出土遺物 (1 / 4・1 / 3)	98
第 57 図	641号住居跡 (1 / 60・1 / 30)	100
第 58 図	641号住居跡掘り方・遺物出土状態 (1 / 60)	101
第 59 図	641号住居跡出土遺物 (1 / 4・1 / 3)	102
第 60 図	642号住居跡 (1 / 60)	103
第 61 図	642号住居跡出土遺物 (1 / 4)	104
第 62 図	643号住居跡 (1 / 60)	105
第 63 図	643号住居跡出土遺物 (1 / 4・1 / 3)	105
第 64 図	644号住居跡 (1 / 60)	106
第 65 図	644号住居跡炉・貯蔵穴 (1 / 30)	107
第 66 図	644号住居跡掘り方 (1 / 60)	107
第 67 図	644号住居跡遺物出土状態 (1 / 60)	108
第 68 図	644号住居跡出土遺物 1 (1 / 4)	109
第 69 図	644号住居跡出土遺物 2 (1 / 4)	110
第 70 図	644号住居跡出土遺物 3 (1 / 4)	111
第 71 図	644号住居跡出土遺物 4 (1 / 4・1 / 3)	112
第 72 図	645号住居跡 (1 / 60)	116
第 73 図	646号住居跡・遺物出土状態 (1 / 60)	116
第 74 図	646号住居跡炉 (1 / 30)	117
第 75 図	646号住居跡出土遺物 (1 / 4)	117
第 76 図	647号住居跡 (1 / 60)	118
第 77 図	648号住居跡 (1 / 60・1 / 30)	119
第 78 図	648号住居跡遺物出土状態 (1 / 60)	120
第 79 図	648号住居跡出土遺物 (1 / 4・1 / 3)	121
第 80 図	649号住居跡 (1 / 60)	122
第 81 図	649号住居跡炉・貯蔵穴・掘り方・遺物出土状態 (1 / 30・1 / 60)	123
第 82 図	649号住居跡出土遺物 (1 / 4)	124
第 83 図	650号住居跡 (1 / 60・1 / 30)	125

第84図	650号住居跡掘り方 (1/60)	126
第85図	651号住居跡 (1/60・1/30)	127
第86図	651号住居跡P1～P4・粘土・掘り方・遺物出土状態1 (1/60)	128
第87図	651号住居跡遺物出土状態2 (1/40)	129
第88図	651号住居跡出土遺物 (1/4)	129
第89図	652号住居跡 (1/60)	131
第90図	652号住居跡炉・貯蔵穴 (1/30)	132
第91図	652号住居跡掘り方 (1/60)	132
第92図	652号住居跡遺物出土状態 (1/60)	133
第93図	652号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)	134
第94図	653号住居跡 (1/60)	135
第95図	653号住居跡炉 (1/30)	136
第96図	653号住居跡貯蔵穴・赤色砂利層・P1～P7 (1/30・1/60)	137
第97図	653号住居跡掘り方・遺物出土状態 (1/60)	138
第98図	653号住居跡出土遺物 (1/4)	139
第99図	654号住居跡 (1/60)	140
第100図	654号住居跡炉・掘り方・遺物出土状態 (1/30・1/60)	141
第101図	654号住居跡出土遺物 (1/4)	142
第102図	655号住居跡 (1/60・1/30)	143
第103図	655号住居跡遺物出土状態 (1/60・1/40)	144
第104図	655号住居跡掘り方 (1/60)	145
第105図	655号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)	145
第106図	古墳時代後期遺構分布図 (1/300)	147
第107図	31号住居跡 (1/60)	148
第108図	31号住居跡貯蔵穴・炉・カマド (1/30)	149
第109図	31号住居跡P5・P6・掘り方 (1/60)	150
第110図	31号住居跡遺物出土状態 (1/60)	151
第111図	31号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)	152
第112図	中世以降の遺構分布図 (1/300)	155
第113図	5号掘立柱建築遺構 (1/60)	156
第114図	5号掘立柱建築遺構出土遺物 (1/4)	157
第115図	土坑 B群1類 (1/60)	159
第116図	土坑 B群2類1 (1/60)	164
第117図	土坑 B群2類2 (1/60)	165
第118図	土坑 C群 (1/60)	167
第119図	土坑 D群 (1/60)	167
第120図	土坑 E群 (1/60)	169
第121図	中世以降の土坑出土遺物 (1/4)	169
第122図	11号井戸跡 (1/60)	171
第123図	11号井戸跡出土遺物 (1/4)	171
第124図	12号井戸跡 (1/60)	172
第125図	12号井戸跡出土遺物 (1/4)	173
第126図	畝状遺構群 (1/120・1/60)	174

第127図	中世以降のピット 1 (1 / 60)	175
第128図	中世以降のピット 2 (1 / 60)	176
第129図	中世以降のピット 3 (1 / 60)	177
第130図	中世以降のピット 4 (1 / 60)	178
第131図	中世以降のピット 5 (1 / 60)	179
第132図	中世以降のピット出土遺物 (1 / 4)	180
第133図	遺構外出土旧石器時代石器 1 (4 / 5)	184
第134図	遺構外出土旧石器時代石器 2 (4 / 5)	185
第135図	遺構外出土縄文時代遺物 1 (1 / 3)	186
第136図	遺構外出土縄文時代遺物 2 (1 / 3)	187
第137図	遺構外出土縄文時代遺物 3 (1 / 3・2 / 3・1 / 4)	188
第138図	遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期の土器 (1 / 4)	192
第139図	遺構外出土中世以降の遺物 (1 / 4・1 / 3)	192
第140図	20号石器集中地点 石質別器種組成	193
第141図	4号石器集中地点出土遺物 (4 / 5)	195
第142図	松原遺跡出土遺物 (1 / 4)	196
第143図	22号石器集中地点 石質別器種組成	196
第144図	西原大塚遺跡検出礫群分布図 (1 / 5,000・1 / 1,500)	198
第145図	5号礫群赤化状態別分布図 (1 / 100)	201
第146図	礫群出土礫の被熱赤化率	202
第147図	赤井戸式土器	205
第148図	器台形土器の諸類型 (1 / 4)	210
第149図	天神前遺跡・下向山遺跡炉器台出土事例	211
第150図	炉器台	212
第151図	西原大塚遺跡北部・新邸遺跡の弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡分布図 (1 / 800)	213
第152図	甗形土器 A 1 b 類の形態変遷 (1 / 4)	216
第153図	西原大塚遺跡古墳時代後期住居跡分布図 (1 / 4,000)	217
第154図	竪穴付掘立柱建物 (1 / 200)	220
第155図	暦年較正結果	229
第156図	黒曜石産地一覧	231
第157図	黒曜石産地推定結果 (1)	234
第158図	黒曜石産地推定結果 (2)	235

## 目 次

第 1 表	志木市埋蔵文化財包蔵地一覧	1
第 2 表	西原大塚遺跡第 235 地点の発掘調査工程表	15
第 3 表	20 号石器集中地点出土石器一覧 (1)	39
	20 号石器集中地点出土石器一覧 (2)	40
	20 号石器集中地点出土石器一覧 (3)	41
第 4 表	20 号石器集中地点出土石器一覧 (非掲載)	41
第 5 表	21 号石器集中地点出土石器一覧 (1)	48
	21 号石器集中地点出土石器一覧 (2)	49
第 6 表	21 号石器集中地点出土石器一覧 (非掲載 1)	49
	21 号石器集中地点出土石器一覧 (非掲載 2)	50
第 7 表	21 号石器集中地点出土礫一覧	50
第 8 表	22 号石器集中地点出土石器一覧	52
第 9 表	22 号石器集中地点出土石器一覧 (非掲載)	53
第 10 表	5 号礫群出土礫属性表 (1)	63
	5 号礫群出土礫属性表 (2)	64
	5 号礫群出土礫属性表 (3)	65
	5 号礫群出土礫属性表 (4)	66
	5 号礫群出土礫属性表 (5)	67
	5 号礫群出土礫属性表 (6)	68
	5 号礫群出土礫属性表 (7)	69
	5 号礫群出土礫属性表 (8)	70
	5 号礫群出土礫属性表 (9)	71
	5 号礫群出土礫属性表 (10)	72
	5 号礫群出土礫属性表 (11)	73
	5 号礫群出土礫属性表 (12)	74
	5 号礫群出土礫属性表 (13)	75
	5 号礫群出土礫属性表 (14)	76
	5 号礫群出土礫属性表 (15)	77
	5 号礫群出土礫属性表 (16)	78
	5 号礫群出土礫属性表 (17)	79
	5 号礫群出土礫属性表 (18)	80
	5 号礫群出土礫属性表 (19)	81
	5 号礫群出土礫属性表 (20)	82
	5 号礫群出土礫属性表 (21)	83
	5 号礫群出土礫属性表 (22)	84
	5 号礫群出土礫属性表 (23)	85
第 11 表	6 号礫群出土礫属性表	87
第 12 表	7 号礫群出土礫属性表 (1)	89
	7 号礫群出土礫属性表 (2)	90
第 13 表	旧石器試掘坑出土石器一覧	91

第 14 表	640 号住居跡出土土器一覧	99
第 15 表	641 号住居跡出土土器一覧	102
第 16 表	641 号住居跡出土礫一覧	102
第 17 表	642 号住居跡出土土器一覧	104
第 18 表	643 号住居跡出土土器一覧	105
第 19 表	644 号住居跡出土土器一覧 (1)	113
	644 号住居跡出土土器一覧 (2)	114
	644 号住居跡出土土器一覧 (3)	115
第 20 表	644 号住居跡出土石器一覧	115
第 21 表	646 号住居跡出土土器一覧	117
第 22 表	648 号住居跡出土土器一覧	121
第 23 表	648 号住居跡出土土製品一覧	121
第 24 表	648 号住居跡出土石製品一覧	122
第 25 表	649 号住居跡出土土器一覧	124
第 26 表	651 号住居跡出土土器一覧	130
第 27 表	652 号住居跡出土土器一覧	134
第 28 表	653 号住居跡出土土器一覧	139
第 29 表	654 号住居跡出土土器一覧	142
第 30 表	655 号住居跡出土土器一覧	145
第 31 表	31 号住居跡出土土器一覧	153
第 32 表	31 号住居跡出土石製品一覧	153
第 33 表	5 号掘立柱建築遺構出土陶器一覧	157
第 34 表	中世以降の土坑出土陶磁器・土器一覧	169
第 35 表	中世以降の土坑一覧	170
第 36 表	11 号井戸跡出土陶磁器一覧	171
第 37 表	12 号井戸跡出土陶磁器一覧	173
第 38 表	畝状遺構群出土陶器一覧	173
第 39 表	中世以降のピット出土陶器一覧	180
第 40 表	ピット一覧 (1)	180
	ピット一覧 (2)	181
	ピット一覧 (3)	182
第 41 表	遺構外出土旧石器時代石器一覧	185
第 42 表	遺構外出土縄文土器一覧 (1)	189
	遺構外出土縄文土器一覧 (2)	190
	遺構外出土縄文土器一覧 (3)	191
第 43 表	遺構外出土縄文時代土製品一覧	191
第 44 表	遺構外出土縄文時代石器一覧	191
第 45 表	遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期の土器一覧	192
第 46 表	遺構外出土中世以降の陶磁器一覧	192
第 47 表	遺構外出土中世以降の石製品一覧	192
第 48 表	西原大塚遺跡検出礫群一覧	199
第 49 表	城山遺跡検出礫群一覧	199
第 50 表	編年対応表 (案)	203



第 51 表	西原大塚遺跡古墳時代～平安時代住居跡一覧	218
第 52 表	測定試料および処理	227
第 53 表	放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	228
第 54 表	黒曜石原産地試料一覧	232
第 55 表	スペクトル強度と判別指標値	233
第 56 表	黒曜石判定結果	236
第 57 表	樹種同定結果一覧	238
第 58 表	西原大塚遺跡第 235 地点出土土器の圧痕同定結果	240

## — 図 版 目 次 —

巻頭図版 1	1. 調査区全景（合成空中写真）
巻頭図版 2	1. 20 号石器集中地点・5 号礫群遺物出土状態（南から） 2. 20 号石器集中地点出土遺物
巻頭図版 3	1. 644 号住居跡遺物出土状態（南から） 2. 651 号住居跡遺物出土状態（南東から）
巻頭図版 4	1. 5 号掘立柱建築遺構全景（西から） 2. 5 号掘立柱建築遺構出土遺物
図版 1	1. 1 区完掘全景（東から） 2. 2 区完掘全景（西から）
図版 2	1. 調査前現況（南東から） 2. 遺構精査風景（南東から） 3. 遺構精査風景（西から） 4. 遺構精査風景（東から） 5. 1 号試掘坑南壁（北から） 6. 1 号試掘坑南壁東側（北から） 7. 1 号試掘坑東壁（西から） 8. 1 号試掘坑東壁南側（西から）
図版 3	1. 2 号試掘坑南壁（北から） 2. 2 号試掘坑東壁（西から） 3. 3 号試掘坑南壁（北から） 4. 3 号試掘坑東壁（西から） 5. 4 号試掘坑北壁（南から） 6. 4 号試掘坑東壁（西から） 7. 5 号試掘坑南壁（北から） 8. 5 号試掘坑西壁（東から）
図版 4	1. 6 号試掘坑南壁（北から） 2. 6 号試掘坑東壁（西から） 3. 7 号試掘坑南壁（北から） 4. 7 号試掘坑西壁（東から） 5. 8 号試掘坑南壁（北から） 6. 8 号試掘坑西壁（東から） 7. 9 号試掘坑南壁（北から） 8. 9 号試掘坑西壁（東から）
図版 5	1. 10 号試掘坑南壁（北から） 2. 10 号試掘坑西壁（東から） 3. 11 号試掘坑南壁（北から） 4. 11 号試掘坑西壁（東から） 5. 12 号試掘坑北壁（南から） 6. 12 号試掘坑西壁（東から） 7. 13 号試掘坑北壁（南から） 8. 13 号試掘坑西壁（東から）
図版 6	1. 14 号試掘坑北壁（南から） 2. 14 号試掘坑西壁（東から） 3. 15 号試掘坑北壁（南から） 4. 15 号試掘坑東壁（西から） 5. 20 号石器集中地点遺物出土状態（東から） 6. 20 号石器集中地点遺物出土状態（南から） 7. 20 号石器集中地点遺物出土状態（北西から） 8. 20 号石器集中地点遺物出土状態（南から）
図版 7	1. 21 号石器集中地点遺物出土状態（南東から） 2. 21 号石器集中地点遺物出土状態（西から） 3. 21 号石器集中地点礫出土状態（東から） 4. 22 号石器集中地点遺物出土状態（南から） 5. 20 号石器集中地点・5 号礫群遺物出土状態（北から）
図版 8	1. 5 号礫群下層遺物出土状態（北から） 2. 5 号礫群下層遺物出土状態（南から） 3. 5 号礫群下層遺物出土状態（北から） 4. 5 号礫群下層遺物出土状態（南から） 5. 5 号礫群下層遺物出土状態（南から）

- 図版 9 1. 5号礫群中央部被熱状態(南から) 2. 5号礫群下層遺物出土状態(南から) 3. 6号礫群遺物出土状態(東から)  
4. 7号礫群遺物出土状態(南から) 5. 7号礫群遺物出土状態(南から)
- 図版 10 1. 3号旧石器試掘坑遺物出土状態(西から) 2. 7号旧石器試掘坑遺物出土状態(東から)  
3. 14号旧石器試掘坑遺物出土状態(南から) 4. 22号炉穴(西から) 5. 640号住居跡(南から)  
6. 640号住居跡貯蔵穴遺物出土状態(南から) 7. 641号住居跡遺物出土状態(南から) 8. 641号住居跡(南から)
- 図版 11 1. 641号住居跡炉(北東から) 2. 642号住居跡(北東から) 3. 643号住居跡(南から)  
4. 644号住居跡遺物出土状態(西から) 5. 644号住居跡遺物出土状態(西から)
- 図版 12 1. 644号住居跡遺物出土状態(北から) 2. 644号住居跡(南東から) 3. 645号住居跡(南西から)  
4. 646号住居跡(北東から) 5. 647号住居跡(東から) 6. 648号住居跡遺物出土状態(南東から)  
7. 648号住居跡遺物出土状態(北東から) 8. 648号住居跡赤色砂利層検出状態(南東から)
- 図版 13 1. 648号住居跡(南東から) 2. 648号住居跡炉(南東から) 3. 648号住居跡掘り方(南東から)  
4. 649号住居跡遺物出土状態(南東から) 5. 649号住居跡遺物出土状態(南西から) 6. 649号住居跡(南東から)  
7. 649号住居跡炉(南東から) 8. 649号住居跡掘り方(南東から)
- 図版 14 1. 650号住居跡(南東から) 2. 650号住居跡掘り方(南東から) 3. 651号住居跡遺物出土状態(南西から)  
4. 651号住居跡遺物出土状態(南西から) 5. 651号住居跡(南東から) 6. 651号住居跡掘り方(南東から)  
7. 652号住居跡遺物出土状態(南東から) 8. 652号住居跡遺物出土状態(南東から)
- 図版 15 1. 652号住居跡(南東から) 2. 652号住居跡炉(南東から) 3. 651・652号住居跡(空撮東から)  
4. 653号住居跡(南西から) 5. 653号住居跡炉新段階(南西から) 6. 653号住居跡炉旧段階(南西から)  
7. 653号住居跡赤色砂利層検出状態(西から) 8. 653号住居跡掘り方(南西から)
- 図版 16 1. 654号住居跡遺物出土状態(東から) 2. 654号住居跡遺物出土状態(南から) 3. 654号住居跡(東から)  
4. 654号住居跡炉(東から) 5. 654号住居跡掘り方(東から) 6. 655号住居跡遺物出土状態(南東から)  
7. 655号住居跡遺物出土状態(北東から) 8. 655号住居跡(南東から)
- 図版 17 1. 31号住居跡遺物出土状態(南東から) 2. 31号住居跡遺物出土状態(南東から)  
3. 31号住居跡遺物出土状態(南東から) 4. 31号住居跡貯蔵穴脇遺物出土状態(南東から)  
5. 31号住居跡貯蔵穴遺物出土状態(南東から)
- 図版 18 1. 31号住居跡(空撮南東から) 2. 31号住居跡(南東から) 3. 31号住居跡貯蔵穴(南東から)  
4. 31号住居跡カマド(南東から) 5. 31号住居跡粘土検出状態(東から) 6. 31号住居跡P6断面(東から)  
7. 31号住居跡炉(南西から) 8. 31号住居跡掘り方(南東から)
- 図版 19 1. 5号掘立柱建築遺構(北から) 2. 5号掘立柱建築遺構(東から)  
3. 5号掘立柱建築遺構P1遺物出土状態(南西から) 4. 5号掘立柱建築遺構P1(南西から)  
5. 5号掘立柱建築遺構P2遺物出土状態(南から) 6. 5号掘立柱建築遺構P2(南から)  
7. 5号掘立柱建築遺構P3(南から) 8. 5号掘立柱建築遺構P4(東から)
- 図版 20 1. 5号掘立柱建築遺構P5遺物出土状態1(南西から) 2. 5号掘立柱建築遺構P5遺物出土状態2(南西から)  
3. 5号掘立柱建築遺構P5(南西から) 4. 5号掘立柱建築遺構P6(南西から)  
5. 5号掘立柱建築遺構P7(南から) 6. 5号掘立柱建築遺構P8(南から)  
7. 955号土坑(B群1類)(南西から) 8. 968～971号土坑(B群1・2類)(南西から)
- 図版 21 1. 952号土坑(B群2類)(西から) 2. 957号土坑(B群2類)(南西から) 3. 960号土坑(B群2類)(北西から)  
4. 961号土坑(B群2類)(南西から) 5. 962号土坑(B群2類)(南西から) 6. 966号土坑(B群2類)(北西から)  
7. 977号土坑(B群2類)(南から) 8. 976号土坑(C群)(北から)
- 図版 22 1. 956号土坑(E群1類)(北西から) 2. 956号土坑(E群1類)(南西から)  
3. 964号土坑(E群1類)断面(東から) 4. 964号土坑(E群1類)(西から)  
5. 11号井戸跡遺物出土状態(東から) 6. 11号井戸跡(東から) 7. 12号井戸跡(南から)  
8. 畝状遺構群北側(東から)

- 図版 23 20 号石器集中地点出土遺物 1  
図版 24 20 号石器集中地点出土遺物 2  
図版 25 20 号石器集中地点出土遺物 3  
図版 26 20 号石器集中地点出土遺物 4  
図版 27 20 号石器集中地点出土遺物 5  
図版 28 20 号石器集中地点出土遺物 6  
図版 29 20 号石器集中地点出土遺物 7  
図版 30 20 号石器集中地点出土遺物 8  
図版 31 20 号石器集中地点出土遺物 9  
図版 32 20 号石器集中地点出土遺物 10  
図版 33 20 号石器集中地点出土遺物 11  
図版 34 20 号石器集中地点出土遺物 12  
図版 35 21 号石器集中地点出土遺物 1  
図版 36 21 号石器集中地点出土遺物 2  
図版 37 21 号石器集中地点出土遺物 3  
図版 38 21 号石器集中地点出土遺物 4  
図版 39 1. 22 号石器集中地点出土遺物 2. 旧石器試掘坑出土遺物  
図版 40 1. 640 号住居跡出土遺物 2. 641 号住居跡出土遺物  
図版 41 1. 642 号住居跡出土遺物 2. 643 号住居跡出土遺物 3. 644 号住居跡出土遺物 1  
図版 42 644 号住居跡出土遺物 2  
図版 43 644 号住居跡出土遺物 3  
図版 44 1. 644 号住居跡出土遺物 4 2. 646 号住居跡出土遺物 3. 648 号住居跡出土遺物  
図版 45 1. 649 号住居跡出土遺物 2. 651 号住居跡出土遺物  
図版 46 1. 652 号住居跡出土遺物 2. 653 号住居跡出土遺物  
図版 47 1. 654 号住居跡出土遺物 2. 655 号住居跡出土遺物 3. 31 号住居跡出土遺物 1  
図版 48 31 号住居跡出土遺物 2  
図版 49 1. 5 号掘立柱建築遺構出土遺物 2. 中世以降の土坑出土遺物 3. 11 号井戸跡出土遺物  
4. 12 号井戸跡出土遺物 5. 畝状遺構群出土遺物 6. 38 号ピット出土遺物  
図版 50 遺構外出土旧石器時代遺物  
図版 51 遺構外出土縄文時代遺物 1  
図版 52 1. 遺構外出土縄文時代遺物 2 2. 遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期遺物 3. 遺構外出土中世以降の遺物  
図版 53 炭化材の走査型電子顕微鏡写真  
図版 54 西原大塚遺跡第 235 地点出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真

# 第1章 遺跡の立地と環境

## 第1節 市域の地形と遺跡

### (1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりを持ち、面積は 9.05km<sup>2</sup>（註1）、人口約 7 万 6 千人の自然と文化の調和する都市である。

地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が広がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の 3 本の川が流れている。

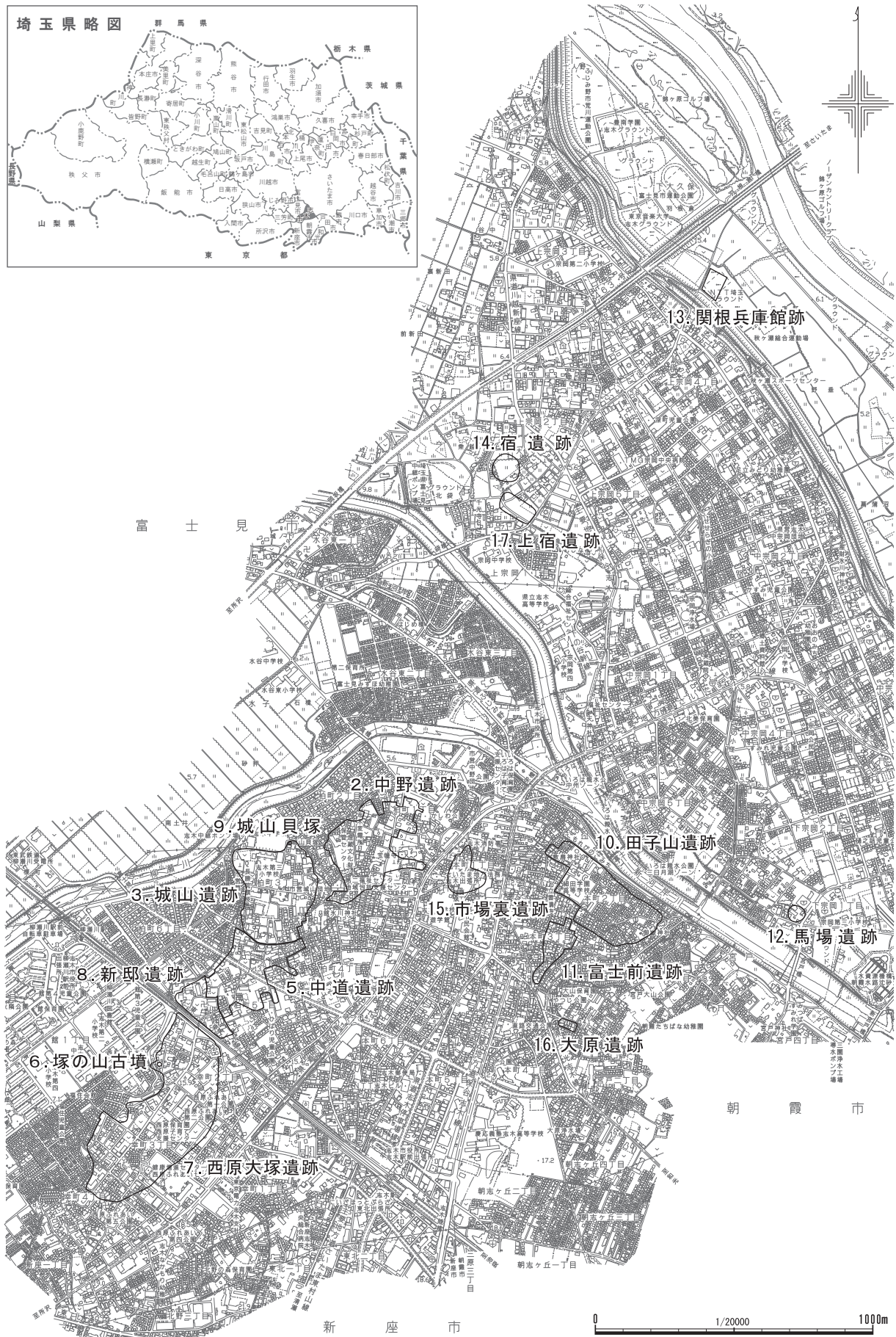
こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成 30 年 12 月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡（17）が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した 13 遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた 15 遺跡である（第1図・第1表）。

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	71,220 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	82,520 m <sup>2</sup>	畑・宅地	城館跡 集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（中～後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鑄造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鑄造関連遺物等
5	中道	54,420 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡 墓跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800 m <sup>2</sup>	林	古墳?	古墳?	古墳?	なし
7	西原大塚	164,960 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡 墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080 m <sup>2</sup>	畑・宅地	貝塚 集落跡 墓跡	縄（早～中）、古（前～後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900 m <sup>2</sup>	林	貝塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、貝、縄文土器
10	田子山	74,030 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡 墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,830 m <sup>2</sup>	宅地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平、近世以降	住居跡、土坑? 溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800 m <sup>2</sup>	畑	集落跡	古（前）	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900 m <sup>2</sup>	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 m <sup>2</sup>	水田	館跡	中世	溝跡・井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800 m <sup>2</sup>	宅地	集落跡 墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700 m <sup>2</sup>	宅地	不明	近世以降?	溝跡	なし
17	上宿	8,600 m <sup>2</sup>	水田・宅地	集落跡	平、中・近世	住居跡、土坑、溝跡、井戸跡	土師器、須恵器、陶磁器、板碑等
合	計	522,840 m <sup>2</sup>					

令和5年1月10日現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧





第1図 市域の地形と遺跡分布 (1 / 20,000)

令和5年1月11日現在

## (2) 歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観して見ることにする。

### 1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62(1987)年度の富士見・大原線(現ユリノキ通り)の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6(1994)年度には2か所、平成7(1995)年度には1か所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。また、令和元(2019)年度に発掘調査が実施された第224地点でも、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土しており、平成28(2016)年に発掘調査が実施された第91⑦地点からは、礫群1基が検出された。最新では、令和元・2(2019・2020)年度に発掘調査が実施された第109地点で、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層を中心とする石器集中地点が検出され、石核調整剥片の良好な接合資料が出土している。

また、城山遺跡では、平成12・13(2000・2001)年度に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2か所で石器集中地点が検出され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの抉入石器・剥片など32点が出土している。平成20・21年(2008・2009)に発掘調査が実施された第62地点(道路・駐車場部分)でも1か所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23(2011)年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点2か所、礫群9基が検出された。最新では、令和元(2019)年度に発掘調査が実施された第96地点から、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層で石器集中地点と礫群が検出されている。

### 2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期後葉(諸磯式期)の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4(1992)年度に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6(1994)年度に発掘調査が実施された城山遺跡第21地点から多縄文系土器3点、同第22地点から爪形文系土器1点、平成10(1998)年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18(2006)年度に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉(条痕文系)の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。平成23(2011)年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。



前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。最新では、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第96地点から、前期後葉の諸磯a式期で、貝層をもつ住居跡が4軒検出され、貝類としては、ヤマトシジミ・マガキが主体であった。また、平成2（1990）年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で200軒以上の住居跡が環状に分布していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡が1軒確認されているが、平成27（2015）年度に発掘調査が実施された中道遺跡第76地点からは、加曾利E4式の両耳壺を出土する住居跡1軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡の西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1か所が検出されている。平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）1軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成5・6（1994）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。平成26（2014）年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2015・2016）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。最新では、令和30（2018）年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第216地点から、堀之内1式期の住居跡1軒と遺物包含層が検出され、良好な土器・石器が出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されている。また、令和3（2021）年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第234地点で、遺構外出土ではあるが、縄文時代晩期末～弥生時代初頭に位置付けられる土器片が1点出土している。以降、市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

### 3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第96地点で、市内初となる宮ノ台式期の住居跡1軒、方形周溝墓1基が検出された。住居跡からは、壺、甕、高杯、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁などが良好な状態で出土している。なお、これらの資料のうち、土器、石器、土製品計44点は、考古資料「城山遺跡10号住居跡出土遺物」として、市指定文化財（令和3年7月1日付け）に指定されている。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されており、中でも、平成27（2015）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第91地点では、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が検出されている。平成5・6（1993・1994）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器

をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が650軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。また、平成24(2012)年度に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧が出土している。

昭和62(1987)年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、平成15(2003)年度に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18(2006)年度に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることが注目される。また、平成11(1999)年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の二重口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。なお、以上のうち、西原大塚遺跡122号住居跡出土の動物形土製品1点と、西原大塚遺跡17号方形周溝墓出土の鳥形土製品1点と壺形土器4点の計6点は考古資料として、市指定文化財(平成25年3月1日付け)に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

#### 4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15(2003)年度に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7(1995)年度に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点の19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後葉から7世紀後葉にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加を見る。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後葉以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期(7世紀中葉)の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3.0×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他、ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後葉から7世紀後葉にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で265軒を超え、次いで中野遺跡で約58軒、中道遺跡で20軒、田子山遺跡で17、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5(1993)年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世



紀後半以降のものと考えられる 4.1 × 4.7 m の不整形で 2 か所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が 1 基確認されている。さらに、平成 14 (2002) 年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第 81 地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約 33 m の巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見が期待されている。

## 5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山・富士前遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げる事ができる。城山遺跡では、平成 8 (1996) 年度に発掘調査が実施された第 35 地点の 128 号住居跡から、印面に「冨」1 文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片 1 点、布目瓦の小破片 2 点などが出土している。平成 20・21 (2008・2009) 年度に発掘調査が実施された城山遺跡第 62 地点では、平安時代の 241 号住居跡から皇朝十二銭の一つである富寿神寶<sup>ふじゅしんぼう</sup> 2 枚とその付近から鉄鎌 1 点と土錘 1 点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成 5 (1993) 年度に発掘調査が実施された第 24 地点から、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして 100 基を越える土坑群が検出されている。平成 5・6 (1993・1994) 年度に発掘調査が実施された第 31 地点の 44 号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群 (入間市) と南比企窯跡群 (鳩山町) の 2 か所で生産された須恵器坏が相伴して出土しており、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡 128 号住居跡出土の銅印ほか 9 点の遺物と、城山遺跡 241 号住居跡出土の富寿神寶ほか 2 点の遺物は、考古資料として、市指定文化財 (平成 25 年 3 月 1 日付け) に指定されている。

## 6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と、千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。

城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『<sup>たてむらきゆうき</sup>館村旧記』(註 2) にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『<sup>かいこくざつき</sup>廻回雑記』(註 3) に登場する「<sup>おおいしなの</sup>大石信濃<sup>かみやかた</sup>守館」が「柏の城」に相当し、『<sup>おおつかじゆうぎよくぼう</sup>大塚十玉坊』についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう (神山 1978・2002)。

平成 7 (1995) 年度に発掘調査が実施された第 29 地点の 127 号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子 (イネ・オオムギ・コムギなど) も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

また、平成 8 (1996) 年度に発掘調査が実施された第 35 地点では、鑄造関連の遺構が検出されている。130 号土坑については鑄造遺構、134 号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓 (スラッグ)、鑄型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成 27・28 (2015・

2016) 年度に発掘調査が実施された第 89 地点の調査により、第 35 地点の鑄造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鑄型、鍋の耳部分の小型鑄型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓(スラッグ)などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

さらに、平成 13 (2001) 年度に発掘調査が実施された第 42 地点では、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234 号土坑から鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成 6 (1994) 年度に発掘調査が実施された第 21 地点から、当市では初めて、鎧よろいの札である鉄製品 1 点と鉄鏃 1 点が出土している。出土した遺構は、19 世紀前半の 86 号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成 11 ~ 14 (1999 ~ 2002) 年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第 49 地点では、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け、横臥屈葬された人骨を出土した 67 号土坑の他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成 27 (2015) 年度に第 49 地点の北側に隣接する第 95 地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面から、新たに土坑 45 基・井戸跡 2 基・溝跡 1 本・ピット 231 本などが検出された。土坑のうち、市内で初めて「T 字形」の火葬土坑 5 基が検出されたことは特筆すべきである。この「T 字形」の火葬土坑は、平成 29 (2017) 年度に発掘調査が実施された第 102 地点でも検出され、こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯の遺構が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。最新では、令和元 (2019) 年度に発掘調査が実施された城山遺跡第 96 地点でも、「T 字形」の火葬土坑 2 基が検出されており、令和元・2 (2019・2020) 年度に発掘調査が実施された中野遺跡第 109 地点では、六文銭と考えられる銭貨を伴って横臥屈葬された人骨を出土した土坑墓 5 基が検出されている。

中道遺跡では、昭和 62 (1987) 年度に発掘調査が実施された第 2 地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成 7 (1995) 年度に発掘調査が実施された第 37 地点からは、人骨と古銭 5 枚を出土した土坑墓 1 基と 13 世紀に比定される青磁盤 1 点を出土した道路状遺構 1 条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和 60 (1985) 年度に発掘調査が実施された第 1 地点で検出された段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成 15 (2003) 年に発掘調査が実施された第 8 地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓 2 基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大しょうりんやまかんのんじだい受院」関連遺構と考えられる。その後、平成 25 (2013) 年度に発掘調査が実施された第 74 地点では、段切状遺構の平場から多数のピット・溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

最新では、令和 2・3 (2020・2021) 年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第 234 地点で検出された地下式坑 (912 号土坑) から、人骨 (女性 2 体) と完形品の播鉢が共伴する良好な資料が発見された。人骨は「通常とは異なる状況」で埋葬されたと考えられ (田中 2022)、播鉢は古瀬戸後期 IV 段階古~新 (藤澤 2008) に比定されることから、時期は中世 (15 世紀中葉~後葉) と考えられる。

また、令和元 (2019) 年・令和 3 (2021) 年度に、一般国道 254 号和光富士見バイパス事業に伴う発掘調査が実施された上宿遺跡では、中・近世の土坑・井戸跡・溝跡など多くの遺構が検出され、中世における「宗岡宿」の様相や近世における千光寺に関連する墓域群などを知ることができる貴重な成果に繋がった。

## 7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5・6（1993・1994）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年度に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

---

## 第2節 遺跡の概要

---

ここで、今回本書で報告する西原大塚遺跡について概観することにする。

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部に当たる幸町2～4丁目一带に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西方約1.0kmに位置している。北東－南西方向に約700m、北西－南東方向に約150mの広がりを持ち、遺跡面積164,960㎡の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は10～18mと遺跡内で8mの比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高14～16mに位置しており、概ね緩やかな傾斜をもち台地から低地に移行している。なお、遺跡北西部の台地下では、今でも小規模な湧水点が確認されている。

昭和48（1973）年に最初の発掘調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施されており、平成元（1989）年から平成19（2007）年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅建設等の各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。

本遺跡は、これまでに240地点の確認調査・発掘調査（令和5年1月19日現在）が実施され（第2図）、旧石器時代、縄文時代前期～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。主体となる縄文時代中期では住居跡200軒以上からなる大規模な環状集落が形成され、弥生時代後期～古墳時代前期では、住居跡650軒以上、方形周溝墓36基が調査され、更に環濠の存在が確認されている。

また、本遺跡から発見された資料として、以下の2件が平成24年度に市指定文化財に指定され、大きな成果を上げている。

- ①西原大塚遺跡の動物形土製品
- ②西原大塚遺跡17号方形周溝墓出土遺物

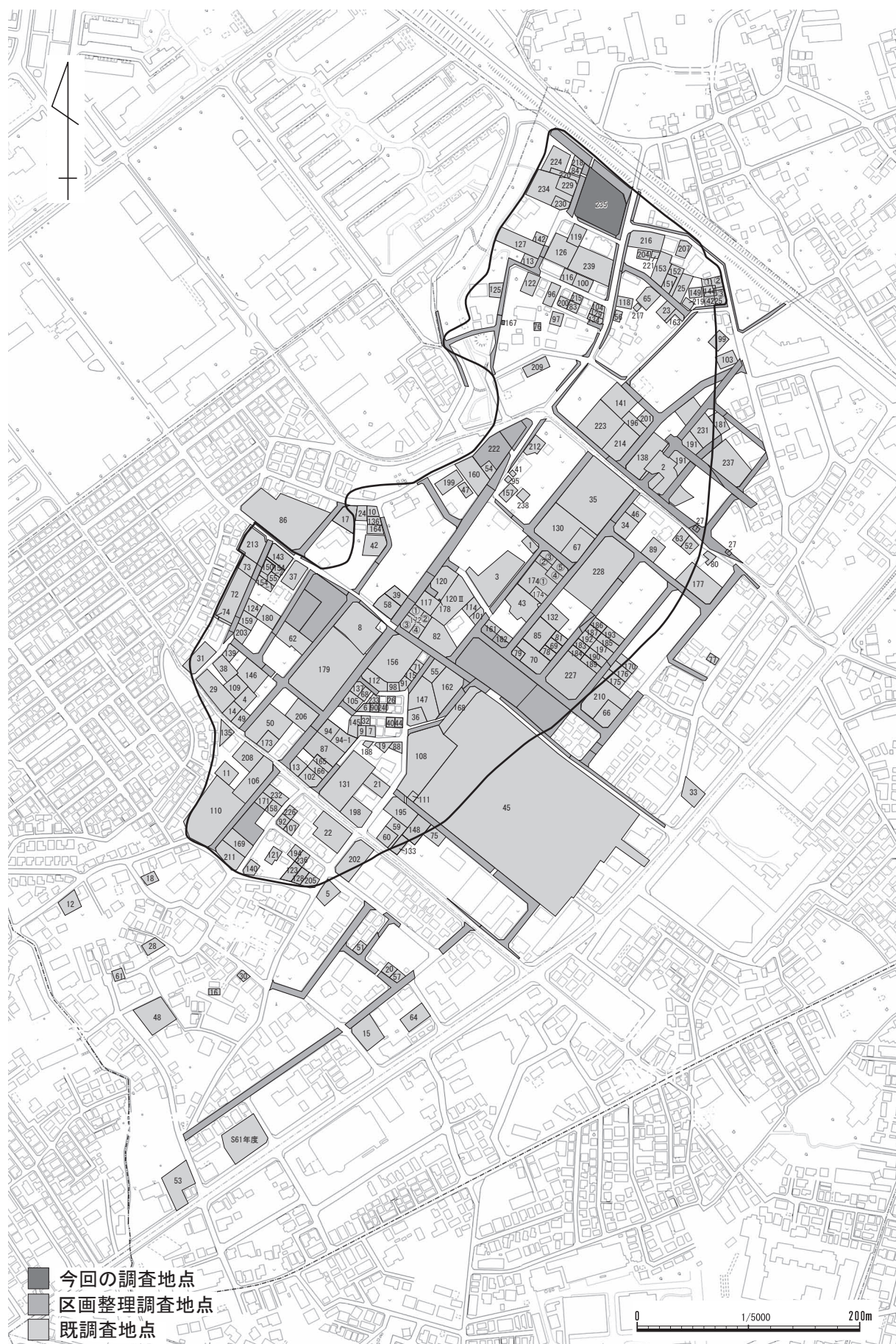
[註]

- 註1 平成26年度「全国都道府県市区町村別面積調」により9.06km<sup>2</sup>から9.05km<sup>2</sup>に変更された。
- 註2 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。
- 註3 『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18（1486）年6月から10か月間、北陸路から関東各地をめぐる、駿河甲斐にも足をのぼし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

[引用文献]

- 神山健吉 1978「『廻回雑記』に現れる大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第7号 志木市郷土史研究会
- 2002「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号 志木市郷土史研究会
- 田中 信 2022「第4章 調査のまとめ 第3節 中世以降について」『西原大塚遺跡第234 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第86集 埼玉県志木市教育委員会
- 藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院





第2図 西原大塚遺跡の調査地点（1 / 5,000）

令和5年1月18日現在

## 第2章 発掘調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

令和3年3月、J Aあさか野から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市幸町2丁目6226、6227（面積1,724.00㎡）地において分譲住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード11228－09－007）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

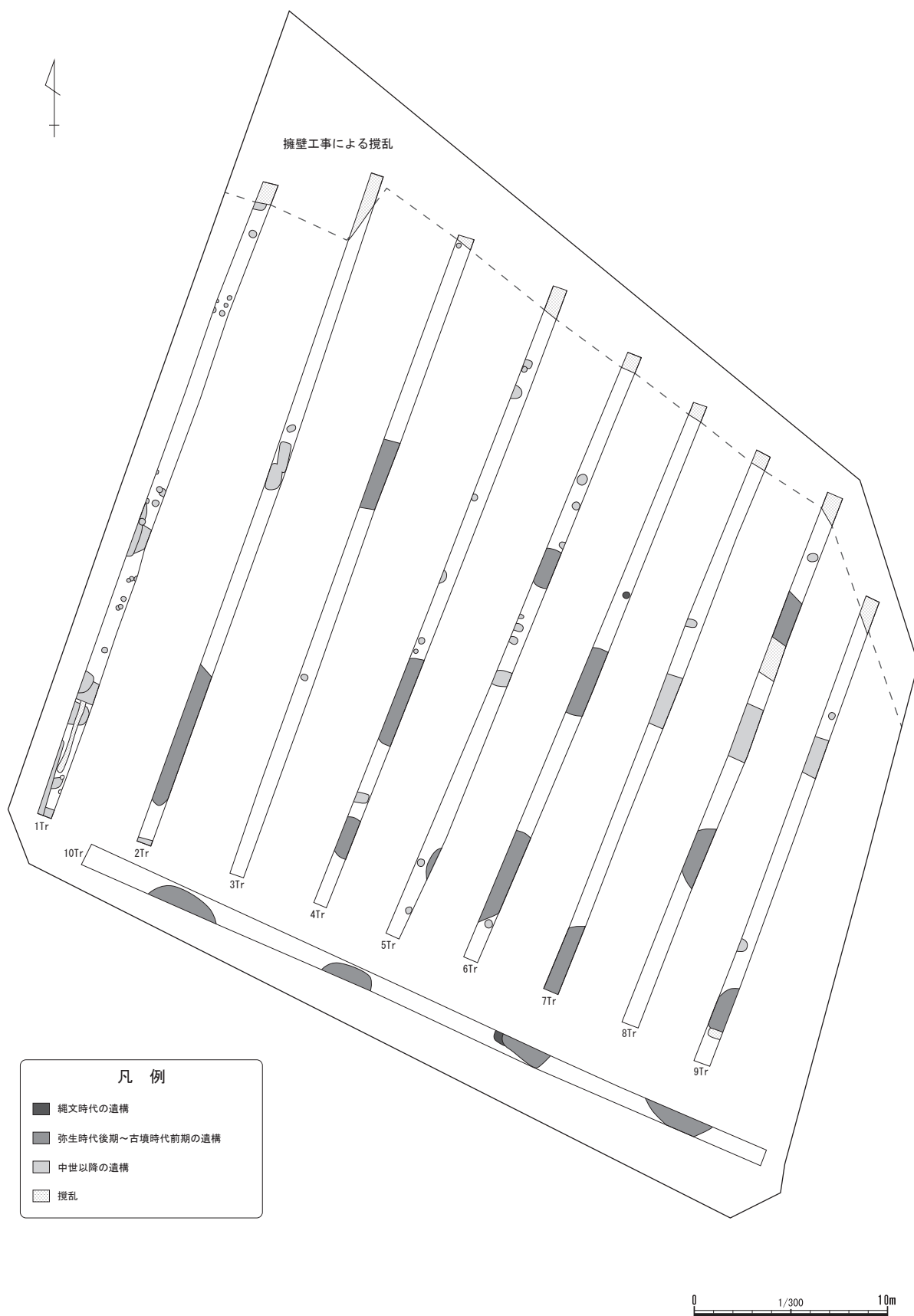
令和3年3月22日、教育委員会は、土木工事主体者である個人より確認調査依頼書を受領し、西原大塚遺跡第235地点として、4月13～16日に確認調査を実施した。土木工事の内容は、分譲住宅建設を実施しようとするものであった。確認調査は、第3図に示すように調査区に南北方向に9本（1～9Tr）と東西方向に1本（10Tr）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の土坑1基、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡16軒、中世以降の土坑15基・溝跡1本・ピット44本等を確認した。教育委員会は、この結果をただちにJ Aあさか野を通じ、土木工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

その後、令和3年7月、株式会社マイタウン（代表取締役 内田隆成）から連絡があり、土地の購入が決まり、土木工事主体者として、改めて保存措置についての事前打合せを実施することになった。7月29日、教育委員会は土木工事主体者である株式会社マイタウンより埋蔵文化財発掘調査依頼書を受領し、8月25日、教育委員会は具体的に分譲住宅建設及び道路新設工事を基本計画とする保存措置について協議を行った。その結果、敷地全体（面積1,724.00㎡）のうち、すでに擁壁工事により破壊されている部分の面積181.63㎡を除く、1,542.37㎡については、盛土保存を適用することができないことを確認したため、発掘調査を実施することに決定した。

令和3年10月5日、土木工事主体者・教育委員会・民間調査組織の三者により事前協議を実施し、同日、西原大塚遺跡第235地点埋蔵文化財保存事業に係る協定を土木工事主体者である個人、教育委員会、大成エンジニアリング株式会社（代表取締役 石川 勇）の三者により締結した。

教育委員会は、10月13日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。以上により、教育委員会を調査主体に10月25日から発掘調査を実施した。





第3図 確認調査時の遺構分布（1／300）

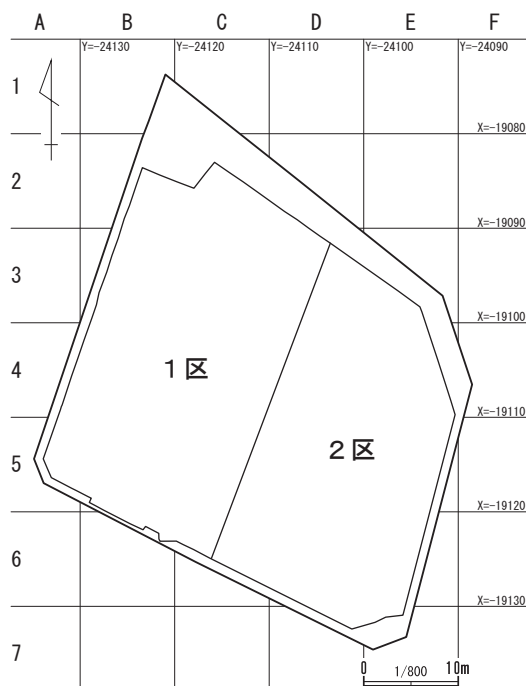
## 第2節 発掘調査の経過

発掘調査は、令和3年10月25日から令和4年3月31日まで実施した。調査に際しては、排土処理等の事情により、西半部を1区、東半部を2区と区分し（第4図）、1区→2区の順で調査を進行させる計画とした。

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第2表の発掘調査工程表に示した。

- 10月25日 調査実施の準備工として調査区内の除草作業を開始する。
- 26日 調査区内の除草作業完了後、防塵ネット・安全柵等の設営作業を開始する。
- 28日 重機（バックホー）による1区表土剥ぎ作業を開始する。並行して調査区北側にある三角点からの基準点・水準点移動及び仮設ハウス・トイレ等の搬入も行う。
- 11月4日 1区表土剥ぎ作業全面完了。調査区北西部から遺構確認作業を開始する。
- 11日 1区検出全景写真撮影を行う。
- 12日 調査区北西部から中世以降の土坑・ピットなどの精査を開始する。1区北西部は擁壁工事に伴って削平され、遺構の遺存状況は悪い。
- 11月中旬 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（640・641 Y）などの精査を行う。
- 11月下旬 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（640～642 Y）、古墳時代後期の住居跡（31 H）、中世以降の地下式坑（956 D）などの精査を行う。
- 12月上旬 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（642～644 Y）、31 H、中世以降の掘立柱建築遺構（5 T）などの精査を行う。
- 12月17日 ドローンを用いて1区完掘全景写真撮影を行う。
- 12月20日 640～644 Yの掘り方調査及び31 Hのカマド調査を開始する。
- 12月23日 1区北側のⅡ層残存範囲を掘下げ、縄文時代の遺構・遺物の確認作業を行う。縄文土器が散発的に出土したが、該期の遺構は確認されなかった。また、旧石器確認調査のための試掘坑（T P 1・2・5、規模2 m × 2 m）を設定した。
- 24日 31 Hの掘り方調査及び中世以降の地下式坑（964D）の断割り調査を行う。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（T P 3・4・6、規模2 m × 2 m）を設定し、T P 1・5の精査を開始する。T P 1において、西壁沿いに旧石器時代の礫群（5 礫）及び石器集中地点（20 U）が確認されたため、T P 1を西方向に拡張する。
- 27日 T P 2の精査を開始する。5 礫・20 Uの範囲確認のため、T P 1を北・西方向に拡張する。
- 28日 5 礫・20 Uの範囲確認のため、T P 1を北方向に拡張する。
- 1月4日 5 礫・20 Uの範囲確認のため、T P 1を北・南方向に拡張する。
- 5日 5 礫・20 Uの範囲確認のため、T P 1を西方向に拡張する。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（T P 7、規模2 m × 2 m）を新たに設定する。
- 6日 T P 3・4・7の精査を開始する。5 礫・20 Uの範囲確認のため、T P 1を北・西方向に拡張する。降雪のため、午後から現場作業を休止した。





第4図 調査区配置図（1／800）

- 1月 13日 TP 6の精査を開始する。TP 4において、旧石器時代の石器集中地点（21 U）が確認されたため、TP 4を東・南方向に拡張する。
- 17日 5磔・20 Uの範囲確認のため、TP 1を北・東方向に拡張する。また、21 Uの範囲確認のため、TP 4を西方向に拡張する。
- 18日 21 Uの範囲確認のため、TP 4を西方向に拡張する。
- 19日 5磔・20 Uの範囲確認のため、TP 1を適宜拡張した結果、形状は変則的な方形となり、最終的な規模は東西方向9.5 m×南北方向9.75 mとなった。
- 20日 5磔・20 U・21 U精査中のTP 1・4周辺を残し、重機（バックホー）を用いて、1区埋戻し作業を開始する。
- 21日 TP 1・4周辺を除いて、1区埋戻し作業が完了したため、重機（バックホー）を用いて仮設ハウス・トイレ等を順次2区から1区へ移動させると共に、北西部から2区表土剥ぎ作業を開始する。
- 27日 2区表土剥ぎ作業が全面完了した。TP 1では継続して5磔の精査を行う。
- 2月 1日 調査区南東部から2区遺構確認作業を開始する。
- 3日 5磔の精査が完了したため、重機（バックホー）を用いて、TP 1周辺の埋戻し作業を行い、1区全面の埋戻し作業が完了した。
- 4日 2区検出全景写真撮影を行う。
- 2月 月上旬 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（645～648 Y）などの精査を行う。
- 2月 中旬 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（648～651・653 Y）などの精査を行う。
- 2月 下旬 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（648～655 Y）などの精査を行う。
- 3月 2日 ドローンを用いて2区完掘全景写真撮影を行う。

	令和3年10月			11月						12月						令和4年1月						2月						3月					
	20日	25日	30日	5日	10日	15日	20日	25日	30日	5日	10日	15日	20日	25日	30日	5日	10日	15日	20日	25日	30日	5日	10日	15日	20日	25日	30日	5日	10日	15日	20日	25日	30日
表土剥ぎ作業	10.28			11.4	1区										1.21							1.27	2区										
640 Y				11.16					11.30						12.20							12.22											
641 Y				11.19					11.30						12.20							12.22											
642 Y									11.30						12.6							12.21											
643 Y									12.2						12.7																		
644 Y									12.7						12.22																		
645 Y																						2.7											3.3
646 Y																						2.7						2.9					
647 Y																						2.7						2.8					3.3
648 Y																						2.8						2.17					3.4
649 Y																						2.14						2.17					3.4
650 Y																						2.14						2.16					3.3
651 Y																						2.15						2.22					3.3
652 Y																												2.24					3.2
653 Y																												3.9					3.10
654 Y																												2.22					2.28
655 Y																												3.1					3.11
31 H									11.29						12.14							12.20						12.24					
22 F P									11.29																								
5 T									11.25						12.3																		
11 W															12.23							12.28											
12 W																												2.21					2.24
952 D									11.15						11.16																		
953 D									11.16						11.17																		
954 D									11.24																								
955 D									11.24						11.25																		
956 D									11.26						11.30																		
957 D									11.26						11.30																		
958 D									11.26						11.30																		
959 D															12.1																		
960 D															12.2																		
961 D															12.6																		
962 D															12.6							12.7											
963 D															12.7																		
964 D															12.24							12.28											
965 D															12.10																		
966 D																												2.7					
967 D																												2.7					
968 D																												2.7					
969 D																												2.7					
970 D																												2.7					
971 D																												2.7					
972 D																												2.7					
973 D																												2.8					
974 D																												2.9					
975 D																												2.9					
976 D																																	
977 D																																	
欽状遺構群																												2.4					
20 U															12.24							12.28						2.2					
21 U																						1.13						1.24					
22 U																																	
5 礫															12.24							12.28						2.2					
6 礫																																	
7 礫																																	
基本土層															1.5							1.7						1.18					
埋戻し作業																												1.20					
																												1.21					
																												2.3					

- 3月 3日 旧石器時代の礫群（6礫）の精査及び645～647・650・651・653 Yの掘り方調査を行う。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（T P 8・10、規模2 m×2 m）を設定し、精査を開始する。
- 4日 647～651・653・654 Yの掘り方調査及びT P 8・10の精査を行う。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（T P 12、規模2 m×2 m）を新たに設定する。
- 8日 648・649・653・654 Yの掘り方調査及びT P 8・10・12の精査を行う。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（T P 13、規模2 m×2 m）を新たに設定する。
- 10日 651～653 Yの掘り方調査及びT P 12・13の精査を行う。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（T P 9・11、規模2 m×2 m）を新たに設定する。
- 11日 655 Yの掘り方調査及びT P 9・11～13の精査を行う。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（T P 14、規模2 m×2 m）を新たに設定する。また、旧石器時代の礫群（7礫）が確認されたため、T P 9を西・南方向に拡張する。
- 15日 2区北側のⅡ層残存範囲を掘下げ、縄文時代の遺構・遺物の確認作業を行う。その過程で立川ローム第Ⅲ層上面より旧石器3点が出土したため、旧石器時代の石器集中地点（22 U）の遺構番号を付し、石器出土地点を基点に旧石器確認調査のための試掘坑（T P 15、規模2 m×2 m）を新たに設定する。
- 16日 22 Uの範囲確認のため、T P 15を西方向に拡張する。
- 24日 22 U精査中のT P 15周辺を残し、重機（バックホー）を用いて、2区埋戻し作業を開始する。並行して資材搬出等の撤収作業も行う。
- 25日 全遺構の精査が完了した。継続して2区埋戻し作業を行い、並行して防塵ネット撤去工並びに旧仮囲い復旧工を開始する。
- 28日 2区全面の埋戻し作業が完了した。継続して資材搬出及び場内整備を行う。
- 31日 土木工事主体者による現場終了引渡しの立会確認で、完了の了承をいただき、撤収工含め、全ての現場作業が完了した。

---

### 第3節 基本層序と地形

---

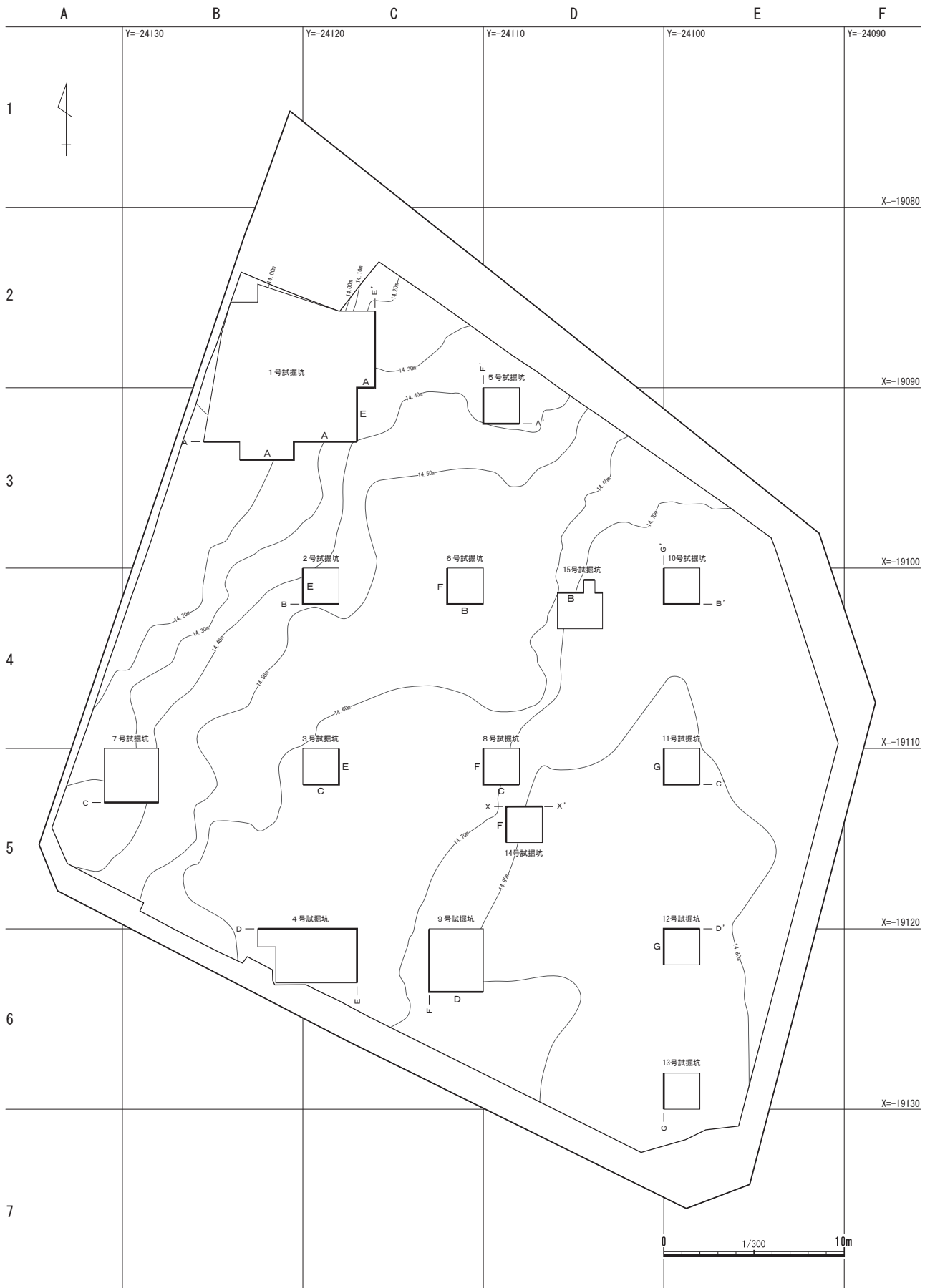
基本層序の確認と旧石器時代の調査のため、2 m×2 mを基本形とした試掘坑（T P 1～15）を15か所設定し（第6図）、それぞれ立川ローム第X層が確認されるまで掘削を行った。本地点で確認されたⅢ層～X層は、立川ローム第Ⅲ層～第X層に対応する。なお、第Ⅷ層はT P 14北壁にのみ局所的に確認された。また、Ⅱ層は黒ボク土とローム層との間のローム漸移層である。1区の遺構確認面は概ね立川ローム第Ⅲ層であるが、2区はほぼ全面にわたり、Ⅱ層が残存していたため、Ⅱ層下部で遺構確認を行った。

第5・7・8図に示した等高線図・基本層序にあるように、本調査地点は南東から北西方向にごく緩やかに傾斜する緩斜面地で、東西の比高差は0.8 mを測る。西端部はやや勾配が大きくなるものの、住居跡が多く分布する東半部（2区側）はほぼ平坦な地形である。なお、北西部の落ち込みは擁壁工事の影響で削平されたものと考えられ、旧地形を示すものではない。



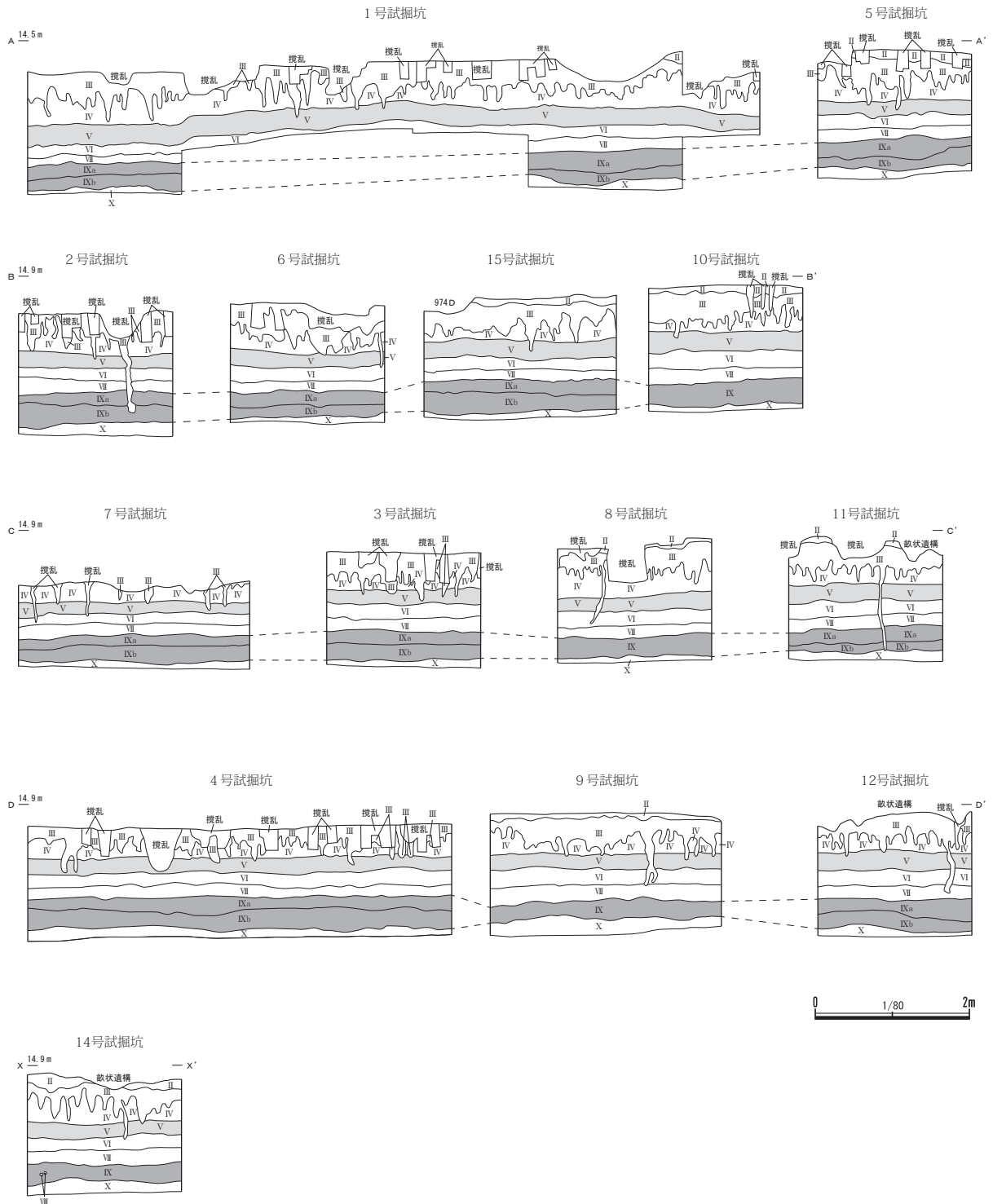
第5図 等高線図 (1 / 300)

第2章 発掘調査の概要



第6図 試掘坑配置図 (1 / 300)

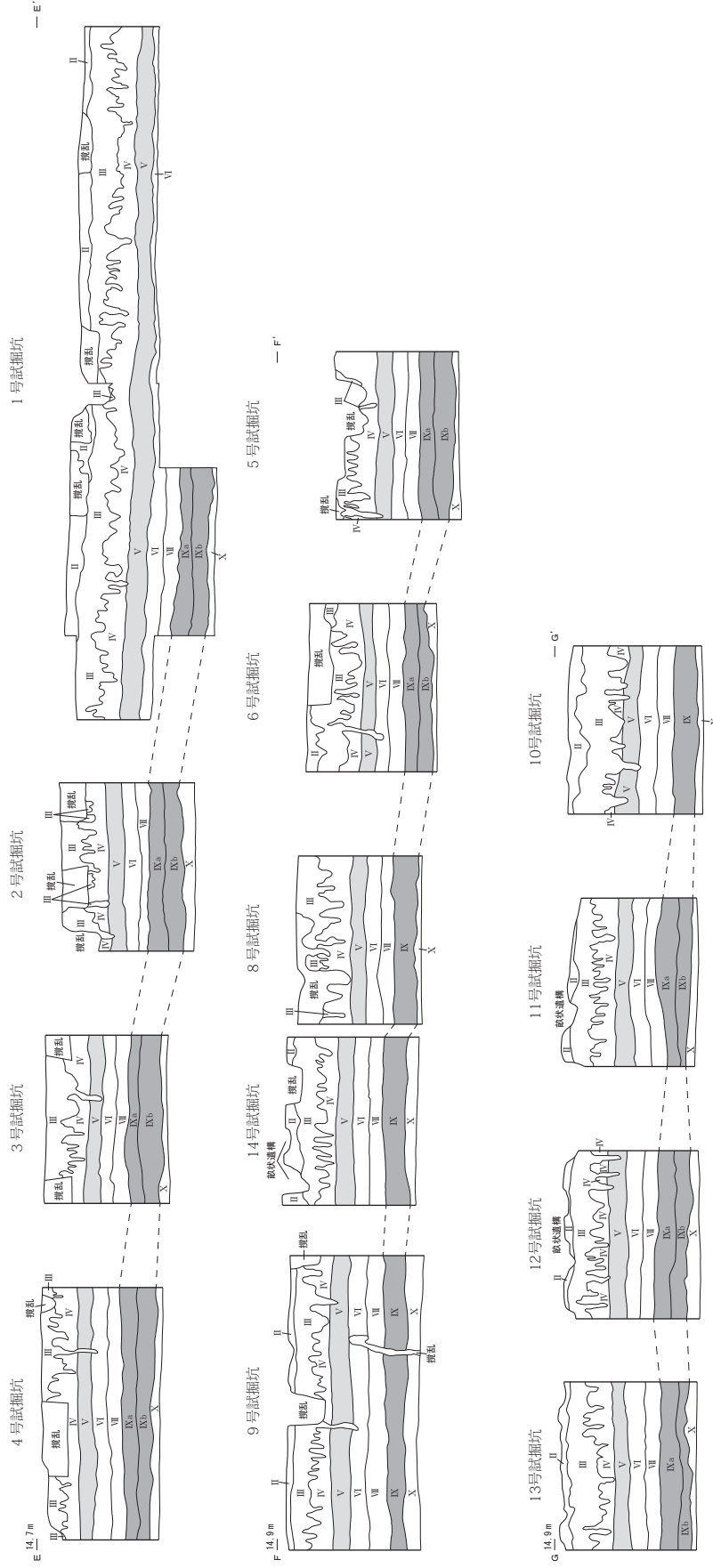
[西→東方向]



- |  |   |
|--|---|
| <p>II層 暗褐色土 (10YR3/3)</p> <p>III層 明黄褐色土 (10YR6/6)</p> <p>IV層 明黄褐色土 (10YR6/8)</p> <p>V層 黄褐色土 (10YR5/6)</p> <p>VI層 明黄褐色土 (2.5Y6/8)</p> <p>VII層 黄褐色土 (2.5Y5/6)</p> <p>VIII層 黄褐色土 (10YR5/6)</p> <p>IX層 暗褐色土 (10YR3/3)</p> <p>IXa層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)</p> <p>IXb層 暗褐色土 (10YR3/3)</p> <p>X層 明黄褐色土 (10YR6/6)</p> | <p>赤色スコリア・白色粒子少量含む。ローム漸移層。しまり中。</p> <p>赤色スコリアを含み、白色粒子を少量含む。ソフトローム層。しまり中。</p> <p>黒色スコリアを多量に含み、赤色スコリアを含む。ハードローム層。しまり強。</p> <p>黒色スコリア・赤色スコリアを含み、白色粒子を多量に含む。立川ローム層第I黑色帯。しまり強。</p> <p>黒色スコリアを多量に含み、赤色スコリアを少量含む。AT包含層。しまり強。</p> <p>黒色スコリア・赤色スコリアを含む。立川ローム層第II黑色帯上半部。しまり強。</p> <p>白色粒子を少量含む。第VII層とIX層の間にブロック状に点在する。しまり強。</p> <p>黒色スコリアを多量に含み、赤色スコリア・白色粒子を少量含む。地点により、IXa・IXb層に細分。立川ローム層第II黑色帯下半部。しまり強。</p> <p>黒色スコリアを含み、白色粒子を少量含む。立川ローム層第II黑色帯下半部。しまり強。</p> <p>黒色スコリアを多量に含み、赤色スコリア・白色粒子を少量含む。立川ローム層第II黑色帯下半部。しまり強。</p> <p>黒色スコリアを少量含み、赤色スコリアを含む。しまり強。</p> |
|--|---|

第7図 基本層序1 (1/80)

[南 → 北方向]



第8図 基本層序2 (1 / 80)





## 第3章 検出された遺構と遺物

### 第1節 旧石器時代の遺構・遺物

#### (1) 概要

基本層序の確認も兼ねた旧石器試掘坑（T P 1～15）を計15か所設定し（第6図）、精査を行った結果、石器194点、礫941点、炭化材2点の計1,137点の遺物が出土した。遺構としては、T P 1・4・9・15において、石器集中地点3か所（20～22号石器集中地点）、礫群3か所（5～7号礫群）が検出された（第10図）。また、T P 3・7・14において計4点、石器が単独で出土した。

遺構を層位的にみると、22号石器集中地点、6・7号礫群がⅡ層下部～立川ローム第Ⅲ層、20号石器集中地点、5号礫群が立川ローム第Ⅳ層上～中部、21号石器集中地点が立川ローム第Ⅶ～Ⅸ層から検出されている。このことから、今回の調査では3時期の文化層が確認できた。

Ⅱ層下部～立川ローム第Ⅲ層の第1文化層では、石器11点、礫41点が出土した。石器の内訳はナイフ形石器2点、両面調整石器1点、二次加工のある剥片1点、剥片7点で、石質別では黒曜石6点、チャート3点、珪質頁岩1点、瑪瑙1点となる。

立川ローム第Ⅳ層上～中部の第2文化層では、石器68点、礫898点、炭化材2点が出土した。石器の内訳は尖頭器1点、彫器1点、石核3点、尖頭器調整剥片8点、剥片54点、碎片1点で、石質別ではチャート46点、珪質頁岩14点、黒曜石7点、頁岩1点となる。

立川ローム第Ⅶ～Ⅸ層の第3文化層では、石器115点、礫2点が出土した。石器の内訳はナイフ形石器1点、石錐1点、石錐または彫器1点、削器1点、二次加工のある剥片10点、石核1点、剥片100点で、石質別ではチャート115点となる。

#### (2) 石器集中地点

##### 20号石器集中地点

**遺 構**（第11・12図）

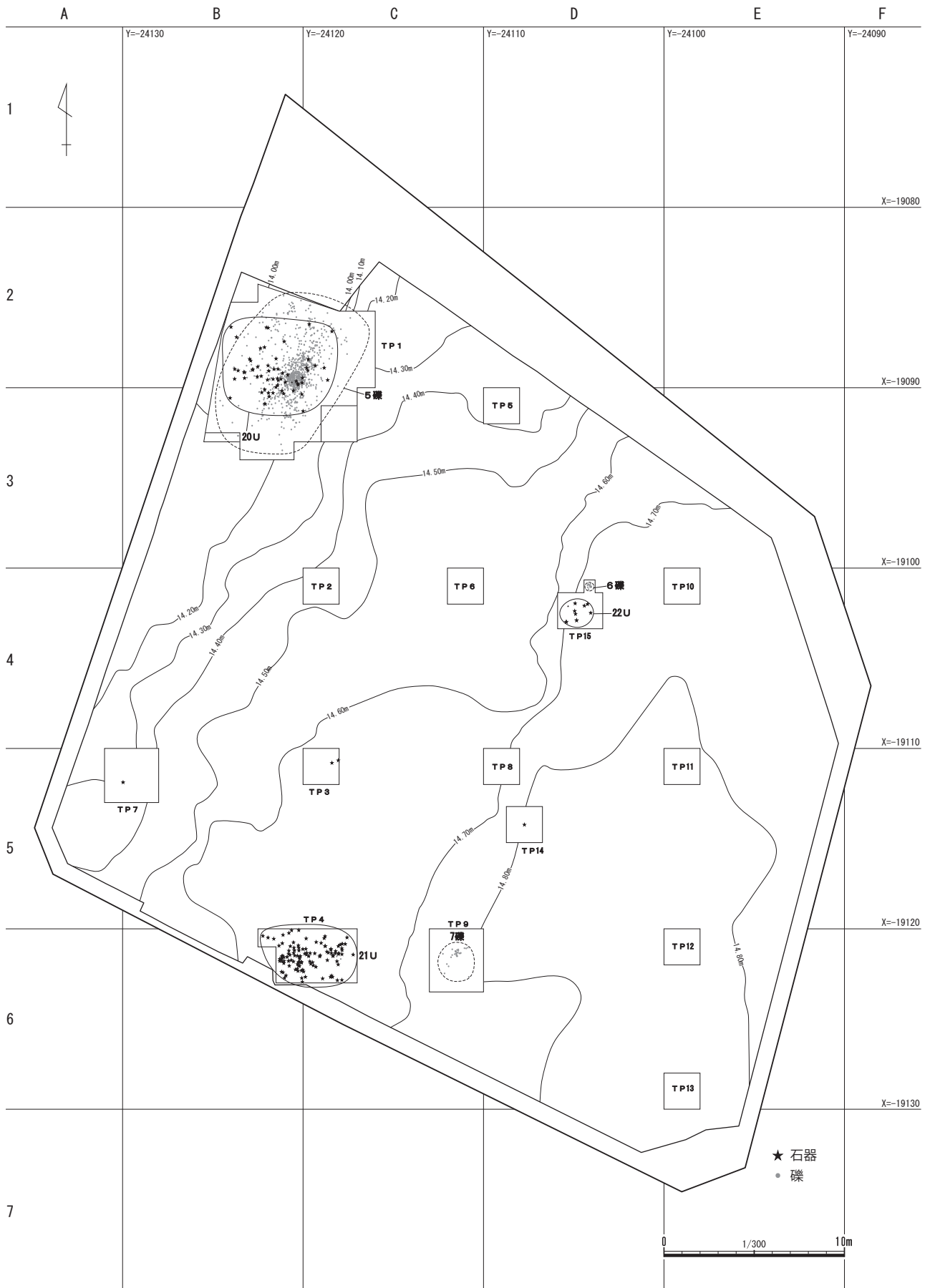
[位 置]（B・C-2・3）グリッド。T P 1から検出。

[検出状況] 上面は中世以降のピット（1・3・5・7・9・10・12 P）の他、現代の工事に伴う攪乱により削平されていたが、これらの掘り込みは深いものでも立川ローム第Ⅲ層下部～第Ⅳ層上部に達する程度であり、本遺構への影響は軽微なものと推測される。

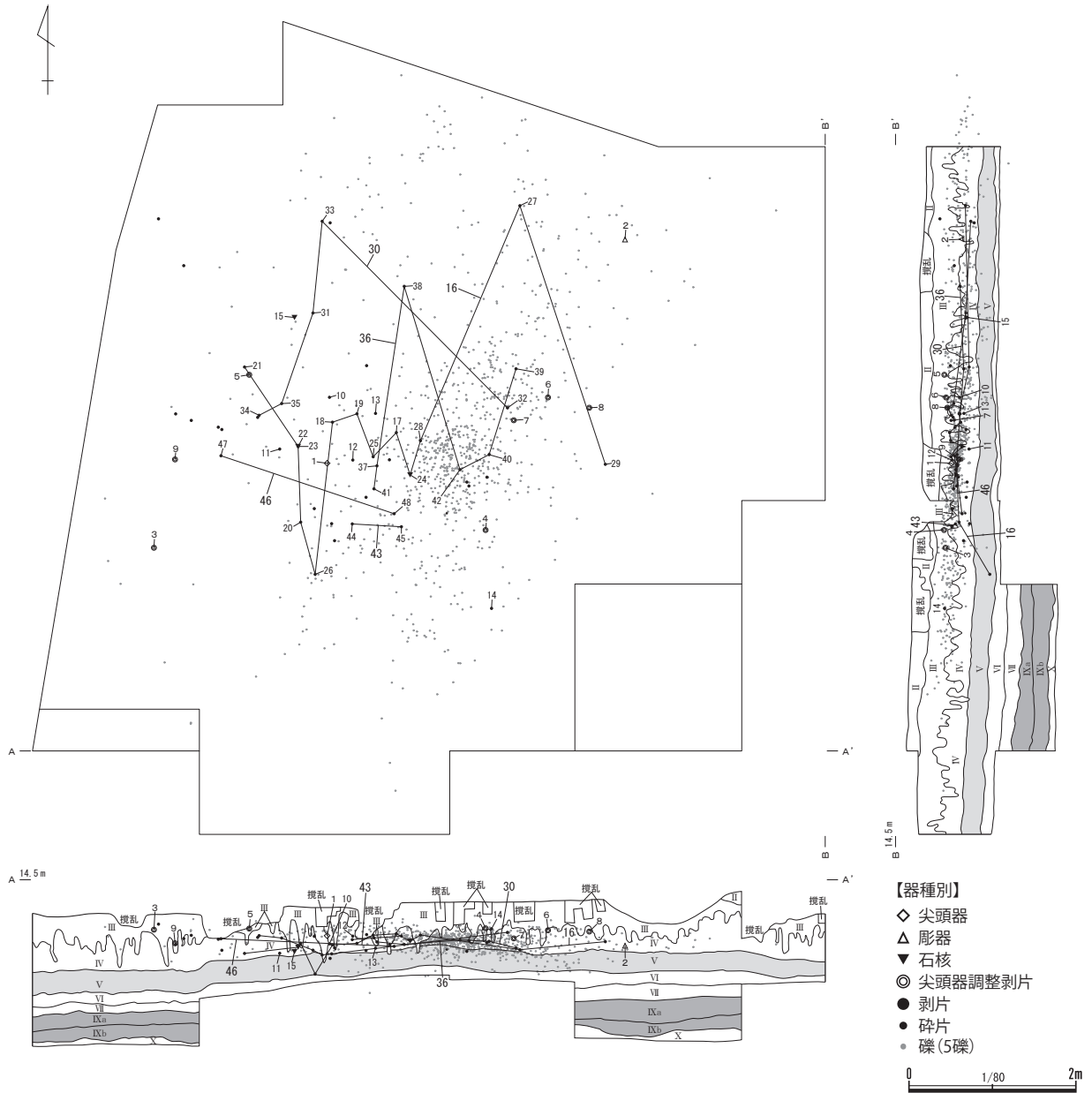
[平面分布] 東西方向5.69 m、南北方向4.85 mの範囲で石器の分布が確認された。適宜、拡張を続けたため、概ね本石器集中地点の全体を精査できたと考えられるが、西方向は調査区外に若干広がる可能性がある。5号礫群と垂直分布が重なる。

[出土層位] 石器は標高13.37～13.96 mから出土しており、その分布は立川ローム第Ⅲ層下部から第Ⅴ層下部にかけて広がるが、立川ローム第Ⅳ層上～中部に集中する傾向が認められる。5号礫群と垂直分布が重なる。

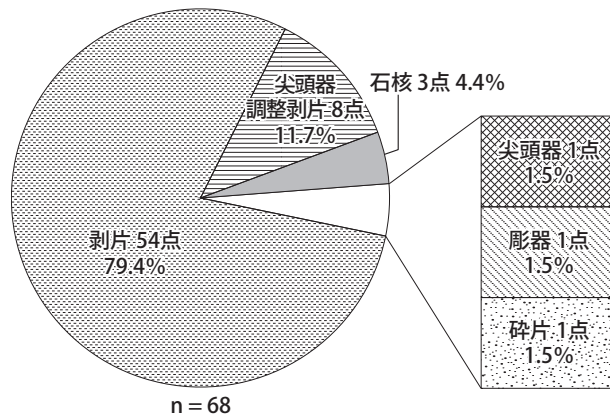
[出土石器] 石器の総点数は68点で、尖頭器1点、彫器1点、石核3点、尖頭器調整剥片8点、剥片



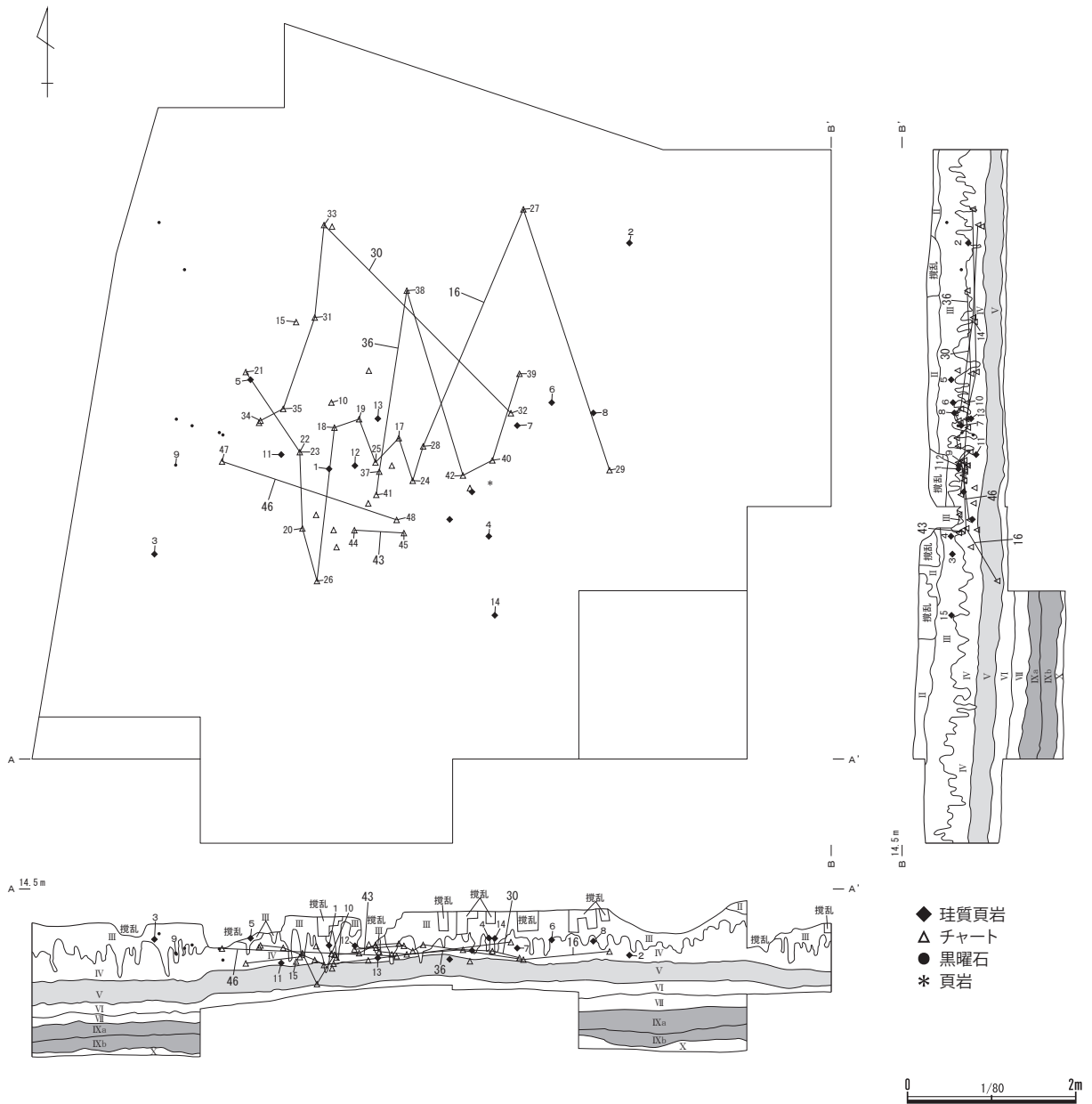
第10図 旧石器時代遺構分布図（1／300）



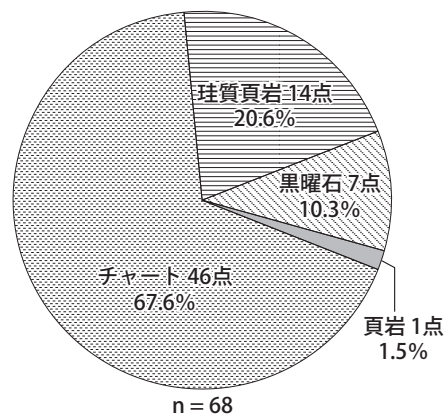
器種組成



第11図 20号石器集中地点 器種別分布図 (1/80)



石質組成



第12図 20号石器集中地点 石質別分布図 (1/80)



54点、碎片1点が出土した。石質別では、チャート46点、珪質頁岩14点、黒曜石7点、頁岩1点となる。チャートは原礫面を多く残す石核、原礫を分割した石核とそこから生じた剥片で、珪質頁岩は尖頭器・彫器等のツール及び尖頭器調整剥片等のツールに関わる調整剥片である。

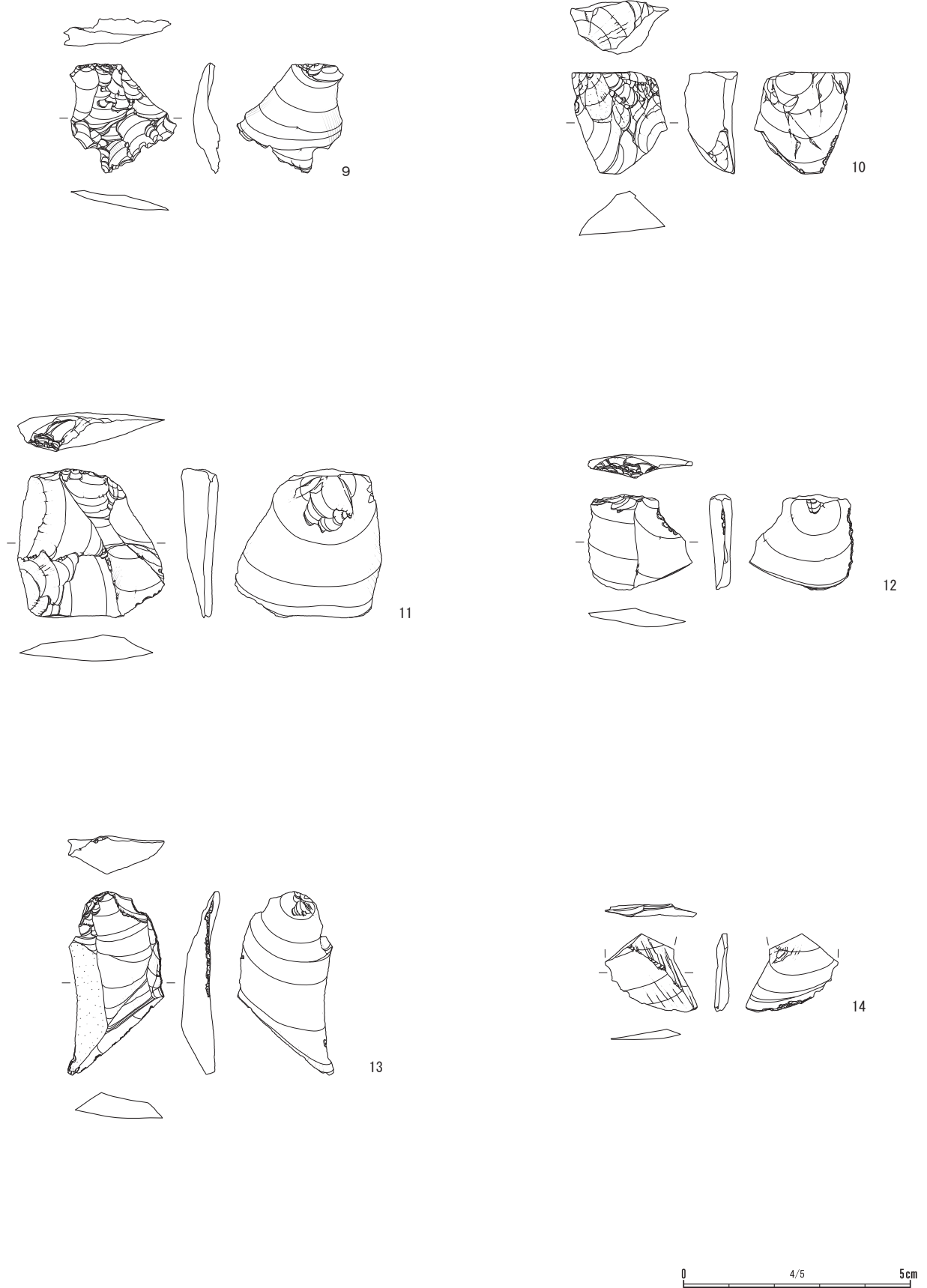
**遺物** (第13～25図、図版23～34、第3・4表)

**[石器]** (第13～25図1～48、図版23～34-1～48、第3・4表)

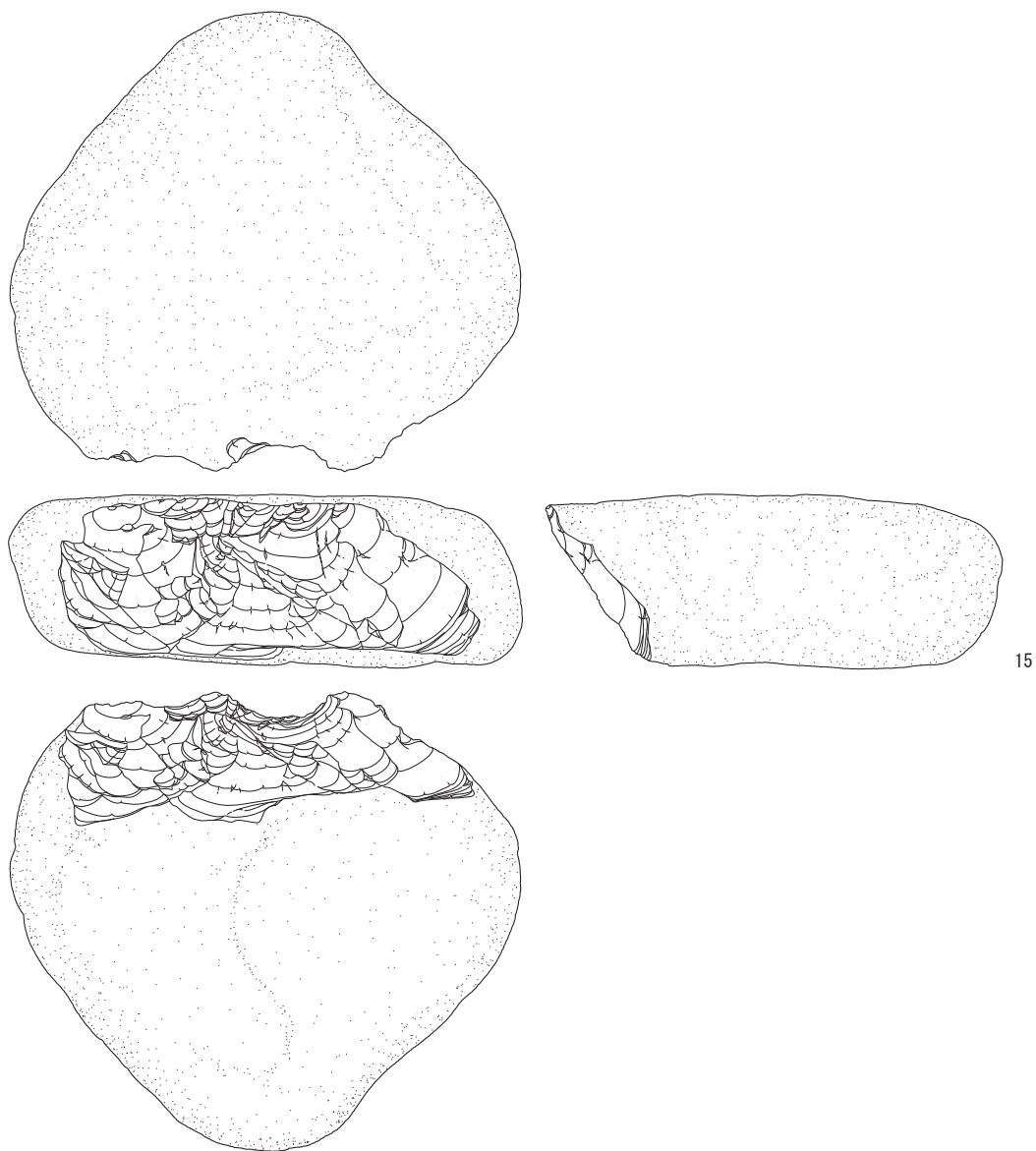
1は尖頭器、2は彫器で、共に石質は珪質頁岩である。3～9は尖頭器調整剥片で、石質は3～8が珪質頁岩、9が黒曜石である。10～14は剥片で、石質は10がチャート、11～14が珪質頁岩である。15はチャート製の石核、16～48はチャート製の石核・剥片接合資料である。チャート製の石器は石質に類似性があり、同一母岩から作出されたと考えられる。



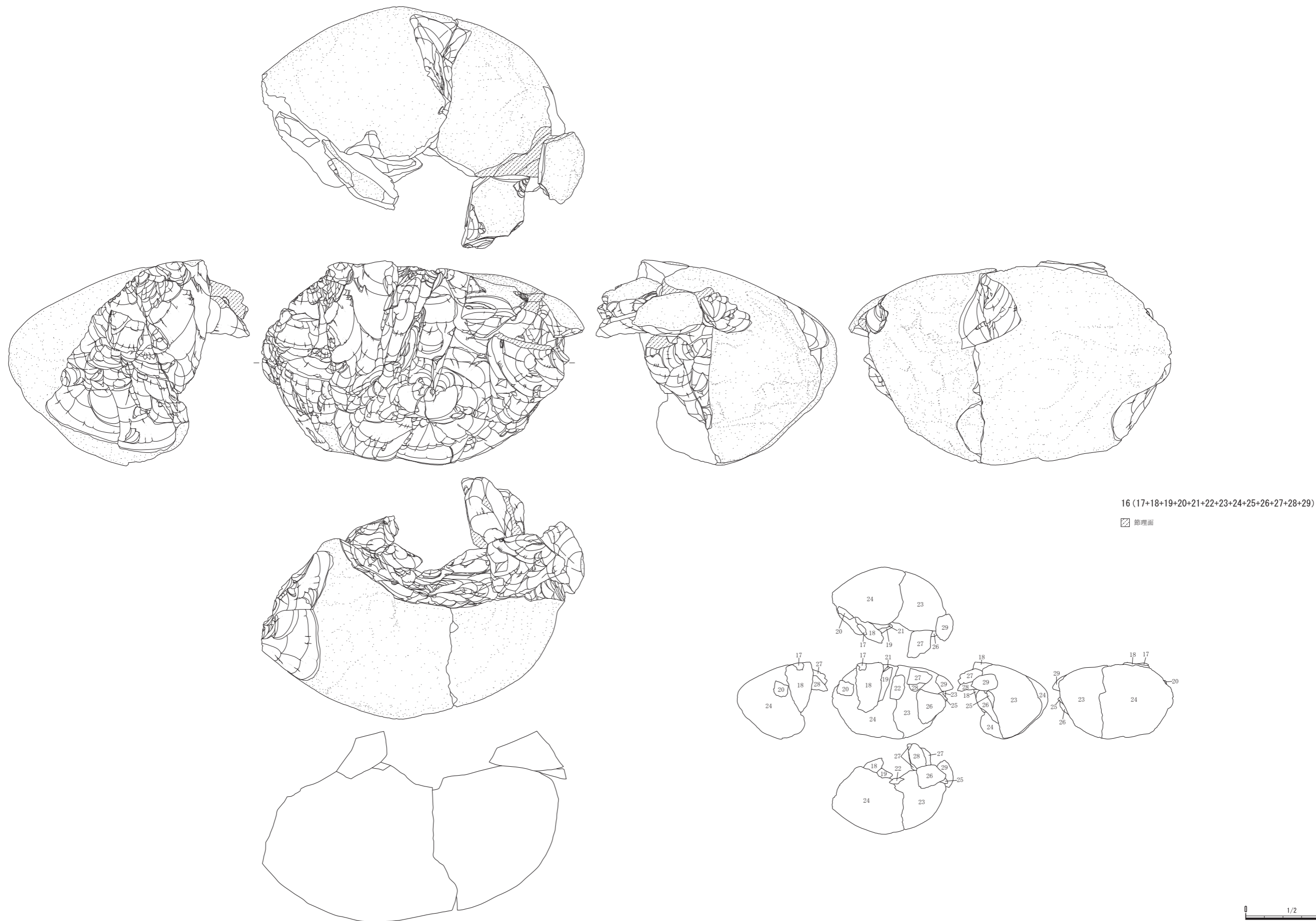
第13図 20号石器集中地点出土遺物1 (4/5)



第14図 20号石器集中地点出土遺物2（4／5）



第15図 20号石器集中地点出土遺物3（4／5）



第16図 20号石器集中地点出土遺物4 (1/2)

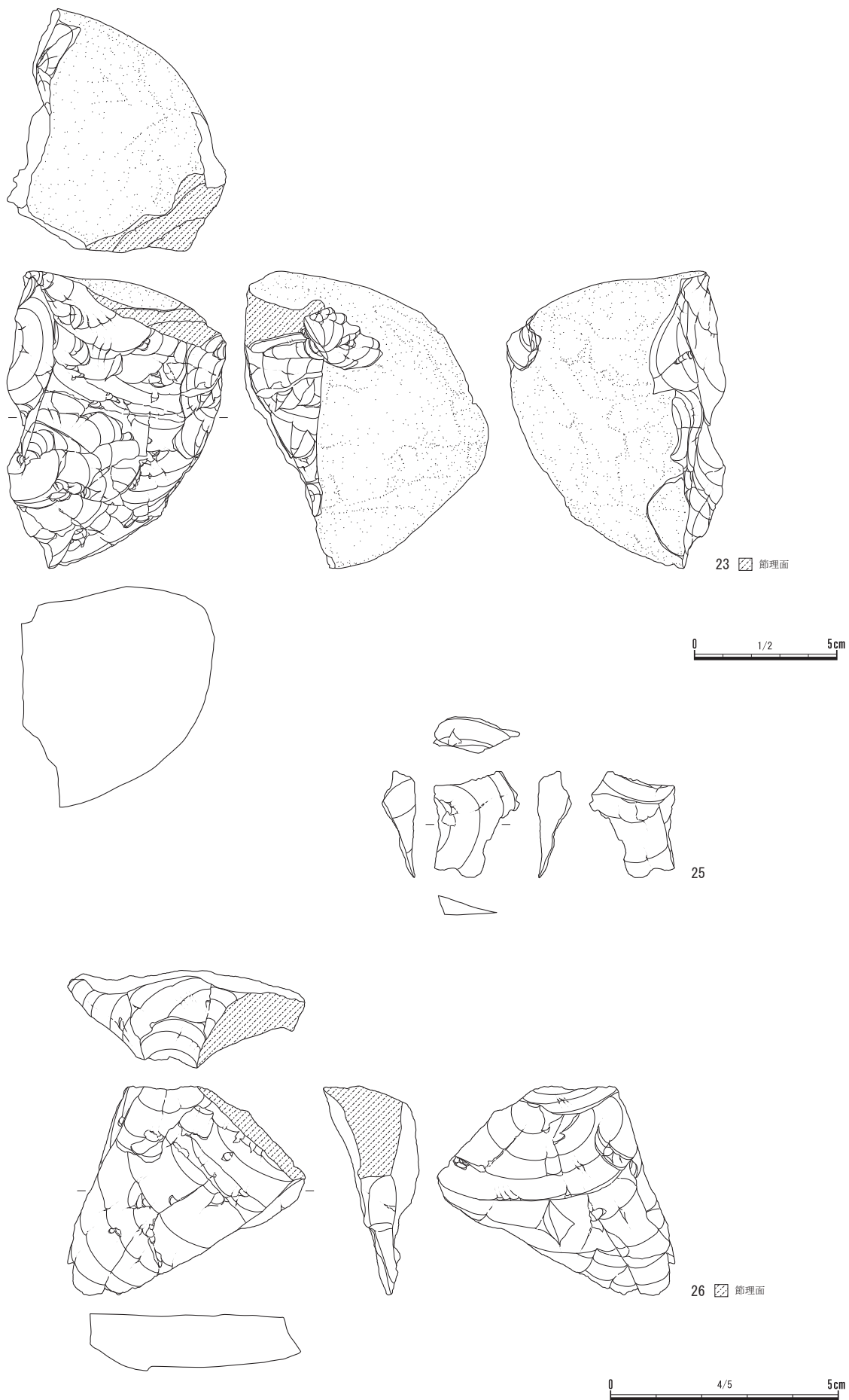
0 1/2 5cm



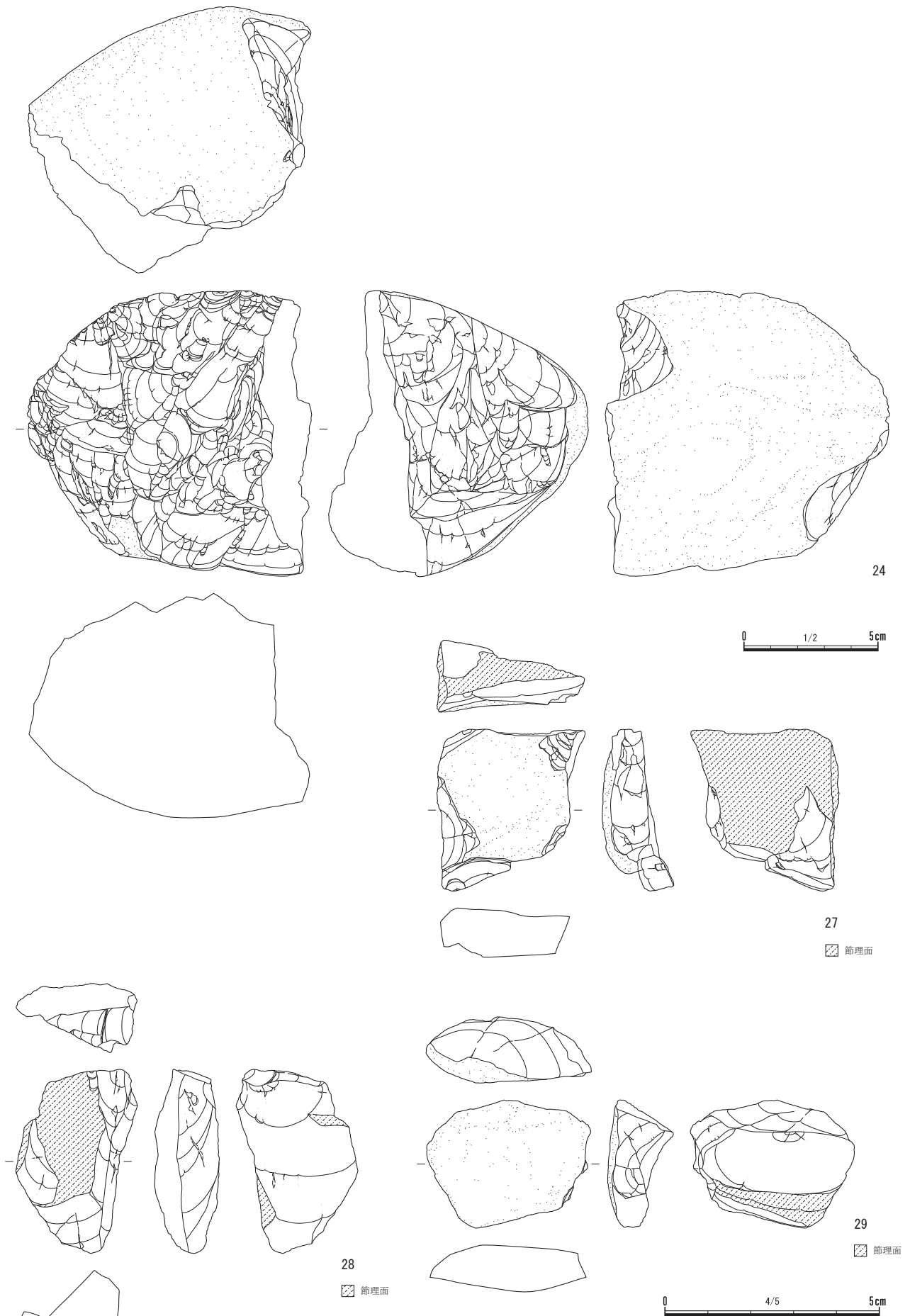




第17図 20号石器集中地点出土遺物5（4／5）

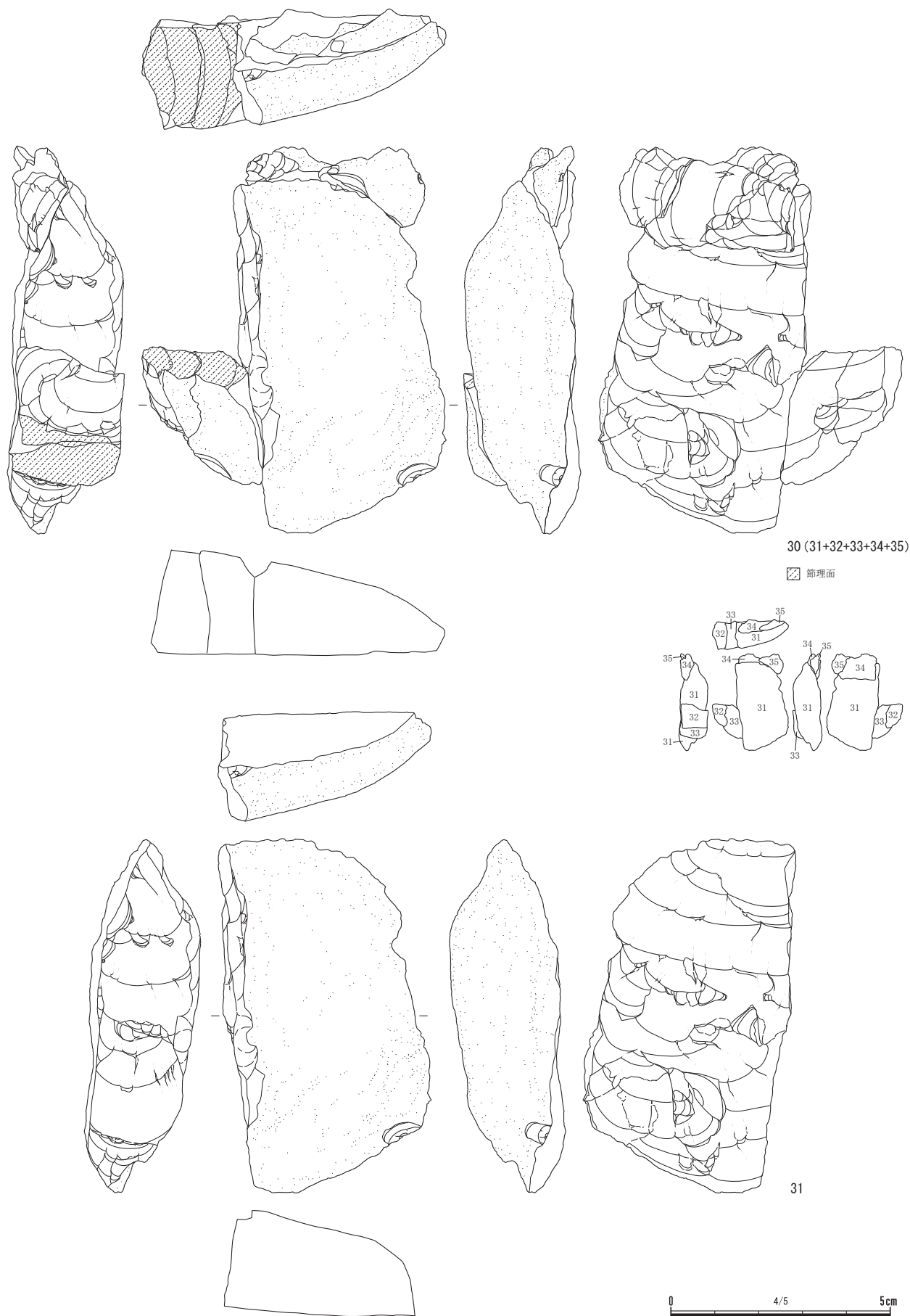


第18図 20号石器集中地点出土遺物6 (1/2・4/5)

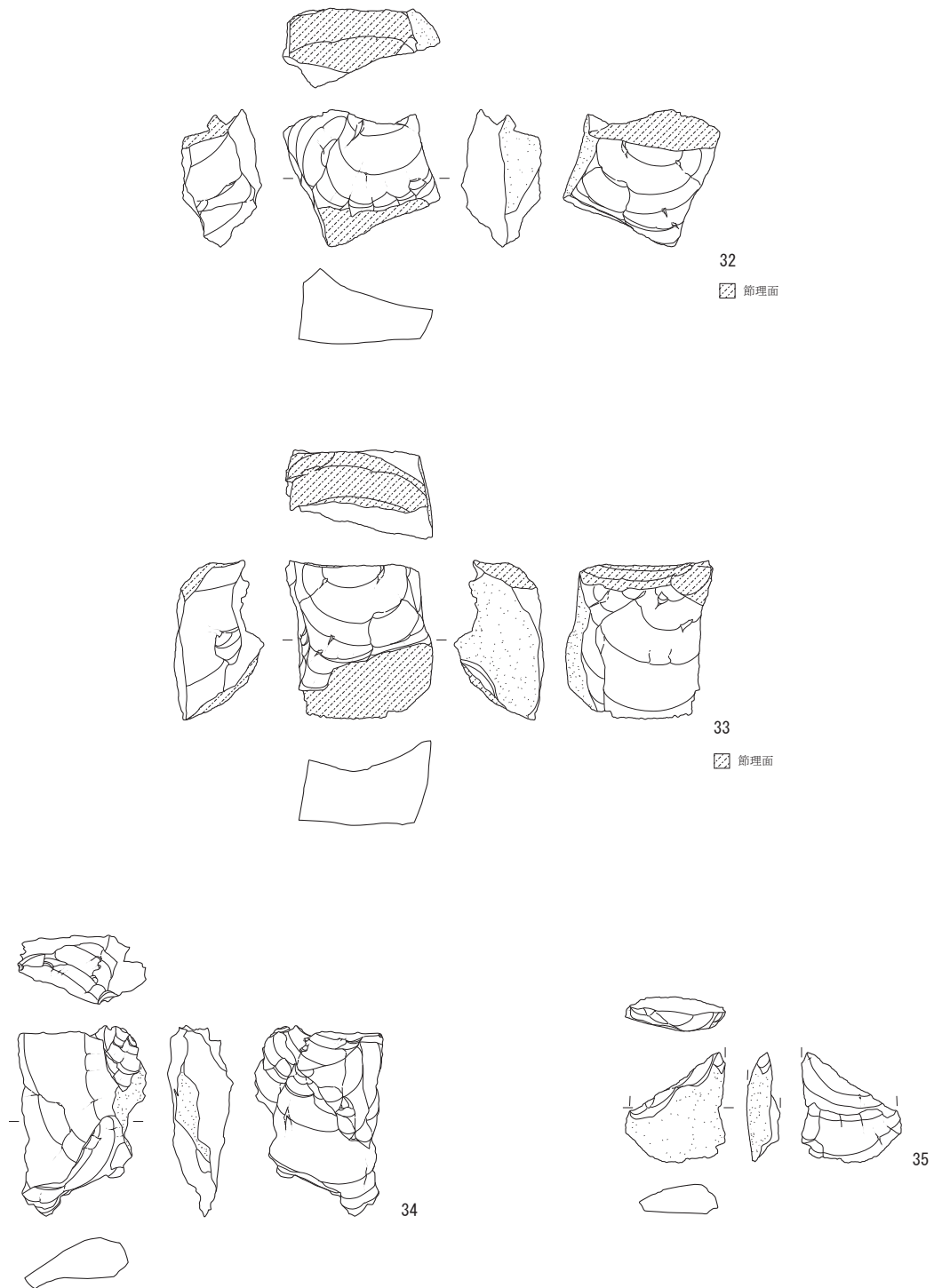


第19図 20号石器集中地点出土遺物7 (1/2・4/5)

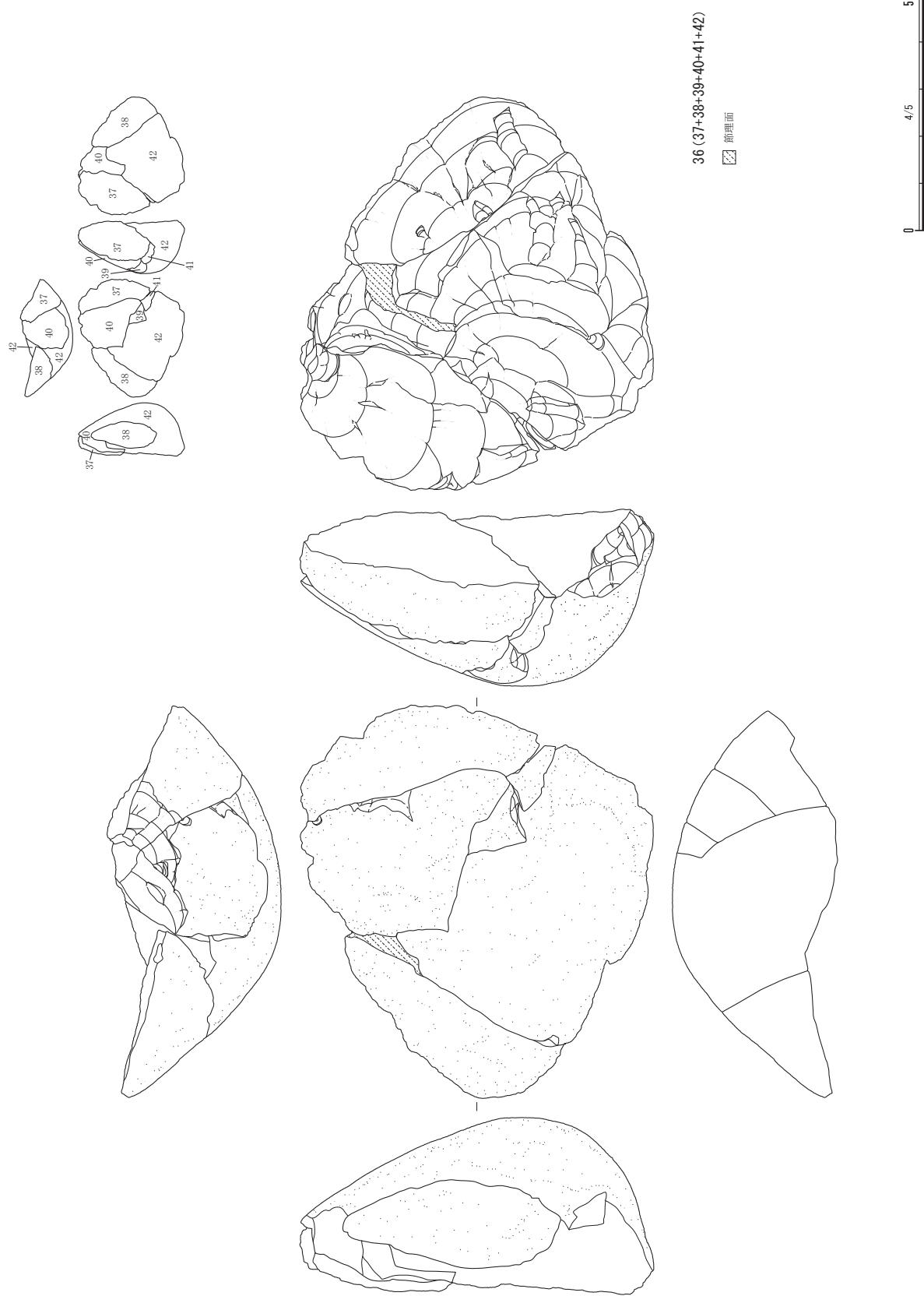




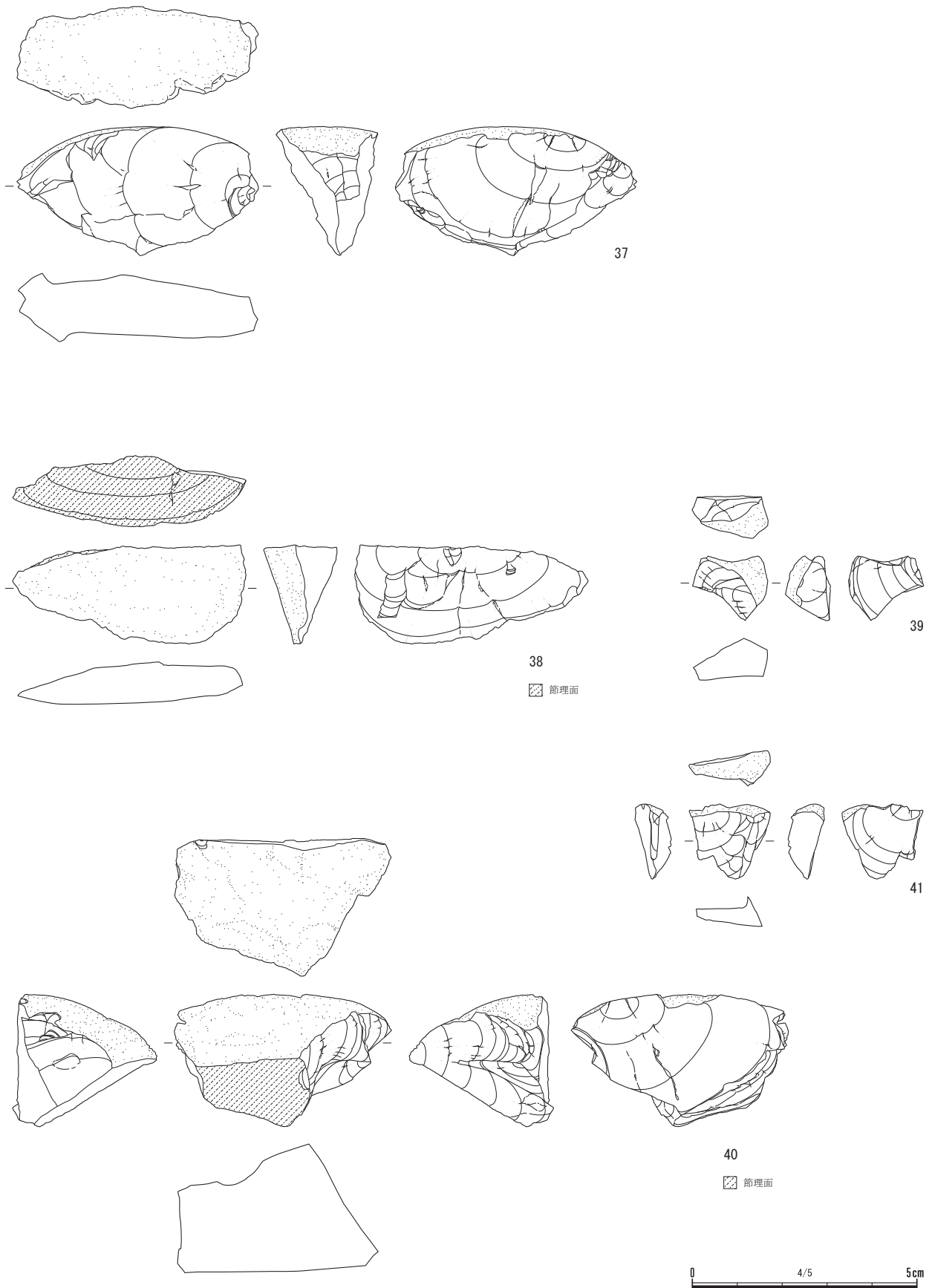
第20図 20号石器集中地点出土遺物8 (4/5)



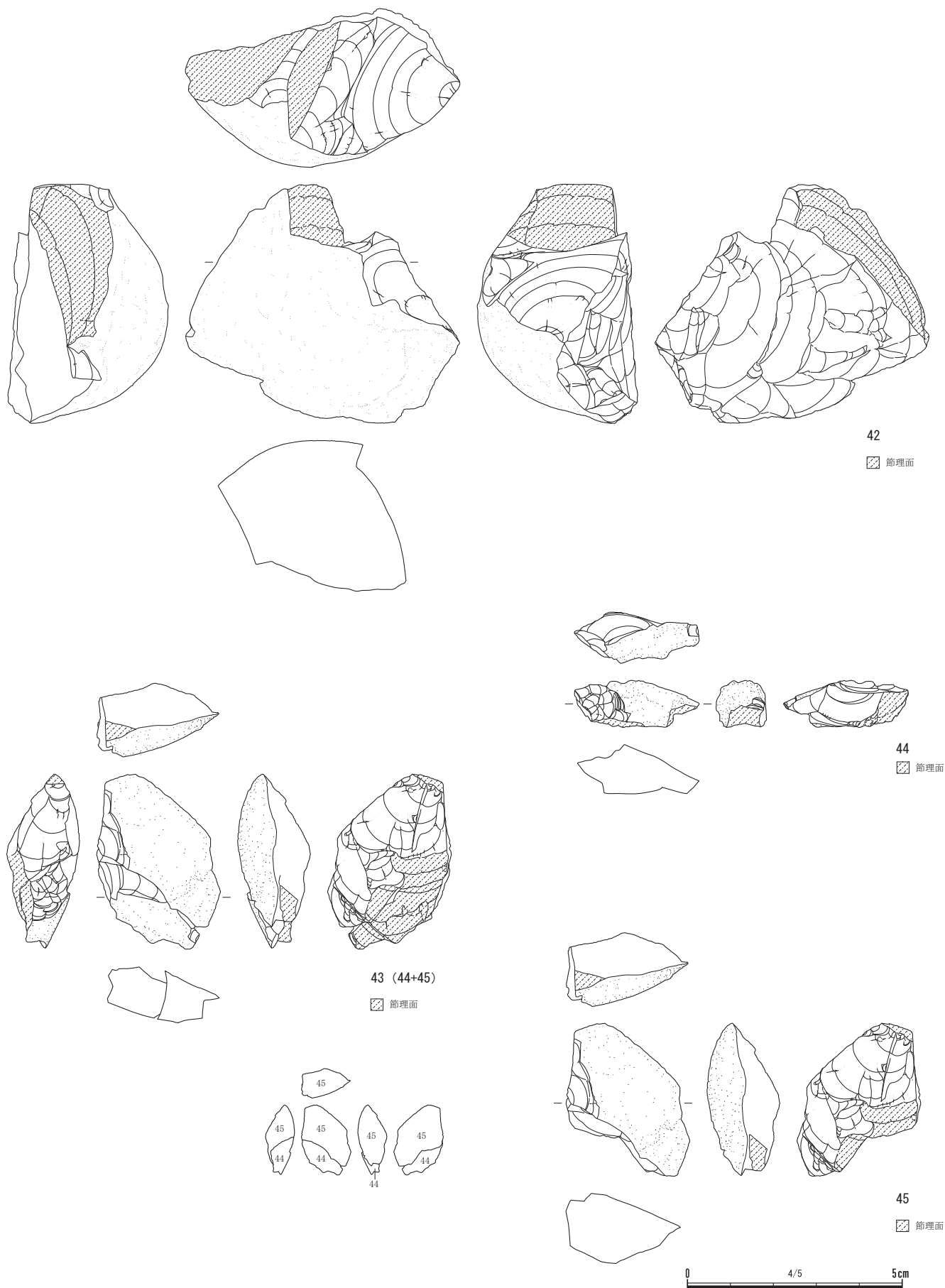
第21図 20号石器集中地点出土遺物9（4／5）



第22図 20号石器集中地点出土遺物 10 (4 / 5)

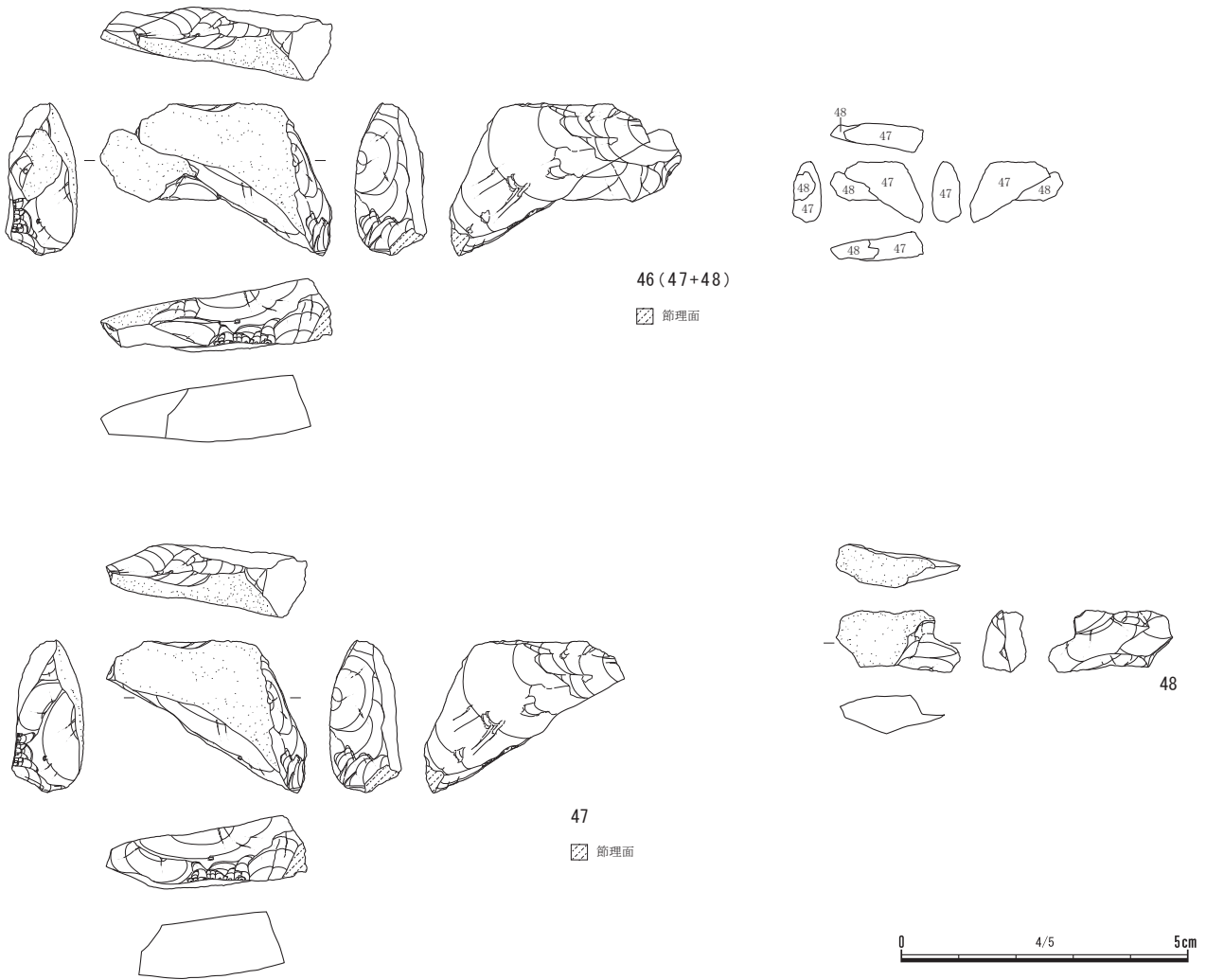


第23図 20号石器集中地点出土遺物 11 (4/5)



第24図 20号石器集中地点出土遺物 12 (4/5)





第25図 20号石器集中地点出土遺物13(4/5)

挿図番号 図版番号	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第13図1 図版23-1	20U-1	尖頭器	珪質頁岩	3.45	1.95	1.12	6.51	上下端部欠損／素材剥離面が残らないほど加工され、素材は不明／両面に両側縁からの連続的な平坦剥離／欠損するが上下両端は尖頭形に成形され、横断面形は菱形となる／欠損部上端側は単剥離面、下端側は剥離が複数回施される
第13図2 図版23-2	20U-14	彫器	珪質頁岩	4.67	1.85	0.57	3.82	下端部(素材打面側)欠損／縦長剥片を素材とし、縦位に用いられる／正面側左右側縁全縁にプランテイング状の二次加工／右側縁上部の二次加工部分を打面とし、彫刀面が左側縁の裏面側に作出
第13図3 図版23-3	20U-2	尖頭器調整剥片	珪質頁岩	2.50	1.79	0.51	1.55	完形／打面は線状／背面構成は主要剥離軸方向に順行・逆行・直交する剥離方向で構成
第13図4 図版23-4	20U-11	尖頭器調整剥片	珪質頁岩	2.35	2.16	0.17	0.41	完形／打面は線状／背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成
第13図5 図版23-5	20U-7	尖頭器調整剥片	珪質頁岩	2.39	1.49	0.38	1.11	完形／打面は単剥離面／背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成
第13図6 図版23-6	20U-17	尖頭器調整剥片	珪質頁岩	2.72	2.75	0.34	1.68	完形／打面は単剥離面／背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成
第13図7 図版23-7	20U-24	尖頭器調整剥片	珪質頁岩	3.97	1.66	0.48	1.38	完形／打面は調整打面／背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成
第13図8 図版23-8	20U-13	尖頭器調整剥片	珪質頁岩	3.30	1.62	0.44	1.69	打面側欠損／背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成／主要剥離面側の左側縁に部分的な二次加工

第3表 20号石器集中地点出土石器一覧(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第14図9 図版23-9	20U-3	尖頭器調整剥片	黒曜石	2.41	2.34	0.43	1.14	完形/打面は単剥離面/背面構成は、打面側は主要剥離軸方向に順行、末端側はそれに対して逆行する対向した剥離方向で構成/対向剥離は縦断面形「く」の字状に交差/信州霧ヶ峰産
第14図10 図版24-10	20U-10	剥片	チャート	2.25	2.10	1.17	5.64	完形/厚手の寸詰まり剥片/打面は単剥離面/背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成/主要剥離面側の側縁に連続的な微細剥離
第14図11 図版24-11	20U-22	剥片	珪質頁岩	3.28	3.23	0.81	7.00	完形/打面は調整打面/背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成/頭部調整あり/主要剥離面側の末端に非連続的な微細剥離
第14図12 図版24-12	20U-32	剥片	珪質頁岩	2.10	2.29	0.50	2.15	完形/打面は調整打面/背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成/頭部調整あり/主要剥離面側の末端に非連続的な微細剥離
第14図13 図版24-13	20U-20	剥片	珪質頁岩	4.05	2.12	0.84	3.91	完形/打面は複剥離面/背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成/頭部調整あり
第14図14 図版24-14	20U-12	剥片	珪質頁岩	1.72	2.03	0.31	0.58	打面側欠損/背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成/主要剥離面側の末端に連続的な微細剥離
第15図15 図版24-15	5 礫-615	石核	チャート	2.92	8.64	7.68	262.10	完形/素材は扁平な亜円礫/扁平な礫面を打面に設定し、剥離を行う/作業面の剥離方向は全て同方向
第16図16 図版25-16	—	接合資料 17+18+19+20 +21+22+23+24 +25+26+27+28 +29	チャート	10.96	17.32	12.93	1804.15	石核2点、剥片11点の接合資料/4個体の分割礫(個体A・B・C・Dと称称)が接合/個体A:17~24が接合/個体B:25・26が接合/個体C:27・28が接合/個体D:29のみ/最初に個体A・B・C・Dに分割後、各個体で剥離を行う/個体Aは「17→18・19→20→21→22→23・24」の順に、図上面の原礫面の平坦部分を打面として剥離/22・23・24は同時割れの可能性あり/23・24(石核)は調査地点に遺棄/個体Bは個体Aとの分割面である背面を作業面にして「25→26」の順に剥離/個体Cは個体Aとの分割面を打面として「27→28」の順に剥離/個体B・Cの石核は調査地点で未確認/全体的に節理が顕著
第17図17 図版26-17	5 礫-252	剥片	チャート	1.03	1.86	0.61	1.32	完形/打面は原礫面/背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成/個体A
第17図18 図版26-18	5 礫-641	剥片	チャート	6.86	5.05	2.10	74.24	右側欠損/打面は原礫面/背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成/個体A
第17図19 図版26-19	20U-19	剥片	チャート	5.28	1.85	1.15	8.64	打面側欠損/背面構成は主要剥離軸方向に直交する剥離方向で構成/左側縁中央部を起点に剥離が広がる/個体A
第17図20 図版26-20	5 礫-203	剥片	チャート	2.86	2.73	0.88	5.46	打面側欠損/背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成/主要剥離面側の左側縁に部分的な二次加工状の剥離/個体A
第17図21 図版26-21	20U-23	剥片	チャート	3.66	0.87	0.97	2.06	打面側欠損/背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成/左側面はステップを起点に剥離が直交方向に広がる/個体A
第17図22 図版27-22	5 礫-644	剥片	チャート	1.99	3.68	0.87	6.14	左右両端欠損/打面は単剥離面/背面構成は主要剥離軸方向に直交する剥離方向で構成/23との分割面を打面として剥離/個体A
第18図23 図版27-23	5 礫-644	石核	チャート	10.44	7.69	8.57	639.50	単設打面石核/作業面の剥離方向は上面の打面からの単一方向の剥離で構成/逆方向・直交方向の剥離痕は節理などを起点に剥離方向が変わったと推測される/個体A
第19図24 図版27-24	5 礫-645	石核	チャート	10.66	10.61	9.68	1075	単設打面石核/作業面の剥離方向は上面の打面からの単一方向の剥離で構成/逆方向・直交方向の剥離痕は節理などを起点に剥離方向が変わったと推測される/個体A
第18図25 図版28-25	20U-18	剥片	チャート	2.32	1.87	0.74	2.01	完形/打面は単剥離面/背面構成は主要剥離軸方向に直交する剥離方向で構成/背面は個体Aとの分割面/個体B
第18図26 図版28-26	20U-34	剥片	チャート	4.59	5.22	2.10	32.76	完形/打面は複剥離面/背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成/背面は個体Aとの分割面/個体B
第19図27 図版28-27	5 礫-357	剥片	チャート	3.77	3.45	1.22	17.93	完形/打面は節理面/背面構成は原礫面と主要剥離軸方向に直交する剥離方向で構成/個体C
第19図28 図版28-28	5 礫-304	剥片	チャート	4.29	2.83	1.50	14.65	完形/打面は単剥離面/背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成/個体C
第19図29 図版28-29	5 礫-8	剥片	チャート	2.98	3.82	1.53	16.61	完形/打面は単剥離面/背面構成は原礫面/個体D
第20図30 図版29-30	—	接合資料 31+32+33 +34+35	チャート	8.80	6.93	2.66	23.74	剥片5点の接合資料/「31→32→33→90°の打面転位→34・35」の順に剥離/石核は調査地点で未確認/全体的に節理が顕著
第20図31 図版30-31	5 礫-638	剥片	チャート	8.07	4.85	2.65	103.10	打面側欠損/背面構成は原礫面で構成/石核あるいは石核素材の可能性もあり
第21図32 図版30-32	5 礫-322	剥片	チャート	2.55	2.91	1.48	8.53	完形/打面は節理面/背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成

第3表 20号石器集中地点出土石器一覧(2)

挿図番号 図版番号	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第21図 33 図版 30-33	5 礫 -875	剥片	チャート	2.95	2.73	1.66	15.21	完形／被熱のため表面が変色・変質／打面は節理面／背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成
第21図 34 図版 30-34	5 礫 -47	剥片	チャート	3.54	2.38	1.21	7.72	末端側欠損／打面は単剥離面／背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成
第21図 35 図版 30-35	5 礫 -175	剥片	チャート	2.05	1.85	0.61	1.94	打面側欠損／打面は単剥離面／背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成
第22図 36 図版 31-36	—	接合資料 37 + 38 + 39 + 40 + 41 + 42	チャート	7.49	8.34	3.75	198.50	剥片 6 点の接合資料／1 個体の分割礫あるいは剥片／「37・38 → 39・40 → 41 → 42」の順に剥離／節理が顕著な石材で、原礫面を多く残す／転石時の衝撃による打撃痕が原礫面だけでなく内部にも残るため、6 点の剥片は原石分割時に同時生成された可能性あり
第23図 37 図版 32-37	5 礫 -254	剥片	チャート	2.87	5.37	2.26	29.40	完形／打面は原礫面／背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成
第23図 38 図版 32-38	5 礫 -582	剥片	チャート	2.20	5.19	1.63	15.32	欠損品／42 の節理面で折れる
第23図 39 図版 32-39	5 礫 -377	剥片	チャート	1.43	1.67	1.00	2.11	打面側欠損／背面構成は主要剥離軸方向に直交する剥離方向で構成
第23図 40 図版 32-40	5 礫 -698	剥片	チャート	2.94	4.83	3.21	38.62	完形／打面は原礫面／背面構成は節理面と主要剥離軸方向に直交する剥離方向で構成
第23図 41 図版 32-41	5 礫 -302	剥片	チャート	1.66	1.80	0.80	1.51	完形／打面は原礫面／背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成
第24図 42 図版 33-42	5 礫 -758	剥片	チャート	5.55	6.37	3.73	111.54	欠損品／37 ～ 41 が剥離された残核の可能性あり
第24図 43 図版 34-43	—	接合資料 44 + 45	チャート	4.07	2.88	1.69	17.03	剥片 2 点の接合資料／打面は原礫面／背面構成は原礫面と主要剥離軸方向に直交する剥離方向で構成
第24図 44 図版 34-44	5 礫 -253	剥片	チャート	1.09	2.90	1.17	3.61	打面側欠損／主要剥離面は転石時の衝撃痕の可能性あり
第24図 45 図版 34-45	5 礫 -257	剥片	チャート	3.56	2.88	1.69	13.42	末端側欠損
第25図 46 図版 34-46	—	接合資料 47 + 48	チャート	2.66	4.04	1.25	10.55	剥片 2 点の接合資料／打面は節理面／背面構成は原礫面と主要剥離方向に直交する剥離方向で構成
第25図 47 図版 34-47	5 礫 -44	剥片	チャート	2.66	3.49	1.25	9.03	末端側欠損／48 との剥離面に二次加工
第25図 48 図版 34-48	5 礫 -488	剥片	チャート	1.08	2.16	0.75	1.52	打面側欠損

第3表 20号石器集中地点出土石器一覧(3)

遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
20U-4	尖頭器 調整剥片	黒曜石 (信州霧ヶ峰産)	1.01	0.70	0.18	0.10	20U-26	剥片	チャート	0.83	0.60	0.12	0.05
20U-5	剥片	黒曜石 (信州霧ヶ峰産)	1.29	1.21	0.25	0.37	20U-27	剥片	チャート	1.22	0.52	0.34	0.17
20U-6	剥片	黒曜石 (信州霧ヶ峰産)	1.32	0.68	0.18	0.13	20U-28	剥片	チャート	1.40	1.16	0.53	0.80
20U-8	剥片	黒曜石 (信州霧ヶ峰産)	1.54	0.93	0.19	0.19	20U-29	剥片	珪質頁岩	0.76	0.75	0.15	0.07
20U-9	剥片	黒曜石 (神津島産)	1.18	0.88	0.26	0.20	20U-30	剥片	頁岩	0.90	1.50	0.21	0.30
20U-15	剥片	チャート	1.30	0.59	0.24	0.16	20U-31	碎片	珪質頁岩	0.51	0.29	0.05	0.01
20U-16	剥片	チャート	2.01	1.51	0.52	1.32	20U-33	剥片	チャート	1.79	1.06	0.92	1.04
20U-21	剥片	黒曜石 (信州霧ヶ峰産)	1.01	0.65	0.06	0.05	20U-35	剥片	チャート	2.50	1.80	0.34	1.47
20U-25	剥片	チャート	3.43	2.06	0.96	5.51	5 礫 -195	剥片	チャート	2.67	1.15	0.63	1.20

第4表 20号石器集中地点出土石器一覧(非掲載)

## 21号石器集中地点

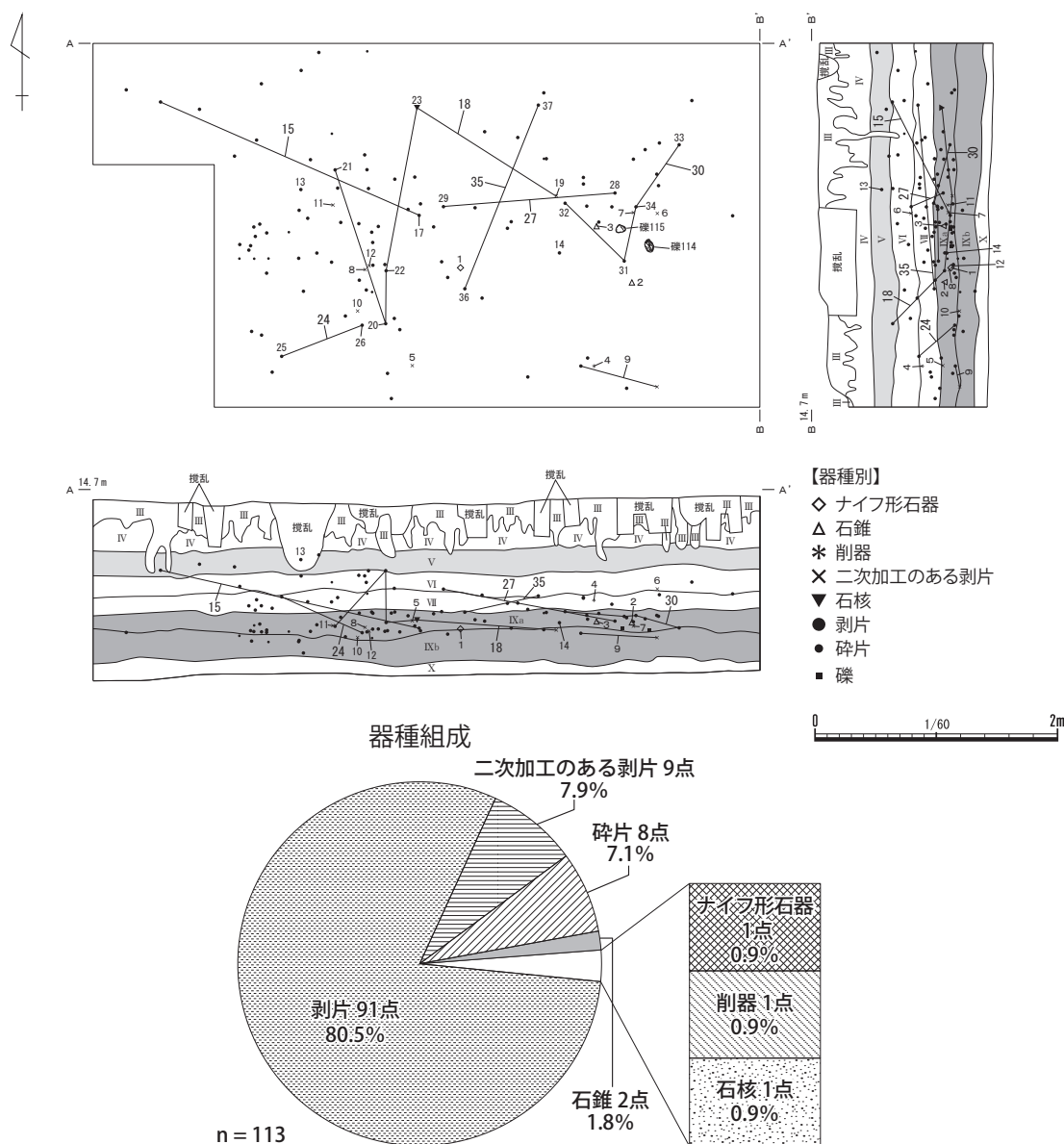
**遺 構** (第26・27図)

[位 置] (B・C-6) グリッド。TP4から検出。

[検出状況] 上面は弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡(643 Y)、中世以降のピット(52 P)及び現代の耕作跡等により削平されていたが、これらの掘り込みはいずれも石器の出土層位には達しておらず、本遺構への影響は無かったと考えられる。

[平面分布] 東西方向5.02 m、南北方向2.88 mの範囲で石器の分布が確認された。適宜、拡張を続けた結果、概ね本石器集中地点の中心部は捉えることができたが、調査区南端で検出されたため、全体の把握までは至らなかった。南・西方向は調査区外にまで広がる可能性が高い。本遺構に伴う礫群は確認されなかったが、石器に共伴して礫2点が出土している。

[出土層位] 石器は標高13.44～14.16 mから出土しており、比高差が大きい。使用石材はチャートに限定され、接合関係が多く認められることから、文化層は1枚として捉えた。垂直分布は立川ローム



第26図 21号石器集中地点 器種別分布図(1/60)

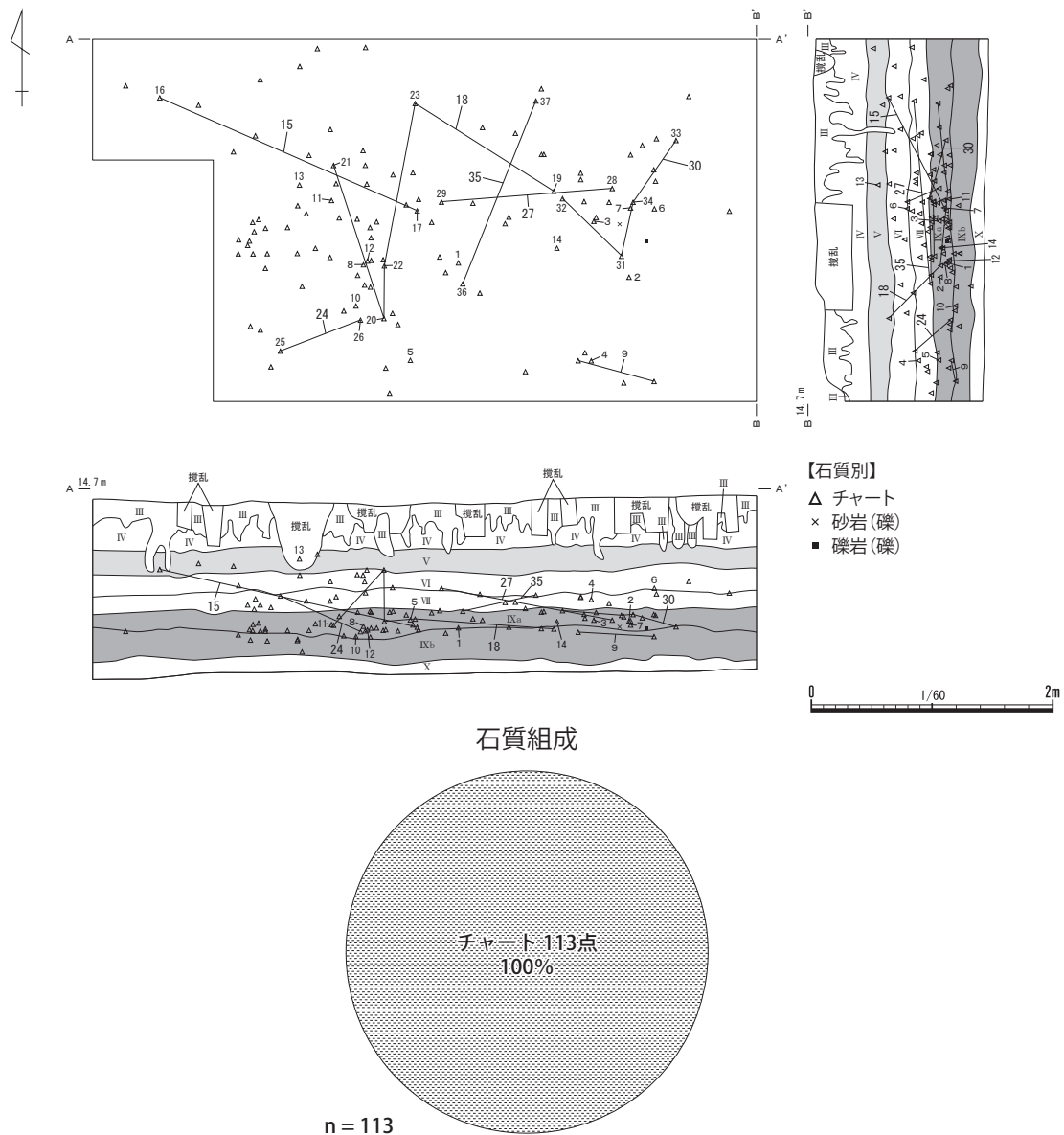
第V層下部から第IX層下部にかけて広がるが、立川ローム第IX層上部に集中する傾向が認められる。

〔出土石器〕 石器の総点数は 113 点で、ナイフ形石器 1 点、石錐 2 点、削器 1 点、二次加工のある剥片 9 点、石核 1 点、剥片 91 点、碎片 8 点が出土した。石質は全てチャートである。なお、立川ローム第IX層上部から礫 2 点が出土したが、礫群としては認識できなかった。礫の石質は砂岩 1 点、礫岩 1 点である。その他、T P 4 内からチャート製のナイフ形石器 1 点、二次加工のある剥片 1 点が出土したが、出土地点・層位が不明のため、遺構外遺物として第 133 図に別掲する。

**遺物** (第 28～31 図、図版 35～38、第 5～7 表)

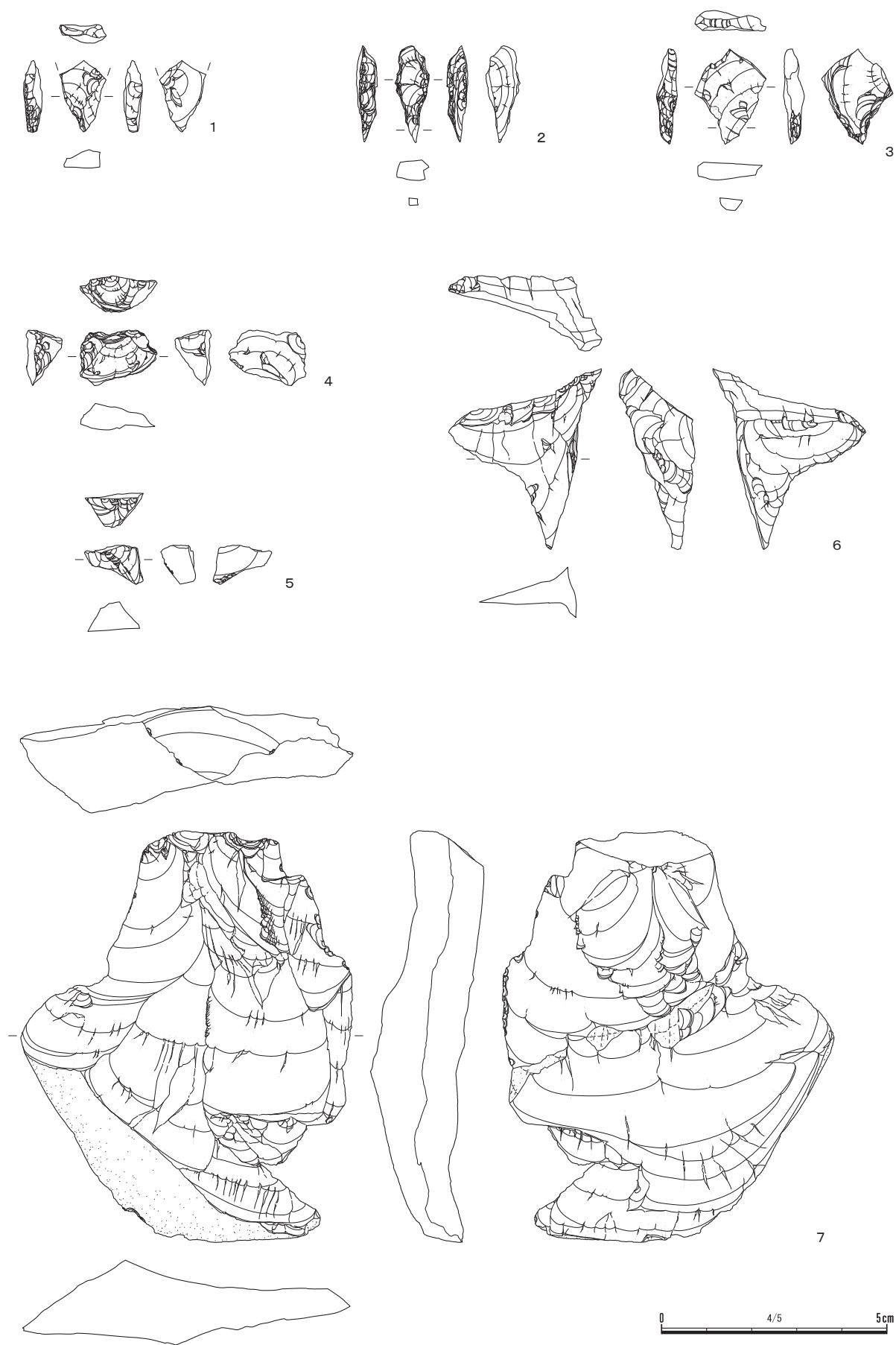
〔石器〕 (第 28～31 図 1～37、図版 35～38 - 1～37、第 5～7 表)

全てチャート製で、1 はナイフ形石器、2 は石錐、4 は削器である。3 は石錐として分類したが、彫刀面状の剥離が施されていることから、彫器として用いられた可能性もある。5～12 は二次加工のある剥片、13・14 は剥片である。15～37 はチャート製の石核・剥片接合資料で、石質の類似性が極めて高く、同一母岩から作出されたものと考えられる。

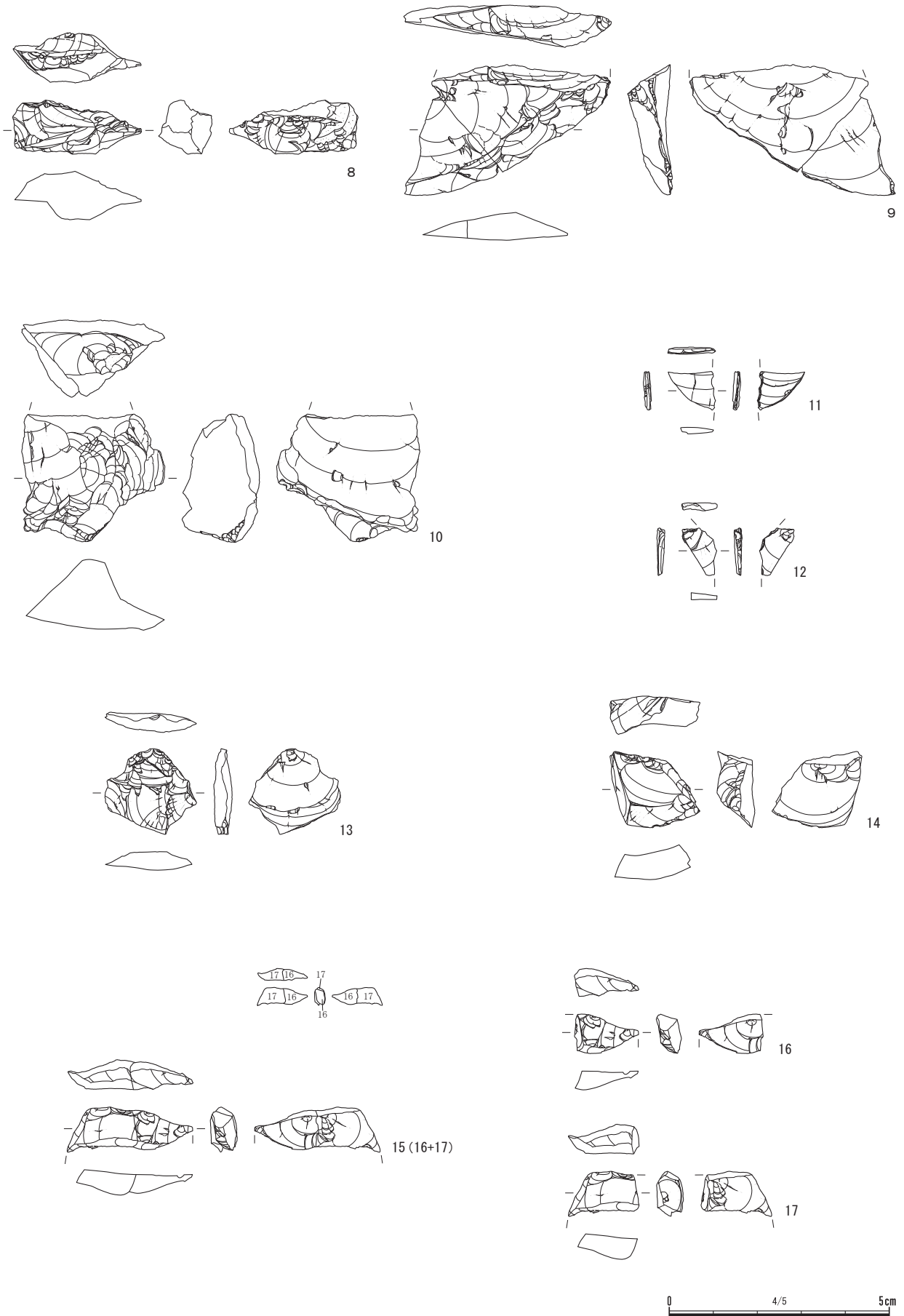


第 27 図 21 号石器集中地点 石質別分布図 (1 / 60)





第28図 21号石器集中地点出土遺物1 (4/5)



第29図 21号石器集中地点出土遺物2（4／5）



第30図 21号石器集中地点出土遺物3 (4/5)



第31図 21号石器集中地点出土遺物4 (4/5)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第28図1 図版35-1	21U-56	ナイフ形石器	チャート	1.58	1.03	0.41	0.64	先端部欠損／幅寸詰まりの剥片を素材とし、横位に用いられる／素材打面は左側縁側／基部の二次加工は左側縁末端にのみ施され、右側縁は未加工
第28図2 図版35-2	21U-45	石錐	チャート	2.14	0.76	0.46	0.73	完形／幅寸詰まりの剥片を素材とし、横位に用いられる／素材打面は左側縁側／素材主要剥離面を打面として両側縁に二次加工／素材主要剥離面と二次加工の剥離角は両側縁とも90°近く、横断面形は四角形あるいはそれに近い台形となる
第28図3 図版35-3	21U-79	石錐 または 彫器	チャート	2.11	1.58	0.46	1.21	完形／幅寸詰まりの剥片を素材とし、横位に用いられる／素材打面は左側縁側／素材背面を打面として左側縁から末端の一部に二次加工／加工部位の平面形が尖頭状となるため石錐と分類したが、右側面上端の平坦面を打面として、2・3条の彫刀面状の剥離が施されていることから、彫器として用いられた可能性もある
第28図4 図版35-4	21U-48	削器	チャート	1.23	1.71	0.80	1.43	完形／素材は両面ボジ面の幅広の剥片／素材主要剥離面は正面側／上端部と正面側の左右側縁に急角度の部分的な二次加工
第28図5 図版35-5	21U-62	二次加工の ある剥片	チャート	0.86	1.30	0.77	0.66	完形／上面の折れ面あるいは切断面に二次加工／背面中央部の稜上と主要剥離面側の末端に微細剥離
第28図6 図版35-6	21U-77	二次加工の ある剥片	チャート	4.00	2.92	1.30	6.27	完形／背面側の上部右側縁に打面からの部分的な二次加工／打面部上部の左側縁に背面を打面とした部分的な二次加工
第28図7 図版35-7	21U-113	二次加工の ある剥片	チャート	9.13	7.36	2.51	106.60	完形／打面は単剥離面／背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向のみで構成され、原礫面を有する／主要剥離面側の右側縁に部分的な二次加工
第29図8 図版36-8	21U-98	二次加工の ある剥片	チャート	2.28	3.35	0.87	2.99	完形／節理が顕著／打面と背面を区分する稜上に、打面側から打撃を加えた連続的な二次加工
第29図9 図版36-9	21U-111 21U-112	二次加工の ある剥片	チャート	2.97	4.67	1.01	8.28	打面側欠損／剥片1点の折れ／背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成／主要剥離面側の左側縁に部分的な二次加工
第29図10 図版36-10	21U-66	二次加工の ある剥片	チャート	2.90	3.25	1.76	13.89	打面側欠損／背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成／背面側の右側縁末端に部分的な二次加工
第29図11 図版36-11	21U-104	二次加工の ある剥片	チャート	0.87	1.07	0.18	0.16	打面側欠損／主要剥離面側の右側縁に連続的な二次加工
第29図12 図版36-12	21U-109	二次加工の ある剥片	チャート	1.08	0.78	0.18	0.17	打面側欠損／主要剥離面側の右側縁に連続的な二次加工
第29図13 図版36-13	21U-15	剥片	チャート	1.94	2.08	0.41	1.57	完形／打面は単剥離面／背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向だけでなく多方向からの剥離で構成
第29図14 図版36-14	21U-49	剥片	チャート	1.73	2.04	0.85	2.66	完形／打面は単剥離面／背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成
第29図15 図版36-15	—	接合資料 16 + 17	チャート	1.02	2.85	0.61	1.71	剥片2点の接合資料／打面は単剥離面／背面構成は剥片剥離軸に順行・直交する剥離方向で構成／16・17分割面の打点位置は15の打点位置と一致することから15の剥離時に同時割れた可能性がある
第29図16 図版36-16	21U-1	剥片	チャート	0.89	1.45	0.57	0.65	左側末端部欠損
第29図17 図版36-17	21U-59	剥片	チャート	1.02	1.60	0.60	1.06	右側末端部欠損
第30図18 図版37-18	—	接合資料 19 + 20 + 21 + 22 + 23	チャート	3.14	4.27	2.67	21.69	石核1点、二次加工剥片1点、剥片3点の接合資料／「19→20→A→21→22→23」の順に剥離／A資料は未確認／19→20は図の正面側を打面にして剥離／A資料以降に打面転位／21→22は図の上面側を打面にして剥離／23(石核)は調査地点に遺棄
第30図19 図版37-19	21U-93	二次加工の ある剥片	チャート	2.37	1.05	0.51	0.95	完形／打面は二次加工によって残されていない／背面構成は主要剥離軸方向に順行・逆行する剥離方向で構成／背面側打面の両側縁に連続的な二次加工
第30図20 図版37-20	21U-26	剥片	チャート	1.63	1.66	0.38	1.11	打面側欠損／背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成
第30図21 図版37-21	21U-103	剥片	チャート	1.57	1.23	0.38	0.65	完形／打面は単剥離面／背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成／背面側打面の縁辺にある微細な二次加工は頭部調整と推測される
第30図22 図版37-22	21U-60	剥片	チャート	1.51	1.40	0.55	0.81	完形／打面は単剥離面／背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成
第30図23 図版37-23	21U-100	石核	チャート	2.24	4.27	2.67	21.69	打面転位しながら多方向から剥離が行われる／正面側作業面の打面部縁辺にある微細な二次加工は頭部調整と推測される
第30図24 図版37-24	—	接合資料 25 + 26	チャート	3.37	1.43	0.83	2.05	剥片2点の接合資料／打面は単剥離面／背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成／背面側の右側縁末端部に部分的な二次加工と連続した微細剥離／節理が顕著な石材のため、25・26は同時割れの可能性あり
第30図25 図版37-25	21U-27	剥片	チャート	1.98	0.88	0.68	0.85	打面側欠損／背面側の右側縁末端部に部分的な二次加工と連続した微細剥離

第5表 21号石器集中地点出土石器一覧(1)



挿図番号 図版番号	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第30図 26 図版 37-26	21U-65	剥片	チャート	1.66	1.34	0.69	1.20	末端側欠損
第31図 27 図版 38-27	—	接合資料 28 + 29	チャート	2.51	1.57	1.29	2.86	剥片 2 点の接合資料 / 「28 → 29」の順に同一の単剥離面を打面にして剥離 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行・逆行・直交する剥離面で構成 / 原礫面を多く残す
第31図 28 図版 38-28	21U-36	剥片	チャート	1.53	0.81	0.48	0.46	完形 / 打面は単剥離面 / 背面構成は原礫面と主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成
第31図 29 図版 38-29	21U-57	剥片	チャート	2.13	1.28	0.91	2.40	完形 / 打面は単剥離面、背面構成は原礫面と主要剥離軸方向に順行・逆行・直交する剥離方向で構成
第31図 30 図版 38-30	—	接合資料 31+32+33+34	チャート	2.17	2.38	1.24	3.10	剥片 4 点の接合資料 / 「31 → 32 → 33 → 34」の順に同一の単剥離面を打面にして剥離 / 石核は未確認 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行・逆行・直交する剥離面で構成
第31図 31 図版 38-31	21U-46	剥片	チャート	1.34	1.59	0.46	0.90	完形 / 打面は単剥離面 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成 / 主要剥離面側の右側縁に単発の二次加工と微細剥離 / 背面側の末端部に非連続の微細剥離
第31図 32 図版 38-32	21U-52	剥片	チャート	2.04	1.89	0.68	2.07	完形 / 打面は単剥離面 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行・逆行・直交する剥離方向で構成 / 背面側の左側縁に部分的な連続・非連続の微細剥離
第31図 33 図版 38-33	21U-86	剥片	チャート	1.28	0.89	0.22	0.13	打面側欠損 / 打面は単剥離面 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成
第31図 34 図版 38-34	21U-44	剥片	チャート	1.11	0.92	0.18	0.11	末端部欠損 / 打面は単剥離面 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成
第31図 35 図版 38-35	—	接合資料 36 + 37	チャート	5.24	3.50	0.71	10.99	縦長剥片 2 点の接合資料 / 打面は調整打面 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離方向で構成
第31図 36 図版 38-36	21U-55	縦長剥片	チャート	3.24	2.79	0.65	4.26	末端側欠損
第31図 37 図版 38-37	21U-78	縦長剥片	チャート	3.35	2.28	0.87	6.73	打面側欠損

第5表 21号石器集中地点出土石器一覧(2)

遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
21U-2	剥片	チャート	2.20	0.84	0.27	0.45	21U-18	碎片	チャート	0.49	0.42	0.15	0.03
21U-3	剥片	チャート	0.85	1.32	0.11	0.13	21U-19	碎片	チャート	0.55	0.47	0.09	0.03
21U-4	剥片	チャート	2.19	1.01	0.61	1.01	21U-20	碎片	チャート	0.39	0.45	0.16	0.04
21U-5	剥片	チャート	0.61	0.79	0.24	0.09	21U-21	剥片	チャート	1.09	0.81	0.33	0.28
21U-6	剥片	チャート	1.04	0.55	0.10	0.07	21U-22	剥片	チャート	0.96	1.00	0.14	0.12
21U-7	碎片	チャート	0.57	0.60	0.05	0.02	21U-23	剥片	チャート	1.19	0.30	0.26	0.14
21U-8	碎片	チャート	0.66	0.39	0.09	0.02	21U-24	剥片	チャート	0.84	0.63	0.14	0.08
21U-9	剥片	チャート	0.96	0.69	0.13	0.08	21U-25	剥片	チャート	1.65	0.70	0.38	0.28
21U-10	碎片	チャート	0.77	0.37	0.12	0.03	21U-28	剥片	チャート	1.06	0.47	0.24	0.10
21U-11	剥片	チャート	0.86	0.74	0.13	0.09	21U-29	剥片	チャート	1.88	0.82	0.25	0.27
21U-12	剥片	チャート	1.07	0.61	0.26	0.15	21U-30	剥片	チャート	1.48	0.65	0.23	0.26
21U-13	剥片	チャート	0.80	0.45	0.11	0.03	21U-31	剥片	チャート	1.62	0.93	0.44	0.56
21U-14	剥片	チャート	1.39	0.76	0.57	0.68	21U-32	剥片	チャート	1.53	1.21	0.40	0.90
21U-16	剥片	チャート	2.71	1.15	0.47	1.07	21U-33	剥片	チャート	1.73	0.91	0.75	0.88
21U-17	剥片	チャート	1.41	0.79	0.28	0.18	21U-34	剥片	チャート	1.33	1.38	0.63	0.55

第6表 21号石器集中地点出土石器一覧(非掲載1)

第3章 検出された遺構と遺物

遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
21U-35	横長剥片	チャート	1.48	0.79	0.31	0.30	21U-76	剥片	チャート	1.72	0.40	0.79	0.31
21U-37	剥片	チャート	0.79	0.56	0.13	0.06	21U-80	剥片	チャート	1.69	1.19	0.45	0.80
21U-38	剥片	チャート	1.28	0.68	0.32	0.21	21U-81	剥片	チャート	0.73	0.56	0.19	0.07
21U-39	剥片	チャート	1.08	0.81	0.31	0.16	21U-82	剥片	チャート	1.04	0.63	0.15	0.08
21U-40	剥片	チャート	0.79	0.68	0.47	0.17	21U-83	剥片	チャート	1.07	0.59	0.47	0.18
21U-41	剥片	チャート	0.85	0.50	0.24	0.07	21U-84	横長剥片	チャート	1.49	0.99	0.31	0.40
21U-42	剥片	チャート	1.61	0.49	0.21	0.28	21U-85	剥片	チャート	1.76	1.35	0.39	0.83
21U-43	剥片	チャート	1.07	0.41	0.31	0.14	21U-87	剥片	チャート	1.40	0.74	0.24	0.29
21U-47	剥片	チャート	0.83	0.42	0.25	0.09	21U-88	剥片	チャート	0.73	0.94	0.26	0.21
21U-50	剥片	チャート	2.16	1.25	0.47	0.99	21U-89	横長剥片	チャート	2.09	0.99	0.55	0.92
21U-51	剥片	チャート	1.95	2.14	0.62	2.12	21U-90	碎片	チャート	0.63	0.46	0.05	0.01
21U-53	剥片	チャート	2.56	1.43	0.44	1.33	21U-91	剥片	チャート	1.17	0.55	0.42	0.21
21U-54	剥片	チャート	2.79	1.88	1.29	5.42	21U-92	剥片	チャート	0.46	0.85	0.16	0.05
21U-58	横長剥片	チャート	2.52	1.30	0.73	2.12	21U-94	剥片	チャート	1.22	0.53	0.29	0.11
21U-61	剥片	チャート	1.05	0.87	0.33	0.26	21U-95	剥片	チャート	1.53	1.08	0.40	0.57
21U-63	剥片	チャート	1.50	0.73	0.36	0.25	21U-96	剥片	チャート	1.68	0.87	0.36	0.36
21U-64	剥片	チャート	2.94	2.46	1.12	5.97	21U-97	剥片	チャート	0.85	0.42	0.14	0.06
21U-67	剥片	チャート	1.73	0.92	0.26	0.36	21U-99	剥片	チャート	1.18	0.79	0.23	0.19
21U-68	剥片	チャート	2.17	1.19	0.37	0.73	21U-101	剥片	チャート	1.21	1.11	0.47	0.50
21U-69	剥片	チャート	1.58	1.24	0.42	0.60	21U-102	剥片	チャート	0.96	1.17	0.32	0.26
21U-70	剥片	チャート	0.98	0.73	0.25	0.11	21U-105	剥片	チャート	1.87	0.85	0.70	1.01
21U-71	剥片	チャート	2.07	1.29	0.94	2.45	21U-106	剥片	チャート	1.16	0.66	0.19	0.12
21U-72	剥片	チャート	0.93	0.80	0.34	0.25	21U-107	剥片	チャート	1.32	0.86	0.36	0.34
21U-73	剥片	チャート	1.19	1.53	0.39	0.79	21U-108	剥片	チャート	1.07	0.69	0.40	0.34
21U-74	剥片	チャート	1.41	0.93	0.64	0.86	21U-110	剥片	チャート	1.68	1.03	0.34	0.57
21U-75	剥片	チャート	2.13	1.63	0.49	1.14							

第6表 21号石器集中地点出土石器一覧（非掲載2）

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合関係ほか
21 U	114	礫岩	11.46	6.67	4.29	392.5	C	—	—	—	—	
21 U	115	砂岩	7.78	6.08	3.36	212.1	A	—	—	—	—	完形礫、一部風化

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）  
赤化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）—（なし）

第7表 21号石器集中地点出土礫一覧

## 22号石器集中地点

### 遺 構 (第32・33図)

[位 置] (D-4) グリッド。TP 15から検出。

[検出状況] 上面は中世以降の土坑(974・975 D)及び攪乱により削平され、これらの掘り込みは石器の出土層位にまで達している。

[平面分布] 東西方向1.38 m、南北方向1.03 mの範囲で石器の分布が確認された。適宜、拡張を行い、概ね本石器集中地点の全体を精査できたと考えられる。6号礫群の南側外縁に位置し、小規模且つやや散漫な分布状況を示す。

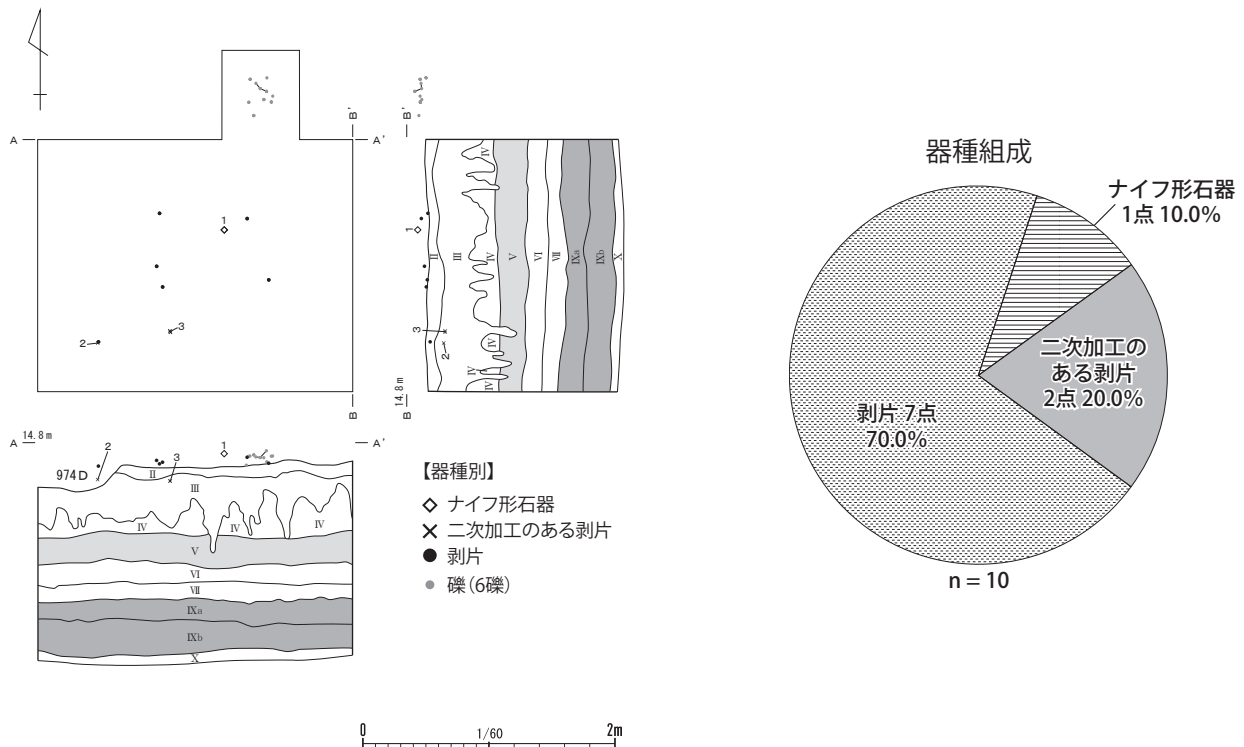
[出土層位] 石器は標高14.49～14.71 mから出土しており、その分布はⅡ層下部～立川ローム第Ⅲ層上部にまとまりをみせる。なお、Ⅱ層から出土した石器は後世の耕作等により浮上した可能性があり、石器の形態的特徴等を鑑みて、本来的には第Ⅲ層出土と捉えるのが妥当と考えられる。

[出土石器] 石器の総点数は10点で、ナイフ形石器1点、二次加工のある剥片2点、剥片7点が出土した。石質別では黒曜石5点、チャート3点、珪質頁岩1点、瑪瑙1点となる。

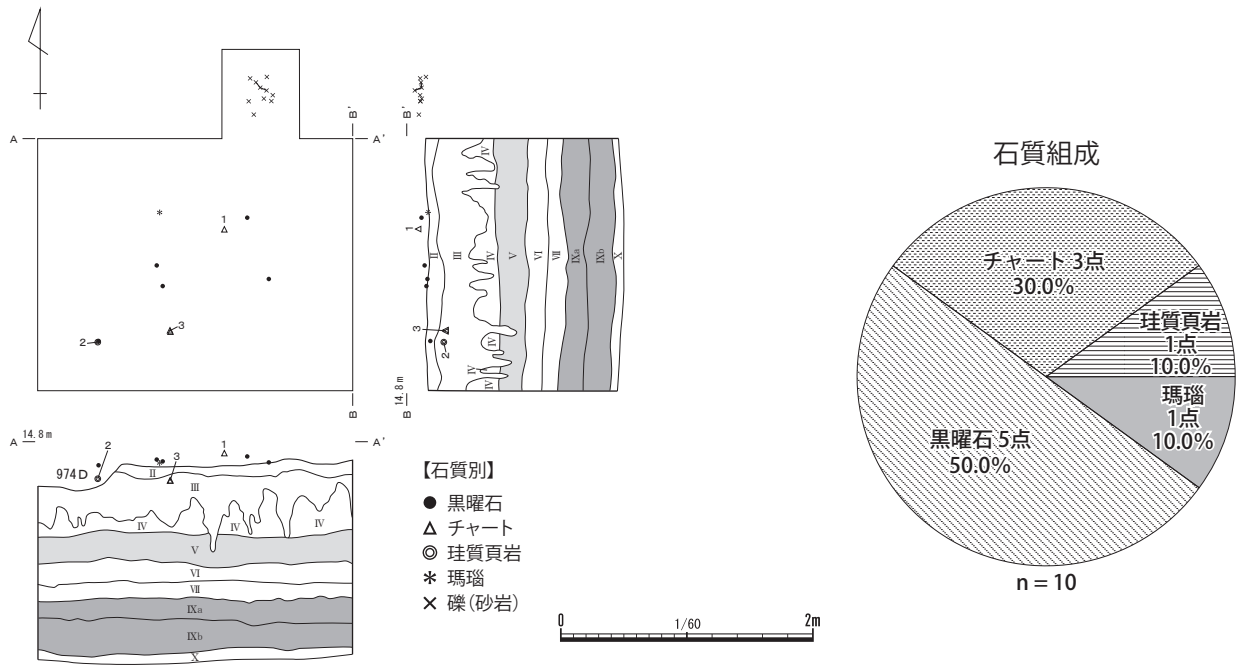
### 遺 物 (第34図、図版39-1、第8・9表)

[石 器] (第34図1～3、図版39-1-1～3、第8・9表)

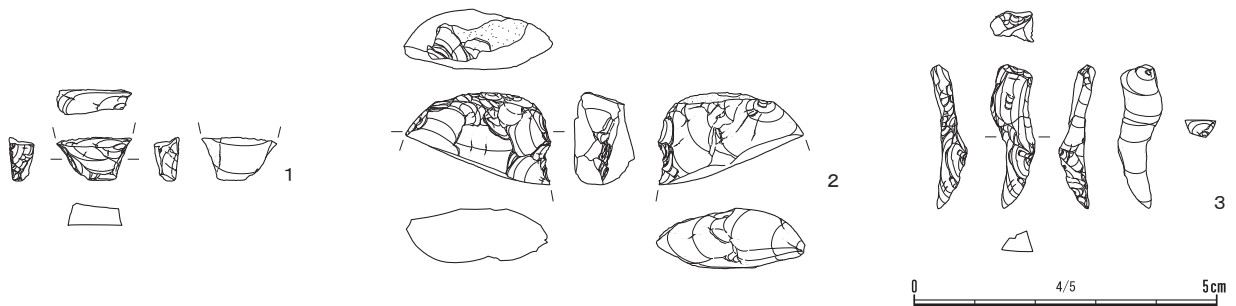
1はチャート製のナイフ形石器で、基部のみ残存している。2・3は二次加工のある剥片で、石質は2が珪質頁岩、3がチャートである。



第32図 22号石器集中地点 器種別分布図(1/60)



第33図 22号石器集中地点 石質別分布図 (1 / 60)



第34図 22号石器集中地点出土遺物 (4 / 5)

挿図番号 図版番号	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第34図1 図版 39-1-1	22U-3	ナイフ形石器	チャート	0.71	1.23	0.41	0.41	基部のみ残存/素材形状は不明/正面側の左側縁にプランティング
第34図2 図版 39-1-2	22U-10	二次加工の ある剥片	珪質頁岩	1.52	2.40	0.99	4.00	末端側欠損/素材剥片の打面(原礫面を残す調整打面)・主要剥離面を部分的に残す/両面右側縁部に二次加工
第34図3 図版 39-1-3	22U-7 22U-9	二次加工の ある剥片	チャート	2.37	0.73	0.60	0.56	完形/剥片1点の折れ/背面側の上端部・左側縁部に部分的な二次加工/背面側の右側縁に非連続的な微細剥離

第8表 22号石器集中地点出土石器一覧

遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
22U-1	剥片	黒曜石 (不明)	0.83	0.67	0.10	0.06	22U-6	剥片	黒曜石 (神津島産)	0.99	1.04	0.17	0.14
22U-2	剥片	黒曜石 (信州霧ヶ峰産)	0.94	0.50	0.17	0.06	22U-8	剥片	黒曜石 (神津島産)	0.86	0.42	0.35	0.12
22U-4	剥片	瑪瑙	1.81	1.06	0.40	0.54	22U-11	剥片	黒曜石 (天城柏峠産)	1.39	0.64	0.30	0.23

第9表 22号石器集中地点出土石器一覧 (非掲載)

### (3) 礫群

#### 5号礫群

**遺 構** (第35～42図、第10表)

**[位 置]** (B・C-2・3) グリッド。TP1から検出。

**[検出状況]** 上面は中世以降のピット(1・3・5・7・9・10・12P)の他、現代の工事に伴う攪乱により削平されていたが、これらの掘り込みは深いものでも立川ローム第Ⅲ層下部～第Ⅳ層上部に達する程度であり、本遺構への影響は軽微なものと推測される。

**[平面分布]** 東西方向8.06m、南北方向8.58mの範囲で礫の分布が確認された。分布の中心は(B-2・3)グリッドの境界部にあり、大量の礫が重層的に出土した。20号石器集中地点と東西方向の平面分布がほぼ重なるが、本遺構は更に南・北方向に広がりを見せる。外縁部に向かうにつれ礫の分布は散漫になっていくが、中心部の礫と外縁部の礫が接合することから、人為的及び自然的な要因によって多くの礫が中心部に近い本来の分布域から外縁部へ移動・飛散したことが推測される。

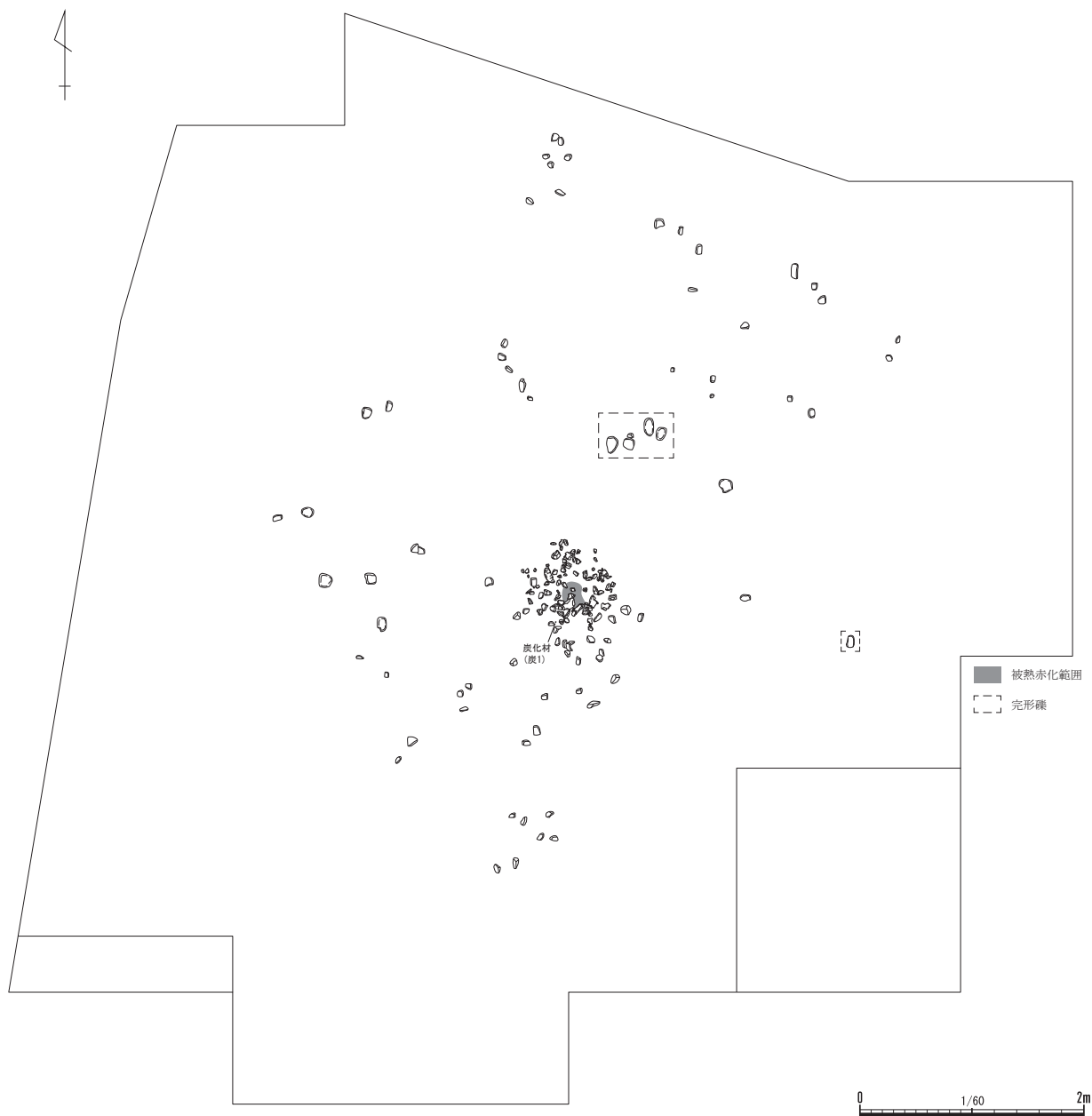
**[出土層位]** 礫は標高13.15～14.12mから出土している。比高差が約1.0mと大きく、その分布は立川ローム第Ⅲ層上部から第Ⅵ層上部にかけて広がるが、立川ローム第Ⅳ層上～中部に集中する傾向が認められ、20号石器集中地点と垂直分布がほぼ重なる。

**[礫 構 成]** 出土礫の総点数は898点である。完形礫は6点で、それ以外は破碎礫である。石質は砂岩516点(57.5%)、チャート290点(32.3%)、泥岩51点(5.7%)、礫岩37点(4.1%)、ホルンフェルス4点(0.4%)で、砂岩・チャートが全体の約9割を占める。368点(41.0%)の礫で、計127例の接合関係が認められ、接合後に再計測した個体数は砂岩377点、チャート236点、泥岩31点、礫岩14点、ホルンフェルス3点、総計661点に減じる。

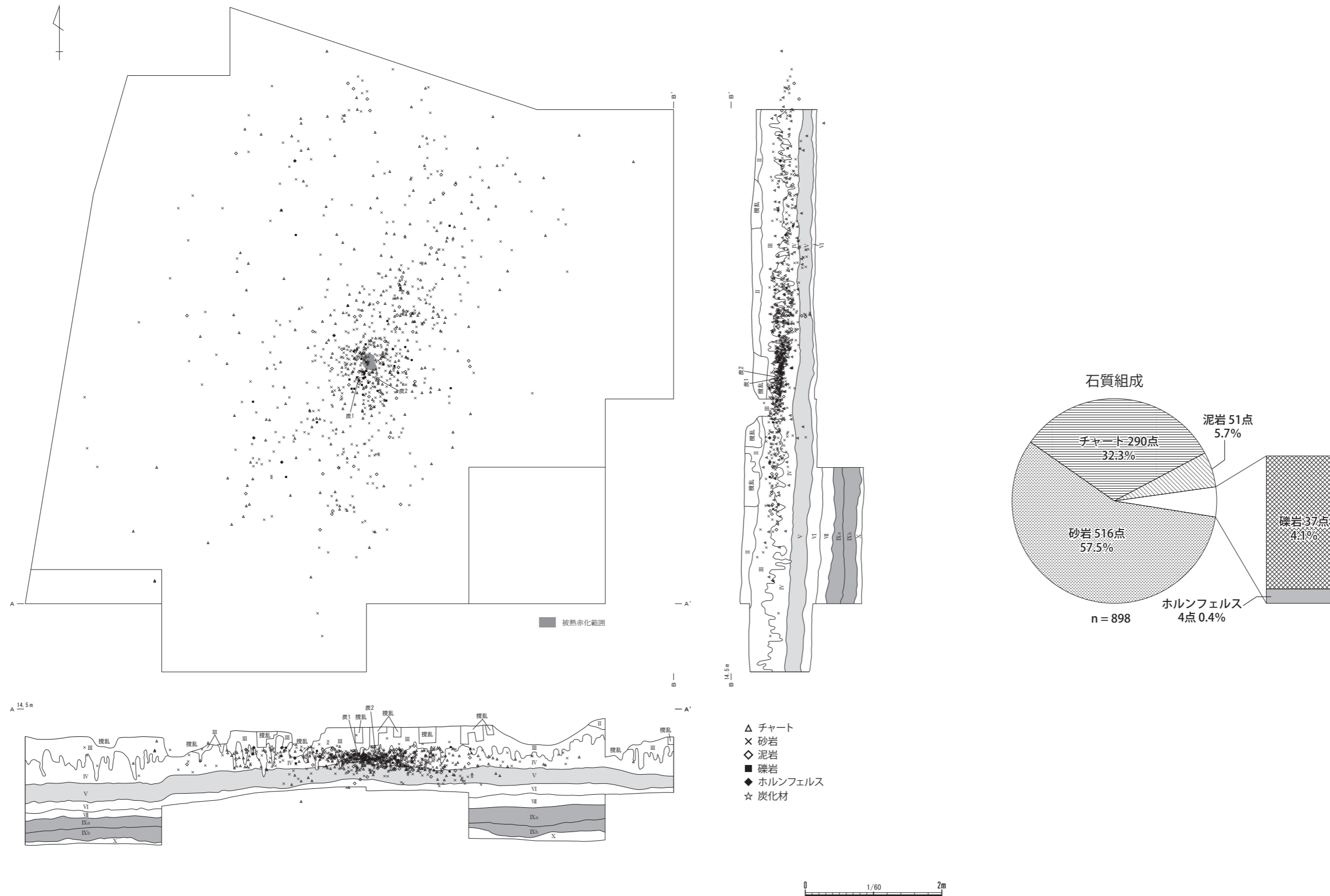
重量別の組成は50g未満が773点、50～100g未満が82点、100～250g未満が33点、250～500g未満が5点、500g以上が5点で、50g未満の軽量礫が全体の8割以上を占める。なお、500g以上の礫5点の内、4点は完形礫である。礫表面の状態は、表面が赤化するものが600点(66.8%)、表面に付着物が認められるものが199点(22.2%)、破断面が赤化するものが750点(83.5%)、破断面に付着物が認められるものが360点(40.1%)である。

**[所 見]** 礫が最も集中する中央部において、被熱によるローム層の赤化が確認された(第35図)。被熱範囲は長軸(北西-南東方向)0.28m、短軸(北東-南西方向)0.21mを測る。なお、被熱検出面の標高は13.76～13.77mを測り、周辺から出土した礫と同一レベルを示す。また、被熱部に近接してドット状の炭化材2点がほぼ同一レベル(5礫-炭1:標高13.79m、5礫-炭2:標高13.85m)から出土した。炭化材については加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。詳細については巻末の付編Iを参照いただきたいが、5礫-炭1の暦年代は、18759-18432cal BC(95.45%)という鑑定結果が得られた。これは炭化材が出土した立川ローム第Ⅳ層の推定年代と合致する。次いで5礫-炭2の暦年代は、1010-904cal BC(95.45%)という鑑定結果が得られた。5礫-炭1の暦年代との較差が大きく、被熱検出面よりもやや高いレベルから出土している点も鑑みて、5礫-炭2は後世の混入物である可能性が高いと考えられる。



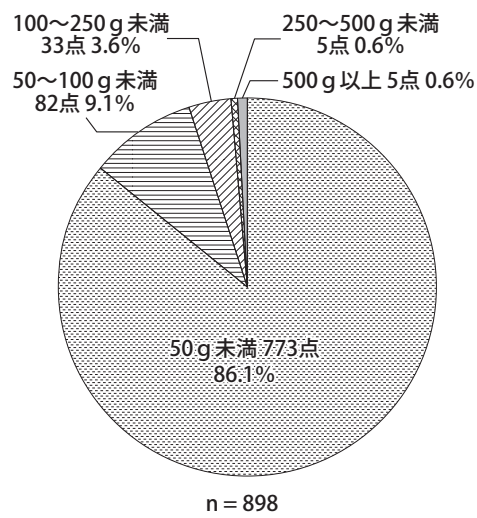
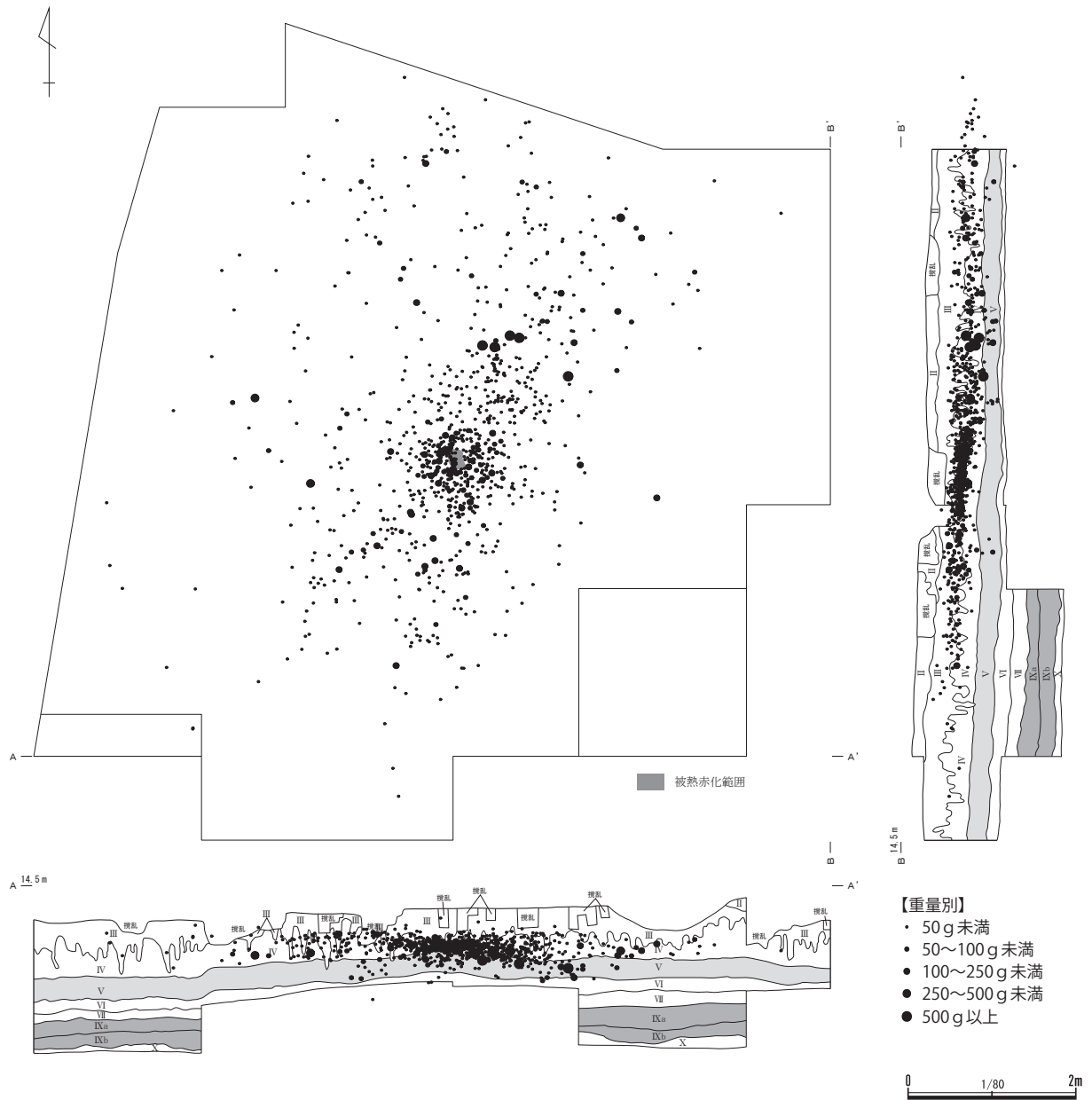


第35図 5号礫群 遺物出土状態 (1 / 60)

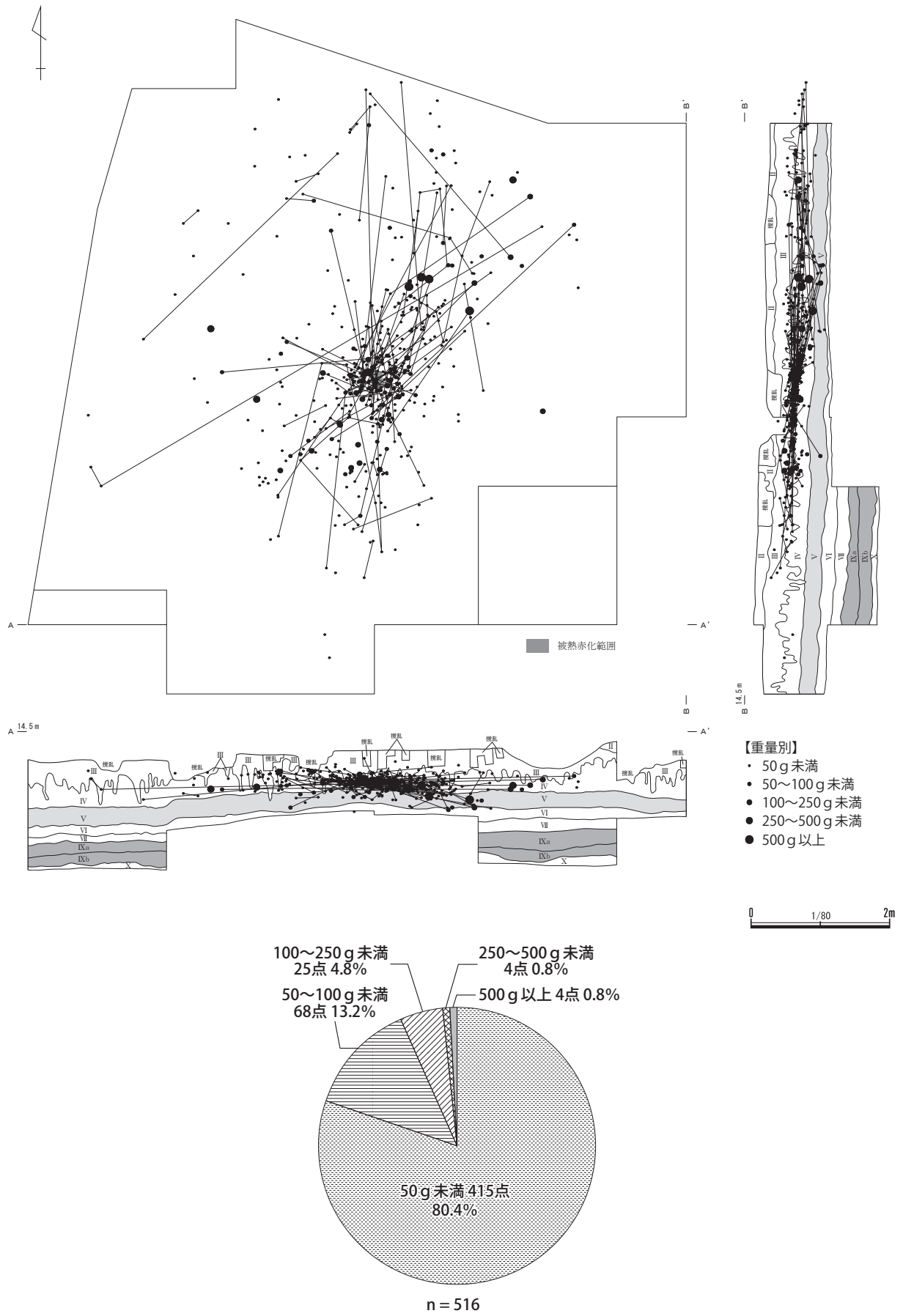


第36図 5号礫群 石質別分布図 (1/60)



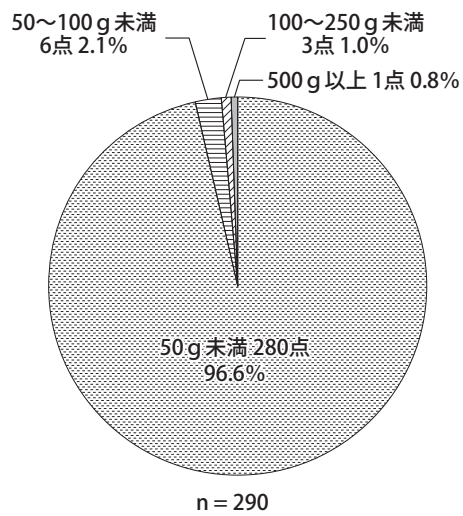
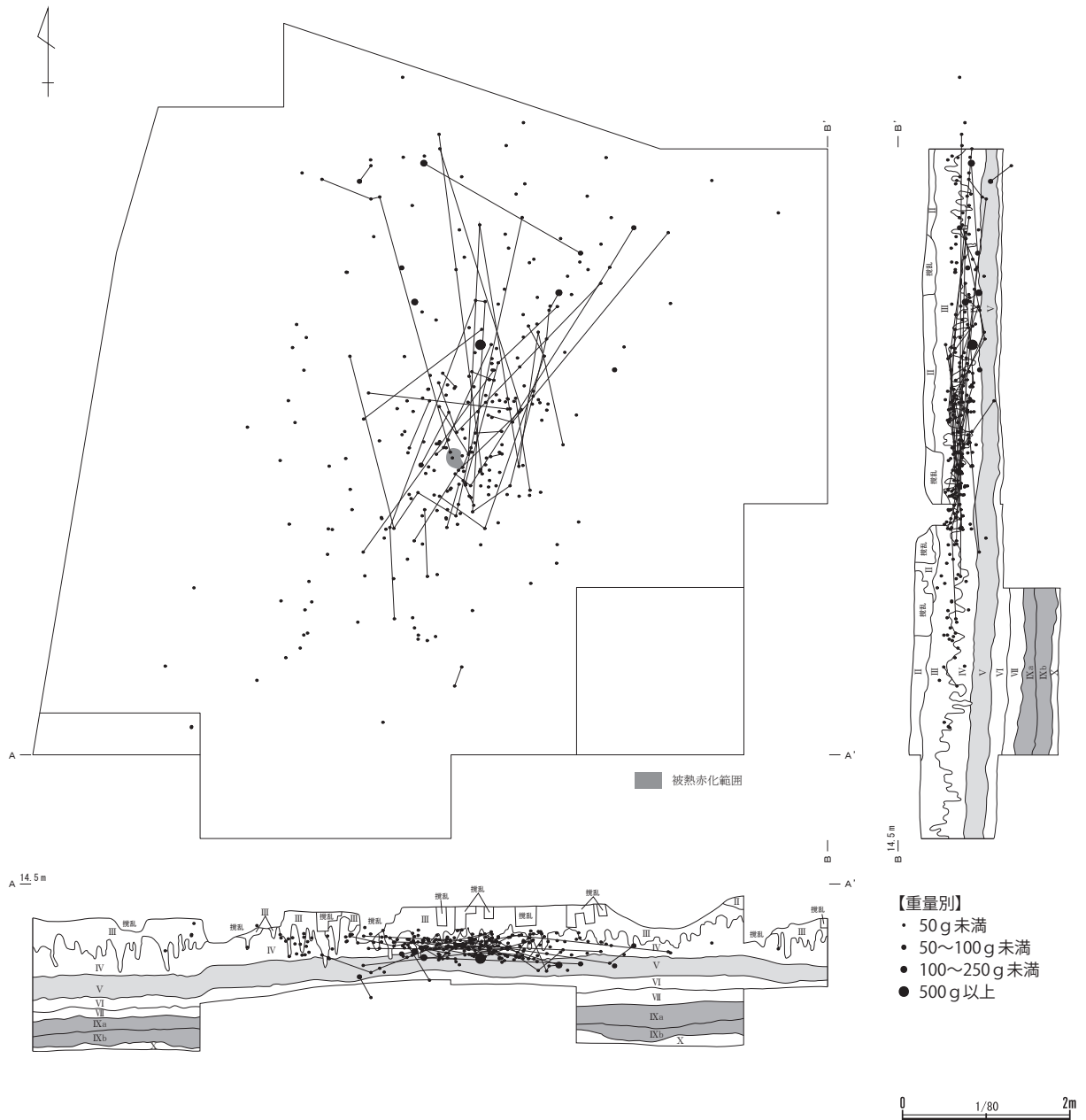


第37図 5号礫群 重量別分布図 (1/80)

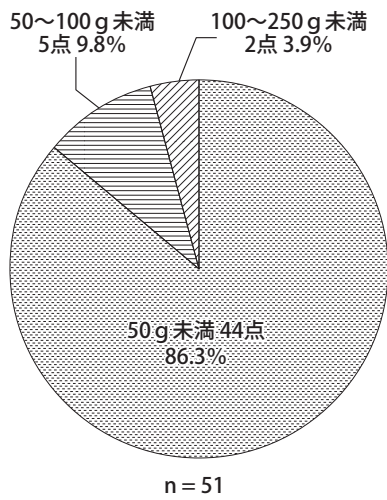
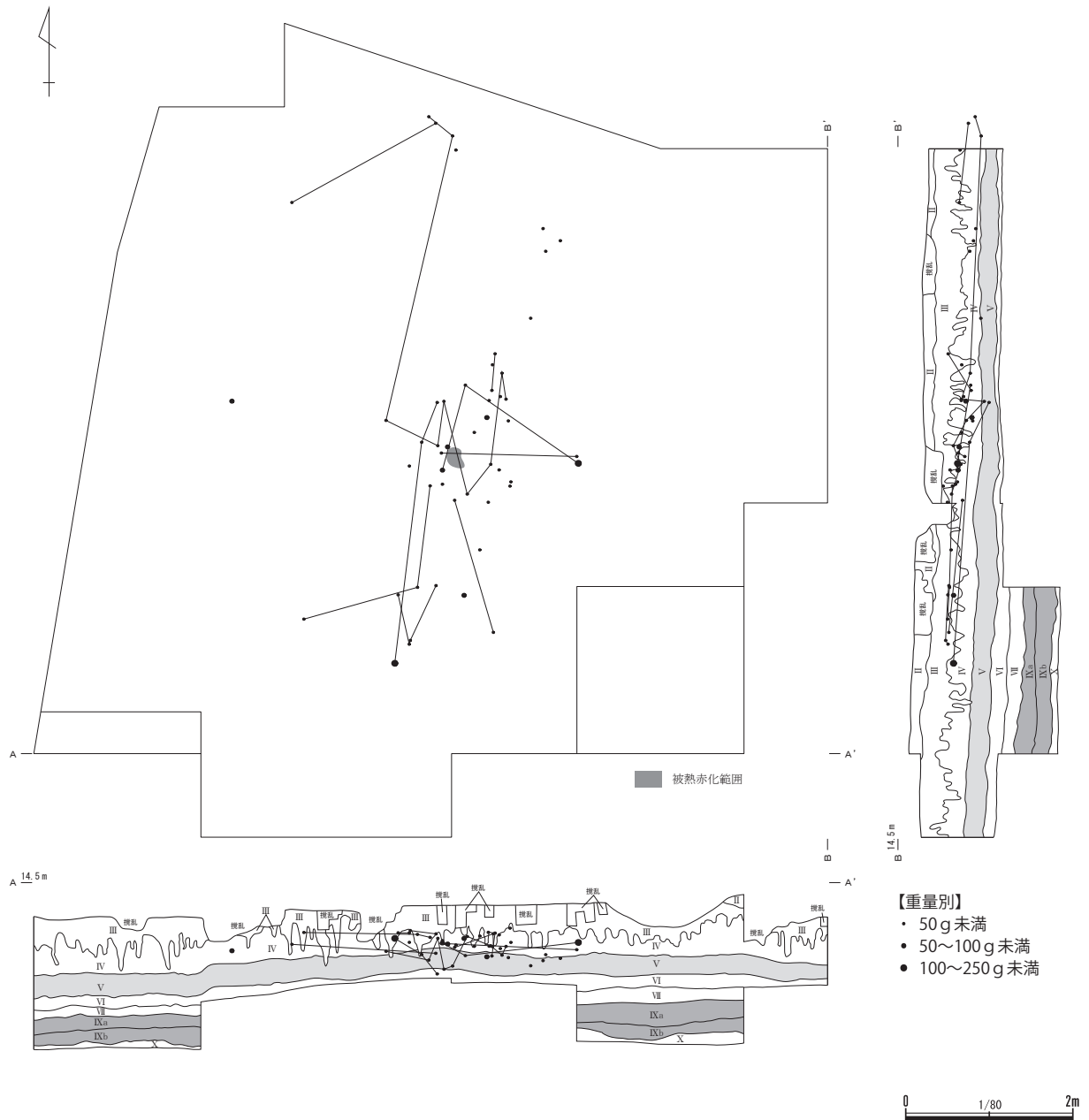


第 38 図 5号礫群 重量別分布図 (砂岩) (1 / 80)

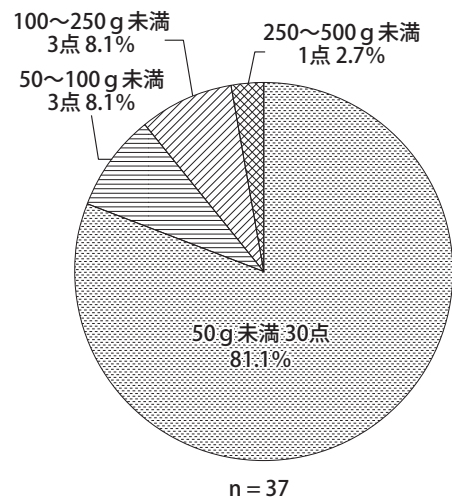
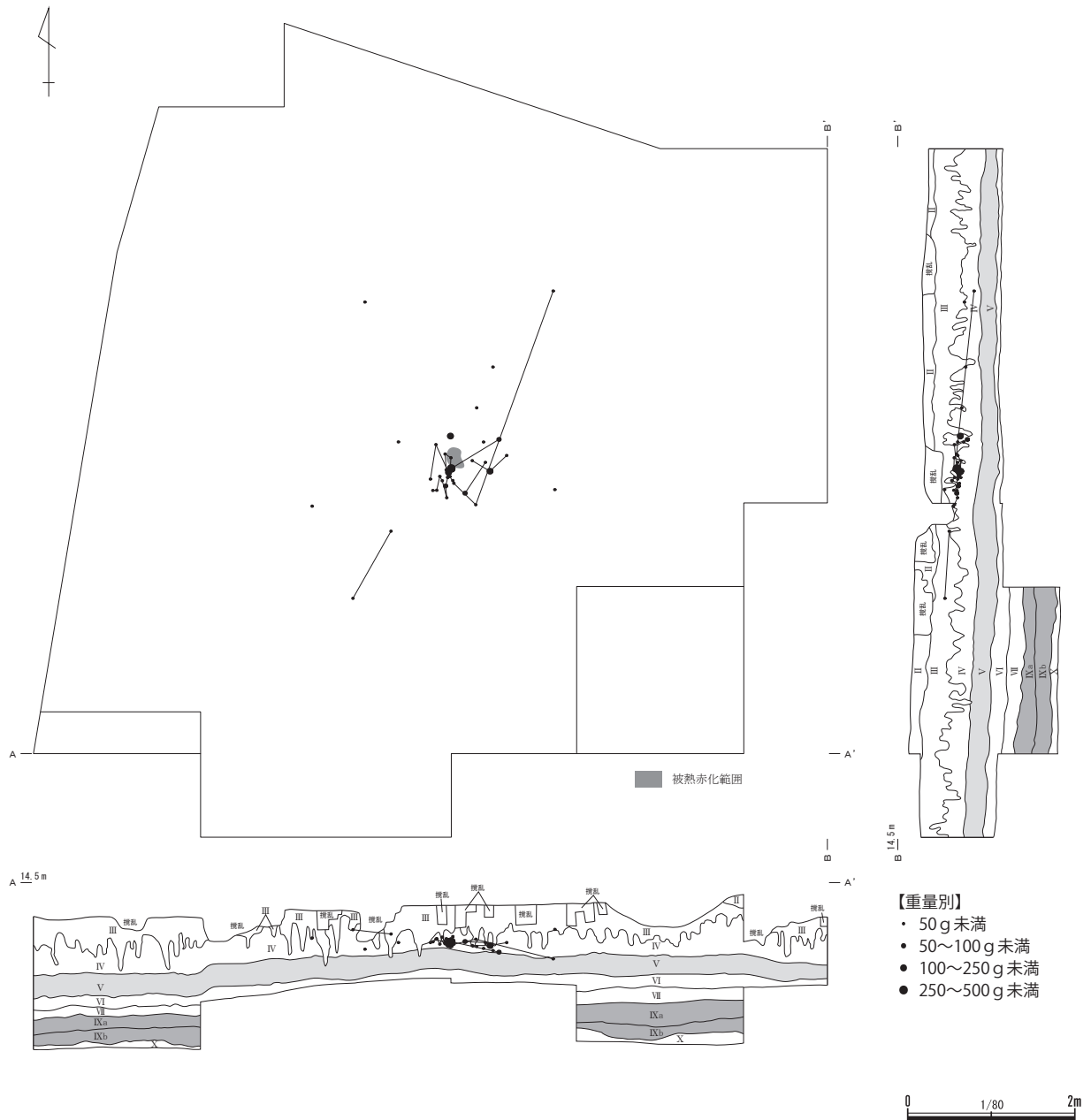




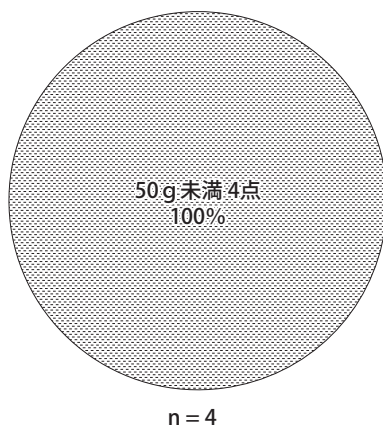
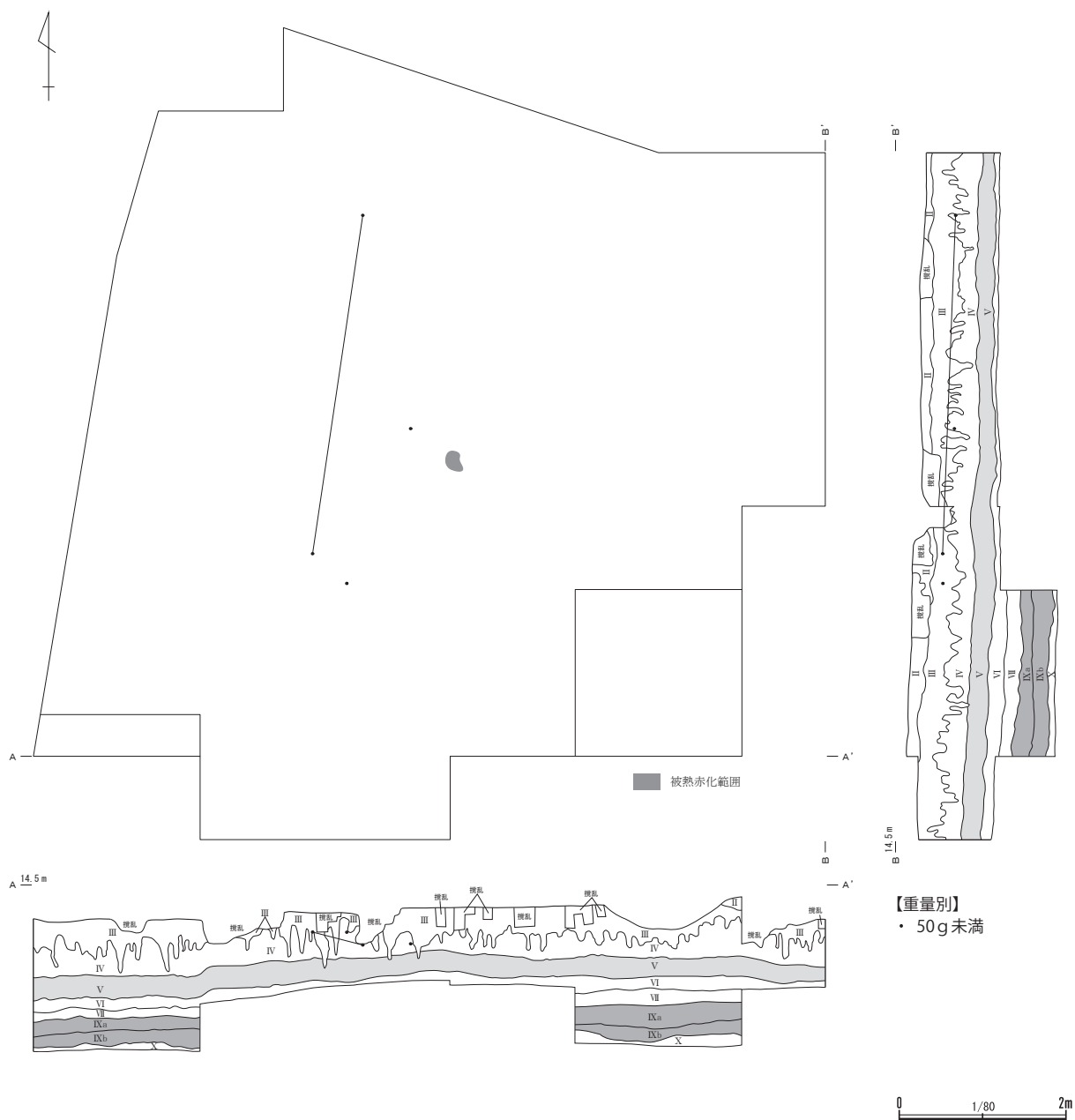
第39図 5号礫群 重量別分布図(チャート)(1/80)



第40図 5号礫群 重量別分布図(泥岩) (1/80)



第41図 5号礫群 重量別分布図（礫岩）（1/80）



第42図 5号礫群 重量別分布図(ホルンフェルス) (1/80)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	1	チャート	2.98	2.44	0.90	5.3	E	—	—	—	—	
5 礫	2	チャート	3.14	2.79	2.11	14.7	E	○	—	○	—	
5 礫	3	チャート	1.96	0.97	0.79	1.7	E	○	—	○	—	
5 礫	4	チャート	2.56	1.36	0.98	3.0	E	—	—	—	—	
5 礫	5	砂岩	1.99	0.85	0.75	2.3	E	—	—	—	—	
5 礫	6	チャート	3.13	1.17	0.86	3.3	E	—	—	—	—	
5 礫	7	チャート	3.24	3.24	1.35	16.3	E	△	—	○	—	
5 礫	8	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 19 図 29
5 礫	9	砂岩	3.74	3.22	2.66	23.5	E	△	—	○	○	㉑ 9+922
5 礫	10	チャート	1.96	0.85	1.23	3.2	E	—	—	○	—	
5 礫	11	砂岩	1.56	1.61	1.04	3.5	E	○	—	○	—	
5 礫	12	礫岩	1.96	1.28	0.91	2.2	E	○	—	—	—	
5 礫	13	チャート	1.54	1.18	0.88	0.9	E	—	—	△	—	
5 礫	14	チャート	3.50	1.84	1.56	6.8	E	○	—	○	—	① 14+517
5 礫	15	砂岩	2.00	1.00	1.05	1.5	E	—	—	—	—	
5 礫	16	チャート	2.36	1.41	1.14	2.5	E	—	—	○	—	
5 礫	17	砂岩	2.96	1.73	0.38	2.3	E	○	—	—	—	
5 礫	18	チャート	3.86	2.18	1.44	12.1	E	—	○	—	○	
5 礫	19	チャート	3.37	2.75	1.96	15.3	E	△	—	○	△	② 19+125+311+675
5 礫	20	砂岩	2.95	2.18	1.73	11.3	E	—	—	△	△	
5 礫	21	砂岩	1.94	1.88	0.83	2.6	E	○	—	○	○	
5 礫	22	チャート	3.20	2.53	0.69	6.4	E	—	—	○	—	
5 礫	23	泥岩	3.92	2.27	0.49	4.4	E	—	—	○	—	
5 礫	24	チャート	2.52	1.64	1.08	5.8	E	○	—	○	—	
5 礫	25	チャート	3.39	3.24	2.20	21.9	E	—	—	△	—	
5 礫	26	砂岩	2.91	1.71	1.67	12.0	E	○	—	○	○	② 26+140
5 礫	27	砂岩	3.42	3.14	0.85	5.8	E	○	—	○	—	
5 礫	28	泥岩	3.00	1.86	0.60	2.6	E	△	△	○	—	⑩ 28+862
5 礫	29	砂岩	3.71	2.66	2.53	23.1	E	—	△	—	—	
5 礫	30	チャート	3.84	3.05	1.92	25.5	E	△	△	○	△	③ 30+194
5 礫	31	砂岩	2.78	2.26	2.12	16.9	E	—	—	—	—	③ 31+191
5 礫	32	砂岩	2.99	2.77	1.01	7.0	E	—	—	—	○	
5 礫	33	砂岩	3.64	2.41	1.86	17.0	E	○	—	○	○	
5 礫	34	チャート	2.69	1.50	1.68	4.2	E	—	—	—	—	
5 礫	35	砂岩	3.73	2.05	1.87	12.2	E	○	○	○	△	
5 礫	36	砂岩	2.82	2.16	1.43	8.4	E	△	△	○	○	④ 36+79+647+735
5 礫	37	チャート	3.34	2.15	2.18	10.9	E	△	—	—	—	
5 礫	38	チャート	2.83	2.63	1.92	9.8	E	○	—	○	—	④ 38+152
5 礫	39	チャート	2.00	1.25	1.18	2.0	E	○	—	○	—	
5 礫	40	チャート	2.20	1.96	1.44	4.6	E	—	—	—	—	
5 礫	41	砂岩	2.12	1.80	1.67	4.2	E	○	○	△	—	
5 礫	42	砂岩	3.23	2.43	1.40	8.8	E	—	—	△	△	
5 礫	43	砂岩	1.71	1.70	0.71	2.1	E	○	○	○	○	
5 礫	44	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 25 図 47
5 礫	45	チャート	2.64	2.00	0.99	4.8	E	—	—	○	—	
5 礫	46	チャート	2.05	1.28	1.52	4.0	E	—	—	—	—	
5 礫	47	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 21 図 34
5 礫	48	砂岩	2.15	1.72	1.37	4.7	E	—	△	—	—	

完形度：A (完形) , B (9割以上) , C (5割以上) , D (5割以下) , E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表 (1)



第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	49	チャート	2.10	1.27	0.62	1.5	E	—	—	○	—	
5 礫	50	砂岩	3.22	2.05	2.07	10.5	E	△	—	△	—	
5 礫	51	砂岩	2.36	1.30	0.51	1.2	E	○	—	○	—	
5 礫	52	チャート	1.60	1.55	0.65	2.1	E	—	—	—	—	
5 礫	53	泥岩	2.50	1.52	1.09	3.7	E	—	—	—	—	㉞ 53+553
5 礫	54	砂岩	3.53	2.03	1.38	9.6	E	○	—	○	—	
5 礫	55	砂岩	1.87	0.93	0.41	0.8	E	—	—	○	—	
5 礫	56	チャート	2.13	1.05	0.73	1.3	E	○	—	○	—	
5 礫	57	砂岩	1.90	1.79	0.67	2.0	E	△	○	○	△	
5 礫	58	泥岩	4.60	3.40	2.70	50.1	D	—	—	△	—	
5 礫	59	泥岩	4.37	3.12	1.84	33.1	E	○	○	○	○	㉞ 59+60+166+172
5 礫	60	泥岩	3.64	3.34	1.60	20.5	E	○	○	○	○	㉞ 59+60+166+172
5 礫	61	チャート	2.13	1.82	1.89	5.7	E	○	—	○	—	
5 礫	62	砂岩	3.10	1.91	1.93	10.3	E	—	—	—	—	㉞ 62+919
5 礫	63	泥岩	2.00	0.98	0.92	1.6	E	—	—	—	—	
5 礫	64	チャート	1.56	1.48	1.03	1.6	E	—	—	—	—	
5 礫	65	砂岩	3.46	1.32	1.04	6.1	E	○	○	○	○	
5 礫	66	砂岩	3.21	1.40	1.28	6.9	E	—	—	—	—	
5 礫	67	砂岩	3.10	1.48	1.12	4.0	E	△	—	○	—	
5 礫	68	チャート	1.64	1.24	0.52	1.3	E	○	—	○	—	
5 礫	69	チャート	1.20	1.08	0.36	0.6	E	○	—	○	—	
5 礫	70	チャート	1.73	1.62	0.77	2.5	E	—	—	○	—	
5 礫	71	砂岩	1.65	1.37	1.04	2.1	E	○	○	○	○	㉞ 71+214+279+310+316
5 礫	72	チャート	2.49	1.32	1.27	3.5	E	—	—	—	—	
5 礫	73	砂岩	2.03	1.72	1.23	4.2	E	○	—	○	○	
5 礫	74	チャート	2.98	2.37	0.70	4.1	E	—	—	—	—	
5 礫	75	チャート	2.24	1.69	1.24	5.6	E	—	—	—	—	⑤ 75+512+636
5 礫	76	チャート	3.19	1.74	1.62	12.5	E	○	—	○	—	
5 礫	77	砂岩	3.84	3.71	2.58	23.2	E	○	—	○	—	㉞ 77+153+154
5 礫	78	チャート	3.42	2.69	1.99	18.9	E	△	○	○	○	⑥ 78+370+500
5 礫	79	砂岩	5.38	3.50	2.83	47.2	D	△	○	○	○	㉞ 36+79+647+735
5 礫	80	砂岩	5.26	3.25	2.90	44.4	D	—	—	○	—	
5 礫	81	チャート	2.48	1.36	1.46	5.3	E	○	—	△	—	
5 礫	82	礫岩	2.92	2.15	1.98	14.2	E	○	○	○	—	㉞ 82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5 礫	83	チャート	2.55	1.82	1.63	7.0	E	○	—	○	—	
5 礫	84	砂岩	2.91	2.02	0.61	3.1	E	△	—	○	—	
5 礫	85	チャート	2.14	1.30	0.84	2.5	E	—	—	○	—	
5 礫	86	チャート	1.42	1.19	0.81	1.3	E	○	—	○	—	
5 礫	87	チャート	2.22	1.53	1.88	4.3	E	—	—	—	—	
5 礫	88	チャート	3.20	2.25	1.38	10.8	E	—	—	○	○	⑦ 88+184+288+372+770 +907
5 礫	89	砂岩	3.56	2.42	0.63	4.7	E	—	—	—	—	㉞ 89+719
5 礫	90	砂岩	2.37	1.92	1.15	5.4	E	△	—	△	—	
5 礫	91	ホルンフェルス	4.06	3.26	1.66	21.3	E	—	—	—	—	㉞ 91+156
5 礫	92	チャート	2.23	1.46	0.51	1.7	E	○	—	○	—	
5 礫	93	砂岩	2.92	2.04	1.81	8.5	E	—	—	—	△	
5 礫	94	礫岩	2.90	2.43	1.50	8.5	E	○	—	○	—	
5 礫	95	砂岩	2.03	1.50	0.76	2.2	E	○	—	○	△	

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）  
赤化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）—（なし）

第10表 5号礫群出土礫属性表（2）

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	96	砂岩	2.65	1.60	1.04	3.0	E	○	—	○	—	
5 礫	97	チャート	2.11	1.25	0.61	1.7	E	—	—	—	—	
5 礫	98	チャート	2.13	1.22	1.12	3.0	E	—	—	—	—	
5 礫	99	チャート	2.58	1.59	1.78	4.9	E	○	—	○	—	
5 礫	100	チャート	2.63	2.15	1.09	5.4	E	○	—	○	—	
5 礫	101	チャート	1.90	1.66	0.89	2.6	E	—	—	—	—	
5 礫	102	チャート	1.86	1.92	0.85	4.2	E	—	—	—	—	
5 礫	103	チャート	2.59	1.85	1.50	6.8	E	○	—	○	—	
5 礫	104	チャート	2.25	1.28	0.93	2.7	E	—	—	○	—	
5 礫	105	チャート	2.10	1.85	1.35	6.2	E	○	△	○	—	⑧ 105+358+413+489+861
5 礫	106	砂岩	2.41	2.18	0.70	3.4	E	—	—	○	○	
5 礫	107	砂岩	2.53	1.56	1.30	4.3	E	○	—	○	—	⑨ 107+367+379+530+584 +722+755+804
5 礫	108	砂岩	2.50	2.39	1.10	4.1	E	—	—	△	○	
5 礫	109	チャート	2.92	1.49	1.27	5.9	E	—	—	△	—	⑨ 109+290
5 礫	110	砂岩	2.30	2.02	0.86	4.2	E	△	—	△	△	
5 礫	111	砂岩	1.72	1.57	0.60	1.6	E	○	—	○	—	
5 礫	112	チャート	2.14	1.55	1.76	3.9	E	—	—	△	—	
5 礫	113	砂岩	3.30	2.08	1.14	7.7	E	—	—	—	—	⑩ 113+874
5 礫	114	砂岩	3.30	1.98	2.10	15.9	E	—	—	○	—	⑪ 114+363+911
5 礫	115	チャート	3.54	2.76	1.83	20.4	E	○	—	○	—	
5 礫	116	砂岩	3.29	1.55	0.97	4.7	E	○	—	○	○	
5 礫	117	砂岩	3.30	2.56	2.29	14.2	E	○	△	△	—	
5 礫	118	チャート	3.27	2.41	1.40	12.2	E	△	—	○	—	
5 礫	119	チャート	1.93	1.64	1.61	4.9	E	—	—	—	○	
5 礫	120	砂岩	2.05	1.43	1.22	3.3	E	—	—	○	—	
5 礫	121	砂岩	3.28	2.48	2.53	9.3	E	△	△	○	△	
5 礫	122	砂岩	2.41	1.69	1.02	2.6	E	△	—	○	—	
5 礫	123	チャート	3.87	2.41	1.00	11.2	E	△	—	○	—	
5 礫	124	チャート	3.04	2.38	1.86	15.6	A	—	—	—	—	完形礫
5 礫	125	チャート	3.55	1.92	1.80	9.2	E	○	○	○	—	⑫ 19+125+311+675
5 礫	126	砂岩	2.67	1.97	1.12	4.1	E	○	—	○	—	
5 礫	127	砂岩	3.16	2.26	1.86	16.5	E	—	—	○	○	⑬ 127+681+788
5 礫	128	チャート	3.66	3.52	1.69	19.2	E	—	—	—	—	
5 礫	129	砂岩	2.03	1.58	0.94	2.1	E	○	—	○	△	
5 礫	130	砂岩	3.15	2.50	1.67	12.9	E	—	—	△	—	
5 礫	131	チャート	5.11	2.15	1.57	20.4	E	△	—	○	—	
5 礫	132	砂岩	4.58	3.39	2.13	25.8	E	○	—	○	—	⑭ 132+666+748+751
5 礫	133	チャート	2.82	2.39	1.36	5.4	E	—	—	△	—	
5 礫	134	砂岩	3.12	2.63	1.78	10.8	E	—	—	○	—	
5 礫	135	砂岩	3.69	2.90	1.25	12.2	E	○	△	○	○	
5 礫	136	チャート	2.58	1.69	1.64	6.9	E	○	—	△	—	
5 礫	137	砂岩	5.23	4.01	2.48	45.2	E	○	○	○	○	⑮ 137+571+813
5 礫	138	砂岩	3.69	3.36	1.00	15.8	E	○	○	○	○	
5 礫	139	チャート	2.43	1.90	1.12	4.5	E	—	—	○	○	
5 礫	140	砂岩	4.52	4.08	2.46	32.6	E	○	—	○	○	⑯ 26+140
5 礫	141	チャート	2.60	2.50	1.29	8.3	E	—	—	○	—	
5 礫	142	チャート	2.89	2.91	2.20	17.0	E	○	—	○	—	
5 礫	143	チャート	1.68	1.55	1.05	3.2	E	—	—	○	—	

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）  
赤化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）—（なし）

第10表 5号礫群出土礫属性表（3）

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合関係ほか
5 磔	144	砂岩	2.70	1.90	1.30	7.0	E	△	△	△	△	㊸ 144+193+244+263+359+452+680+705+728
5 磔	145	砂岩	5.05	2.27	1.62	14.0	E	—	—	○	○	
5 磔	146	チャート	2.52	2.25	1.65	6.7	E	—	—	○	—	
5 磔	147	チャート	1.38	1.20	0.78	1.5	E	○	—	○	—	
5 磔	148	チャート	4.61	3.03	2.42	34.8	E	○	—	○	—	
5 磔	149	泥岩	2.96	1.16	0.82	3.6	E	○	—	○	—	㊹ 149+169+326
5 磔	150	チャート	1.84	1.54	1.10	2.4	E	○	—	○	—	
5 磔	151	チャート	3.07	3.07	1.85	16.1	E	○	—	○	○	
5 磔	152	チャート	3.53	2.85	2.14	20.9	E	○	—	○	—	④ 38+152
5 磔	153	砂岩	3.62	3.16	2.28	14.8	E	○	—	○	—	㊺ 77+153+154
5 磔	154	砂岩	4.05	2.70	1.96	21.8	E	○	—	○	—	㊻ 77+153+154
5 磔	155	砂岩	4.15	3.57	3.61	36.5	E	○	—	—	—	
5 磔	156	ホルンフェルス	5.15	1.83	1.46	13.9	E	—	—	—	—	㊼ 91+156
5 磔	157	ホルンフェルス	3.82	1.48	0.59	4.0	E	—	—	—	—	
5 磔	158	砂岩	2.10	2.03	0.85	3.9	E	△	—	○	—	
5 磔	159	砂岩	3.93	2.96	2.44	19.4	E	—	—	△	—	
5 磔	160	砂岩	4.64	2.43	1.95	20.6	E	○	△	○	—	
5 磔	161	礫岩	2.88	2.10	1.30	6.2	E	○	○	○	○	㊽ 161+417
5 磔	162	砂岩	3.83	3.23	1.09	15.7	E	○	—	○	—	㊾ 162+200+717
5 磔	163	チャート	2.47	2.22	0.76	4.1	E	○	—	○	—	
5 磔	164	砂岩	1.88	1.58	1.40	3.2	E	○	—	○	—	
5 磔	165	チャート	1.61	1.24	0.83	2.2	E	—	—	—	—	
5 磔	166	泥岩	3.50	2.64	1.68	14.4	E	○	—	○	—	㊿ 59+60+166+172
5 磔	167	チャート	2.52	2.11	0.91	5.6	E	○	—	○	○	㊻ 167+276+283+340+341+376+465+589+632+908
5 磔	168	砂岩	4.55	3.58	3.23	40.6	E	○	○	○	○	㊽ 168+414+436+572+896
5 磔	169	泥岩	3.80	2.27	0.90	13.1	E	○	—	○	—	㊾ 149+169+326
5 磔	170	砂岩	2.92	2.68	1.62	10.7	E	—	—	○	○	㊿ 170+434
5 磔	171	砂岩	3.28	3.10	1.75	18.4	E	○	—	○	○	
5 磔	172	泥岩	2.87	2.48	0.80	5.5	E	○	—	○	○	㊿ 59+60+166+172
5 磔	173	砂岩	2.15	1.14	0.95	1.7	E	○	—	○	—	
5 磔	174	砂岩	2.36	2.18	0.55	2.2	E	—	—	—	—	
5 磔	175	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 21 図 35
5 磔	176	砂岩	3.05	2.02	1.58	8.7	E	—	—	△	△	
5 磔	177	チャート	1.49	1.25	0.82	2.0	E	—	—	—	—	
5 磔	178	砂岩	1.98	1.26	0.93	2.0	E	—	—	○	—	㊽ 178+654
5 磔	179	砂岩	1.88	1.54	0.92	3.2	E	○	—	○	△	
5 磔	180	チャート	2.84	1.48	1.84	7.6	E	—	—	△	—	
5 磔	181	砂岩	2.33	1.11	0.77	2.4	E	—	—	○	—	
5 磔	182	砂岩	1.76	1.40	1.20	2.8	E	○	○	△	—	
5 磔	183	チャート	2.60	2.00	1.53	5.2	E	○	—	—	—	
5 磔	184	チャート	2.49	2.03	1.02	5.6	E	○	—	○	○	㊽ 88+184+288+372+770+907
5 磔	185	砂岩	1.63	1.34	0.62	1.1	E	—	—	—	—	
5 磔	186	泥岩	2.80	2.36	2.16	13.1	E	—	—	△	—	㊾ 186+831
5 磔	187	砂岩	2.92	2.00	1.01	4.5	E	○	—	○	—	
5 磔	188	チャート	2.52	1.70	0.77	3.1	E	△	—	△	—	
5 磔	189	泥岩	4.53	2.33	1.40	22.2	E	○	○	○	○	
5 磔	190	砂岩	4.32	2.82	2.33	23.9	E	△	—	○	○	㊽ 190+285+390+391+431

完形度：A (完形) , B (9割以上) , C (5割以上) , D (5割以下) , E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第 10 表 5号磔群出土磔属性表 (4)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	191	砂岩	5.02	1.70	1.95	23.7	E	○	—	○	—	㉓ 31+191
5 礫	192	砂岩	2.24	1.71	0.81	3.0	E	○	—	○	○	
5 礫	193	砂岩	3.96	3.48	1.00	14.1	E	○	—	○	○	㉔ 144+193+244+263+359 +452+680+705+728
5 礫	194	チャート	3.74	3.42	2.50	23.4	E	△	○	○	△	㉕ 30+194
5 礫	195	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入)
5 礫	196	砂岩	7.68	4.77	3.62	105.8	D	○	△	○	—	
5 礫	197	チャート	2.21	2.10	1.46	7.2	E	○	—	○	—	
5 礫	198	砂岩	3.54	2.50	1.72	14.5	E	△	—	○	○	
5 礫	199	砂岩	2.33	2.15	1.58	6.1	E	○	—	○	○	
5 礫	200	砂岩	3.31	2.01	0.92	7.6	E	○	—	○	—	㉖ 162+200+717
5 礫	201	チャート	2.32	1.84	1.42	5.4	E	—	—	○	—	
5 礫	202	チャート	1.77	1.70	1.41	2.5	E	○	—	—	—	
5 礫	203	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 17 図 20
5 礫	204	チャート	2.24	1.60	1.63	6.8	E	△	—	—	—	㉗ 204+476
5 礫	205	礫岩	2.64	1.97	1.26	5.7	E	—	—	△	—	
5 礫	206	砂岩	2.37	1.93	1.25	3.8	E	—	—	—	○	㉘ 206+887
5 礫	207	チャート	1.56	1.23	0.63	0.8	E	—	—	○	—	
5 礫	208	砂岩	3.00	2.05	1.05	6.1	E	○	—	○	—	
5 礫	209	チャート	2.32	1.62	1.06	2.6	E	○	—	△	—	
5 礫	210	砂岩	3.09	2.10	1.63	7.8	E	○	△	○	—	
5 礫	211	砂岩	1.34	1.03	0.83	1.4	E	○	—	○	—	
5 礫	212	砂岩	4.08	3.35	1.22	15.6	E	—	—	—	○	
5 礫	213	チャート	2.16	2.06	1.85	7.9	E	—	—	○	—	㉙ 213+658+832
5 礫	214	砂岩	1.80	1.55	0.92	2.4	E	○	△	○	○	㉚ 71+214+279+310+316
5 礫	215	泥岩	2.32	2.38	1.46	6.4	E	—	—	○	○	㉛ 215+540
5 礫	216	チャート	1.96	1.20	1.03	2.5	E	○	—	○	—	
5 礫	217	チャート	3.40	2.91	2.18	20.1	E	○	—	△	—	
5 礫	218	チャート	3.07	2.49	1.60	14.3	E	○	—	△	—	
5 礫	219	チャート	3.60	1.92	1.72	11.5	E	△	—	○	—	㉜ 219+668+897+902
5 礫	220	チャート	2.03	1.22	1.18	3.3	E	○	—	—	—	
5 礫	221	チャート	1.68	1.65	1.40	3.6	E	—	—	—	—	
5 礫	222	砂岩	2.30	1.85	1.38	5.6	E	○	—	○	—	
5 礫	223	砂岩	2.32	1.80	1.42	4.4	E	—	○	○	○	
5 礫	224	チャート	2.45	1.84	1.12	4.0	E	—	—	—	○	
5 礫	225	チャート	1.85	1.99	1.23	3.6	E	○	—	—	—	
5 礫	226	砂岩	2.30	1.55	1.58	5.7	E	△	—	○	○	㉝ 226+419+672
5 礫	227	チャート	1.99	1.47	0.90	2.2	E	—	—	△	—	
5 礫	228	砂岩	2.38	1.68	1.08	4.0	E	—	—	△	—	
5 礫	229	砂岩	1.68	1.44	1.73	6.1	E	○	—	○	—	
5 礫	230	砂岩	2.96	1.85	1.30	5.6	E	△	△	○	△	
5 礫	231	砂岩	2.28	1.51	0.26	1.2	E	△	—	△	—	
5 礫	232	チャート	2.32	2.02	1.17	6.0	E	—	—	—	—	
5 礫	233	砂岩	4.22	2.38	1.50	12.6	E	△	—	○	○	㉞ 233+794
5 礫	234	チャート	2.70	2.62	1.42	9.5	E	—	—	△	—	
5 礫	235	泥岩	4.44	3.25	1.50	26.7	E	○	—	○	○	
5 礫	236	砂岩	4.22	2.39	2.02	18.0	E	—	—	△	—	
5 礫	237	チャート	4.12	2.40	1.36	18.4	E	—	—	○	—	
5 礫	238	砂岩	4.22	3.22	2.80	34.2	E	○	○	○	○	

完形度：A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第 10 表 5号礫群出土礫属性表 (5)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合関係ほか
5 礫	239	砂岩	4.45	3.51	2.48	40.2	E	○	—	○	—	
5 礫	240	砂岩	3.45	3.07	1.84	19.2	E	—	—	○	△	
5 礫	241	砂岩	3.24	3.43	2.05	16.2	E	○	—	○	△	
5 礫	242	チャート	4.06	3.02	1.79	22.0	E	—	—	△	—	
5 礫	243	砂岩	5.06	3.59	1.28	21.2	E	○	○	○	○	
5 礫	244	砂岩	2.85	2.45	1.90	10.3	E	○	—	—	—	㊦ 144+193+244+263+359 +452+680+705+728
5 礫	245	砂岩	2.57	2.38	1.82	8.5	E	—	—	—	△	
5 礫	246	泥岩	2.92	3.20	2.08	18.0	E	○	—	○	△	
5 礫	247	チャート	1.92	1.75	1.19	4.2	E	—	—	—	—	
5 礫	248	チャート	2.22	2.00	1.31	4.6	E	○	—	○	—	
5 礫	249	砂岩	2.12	1.93	1.32	5.6	E	○	○	○	△	
5 礫	250	チャート	1.83	1.09	0.84	1.7	E	—	—	△	—	
5 礫	251	砂岩	2.34	1.88	0.69	1.6	E	—	—	—	○	
5 礫	252	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 17 図 17
5 礫	253	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 24 図 44
5 礫	254	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 23 図 37
5 礫	255	砂岩	3.01	3.39	2.78	27.6	E	—	—	△	—	
5 礫	256	砂岩	4.47	3.82	2.05	33.5	E	—	—	△	△	
5 礫	257	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 24 図 45
5 礫	258	砂岩	3.11	3.09	2.24	18.0	E	△	—	○	—	
5 礫	259	チャート	2.92	2.90	2.01	19.8	E	○	—	○	—	㊧ 259+323+620+808
5 礫	260	チャート	2.72	1.50	1.78	7.0	E	○	—	○	○	
5 礫	261	砂岩	2.01	1.37	0.81	3.1	E	△	○	—	—	
5 礫	262	砂岩	3.78	2.80	0.97	12.2	E	—	—	—	○	
5 礫	263	砂岩	3.86	2.31	2.22	23.0	E	○	—	○	○	㊦ 144+193+244+263+359 +452+680+705+728
5 礫	264	砂岩	2.08	1.82	0.81	4.6	E	—	—	○	○	
5 礫	265	砂岩	2.60	2.07	1.03	5.9	E	△	—	○	△	
5 礫	266	砂岩	4.13	2.74	1.47	10.3	E	—	—	○	—	
5 礫	267	砂岩	4.32	4.84	2.72	32.3	E	—	—	—	—	㊨ 267+888
5 礫	268	泥岩	3.76	3.06	0.95	13.6	E	—	—	—	○	
5 礫	269	チャート	2.60	1.71	0.98	4.0	E	○	—	○	—	
5 礫	270	泥岩	2.88	1.80	0.50	2.4	E	○	—	○	○	
5 礫	271	砂岩	4.96	2.91	1.75	17.9	E	—	—	○	—	
5 礫	272	チャート	2.26	1.12	0.70	1.7	E	○	—	—	—	
5 礫	273	チャート	2.52	1.37	1.17	2.9	E	○	—	○	—	
5 礫	274	砂岩	2.85	3.40	2.32	19.0	E	—	—	○	○	
5 礫	275	チャート	1.77	1.52	1.25	3.8	E	—	—	○	—	
5 礫	276	チャート	2.70	1.64	1.17	3.1	E	○	○	○	○	㊩ 167+276+283+340+341 +376+465+589+632+908
5 礫	277	チャート	1.18	1.24	1.23	2.7	E	○	—	○	—	
5 礫	278	砂岩	2.07	1.78	0.83	2.0	E	○	—	○	○	㊪ 278+752+836
5 礫	279	砂岩	1.68	1.65	0.69	1.9	E	○	△	○	○	㊫ 71+214+279+310+316
5 礫	280	砂岩	2.33	1.45	1.05	2.6	E	—	—	○	△	
5 礫	281	砂岩	1.93	1.22	0.99	2.0	E	○	—	○	—	
5 礫	282	チャート	2.26	1.38	0.93	2.0	E	○	—	○	—	
5 礫	283	チャート	3.01	2.70	2.12	13.0	E	○	○	○	○	㊩ 167+276+283+340+341 +376+465+589+632+908
5 礫	284	チャート	3.58	2.06	1.90	8.8	E	—	—	—	—	

完形度：A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第 10 表 5号礫群出土礫属性表 (6)



遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	285	砂岩	4.76	3.39	2.36	39.7	E	△	—	△	○	㊸ 190+285+390+391+431
5 礫	286	チャート	2.93	2.28	1.20	7.8	E	—	—	△	—	
5 礫	287	ホルンフェルス	4.94	2.98	0.72	6.8	E	—	—	—	—	
5 礫	288	チャート	2.83	2.32	1.10	7.3	E	—	—	○	△	㊸ 88+184+288+372+770+907
5 礫	289	砂岩	2.80	2.43	1.20	9.6	E	△	—	○	—	
5 礫	290	チャート	3.82	3.01	2.06	23.4	E	—	—	△	—	㊸ 109+290
5 礫	291	砂岩	3.14	1.51	0.86	3.3	E	○	—	○	○	㊸ 291+587+716+720
5 礫	292	チャート	2.05	1.30	0.73	1.4	E	—	—	—	—	
5 礫	293	砂岩	2.55	1.15	0.72	2.3	E	—	—	△	—	
5 礫	294	砂岩	2.94	2.38	1.58	6.3	E	○	—	○	—	
5 礫	295	チャート	2.26	2.56	1.92	9.6	E	○	—	△	—	
5 礫	296	礫岩	3.75	3.20	2.33	27.6	E	○	—	○	—	
5 礫	297	砂岩	4.21	3.64	2.29	35.9	E	○	—	○	—	
5 礫	298	砂岩	4.28	2.65	1.96	19.6	E	—	—	○	○	
5 礫	299	砂岩	2.99	2.88	1.69	11.0	E	○	—	○	—	㊸ 299+458
5 礫	300	砂岩	2.88	2.64	1.85	13.0	E	△	—	○	△	
5 礫	301	チャート	2.44	1.31	0.55	1.5	E	—	—	—	—	
5 礫	302	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 23 図 41
5 礫	303	砂岩	4.25	2.35	2.22	14.5	E	△	—	○	○	
5 礫	304	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 19 図 28
5 礫	305	チャート	4.14	4.50	2.71	49.7	D	○	—	△	—	
5 礫	306	砂岩	2.34	2.28	0.63	3.6	E	○	—	○	—	
5 礫	307	泥岩	2.70	2.06	0.91	3.6	E	○	—	○	—	
5 礫	308	砂岩	2.94	2.48	1.63	11.7	E	△	—	△	—	
5 礫	309	チャート	2.80	1.90	1.62	7.8	E	—	—	—	—	
5 礫	310	砂岩	4.16	2.26	2.73	21.8	E	○	○	○	○	㊸ 71+214+279+310+316
5 礫	311	チャート	4.20	2.94	1.52	17.6	E	○	—	○	—	㊸ 19+125+311+675
5 礫	312	砂岩	2.93	2.20	0.44	2.4	E	△	—	—	—	
5 礫	313	チャート	3.66	2.24	1.50	10.0	E	△	—	△	—	
5 礫	314	砂岩	3.26	2.36	2.00	12.1	E	—	—	△	—	
5 礫	315	砂岩	4.23	2.58	1.87	19.1	E	○	△	○	○	
5 礫	316	砂岩	3.62	3.07	1.32	12.0	E	○	○	○	○	㊸ 71+214+279+310+316
5 礫	317	砂岩	2.68	1.06	1.23	5.2	E	△	—	○	—	
5 礫	318	チャート	3.25	2.56	1.45	11.4	E	—	—	—	—	
5 礫	319	チャート	3.01	2.09	1.80	7.5	E	—	—	○	—	
5 礫	320	砂岩	1.67	1.37	1.03	2.5	E	△	—	△	○	㊸ 320+778+868
5 礫	321	砂岩	3.04	2.33	1.75	13.2	E	—	—	○	○	
5 礫	322	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 21 図 32
5 礫	323	チャート	2.87	2.39	1.56	8.1	E	—	—	△	—	㊸ 259+323+620+808
5 礫	324	チャート	1.86	1.37	1.55	4.4	E	○	—	○	—	
5 礫	325	砂岩	3.60	2.38	1.38	17.9	E	—	—	—	—	
5 礫	326	泥岩	3.46	1.83	0.88	7.7	E	○	—	○	—	㊸ 149+169+326
5 礫	327	砂岩	3.03	2.69	1.76	10.5	E	○	—	○	△	
5 礫	328	泥岩	3.84	2.38	2.10	18.7	E	○	—	△	—	㊸ 328+451+455+473+546+697+884+885+913
5 礫	329	砂岩	2.50	1.36	1.63	4.8	E	○	—	○	—	㊸ 329+603+608
5 礫	330	砂岩	6.66	2.52	2.31	29.9	E	○	○	○	○	
5 礫	331	砂岩	3.91	3.55	1.56	16.6	E	○	—	○	—	

完形度：A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表 (7)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	332	砂岩	5.76	2.62	2.83	36.4	E	△	—	○	○	
5 礫	333	砂岩	5.64	3.14	2.65	37.2	D	—	—	○	○	
5 礫	334	砂岩	4.11	2.90	1.34	17.8	E	—	—	○	—	
5 礫	335	砂岩	2.80	2.35	1.50	8.9	E	○	—	○	—	
5 礫	336	砂岩	4.25	4.38	3.30	64.5	D	—	—	—	—	
5 礫	337	砂岩	4.48	3.32	2.03	22.9	E	○	—	○	—	
5 礫	338	砂岩	6.98	4.10	1.55	39.2	D	○	—	○	—	
5 礫	339	砂岩	4.15	2.37	1.54	11.6	E	—	—	○	—	
5 礫	340	チャート	4.50	2.18	2.00	18.9	E	○	—	○	○	⑩ 167+276+283+340+341 +376+465+589+632+908
5 礫	341	チャート	4.30	3.10	2.89	28.6	E	○	○	○	○	⑩ 167+276+283+340+341 +376+465+589+632+908
5 礫	342	砂岩	2.57	1.82	1.90	9.6	E	○	—	○	○	⑩ 342+360+396+905
5 礫	343	砂岩	4.27	3.73	2.56	34.0	E	○	△	○	△	⑪ 343+864
5 礫	344	砂岩	2.60	2.00	1.58	8.9	E	○	—	○	○	⑫ 344+401+450+790+791
5 礫	345	砂岩	4.17	2.95	2.80	30.4	E	—	—	—	—	⑬ 345+787
5 礫	346	砂岩	4.45	3.45	1.67	19.2	E	○	○	○	○	⑭ 346+378+700+714+775 +816
5 礫	347	砂岩	4.89	4.20	3.24	39.4	E	○	—	△	—	⑮ 347+858
5 礫	348	砂岩	6.12	4.25	2.84	56.2	D	○	○	○	○	
5 礫	349	砂岩	4.79	3.55	2.60	44.5	E	○	—	○	—	⑯ 349+917
5 礫	350	チャート	3.81	2.40	1.38	11.3	E	—	—	○	△	⑰ 350+352
5 礫	351	砂岩	4.14	3.51	1.10	17.9	E	○	—	○	○	⑱ 351+361
5 礫	352	チャート	4.55	3.22	2.10	41.4	D	—	—	○	○	⑲ 350+352
5 礫	353	チャート	4.35	3.55	2.13	33.4	E	○	—	○	—	
5 礫	354	砂岩	4.84	3.87	1.68	39.1	E	△	—	○	△	
5 礫	355	砂岩	5.90	3.34	2.91	52.5	D	○	△	○	○	⑳ 355+696
5 礫	356	チャート	4.22	3.15	0.83	11.1	E	○	—	○	—	
5 礫	357	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 19 図 27
5 礫	358	チャート	3.49	3.24	2.31	30.6	E	○	○	○	—	㉑ 105+358+413+489+861
5 礫	359	砂岩	3.22	2.50	1.93	16.3	E	○	—	○	—	㉒ 144+193+244+263+359 +452+680+705+728
5 礫	360	砂岩	4.28	2.47	2.53	29.3	E	○	—	○	○	⑩ 342+360+396+905
5 礫	361	砂岩	5.67	3.65	3.06	38.2	E	○	—	○	○	㉓ 351+361
5 礫	362	砂岩	5.30	3.54	3.14	30.2	E	○	—	○	—	
5 礫	363	砂岩	4.22	2.92	1.62	19.2	E	—	—	○	△	㉔ 114+363+911
5 礫	364	砂岩	4.24	3.60	3.18	55.6	D	○	△	○	—	㉕ 364+560
5 礫	365	チャート	2.50	1.88	1.32	6.3	E	○	—	○	—	
5 礫	366	砂岩	3.52	3.31	1.62	13.7	E	○	—	○	—	㉖ 366+652
5 礫	367	砂岩	2.65	2.46	1.68	8.3	E	○	—	○	—	㉗ 107+367+379+530+584 +722+755+804
5 礫	368	チャート	2.34	2.45	1.51	8.4	E	—	—	△	—	
5 礫	369	チャート	1.93	1.20	1.27	4.3	E	—	—	—	○	
5 礫	370	チャート	4.08	3.87	1.57	21.6	E	△	△	○	○	㉘ 78+370+500
5 礫	371	礫岩	3.53	3.28	3.35	35.4	E	○	△	○	○	㉙ 371+715+810
5 礫	372	チャート	3.54	2.38	1.78	16.9	E	—	—	○	—	㉚ 88+184+288+372+770 +907
5 礫	373	チャート	2.50	2.50	1.10	6.4	E	—	—	○	—	
5 礫	374	チャート	4.13	2.70	2.22	16.0	E	—	—	—	—	㉛ 374+692
5 礫	375	礫岩	4.50	4.22	2.01	29.6	E	○	○	○	○	㉜ 82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866

完形度：A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第 10 表 5号礫群出土礫属性表 (8)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	376	チャート	4.00	2.91	1.91	28.9	E	○	○	○	○	⑩ 167+276+283+340+341 +376+465+589+632+908
5 礫	377	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 23 図 39
5 礫	378	砂岩	3.98	3.66	1.55	19.6	E	○	○	○	○	⑥ 346+378+700+714+775 +816
5 礫	379	砂岩	2.63	2.24	1.46	7.3	E	○	—	○	—	⑨ 107+367+379+530+584 +722+755+804
5 礫	380	チャート	4.65	2.39	1.36	21.4	E	—	—	△	—	⑦ 380+569+745
5 礫	381	チャート	2.47	1.70	1.47	7.0	E	—	—	○	—	
5 礫	382	砂岩	2.95	2.24	2.02	13.4	E	—	—	○	—	
5 礫	383	砂岩	2.70	0.98	1.18	4.3	E	○	—	○	—	
5 礫	384	チャート	2.70	2.24	1.65	7.1	E	—	—	△	—	
5 礫	385	チャート	3.60	2.66	1.65	13.7	E	—	—	—	—	
5 礫	386	チャート	4.21	4.19	2.30	39.8	E	—	—	△	—	⑧ 386+536
5 礫	387	砂岩	3.36	1.94	0.61	3.4	E	—	—	○	○	
5 礫	388	砂岩	4.28	2.53	2.23	22.2	E	△	—	△	○	
5 礫	389	チャート	2.03	1.67	1.88	4.1	E	—	—	—	—	
5 礫	390	砂岩	4.65	4.48	2.68	43.6	E	△	—	○	○	⑥ 190+285+390+391+431
5 礫	391	砂岩	5.97	4.01	4.54	101.1	D	○	○	○	○	⑥ 190+285+390+391+431
5 礫	392	砂岩	4.16	3.43	1.73	33.9	E	—	—	○	△	
5 礫	393	チャート	3.10	2.15	1.45	15.7	E	—	—	—	—	
5 礫	394	チャート	2.36	2.40	1.92	14.6	E	—	—	—	—	
5 礫	395	チャート	3.21	2.30	2.51	22.7	E	○	—	△	—	
5 礫	396	砂岩	5.76	3.54	2.87	43.9	E	○	—	○	○	⑥ 342+360+396+905
5 礫	397	チャート	3.68	2.82	2.57	23.2	E	—	—	○	—	⑨ 397+650
5 礫	398	チャート	3.80	3.20	1.99	20.2	E	○	—	○	—	
5 礫	399	砂岩	3.93	2.31	1.60	21.7	E	○	△	○	△	
5 礫	400	チャート	2.19	1.88	1.00	4.4	E	—	—	—	—	
5 礫	401	砂岩	2.10	2.18	1.52	6.6	E	○	—	○	—	② 344+401+450+790+791
5 礫	402	チャート	2.52	1.64	1.08	4.6	E	○	—	○	—	
5 礫	403	チャート	2.22	1.68	1.56	8.0	E	—	—	—	—	
5 礫	404	泥岩	4.17	3.80	2.66	34.3	E	○	—	△	—	
5 礫	405	砂岩	2.77	2.19	1.68	11.5	E	○	—	○	—	
5 礫	406	砂岩	4.34	2.28	2.21	26.0	E	○	—	○	—	
5 礫	407	チャート	4.24	2.84	2.64	29.1	E	○	△	○	—	⑩ 407+912
5 礫	408	チャート	2.99	1.77	1.28	6.1	E	○	—	○	—	
5 礫	409	チャート	2.42	0.87	1.22	3.2	E	△	—	○	—	
5 礫	410	砂岩	4.00	2.44	2.89	27.6	E	—	—	△	—	⑦ 410+505
5 礫	411	泥岩	4.84	3.01	1.82	31.7	E	○	○	○	○	
5 礫	412	砂岩	1.68	1.99	1.30	6.9	E	○	—	○	△	
5 礫	413	チャート	3.40	3.60	2.36	37.7	E	○	△	○	—	⑧ 105+358+413+489+861
5 礫	414	砂岩	3.93	3.22	2.06	22.2	E	○	—	△	—	⑦ 168+414+436+572+896
5 礫	415	チャート	1.81	1.38	1.39	2.7	E	—	—	○	—	
5 礫	416	砂岩	2.96	2.61	1.58	13.0	E	—	○	△	○	
5 礫	417	礫岩	3.74	3.58	1.76	29.5	E	—	—	○	△	⑫ 161+417
5 礫	418	砂岩	4.39	4.16	2.15	32.4	D	○	—	○	—	⑫ 418+743
5 礫	419	砂岩	2.54	1.25	1.27	3.6	E	○	○	○	△	⑫ 226+419+672
5 礫	420	砂岩	1.93	2.12	1.34	7.9	E	○	—	○	△	
5 礫	421	砂岩	5.37	4.64	1.49	41.1	E	○	○	○	△	
5 礫	422	チャート	4.68	3.06	1.54	23.0	E	—	—	—	—	

完形度：A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表 (9)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合関係ほか
5 礫	423	砂岩	3.40	3.22	3.25	29.7	E	○	—	○	—	
5 礫	424	チャート	1.74	1.61	0.70	1.8	E	○	—	○	○	
5 礫	425	砂岩	2.35	1.81	1.05	5.3	E	○	—	○	△	
5 礫	426	砂岩	4.59	2.80	2.47	26.4	E	○	—	○	○	
5 礫	427	チャート	5.51	1.66	1.35	11.0	E	—	—	—	—	㉑ 427+710
5 礫	428	チャート	4.36	3.23	2.41	39.9	E	○	—	△	△	㉒ 428+849
5 礫	429	チャート	3.50	2.45	1.49	9.6	E	—	○	△	○	㉓ 429+772
5 礫	430	砂岩	4.22	3.81	1.79	22.2	E	—	—	○	—	
5 礫	431	砂岩	4.66	2.74	3.66	44.9	E	○	△	△	○	㉔ 190+285+390+391+431
5 礫	432	砂岩	2.73	1.45	0.91	7.1	E	—	—	○	○	
5 礫	433	チャート	5.31	3.42	3.33	40.8	E	—	—	○	—	
5 礫	434	砂岩	4.18	3.44	2.91	38.0	E	—	—	○	○	㉕ 170+434
5 礫	435	砂岩	3.04	1.98	1.79	11.5	E	—	—	○	—	
5 礫	436	砂岩	3.02	1.77	1.38	7.4	E	○	—	○	—	㉖ 168+414+436+572+896
5 礫	437	チャート	3.99	2.19	1.51	8.6	E	△	—	○	—	
5 礫	438	チャート	3.86	2.66	2.12	18.3	E	○	—	○	—	
5 礫	439	砂岩	4.89	3.92	1.84	31.4	E	○	△	○	○	
5 礫	440	砂岩	2.60	1.74	0.71	6.4	E	△	—	○	—	
5 礫	441	チャート	2.90	2.64	1.32	10.9	E	○	—	△	—	㉗ 441+920
5 礫	442	チャート	2.82	2.80	1.79	19.5	E	—	—	△	—	
5 礫	443	泥岩	4.42	2.68	3.46	31.1	E	○	—	—	—	㉘ 443+591+753
5 礫	444	砂岩	5.19	3.06	2.57	25.9	E	○	△	○	—	
5 礫	445	チャート	2.30	1.83	1.35	3.8	E	△	—	○	—	
5 礫	446	チャート	3.88	3.60	2.35	23.9	E	—	—	—	—	㉙ 446+449
5 礫	447	砂岩	4.26	4.06	2.12	28.2	E	—	○	—	△	
5 礫	448	チャート	2.35	1.32	1.42	4.0	E	—	—	○	—	
5 礫	449	チャート	2.66	2.38	2.01	15.5	E	○	—	○	—	㉚ 446+449
5 礫	450	砂岩	2.86	2.02	0.94	4.6	E	○	—	○	○	㉛ 344+401+450+790+791
5 礫	451	泥岩	2.66	2.48	2.08	9.9	E	△	—	△	—	㉜ 328+451+455+473+546+697+884+885+913
5 礫	452	砂岩	2.60	1.45	1.11	4.2	E	○	—	○	○	㉝ 144+193+244+263+359+452+680+705+728
5 礫	453	砂岩	4.05	2.39	2.09	14.3	E	○	—	○	○	
5 礫	454	砂岩	4.06	2.51	2.52	18.5	E	○	—	○	—	
5 礫	455	泥岩	4.08	3.17	2.40	30.5	E	○	—	○	—	㉞ 328+451+455+473+546+697+884+885+913
5 礫	456	砂岩	3.10	2.62	1.78	9.7	E	—	△	○	△	
5 礫	457	チャート	3.98	1.53	1.48	12.2	E	—	—	—	—	
5 礫	458	砂岩	4.84	2.78	1.32	16.1	E	○	—	○	○	㉟ 299+458
5 礫	459	チャート	4.05	3.61	1.99	25.5	E	○	—	○	—	
5 礫	460	チャート	2.62	2.17	1.52	12.6	E	—	—	○	—	
5 礫	461	チャート	2.24	1.83	0.83	3.7	E	—	—	○	—	
5 礫	462	チャート	3.90	2.63	2.10	16.1	E	△	—	—	—	
5 礫	463	砂岩	5.77	4.44	2.64	48.6	E	○	△	○	○	
5 礫	464	砂岩	2.78	1.69	1.65	5.1	E	○	△	○	○	
5 礫	465	チャート	3.17	2.18	1.16	6.0	E	○	△	○	○	㊱ 167+276+283+340+341+376+465+589+632+908
5 礫	466	チャート	2.71	1.95	1.40	8.0	E	○	—	○	○	
5 礫	467	チャート	3.43	1.80	1.25	8.9	E	△	○	○	○	
5 礫	468	砂岩	2.55	3.77	2.50	18.1	E	○	○	○	—	㊲ 468+923

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）  
赤化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）—（なし）

第10表 5号礫群出土礫属性表（10）

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	469	砂岩	3.54	2.67	1.63	11.7	E	△	—	○	△	
5 礫	470	砂岩	3.86	3.04	2.02	23.6	E	—	—	—	—	㉔ 470+737
5 礫	471	砂岩	3.40	2.88	2.32	19.9	E	○	—	○	○	㉕ 471+801
5 礫	472	砂岩	3.03	1.74	1.16	4.5	E	△	—	○	○	
5 礫	473	泥岩	4.50	3.20	1.88	19.3	E	○	—	△	—	㉙ 328+451+455+473+546 +697+884+885+913
5 礫	474	砂岩	5.97	4.24	1.91	50.6	E	○	○	○	○	㉖ 474+739
5 礫	475	砂岩	2.58	1.49	1.39	4.7	E	—	—	△	—	
5 礫	476	チャート	1.93	1.62	1.09	3.3	E	—	—	—	—	㉑ 204+476
5 礫	477	砂岩	3.00	2.46	1.74	12.6	E	○	—	○	—	
5 礫	478	泥岩	2.77	2.76	1.97	14.9	E	△	—	○	—	
5 礫	479	砂岩	5.26	4.11	1.18	26.4	E	○	○	○	—	
5 礫	480	チャート	3.27	2.12	1.74	11.0	E	—	—	○	—	
5 礫	481	礫岩	2.44	2.68	2.17	14.9	E	○	—	○	—	
5 礫	482	砂岩	2.84	2.25	2.16	11.5	E	△	—	○	—	
5 礫	483	砂岩	3.86	2.73	1.50	13.7	E	—	—	○	—	㉗ 483+498+515
5 礫	484	チャート	2.28	1.60	1.30	5.0	E	—	—	○	—	
5 礫	485	チャート	2.70	2.46	0.93	7.4	E	—	—	△	—	
5 礫	486	礫岩	2.08	2.06	0.92	3.0	E	—	—	○	△	
5 礫	487	チャート	3.28	2.19	0.98	6.7	E	○	—	○	○	
5 礫	488	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 25 図 48
5 礫	489	チャート	3.16	2.94	1.43	10.8	E	○	○	○	—	㉘ 105+358+413+489+861
5 礫	490	砂岩	3.85	2.96	2.13	25.9	E	—	—	○	—	
5 礫	491	砂岩	4.04	1.93	2.06	15.1	E	—	—	—	—	
5 礫	492	チャート	2.88	2.54	1.04	7.4	E	○	—	○	—	
5 礫	493	砂岩	3.05	2.64	2.17	20.9	E	○	○	○	○	
5 礫	494	砂岩	6.41	5.04	1.94	50.7	E	○	—	○	—	㉚ 494+667
5 礫	495	砂岩	5.15	2.18	2.30	23.5	E	○	—	○	—	
5 礫	496	チャート	2.76	1.92	1.36	6.1	E	—	—	△	—	
5 礫	497	礫岩	3.96	3.12	1.94	21.6	E	○	—	○	—	㉛ 82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5 礫	498	砂岩	2.50	1.98	1.48	8.4	E	—	△	○	○	㉗ 483+498+515
5 礫	499	砂岩	4.12	3.59	1.63	18.0	E	○	—	○	—	
5 礫	500	チャート	2.10	1.67	1.27	4.8	E	△	○	○	○	㉞ 78+370+500
5 礫	501	泥岩	4.48	3.28	3.10	37.0	E	△	—	○	○	
5 礫	502	砂岩	3.45	1.83	1.77	9.8	E	△	○	△	△	㉙ 502+555+619+621
5 礫	503	礫岩	4.70	2.85	2.55	27.5	E	○	—	○	—	
5 礫	504	礫岩	4.63	3.46	0.93	23.2	E	○	○	○	○	㉛ 82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5 礫	505	砂岩	4.83	2.86	3.24	54.3	E	—	—	△	—	㉑ 410+505
5 礫	506	砂岩	3.10	2.90	3.30	37.3	E	△	—	○	—	
5 礫	507	チャート	2.63	2.00	1.59	10.6	E	○	—	—	—	
5 礫	508	チャート	2.07	1.61	1.47	3.6	E	—	—	○	—	
5 礫	509	砂岩	5.29	3.91	1.86	41.8	E	○	—	△	—	
5 礫	510	砂岩	6.88	4.19	1.86	35.4	E	○	△	○	○	
5 礫	511	チャート	2.38	1.87	1.04	4.8	E	—	—	○	—	
5 礫	512	チャート	3.48	2.46	1.60	15.6	E	—	△	—	○	㉜ 75+512+636
5 礫	513	砂岩	3.86	2.38	0.98	14.0	E	—	—	△	—	㉚ 513+860
5 礫	514	砂岩	4.40	2.97	2.71	32.9	E	○	—	△	—	

完形度：A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表 (11)



第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	515	砂岩	3.00	1.87	1.08	5.5	E	—	—	○	—	㉗ 483+498+515
5 礫	516	砂岩	3.23	2.27	0.67	5.3	E	—	—	○	○	
5 礫	517	チャート	4.70	3.45	1.59	22.2	E	○	—	○	—	① 14+517
5 礫	518	砂岩	4.76	3.28	3.30	51.6	D	△	—	△	—	
5 礫	519	砂岩	3.18	2.77	1.84	14.2	E	○	—	○	○	
5 礫	520	礫岩	2.83	2.34	1.48	8.2	E	○	○	○	—	㉘ 82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5 礫	521	チャート	4.62	3.36	2.97	39.4	E	—	—	△	—	
5 礫	522	砂岩	6.08	4.98	0.87	23.7	E	○	—	○	○	
5 礫	523	砂岩	3.66	2.91	1.28	13.8	E	—	—	○	—	
5 礫	524	砂岩	4.60	3.60	2.78	49.3	E	○	△	○	—	㉙ 524+640
5 礫	525	チャート	3.26	2.37	1.91	13.5	E	—	—	○	—	
5 礫	526	チャート	3.28	1.88	1.23	6.9	E	—	—	—	—	
5 礫	527	チャート	3.55	1.47	1.45	4.6	E	—	—	—	—	
5 礫	528	砂岩	2.56	1.79	1.31	6.0	E	—	—	○	○	
5 礫	529	チャート	3.67	2.00	1.58	10.5	E	—	—	○	—	
5 礫	530	砂岩	2.41	1.92	0.86	3.0	E	○	—	○	—	㉚ 107+367+379+530+584 +722+755+804
5 礫	531	チャート	3.76	3.44	1.34	19.0	E	—	—	—	—	
5 礫	532	砂岩	2.97	1.91	1.58	7.1	E	—	—	○	○	
5 礫	533	チャート	2.73	2.81	1.06	8.5	E	△	—	—	—	
5 礫	534	チャート	2.03	1.60	1.39	4.0	E	—	—	○	—	
5 礫	535	チャート	2.56	2.22	1.00	6.2	E	○	—	○	—	
5 礫	536	チャート	3.83	2.22	0.94	8.7	E	—	—	△	—	㉛ 386+536
5 礫	537	チャート	1.88	1.96	1.49	3.7	E	—	—	—	—	
5 礫	538	チャート	2.28	1.63	1.44	5.9	E	—	—	—	—	
5 礫	539	チャート	2.12	1.80	1.87	5.9	E	○	—	○	—	
5 礫	540	泥岩	2.65	2.02	1.69	9.2	E	○	—	○	○	㉜ 215+540
5 礫	541	チャート	2.61	1.43	0.94	3.2	E	—	—	—	—	
5 礫	542	砂岩	2.55	1.84	1.07	3.6	E	—	—	○	—	
5 礫	543	泥岩	2.98	2.06	1.56	6.2	E	—	—	○	—	
5 礫	544	砂岩	3.78	2.76	2.46	19.1	E	—	—	○	○	
5 礫	545	砂岩	1.65	1.41	1.41	3.4	E	○	—	○	—	
5 礫	546	泥岩	3.63	3.32	1.43	20.3	E	○	—	○	△	㉝ 328+451+455+473+546 +697+884+885+913
5 礫	547	砂岩	4.55	4.05	1.82	29.3	E	△	—	△	—	
5 礫	548	チャート	5.08	2.78	2.02	36.9	E	—	—	—	—	
5 礫	549	泥岩	4.39	3.34	2.72	53.4	D	○	△	○	○	
5 礫	550	砂岩	6.92	2.21	2.60	31.0	E	△	—	○	○	㉞ 550+726
5 礫	551	砂岩	4.27	3.70	3.07	47.7	E	○	○	○	○	㉟ 551+586
5 礫	552	砂岩	3.57	3.76	2.01	23.2	E	○	○	○	○	
5 礫	553	泥岩	4.06	2.86	3.29	34.7	E	△	—	○	—	㊱ 53+553
5 礫	554	チャート	2.81	2.73	2.51	21.5	E	—	—	—	—	㊲ 554+703
5 礫	555	砂岩	7.08	3.63	2.89	59.0	D	○	○	—	—	㊳ 502+555+619+621
5 礫	556	砂岩	5.31	4.00	2.25	42.2	E	○	—	○	△	㊴ 556+883
5 礫	557	砂岩	7.09	5.44	3.43	77.3	D	○	○	—	△	
5 礫	558	砂岩	5.65	4.32	2.32	51.3	D	○	—	○	—	
5 礫	559	砂岩	5.09	3.61	2.22	37.0	E	○	—	○	—	
5 礫	560	砂岩	4.69	3.30	2.74	36.4	E	○	△	○	—	㊵ 364+560

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）  
赤化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）—（なし）

第10表 5号礫群出土礫属性表（12）

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	561	泥岩	3.93	3.05	1.08	14.7	E	○	—	○	△	
5 礫	562	チャート	7.50	4.08	3.05	80.9	D	—	—	△	—	㉗ 562+622
5 礫	563	チャート	6.54	3.73	2.90	66.8	D	○	—	○	—	㉘ 563+629+688+803
5 礫	564	砂岩	4.57	3.81	3.17	51.7	D	○	△	○	—	㉙ 564+565+676
5 礫	565	砂岩	4.13	2.24	2.44	31.0	E	○	—	○	—	㉚ 564+565+676
5 礫	566	砂岩	4.10	3.29	1.11	11.9	E	○	—	○	○	
5 礫	567	砂岩	7.01	4.46	1.82	56.6	D	○	—	○	—	
5 礫	568	砂岩	4.11	3.31	2.12	28.2	E	○	—	○	—	
5 礫	569	チャート	3.84	3.42	3.04	37.6	E	○	△	○	○	㉛ 380+569+745
5 礫	570	砂岩	5.89	3.82	2.14	43.1	E	○	○	○	△	㉜ 570+596
5 礫	571	砂岩	5.38	3.32	1.74	51.6	D	○	○	○	△	㉝ 137+571+813
5 礫	572	砂岩	3.50	1.89	1.25	9.9	E	○	—	○	○	㉞ 168+414+436+572+896
5 礫	573	チャート	4.89	2.66	1.52	27.8	E	—	—	○	—	
5 礫	574	チャート	4.80	3.41	2.54	48.9	E	△	—	○	—	
5 礫	575	砂岩	3.80	3.17	2.40	30.6	E	○	△	○	○	
5 礫	576	砂岩	6.16	2.64	2.58	49.4	E	△	—	○	—	
5 礫	577	砂岩	4.14	2.58	2.73	29.4	E	○	○	○	—	
5 礫	578	砂岩	5.23	3.42	1.62	29.8	E	○	—	○	△	
5 礫	579	泥岩	6.95	3.38	3.22	68.0	D	○	—	○	○	
5 礫	580	チャート	5.24	4.61	2.67	54.8	D	○	—	○	—	
5 礫	581	砂岩	5.63	4.74	2.58	80.0	D	○	○	○	○	㉟ 581+738+806+900
5 礫	582	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 23 図 38
5 礫	583	チャート	3.87	2.61	1.72	16.5	E	○	—	○	—	
5 礫	584	砂岩	5.06	3.38	2.31	40.7	E	○	—	○	—	㊱ 107+367+379+530+584 +722+755+804
5 礫	585	砂岩	4.22	2.55	2.50	21.1	E	○	—	○	—	
5 礫	586	砂岩	4.96	3.95	4.49	110.7	D	○	○	○	○	㊲ 551+586
5 礫	587	砂岩	6.06	6.51	4.34	192.3	D	○	○	○	○	㊳ 291+587+716+720
5 礫	588	砂岩	11.40	5.11	4.02	260.6	C	○	△	○	△	
5 礫	589	チャート	6.13	4.28	2.87	122.8	D	○	○	○	○	㊴ 167+276+283+340+341 +376+465+589+632+908
5 礫	590	砂岩	9.26	5.58	3.05	192.6	A	—	—	—	—	完形礫
5 礫	591	泥岩	7.85	6.27	3.95	196.4	C	○	○	○	—	㊵ 443+591+753
5 礫	592	泥岩	6.42	5.32	3.52	108.2	D	△	—	○	△	㊶ 592+727+914
5 礫	593	砂岩	6.53	7.17	5.82	217.5	C	○	○	○	○	
5 礫	594	チャート	8.32	4.06	2.88	110.6	D	—	—	○	—	
5 礫	595	砂岩	7.10	4.13	2.37	62.0	D	△	—	○	△	
5 礫	596	砂岩	8.12	4.56	2.70	72.1	D	○	○	○	—	㊷ 570+596
5 礫	597	砂岩	5.22	3.89	3.40	61.6	D	—	—	△	—	
5 礫	598	砂岩	5.54	4.65	4.02	84.4	D	○	—	○	○	
5 礫	599	チャート	2.00	1.83	1.28	4.7	E	○	△	○	○	㊸ 599+863
5 礫	600	砂岩	3.25	2.51	1.80	12.1	E	○	—	○	—	
5 礫	601	砂岩	7.15	6.58	3.06	139.8	D	△	△	△	△	
5 礫	602	砂岩	7.64	4.78	3.73	158.5	C	○	△	○	○	
5 礫	603	砂岩	8.45	2.43	4.34	104.8	D	○	○	○	○	㊹ 329+603+608
5 礫	604	砂岩	6.81	6.21	3.42	142.7	D	○	—	○	—	
5 礫	605	砂岩	4.98	4.96	2.66	65.7	D	○	○	○	○	㊺ 605+642+704+823
5 礫	606	砂岩	7.13	5.97	3.19	116.8	D	○	○	○	△	
5 礫	607	砂岩	6.04	4.58	3.50	65.6	D	○	○	△	○	

完形度：A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表 (13)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 磔	608	砂岩	3.88	4.32	1.86	30.0	E	○	○	○	△	㉞ 329+603+608
5 磔	609	砂岩	6.96	6.88	3.05	107.9	D	○	—	○	—	㉞ 609+750
5 磔	610	砂岩	5.91	4.00	2.78	70.4	D	—	△	—	△	
5 磔	611	砂岩	11.24	10.75	7.97	1255.0	A	—	—	—	—	完形磔
5 磔	612	砂岩	13.38	6.91	5.27	582.0	A	—	—	—	—	完形磔
5 磔	613	砂岩	9.60	9.21	5.82	522.5	A	—	—	—	—	完形磔
5 磔	614	チャート	13.38	9.72	3.36	658.0	A	—	—	—	—	完形磔
5 磔	615	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 15 図 15
5 磔	616	砂岩	9.43	7.28	2.70	285.0	B	—	△	—	—	
5 磔	617	砂岩	9.04	4.92	1.74	92.9	D	—	—	△	△	
5 磔	618	砂岩	12.37	6.82	5.72	400.5	D	○	—	○	○	
5 磔	619	砂岩	2.46	2.00	1.48	9.5	E	△	○	—	—	㉞ 502+555+619+621
5 磔	620	チャート	4.00	3.20	2.66	34.8	D	○	—	○	△	㉞ 259+323+620+808
5 磔	621	砂岩	5.40	3.21	2.21	36.6	E	○	△	—	—	㉞ 502+555+619+621
5 磔	622	チャート	6.83	5.76	3.32	142.1	D	○	△	○	○	㉞ 562+622
5 磔	623	チャート	1.80	1.79	1.63	5.8	E	—	—	○	—	
5 磔	624	チャート	1.50	1.73	1.01	1.1	E	—	—	—	—	
5 磔	625	チャート	1.72	1.37	1.20	2.8	E	○	—	○	—	
5 磔	626	砂岩	2.27	1.48	1.08	2.8	E	○	—	○	—	
5 磔	627	砂岩	4.80	4.74	2.26	54.3	D	○	○	○	○	
5 磔	628	チャート	1.77	1.66	1.05	3.0	E	—	—	—	—	
5 磔	629	チャート	3.28	2.40	1.32	10.9	E	○	—	○	—	㉞ 563+629+688+803
5 磔	630	砂岩	6.15	3.68	2.90	57.6	D	○	—	○	○	
5 磔	631	砂岩	1.59	1.54	1.93	6.7	E	○	—	○	—	
5 磔	632	チャート	5.86	2.39	2.29	24.1	E	○	○	○	○	㉞ 167+276+283+340+341 +376+465+589+632+908
5 磔	633	泥岩	7.04	3.65	1.50	44.3	E	—	—	○	△	
5 磔	634	砂岩	3.74	1.70	1.63	10.2	E	—	—	○	○	㉞ 634+916
5 磔	635	砂岩	2.38	2.40	1.02	4.3	E	—	—	○	—	
5 磔	636	チャート	3.65	3.44	1.54	27.0	E	—	△	—	△	㉞ 75+512+636
5 磔	637	砂岩	2.32	2.13	1.00	3.6	E	—	—	—	△	
5 磔	638	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 20 図 31
5 磔	639	チャート	4.86	5.06	3.86	84.7	C	—	—	△	—	
5 磔	640	砂岩	2.64	2.37	1.89	13.4	E	○	—	○	—	㉞ 524+640
5 磔	641	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 17 図 18
5 磔	642	砂岩	3.25	2.80	1.50	16.3	E	○	○	△	—	㉞ 605+642+704+823
5 磔	643	チャート	4.30	2.93	1.67	21.7	E	○	—	○	—	
5 磔	644	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 18 図 23
5 磔	645	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 19 図 24
5 磔	646	砂岩	4.35	4.43	3.77	80.3	D	△	—	○	—	㉞ 646+732
5 磔	647	砂岩	4.22	4.61	3.52	85.0	D	△	△	○	△	㉞ 36+79+647+735
5 磔	648	礫岩	6.44	3.82	1.41	32.9	E	○	○	○	○	㉞ 648+656+711+754+805 +829
5 磔	649	砂岩	7.30	4.74	3.66	122.8	D	○	○	○	—	㉞ 649+708+764
5 磔	650	チャート	4.45	4.06	3.62	66.7	D	—	—	○	—	㉞ 397+650
5 磔	651	砂岩	7.04	4.68	3.03	116.9	D	△	○	—	○	
5 磔	652	砂岩	5.03	3.95	2.81	40.8	E	○	—	○	△	㉞ 366+652
5 磔	653	砂岩	6.34	4.71	2.62	67.6	D	○	—	○	△	
5 磔	654	砂岩	5.24	3.16	2.00	34.9	E	○	—	○	○	㉞ 178+654

完形度：A (完形) , B (9割以上) , C (5割以上) , D (5割以下) , E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第 10 表 5号磔群出土磔属性表 (14)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	655	砂岩	5.61	4.43	2.78	65.2	D	—	—	—	○	
5 礫	656	礫岩	5.39	3.60	1.80	31.2	E	○	—	○	○	㉔ 648+656+711+754+805+829
5 礫	657	砂岩	4.89	2.93	1.60	19.7	E	○	○	○	○	
5 礫	658	チャート	4.60	3.30	2.74	42.8	E	—	—	○	—	㉕ 213+658+832
5 礫	659	砂岩	5.79	5.20	2.14	60.0	D	○	○	○	—	
5 礫	660	砂岩	4.94	2.17	3.50	30.6	E	○	—	○	△	㉖ 660+661
5 礫	661	砂岩	3.94	3.19	2.78	35.2	E	○	—	○	△	㉖ 660+661
5 礫	662	砂岩	6.00	3.21	2.17	36.0	E	○	—	○	△	
5 礫	663	砂岩	4.74	4.29	2.66	52.3	D	—	—	○	○	
5 礫	664	砂岩	4.76	4.17	2.43	47.9	E	○	—	○	△	
5 礫	665	砂岩	4.49	3.39	2.02	15.2	E	○	—	○	○	
5 礫	666	砂岩	6.38	3.84	2.04	44.0	E	○	—	○	○	㉗ 132+666+748+751
5 礫	667	砂岩	6.94	4.57	3.05	82.5	D	○	—	○	—	㉘ 494+667
5 礫	668	チャート	4.98	3.38	3.10	49.4	E	○	—	○	—	㉙ 219+668+897+902
5 礫	669	礫岩	3.59	2.53	2.64	20.0	E	○	○	○	—	㉚ 82+375+497+504+520+669+678+693+694+746+747+749+763+865+866
5 礫	670	砂岩	3.99	3.36	3.94	44.9	E	○	—	○	—	㉛ 670+814+842
5 礫	671	砂岩	6.15	1.80	0.69	8.2	E	—	—	○	—	
5 礫	672	砂岩	5.80	3.65	3.54	64.8	D	○	○	○	○	㉜ 226+419+672
5 礫	673	砂岩	6.28	4.33	4.06	132.8	D	○	—	○	○	㉝ 673+767
5 礫	674	泥岩	5.14	3.47	2.52	35.4	E	—	—	○	○	
5 礫	675	チャート	5.16	3.12	2.41	29.6	E	○	△	○	△	㉞ 19+125+311+675
5 礫	676	砂岩	2.78	3.10	3.07	25.5	E	○	△	○	—	㉟ 564+565+676
5 礫	677	砂岩	4.46	3.33	2.60	34.6	E	—	—	○	△	
5 礫	678	礫岩	5.67	4.33	1.64	45.9	E	○	○	○	○	㊱ 82+375+497+504+520+669+678+693+694+746+747+749+763+865+866
5 礫	679	砂岩	7.41	4.20	4.36	139.1	D	○	○	○	△	
5 礫	680	砂岩	5.38	3.25	2.78	46.0	E	○	—	○	—	㊲ 144+193+244+263+359+452+680+705+728
5 礫	681	砂岩	5.65	3.41	2.54	56.1	D	○	○	○	○	㊳ 127+681+788
5 礫	682	砂岩	4.22	5.24	2.46	54.5	D	○	—	○	○	㊴ 682+683
5 礫	683	砂岩	4.08	3.91	2.22	43.3	E	○	—	○	○	㊴ 682+683
5 礫	684	砂岩	7.11	2.44	2.82	42.0	E	○	—	○	—	
5 礫	685	礫岩	6.44	4.33	3.00	73.5	D	○	—	○	—	㊵ 685+701
5 礫	686	砂岩	4.15	2.96	2.10	29.5	E	△	—	○	△	
5 礫	687	砂岩	6.54	3.17	2.10	44.2	E	—	△	—	—	
5 礫	688	チャート	4.08	3.65	1.80	29.8	E	○	—	○	—	㊶ 563+629+688+803
5 礫	689	砂岩	5.66	3.42	3.06	54.9	D	○	○	○	○	
5 礫	690	砂岩	5.51	3.77	2.86	60.0	D	○	○	○	○	
5 礫	691	チャート	3.95	2.31	2.21	18.9	E	○	—	○	—	
5 礫	692	チャート	4.98	4.18	2.78	49.7	D	—	—	—	—	㊷ 374+692
5 礫	693	礫岩	6.50	4.14	3.86	76.7	D	○	○	○	○	㊸ 82+375+497+504+520+669+678+693+694+746+747+749+763+865+866
5 礫	694	礫岩	4.73	1.90	1.47	18.2	E	○	○	○	○	㊸ 82+375+497+504+520+669+678+693+694+746+747+749+763+865+866
5 礫	695	砂岩	3.67	3.63	2.18	33.4	E	○	—	○	—	㊹ 695+756
5 礫	696	砂岩	5.63	2.72	3.04	68.6	D	○	△	○	—	㊺ 355+696

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）  
赤化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）—（なし）

第10表 5号礫群出土礫属性表（15）

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	697	泥岩	3.64	2.50	1.20	11.4	E	△	—	○	△	㉑ 328+451+455+473+546+697+884+885+913
5 礫	698	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 23 図 40
5 礫	699	砂岩	3.20	1.72	1.72	15.8	E	—	—	○	○	
5 礫	700	砂岩	6.22	3.27	2.78	54.2	D	○	△	○	—	㉒ 346+378+700+714+775+816
5 礫	701	礫岩	5.10	2.49	1.80	18.4	E	—	—	○	—	㉓ 685+701
5 礫	702	砂岩	5.67	3.32	2.32	30.2	E	○	—	○	—	㉔ 702+740
5 礫	703	チャート	4.84	3.58	2.69	45.6	D	—	—	○	—	㉕ 554+703
5 礫	704	砂岩	7.04	5.49	2.88	109.6	D	○	○	—	△	㉖ 605+642+704+823
5 礫	705	砂岩	3.31	3.30	1.65	19.9	E	○	—	○	○	㉗ 144+193+244+263+359+452+680+705+728
5 礫	706	砂岩	7.37	2.84	3.41	59.9	D	△	—	○	○	
5 礫	707	砂岩	4.78	3.10	1.25	18.7	E	—	—	○	—	
5 礫	708	砂岩	5.81	4.98	2.23	79.8	D	○	○	○	○	㉘ 649+708+764
5 礫	709	砂岩	5.94	4.90	4.53	103.9	D	○	—	○	○	㉙ 709+779+847
5 礫	710	チャート	4.83	4.30	0.98	18.5	E	—	—	—	—	㉚ 427+710
5 礫	711	礫岩	4.71	4.70	3.42	62.4	E	○	○	○	○	㉛ 648+656+711+754+805+829
5 礫	712	チャート	3.15	2.06	1.68	8.5	E	○	—	△	—	
5 礫	713	砂岩	5.11	4.02	2.20	48.1	E	—	—	○	—	
5 礫	714	砂岩	4.28	1.81	0.63	4.3	E	○	○	○	—	㉜ 346+378+700+714+775+816
5 礫	715	礫岩	7.80	7.21	4.35	191.7	D	○	○	○	○	㉝ 371+715+810
5 礫	716	砂岩	5.25	3.03	1.06	14.3	E	—	—	○	○	㉞ 291+587+716+720
5 礫	717	砂岩	3.55	2.47	0.87	8.0	E	○	—	○	—	㉞ 162+200+717
5 礫	718	砂岩	3.52	3.94	2.84	27.3	E	△	—	○	○	㉟ 718+841+867
5 礫	719	砂岩	5.52	3.65	3.83	59.6	D	○	△	—	△	㊱ 89+719
5 礫	720	砂岩	4.68	5.53	2.90	76.6	D	○	△	○	○	㊱ 291+587+716+720
5 礫	721	砂岩	3.72	3.40	2.92	25.2	E	○	—	○	○	
5 礫	722	砂岩	2.18	1.74	1.05	3.0	E	○	—	○	—	㊲ 107+367+379+530+584+722+755+804
5 礫	723	砂岩	2.30	1.48	0.99	3.9	E	○	—	○	—	
5 礫	724	砂岩	2.50	1.80	1.58	6.4	E	—	—	○	△	
5 礫	725	砂岩	5.07	1.72	0.90	6.7	E	△	—	○	○	
5 礫	726	砂岩	3.20	2.16	1.97	10.9	E	△	—	○	○	㊲ 550+726
5 礫	727	泥岩	4.56	3.30	1.99	32.1	E	△	—	○	—	㊲ 592+727+914
5 礫	728	砂岩	3.47	2.28	1.93	15.8	E	○	—	○	○	㉗ 144+193+244+263+359+452+680+705+728
5 礫	729	砂岩	6.33	2.50	1.52	17.7	E	—	—	—	△	
5 礫	730	砂岩	5.78	3.08	0.87	13.7	E	△	△	○	—	
5 礫	731	砂岩	4.65	2.26	3.71	38.9	E	△	—	○	○	
5 礫	732	砂岩	2.68	1.94	2.21	15.3	E	—	—	—	—	㊳ 646+732
5 礫	733	砂岩	4.48	2.44	2.45	16.7	E	○	—	○	—	
5 礫	734	チャート	3.52	3.10	1.86	21.6	E	—	—	○	—	
5 礫	735	砂岩	2.49	2.36	1.08	6.4	E	△	△	○	○	㊴ 36+79+647+735
5 礫	736	チャート	2.86	2.10	1.65	7.8	E	—	—	—	—	
5 礫	737	砂岩	3.65	3.32	1.94	23.4	E	—	—	—	—	㊴ 470+737
5 礫	738	砂岩	7.07	5.64	3.24	157.9	D	○	○	○	○	㊵ 581+738+806+900
5 礫	739	砂岩	5.92	4.38	2.69	78.5	D	○	△	○	○	㊵ 474+739
5 礫	740	砂岩	4.80	2.77	2.40	48.6	E	○	—	○	△	㊵ 702+740
5 礫	741	砂岩	6.34	6.28	1.38	56.4	E	○	—	○	○	

完形度：A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第 10 表 5号礫群出土礫属性表 (16)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	742	砂岩	7.64	2.92	2.79	70.0	D	○	△	○	—	㉓ 742+765
5 礫	743	砂岩	5.86	4.14	1.75	38.4	D	○	—	○	—	㉔ 418+743
5 礫	744	砂岩	2.53	2.66	1.12	5.8	E	○	—	○	—	㉕ 744+759
5 礫	745	チャート	4.99	3.47	2.46	48.8	D	○	○	○	○	㉖ 380+569+745
5 礫	746	礫岩	4.50	3.95	2.49	36.8	E	○	○	○	○	㉗ 82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5 礫	747	礫岩	4.59	4.26	2.44	37.9	E	○	△	○	—	㉘ 82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5 礫	748	砂岩	5.66	5.22	2.68	67.4	D	○	—	○	○	㉙ 132+666+748+751
5 礫	749	礫岩	3.20	3.10	1.49	8.4	E	○	—	○	—	㉚ 82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5 礫	750	砂岩	4.02	5.57	2.54	42.5	E	○	—	○	—	㉛ 609+750
5 礫	751	砂岩	6.10	3.00	1.67	29.5	E	○	—	○	—	㉜ 132+666+748+751
5 礫	752	砂岩	4.50	4.15	1.91	36.3	E	○	—	○	○	㉝ 278+752+836
5 礫	753	泥岩	5.50	4.50	2.90	67.8	D	○	○	○	—	㉞ 443+591+753
5 礫	754	礫岩	6.94	6.34	2.44	104.4	D	○	○	○	○	㉟ 648+656+711+754+805 +829
5 礫	755	砂岩	5.28	5.11	4.00	108.4	D	○	△	○	—	㊱ 107+367+379+530+584 +722+755+804
5 礫	756	砂岩	4.18	2.85	2.53	39.3	E	○	△	○	—	㊲ 695+756
5 礫	757	砂岩	7.50	3.87	2.81	90.8	D	○	—	○	—	
5 礫	758	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 24 図 42
5 礫	759	砂岩	6.04	4.00	2.57	60.0	D	○	—	○	△	㊳ 744+759
5 礫	760	チャート	5.00	3.92	2.16	44.7	E	—	—	—	—	
5 礫	761	砂岩	5.95	4.78	3.55	133.2	D	○	—	○	—	㊴ 761+909
5 礫	762	砂岩	4.92	3.80	1.39	26.3	E	○	—	○	—	
5 礫	763	礫岩	4.61	3.92	1.96	34.9	E	○	○	○	○	㊵ 82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5 礫	764	砂岩	3.98	4.15	2.52	38.3	D	○	○	○	○	㊶ 649+708+764
5 礫	765	砂岩	5.40	2.63	2.10	28.9	E	○	—	○	△	㊷ 742+765
5 礫	766	砂岩	6.46	4.24	3.25	93.3	D	○	—	○	—	
5 礫	767	砂岩	2.90	2.20	2.19	17.7	E	○	—	○	○	㊸ 673+767
5 礫	768	砂岩	5.98	3.46	3.27	43.4	E	○	—	○	—	
5 礫	769	砂岩	4.85	3.57	2.29	37.4	E	○	—	○	—	
5 礫	770	チャート	3.72	3.54	2.33	32.6	E	—	—	—	△	㊹ 88+184+288+372+770 +907
5 礫	771	砂岩	5.11	3.51	2.91	44.6	E	—	—	△	—	
5 礫	772	チャート	3.97	1.68	1.31	9.8	E	—	—	△	○	㊺ 429+772
5 礫	773	砂岩	3.21	3.09	1.60	15.8	E	○	—	○	—	㊻ 773+800
5 礫	774	砂岩	5.65	5.04	2.62	84.1	D	○	—	○	—	
5 礫	775	砂岩	5.50	4.67	3.52	66.2	D	○	○	○	○	㊼ 346+378+700+714+775 +816
5 礫	776	砂岩	4.22	3.14	2.22	24.1	E	△	—	○	○	㊽ 776+811
5 礫	777	砂岩	6.62	3.41	2.44	54.7	D	○	○	○	○	
5 礫	778	砂岩	3.72	4.38	2.27	34.4	E	—	—	○	○	㊾ 320+778+868
5 礫	779	砂岩	4.01	2.59	2.22	18.3	E	○	—	○	○	㊿ 709+779+847
5 礫	780	砂岩	5.76	4.11	3.33	64.9	D	○	—	○	○	
5 礫	781	砂岩	5.02	4.10	1.17	34.8	E	—	—	○	△	
5 礫	782	砂岩	2.90	2.72	0.83	6.6	E	△	—	○	—	
5 礫	783	砂岩	5.04	3.86	2.13	32.3	E	○	—	○	○	

完形度：A (完形) , B (9割以上) , C (5割以上) , D (5割以下) , E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表 (17)



第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	784	砂岩	5.74	4.09	2.82	78.8	D	△	—	○	—	
5 礫	785	礫岩	7.30	5.96	2.72	161.1	D	○	—	○	○	
5 礫	786	チャート	4.93	3.87	3.16	38.5	E	○	—	△	—	
5 礫	787	砂岩	5.13	3.64	3.86	84.1	D	—	—	○	○	㉓ 345+787
5 礫	788	砂岩	4.06	2.32	1.90	18.6	E	○	○	○	○	㉔ 127+681+788
5 礫	789	砂岩	4.84	3.99	1.40	21.8	E	△	—	○	○	
5 礫	790	砂岩	2.40	1.80	1.00	7.3	E	○	—	○	○	㉕ 344+401+450+790+791
5 礫	791	砂岩	2.94	3.41	2.14	22.7	E	△	—	○	○	㉕ 344+401+450+790+791
5 礫	792	泥岩	4.20	3.88	3.01	61.7	D	○	○	○	—	
5 礫	793	砂岩	4.46	3.61	2.96	36.2	E	○	—	○	○	
5 礫	794	砂岩	4.66	3.44	4.22	64.6	D	△	—	○	○	㉖ 233+794
5 礫	795	チャート	4.50	2.72	1.92	21.2	E	○	—	—	—	
5 礫	796	砂岩	4.58	2.41	1.80	17.8	E	○	—	△	○	
5 礫	797	砂岩	5.22	4.43	2.61	44.3	E	○	—	○	○	㉗ 797+807
5 礫	798	砂岩	3.52	2.00	1.93	15.2	E	△	—	○	—	
5 礫	799	砂岩	2.71	2.58	1.41	11.1	E	—	—	○	△	
5 礫	800	砂岩	4.60	3.08	1.41	17.6	E	○	—	○	—	㉘ 773+800
5 礫	801	砂岩	3.25	2.20	1.36	7.6	E	○	—	○	—	㉙ 471+801
5 礫	802	砂岩	3.90	3.82	1.94	19.5	E	○	—	○	○	㉚ 802+828
5 礫	803	チャート	4.09	3.26	2.50	36.4	E	○	—	○	—	㉛ 563+629+688+803
5 礫	804	砂岩	9.67	6.62	4.60	221.6	C	○	○	○	—	㉜ 107+367+379+530+584+722+755+804
5 礫	805	礫岩	11.00	8.13	5.76	460.5	C	○	○	○	○	㉝ 648+656+711+754+805+829
5 礫	806	砂岩	11.56	6.61	5.37	349.0	C	○	○	○	○	㉞ 581+738+806+900
5 礫	807	砂岩	6.05	5.20	1.80	56.7	D	○	○	○	△	㉟ 797+807
5 礫	808	チャート	3.42	2.49	2.01	22.4	E	—	—	○	—	㊱ 259+323+620+808
5 礫	809	砂岩	4.55	2.90	1.66	29.9	E	—	—	—	—	
5 礫	810	礫岩	4.93	4.30	2.75	30.5	E	—	—	○	—	㊲ 371+715+810
5 礫	811	砂岩	4.42	2.88	1.83	17.4	E	△	—	○	—	㊳ 776+811
5 礫	812	砂岩	5.38	4.70	1.42	50.2	D	○	—	○	—	
5 礫	813	砂岩	3.13	2.56	2.00	22.3	E	○	△	○	○	㊴ 137+571+813
5 礫	814	砂岩	4.30	2.58	4.02	38.0	E	○	—	○	—	㊵ 670+814+842
5 礫	815	チャート	3.01	2.28	1.76	11.2	E	—	—	△	—	
5 礫	816	砂岩	6.57	5.81	3.66	149.0	D	○	○	○	○	㊶ 346+378+700+714+775+816
5 礫	817	砂岩	1.33	2.13	2.28	21.2	E	△	—	○	—	
5 礫	818	砂岩	2.77	1.82	1.80	8.8	E	△	—	○	○	㊷ 818+834
5 礫	819	砂岩	3.46	3.39	1.56	21.9	E	○	—	○	—	
5 礫	820	チャート	3.00	2.81	2.45	25.7	E	—	—	—	—	
5 礫	821	砂岩	4.08	2.02	2.58	15.3	E	△	—	○	—	
5 礫	822	チャート	3.63	2.65	1.96	20.4	E	—	—	—	—	
5 礫	823	砂岩	3.66	2.02	0.98	8.2	E	○	○	○	—	㊸ 605+642+704+823
5 礫	824	砂岩	6.80	4.98	4.27	63.6	D	○	—	○	—	㊹ 824+893
5 礫	825	砂岩	4.33	2.14	1.23	9.6	E	○	○	○	○	
5 礫	826	チャート	3.28	2.34	1.86	16.6	E	○	—	△	—	
5 礫	827	砂岩	4.45	3.08	1.78	20.1	E	△	—	—	—	
5 礫	828	砂岩	6.65	3.44	2.81	59.8	D	○	—	○	○	㊺ 802+828
5 礫	829	礫岩	4.29	4.12	2.56	29.0	E	○	○	○	○	㊻ 648+656+711+754+805+829

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）  
赤化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）—（なし）

第10表 5号礫群出土礫属性表（18）

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	830	砂岩	4.34	4.00	2.48	35.6	E	○	△	○	△	
5 礫	831	泥岩	3.06	1.73	1.49	7.9	E	—	—	△	—	㉗ 186+831
5 礫	832	チャート	5.39	3.10	2.21	37.2	E	—	—	○	—	㉘ 213+658+832
5 礫	833	砂岩	3.40	1.75	1.62	9.3	E	—	—	—	△	
5 礫	834	砂岩	3.18	1.64	1.70	7.4	E	—	—	○	○	㉙ 818+834
5 礫	835	砂岩	3.54	1.76	1.58	4.8	E	—	—	—	○	
5 礫	836	砂岩	3.83	1.57	1.50	8.9	E	○	—	○	○	㉚ 278+752+836
5 礫	837	砂岩	4.47	3.28	2.00	29.5	E	○	—	○	△	
5 礫	838	チャート	2.64	1.46	0.69	2.6	E	—	—	—	—	
5 礫	839	チャート	1.68	1.08	0.95	1.0	E	△	—	△	—	
5 礫	840	チャート	2.16	1.35	1.02	2.7	E	—	—	○	—	
5 礫	841	砂岩	2.93	3.07	3.11	27.1	E	△	—	○	○	㉛ 718+841+867
5 礫	842	砂岩	3.68	3.51	2.22	21.1	E	○	—	○	—	㉜ 670+814+842
5 礫	843	チャート	3.26	2.41	1.50	8.4	E	—	—	○	—	
5 礫	844	砂岩	3.94	2.65	2.00	26.3	E	○	—	○	—	
5 礫	845	チャート	2.72	1.58	1.88	4.9	E	—	—	—	—	
5 礫	846	泥岩	2.64	1.46	1.86	13.7	E	—	—	○	—	
5 礫	847	砂岩	5.08	2.47	2.68	24.2	E	○	—	○	△	㉝ 709+779+847
5 礫	848	礫岩	3.10	2.09	1.18	5.4	E	—	—	○	—	
5 礫	849	チャート	4.45	3.50	2.46	44.3	E	○	○	△	△	㉞ 428+849
5 礫	850	砂岩	4.68	4.15	2.69	31.0	E	○	—	○	△	
5 礫	851	チャート	3.64	2.10	2.50	15.7	E	△	—	○	—	
5 礫	852	砂岩	3.67	2.78	2.04	13.7	E	○	○	○	△	
5 礫	853	砂岩	2.54	1.38	1.50	4.3	E	○	—	○	○	
5 礫	854	砂岩	3.58	3.60	2.10	21.0	E	—	—	○	○	
5 礫	855	砂岩	8.48	5.14	3.80	157.8	C	○	△	○	—	
5 礫	856	砂岩	2.72	1.72	0.88	3.9	E	○	○	○	○	
5 礫	857	チャート	2.73	2.80	1.12	8.8	E	△	—	△	—	
5 礫	858	砂岩	2.66	2.82	1.29	8.2	E	○	—	○	—	㉟ 347+858
5 礫	859	砂岩	3.30	2.94	1.21	8.9	E	○	—	○	—	
5 礫	860	砂岩	3.25	2.56	1.13	10.5	E	—	—	△	—	㊱ 513+860
5 礫	861	チャート	1.74	1.60	1.03	2.8	E	○	○	○	—	㊲ 105+358+413+489+861
5 礫	862	泥岩	3.57	3.70	1.65	14.6	E	△	—	○	—	㊳ 28+862
5 礫	863	チャート	3.52	2.27	1.63	9.3	E	○	○	○	○	㊴ 599+863
5 礫	864	砂岩	3.38	2.62	1.40	12.2	E	○	—	○	△	㊵ 343+864
5 礫	865	礫岩	3.18	2.69	1.76	10.1	E	○	○	○	○	㊶ 82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5 礫	866	礫岩	3.30	2.86	1.86	15.0	E	○	△	○	—	㊷ 82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5 礫	867	砂岩	4.31	3.90	2.55	35.7	E	△	—	○	○	㊸ 718+841+867
5 礫	868	砂岩	3.18	3.13	2.12	19.6	E	△	—	○	○	㊹ 320+778+868
5 礫	869	チャート	3.76	2.24	1.59	15.1	E	—	—	—	—	
5 礫	870	チャート	2.94	2.16	2.08	11.5	E	—	—	—	—	
5 礫	871	チャート	1.82	1.74	1.26	6.1	E	○	—	○	—	
5 礫	872	砂岩	5.50	5.05	1.46	32.9	E	—	—	○	○	
5 礫	873	チャート	2.58	2.09	1.03	5.4	E	○	—	—	—	
5 礫	874	砂岩	6.50	5.60	3.46	60.4	D	△	—	—	—	㊺ 113+874
5 礫	875	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20U に編入) 第 21 図 33

完形度：A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表 (19)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合関係ほか
5 礫	876	砂岩	7.05	3.78	5.28	89.1	D	○	△	○	△	
5 礫	877	チャート	2.34	0.84	0.78	1.9	E	-	-	-	-	
5 礫	878	砂岩	7.00	5.80	1.88	72.0	D	-	-	○	○	
5 礫	879	砂岩	4.62	2.98	1.36	36.1	E	○	△	○	-	㉑ 879+880
5 礫	880	砂岩	4.87	2.26	1.94	24.3	E	○	△	○	-	㉑ 879+880
5 礫	881	砂岩	3.76	3.60	1.36	18.4	E	○	-	○	-	㉑ 881+882
5 礫	882	砂岩	7.13	6.40	1.30	48.4	E	○	-	○	-	㉑ 881+882
5 礫	883	砂岩	3.66	4.10	2.51	33.7	E	△	-	○	-	㉒ 556+883
5 礫	884	泥岩	3.92	4.00	1.54	26.2	E	○	△	△	-	㉑ 328+451+455+473+546 +697+884+885+913
5 礫	885	泥岩	6.04	3.26	2.35	42.4	E	○	-	○	○	㉑ 328+451+455+473+546 +697+884+885+913
5 礫	886	砂岩	3.86	2.30	1.82	14.7	E	○	-	○	-	㉒ 886+895
5 礫	887	砂岩	2.64	2.10	1.36	4.9	E	-	-	-	○	㉑ 206+887
5 礫	888	砂岩	11.62	12.30	8.13	1171.0	C	-	-	-	-	㉒ 267+888
5 礫	889	砂岩	4.16	4.38	2.39	36.1	E	△	-	○	△	
5 礫	890	砂岩	6.77	4.03	2.81	64.5	D	○	-	○	○	
5 礫	891	砂岩	4.46	4.40	1.86	32.1	E	○	-	○	-	
5 礫	892	砂岩	2.42	2.15	1.97	9.5	E	○	-	○	-	
5 礫	893	砂岩	4.97	4.20	2.60	45.1	E	○	-	○	△	㉑ 824+893
5 礫	894	チャート	2.61	2.34	1.90	10.2	E	○	-	○	○	
5 礫	895	砂岩	4.82	3.40	2.48	24.5	E	○	-	○	-	㉒ 886+895
5 礫	896	砂岩	3.68	2.77	2.06	20.1	E	○	-	○	-	㉑ 168+414+436+572+896
5 礫	897	チャート	5.13	2.97	1.60	22.6	E	○	-	△	-	㉑ 219+668+897+902
5 礫	898	砂岩	5.40	4.09	2.28	45.3	E	○	△	○	○	
5 礫	899	砂岩	4.30	2.92	2.44	25.9	E	-	-	○	○	
5 礫	900	砂岩	4.16	3.06	2.90	43.4	E	○	-	○	-	㉑ 581+738+806+900
5 礫	901	チャート	6.70	4.24	2.62	58.0	E	-	-	△	-	㉑ 901+918
5 礫	902	チャート	5.76	3.64	2.38	38.3	E	○	-	○	-	㉑ 219+668+897+902
5 礫	903	チャート	3.79	2.12	1.51	12.8	E	-	-	-	-	
5 礫	904	砂岩	5.03	2.30	2.77	30.6	E	○	-	○	-	
5 礫	905	砂岩	5.28	3.70	3.99	41.0	E	○	-	○	○	㉑ 342+360+396+905
5 礫	906	砂岩	4.90	4.46	2.24	53.9	D	○	-	○	-	
5 礫	907	チャート	2.35	2.27	1.50	7.5	E	-	-	△	○	㉑ 88+184+288+372+770 +907
5 礫	908	チャート	4.13	2.28	1.27	10.6	E	○	○	○	○	㉑ 167+276+283+340+341 +376+465+589+632+908
5 礫	909	砂岩	5.85	4.91	3.95	123.0	D	○	-	○	-	㉑ 761+909
5 礫	910	砂岩	3.12	2.02	1.44	6.3	E	△	△	○	○	
5 礫	911	砂岩	4.23	2.14	2.08	24.3	E	△	-	○	△	㉑ 114+363+911
5 礫	912	チャート	2.75	2.48	2.42	19.8	E	○	△	○	-	㉑ 407+912
5 礫	913	泥岩	5.55	3.58	2.00	31.7	E	○	-	-	△	㉑ 328+451+455+473+546 +697+884+885+913
5 礫	914	泥岩	3.75	2.12	1.90	12.4	E	-	-	○	-	㉑ 592+727+914
5 礫	915	砂岩	4.45	3.30	1.71	24.4	E	○	-	○	○	
5 礫	916	砂岩	3.20	2.86	2.27	18.4	E	-	-	○	○	㉑ 634+916
5 礫	917	砂岩	4.41	3.55	2.74	51.0	D	○	-	○	-	㉑ 349+917
5 礫	918	チャート	3.30	2.48	1.91	13.8	E	-	-	△	-	㉑ 901+918
5 礫	919	砂岩	3.57	2.45	2.06	14.4	E	○	-	○	-	㉑ 62+919
5 礫	920	チャート	3.97	2.98	1.44	19.4	E	○	-	△	-	㉑ 441+920
5 礫	921	チャート	3.43	2.27	1.82	11.9	E	-	-	○	-	

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）  
赤化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）-（なし）

第10表 5号礫群出土礫属性表（20）

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	922	砂岩	4.56	4.25	3.23	49.2	D	△	—	○	○	㊸ 9+922
5 礫	923	砂岩	5.54	5.58	2.66	63.3	D	○	○	○	—	㊸ 468+923
5 礫	接合①	チャート	6.52	3.45	1.59	29.0	E	○	—	○	—	接合 2 点 (14+517)
5 礫	接合②	チャート	5.98	5.70	3.90	71.7	D	○	○	○	○	接合 4 点 (19+125+311+675)
5 礫	接合③	チャート	3.70	3.62	3.58	58.9	D	△	○	○	△	接合 2 点 (30+194)
5 礫	接合④	チャート	4.79	3.50	2.59	30.7	D	○	—	○	—	接合 2 点 (38+152)
5 礫	接合⑤	チャート	4.47	4.45	1.65	48.2	D	—	△	—	○	接合 3 点 (75+512+636)
5 礫	接合⑥	チャート	4.58	4.44	2.13	45.3	D	△	○	○	○	接合 3 点 (78+370+500)
5 礫	接合⑦	チャート	5.58	4.78	2.28	80.7	D	△	—	○	○	接合 6 点 (88+184+288 +372+770+907)
5 礫	接合⑧	チャート	6.16	3.80	3.80	88.1	D	○	○	△	—	接合 5 点 (105+358+413 +489+861)
5 礫	接合⑨	チャート	4.16	3.41	2.04	29.3	D	—	—	△	—	接合 2 点 (109+290)
5 礫	接合⑩	チャート	8.73	7.76	4.47	261.6	C	○	○	○	○	接合 10 点 (167+276+283 +340+341+376+465+589 +632+908)
5 礫	接合⑪	チャート	3.24	2.34	1.56	10.1	E	△	—	—	—	接合 2 点 (204+476)
5 礫	接合⑫	チャート	7.32	4.78	4.26	87.9	D	—	—	○	—	接合 3 点 (213+658+832)
5 礫	接合⑬	チャート	9.36	4.72	3.81	121.8	D	○	—	○	—	接合 4 点 (219+668+897 +902)
5 礫	接合⑭	チャート	5.67	4.92	3.60	85.1	C	○	—	○	—	接合 4 点 (259+323+620 +808)
5 礫	接合⑮	チャート	4.75	3.68	3.00	52.7	D	—	—	○	○	接合 2 点 (350+352)
5 礫	接合⑯	チャート	5.08	4.94	2.69	65.7	D	—	—	—	—	接合 2 点 (374+692)
5 礫	接合⑰	チャート	6.90	3.95	3.75	107.8	C	○	○	○	○	接合 3 点 (380+569+745)
5 礫	接合⑱	チャート	4.68	4.38	2.92	48.5	D	—	—	△	—	接合 2 点 (386+536)
5 礫	接合⑲	チャート	5.06	4.48	3.10	89.9	D	—	—	○	—	接合 2 点 (397+650)
5 礫	接合⑳	チャート	5.29	3.20	2.94	48.9	D	○	△	○	—	接合 2 点 (407+912)
5 礫	接合㉑	チャート	5.48	4.48	1.52	29.5	D	—	—	—	—	接合 2 点 (427+710)
5 礫	接合㉒	チャート	7.79	3.50	2.64	84.2	D	○	○	△	△	接合 2 点 (428+849)
5 礫	接合㉓	チャート	4.10	2.97	1.37	19.4	E	—	○	△	○	接合 2 点 (429+772)
5 礫	接合㉔	チャート	5.53	4.10	1.44	30.3	E	○	—	△	—	接合 2 点 (441+920)
5 礫	接合㉕	チャート	4.29	3.60	2.35	39.4	D	○	—	○	—	接合 2 点 (446+449)
5 礫	接合㉖	チャート	5.64	4.86	2.69	67.1	D	—	—	○	—	接合 2 点 (554+703)
5 礫	接合㉗	チャート	9.63	6.56	3.68	223.0	D	○	△	○	○	接合 2 点 (562+622)
5 礫	接合㉘	チャート	7.81	4.77	3.82	143.9	C	○	—	○	—	接合 4 点 (563+629+688 +803)
5 礫	接合㉙	チャート	3.60	3.51	1.73	14.0	E	○	○	○	○	接合 2 点 (599+863)
5 礫	接合㉚	チャート	6.70	4.24	2.62	71.8	D	—	—	△	—	接合 2 点 (901+918)
5 礫	接合㉛	砂岩	6.06	3.36	3.15	72.7	D	△	—	○	○	接合 2 点 (9+922)
5 礫	接合㉜	砂岩	4.89	4.79	2.46	44.6	D	○	—	○	○	接合 2 点 (26+140)
5 礫	接合㉝	砂岩	6.39	2.84	2.18	40.6	D	○	—	○	—	接合 2 点 (31+191)
5 礫	接合㉞	砂岩	8.46	5.41	4.14	147.0	C	△	○	○	○	接合 4 点 (36+79+647+735)
5 礫	接合㉟	砂岩	3.57	3.24	2.40	24.7	E	○	—	○	—	接合 2 点 (62+919)
5 礫	接合㊱	砂岩	5.34	3.55	2.53	40.2	D	○	○	○	○	接合 5 点 (71+214+279 +310+316)
5 礫	接合㊲	砂岩	5.24	5.11	2.68	59.8	D	○	—	○	—	接合 3 点 (77+153+154)
5 礫	接合㊳	砂岩	5.52	4.34	3.83	64.3	D	○	△	—	△	接合 2 点 (89+719)
5 礫	接合㊴	砂岩	12.26	6.92	4.90	396.6	B	○	○	○	—	接合 8 点 (107+367+379 +530+584+722+755+804)
5 礫	接合㊵	砂岩	6.50	5.60	3.48	68.1	D	△	—	—	—	接合 2 点 (113+874)
5 礫	接合㊶	砂岩	7.68	3.70	2.12	59.4	D	△	—	○	△	接合 3 点 (114+363+911)

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）  
赤化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）—（なし）

第10表 5号礫群出土礫属性表（21）

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合関係ほか
5 礫	接合㉔	砂岩	7.25	3.99	3.96	91.2	D	○	○	○	○	接合3点 (127+681+788)
5 礫	接合㉕	砂岩	7.03	7.06	2.78	166.7	D	○	△	○	○	接合4点 (132+666+748+751)
5 礫	接合㉖	砂岩	5.52	5.38	2.65	119.1	D	○	○	○	○	接合3点 (137+571+813)
5 礫	接合㉗	砂岩	8.83	4.66	3.58	156.6	D	○	○	○	○	接合9点 (144+193+244+263+359+452+680+705+728)
5 礫	接合㉘	砂岩	5.93	3.90	1.09	31.3	D	○	—	○	—	接合3点 (162+200+717)
5 礫	接合㉙	砂岩	4.44	4.02	4.64	100.2	D	○	○	○	○	接合5点 (168+414+436+572+896)
5 礫	接合㉚	砂岩	5.93	3.44	2.91	48.7	D	—	—	○	○	接合2点 (170+434)
5 礫	接合㉛	砂岩	5.60	3.16	2.00	36.9	E	○	—	○	○	接合2点 (178+654)
5 礫	接合㉜	砂岩	8.62	5.88	5.31	253.2	C	○	○	△	—	接合5点 (190+285+390+391+431)
5 礫	接合㉝	砂岩	3.87	2.37	1.36	8.7	E	—	—	—	○	接合2点 (206+887)
5 礫	接合㉞	砂岩	5.80	4.62	3.54	74.1	D	○	○	○	○	接合3点 (226+419+672)
5 礫	接合㉟	砂岩	4.72	3.70	4.22	67.2	D	△	—	○	○	接合2点 (233+794)
5 礫	接合㊱	砂岩	11.62	12.46	8.13	1203.3	C	—	—	—	—	接合2点 (267+888)
5 礫	接合㊲	砂岩	4.88	4.68	2.20	47.2	D	○	—	○	○	接合3点 (278+752+836)
5 礫	接合㊳	砂岩	9.61	6.40	4.42	286.5	C	○	○	○	○	接合4点 (291+587+716+720)
5 礫	接合㊴	砂岩	4.84	2.83	2.39	27.1	E	○	—	○	○	接合2点 (299+458)
5 礫	接合㊵	砂岩	4.86	4.38	3.01	56.5	D	△	—	○	○	接合3点 (320+778+868)
5 礫	接合㊶	砂岩	8.45	4.16	4.81	139.6	D	○	○	○	○	接合3点 (329+603+608)
5 礫	接合㊷	砂岩	7.06	5.48	4.70	123.8	D	○	—	○	○	接合4点 (342+360+396+905)
5 礫	接合㊸	砂岩	6.38	4.27	2.56	46.2	D	○	△	○	△	接合2点 (343+864)
5 礫	接合㊹	砂岩	4.22	4.00	4.64	50.1	D	○	△	○	○	接合5点 (344+401+450+790+791)
5 礫	接合㊺	砂岩	5.76	3.82	4.51	114.5	D	—	—	○	○	接合2点 (345+787)
5 礫	接合㊻	砂岩	11.48	6.06	4.73	312.5	C	○	○	○	○	接合6点 (346+378+700+714+775+816)
5 礫	接合㊼	砂岩	4.89	4.20	3.48	47.6	D	○	—	○	—	接合2点 (347+858)
5 礫	接合㊽	砂岩	6.18	4.79	2.74	95.5	D	—	—	○	—	接合2点 (349+917)
5 礫	接合㊾	砂岩	6.13	5.67	3.06	56.1	D	○	—	○	○	接合2点 (351+361)
5 礫	接合㊿	砂岩	5.63	4.97	3.04	121.1	C	○	△	○	○	接合2点 (355+696)
5 礫	接合㉀	砂岩	6.27	4.71	2.83	92.0	D	○	△	○	○	接合2点 (364+560)
5 礫	接合㉁	砂岩	5.67	4.49	2.81	54.5	D	○	—	○	△	接合2点 (366+652)
5 礫	接合㉂	砂岩	5.55	4.83	3.24	81.9	D	—	—	△	—	接合2点 (410+505)
5 礫	接合㉃	砂岩	8.58	4.39	2.15	70.8	C	○	—	○	—	接合2点 (418+743)
5 礫	接合㉄	砂岩	5.58	5.54	2.66	81.4	D	○	○	○	—	接合2点 (468+923)
5 礫	接合㉅	砂岩	3.88	3.69	4.00	47.0	D	—	—	—	—	接合2点 (470+737)
5 礫	接合㉆	砂岩	6.22	2.85	2.42	27.5	E	○	—	○	○	接合2点 (471+801)
5 礫	接合㉇	砂岩	5.97	4.38	3.80	129.1	D	○	○	○	○	接合2点 (474+739)
5 礫	接合㉈	砂岩	3.72	3.68	2.22	27.6	E	—	△	○	○	接合3点 (483+498+515)
5 礫	接合㉉	砂岩	8.68	6.94	3.05	133.2	D	○	—	○	—	接合2点 (494+667)
5 礫	接合㊰	砂岩	7.84	5.37	2.77	114.9	B	○	○	△	—	接合4点 (502+555+619+621)
5 礫	接合㊱	砂岩	4.02	3.86	0.98	24.5	E	—	—	△	—	接合2点 (513+860)
5 礫	接合㊲	砂岩	6.24	4.64	4.26	62.7	D	○	△	○	—	接合2点 (524+640)
5 礫	接合㊳	砂岩	6.92	4.24	2.60	41.9	E	△	—	○	○	接合2点 (550+726)
5 礫	接合㊴	砂岩	7.09	6.34	4.49	158.4	D	○	○	○	○	接合2点 (551+586)
5 礫	接合㊵	砂岩	5.50	5.10	2.51	75.9	D	○	—	○	△	接合2点 (556+883)

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）  
赤化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）—（なし）

第10表 5号礫群出土礫属性表（22）

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
5 礫	接合㉔	砂岩	7.81	3.73	4.36	108.2	D	○	△	○	—	接合3点 (564+565+676)
5 礫	接合㉕	砂岩	8.50	4.56	2.70	115.2	C	○	○	○	—	接合2点 (570+596)
5 礫	接合㉖	砂岩	10.50	7.90	5.65	630.3	B	○	○	○	○	接合4点 (581+738+806+900)
5 礫	接合㉗	砂岩	10.11	7.90	2.86	199.8	C	○	○	—	—	接合4点 (605+642+704+823)
5 礫	接合㉘	砂岩	7.64	6.96	3.05	150.4	D	○	—	○	—	接合2点 (609+750)
5 礫	接合㉙	砂岩	4.83	3.18	2.18	28.6	E	—	—	○	○	接合2点 (634+916)
5 礫	接合㉚	砂岩	5.40	4.43	3.77	95.6	D	△	—	○	—	接合2点 (646+732)
5 礫	接合㉛	砂岩	9.32	5.54	4.64	240.9	B	○	○	○	○	接合3点 (649+708+764)
5 礫	接合㉜	砂岩	4.94	4.45	3.50	65.8	D	○	—	○	△	接合2点 (660+661)
5 礫	接合㉝	砂岩	7.47	4.24	4.16	104.0	D	○	—	○	—	接合3点 (670+814+842)
5 礫	接合㉞	砂岩	7.03	4.33	4.06	150.5	D	○	—	○	○	接合2点 (673+767)
5 礫	接合㉟	砂岩	6.35	3.91	2.83	97.8	D	○	—	○	○	接合2点 (682+683)
5 礫	接合㊱	砂岩	5.08	4.18	3.17	72.7	D	○	△	○	—	接合2点 (695+756)
5 礫	接合㊲	砂岩	7.20	3.32	3.34	78.8	D	○	—	○	△	接合2点 (702+740)
5 礫	接合㊳	砂岩	7.36	5.97	4.53	146.4	D	○	—	○	○	接合3点 (709+779+847)
5 礫	接合㊴	砂岩	4.93	4.93	3.11	90.1	D	△	—	○	○	接合3点 (718+841+867)
5 礫	接合㊵	砂岩	7.64	4.66	2.79	98.9	C	○	△	○	△	接合2点 (742+765)
5 礫	接合㊶	砂岩	6.22	4.00	2.57	65.8	D	○	—	○	△	接合2点 (744+759)
5 礫	接合㊷	砂岩	9.30	5.85	3.95	256.2	D	○	—	○	—	接合2点 (761+909)
5 礫	接合㊸	砂岩	5.15	3.91	2.10	33.4	E	○	—	○	—	接合2点 (773+800)
5 礫	接合㊹	砂岩	4.66	4.00	2.48	41.5	D	△	—	○	○	接合2点 (776+811)
5 礫	接合㊺	砂岩	7.35	6.28	2.61	101.0	D	○	○	○	○	接合2点 (797+807)
5 礫	接合㊻	砂岩	7.15	3.95	2.81	79.3	D	○	—	○	○	接合2点 (802+828)
5 礫	接合㊼	砂岩	3.60	2.83	1.80	16.2	E	△	—	○	○	接合2点 (818+834)
5 礫	接合㊽	砂岩	7.38	4.15	4.31	108.7	D	○	—	○	△	接合2点 (824+893)
5 礫	接合㊾	砂岩	5.06	4.31	2.38	60.4	D	○	△	○	—	接合2点 (879+880)
5 礫	接合㊿	砂岩	7.13	6.40	1.36	66.8	D	○	—	○	—	接合2点 (881+882)
5 礫	接合㉀	砂岩	4.78	3.70	2.80	39.2	E	○	—	○	—	接合2点 (886+895)
5 礫	接合㉁	泥岩	3.70	3.57	1.65	17.2	E	△	△	○	—	接合2点 (28+862)
5 礫	接合㉂	泥岩	4.06	3.38	3.29	38.4	E	△	—	○	—	接合2点 (53+553)
5 礫	接合㉃	泥岩	5.96	5.92	3.90	73.5	D	○	○	○	○	接合4点 (59+60+166+172)
5 礫	接合㉄	泥岩	6.56	3.69	0.90	24.4	E	○	—	○	—	接合3点 (149+169+326)
5 礫	接合㉅	泥岩	4.14	2.80	2.16	21.0	E	—	—	△	—	接合2点 (186+831)
5 礫	接合㉆	泥岩	3.41	3.28	1.69	15.6	E	○	—	○	○	接合2点 (215+540)
5 礫	接合㉇	泥岩	10.86	6.44	3.76	210.4	C	○	—	○	△	接合9点 (328+451+455+473+546+697+884+885+913)
5 礫	接合㉈	泥岩	8.89	7.63	3.92	295.3	B	○	○	○	—	接合3点 (443+591+753)
5 礫	接合㉉	泥岩	7.40	4.80	3.88	152.7	D	△	—	○	—	接合3点 (592+727+914)
5 礫	接合㊰	礫岩	11.32	7.04	4.75	400.7	B	○	○	○	○	接合15点 (82+375+497+504+520+669+678+693+694+746+747+749+763+865+866)
5 礫	接合㊱	礫岩	5.47	3.58	1.96	35.7	E	○	○	○	○	接合2点 (161+417)
5 礫	接合㊲	礫岩	10.22	7.80	4.25	257.6	C	○	○	○	○	接合3点 (371+715+810)
5 礫	接合㊳	礫岩	14.53	8.02	5.58	720.4	B	○	○	○	○	接合6点 (648+656+711+754+805+829)
5 礫	接合㊴	礫岩	7.68	4.33	3.00	91.9	D	○	—	○	—	接合2点 (685+701)
5 礫	接合㊵	ホルンフェルス	5.15	3.67	1.83	35.2	E	—	—	—	—	接合2点 (91+156)

完形度：A (完形) , B (9割以上) , C (5割以上) , D (5割以下) , E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表 (23)



### 6号礫群

**遺 構** (第43・44図、第11表)

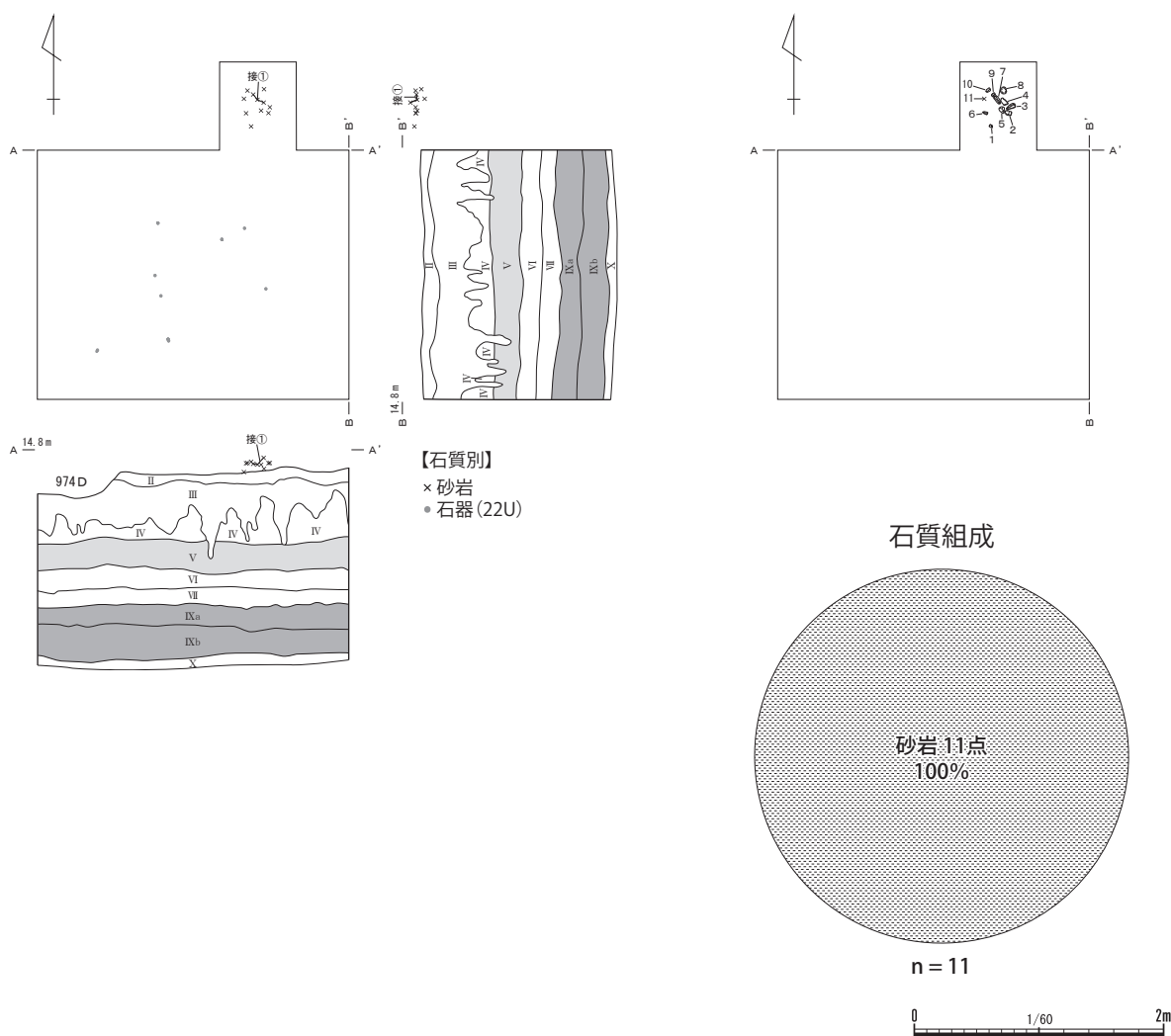
[位 置] (D-4) グリッド。TP 15から検出。

[平面分布] 東西方向0.21 m、南北方向0.31 mの範囲で礫の分布が確認された。22号石器集中地点が本遺構の外縁に分布する。

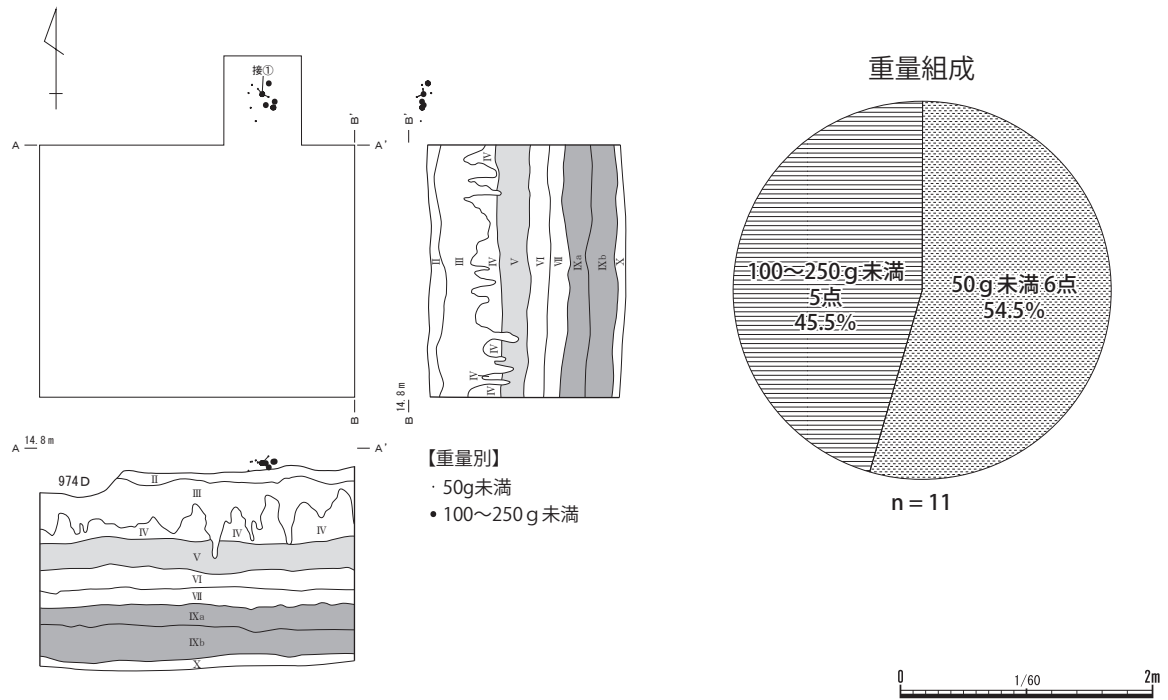
[出土層位] 礫は標高14.62～14.73 mから出土しており、その分布はⅡ層下部～立川ローム第Ⅲ層上部にまとまりをみせる。礫の大部分がⅡ層下部から出土しているため、縄文時代の集石である可能性も考えたが、明確な掘り込みを確認することはできなかった。よって外縁に分布し、垂直分布が重なる22号石器集中地点との関連性を重視し、旧石器時代の礫群と判断した。

[礫 構 成] 出土礫の総点数は11点である。完形礫は2点で、それ以外は破碎礫である。石質は全て砂岩で、4・7・9の礫で接合関係が1例認められた。

重量別の組成は50 g未満が6点、100～250 g未満が5点である。礫表面の状態は、表面が赤化するものが2点、表面に付着物が認められるものが4点、破断面が赤化するものが5点、破断面に付着物が認められるものが4点である。



第43図 6号礫群 石質別分布図 (1 / 60)



第44図 6号礫群 重量別分布図 (1/60)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合関係ほか
6 礫	1	砂岩	3.13	2.78	2.25	18.1	E	—	△	—	△	
6 礫	2	砂岩	6.80	3.64	3.08	102.7	D	—	○	—	○	
6 礫	3	砂岩	8.48	4.49	3.28	164.4	C	△	—	△	—	
6 礫	4	砂岩	6.36	3.48	1.20	37.9	E	—	—	△	△	① 4+7+9
6 礫	5	砂岩	7.73	5.18	4.06	169.9	A	—	—	—	—	完形礫
6 礫	6	砂岩	3.95	2.88	1.48	19.7	E	—	—	△	—	
6 礫	7	砂岩	6.85	6.15	2.99	138.9	D	—	—	△	△	① 4+7+9
6 礫	8	砂岩	8.24	5.49	4.45	229.3	A	—	△	—	—	完形礫
6 礫	9	砂岩	3.97	3.03	2.10	31.5	E	—	—	—	—	① 4+7+9
6 礫	10	砂岩	4.32	4.27	1.55	24.3	E	—	—	○	—	
6 礫	11	砂岩	6.37	3.73	1.53	35.6	D	○	○	—	—	
6 礫	接合①	砂岩	8.56	5.95	3.38	208.3	C	—	—	△	△	接合3点 (4+7+9)

完形度：A (完形)・B (9割以上)・C (5割以上)・D (5割以下)・E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第11表 6号礫群出土礫属性表

### 7号礫群

遺 構 (第45・46図、第12表)

[位 置] (C-6) グリッド。TP9から検出。

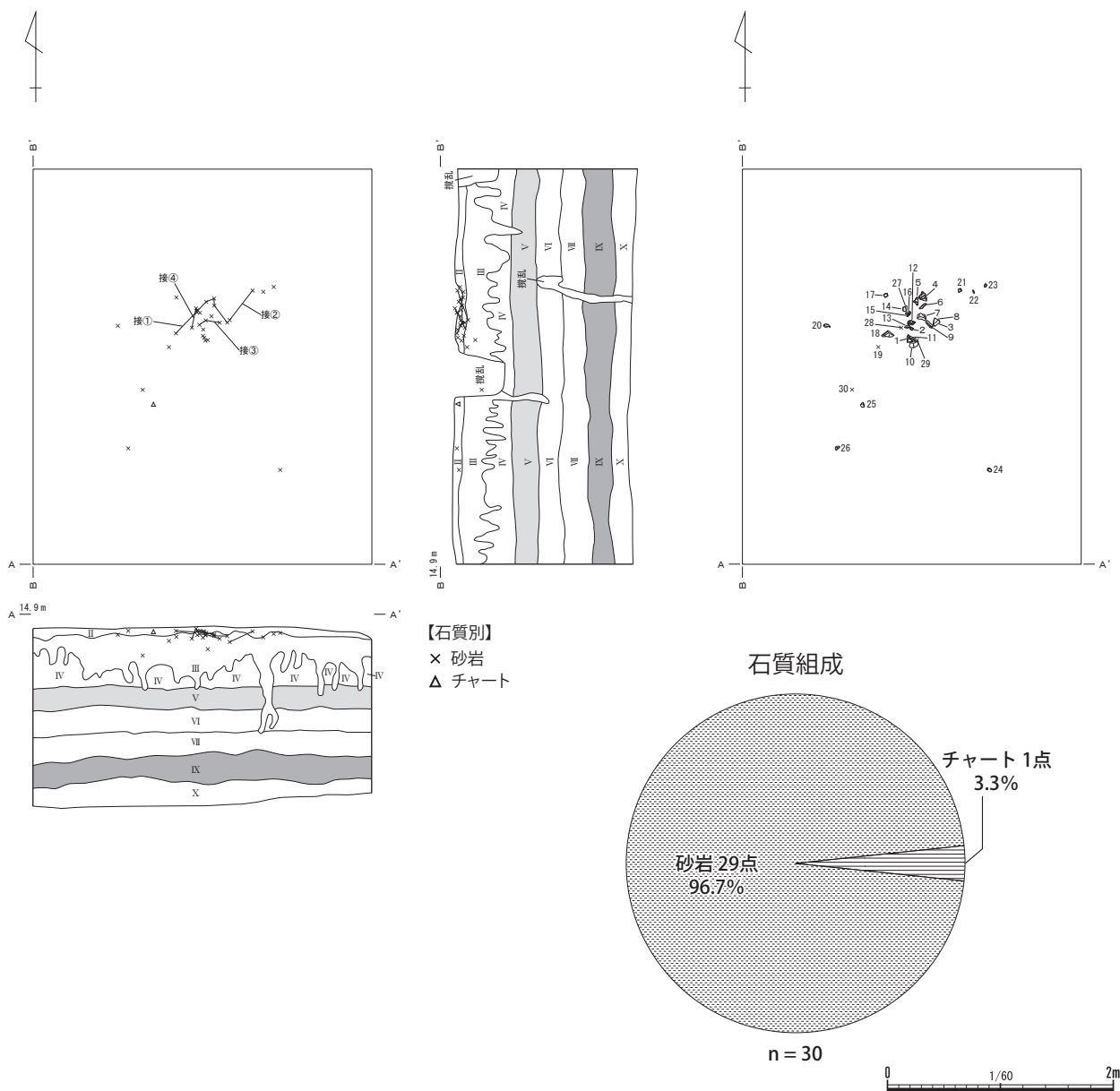
[検出状況] 上面は弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡 (653 Y)、中世以降のピット (72 P) 及び攪乱により削平され、これらの掘り込みの一部は礫の出土層位にまで達している。

[平面分布] 東西方向 1.44 m、南北方向 1.65 mの範囲で礫の分布が確認された。本遺構に伴う石器集中地点は検出されなかった。

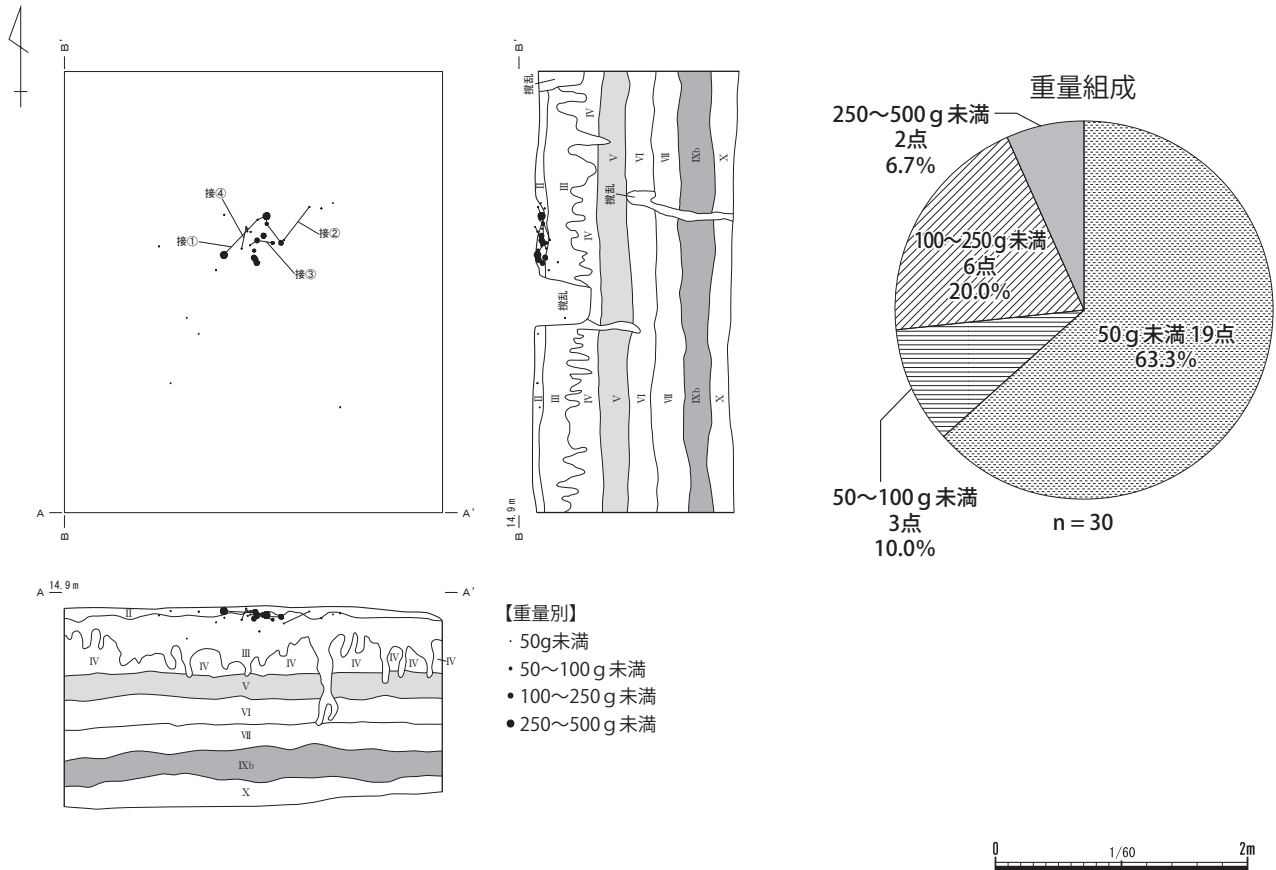
[出土層位] 礫は標高 14.53 ~ 14.77 mから出土しており、その分布はⅡ層下部~立川ローム層第Ⅲ層上部にまとまりをみせる。

[礫構成] 出土礫の総点数は 30 点で、いずれも破碎礫である。石質は砂岩 29 点 (96.7%)、チャート 1 点 (3.3%) で、3 ~ 6・18 の礫の他、4 例の接合関係が認められた (第 45 図)。

重量別の組成は 50 g 未満が 19 点、50 ~ 100 g 未満が 3 点、100 ~ 250 g 未満が 6 点、250 ~ 500 g 未満が 2 点で、50 g 未満の小礫が全体の 6 割以上を占める。礫表面の状態は、表面が赤化するものが 27 点、表面に付着物が認められるものが 3 点、破断面が赤化するものが 20 点、破断面に付着物が認められるものが 4 点である。



第 45 図 7号礫群 石質別分布図 (1 / 60)



第46図 7号礫群 重量別分布図 (1/60)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合関係ほか
7 礫	1	砂岩	5.64	4.05	4.53	113.9	D	○	-	-	-	
7 礫	2	砂岩	4.42	4.09	2.75	51.8	D	△	-	○	○	
7 礫	3	砂岩	6.90	6.41	2.26	109.7	D	○	-	○	-	① 3+4+5+6+18
7 礫	4	砂岩	7.61	3.87	2.06	250.8	D	○	-	○	-	① 3+4+5+6+18
7 礫	5	砂岩	8.14	8.18	3.82	46.3	D	○	-	○	-	① 3+4+5+6+18
7 礫	6	砂岩	7.72	5.76	1.93	64.7	D	○	-	○	-	① 3+4+5+6+18
7 礫	7	砂岩	7.73	4.92	3.27	127.7	D	○	-	○	○	
7 礫	8	砂岩	4.24	2.71	2.84	36.1	E	△	-	○	-	② 8+21
7 礫	9	砂岩	7.57	3.04	1.95	57.1	E	△	-	○	-	③ 9+12+13
7 礫	10	砂岩	6.63	4.25	3.79	151.2	D	△	-	-	-	
7 礫	11	砂岩	6.77	5.75	3.20	124.1	D	△	△	○	-	
7 礫	12	砂岩	8.85	6.64	3.39	219.5	D	○	-	○	-	③ 9+12+13
7 礫	13	砂岩	6.54	2.37	1.43	34.0	E	△	-	○	-	③ 9+12+13
7 礫	14	砂岩	5.40	3.68	1.97	34.8	D	△	-	○	-	④ 14+15+28
7 礫	15	砂岩	4.15	2.65	2.25	18.8	E	△	-	-	-	④ 14+15+28
7 礫	16	砂岩	4.73	2.13	1.55	14.9	E	○	○	○	○	
7 礫	17	砂岩	3.36	3.20	1.38	14.2	E	△	-	-	-	
7 礫	18	砂岩	11.45	7.76	5.71	262.0	D	○	-	○	-	① 3+4+5+6+18
7 礫	19	砂岩	1.85	1.63	1.22	3.5	E	-	-	-	△	

完形度：A (完形) , B (9割以上) , C (5割以上) , D (5割以下) , E (小破片)  
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第12表 7号礫群出土礫属性表 (1)

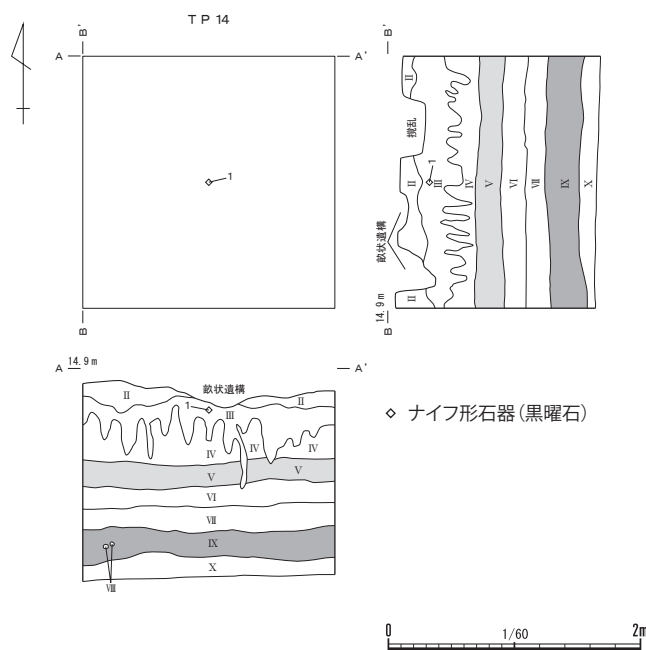
遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合関係ほか
7 礫	20	砂岩	5.12	3.98	2.42	42.3	D	—	—	△	—	
7 礫	21	砂岩	2.21	2.12	2.15	12.0	E	△	—	—	—	② 8+21
7 礫	22	砂岩	3.15	1.92	0.59	3.1	E	○	△	○	—	
7 礫	23	砂岩	2.64	1.69	1.09	5.9	E	○	—	○	—	
7 礫	24	砂岩	3.54	2.63	0.66	6.8	E	△	—	○	—	
7 礫	25	チャート	4.28	3.22	1.92	40.0	A	—	—	—	—	完形礫
7 礫	26	砂岩	3.71	2.20	1.68	13.6	E	△	—	—	—	
7 礫	27	砂岩	3.46	3.20	1.48	17.0	E	△	—	○	—	
7 礫	28	砂岩	1.78	1.45	0.74	1.9	E	△	—	—	—	④ 14+15+28
7 礫	29	砂岩	3.09	2.38	1.45	8.6	E	△	—	△	—	
7 礫	30	砂岩	2.63	1.66	1.57	6.6	E	△	—	—	—	
7 礫	接合①	砂岩	10.16	8.57	6.64	733.5	C	○	—	○	—	接合 5 点 (3+4+5+6+18)
7 礫	接合②	砂岩	4.69	2.78	2.95	48.1	D	△	—	○	—	接合 2 点 (8+21)
7 礫	接合③	砂岩	11.54	9.96	3.39	310.6	D	○	—	○	—	接合 3 点 (9+12+13)
7 礫	接合④	砂岩	5.75	3.51	2.14	55.5	D	△	—	○	—	接合 3 点 (14+15+28)

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）  
赤化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）—（なし）

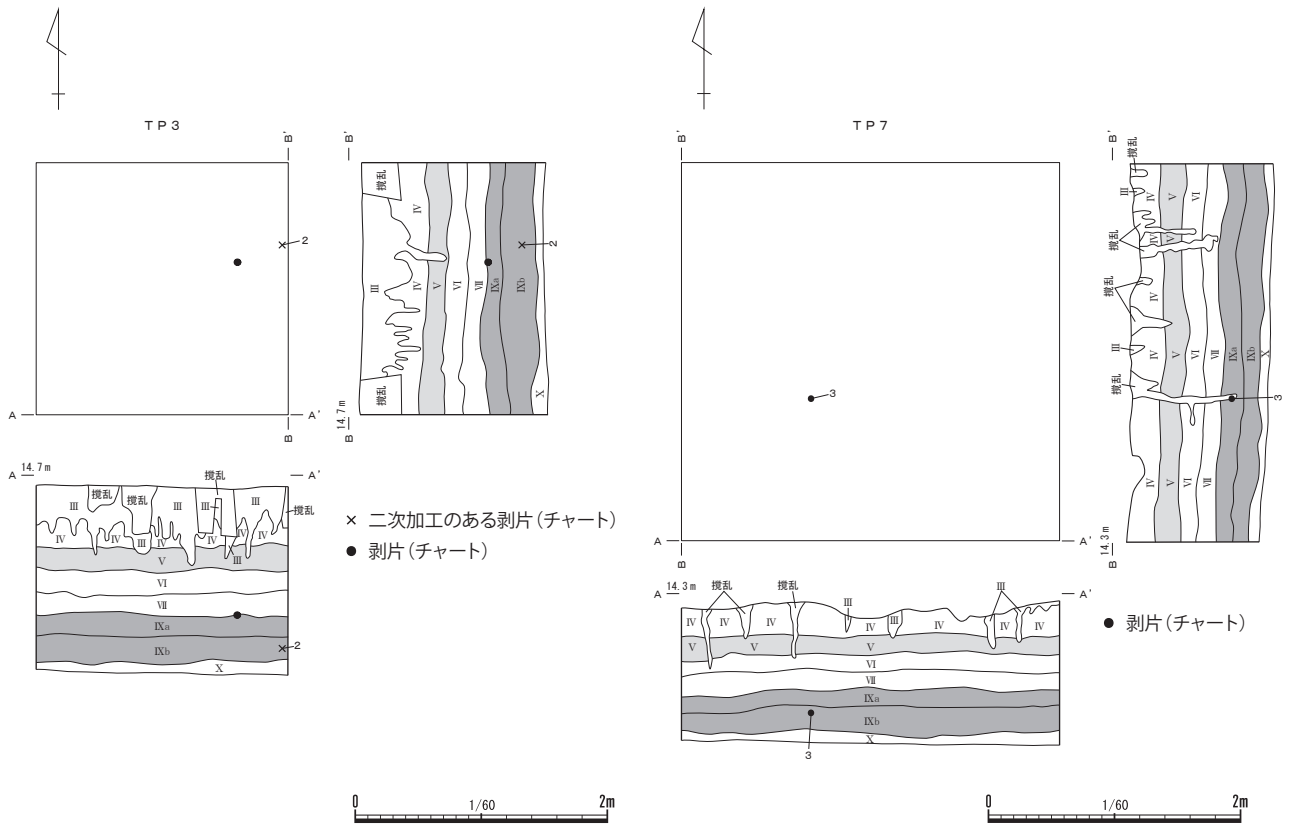
第 12 表 7 号礫群出土礫属性表（2）

（4）旧石器試掘坑出土石器（第 47～49 図、図版 39－2－1～3、第 13 表）

T P 3・7・14 において計 4 点、石器が単独で出土した。内訳は、T P 3 がチャート製の二次加工のある剥片 1 点（第 49 図 2）、剥片 1 点、T P 7 がチャート製の剥片 1 点（第 49 図 3）、T P 14 が黒曜石製のナイフ形石器 1 点（第 49 図 1）である。出土層位は、T P 14 が立川ローム第 III 層上部、T P 3・7 が立川ローム第 IX 層下部となる。



第 47 図 14 号旧石器試掘坑遺物出土状態（1 / 60）

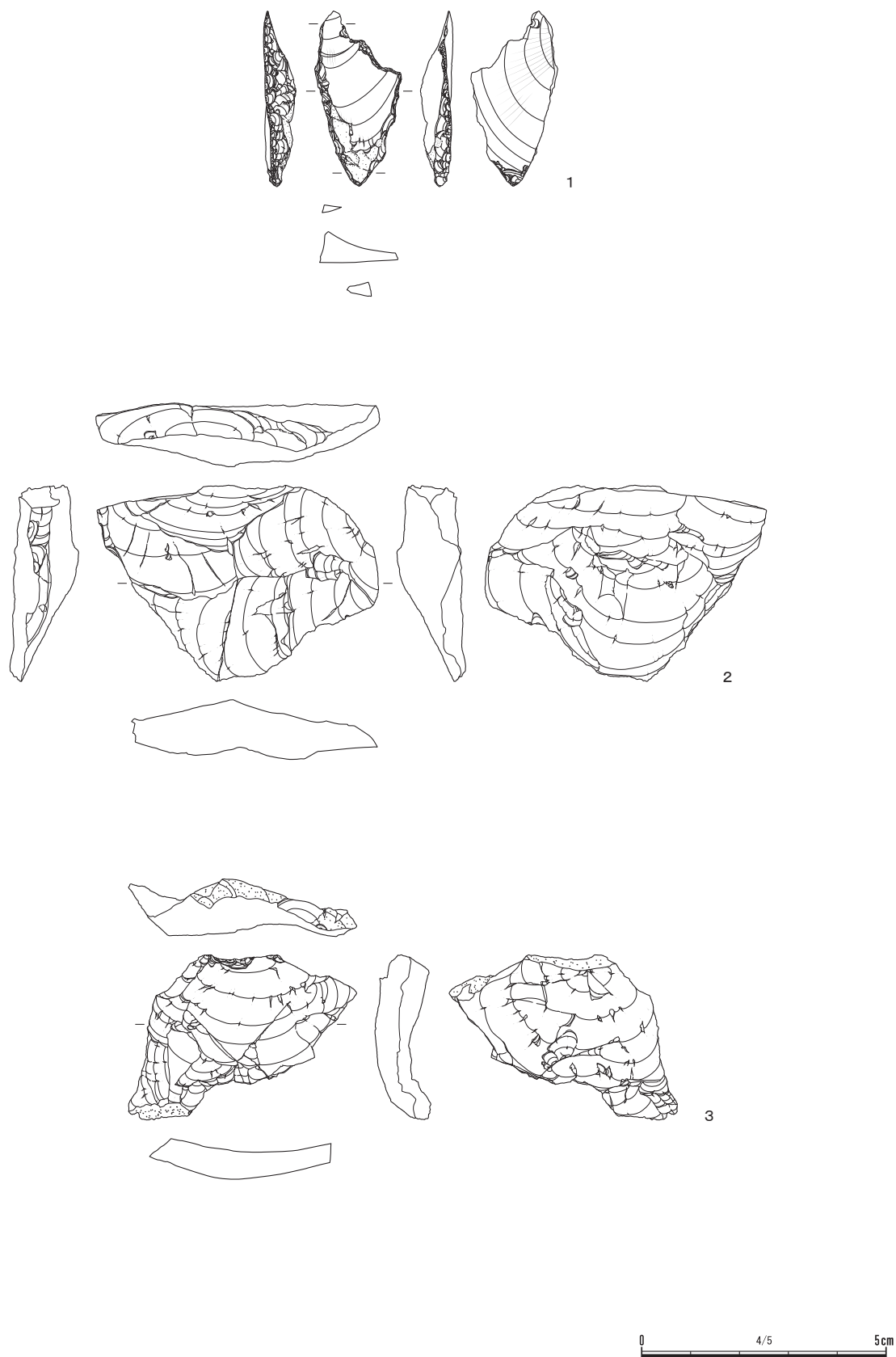


第48図 3・7号旧石器試掘坑遺物出土状態（1／60）

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置 出土遺構
第49図1 図版39-2-1	ナイフ形石器	黒曜石	3.58	1.77	0.66	2.54	完形／横長剥片を素材とし、横位に用いられる／二側縁加工（左側縁は全縁、右側縁は基部から中間部まで加工）／基部裏面に二次加工／正面側右側縁の中間部から先端部にかけて連続的な微細剥離／信州霧ヶ峰産	TP14
第49図2 図版39-2-2	二次加工のある剥片	チャート	4.01	5.75	1.40	26.53	打面側欠損／背面構成は主要剥離軸方向と順行・直交する剥離方向で構成／背面側の左側縁に部分的な二次加工	TP3
第49図3 図版39-2-3	剥片	チャート	3.37	4.66	1.14	10.03	完形／打面は節理面／背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成	TP7

第13表 旧石器試掘坑出土石器一覧





第49図 旧石器試掘坑出土遺物（4／5）

## 第2節 縄文時代の遺構・遺物

### (1) 概要

縄文時代の遺構については、炉穴1基(22 F P)・ピット1本(28 P)が検出された(第52図)。共に1区西端部に位置する。なお、遺構内から該期の遺物は出土しなかった。

### (2) 炉 穴

#### 22号炉穴

**遺 構** (第50図)

[位 置] (A-5) グリッド。

[検出状況] 現代の耕作等により、上面が削平される。

[構 造] 平面形：不整楕円形。規模：長軸0.58 m／短軸0.33 m／深さ0.08 m。壁：60°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-33°-E。

[覆 土] 4層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から縄文時代と考えられる。

### (3) ピット

#### 28号ピット

**遺 構** (第51図)

[検出状況] 攪乱により、西側上面が削平される。

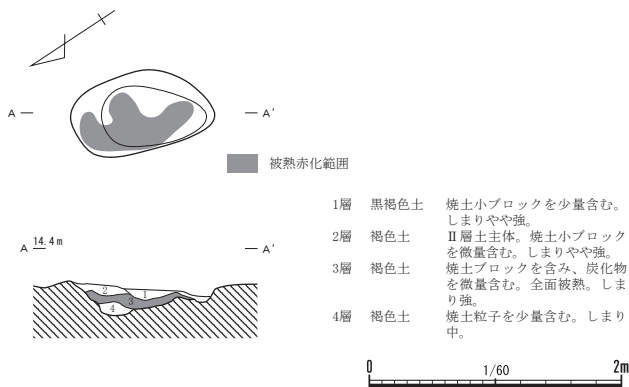
[位 置] (B-3) グリッド。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸0.41 m／短軸0.39 m／深さ0.26 m。

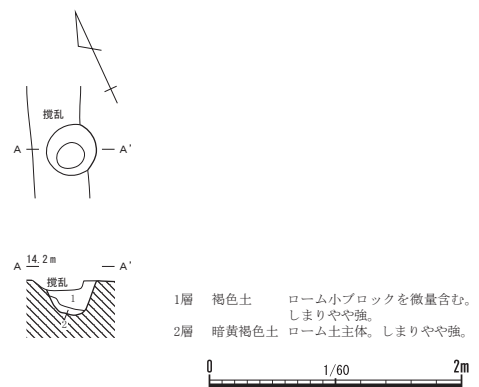
[覆 土] 2層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

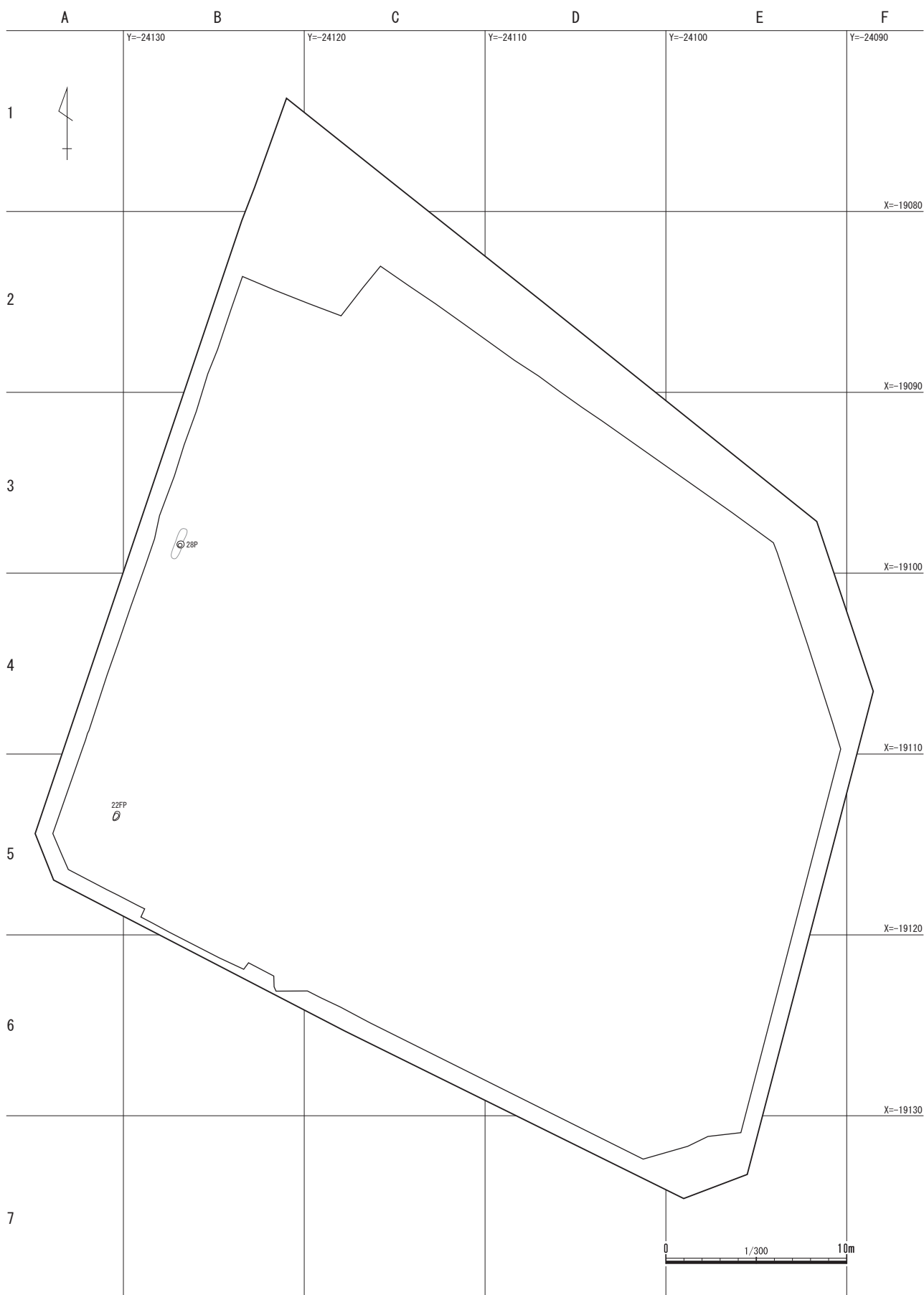
[時 期] 覆土の観察から縄文時代と考えられる。



第50図 22号炉穴 (1/60)



第51図 28号ピット (1/60)



第 52 図 縄文時代遺構分布図 (1 / 300)

## 第3節 弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物

### (1) 概要

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構については、住居跡 16 軒 (640～655 Y) が検出された (第 53 図)。時期は出土土器から弥生時代後期後葉～古墳時代前期前葉と考えられる。651・652 Y のみ重複するが、その他の住居跡は一定の間隔を置いて単独で検出された。また、遺構密度は北西から南東方向に向かうにつれ、徐々に濃くなっていく傾向が認められる。

住居跡の平面形は楕円形、隅丸方形 (隅丸長方形も含む)、方形の 3 形態が確認されており、その内訳は楕円形 2 軒 (644・647 Y)、隅丸方形 8 軒 (641・642・648・649・652・653・654・655 Y)、方形 6 軒 (640・643・645・646・650・651 Y) となり、隅丸方形・方形を基調とするものが主体を占める。また、651・655 Y は床面上からまとまって焼土や炭化材が検出されたことから、焼失住居と推測される。

その他、壁面に沿う形で、641・642・644・648・649・652・653 Y の計 7 軒から赤色砂利層が検出された。これらの住居跡は調査区の南半部に偏在する傾向が認められ、641 Y を除く 6 軒の住居跡はいずれも貯蔵穴に隣接する分布的特徴を有している。

### (2) 住居跡

#### 640 号住居跡

**遺 構** (第 54・55 図)

[位 置] (C-3) グリッド。

[検出状況] 中世以降の土坑 (952 D) 及びピット (81 P) に切られる。また、全面に南北方向に走る現代の耕作痕 (トレンチャー) が認められ、遺存状態はあまり良好ではない。

[構 造] 平面形：方形。規模：長軸 4.07 m / 短軸 3.90 m / 確認面からの深さ 0.34 m。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：N-77°-W。壁溝：検出されなかった。床面：全体にやや軟弱で、硬化面は検出されなかった。炉：住居中央やや東寄りに位置する。楕円形を呈する地床炉と推測されるが、東西両端をトレンチャーに切られ、全体規模は不明。残存範囲の規模：長軸 49cm / 短軸 26cm 以上 / 深さ 5 cm。中央部に被熱による赤化が確認された。貯蔵穴：住居北東コーナーで検出された。平面形は楕円形を呈し、ほぼ完形の埴形・甕形土器各 1 点が出土した。規模：長軸 60cm / 短軸 55cm / 床面からの深さ 33cm。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：住居全体に 4～10cm 程度の深さの掘り込みが確認された (3 層)。

[覆 土] 2 層に分層される。

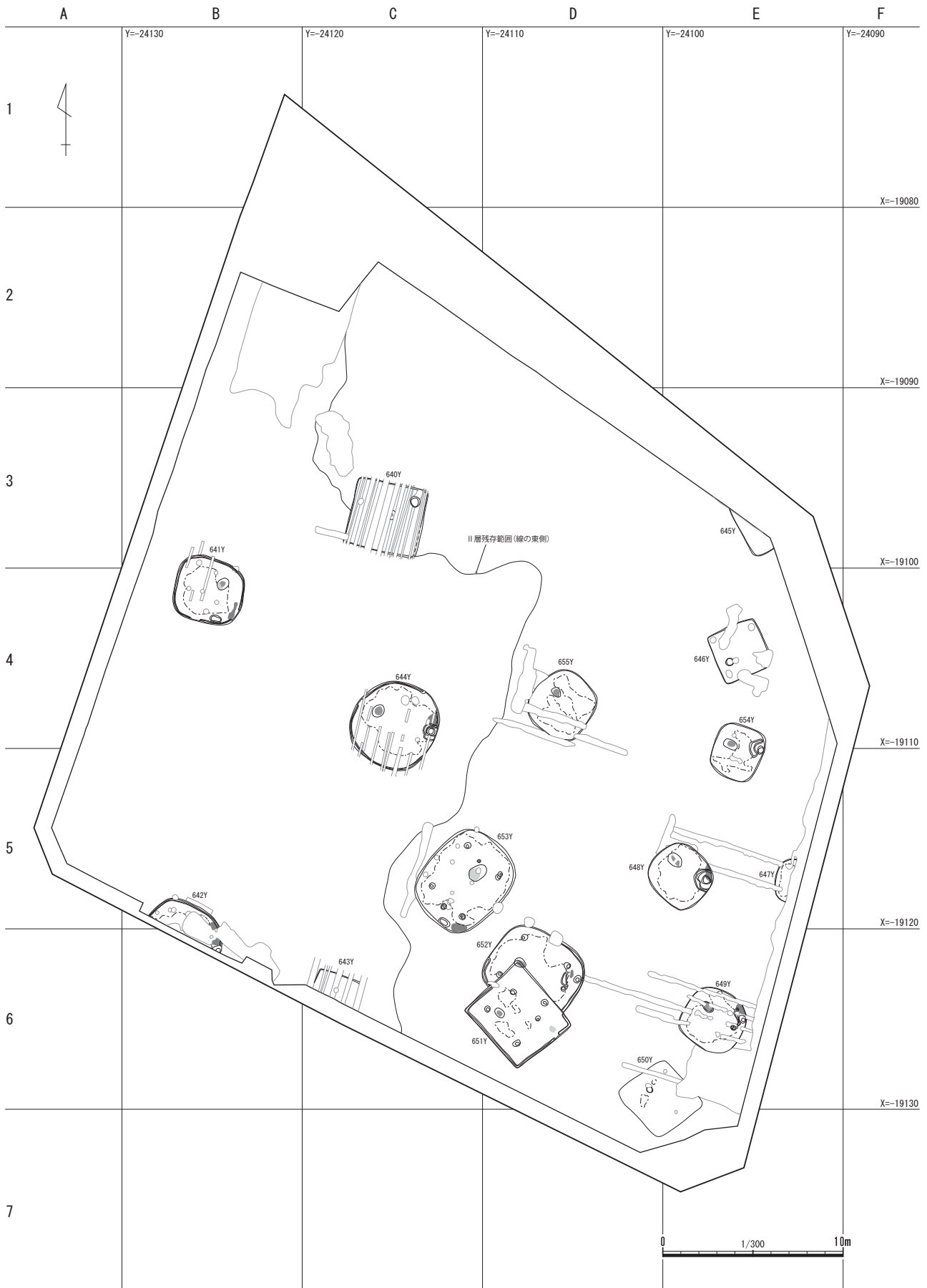
[遺 物] 床面付近及び貯蔵穴内から埴・壺・甕形土器が出土した。

[時 期] 古墳時代前期前葉。

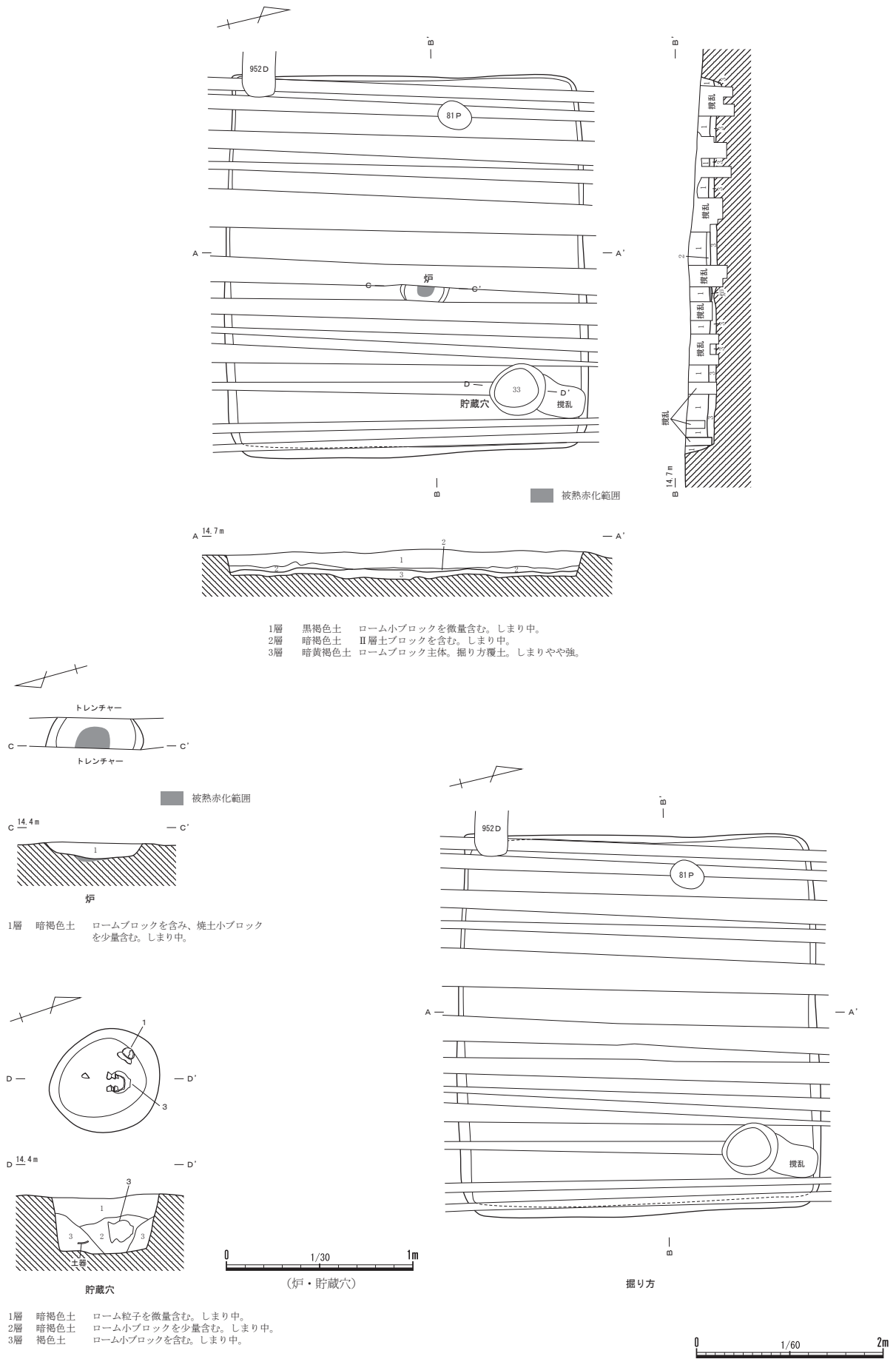
**遺 物** (第 56 図、図版 40-1、第 14 表)

[土 器] (第 56 図 1～7、図版 40-1-1～7、第 14 表)

1 は埴形土器、2・5 は壺形土器、3・4・6・7 は甕形土器である。

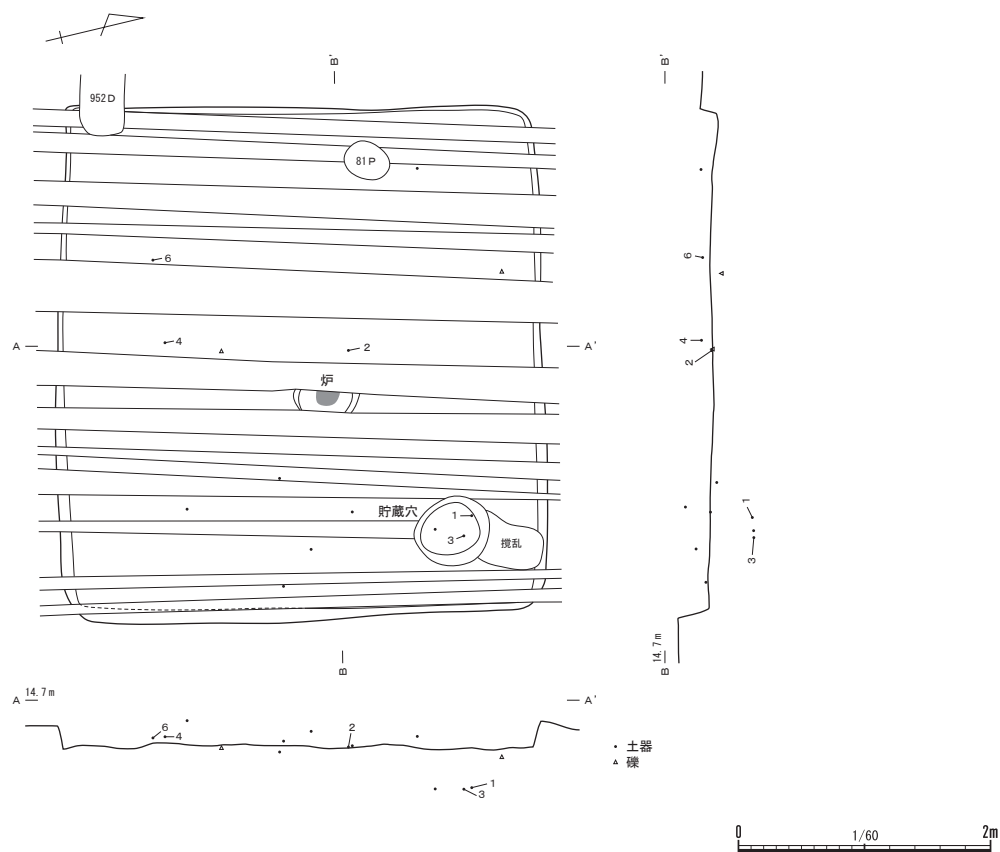


第53図 弥生時代後期～古墳時代前期遺構分布図 (1 / 300)

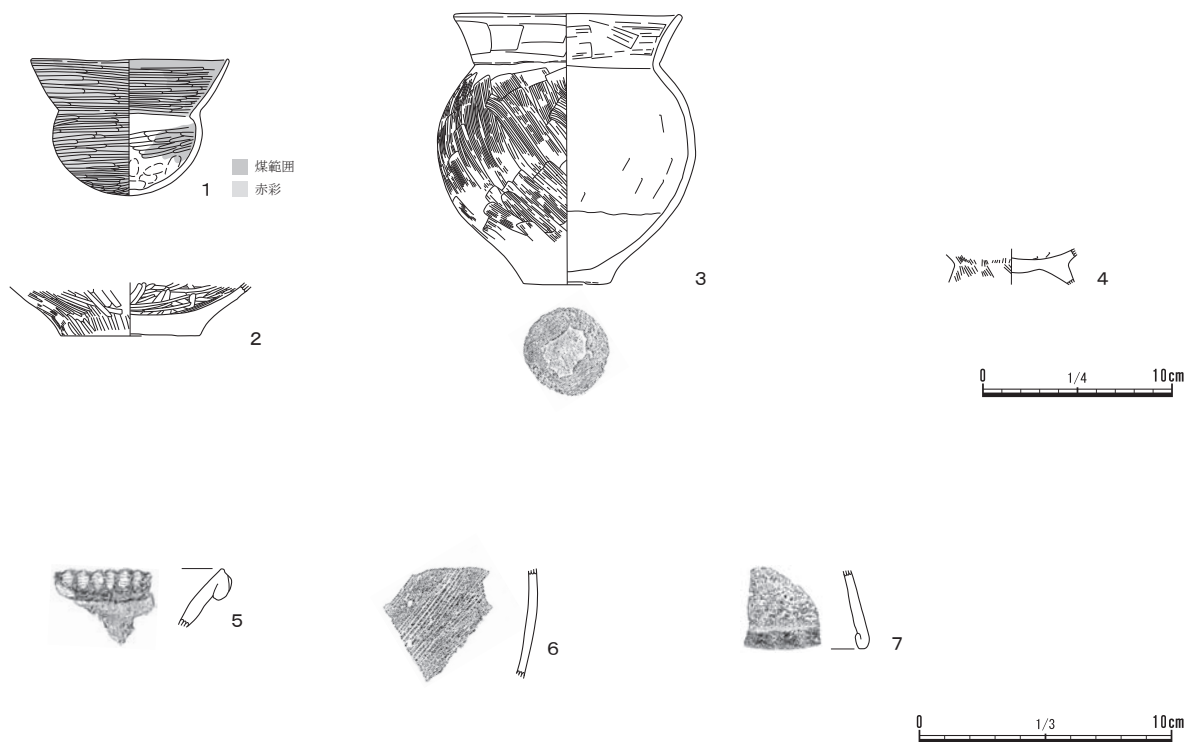


第54図 640号住居跡 (1/60・1/30)





第55図 640号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第56図 640号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第56図1 図版40-1-1	埴	ほぼ完形	口10.3 高7.2	口縁部は内湾気味に立ち上がる／口縁部と底部の境に明瞭な稜を有する／丸底	内面：口縁部～体部は横方向のヘラ磨き、底部は指頭押捺／外面：口唇部は横ナデ、以下横方向のヘラ磨き／口縁部内面及び外面全面赤彩／内外面二次被熱・煤付着（特に底部内面に著しい）／口縁部内面及び胴部外面の随所剥落（二次被熱の影響か）	にぶい黄褐色／シャモット・砂粒少量、石英微量	貯蔵穴覆土（底上6cm）
第56図2 図版40-1-2	壺	底部50%	高[2.8] 底(7.3)	底部は平底で、中央部が僅かに凹む	内面：縦・斜方向のヘラ磨き／外面：胴部は縦方向のハケ目調整後、縦・斜方向のヘラ磨き、底部はナデ（一部ヘラ磨き）	にぶい褐色／シャモット・砂粒・小礫中量	床面上（炉北側）
第56図3 図版40-1-3	甕	口縁部～底部90%	口11.8 高14.3 底4.6	口縁部は外反する／頸部外面に明瞭な輪積痕を残す／胴部は球形を呈し、中央部に最大径を有する／底部は中央部が凹むドーナツ底状を呈する	内面：口縁部は横方向のハケ目調整後ナデ、胴部は横方向のヘラナデ後ナデ／外面：口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラナデ、胴部は縦・斜方向のハケ目調整、胴部下端はナデ、底部はナデ、底部外縁に粘土紐貼付／内外面の広範囲に煤付着	にぶい褐色／石英・砂粒少量	貯蔵穴覆土（底上5cm）
第56図4 図版40-1-4	甕	脚部15%	高[1.9]	台付甕／脚部はハの字状に外方に開く	内面：粗い横方向のヘラナデ／外面：縦・斜方向のハケ目調整	にぶい黄褐色／砂粒中量、石英・小礫少量	床面上（炉南側）
第56図5 図版40-1-5	壺	口縁部破片	厚0.9	折返し口縁／口縁部は外反する	内面：ナデ／外面：口唇部はハケ刻み、口縁部はナデ	にぶい黄褐色／シャモット・砂粒少量	覆土下層一括
第56図6 図版40-1-6	甕	胴部破片	厚0.4	S字状口縁台付甕／薄手	内面：ナデ／外面：斜方向のハケ目（細）調整	にぶい赤褐色／金雲母中量、石英・砂粒・小礫少量	床面上（炉南西側）
第56図7 図版40-1-7	甕	脚部～裾部破片	厚0.4	S字状口縁台付甕／脚部はハの字状に外方に開く／袖部は内面に折返される	内面：ナデ／外面：ナデ	褐色／石英・小礫少量、砂粒微量	覆土下層一括

第14表 640号住居跡出土土器一覧

## 641号住居跡

## 遺構（第57・58図）

[位置] (B-3・4) グリッド。

[検出状況] 中世以降の土坑(954 D)及びピット(82～86 P)に切られる。また、部分的に南北方向に走る現代の耕作痕(トレンチャー)が認められる。

[構造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸3.88 m／短軸3.57 m／確認面からの深さ0.40 m。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：N-16°-E。壁溝：南壁沿いで2か所途切れるが、それ以外は全周する。幅10～17 cm／下幅3～8 cm／深さ4～10 cm。床面：壁際を除き、硬化面を検出した。貼床は全体的にやや薄く、3～7 cmの厚さで施されていた。炉：住居中央から北東方向に振れて位置する。楕円形を呈する地床炉で、炉壁南西側に灰白色粘土が被覆される。規模：長軸71 cm／短軸55 cm／深さ12 cm。中央部に被熱による赤化が確認された。貯蔵穴：住居南東コーナーで検出された。平面形は楕円形を呈する。規模：長軸65 cm／短軸37 cm／床面からの深さ13 cm。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：南東壁沿いで検出された。範囲：長軸104 cm／短軸33 cm。入口施設：検出されなかった。掘り方：北西壁沿い及び炉北側で、深さ8～18 cm程度の不整形の掘り込みが計3か所確認された(5～7層)。

[覆土] 4層に分層される。

[遺物] 炉東側から北東壁沿いに掛かる床面直上を中心に埴・壺・甕形土器が出土した。その他、赤色砂利層の外縁部から穿孔貝巢穴痕跡軟質泥岩が1点出土した。

[時期] 弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭。

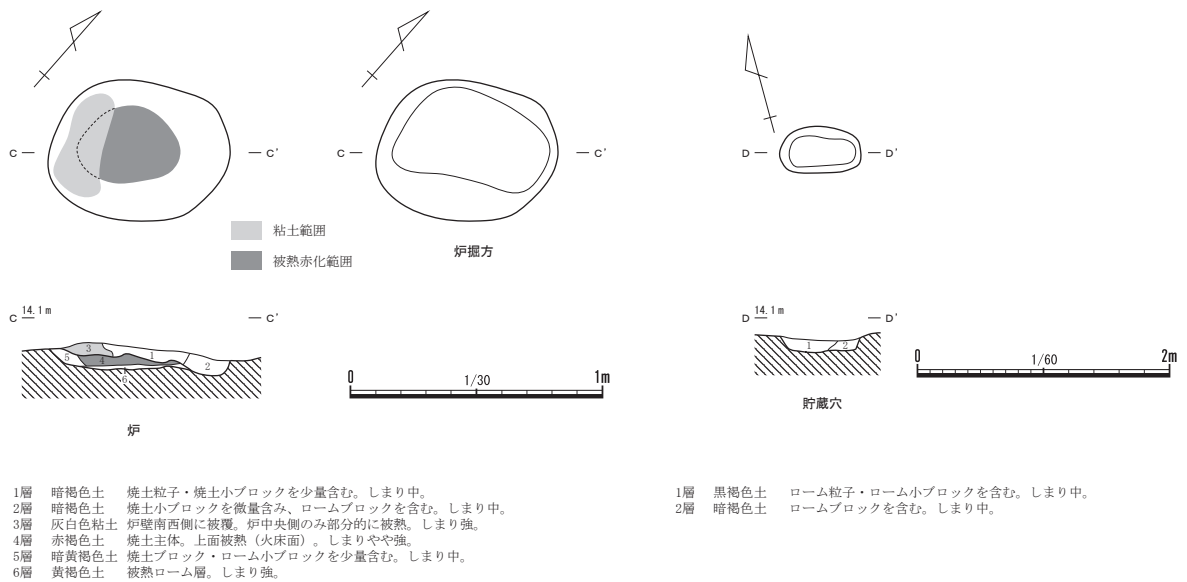
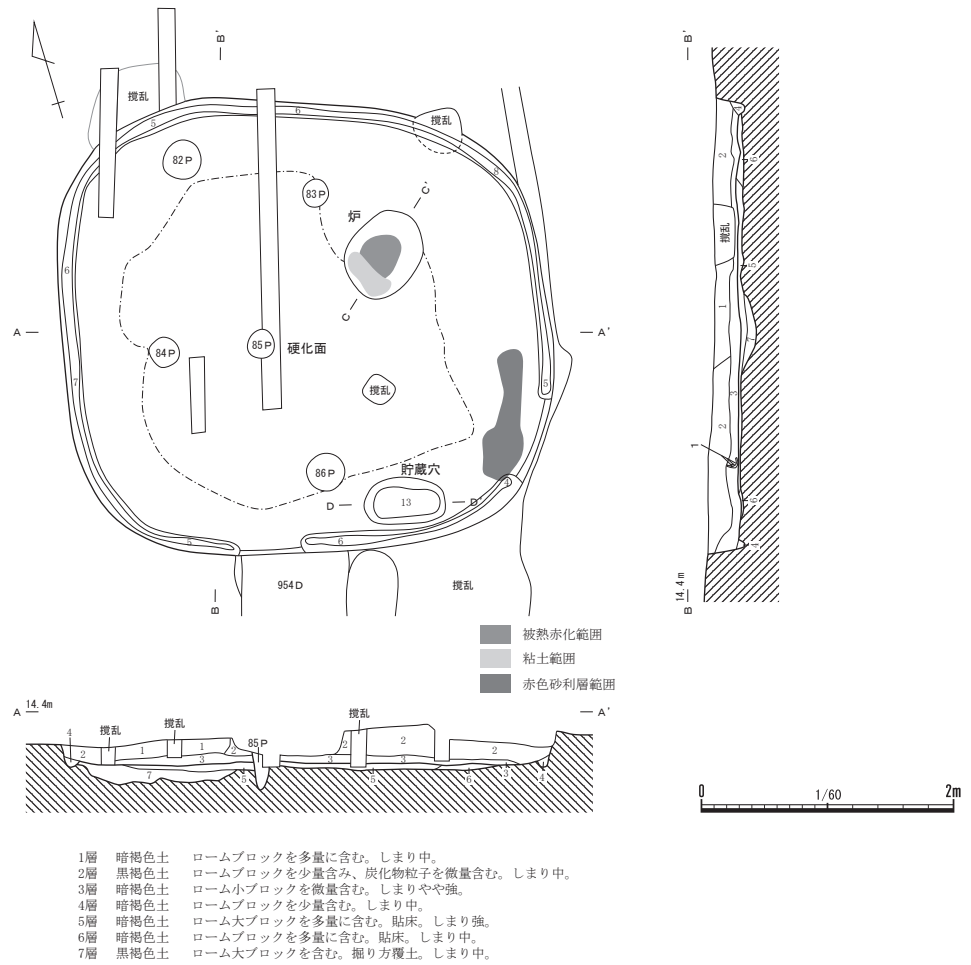
## 遺物（第59図、図版40-2、第15・16表）

[土器]（第59図1～6、図版40-2-1～6、第15表）

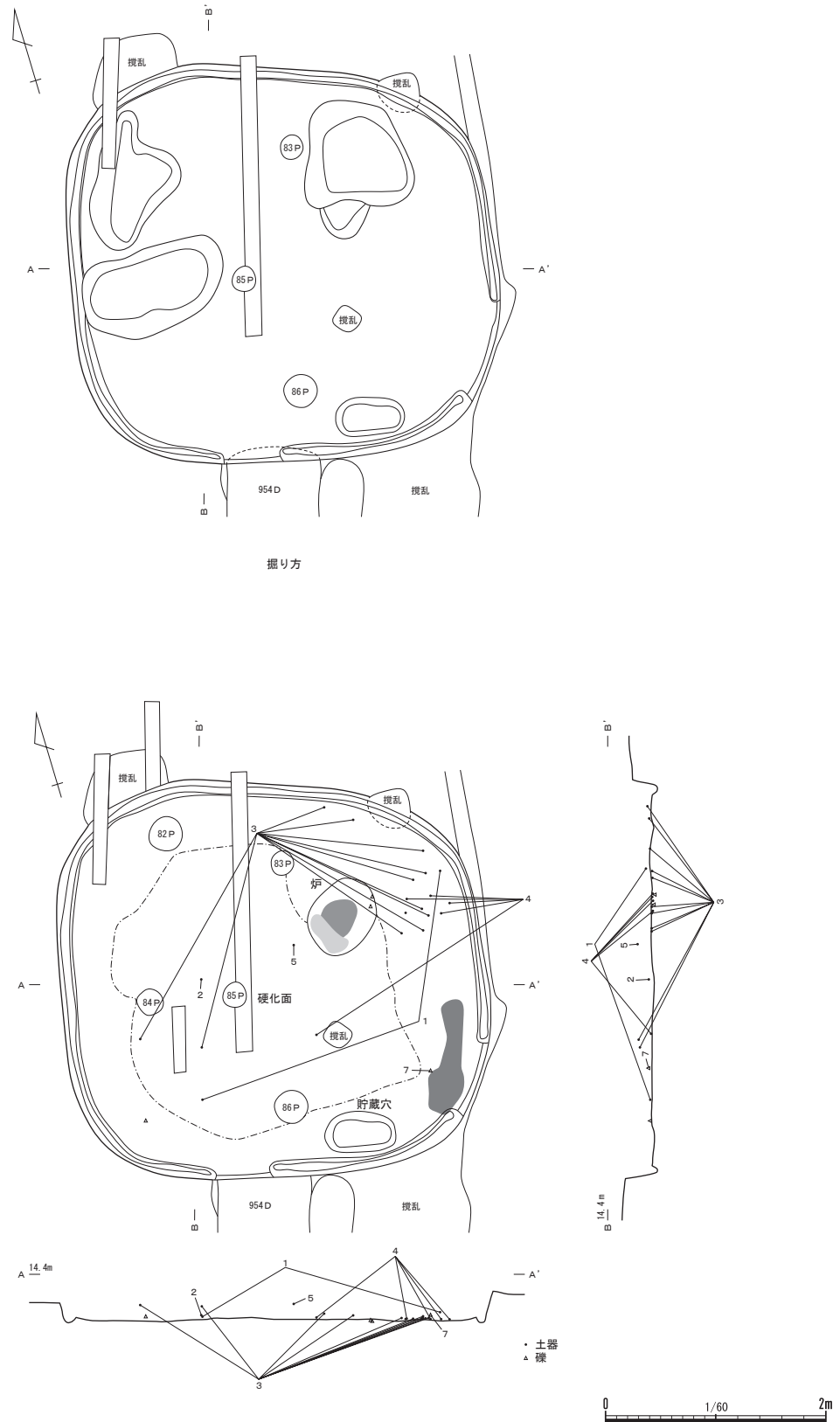
1は埴形土器、2～4は壺形土器、5・6は甕形土器である。

[その他]（第59図7、図版40-2-7、第16表）

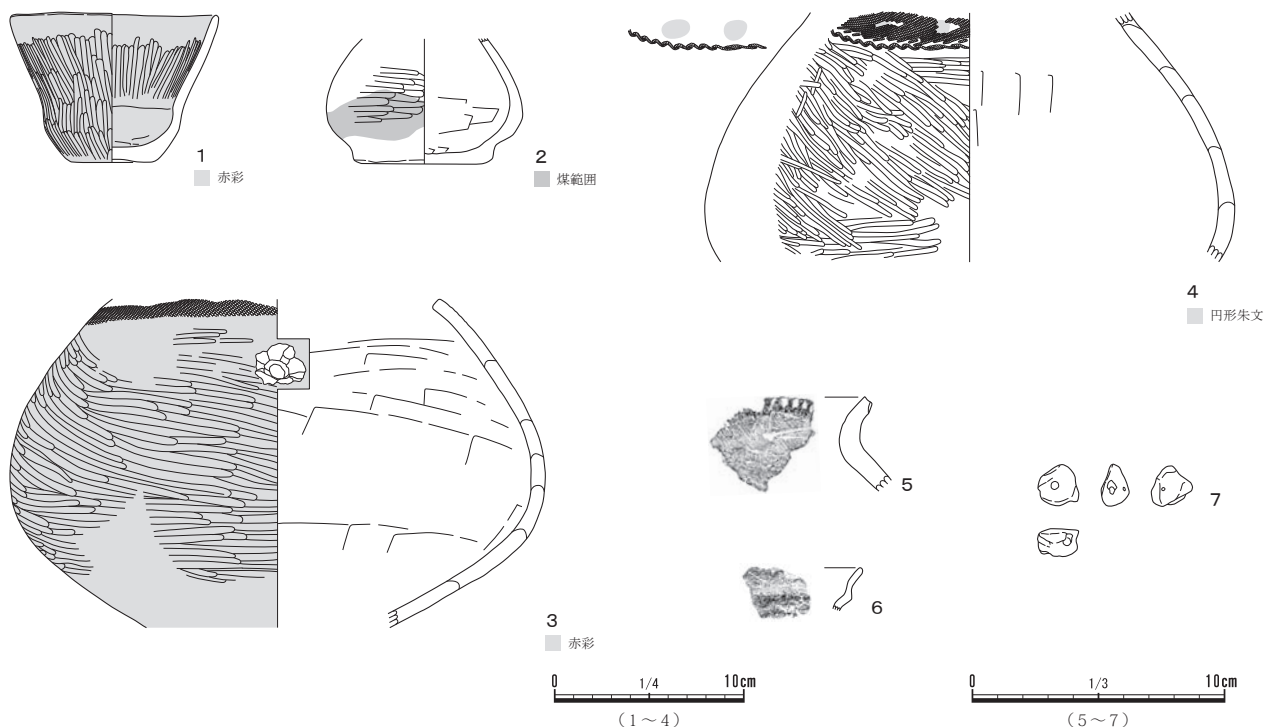
7は製塩関連遺物と考えられる穿孔貝巢穴痕跡軟質泥岩である。



第57図 641号住居跡 (1/60・1/30)



第 58 図 641 号住居跡掘り方・遺物出土状態 (1 / 60)



第59図 641号住居跡出土遺物（1/4・1/3）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第59図1 図版40-2-1	埴	ほぼ完形	口10.7 高7.9 底4.3	口縁部は長く外方に開く／口縁部と体部の境に緩やかな稜を有する（内面側の稜はやや鋭角）／体部は口縁部に近い上半部が僅かに張り出す／底部は上げ底である	内面：口唇部は横ナデ、口縁部は縦方向のヘラ磨き、体部はナデ、底部は横方向のヘラナデ後ナデ／外面：口唇部は横ナデ、口縁部～体部は縦方向のヘラ磨き、底部はナデ／内外面全面赤彩	にぶい橙色／シャモット多量、石英・砂粒少量	床面上 （北東コーナー及び南西コーナー付近）
第59図2 図版40-2-2	壺	胴部～ 底部 90%	高[6.6] 底6.6	小型壺／胴部は下膨れ状を呈する／底部は扁平な平底である	内面：横方向のヘラナデ／外面：摩滅のため不詳、横方向のヘラ磨きが部分的に残る／胴下半部外面に帯状に煤付着	浅黄橙色／金雲母・石英・角閃石少量、砂粒微量（東海系胎土）	床面上 （中央部）
第59図3 図版40-2-3	壺	肩部～ 胴部 80%	高[17.3]	胴部は下膨れ状を呈する／肩部側の破断面は僅かに研磨され、擬口縁状を呈する	内面：横方向のヘラナデ／外面：肩部に単節LR縄文を施文、胴部は横方向のヘラ磨き／胴部外面無文部赤彩／胴部に焼成後穿孔1孔（外面から内面に向かって打孔）	灰黄褐色／シャモット・砂粒中量、石英・長石・小礫少量	床面上 （炉北・東側）
第59図4 図版40-2-4	壺	肩部～ 胴部 10%	高[13.1]	胴部は下膨れ状を呈する	内面：摩滅のため不詳、横方向のヘラナデが部分的に残る／外面：肩部に上から順に斜縄文LR＋円形朱文、S字状結節文（自縄結節）を施文、胴部は斜・横方向のヘラ磨き	灰白色／灰黄色粒子多量、砂粒・小礫中量（東海系胎土）	床面上 （北東コーナー及び中央部）
第59図5 図版40-2-5	甕	口縁部～ 頸部 破片	厚0.9	口縁部は外反する／頸部は「く」字状に屈曲する	内面：口縁部は横方向のヘラナデ、頸部はナデ／外面：口唇部は棒状工具による刻み、頸部は斜方向のハゲ目（細）調整後ナデ	にぶい黄褐色／砂粒・小礫少量	覆土下層 （炉南西側、 床上15cm）
第59図6 図版40-2-6	甕	口縁部 破片	厚0.4	S字状口縁台付甕／薄手	内面：横ナデ／外面：横ナデ	にぶい黄褐色／砂粒少量	覆土下層 一括

第15表 641号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第59図7 図版40-2-7	礫	穿孔貝巢穴痕跡軟質泥岩	1.6	1.6	1.1	1.1	製塩関連遺物と考えられている／3孔（貫通孔1、未貫通孔2）	赤色砂利層 外縁

第16表 641号住居跡出土礫一覧

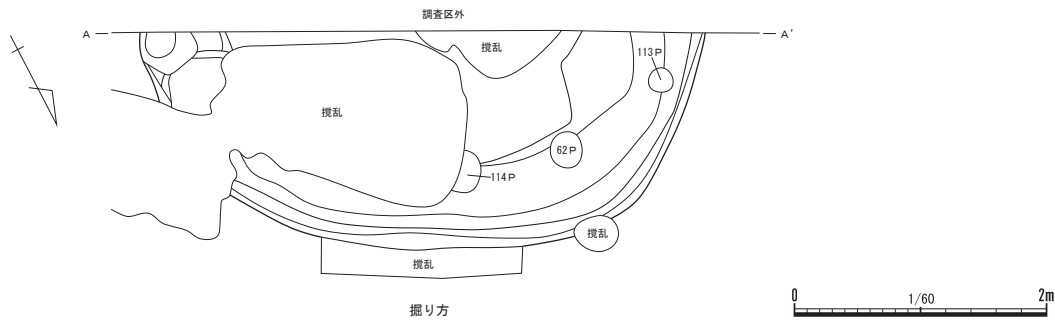
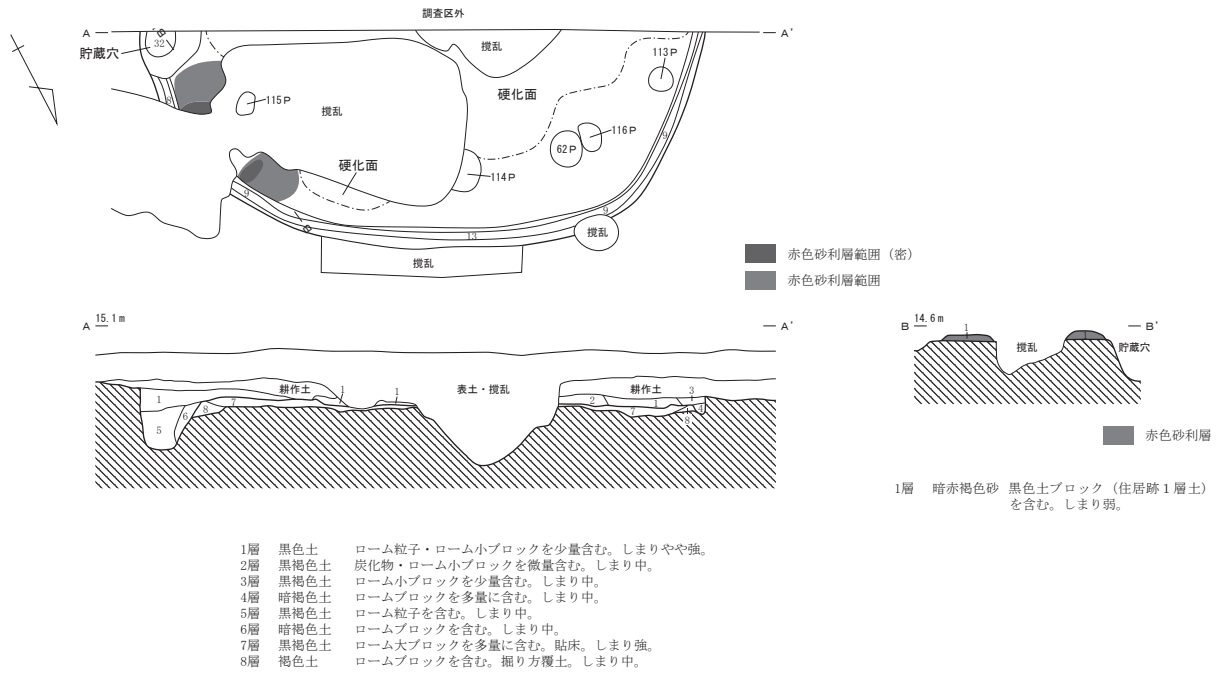
642号住居跡

遺構 (第60図)

[位置] (B-5・6) グリッド。

[検出状況] 中世以降のピット (62・113・114 P) の他、複数の攪乱に切られる。南側の大部分は調査区外に延びる。

[構造] 平面形：隅丸方形か。規模：長軸 4.46 m以上／短軸 1.74 m以上／確認面からの深さ 0.21 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-63°-W。壁溝：貯蔵穴との接続部を除き、調査区内では全周する。幅 11～18cm／下幅 2～8cm／深さ 8～13cm。床面：壁際を除き、硬化面を検出した。貼床は全体的にやや薄く、4～8cmの厚さで施されていた。炉：調査区内では検出されなかった。貯蔵穴：住居東コーナーで検出された。楕円形を呈すると推測されるが、南側は調査区外に延びるため、全体規模は不明。残存範囲の規模：長軸 49cm／短軸 38cm以上／床面からの深さ 32cm。柱穴：調査区内では検出されなかった。赤色砂利層：貯蔵穴北側に隣接する住居北東壁溝沿いで検出された。長軸



第60図 642号住居跡 (1 / 60)



131cm×短軸 51cmの範囲で、高さ 5～7 cmの台形状の高まりが確認された。入口施設：調査区内では検出されなかった。掘り方：住居中央を広く残し、壁溝内縁に沿う相似形に、深さ 12～18cmの溝状の掘り込みが確認された（7・8層）。

[覆 土] 6層に分層される。

[遺 物] 壺・甕形土器の小破片が出土した。

[時 期] 弥生時代後期～古墳時代前期。

**遺 物**（第 61 図、図版 41－1、第 17 表）

[土 器]（第 61 図 1、図版 41－1－1、第 17 表）

1 は壺形土器である。



第 61 図 642 号住居跡出土遺物（1 / 4）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器 形・形 態	文 様・調 整 等	胎 土	出土位置
第61図 1 図版 41-1-1	壺	底部 100%	高 [4.0] 底 7.2	胴部はやや丸みをもって 立ち上がる／底部はほぼ 平坦な平底である	内面：ナデ／外面：胴部は横方向のヘラ磨き、胴部下端は 横方向のヘラナデ（ヘラ削りに近い）、底部はナデ	橙色／シャモット 中量、小礫少量、 雲母微量	試掘 10Tr 16Y 一括

第 17 表 642 号住居跡出土土器一覧

### 643 号住居跡

**遺 構**（第 62 図）

[位 置]（C－6）グリッド。

[検出状況] 複数の攪乱に切られる。また、ほぼ全面に南北方向に走る現代の耕作痕（トレンチャー）が認められ、遺存状態はあまり良好ではない。南側の大部分は調査区外に延びる。

[構 造] 平面形：方形。規模：長軸 2.42 m 以上／短軸 1.51 m 以上／確認面からの深さ 0.19 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：不明。壁溝：調査区内では検出されなかった。床面：全体にやや軟弱で、調査区内では硬化面は検出されなかった。炉：調査区内では検出されなかった。貯蔵穴：調査区内では検出されなかった。柱穴：調査区内では検出されなかった。赤色砂利層：調査区内では検出されなかった。入口施設：調査区内では検出されなかった。掘り方：調査区内では検出されなかった。

[覆 土] 4層に分層される。

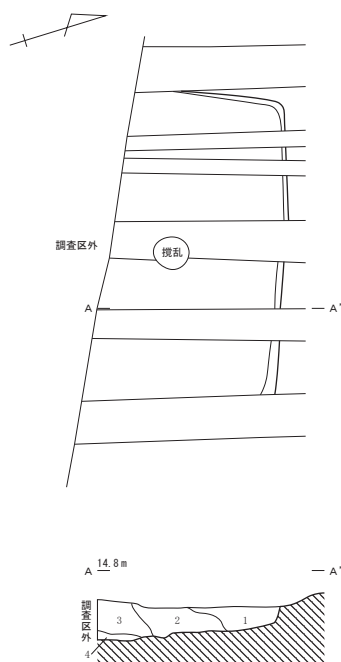
[遺 物] 高坏・壺形土器が出土した。

[時 期] 弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭。

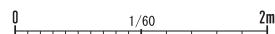
**遺 物**（第 63 図、図版 41－2、第 18 表）

[土 器]（第 63 図 1～4、図版 41－2－1～4、第 18 表）

1・2 は高坏形土器、3・4 は壺形土器である。



- 1層 黒褐色土 ローム大ブロックを含む。しまりやや強。
- 2層 黒褐色土 ローム大ブロックを多量に含む。しまりやや強。
- 3層 黒褐色土 ローム大ブロックを少量含む。しまり中。
- 4層 黄褐色土 ロームブロック主体。黒褐色土ブロックを少量含む。しまりやや強。



第62図 643号住居跡 (1/60)



第63図 643号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第63図1 図版41-2-1	高坏	口縁部 破片	口(10.2) 高[2.3]	口縁部は外反する	内面:口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ磨き/外面: 口唇部は横ナデ、口縁部は縦方向のヘラ磨き/内外面赤彩	にぶい橙色/シャ モット・砂粒・小 礫少量、石英微量	覆土下層 一括
第63図2 図版41-2-2	高坏	口縁部 破片	厚0.4	口縁部は外反する	内外面:口唇部は横ナデ、口縁部は縦・斜方向のヘラ磨き /口縁部外面に未貫通の小孔(孔径0.1cm)1か所/内外 面赤彩	にぶい赤褐色/ 砂粒・小礫少量	覆土下層 一括
第63図3 図版41-2-3	壺	口縁部 破片	厚0.9	複合口縁/口縁部は内傾 し、口唇部に面を有する	内面:横方向のハゲ目調整/外面:口唇部は横方向のハゲ目 調整、口縁部は斜方向のハゲ目調整後、横方向のヘラ磨き	にぶい赤褐色/ シャモット・砂 粒・小礫少量、雲 母微量	覆土下層 (中央部、 床上19cm)
第63図4 図版41-2-4	壺	肩部 破片	厚0.7	僅かに内湾する	内面:ナデ/外面:上から順に櫛描波状文(8条)・直線文 (8条)・波状文(8条)を施文/外面赤彩	にぶい黄橙色/ シャモット・砂 粒・小礫少量	覆土下層 一括・ 試掘10Tr 15Y一括

第18表 643号住居跡出土土器一覧

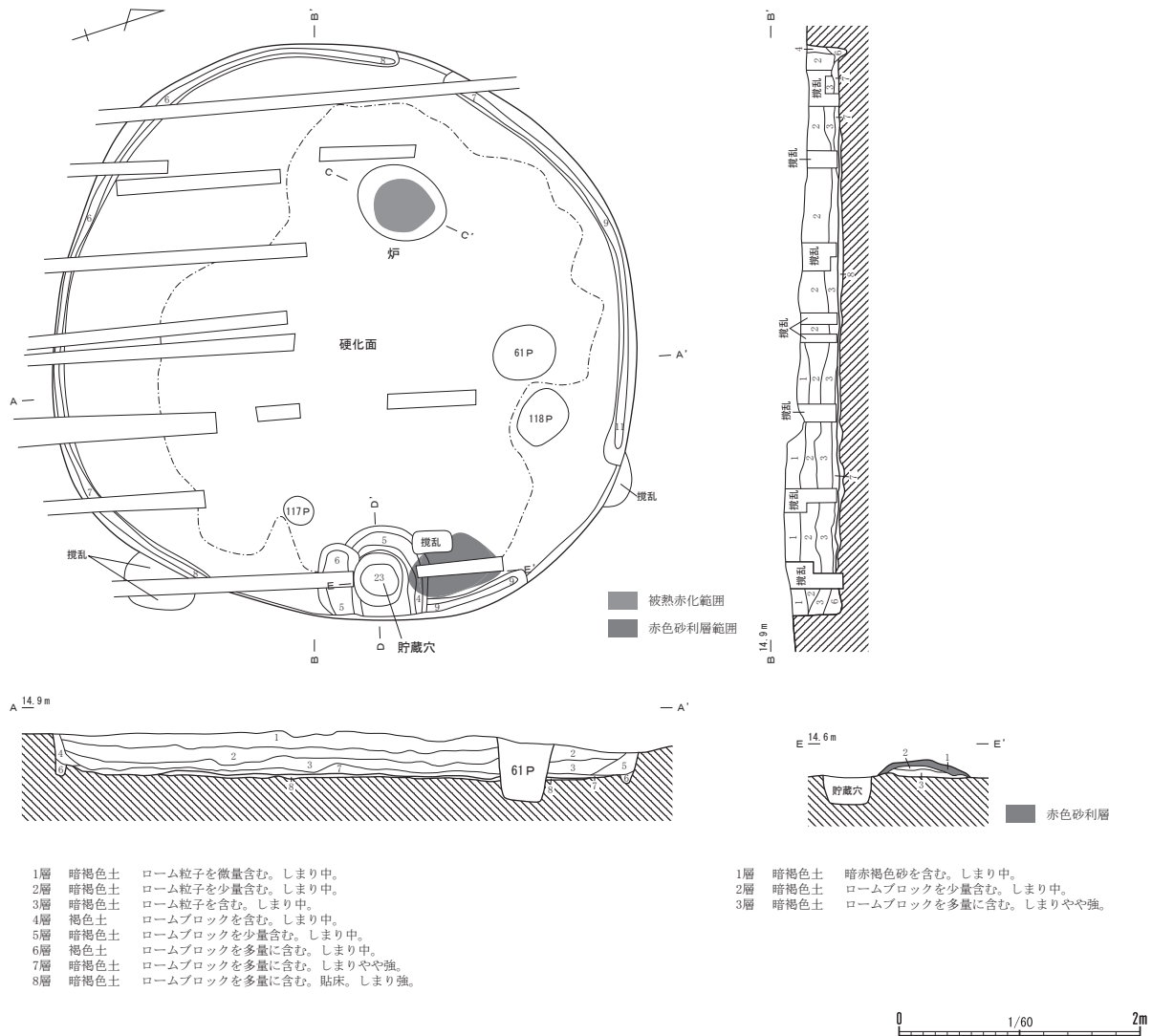
### 644号住居跡

#### 遺 構 (第64～67図)

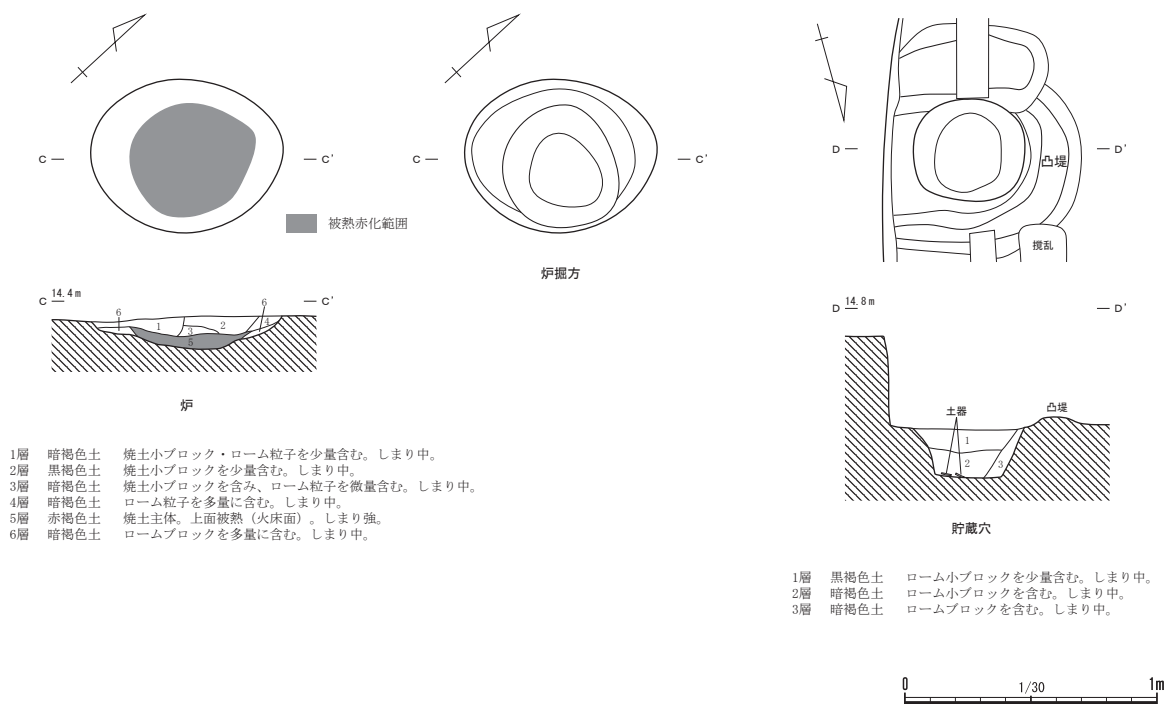
[位 置] (C-4・5) グリッド。

[検出状況] 中世以降のピット (61・117・118 P) の他、複数の攪乱に切られる。また、部分的に南北方向に走る現代の耕作痕 (トレンチャー) が認められる。

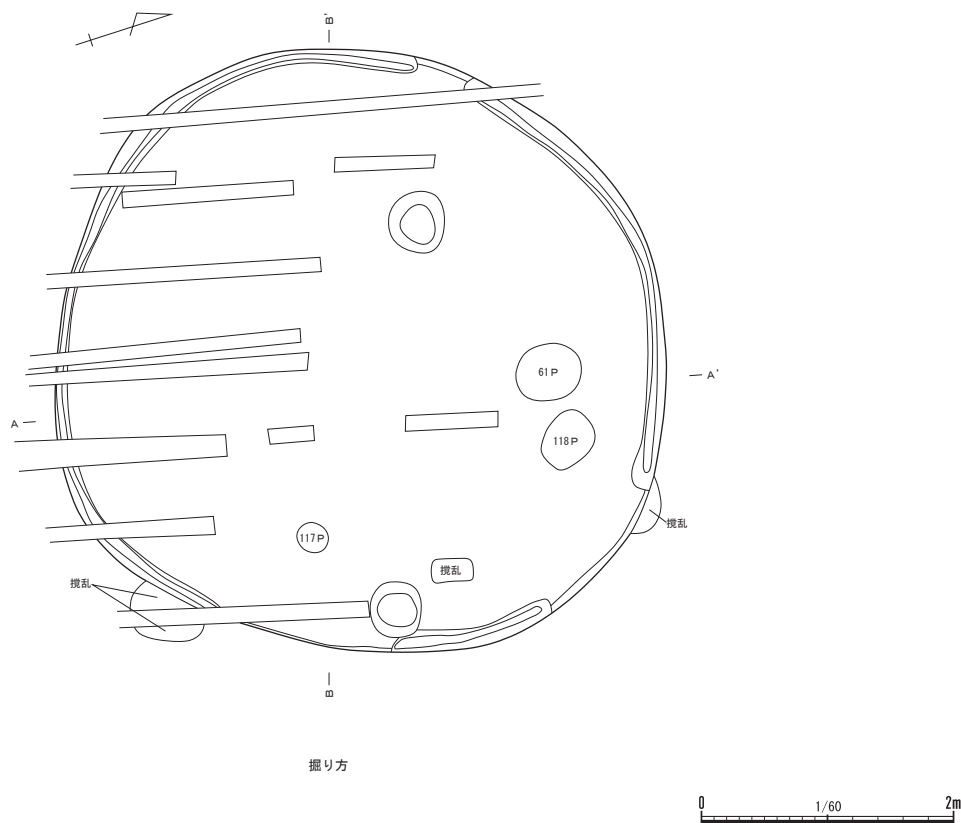
[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸 4.89 m / 短軸 4.69 m / 確認面からの深さ 0.43 m。壁：垂直に立ち上がる。主軸方位：N-52°-W。壁溝：北西・北東・南東壁沿いで3か所程度途切れるが、それ以外は全周する。幅 7～21 cm / 下幅 3～8 cm / 深さ 6～12 cm。床面：住居北東半部を中心に硬化面を検出した。貼床は全体的に薄く、2～6 cmの厚さで施されていた。炉：住居中央北西寄りに位置する。楕円形を呈する地床炉で、中央部に被熱による赤化が確認された。規模：長軸 76 cm / 短軸 60 cm / 深さ 14 cm。貯蔵穴：住居東壁沿いで検出された。平面形は不整形円形を呈する。規模：長軸 45 cm / 短軸 43 cm / 床面からの深さ 23 cm。周囲には幅 14～34 cm、高さ 2～6 cmの凸堤が馬蹄形に巡る。柱穴：検出さ



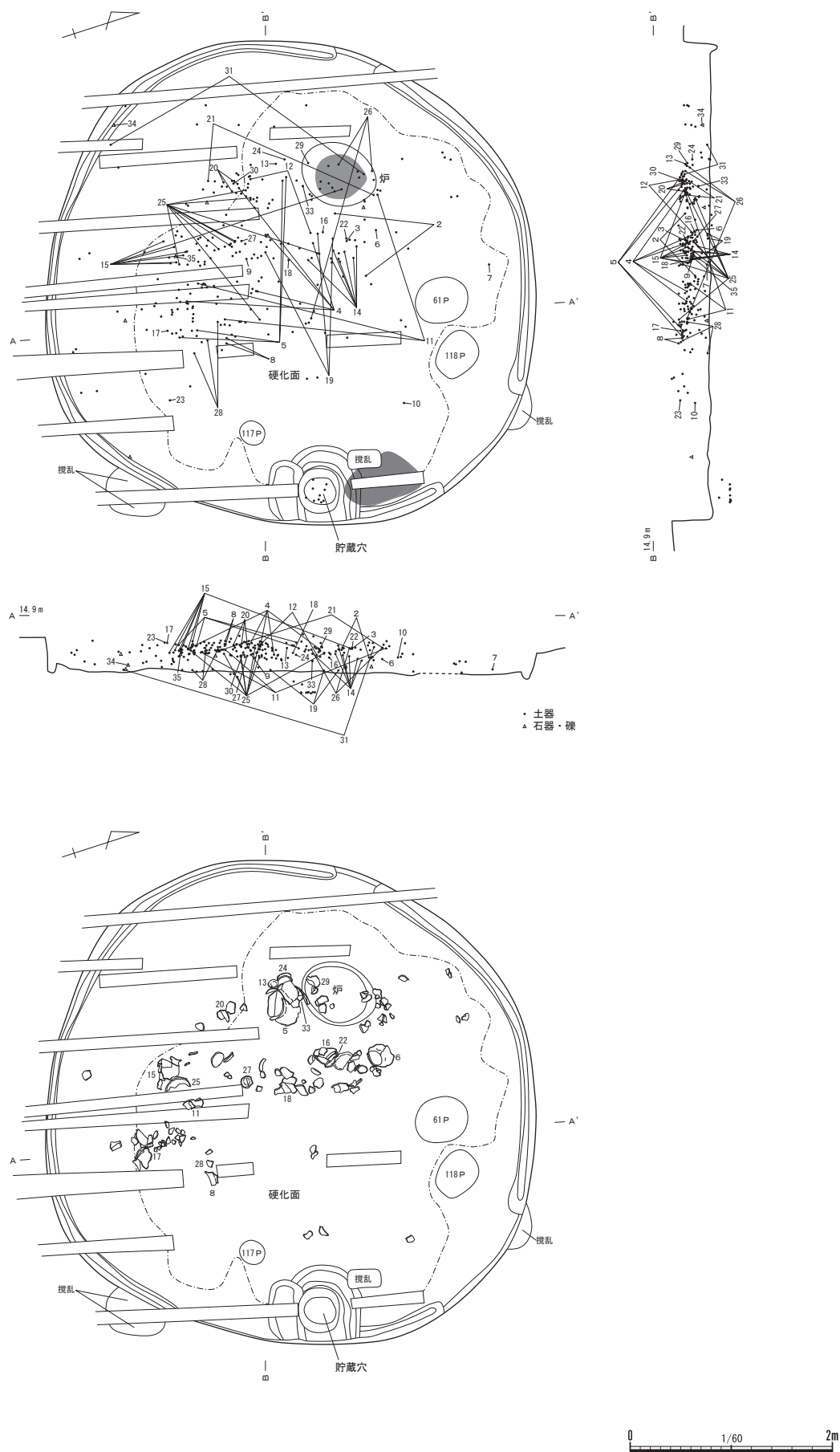
第64図 644号住居跡 (1 / 60)



第65図 644号住居跡炉・貯蔵穴（1／30）



第66図 644号住居跡掘り方（1／60）



第 67 図 644 号住居跡遺物出土状態 (1 / 60)

れなかった。赤色砂利層：貯蔵穴北側に設けられた凸堤の一部を覆うように住居東壁溝沿いで検出された。長軸 77cm×短軸 49cmの範囲で、高さ 10～15cm程度の凸状の高まりが確認された。入口施設：検出されなかった。掘り方：住居全体に 1～6cm程度の深さの掘り込みが確認された（8層）。

[覆土] 7層に分層される。

[遺物] 住居中央西寄りに集中して、高坏・埴・壺・甕・器台形土器が大量に出土した。7割以上は覆土上層からの出土であるが、それらの土器群と、床面直上及び貯蔵穴内から出土した土器群とは時期差が認められる。このことから、覆土上層から出土した土器群は本住居には伴わず、住居廃絶後に別住居等から投棄・廃棄された可能性が考えられる。覆土上層から出土した土器群と、本住居東側に近接する 653・655 Y 出土土器との間で接合関係が複数認められており、投棄・廃棄の可能性を傍証するものと言えよう。

[時期] 弥生時代後期後葉～末葉。

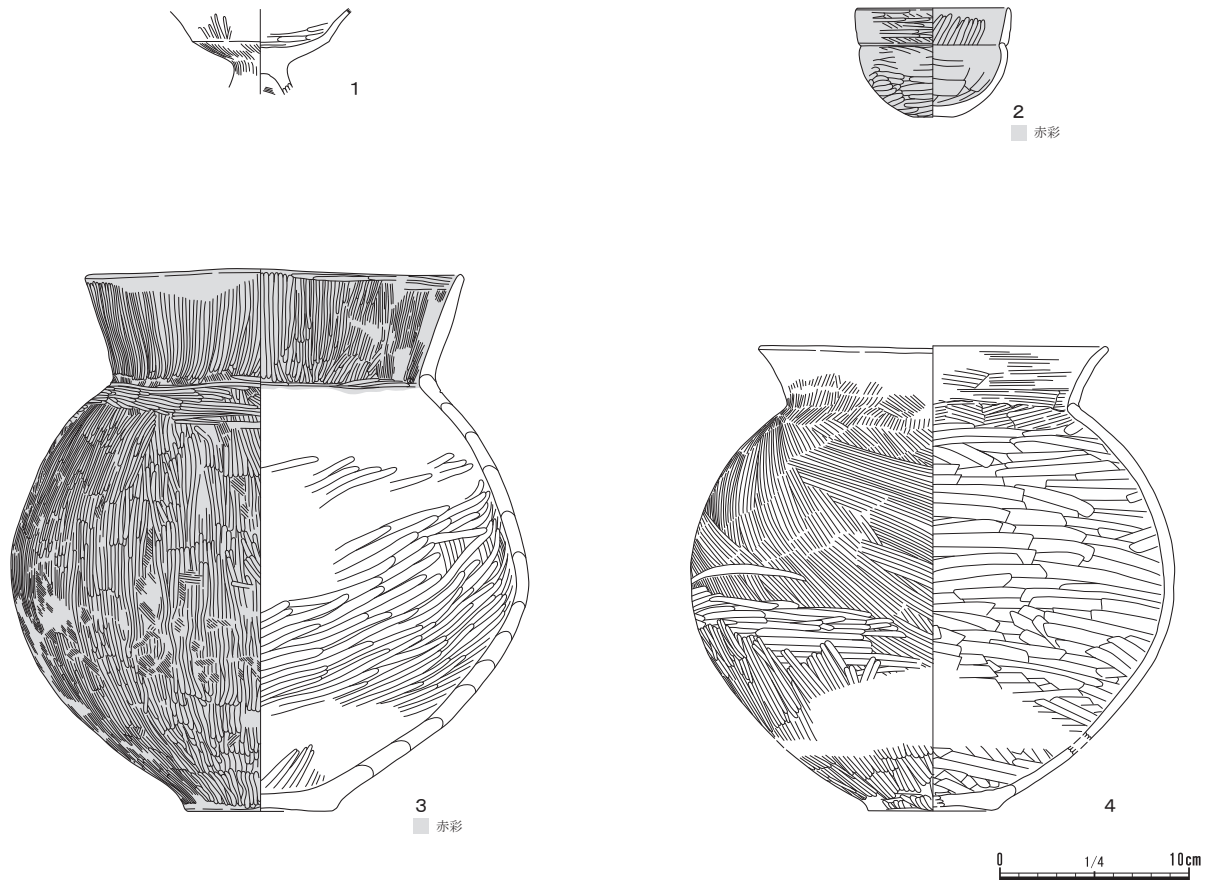
[遺物] (第 68～71 図、図版 41-3～44-1、第 19・20 表)

[土器] (第 68～71 図 1～33、図版 41-3～43-1～33、第 19 表)

1 は高坏形土器、2 は埴形土器、3～13 は壺形土器、14～32 は甕形土器、33 は器台形土器である。5 は残存高 33.3cm 以上の大型壺で、それ以外にも大型の個体 (11・14 他) が数点出土している。

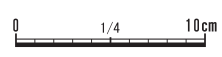
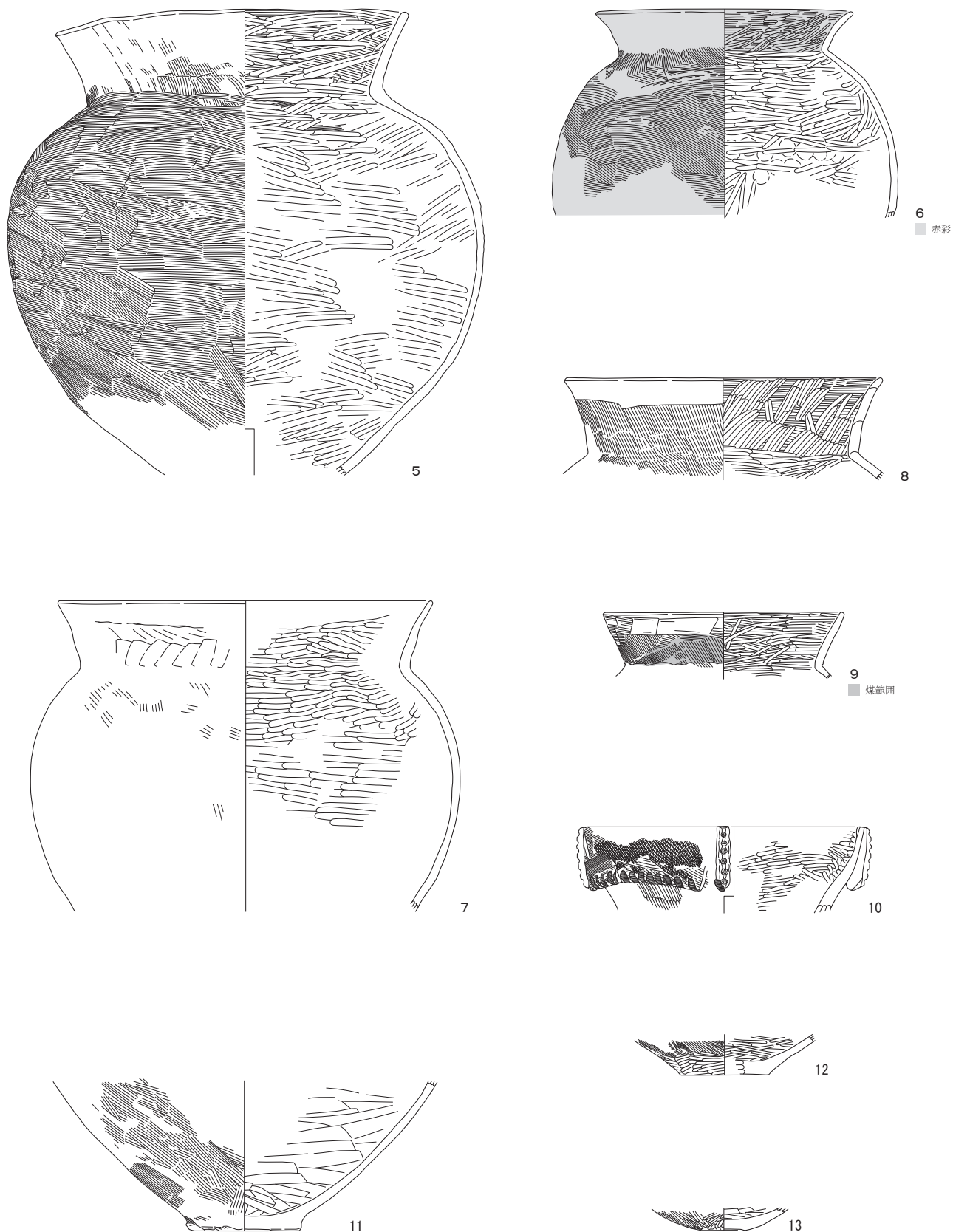
[石器] (第 71 図 34・35、図版 44-1-34・35、第 20 表)

34・35 は共に磨石で、石材は 34 がホルンフェルス、35 が閃緑岩である。

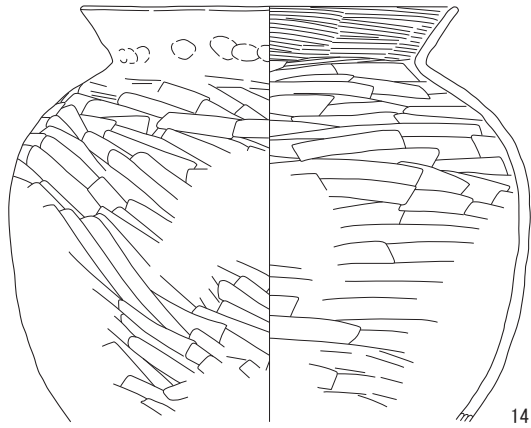


第 68 図 644 号住居跡出土遺物 1 (1 / 4)

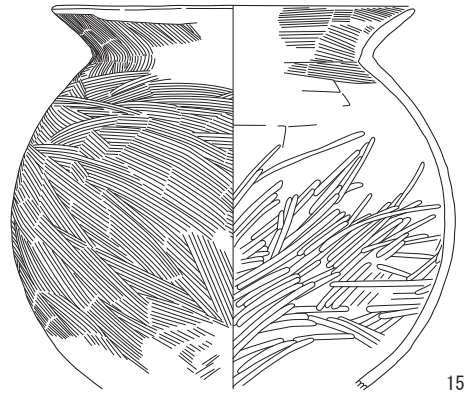




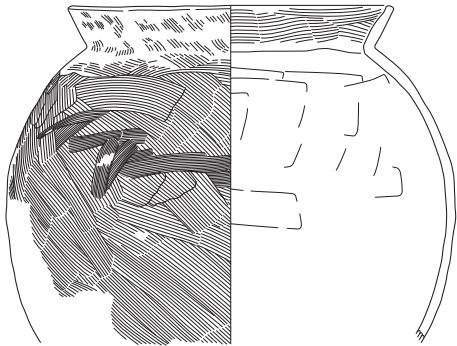
第 69 図 644 号住居跡出土遺物 2 (1 / 4)



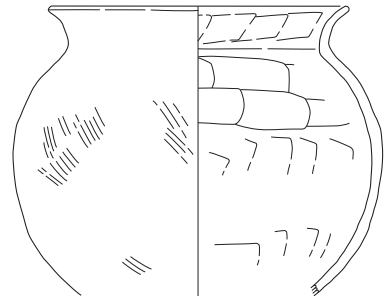
14



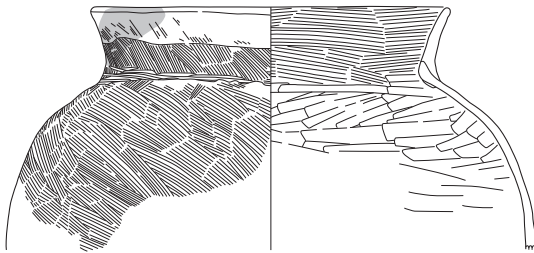
15



16

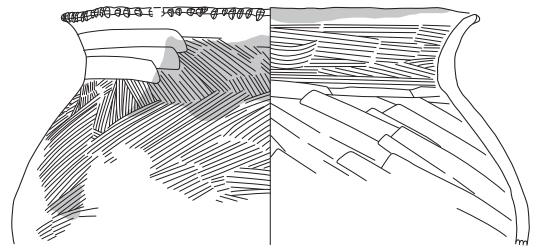


17



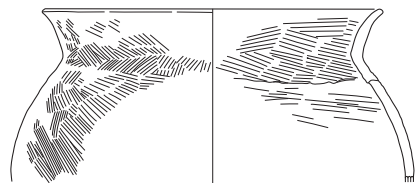
18

■ 煤範囲

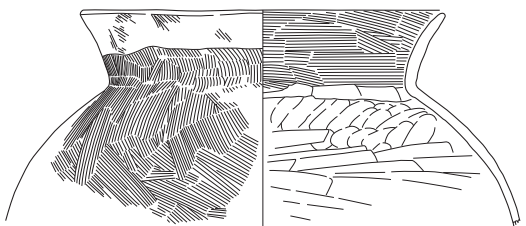


19

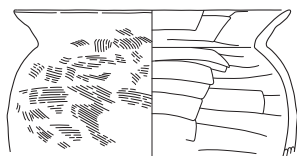
■ 煤範囲



21



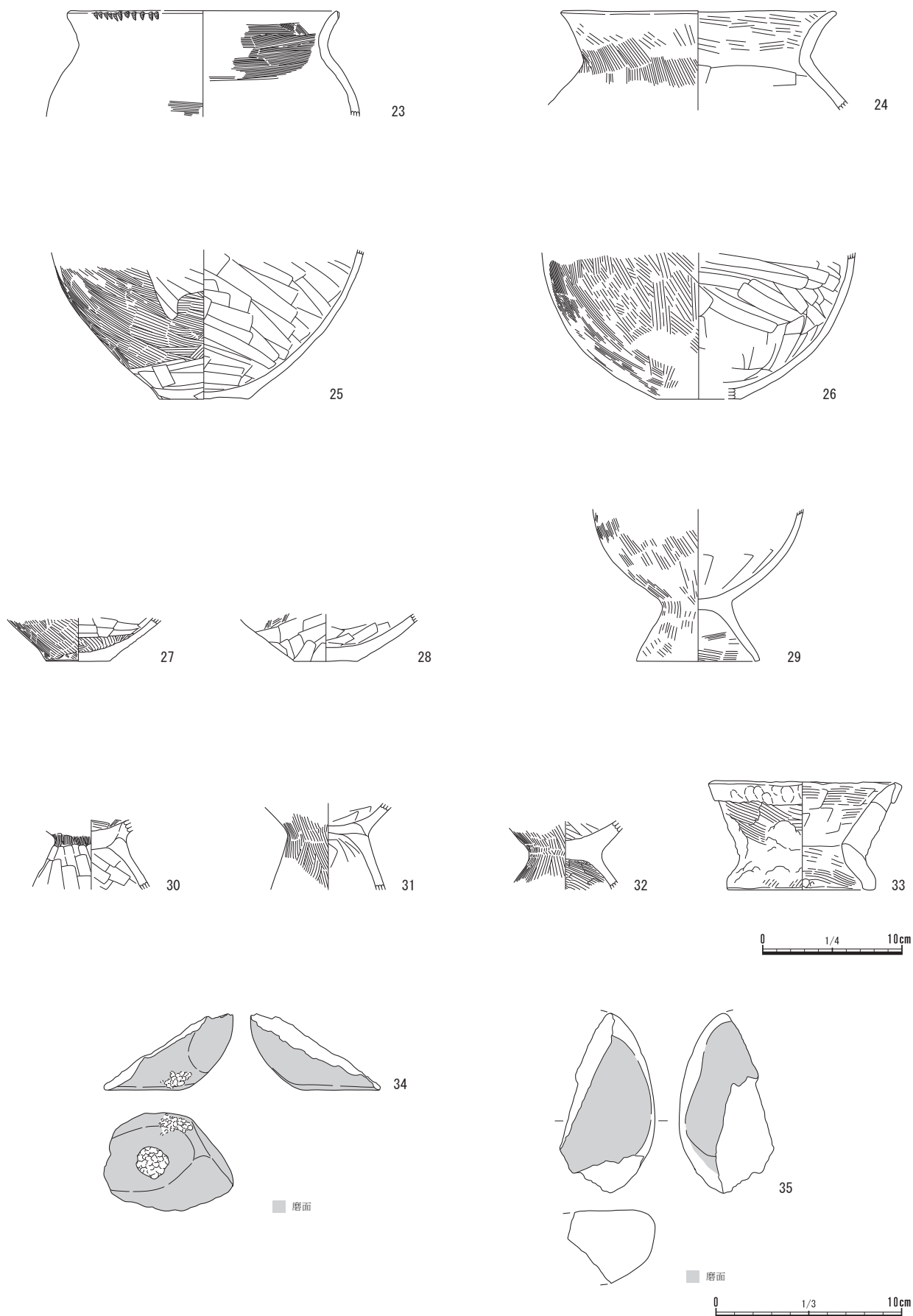
20



22



第70図 644号住居跡出土遺物3 (1/4)



第71図 644号住居跡出土遺物4 (1/4・1/3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第68図1 図版 41-3-1	高坏	坏部～ 脚部 15%	高 [4.5]	坏底部との境に稜を有し、 坏部は外反する／坏底部 は比較的平坦である／脚 部はハの字状に外方に開 く	内面：坏部は横方向のヘラ磨き、脚部は横方向のハケ目調整 ／外面：坏部は縦方向のヘラ磨き、体部～脚部は縦方向のハ ケ目調整後ナデ	橙色／砂粒中量、 石英・長石・白色 粒子少量	覆土上層 一括
第68図2 図版 41-3-2	埴	口縁部～ 底部 40%	口 (8.0) 高 5.8 底 2.0	広義の埴／口縁部は直立 気味に立ち上がる／口縁 部と底部の境に明瞭な輪 積痕を残す／胴部は丸味 をもって立ち上がる／底 部は基筒底である	内面：口唇部は横ナデ、口縁部は縦方向のヘラ磨き、体部～ 底部は横方向のヘラナデ／外面：口唇部は横方向のヘラ磨き、 口縁部は斜方向のハケ目調整後、横方向のヘラ磨き、体部は 横方向のヘラ磨き、底部はナデ／内外面全面赤彩	明赤褐色／砂粒 中量、雲母・長石・ 白色粒子少量	覆土上層 (伊南東側、 床上 24cm)
第68図3 図版 41-3-3	壺	口縁部～ 底部 90%	口 19.6 高 28.7 底 7.6	口縁部は外傾する／胴部 は球形に近い形状を呈し、 中位に最大径を有する ／底部は平底で中央部 が凹む	内面：口唇部は横方向のヘラ磨き、口縁部は縦方向のヘラ磨き、 胴部は横・斜方向のヘラ磨き／外面：口唇部は横ナデ、 口縁部は縦方向のハケ目調整後、縦方向のヘラ磨き、頸部～ 肩部は横方向のヘラ磨き、胴部は横・斜方向のハケ目調整後、 縦方向のヘラ磨き、底部はヘラ磨き／頸部外面にヘラ状工 具による沈線が施文される(長さ1/4周分の沈線2本が、 端部を一部重複させて半周の範囲に施文)／口縁部内面及び 外面全面赤彩	にぶい橙色／シャ モット多量、砂粒 中量、小礫少量	覆土上層 (伊南東側、 床上 24cm)
第68図4 図版 41-3-4	壺	口縁部～ 底部 15%	口 (18.2) 高 (24.5) 底 (25.6)	口縁部は外反する／頸部 は「く」字状に屈曲する ／胴部は球形を呈し、中 位に最大径を有する／底 部は上げ底となる	内面：口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のハケ目調整後ナデ、 頸部～肩部は横方向のハケ目調整後未調整、胴部は細 かい横方向のヘラナデ(磨きに近い)／外面：口縁部は幅広の 横ナデ、頸部は縦方向のハケ目調整、胴上半部は横・斜方向 のハケ目調整、胴下半部は斜方向のハケ目調整後、横方向の ヘラ磨き→縦方向のヘラ磨き、底部は丁寧なヘラ磨きで非常に 平滑に仕上げられる	にぶい橙色／シャ モット中量、石 英・白色粒子少量、 小礫微量	覆土上層 (中央部に 散在)
第69図5 図版 42-5	壺	口縁部～ 胴部 80%	口 24.8 高 [33.3]	大型壺／口縁部側と底部 側で中心軸が大きく異なり、 全体に歪んだ器形を 呈する／口縁部は特に歪 みが大きい、全体として は外傾する／胴部は球 形を志向するが、やや肩 が張り、肩部との境付近 に最大径を有する	内面：口縁部は横方向のハケ目調整後、横方向のヘラ磨き、 胴部は横・斜方向のヘラ磨き／外面：口唇部は横ナデ、口縁 部は縦方向のハケ目調整後、横ナデ／胴部は横・斜方向のハ ケ目調整／胴部下端にイネ科種実圧痕1か所／胴部内外面に 黒斑	にぶい黄褐色／ シャモット・白色 粒子中量、雲母・ 石英・小礫少量	覆土上層 (中央部に 散在)
第69図6 図版 42-6	壺	口縁部～ 胴部 40%	口 18.2 高 [14.9]	口縁部は大きく外反する ／頸部は「く」字状に屈 曲する／胴部は球形を呈 し、中位に最大径を有す ると推測される	内面：口縁部は横方向のハケ目調整後、横・斜方向のヘラ磨 き、胴上半部は指頭押捺後、横方向のヘラ磨き、胴下半部は 斜・縦方向のヘラ磨き／外面：口縁部は幅広の横ナデ、頸部 ～肩部は縦方向のハケ目調整、胴部は横・斜方向のハケ目調 整／口縁部内面及び外面全面赤彩	橙色／砂粒中量、 白色粒子・小礫 少量、雲母微量	覆土上層 (伊東側、 床上 14cm)
第69図7 図版 42-7	壺	口縁部～ 胴部 15%	口 (26.6) 高 [22.2]	口縁部は緩やかに外反す る／胴部は球形を呈し、 中位に最大径を有する	内面：口縁部は幅広の横ナデ、頸部～胴部は横方向のヘラ 磨き(胴下半部は残存部が少なく不詳)／外面：口縁部は 幅広の横ナデ、頸部は斜方向のハケ目調整後、斜方向のヘ ラナデ、胴部は不定方向のハケ目調整後ナデ／口縁部外面 に輪積痕1段を残す	にぶい褐色／シャ モット中量、砂粒・ 小礫少量	覆土下層 (北壁付近、 床上 6cm)
第69図8 図版 42-8	壺	口縁部～ 頸部 20%	口 (22.4) 高 [7.3]	口縁部は外反する／頸部 はやや直立気味に立ち上 がる	内面：口縁部は横方向のハケ目調整後、斜方向のヘラ磨き、 頸部は横方向のヘラ磨き／外面：口縁部は幅広の横ナデ、 頸部は縦方向のハケ目調整	にぶい赤褐色／ シャモット・砂 粒・小礫中量、石 英微量	覆土上層 (中央部、 床上 27cm)
第69図9 図版 42-9	壺	口縁部～ 頸部 15%	口 (16.8) 高 [4.8]	口縁部は外傾する／頸部 は「く」字状に屈曲する ／頸部外面に成形痕跡を 残す	内面：口縁部は横方向のハケ目調整後、横・斜方向のヘラ 磨き、頸部は横方向のヘラ磨き／外面：口唇部は横ナデ、 口縁部は横方向のハケ目調整後、横方向のヘラナデ、頸部 は縦方向のハケ目調整／外面煤付着	褐色／シャモット 中量、石英・赤色 粒子少量	覆土上層 (中央部、 床上 17cm)
第69図10 図版 42-10	壺	口縁部 15%	口 (19.2) 高 [6.2]	幅広の複合口縁／複合口 縁部は垂下し、口唇部に 面を有する／口唇部内面 肥厚(粘土紐貼付)	内面：横方向のヘラ磨き／外面：口唇部は横ナデ、口縁部 ハケ刻み(6段)が施された棒状浮文貼付、口縁部に RL 斜縄文、棒状浮文の高側縁には縄文は施文されず、横方向 のハケ目調整後、一部斜方向のヘラ磨き、複合口縁部下端 にピッチの細かいハケ刻み、頸部は縦方向のヘラ磨き	にぶい橙色／砂 粒・小礫中量、 シャモット・石英・ 赤色粒子少量	覆土上層 (北西部、床 上 14cm)・ 655Y 覆土
第69図11 図版 42-11	壺	胴部～ 底部 15%	高 [10.7] 底 8.0	胴部は大きく外方に立ち 上がり、器形は大形にな ると推測される／底部は 中央部が僅かに凹むドー ナツ底状を呈する	内面：横方向のヘラナデ／外面：胴部は斜方向のハケ目調 整後、部分的にナデ、底部はナデ／底部外縁部に粘土紐貼 付	明赤褐色／シャ モット・白色粒子 中量、石英少量、 金雲母微量	覆土上層 (伊北側、中 央部に散在)
第69図12 図版 42-12	壺	底部 40%	高 [2.9] 底 (6.2)	胴下半部はやや直線的に 立ち上がる／底部は平底 である	内面：胴部は横方向のヘラ磨き、底部はナデ／外面：胴部 は斜方向のハケ目(細)調整後、横・斜方向のヘラ磨き、 底部はナデ後、部分的にヘラ磨き	にぶい橙色／シャ モット・砂粒中量	覆土上層 (伊南側、 床上 26cm)
第69図13 図版 42-13	壺	底部 100%	高 [1.6] 底 3.2	胴部は丸味をもって立ち 上がる／底部は基筒底で ある	内面：横方向のヘラナデ／外面：胴部は斜方向の細かいヘラ 磨き、底部は横方向のヘラ磨き	褐色／砂粒中量、 シャモット少量、 石英・小礫微量	床面上側 (伊南西側)

第19表 644号住居跡出土土器一覧(1)



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第70図 14 図版 42-14	甕	口縁部～ 胴部 25%	口 (19.6) 高 [21.9]	口縁部は外反する／頸部は「く」字状に屈曲する／胴部はやや長胴化傾向にあり、上方肩部寄りに最大径を有する／全体的にやや歪んだ形状を呈し、特に胴部は著しい	内面：口縁部は横方向のハケ目（粗）調整、胴部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、頸部は指頭押捺、胴部は横・斜方向のハケ目調整後、同一方向のヘラナデ	橙色／シャモット・砂粒・小礫中量	覆土上層 (中央部に散在)
第70図 15 図版 42-15	甕	口縁部～ 胴部 25%	口 (19.0) 高 [20.2]	口縁部は外反する／頸部は鋭角な「く」字状に屈曲する／胴部は球形を呈し、中央部に最大径を有する	内面：口縁部～頸部は横・斜方向のハケ目調整、肩部は横方向のヘラナデ、胴部は斜・横方向のヘラナデ（ヘラ磨きに近い）／外面：口縁部は横ナデ、頸部は縦方向のハケ目調整、胴部は斜・横方向のハケ目調整	にぶい赤褐色／シャモット・砂粒中量	覆土上層 (中央部に散在)
第70図 16 図版 43-16	甕	口縁部～ 胴部 15%	口 (16.9) 高 [17.8]	口縁部は短く外傾する／頸部は「く」字状に屈曲する／胴部は球形を呈し、中央部に最大径を有する	内面：口縁部は横方向のハケ目調整、胴部は横方向のヘラナデ／外面：口唇部は横ナデ、口縁部は斜方向のハケ目調整後、横ナデ、頸部は斜・横方向のハケ目調整後ナデ、胴部は不定方向（斜方向優勢）のハケ目調整	明赤褐色／砂粒中量、白色粒子・小礫少量	覆土上層 (炉東側、 床上 14cm)
第70図 17 図版 43-17	甕	口縁部～ 胴部 15%	口 (15.5) 高 [15.3]	口縁部は大きく外反する／胴部はやや扁平な球状を呈し、中位に最大径を有する	内面：口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラナデ、頸部～肩部は横方向のヘラナデ（単位が大きく、ヘラ削りに近い）、胴部は横方向のヘラナデ（密）後ナデ／外面：口縁部は横ナデ、頸部～胴部は斜方向のハケ目調整後ナデ（摩滅のため不詳）	褐色／砂粒・小礫中量、石英少量	覆土上層 (中央部付近、 床上 28cm)
第70図 18 図版 43-18	甕	口縁部～ 胴部 15%	口 (18.6) 高 [12.8]	口縁部は僅かに外反する／頸部は口縁部に向けて直立気味に立ち上がる／頸部内外面に口縁部との接合痕跡を明確に残す／胴部は球状を呈すると推測される	内面：口縁部は横方向のハケ目調整、胴部は横方向のヘラナデ／外面：口唇部は横ナデ、口縁部は斜方向のハケ目調整後、幅広い横ナデ、頸部～胴部は斜方向のハケ目調整／頸部外面にヘラ状工具による横位沈線状の整形痕あり／口縁部外面に煤付着	にぶい赤褐色／砂粒中量、シャモット少量、石英微量	覆土上層 (中央部、 床上 19cm)
第70図 19 図版 43-19	甕	口縁部～ 胴部 15%	口 (21.7) 高 [12.5]	口縁部は外反する／胴部はやや肩部が張り出す形状を呈する／他の個体に比して厚手で、比重も大きい	内面：口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のハケ目（粗）調整、頸部は横方向のヘラナデ、肩部～胴部は斜方向のヘラナデ／外面：口唇部はハケ刻み、口縁部は横ナデ後、横方向のヘラナデ、頸部～胴部は不定方向（斜方向優勢）のハケ目調整／口縁部内面及び頸部～胴部外面に煤付着	にぶい橙色／砂粒多量、石英・小礫少量	床面上 (炉南東側)
第70図 20 図版 43-20	甕	口縁部～ 胴部 15%	口 (19.0) 高 [11.4]	口縁部は外反する／頸部は「く」字状に屈曲する／肩部は張り出さず、胴部は球状を呈すると推測される	内面：口縁部は横方向のハケ目調整、頸部は横方向のヘラナデ、肩部は指頭押捺、胴部は横方向のヘラナデ／外面：口唇部は横ナデ、口縁部は斜方向のハケ目調整後、幅広い横ナデ、頸部～胴部は縦・斜方向のハケ目調整	にぶい橙色／シャモット・砂粒中量、石英・小礫少量	覆土上層 (炉南側、 床上 24cm)
第70図 21 図版 43-21	甕	口縁部～ 胴部 15%	口 (17.6) 高 [9.2]	口縁部は外反する／頸部は「く」字状に屈曲する／胴部は球状を呈すると推測される	内面：口唇部は横ナデ、口縁部～頸部は横方向のハケ目（粗）調整、肩部は横方向のハケ目調整後ナデ／外面：口縁部は横ナデ、頸部～胴部は斜方向のハケ目調整／頸部内面に輪積痕 1 段を明確に残す	にぶい黄褐色／シャモット中量、砂粒少量	覆土上層 (炉周辺、 床上 25cm)
第70図 22 図版 43-22	甕	口縁部～ 胴部 15%	口 (14.4) 高 [7.8]	口縁部は大きく外反する／頸部は「く」字状に屈曲する／胴部は球形を呈すると推測される	内面：口縁部は横方向の粗いヘラナデ、胴部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は縦方向のハケ目調整後、横ナデ、胴部は横・斜方向のハケ目調整後ナデ	にぶい褐色／シャモット・砂粒・小礫少量、雲母微量	覆土上層 (炉南東側、 床上 24cm)
第71図 23 図版 43-23	甕	口縁部～ 肩部 15%	口 (19.0) 高 [7.6]	口縁部は外反する／頸部は緩やかに屈曲する	内面：口縁部は横方向のハケ目調整後、横ナデ、頸部は横方向のヘラナデ／外面：口唇部はハケ刻み、口縁部～頸部は剥離のため調整不明、肩部は横方向のハケ目調整	にぶい褐色／砂粒中量、シャモット・小礫少量	覆土上層 (南部、 床上 28cm)
第71図 24 図版 43-24	甕	口縁部～ 頸部 100%	口 14.5 高 [5.3]	口縁部は外反する／頸部は「く」字状に屈曲する	内面：口縁部は横方向のハケ目（粗）調整後ナデ、頸部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は縦・斜方向のハケ目（粗）調整後、幅広い横ナデ、頸部は縦方向のハケ目調整／ハケ状工具は少なくとも 2 種類あり	にぶい赤褐色／砂粒多量、雲母・白色粒子中量、シャモット・石英少量	床面上 (炉南西側)
第71図 25 図版 43-25	甕	胴部～ 底部 30%	高 [10.7] 底 6.4	胴部は球形を呈する／底部は平底で、やや凹凸がみられる	内面：横・斜方向のヘラナデ／外面：胴部は横・斜方向のハケ目（粗）調整後、部分的に斜方向のヘラナデ、胴部下端は横方向のヘラ削り、底部はナデ	にぶい赤褐色／シャモット多量、赤色粒子・砂粒中量、石英少量	覆土上層 (中央部に散在)
第71図 26 図版 43-26	甕	胴部～ 底部 15%	高 [10.5] 底 (6.0)	胴部は球状を呈する／底部は平底と推測される	内面：横・斜方向のヘラナデ／外面：胴部は不定方向（斜方向優勢）のハケ目調整後ナデ、底部はナデ	にぶい黄褐色／シャモット多量、砂粒・小礫中量	覆土上層 (炉上面 24cm)
第71図 27 図版 43-27	甕	底部 100%	高 [3.1] 底 4.6	胴部は外傾して立ち上がる／底部は平底である	内面：胴部は横方向のヘラナデ、底部は縦方向のハケ目調整（時計回りに絞り込むように施される）／外面：胴部は斜方向のハケ目（やや粗）調整、底部は斜方向のハケ目（やや粗）調整後ナデ	褐色／シャモット中量、雲母・石英少量	覆土上層 (中央部、 床上 17cm)
第71図 28 図版 43-28	甕	底部 90%	高 [3.4] 底 4.6	胴部は内湾気味に立ち上がる／底部は平底だが、若干の凹凸がみられる	内面：横方向のヘラナデ／外面：胴部は縦方向のハケ目調整後ナデ、胴部下端は横方向のヘラ削り、底部はナデ	にぶい褐色／白色粒子・砂粒・小礫中量、雲母少量	床面上 (中央部付近)

第 19 表 644 号住居跡出土土器一覧（2）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第71図 29 図版 43-29	甕	胴部～ 脚部 20%	高 [10.9] 脚 8.8	台付甕／胴部は丸味を もって立ち上がり、球状を 呈する／脚部は八の字状 に外方に開き、裾部は内 湾する	内面：胴部は横方向のヘラナデ、脚部は横方向のハケ目調整 後ナデ／外面：胴部は縦方向のハケ目調整、脚部は縦・斜方 向のハケ目調整後ナデ	にぶい赤褐色／小 礫多量、シャモット・ 雲母・石英・ 砂粒少量	覆土上層 (炉上面 23cm)
第71図 30 図版 43-30	甕	脚部 60%	高 [5.0]	台付甕／脚部は八の字状 に外方に大きく開く	内面：胴底部は横方向のハケ目調整、脚部は横・斜方向の ヘラナデ／外面：胴部は縦方向のハケ目調整、脚部は縦方 向のハケ目調整後、縦方向のヘラナデ	にぶい橙色／シャ モット多量、砂粒 中量、白色粒子・ 小礫少量	覆土上層 (炉南側、 床上 19cm)
第71図 31 図版 43-31	甕	脚部 50%	高 [6.2]	台付甕／胴部は外傾しな がら立ち上がる／脚部は 八の字状に直線的に開く	内面：胴底部は横方向のヘラナデ、脚部は横方向のヘラナデ ／外面：縦方向のハケ目調整	にぶい黄褐色／ シャモット多量、 小礫中量、砂粒少 量	床面上 (南西壁 付近)
第71図 32 図版 43-32	甕	脚部 40%	高 [4.9]	台付甕／脚部は八の字状 に外方に開く	内面：胴底部は横・斜方向のヘラナデ、脚部は横方向のハケ 目調整／外面：縦方向のハケ目調整	にぶい橙色／砂粒 多量、シャモット・ 雲母・小礫少量	覆土下層 一括
第71図 33 図版 43-33	器台	口縁部～ 脚部 40%	口 (13.4) 高 7.9 脚 (10.4)	全体形状は上辺が長い鼓 形を呈する (上辺：下辺 = 2 : 1) / 全体的に厚 手でやや歪む／調整は粗 雑で、随所に粘土塊がは み出された形で付着する ／口縁部は折り返され、 肥厚する／裾部は部分的 に内側に張り出す	内面：口縁部は横方向のハケ目 (粗) 調整後、横方向のヘ ラナデ、脚部は横方向のハケ目 (粗) 調整／外面：口唇部 ～口縁部は指頭押捺後ナデ、体部は横・斜方向のハケ目 (粗) 調整、脚部は斜方向のハケ目 (粗) 調整後ナデ、裾 部はナデ	明赤褐色／シャ モット中量、砂 粒・小礫少量	床面上 (炉南脇)

第 19 表 644 号住居跡出土土器一覧 (3)

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第71図 34 図版 44-1-34	磨石	ホルンフェルス	4.1	6.9	5.2	118.70	大部分を欠損／残存面全面に研磨面／下面・下側面に敲打 痕あり	南西側 周溝上面 (床上 4cm)
第71図 35 図版 44-1-35	磨石	閃緑岩	9.6	5.1	3.9	224.86	大部分を欠損／楕円形か／両面に研磨面	覆土上層 (中央部付近、 床上 17cm)

第 20 表 644 号住居跡出土石器一覧

## 645 号住居跡

**遺 構** (第 72 図)

[位 置] (E-3) グリッド。

[検出状況] 北東側は攪乱に切られ、北・東側の大部分は調査区外に延びる。

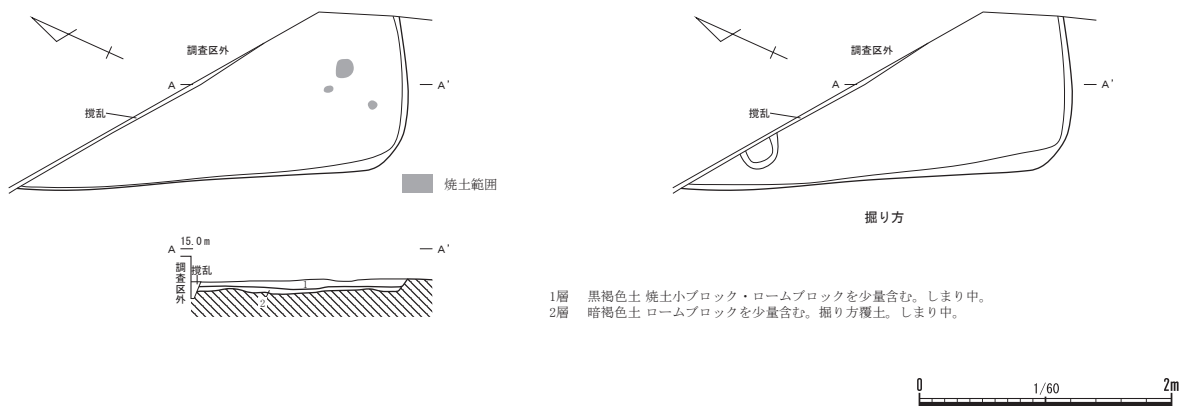
[構 造] 平面形：方形。規模：長軸 2.93 m 以上／短軸 1.29 m 以上／確認面からの深さ 0.08 m。壁：  
やや斜めに立ち上がる。主軸方位：不明。壁溝：調査区内では検出されなかった。床面：全体にやや軟  
弱で、調査区内では硬化面は検出されなかった。炉：調査区内では検出されなかった。貯蔵穴：調査区  
内では検出されなかった。柱穴：調査区内では検出されなかった。赤色砂利層：調査区内では検出され  
なかった。入口施設：調査区内では検出されなかった。掘り方：住居全体に 2～5 cm 程度の深さの掘り  
込みが確認された (2 層)。また、北西壁沿いでピット状の掘り込み (深さ 14cm) 1 か所が確認された。

[覆 土] 単層。

[遺 物] 壺・甕形土器の小破片が各 1 点出土したが、図示できなかった。

[時 期] 古墳時代前期初頭～前葉。





第72図 645号住居跡 (1 / 60)

### 646号住居跡

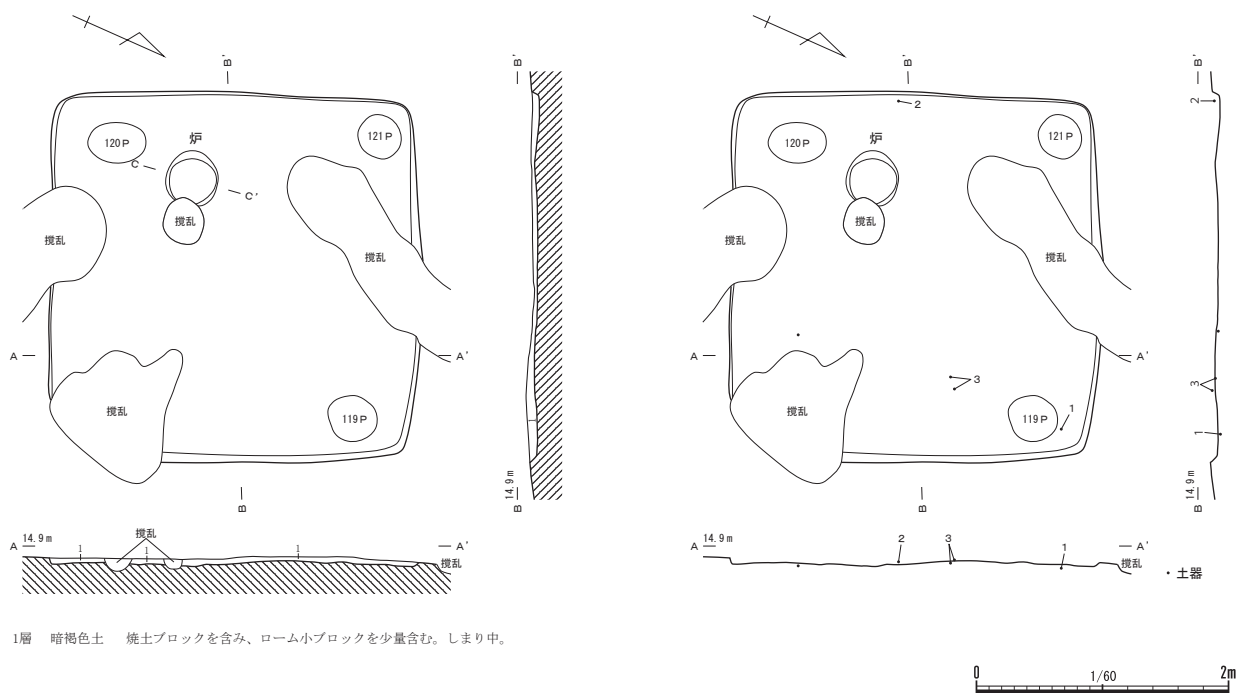
**遺 構** (第73・74図)

[位 置] (E-4) グリッド。

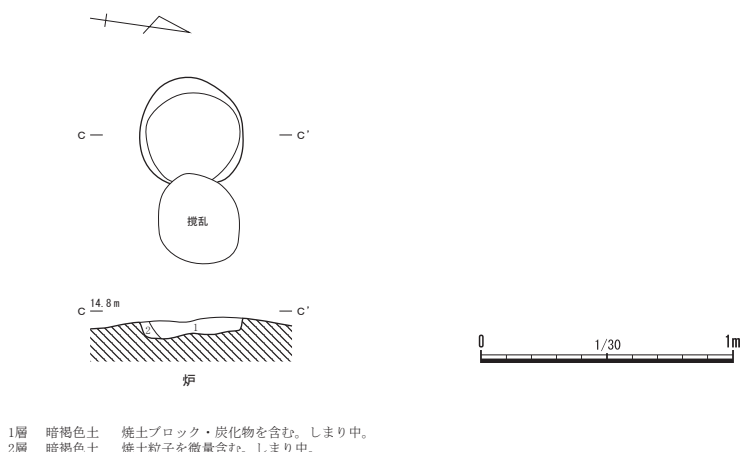
[検出状況] 中世以降のピット (119～121 P) の他、複数の攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：方形。規模：長軸 2.94 m / 短軸 2.93 m / 確認面からの深さ 0.09 m。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：N-124°-W。壁溝：検出されなかった。床面：全体にやや軟弱で、硬化面は検出されなかった。炉：住居中央から南西方向に振れて位置する。上面が削平され、掘方のみが検出された。円形を呈する地床炉と推測されるが、明確な被熱による赤化は確認できなかった。規模：長軸 45cm / 短軸 43cm / 深さ 7cm。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：検出されなかった。

[覆 土] 単層。上層は大きく削平されている。



第73図 646号住居跡・遺物出土状態 (1 / 60)



第74図 646号住居跡炉 (1 / 30)

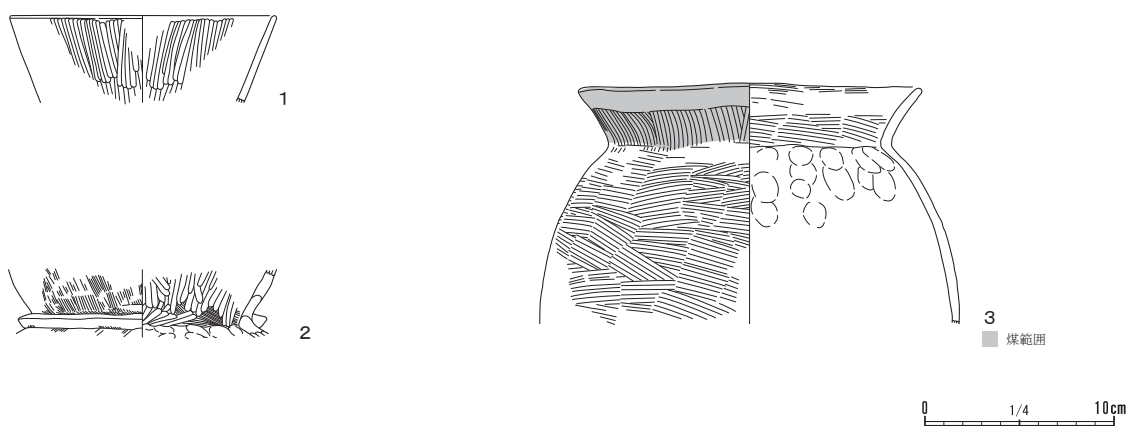
[遺物] 床面直上から埴・壺・甕形土器が出土した。

[時期] 古墳時代前期初頭～前葉。

[遺物] (第75図、図版44-2、第21表)

[土器] (第75図1～3、図版44-2-1～3、第21表)

1は埴形土器、2は壺形土器、3は甕形土器である。



第75図 646号住居跡出土遺物 (1 / 4)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第75図1 図版44-2-1	埴	口縁部 破片	口(13.9) 高[4.6]	口縁部は長く直線的に開く	内外面：口唇部は横ナデ、口縁部は縦方向のヘラ磨き	にぶい赤褐色/砂粒中量、シャモット少量	床面上 (北コーナー)
第75図2 図版44-2-2	壺	口縁部～ 頸部 破片	高[3.6]	口縁部は内湾気味に立ち上がる/頸部に断面三角形の補強帯(凸帯)を有する	内面：口縁部は斜方向のハケ目調整後、縦・斜方向のヘラ磨き、頸部は指頭押捺後、丁寧なナデ/外面：縦方向のハケ目調整後ナデ	にぶい褐色/シャモット・砂粒中量	床面上 (南西壁沿い)
第75図3 図版44-2-3	甕	口縁部～ 胴部 20%	口(17.9) 高[12.7]	口縁部は外反する/頸部は「く」字状に屈曲する/胴部は球形に近い形状を呈する	内面：口縁部は横方向のハケ目(粗)調整後、横ナデ、頸部は指頭押捺、胴部はナデ/外面：口唇部～口縁部は幅広い横ナデ、頸部は縦方向のハケ目(粗)調整、胴部は横方向のハケ目調整/口縁部と胴部に用いられるハケ目調整工具は別種と考えられ、少なくとも2種類の工具で調整される/口縁部外面煤付着	にぶい褐色/シャモット・雲母・石英・小礫少量	床面上 (中央部 北東寄り)

第21表 646号住居跡出土土器一覧

### 647号住居跡

**遺 構** (第76図)

[位 置] (E-5) グリッド。

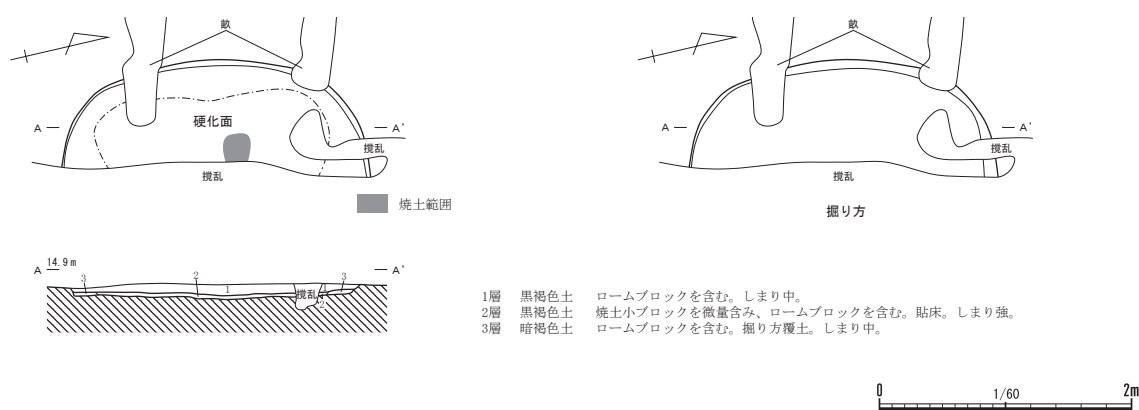
[検出状況] 中世以降の畝状遺構群に切られる。東側の大部分は攪乱に切られ、調査区外に延びる。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸 2.47 m以上／短軸 0.91 m以上／確認面からの深さ 0.09 m。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：不明。壁溝：調査区内では検出されなかった。床面：壁際を除き、硬化面を検出した。貼床は全体的に薄く、2～5 cmの厚さで施されていた。炉：調査区内では検出されなかった。なお、床面上に焼土が集中する範囲が確認されたが、炉として特定はできなかった。貯蔵穴：調査区内では検出されなかった。柱穴：調査区内では検出されなかった。赤色砂利層：調査区内では検出されなかった。入口施設：調査区内では検出されなかった。掘り方：住居全体に2～5 cm程度の深さの掘り込みが確認された(2・3層)。

[覆 土] 単層。

[遺 物] 壺・甕形土器の小破片が計3点出土したが、図示できなかった。

[時 期] 弥生時代後期～古墳時代前期。



第76図 647号住居跡 (1 / 60)

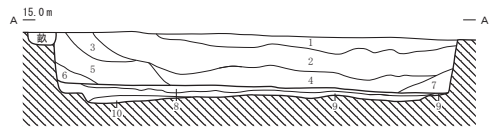
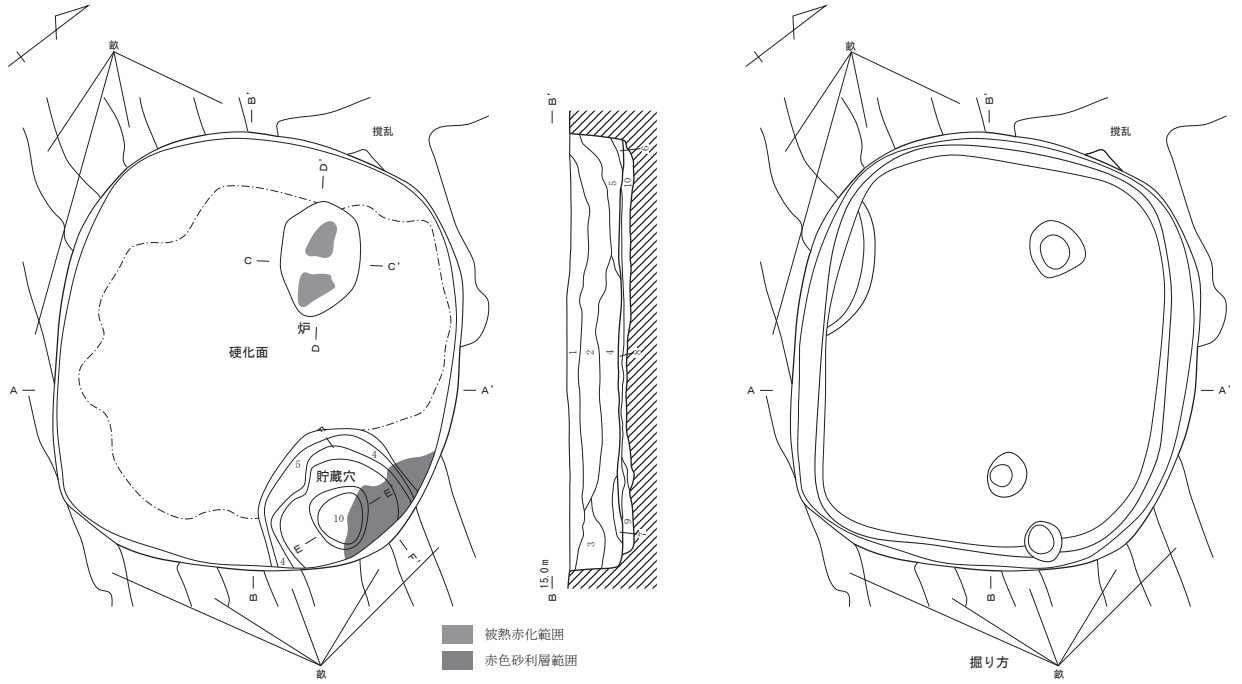
### 648号住居跡

**遺 構** (第77・78図)

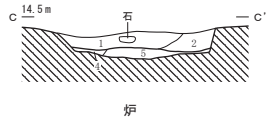
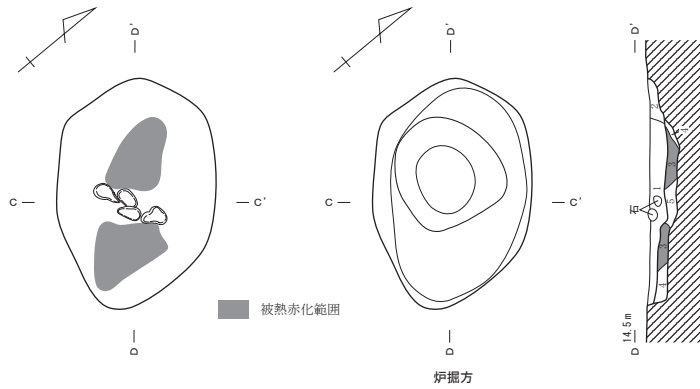
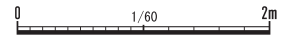
[位 置] (D・E-5) グリッド。

[検出状況] 中世以降の畝状遺構群の他、複数の攪乱に切られる。

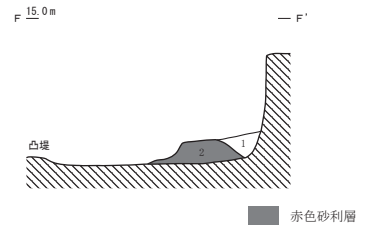
[構 造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸 3.45 m／短軸 3.20 m／確認面からの深さ 0.45 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-48°-W。壁溝：検出されなかった。床面：壁際及び貯蔵穴周辺を除き、硬化面を検出した。硬化度は他の住居跡に比して強い。貼床も他の住居跡に比して厚く、6～15 cmの厚さで施されていた。炉：住居中央から北西方向に振れて位置する。概ね楕円形を呈する地床炉で、中央部に主軸方向に直交して4点の垂円礫が据え置かれる。4点の礫は間仕切りのような役割を果たしており、礫を挟んで二分されて中央部に被熱による赤化が確認された。規模：長軸 92 cm／短軸 63 cm／深さ 12 cm。貯蔵穴：住居東コーナーで検出された。平面形は不整形を呈する。規模：長軸 49 cm／短軸 47 cm／床面からの深さ 10 cm。周囲にはやや距離を置いて、幅 13～31 cm、高さ 3～5 cmの凸堤



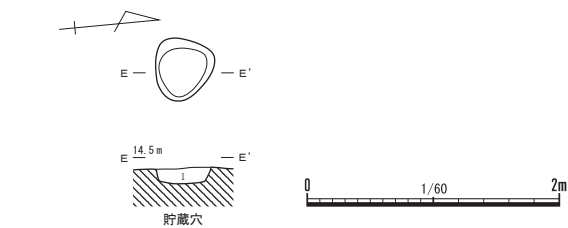
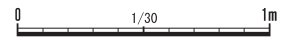
- 1層 暗褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 炭化物を少量含む、ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり中。
- 3層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり中。
- 4層 暗褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまりやや強。
- 5層 暗褐色土 ローム小ブロックを微量含む。しまりやや強。
- 6層 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。しまり中。
- 7層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり中。
- 8層 暗黄褐色土 ロームブロック主体。貼床。しまり強。
- 9層 暗黄褐色土 ローム土主体。黒色土ブロックを少量含む。貼床。しまりやや強。
- 10層 黒色土 ロームブロックを少量含む。掘り方覆土。しまり中。



- 1層 黒褐色土 焼土ブロックを少量含む。しまりやや強。
- 2層 黒褐色土 ローム粒子を含み、ロームブロックを少量含む。しまり中。
- 3層 赤褐色土 焼土主体。上面被熱（火床面）。しまりやや強。
- 4層 黒褐色土 焼土小ブロックを少量含む。しまり中。
- 5層 暗褐色土 焼土ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。

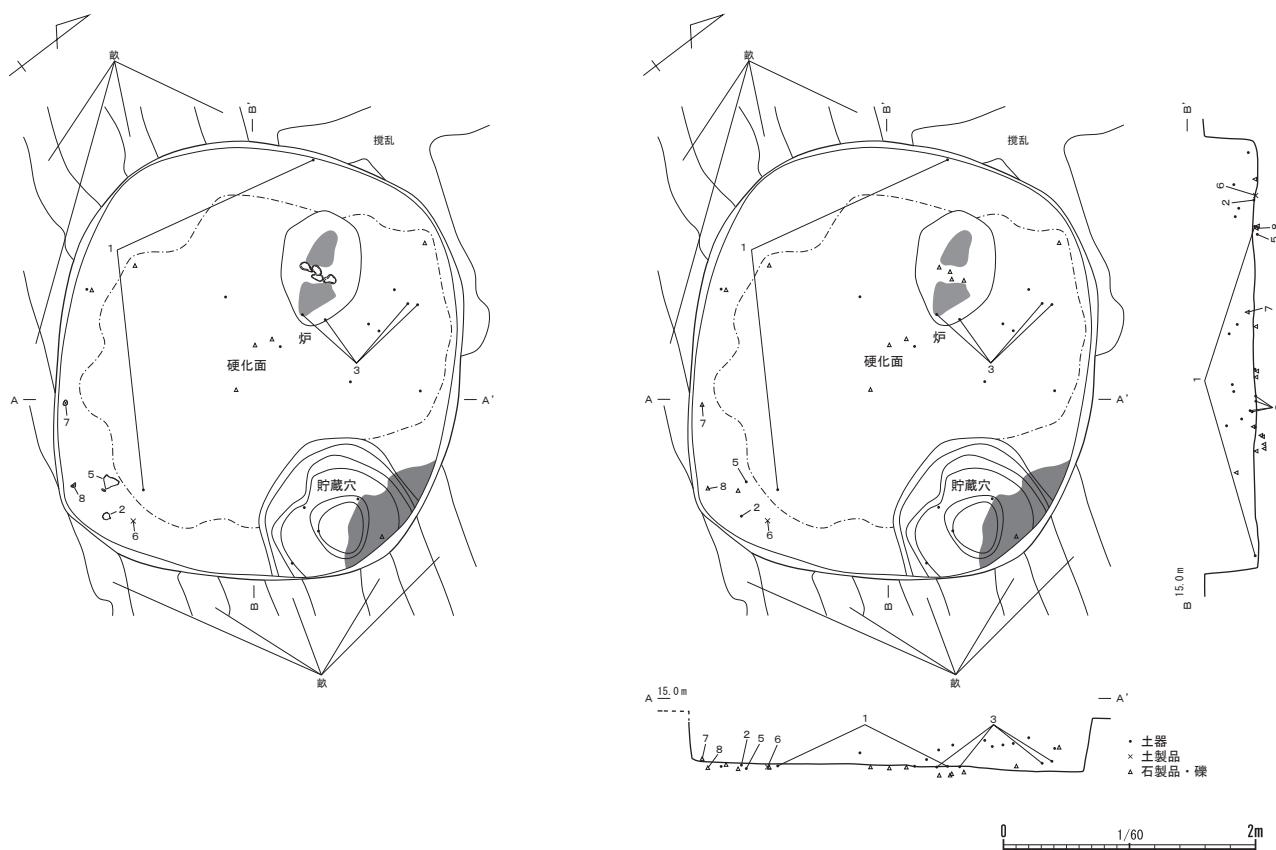


- 1層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 暗赤褐色砂 小礫を含む。しまり弱。



- 1層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり中。

第77図 648号住居跡 (1/60・1/30)



第 78 図 648 号住居跡遺物出土状態 (1 / 60)

が馬蹄形に巡る。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：貯蔵穴及びその北側に設けられた凸堤の一部を覆うように住居東壁沿いで検出された。長軸 112cm×短軸 39cmの範囲で、高さ 4～9 cm程度の台形状の高まりが確認された。入口施設：検出されなかった。掘り方：住居内縁より一回り（2～19cm程度）径を縮小させた相似形で、入れ子状を呈する 6～15cmの深さの掘り込みが確認された（8～10層）。また、西コーナー付近で円弧状の掘り込み 1か所（深さ 4 cm）、東コーナー付近でピット状の掘り込み（深さ 10～13cm程度）2か所が確認された。

[覆 土] 7層に分層される。

[遺 物] 炉・貯蔵穴周辺及び住居南コーナー等から、鉢・壺・甕形土器、土製勾玉、不明石製品が出土した。土製勾玉、不明石製品は住居南コーナーから近接して出土した。

[時期] 弥生時代後期後葉～末葉。

**遺 物** (第 79 図、図版 44 - 3、第 22 ~ 24 表)

[土 器] (第 79 図 1 ~ 5、図版 44 - 3 - 1 ~ 5、第 22 表)

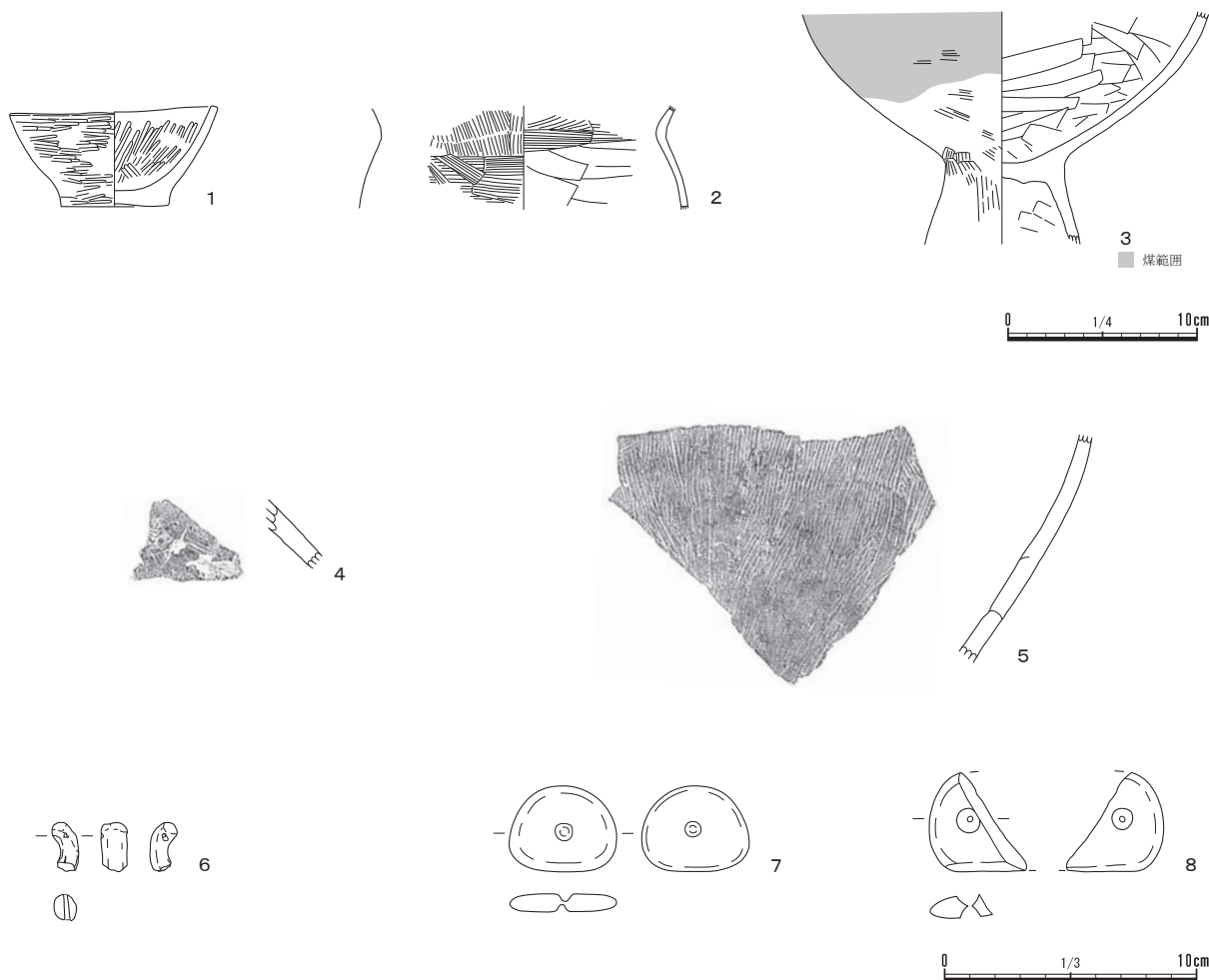
1 は鉢形土器、2・3 は甕形土器、4・5 は壺形土器である。

[土 製 品] (第 79 図 6、図版 44 - 3 - 6、第 23 表)

6 は手づくね成形の土製勾玉である。

[石 製 品] (第 79 図 7・8、図版 44 - 3 - 7・8、第 24 表)

7・8 は用途不明の石製品である。共に穿孔が施されるが、8 は上下に貫通しているのに対し、7 は未貫通である点に差異がみられる。



第79図 648号住居跡出土遺物（1/4・1/3）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第79図1 図版44-3-1	鉢	口縁部～ 底部 60%	口 10.9 高 5.3 底 5.6	口唇部は面を有し、緩やかに内傾する／口縁部は内湾気味に立ち上がる／底部は平底で、中央部が僅かに凹む	内面：縦・斜方向のヘラ磨き／外面：口唇部は横ナデ、口縁部～体部は横方向のヘラ磨き、底部はナデ（部分的にヘラ磨き）	にぶい黄橙色／シャモット多量、赤色粒子中量、小礫少量	床面上 (北西壁沿い、南コーナー)
第79図2 図版44-3-2	甗	頸部～ 肩部 破片	高 [5.5]	頸部は緩やかに屈曲する	内面：頸部は横方向のハケ目調整、肩部は横方向のヘラナデ／外面：頸部は縦方向のハケ目調整、肩部は横・斜方向のハケ目調整	にぶい褐色／シャモット中量、雲母少量	床面上 (南コーナー)
第79図3 図版44-3-3	甗	胴部～ 脚部 20%	高 [12.3]	台付甗／胴部は球形を呈する／脚部はハの字状に直線的に開く	内面：胴部は横方向のヘラナデ、脚部は横方向のヘラナデ後ナデ／外面：胴部は横・斜方向のハケ目調整後ナデ、脚部は縦方向のハケ目調整後ナデ／外面広範囲に煤付着	にぶい褐色／シャモット・石英・砂粒少量	床面上 (炉東側)
第79図4 図版44-3-4	壺	肩部 破片	厚 0.8	内傾する	内面：ナデ／外面：極細のヘラ描鋸歯状文（山形文）、文様区画内に単節 RL 縄文充填、文様区画外縁部赤彩	にぶい黄橙色／砂粒、小礫少量	覆土下層 一括
第79図5 図版44-3-5	壺	胴部 破片	厚 0.7	丸みをもって立ち上がる	内面：横方向のヘラナデ／外面：縦方向のハケ目調整後、縦方向のヘラ磨き／外面赤彩	橙色／シャモット中量、雲母・石英・砂粒少量	床面上 (南コーナー)

第22表 648号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第79図6 図版44-3-6	土製勾玉	1.9	1.1	1.0	1.81	手づくね成形。穿孔1か所（孔径0.1cm）	床面上 (南コーナー)

第23表 648号住居跡出土土製品一覧



挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第79図7 図版44-3-7	不明	輝緑凝灰岩	3.4	4.2	0.7	15.15	中央部に円形の未貫通の小孔(孔径0.7cm)1か所/穿孔作業は両側面から行われている	床面上 (南コーナー)
第79図8 図版44-3-8	不明	頁岩	3.9	3.8	0.9	16.71	穿孔1か所(中心部から外れ、外縁部寄りに位置)/穿孔作業は両側面から行われ、中心に向かうにつれ孔径は狭小となる/表面(上端)の孔径0.94cm×0.91cm、裏面(上端)の孔径0.83cm×0.80cm	床面上 (南コーナー)

第24表 648号住居跡出土石製品一覧

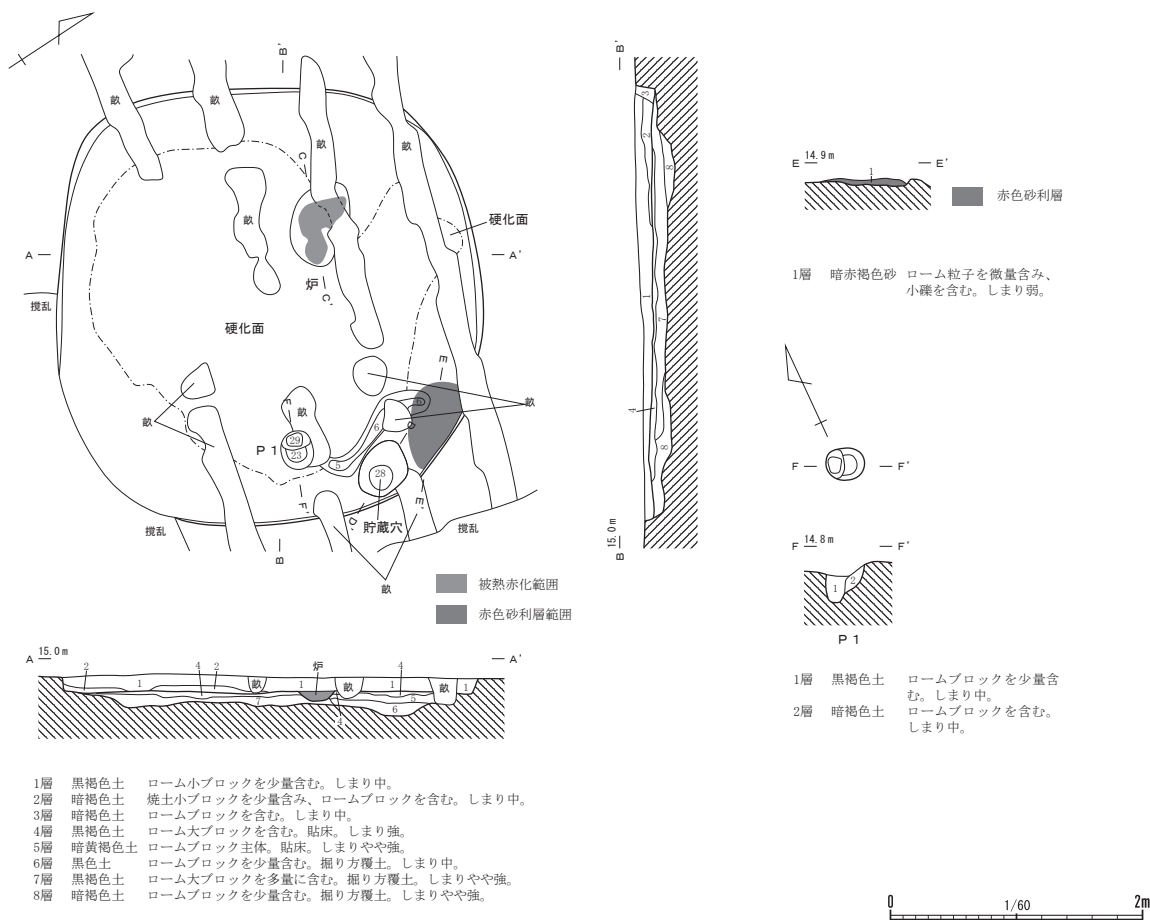
### 649号住居跡

遺構 (第80・81図)

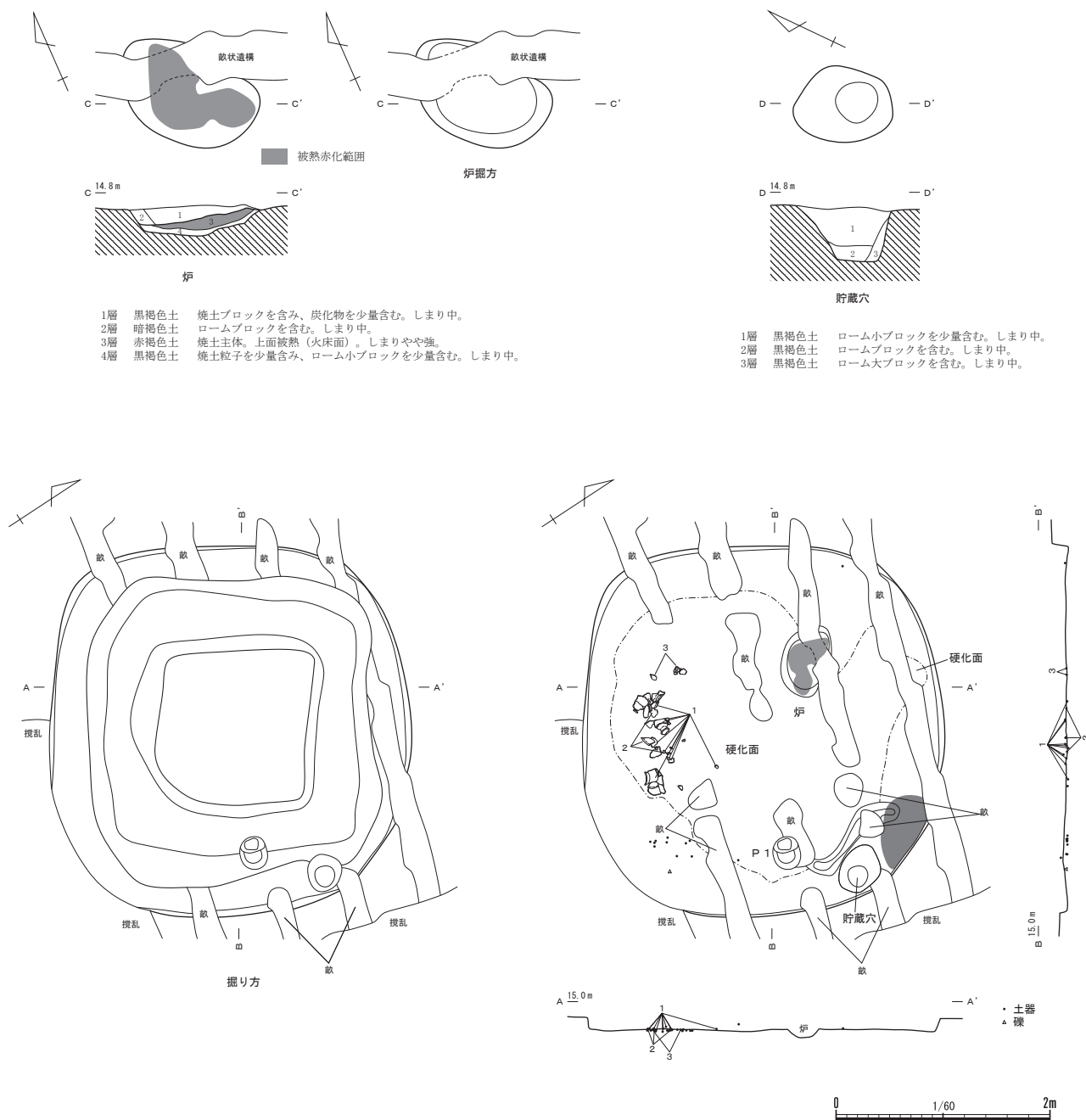
[位置] (E-6) グリッド。

[検出状況] 中世以降の畝状遺構群の他、複数の攪乱に切られる。

[構造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸3.48m/短軸3.39m/確認面からの深さ0.19m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-57°-W。壁溝：検出されなかった。床面：壁際を除き、住居中央寄りで硬化面を検出した。貼床は全体的にやや薄く、2~9cmの厚さで施されていた。炉：住居中央から北方向に振れて位置する。楕円形を呈する地床炉で、中央部を主体に広い範囲で被熱による赤化が



第80図 649号住居跡 (1/60)



第81図 649号住居跡炉・貯蔵穴・掘り方・遺物出土状態（1/30・1/60）

確認された。規模：長軸 68cm／短軸 44cm／深さ 15cm。貯蔵穴：住居東コーナーで検出された。平面形は概ね楕円形を呈する。規模：長軸 45cm／短軸 37cm／床面からの深さ 28cm。西側に隣接して、幅 10～20cm、高さ 5～6cmの凸堤がクランク状に巡る。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：貯蔵穴の西側に設けられた凸堤の北側先端部を覆うように住居北東壁沿いで検出された。長軸 71cm×短軸 35cmの範囲で、高さ 2～6cm程度の台形状の高まりが確認された。入口施設：P 1は入口梯子穴と考えられる。平面形は楕円形を呈する。規模：長軸 31cm／短軸 26cm／床面からの深さ 28cm。掘り方：住居中央

及び外縁部を1段高く掘り残す形で、周溝状の掘り込みが確認された（4～8層）。周溝状の掘り込みの全体形状は隅丸方形を呈する。規模：長軸 2.85 m／短軸 2.71 m／幅 57～84cm／下幅 27～57cm／深さ 8～19cm。

[覆 土] 3層に分層される。

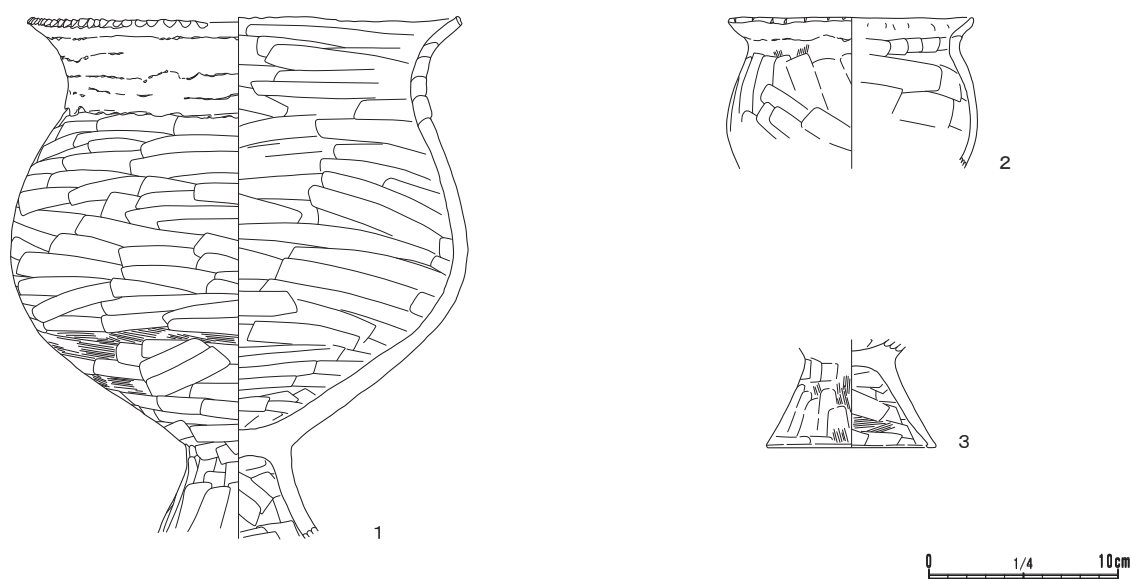
[遺 物] 南西壁沿いに集中して、甕形土器が出土した。

[時 期] 弥生時代後期後葉。

**遺 物**（第82図、図版45-1、第25表）

[土 器]（第82図1～3、図版45-1-1～3、第25表）

1～3は甕形土器である。



第82図 649号住居跡出土遺物（1／4）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第82図1 図版45-1-1	甕	口縁部～ 脚部 70%	□ 22.5 高 [27.6]	台付甕／口縁部は外反する／頸部は緩やかに屈曲し、輪積痕を4段残す／胴部は球形を呈し、中央部に最大径を有する／脚部は八の字状に外方に開く	内面：口唇部は横ナデ、口縁部～胴部は横方向のヘラナデ、脚部は横方向のヘラナデ／外面：口唇部はヘラ刻み、口縁部～頸部はやや粗い横ナデ、胴部は横方向のハケ目調整後、横方向のヘラナデ、脚部は縦方向のヘラナデ／内面全面煤付着（黒色化）、胴下半部外面煤付着	にぶい赤褐色／シャモット中量、石英微量	床面上 (中央部 南西寄り)
第82図2 図版45-1-2	甕	口縁部～ 胴部 30%	□ 12.8 高 [8.0]	口縁部は大きく外反する／頸部はやや直線的に立ち上がる／胴部は球形を呈する	内面：口縁部は指頭による横方向のナデ、頸部～胴部は横方向のヘラナデ／外面：口唇部は浅いヘラ刻み、口縁部は横ナデ、頸部～胴部は縦方向のハケ目調整後、縦・斜方向のヘラナデ／頸部外面に輪積痕を1段残す	にぶい黄褐色／シャモット多量、小礫少量	床面上 (中央部 南西寄り)
第82図3 図版45-1-3	甕	脚部 80%	高 [5.7] 脚 8.8	台付甕／脚部は八の字状に外方に開く／裾部は内面側に僅かに張り出す	内面：胴底部はヘラナデ、脚部は横方向のハケ目調整後、横方向のヘラナデ／外面：脚部は縦方向のハケ目調整後、縦方向のヘラナデ、裾部は横方向のヘラナデ後、横ナデ／脚部外面にイネ科種子圧痕を1か所残す	にぶい褐色／シャモット・砂粒中量、白色粒子少量	床面上 (中央部 南西寄り)

第25表 649号住居跡出土土器一覧

### 650号住居跡

**遺 構** (第83・84図)

[位 置] (D・E-6・7) グリッド。

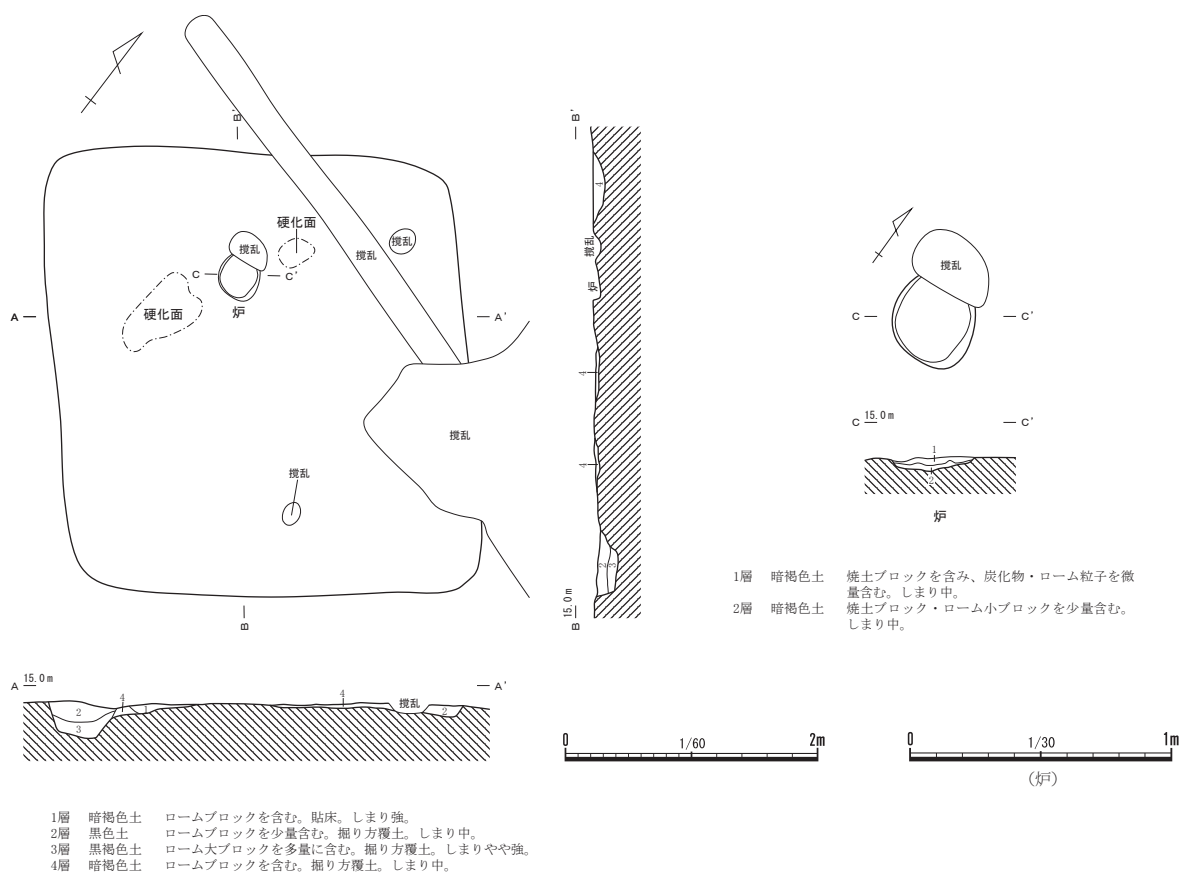
[検出状況] 複数の攪乱に切られる。上面が大きく削平され、ほぼ全面で床面が露出した状況で検出された。掘り方まで削平が達している箇所も随所に見られ、遺存状態は良好ではない。

[構 造] 平面形：方形。規模：長軸 3.51 m / 短軸 3.32 m / 確認面からの深さ 0.01 m。壁：検出されなかった。主軸方位：N-37°-W。壁溝：検出されなかった。床面：炉の周辺で部分的に硬化面を検出した。貼床は薄く、2~7cmの厚さで施されていた。炉：住居中央北西寄りに位置する。上面が削平され、掘り方のみが検出された。楕円形を呈する地床炉と推測されるが、明確な被熱による赤化は確認できなかった。規模：長軸 38cm / 短軸 33cm / 深さ 6cm。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：東コーナーから北西壁中央にかけて、変則的な「コ」の字状を呈する周溝状の掘り込みが確認された(1~4層)。規模：幅 35~53cm / 下幅 17~35cm / 深さ 13~27cm。掘り込み内から4本のピット(P1~P4)が検出され、その他に南西壁沿いの周溝状の掘り込みに付随して、深さ 4~8cm程度の不整形の掘り込みも確認された。

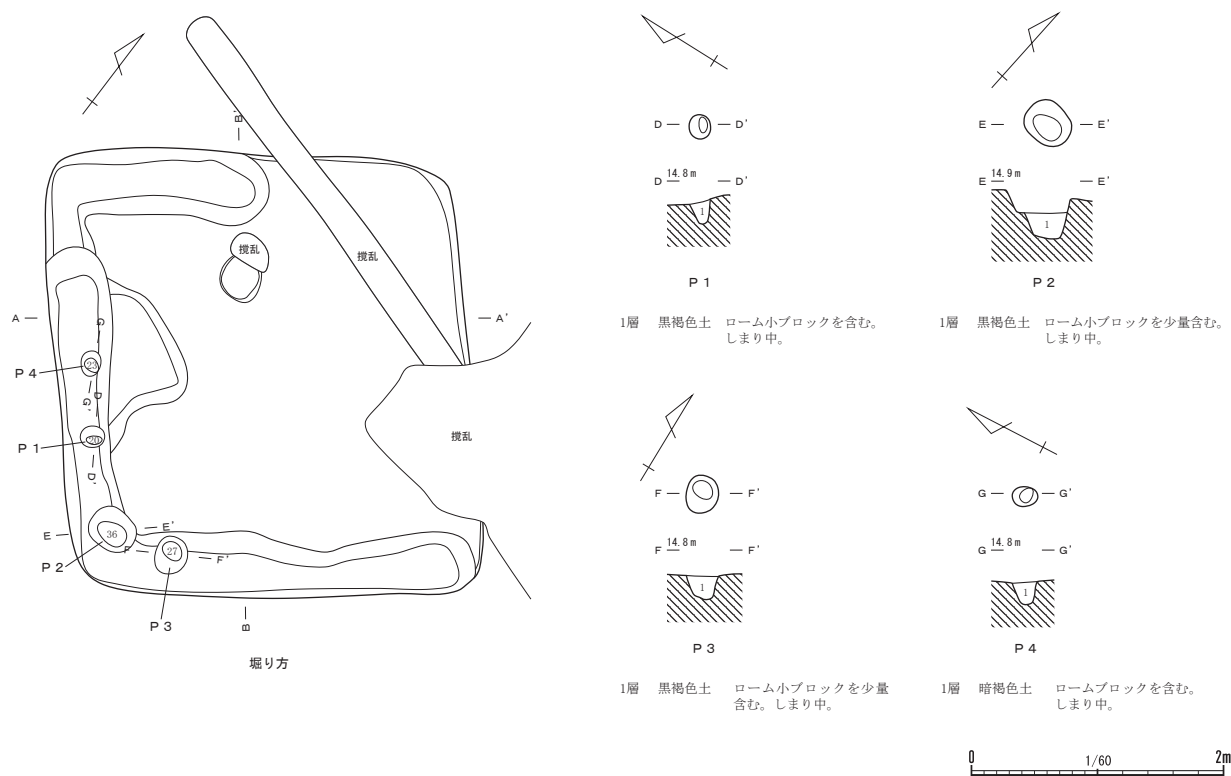
[覆 土] なし。上面は大きく削平される。

[遺 物] 甕形土器の小破片が1点出土したが、図示できなかった。

[時 期] 古墳時代前期初頭～前葉。



第83図 650号住居跡 (1/60・1/30)



第84図 650号住居跡掘り方 (1/60)

### 651号住居跡

**遺 構** (第85～87図)

[位 置] (C・D-6) グリッド。

[検出状況] 652 Yを切り、複数の攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：方形。規模：長軸 4.59 m/短軸 4.06 m/確認面からの深さ 0.48 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-39°-W。壁溝：北西壁中央～東コーナー手前、南西壁沿いの一部を除き全周する。幅 12～21cm/下幅 5～11cm/深さ 8～18cm。床面：住居中央から炉縁辺にかけて疎らに硬化面を検出した。貼床は薄く、2～4cmの厚さで施されていた。炉：住居中央から西方向に振れて位置する。楕円形を呈する地床炉で、中央部に被熱による赤化が確認された。規模：長軸 60cm/短軸 42cm/深さ 12cm。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：P1～P4は主柱穴と考えられる。P1は深さ 45cm、P2は深さ 61cm、P3は深さ 61cm、P4は深さ 56cmを測る。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：住居全体に2～9cm程度の深さの掘り込みが確認された(13・14層)。また、南コーナー付近でピット状の掘り込み(深さ 10～18cm程度) 2か所が確認された。

[覆 土] 12層に分層される。

[遺 物] 住居南西半部を中心に、鉢・高坏・壺・甕形土器が出土した。

[時 期] 古墳時代前期前葉。

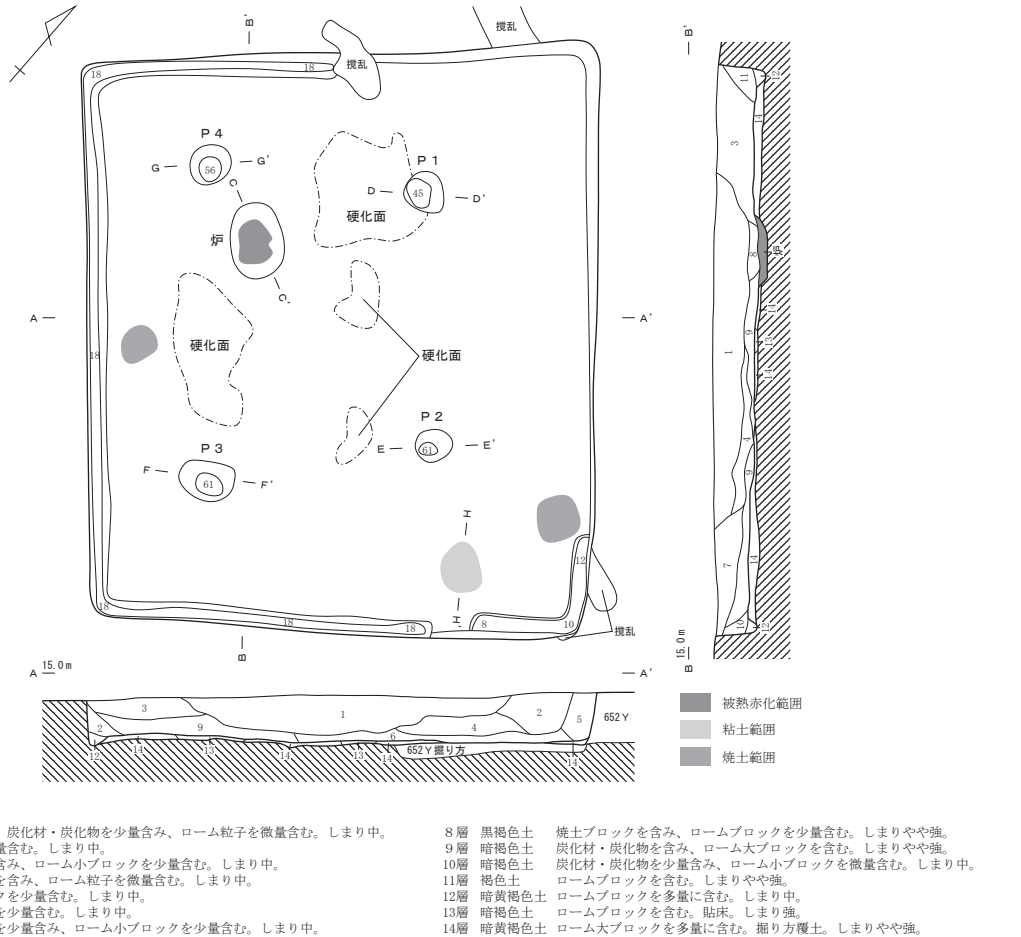
[所 見] 床面上から焼土や炭化材(柱状・板状)がまとまって検出されたことから、焼失住居と推測される。炭化材については、状態が比較的良好なものを抽出して自然科学分析(年代測定及び樹種同

定)を行った。詳細は付編Ⅰ・Ⅲを参照されたいが、出土土器の年代観と合致する暦年代が測定されたことは大きな成果であった。また、東コーナー付近で凸状に高まる灰白色粘土が検出された。範囲：長軸41cm/短軸32cm/高さ11～20cm程度。なお、灰白色粘土に被熱は認められなかった。

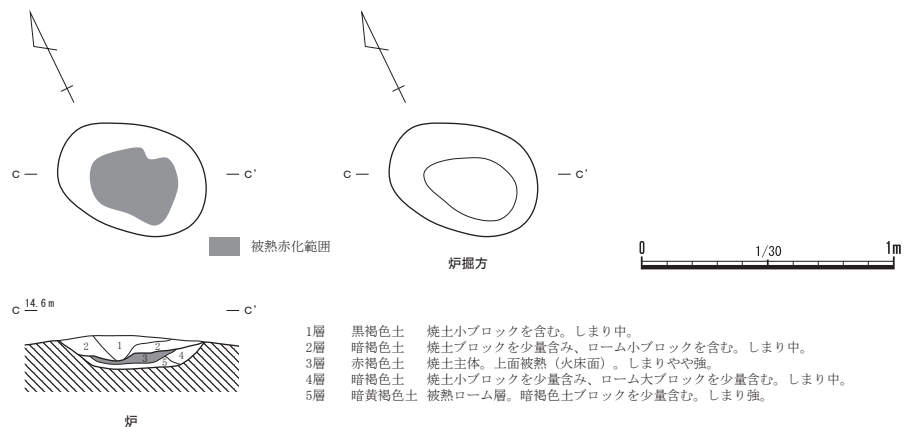
**遺物** (第88図、図版45-2、第26表)

**土器** (第88図1～8、図版45-2-1～8、第26表)

1は鉢形土器、2～4は高坏形土器、5・6は壺形土器、7・8は甕形土器である。

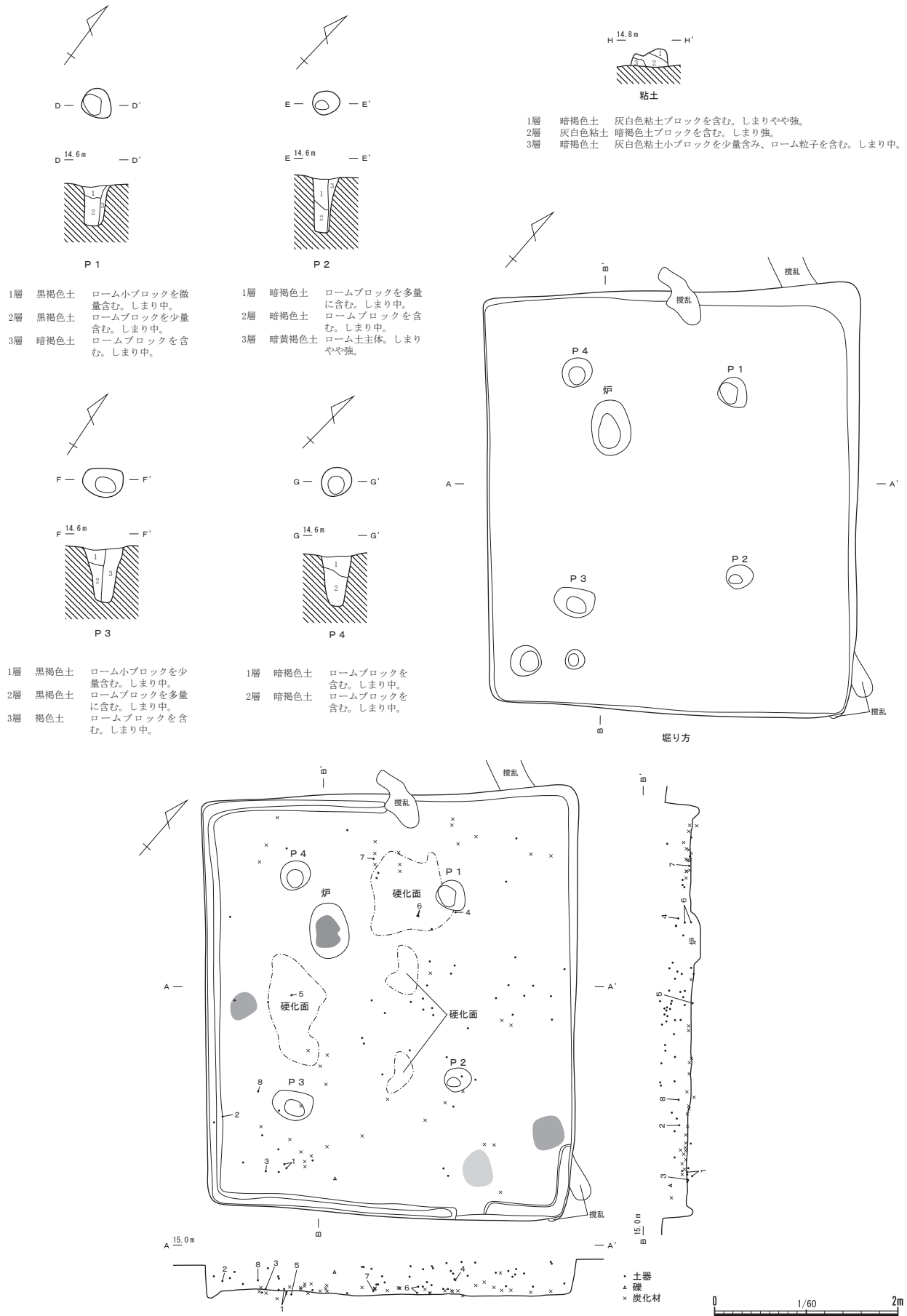


- |         |                                       |           |                                  |
|---------|---------------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1層 黒色土  | 焼土粒子を含み、炭化材・炭化物を少量含み、ローム粒子を微量含む。しまり中。 | 8層 黒褐色土   | 焼土ブロックを含み、ロームブロックを少量含む。しまりやや強。   |
| 2層 黒褐色土 | ローム粒子を微量含む。しまり中。                      | 9層 暗褐色土   | 炭化材・炭化物を含み、ローム大ブロックを含む。しまりやや強。   |
| 3層 黒褐色土 | 焼土粒子を微量含み、ローム小ブロックを少量含む。しまり中。         | 10層 暗褐色土  | 炭化材・炭化物を少量含み、ローム小ブロックを微量含む。しまり中。 |
| 4層 暗褐色土 | 炭化材・炭化物を含み、ローム粒子を微量含む。しまり中。           | 11層 褐色土   | ロームブロックを含む。しまりやや強。               |
| 5層 黒褐色土 | ローム大ブロックを少量含む。しまり中。                   | 12層 暗黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。しまり中。              |
| 6層 暗褐色土 | ロームブロックを少量含む。しまり中。                    | 13層 暗褐色土  | ロームブロックを含む。貼床。しまり強。              |
| 7層 暗褐色土 | 炭化材・炭化物を少量含み、ローム小ブロックを少量含む。しまり中。      | 14層 暗黄褐色土 | ローム大ブロックを多量に含む。掘り方覆土。しまりやや強。     |



第85図 651号住居跡 (1/60・1/30)

第3章 検出された遺構と遺物



第86図 651号住居跡P1～P4・粘土・掘り方・遺物出土状態1 (1/60)





挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第88図1 図版 45-2-1	鉢	口縁部～ 胴部 10%	口(10.4) 高 [3.6]	口縁部は外反する／口縁部と体部との境に稜を有する／体部は丸味をもって立ち上がる	内面：口縁部は横ナデ、体部は指頭押捺後ナデ／外面：口縁部は横ナデ、体部は斜方向のハケ目調整後ナデ／内外面赤彩	橙色／砂粒・小礫少量、雲母微量	床面上 (南コーナー)
第88図2 図版 45-2-2	高坏	坏部 95%	口 15.7 高 [5.0]	無稜の坏部／口唇部に面を有する／口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる／脚部との接合部で剥離	内面：口縁部は横ナデ、以下縦・斜方向のハケ目調整後、斜方向のヘラ磨き／内外面全面赤彩	橙色／石英・砂粒中量、シャモット・小礫少量	覆土下層 (南西周溝 上面、床上 12cm)
第88図3 図版 45-2-3	高坏	坏部 95%	口 16.5 高 [5.5]	無稜の坏部／口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる／全体に薄手／脚部との接合部で剥離	内面：口唇部は横ナデ、以下横・斜方向のハケ目調整後、縦方向のヘラ磨き／外面：口唇部は横ナデ、口縁部は縦方向のハケ目調整後横ナデ、以下縦方向のハケ目調整後、縦方向のヘラ磨き	明赤褐色／石英・長石・砂粒・小礫少量	床面上 (南コーナー)
第88図4 図版 45-2-4	高坏	脚部 破片	高 [3.3] 底 (12.0)	脚部はハの字状に外方に開く／裾部は大きく外反する	内面：丁寧なナデ（磨きに近い）／外面：脚部は縦方向のヘラ磨き（密）、裾部は横ナデ／脚部に円形の透孔1孔（総数は不明）	にぶい黄褐色／砂粒微量（東海系胎土）	覆土下層 (P1 南東部、 床上 16cm)
第88図5 図版 45-2-5	壺	胴部～ 底部 95%	高 [21.1] 底 7.8	胴部はほぼ球形を呈し、中央部よりやや上位に最大径を有する／平底の底部は肥厚し、中央部が僅かに凹む	内面：横方向のハケ目調整後、部分的に縦・斜方向のヘラ磨き／外面：胴上半部は横・斜方向のハケ目調整、胴下半部は縦方向のヘラ磨き、底部はナデ／外面赤彩	にぶい橙色／シャモット中量、雲母・石英・白色粒子・小礫少量	床面上 (中央部南西 寄り)
第88図6 図版 45-2-6	壺	口縁部～ 底部 60%	口 7.9 高 9.6 底 (4.2)	小型壺／口縁部と底部で中心軸が異なり、器形は全体的にやや歪む／口縁部は外傾する／頸部は「く」字状に屈曲する／胴部はほぼ球形を呈し、中位に最大径を有する／底部はやや安定性を欠く平底である	内面：口縁部は横方向のヘラナデ、頸部～肩部は指頭押捺、胴部は横方向のヘラナデ／外面：口唇部は横ナデ、口縁部～頸部は縦方向のハケ目調整後ナデ、胴部は横・斜方向のハケ目調整後、縦方向のヘラ磨き、底部は横方向のヘラ割り	にぶい橙色／白色粒子・砂粒中量、小礫少量	床面上 (中央部付近)
第88図7 図版 45-2-7	甗	口縁部～ 胴部 90%	口 14.3 高 [15.9]	口唇部は短く外反する／口縁部は内湾気味に立ち上がる／頸部は鋭角な「く」字状に屈曲する／胴部はほぼ球形を呈し、中央部よりやや上位に最大径を有する	内面：口縁部は横方向のハケ目調整、頸部～胴部は横方向のヘラナデ／外面：口唇部は横ナデ、口縁部は斜方向のハケ目調整後、横ナデ、頸部～胴上半部は横・斜方向のハケ目調整、胴下半部は縦・斜方向のハケ目調整	にぶい赤褐色／砂粒中量、石英・小礫少量	床面上 (中央部北西 寄り)
第88図8 図版 45-2-8	甗	脚部 100%	高 [7.0] 脚 8.8	台付甗／胴部との接合部は肥厚し、直立気味に立ち上がる／脚部はハの字状に外方に開く	内面：胴底部は横方向のヘラナデ、脚部は横方向のハケ目調整後、横方向のヘラナデ／外面：縦方向のハケ目調整後ナデ	にぶい赤褐色／雲母・砂粒・小礫少量	覆土下層 (P3 南西部、 床上 13cm)

第26表 651号住居跡出土土器一覧

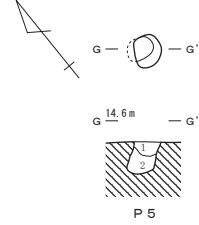
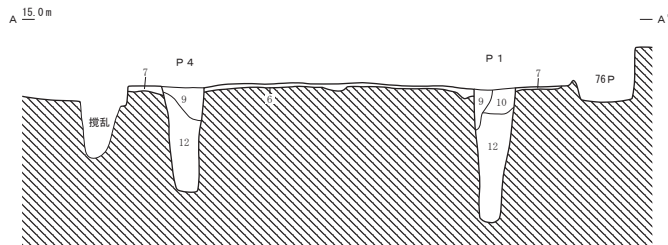
### 652号住居跡

**遺 構** (第89～92図)

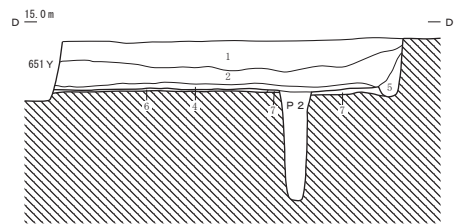
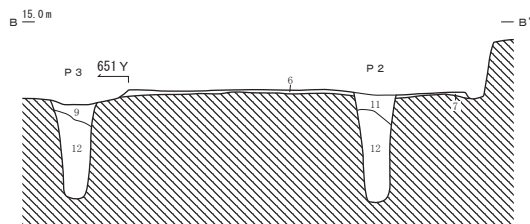
[位 置] (C-5、D-5・6) グリッド。

[検出状況] 651 Y、中世以降のピット (75・76 P)・畝状遺構群の他、複数の攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸 5.18 m／短軸 4.24 m以上／確認面からの深さ 0.47 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-55°-W。壁溝：北コーナー側は広い範囲で途切れるが、それ以外の部分では、651 Y、75 Pに切られる箇所を除き全周する。幅 11～23cm／下幅 3～12cm／深さ 5～8cm。床面：壁際及び貯蔵穴周辺を除き、硬化面を検出した。貼床は薄く、2～4cmの厚さで施されていた。炉：住居中央北西寄りに位置する。楕円形を呈する地床炉で、中央部に被熱による赤化が確認された。規模：長軸 66cm／短軸 50cm／深さ 14cm。貯蔵穴：住居東コーナーで検出された。平面形は楕円形を呈する。規模：長軸 45cm／短軸 34cm／床面からの深さ 34cm。やや間隔をおいて西側に、幅 20～33cm、高さ 4～5cmの凸堤が弧状に巡る。柱穴：P1～P4は主柱穴と考えられる。P1は深さ 106cm、P2は深さ 87cm、P3は深さ 78cm、P4は深さ 83cmを測る。赤色砂利層：貯蔵穴と凸堤の間で検出された。長軸 47cm×短軸 18cmの範囲で、高さ 2～3cm程度の台形状の高まりが確認された。入口施設：P5は入口梯子穴と考えられる。平面形は概ね楕円形を呈する。規模：長軸 26cm／短軸 21cm



1層 暗褐色土 ローム小ブロックを多量に含む。しまり中。  
 2層 褐色土 ロームブロックを多量に含む。しまりやや強。

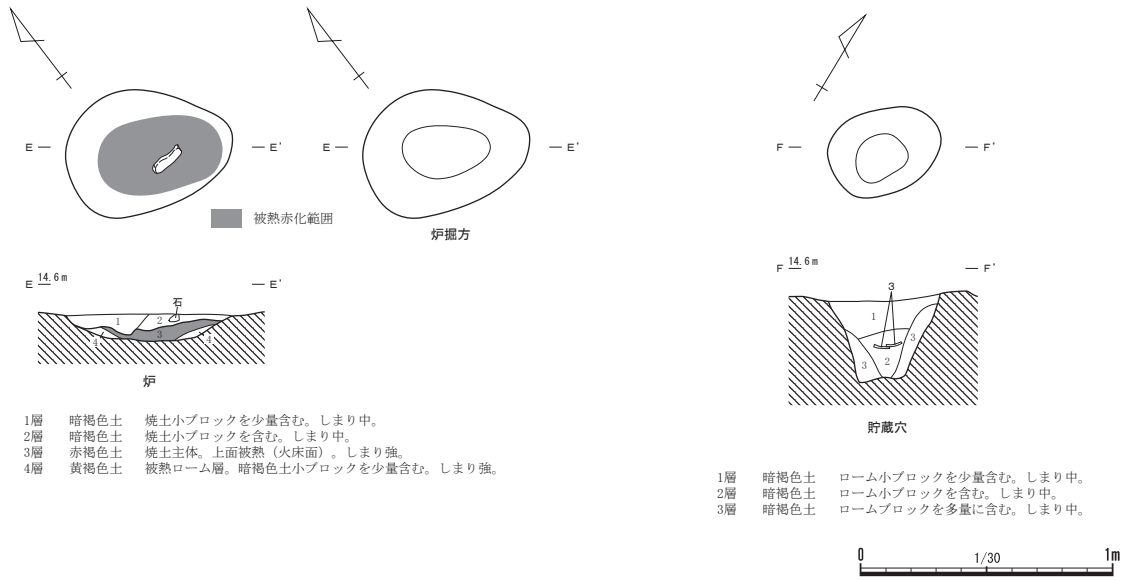


- |     |       |                          |
|-----|-------|--------------------------|
| 1層  | 暗褐色土  | ローム小ブロックを微量含む。しまり中。      |
| 2層  | 暗褐色土  | ローム小ブロックを少量含む。しまり中。      |
| 3層  | 暗褐色土  | ロームブロックを含む。しまり中。         |
| 4層  | 暗褐色土  | ロームブロックを少量含む。しまりやや強。     |
| 5層  | 褐色土   | ロームブロックを含む。しまり中。         |
| 6層  | 暗褐色土  | ロームブロックを多量に含む。貼床。しまり強。   |
| 7層  | 褐色土   | ロームブロックを含む。掘り方覆土。しまりやや強。 |
| 8層  | 褐色土   | ローム粒子を含む。しまり中。           |
| 9層  | 暗褐色土  | ロームブロックを含む。しまり中。         |
| 10層 | 暗褐色土  | ローム大ブロックを含む。しまりやや強。      |
| 11層 | 黒褐色土  | ローム大ブロックを含む。しまりやや強。      |
| 12層 | 暗黄褐色土 | ローム土主体。しまりやや弱。           |

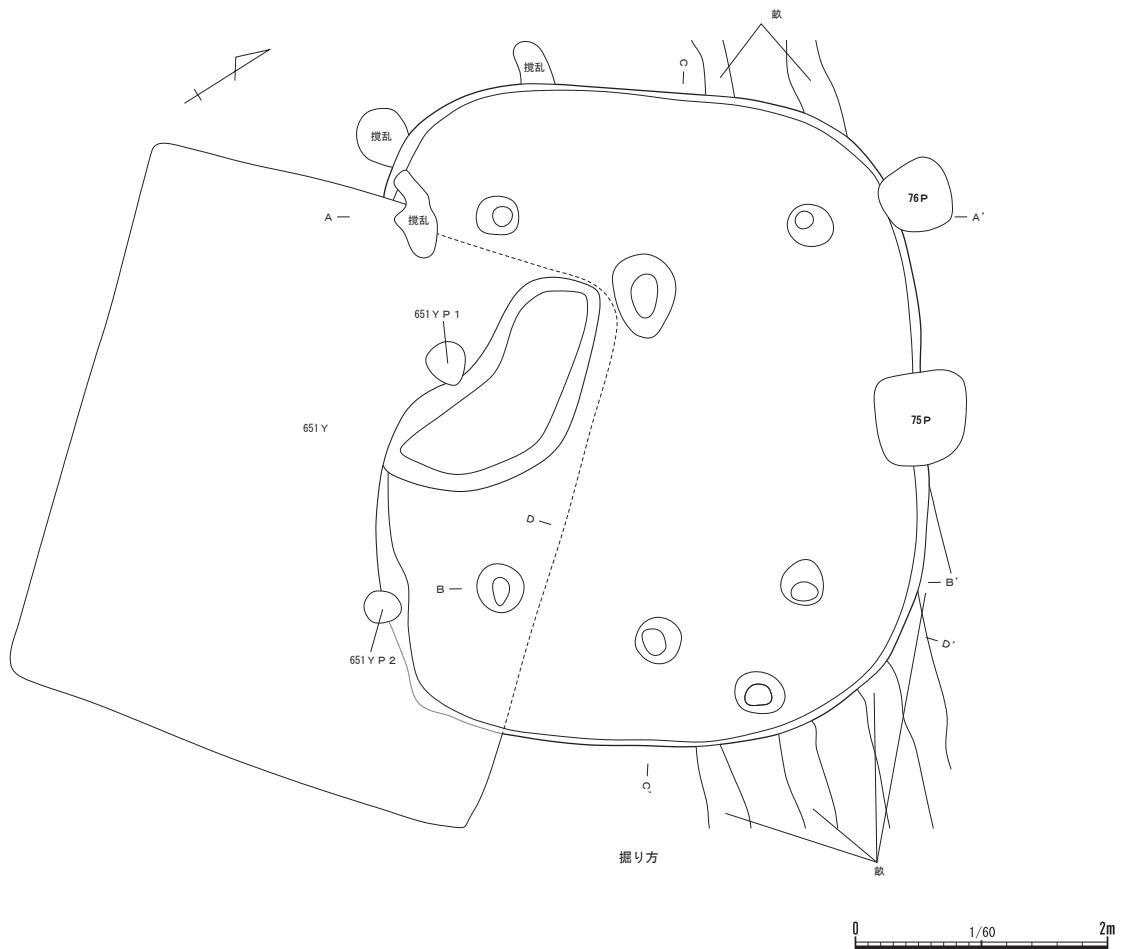


第 89 図 652 号住居跡 (1 / 60)

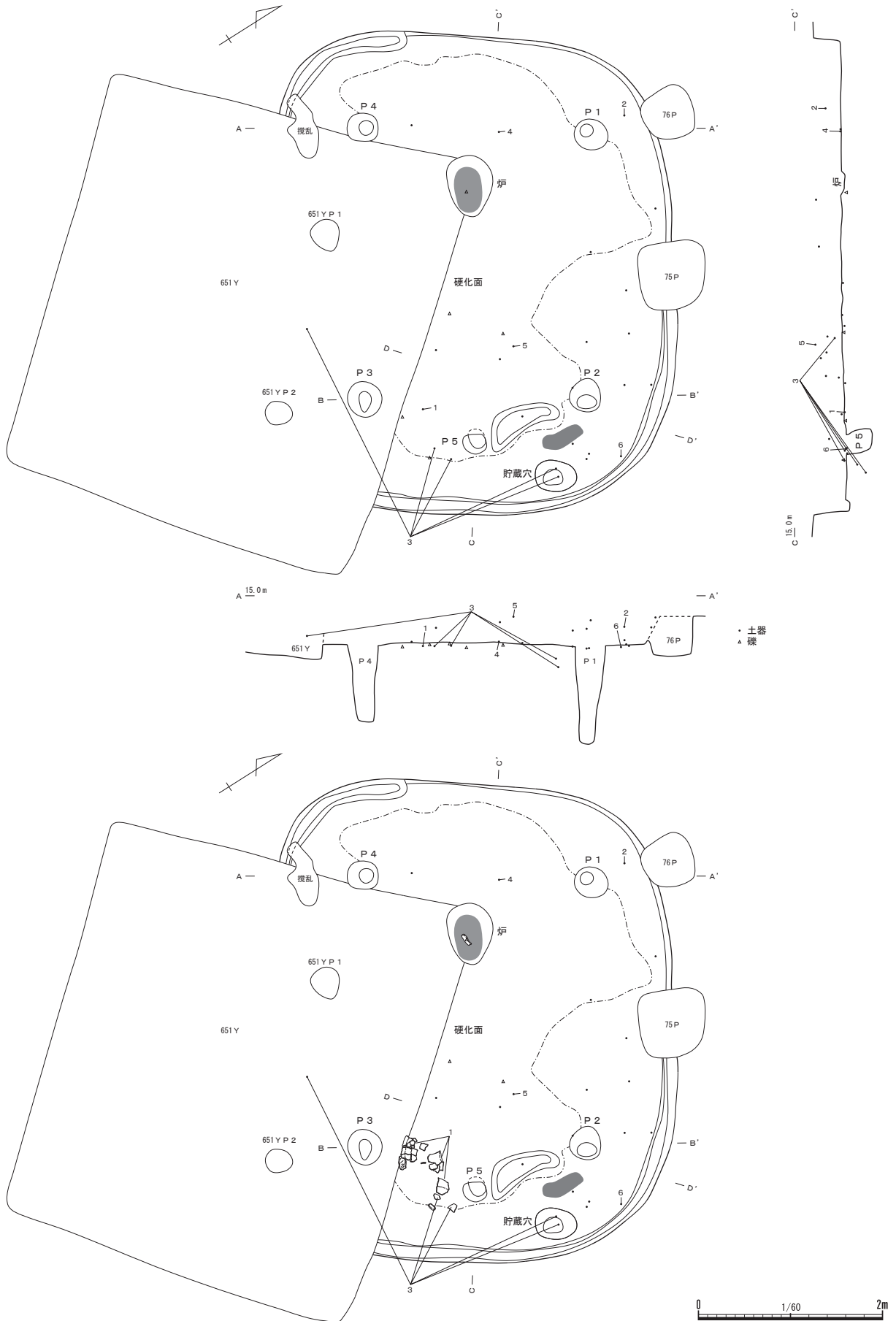
第3章 検出された遺構と遺物



第90図 652号住居跡炉・貯蔵穴（1/30）



第91図 652号住居跡掘り方（1/60）



第 92 図 652 号住居跡遺物出土状態 (1 / 60)

／床面からの深さ 25cm。掘り方：住居全体に 2～7 cm 程度の深さの掘り込みが確認された（6・7 層）。また、炉南側から南壁にかけて不整形の掘り込み（深さ 8～13cm 程度）が確認された。

〔覆 土〕 5 層に分層される。

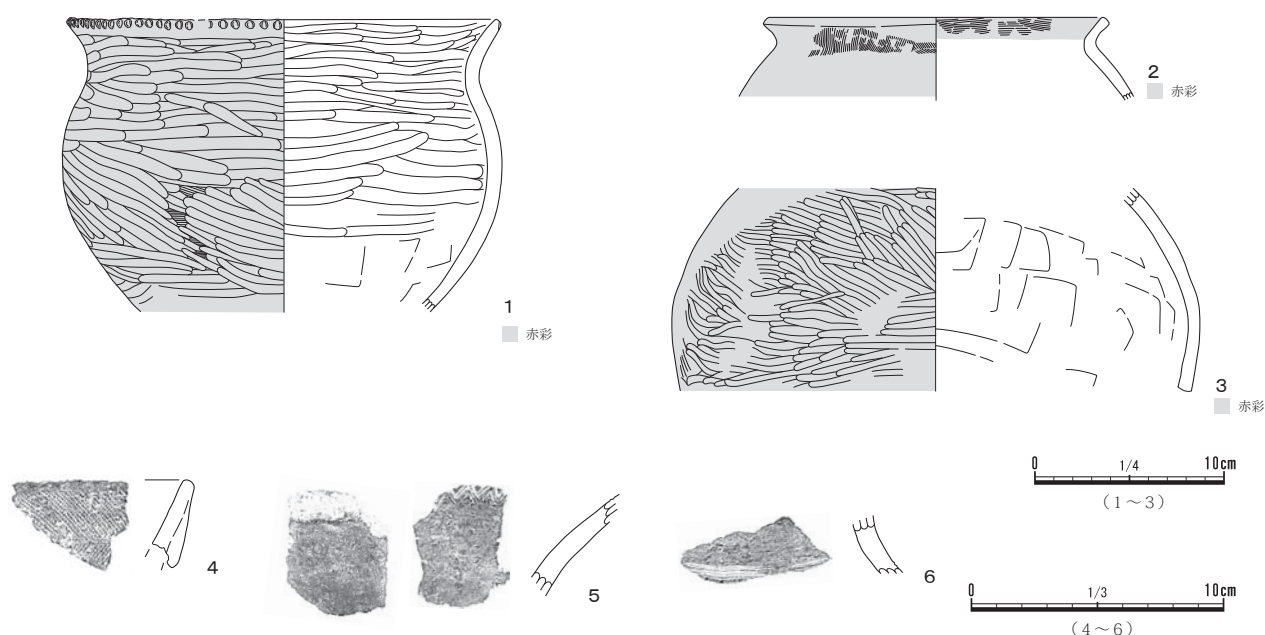
〔遺 物〕 住居東半部を中心に、床面直上及び貯蔵穴内から壺・広口壺・甕形土器が出土した。

〔時 期〕 弥生時代後期後葉～末葉。

〔遺 物〕（第 93 図、図版 46-1、第 27 表）

〔土 器〕（第 93 図 1～6、図版 46-1-1～6、第 27 表）

1・2 は広口壺形土器、3～6 は壺形土器である。



第 93 図 652 号住居跡出土遺物（1 / 4・1 / 3）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第93図1 図版46-1-1	広口壺	口縁部～ 胴部 95%	口 22.5 高 [15.5]	口縁部は緩やかに外反する／胴部は球形を呈するが、肩部がやや張出し、胴部中央より上位に最大径を有する	内面：口唇部は横ナデ、口縁部～胴上半部は横方向のヘラ磨き、胴下半部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ後、棒状工具による浅い刻み、頸部～胴部は横方向のハケ目調整後、横・斜方向のヘラ磨き／外面赤彩	にぶい橙色／シャモット中量、砂粒・小礫少量、雲母微量	床面上 (中央部南東寄り)
第93図2 図版46-1-2	広口壺	口縁部～ 肩部 15%	口 (17.6) 高 [4.4]	口縁部は短く外反する／頸部は「く」字状に屈曲する	内面：口縁部は横方向のハケ目調整、頸部～肩部は摩滅のため調整不明／外面：口唇部は横ナデ、口縁部は縦方向のハケ目調整後、横ナデ、頸部～肩部は横方向のハケ目調整後ナデ／口縁部内面及び外面赤彩	灰黄褐色／シャモット中量、砂粒・小礫少量、白色粒子・砂粒少量	覆土上層 (北コーナー、 床上 17cm)
第93図3 図版46-1-3	壺	胴部 破片	高 [10.7]	胴部は球形を呈すると推測される	内面：横方向のヘラナデ／外面：横・斜方向のヘラ磨き／外面赤彩	橙色／シャモット・砂粒中量、白色粒子・小礫少量	床面上 (中央部南東寄り)・ 貯蔵穴覆土
第93図4 図版46-1-4	壺	口縁部 破片	厚 1.3	幅広の複合口縁／口縁部は外傾する	内面：横方向のヘラナデ／外面：横ナデ、口唇部に縄文LR (摩滅著しい) 施文、口縁部に羽状縄文 (RL・LR) 施文	にぶい橙色／シャモット中量、雲母・石英・小礫少量	床面上 (炉北西側)
第93図5 図版46-1-5	壺	口縁部 破片	厚 0.8	複合口縁 (複合口縁部は剥落)／口縁部は大きく外反する	内面：櫛描波状文 2 条以上、以下横方向のヘラ磨き／外面：縦方向のヘラ磨き	にぶい橙色／シャモット・砂粒・小礫少量	覆土上層 (中央部東寄り、 床上 32cm)
第93図6 図版46-1-6	壺	肩部 破片	厚 0.8	緩やかに屈曲する	内面：横方向のヘラナデ／外面：縦方向のヘラ磨き、櫛描直線文 5 条施文、無文部赤彩	にぶい黄褐色／小礫少量、砂粒微量	床面上 (東コーナー)

第 27 表 652 号住居跡出土土器一覧



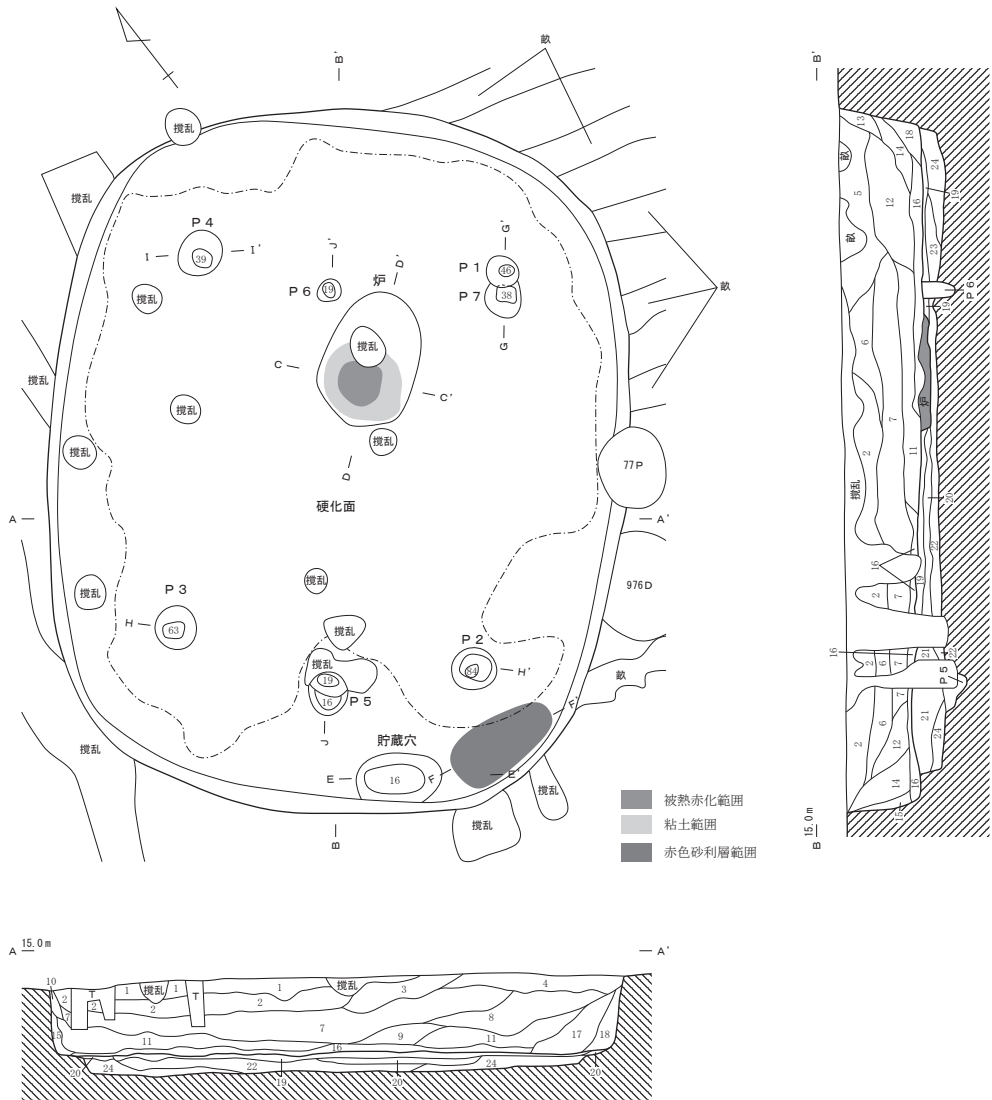
653号住居跡

遺 構 (第94～97図)

[位 置] (C-5・6、D-5) グリッド。

[検出状況] 中世以降の土坑 (976 D)・ピット (77 P)・畝状遺構群の他、複数の攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：隅丸長方形。規模：長軸 5.62 m/短軸 4.62 m/確認面からの深さ 0.72 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-43°-E。壁溝：検出されなかった。床面：壁際及び貯蔵穴周辺を除き、硬化面を検出した。貼床は全体にやや厚く、8～12cmの厚さで施されていた。炉：住居中央やや北東寄りに位置する。新旧2段階の炉が位置を僅かにスライドさせ、上下に重複して検出された。炉

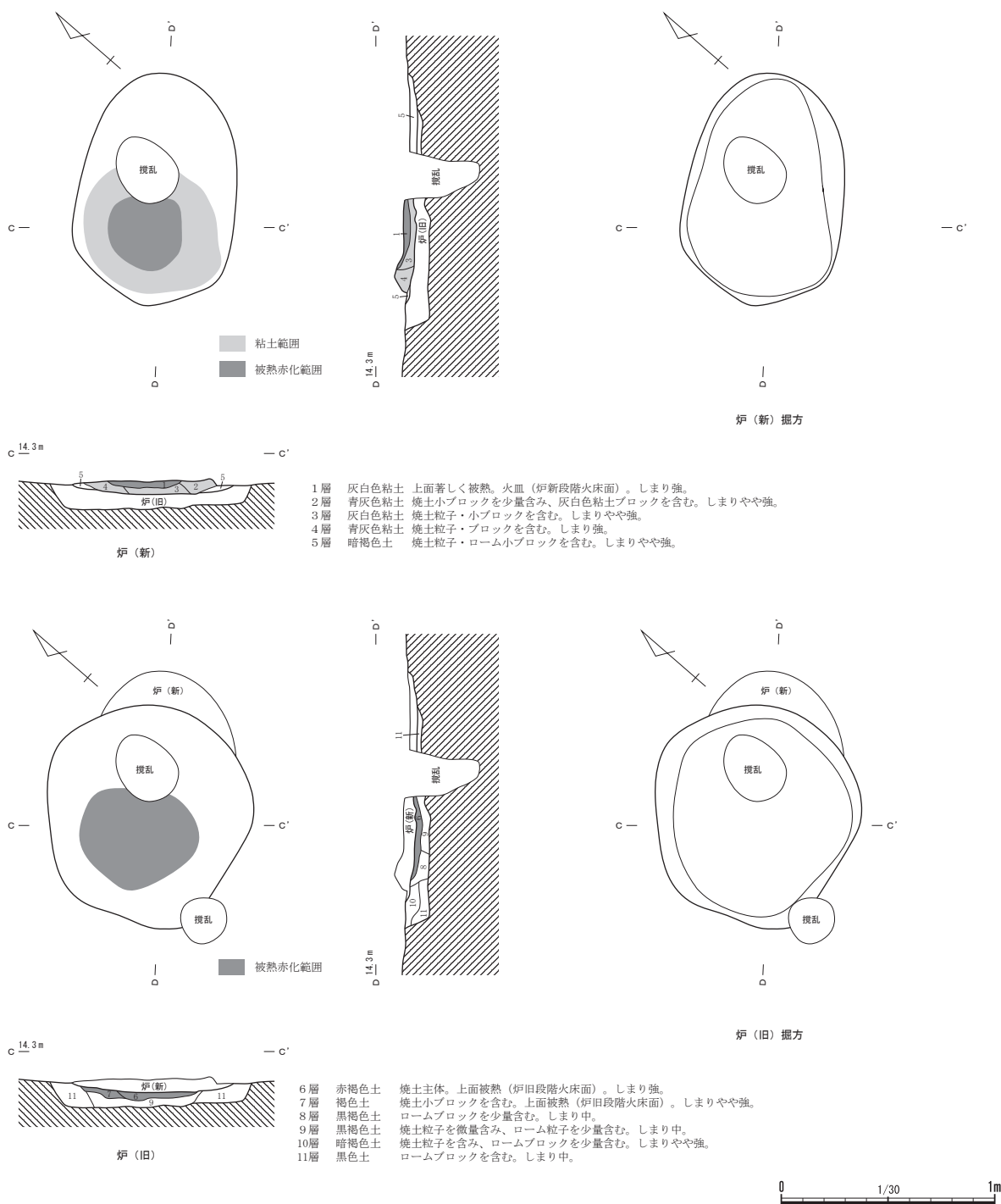


- |     |      |                                 |     |       |                              |
|-----|------|---------------------------------|-----|-------|------------------------------|
| 1層  | 黒褐色土 | 焼土・ローム粒子を微量含む。しまり中。             | 13層 | 暗褐色土  | ロームブロックを含む。しまりやや強。           |
| 2層  | 暗褐色土 | ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。         | 14層 | 黒褐色土  | ローム小ブロックを少量含む。しまり中。          |
| 3層  | 褐色土  | ローム小ブロックを含む。しまり中。               | 15層 | 暗褐色土  | ロームブロックを含む。しまり中。             |
| 4層  | 暗褐色土 | ローム小ブロックを少量含む。しまり中。             | 16層 | 黒褐色土  | ロームブロックを含む。しまりやや強。           |
| 5層  | 黒褐色土 | ローム小ブロックを少量含む。しまり中。             | 17層 | 黒褐色土  | ロームブロックを含む。しまり中。             |
| 6層  | 暗褐色土 | 焼土ブロックを少量含む、ローム小ブロックを微量含む。しまり中。 | 18層 | 暗褐色土  | ロームブロックを含む。しまり中。             |
| 7層  | 暗褐色土 | 焼土小ブロックを少量含む、ロームブロックを含む。しまり中。   | 19層 | 暗黄褐色土 | ロームブロック主体。貼床。しまり強。           |
| 8層  | 暗褐色土 | ロームブロックを少量含む。しまり中。              | 20層 | 暗褐色土  | ローム大ブロックを多量に含む。貼床。しまりやや強。    |
| 9層  | 暗褐色土 | 炭化物を少量含む、ロームブロックを少量含む。しまり中。     | 21層 | 暗褐色土  | ロームブロックを含む。掘り方覆土。しまりやや強。     |
| 10層 | 褐色土  | ロームブロックを少量含む。しまり中。              | 22層 | 黒褐色土  | ロームブロックを含む。掘り方覆土。しまり中。       |
| 11層 | 暗褐色土 | ロームブロックを含む。しまりやや強。              | 23層 | 黒褐色土  | ローム大ブロックを多量に含む。掘り方覆土。しまりやや強。 |
| 12層 | 暗褐色土 | ロームブロックを含む。しまり中。                | 24層 | 黒色土   | ロームブロックを含む。掘り方覆土。しまりやや強。     |



第94図 653号住居跡 (1/60)





第95図 653号住居跡炉(1/30)

新段階は楕円形の掘方を有する粘土板炉で、火皿中央部に被熱による赤化が確認された。火皿規模：長軸 69cm/短軸 59cm/厚み 2~3 cm。掘方規模：長軸 109cm/短軸 76cm/深さ 8 cm。炉旧段階は不整形円形を呈する地床炉で、中央部に被熱による赤化が確認された。規模：長軸 100cm/短軸 98cm/深さ 22cm。貯蔵穴：住居南コーナー周辺で検出された。平面形は楕円形を呈する。規模：長軸 68cm/短軸 39cm/床面からの深さ 14cm。柱穴：P 1~P 4は支柱穴と考えられる。P 1は深さ 46cm、P 2は深さ 84cm、P 3は深さ 63cm、P 4は深さ 39cmを測る。また、P 1に切られ、住居中央寄りに位置する P 7は深さ 38cmを測り、住居の建替えを想定した場合、旧段階の支柱穴である可能性が考えられる。

赤色砂利層：貯蔵穴の東側に位置し、住居南コーナーで検出された。長軸 89cm×短軸 44cmの範囲で、高さ 4～6 cm程度の台形状の高まりが確認された。入口施設：P 5は入口梯子穴と考えられる。平面形は楕円形を呈する。規模：長軸 35cm/短軸 31cm/床面からの深さ 25cm。掘り方：壁際を一段高く残し、住居内縁より 2～18cm程度径を縮小させた相似形の掘り込みが確認された（19～24層）。主軸方位は住居上端と合致し、入れ子状を呈する。規模：長軸 5.12 m/短軸 4.03 m/深さ 0.13～0.20 m。

〔覆 土〕 18層に分層される。

〔遺 物〕 高坏・壺・甕形土器が出土した。約半数は覆土上層からの出土である。

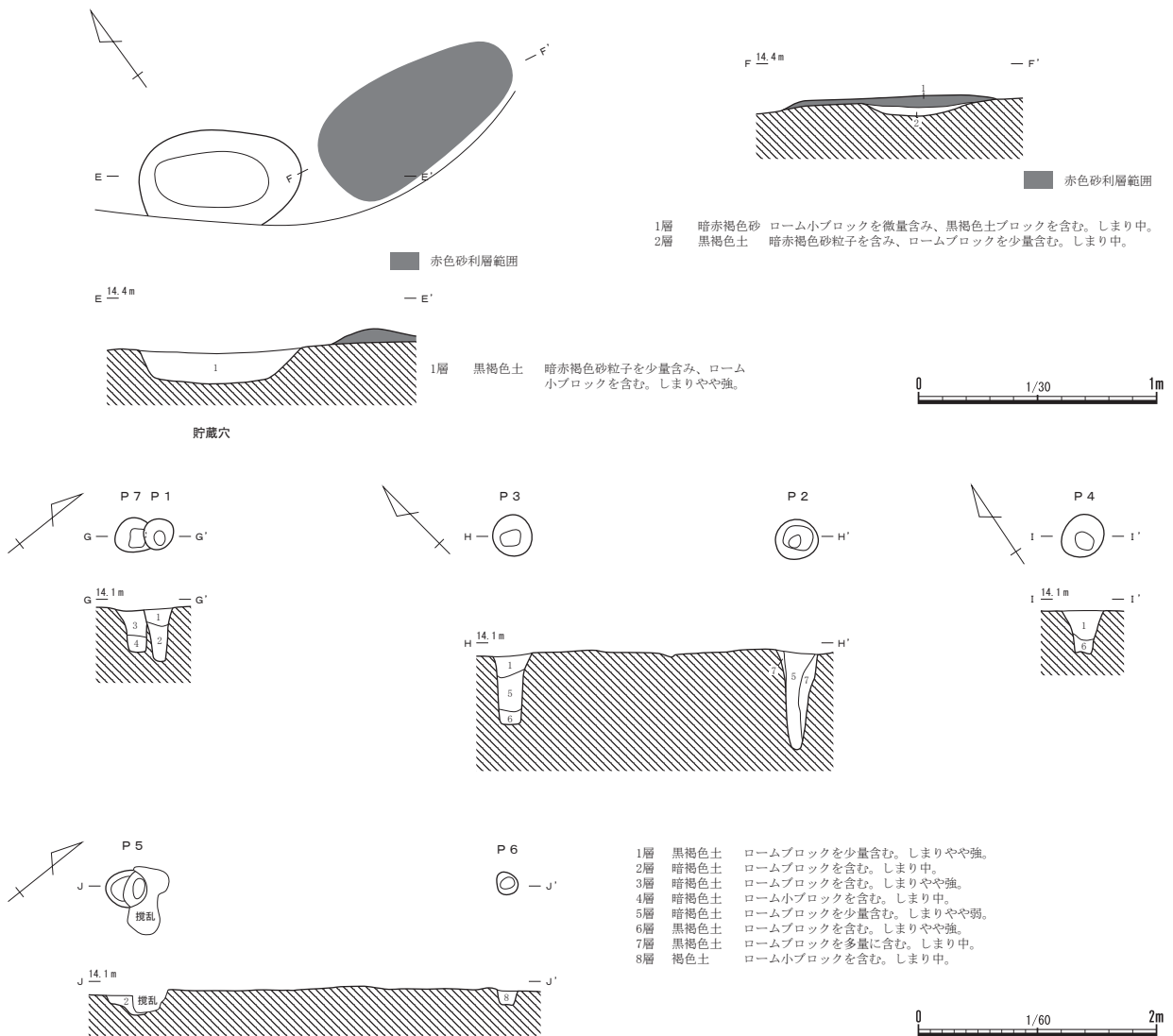
〔時 期〕 弥生時代後期後葉。

〔所 見〕 明確な2面目（旧段階）の床面は把握できなかったが、入れ子状を呈する掘り方形状、並びに2時期の炉・柱穴が検出されたことから、住居の建替え（拡張）があったことが推測される。

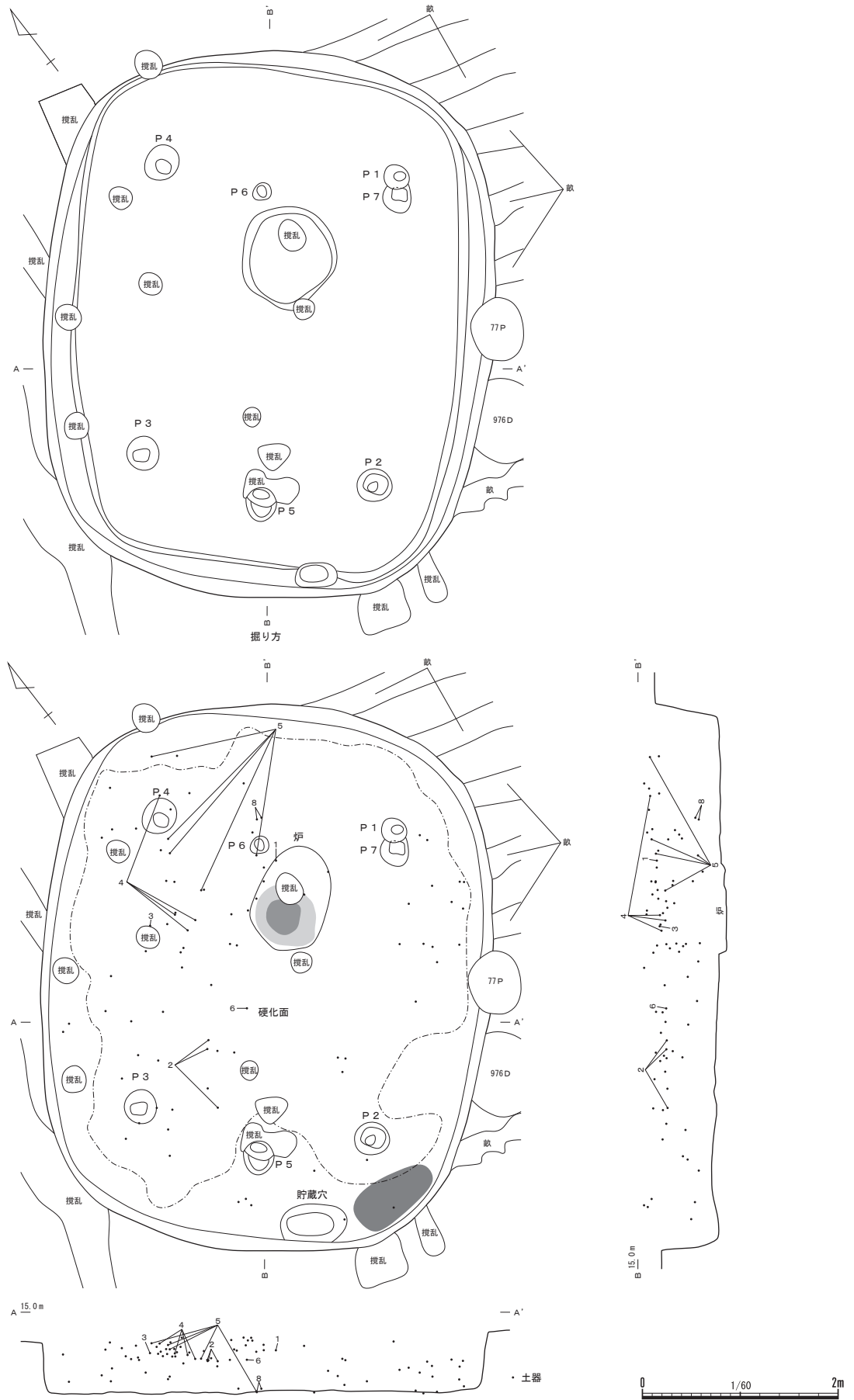
〔遺 物〕（第98図、図版46-2、第28表）

〔土 器〕（第98図1～8、図版46-2-1～8、第28表）

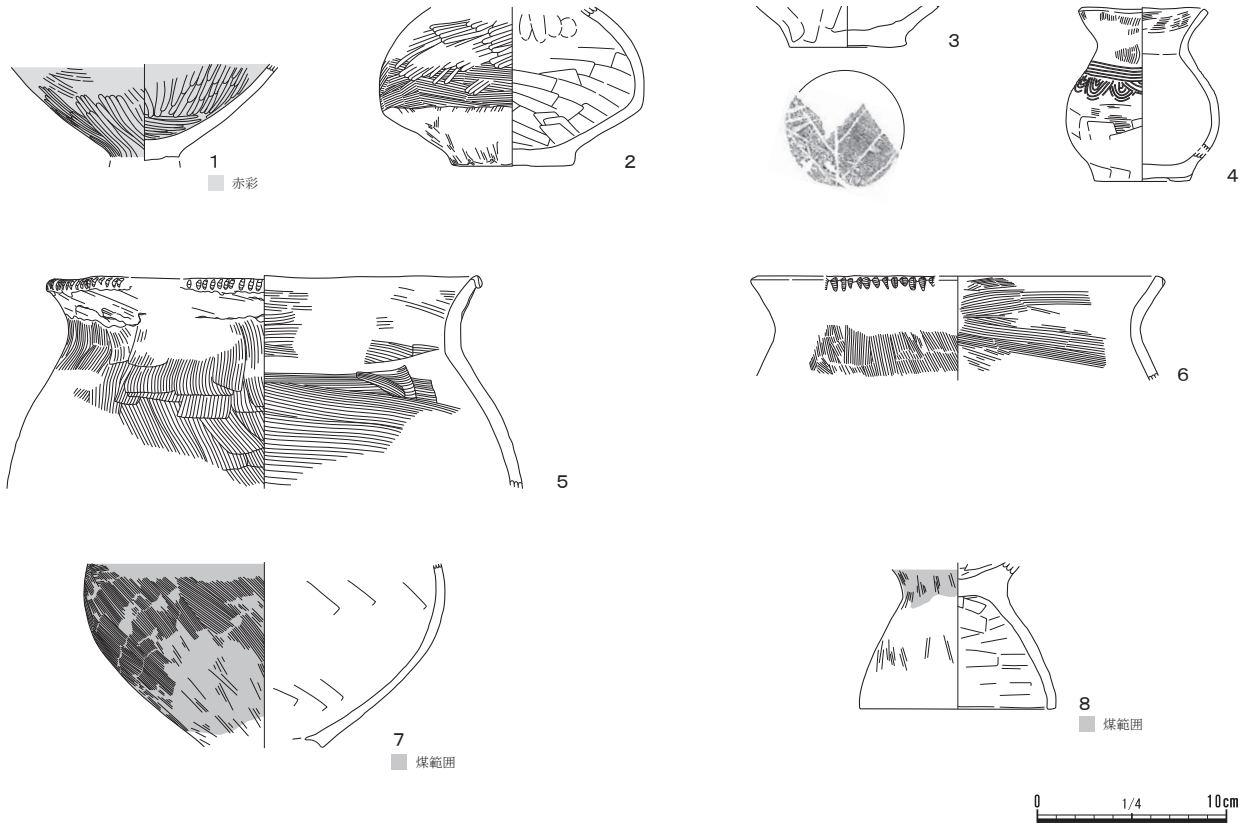
1は高坏形土器、2～4は壺形土器、5～8は甕形土器である。



第96図 653号住居跡貯蔵穴・赤色砂利層・P1～P7（1/30・1/60）



第97図 653号住居跡掘り方・遺物出土状態 (1/60)



第 98 図 653 号住居跡出土遺物（1 / 4）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第98図1 図版 46-2-1	高坏	坏部 15%	高 [5.1]	坏部はやや内湾しながら外方に開く／坏底部はほぼ平坦である	内面：坏部は縦方向のヘラ磨き、坏底部は横方向のヘラ磨き／外面：斜・縦方向のハケ目調整後、縦方向のヘラ磨き／内外面赤彩	にぶい橙色／シャモット・砂粒少量、石英微量	覆土上層 (炉上面、 床上 47cm)
第98図2 図版 46-2-2	壺	肩部～ 底部 75%	高 [8.4] 底 6.3	胴部は下膨れ状を呈し、胴下半部に稜を有する／底部はやや厚手の平底で、中央部が僅かに凹む	内面：肩部は指頭押捺、胴部～底部は横方向のヘラナデ／外面：肩部～胴上半部は横方向のハケ目調整後、横・斜方向のヘラ磨き、胴下半部は縦方向のハケ目調整後ナデ、底部はナデ	にぶい黄橙色／シャモット多量、白色粒子・砂粒少量	覆土上層 (中央部南西 寄りに散在)
第98図3 図版 46-2-3	壺	底部 40%	高 [2.6] 底 6.2	胴下半部は直線的に立ち上がる／底部は平底で、中央部が僅かに凹む	内面：摩擦のため調整不明／外面：胴部は横方向のヘラナデ、底部は木葉痕が残る	にぶい橙色／シャモット中量、砂粒少量、石英微量	覆土上層 (中央部北 寄り、床上 39cm)
第98図4 図版 46-2-4	壺	口縁部～ 底部 50%	口 6.5 高 (9.2) 底 5.0	小型壺／口縁部は外反する／頸部は「く」字状に屈曲する／胴部はやや下膨れ状を呈する／底部はドーナツ底で、中央部が凹む	内面：口縁部は横方向のハケ目調整後ナデ、頸部以下は摩擦のため調整不明／外面：口唇部は横ナデ、口縁部～頸部は縦方向のハケ目調整後ナデ、肩部に櫛描直線文4条、櫛描コンパス文を施文、胴部は横方向のハケ目調整後、横方向のヘラナデ、底部はナデ／底部外縁部に粘土紐貼付	にぶい橙色／シャモット中量、石英・砂粒・小礫少量	覆土上層 (北コーナー 付近に散在)
第98図5 図版 46-2-5	甕	口縁部～ 肩部 25%	口 22.6 高 [11.2]	口唇部～口縁部肥厚（粘土紐貼付）／口縁部は外反する／肩部はやや張り出す	内面：口唇部は横ナデ、口縁部～頸部は横方向のハケ目調整後、横ナデ、肩部は横方向のハケ目調整／外面：口唇部はハケ刻み、口縁部は粘土紐貼付後、粗いナデ・横ナデ、頸部～肩部は縦・斜方向のハケ目調整	にぶい橙色／石英・砂粒少量、小礫微量	床面上・ 覆土上層 (北コーナー 付近に散在)
第98図6 図版 46-2-6	甕	口縁部～ 肩部 15%	口 (20.9) 高 [5.5]	口唇部に面を有する／口縁部は外傾する／頸部は「く」字状に屈曲する	内面：口縁部～頸部は横方向のハケ目調整後ナデ、肩部は横方向のハケ目調整／外面：口唇部はハケ刻み、口縁部は縦方向のハケ目調整後ナデ、頸部～肩部は縦方向のハケ目調整	にぶい黄橙色／砂粒中量、シャモット少量、小礫微量	覆土上層 (中央部、床 上 34cm)
第98図7 図版 46-2-7	甕	胴部 15%	高 [9.7]	台付甕／胴部は球形を呈すると推測される／脚部接合部で剥離	内面：横方向のヘラナデ後ナデ（平滑に仕上げられる）／外面：斜方向のハケ目調整後ナデ（胴部下端に行くにつれ、ナデ消される度合いが増加する）／外面ほぼ全面に煤付着	にぶい橙色／シャモット・砂粒中量、石英・小礫少量	覆土下層 一括
第98図8 図版 46-2-8	甕	脚部 95%	高 [7.7] 脚 10.3	台付甕／脚部は内湾する／裾部はほぼ直立する	内面：胴底部は横方向のヘラナデ、脚部は横方向のヘラナデ後ナデ／外面：脚部は縦方向のハケ目調整後ナデ、裾部は横ナデ／胴部との接合部外面に煤付着	浅黄橙色／シャモット中量、砂粒・小礫少量	床面上 (P6 北東部)

第 28 表 653 号住居跡出土土器一覧

### 654号住居跡

**遺 構** (第99・100図)

[位 置] (E-4・5) グリッド。

[検出状況] 中世以降の畝状遺構群及び攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸 3.05 m／短軸 2.75 m／確認面からの深さ 0.25 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-69°-W。壁溝：検出されなかった。床面：住居中央に硬化面を検出した。貼床はやや厚く、3～14cmの厚さで施されていた。炉：住居中央やや北西寄りに位置する。隅丸方形を呈する地床炉で、中央部に被熱による赤化が確認された。規模：長軸 80cm／短軸 48cm／深さ 18cm。貯蔵穴：住居北東コーナー周辺で検出された。平面形は楕円形を呈する。規模：長軸 48cm／短軸 35cm／床面からの深さ 20cm。西側に隣接して、幅 23～35cm、高さ 4～6cmの凸堤が弧状に巡る。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：南西コーナー周辺を除いて壁際を一段高く掘り残し、住居内縁より一回り(2～17cm程度)径を縮小させた相似形の掘り込みが確認された(6～12層)。掘り込みの主軸方位は概ね住居上端と合致する。規模：長軸 2.74 m／短軸 2.60 m／深さ 0.14～0.21 m。また、北東コーナーを除いた3か所のコーナー周辺で、不整楕円形の掘り込み(深さ 15～23cm程度)3か所、南東壁付近でピット状の掘り込み(深さ 10cm)1か所が確認され、他の箇所よりも更に1段深く掘り込まれている。

[覆 土] 5層に分層される。

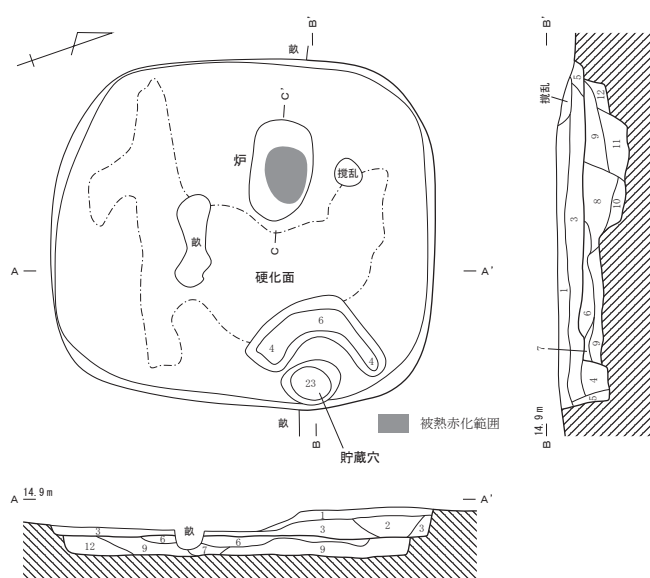
[遺 物] 貯蔵穴周辺及び北西コーナーから北壁沿いにかけて、床面直上から高環・壺形土器が出土した。高環形土器1個体は完形に近い状態であった。

[時期] 弥生時代後期後葉。

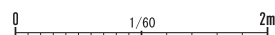
**遺 物** (第101図、図版47-1、第29表)

[土 器] (第101図1～3、図版47-1-1～3、第29表)

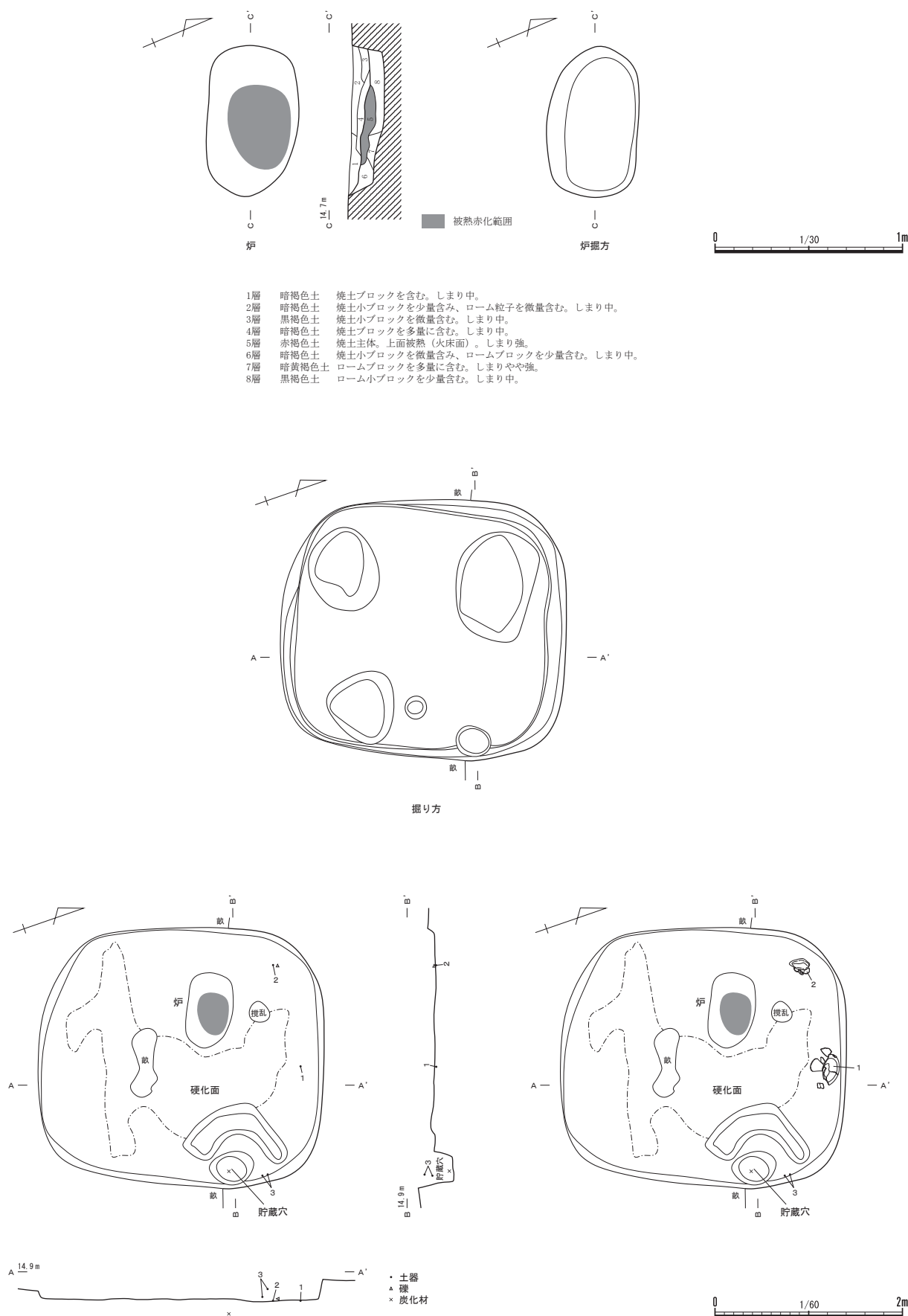
1・2は高環形土器、3は壺形土器である。



- |     |      |                           |
|-----|------|---------------------------|
| 1層  | 暗褐色土 | 炭化物・ローム小ブロックを少量含む。しまり中。   |
| 2層  | 黒褐色土 | ローム粒子を微量含む。しまり中。          |
| 3層  | 暗褐色土 | 焼土粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり中。  |
| 4層  | 黒褐色土 | 炭化物・ロームブロックを少量含む。しまり中。    |
| 5層  | 暗褐色土 | ロームブロックを含む。しまりやや弱。        |
| 6層  | 暗褐色土 | ローム大ブロックを多量に含む。貼床。しまり強。   |
| 7層  | 暗褐色土 | ロームブロックを含む。掘り方覆土。しまり中。    |
| 8層  | 暗褐色土 | ローム大ブロックを含む。掘り方覆土。しまりやや強。 |
| 9層  | 黒褐色土 | ロームブロックを少量含む。掘り方覆土。しまり中。  |
| 10層 | 褐色土  | ロームブロックを少量含む。掘り方覆土。しまり中。  |
| 11層 | 黒色土  | ロームブロックを少量含む。掘り方覆土。しまり中。  |
| 12層 | 黒褐色土 | ロームブロックを含む。掘り方覆土。しまり中。    |

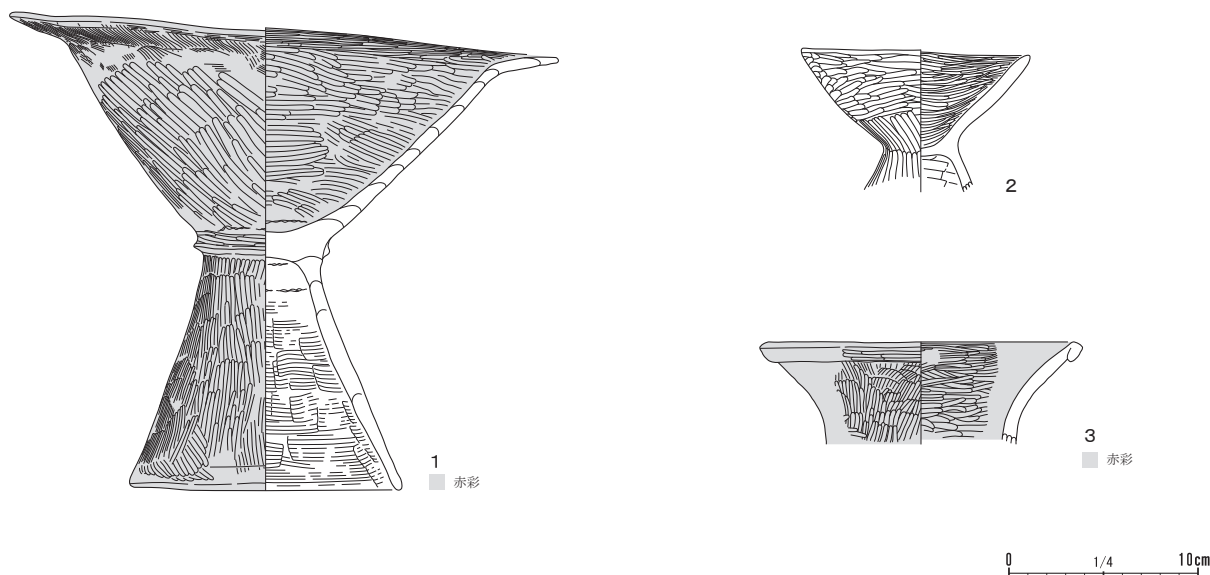


第99図 654号住居跡(1/60)



第100図 654号住居跡炉・掘り方・遺物出土状態（1/30・1/60）





第101図 654号住居跡出土遺物（1／4）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第101図1 図版47-1-1	高坏	口縁部～ 脚部 80%	口28.8 高25.2 脚14.0	鐮状口縁／脚部接合部に 断面三角形の補強帯（凸 帯）を有する／脚部は長 大で緩やかに外方に開く	内面：坏部は横方向のヘラ磨き、脚部は横方向のハケ目調 整／外面：口縁部～口縁部は縦方向のハケ目調整後、口唇 部のみ横ナデ、坏部は斜方向のヘラ磨き、脚部接合部は横 方向のヘラ磨き、脚部は縦方向のハケ目調整後、縦・斜方 向のヘラ磨き、裾部は横ナデ／坏部内面及び外面全面赤彩	にふい黄橙色／砂 粒・小礫中量、長 石少量	床面上 （北壁沿い）
第101図2 図版47-1-2	高坏	口縁部～ 脚部 75%	口11.9 高[7.6]	坏部は口径に比して器高 が高く、深身である／口 縁部は外傾する／脚部は ハの字状に外方に開く	内面：坏部は横方向のヘラ磨き、脚部は横方向のヘラナデ ／外面：口唇部は横ナデ、坏上半部は横方向のヘラ磨き、 坏下半部～脚部は縦方向のヘラ磨き	にふい橙色／砂粒 中量、シャモット・ 石英少量	床面上 （北西コー ナー）
第101図3 図版47-1-3	壺	口縁部～ 頸部 破片	口(16.0) 高[5.4]	折返し口縁／口唇部に面 を有し、口縁部は外反す る	内面：横方向のヘラ磨き／外面：口縁部は横方向のヘラ磨 き、頸部は縦方向のハケ目調整後、縦方向のヘラ磨き／内 外面赤彩	にふい橙色／砂粒 中量、シャモット・ 石英・小礫少量	床面上 （貯蔵穴 北側）

第29表 654号住居跡出土土器一覧

### 655号住居跡

**遺 構**（第102～104図）

[位 置]（D-4）グリッド。

[検出状況] 中世以降の畝状遺構群及び攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸3.62m／短軸3.31m／確認面からの深さ0.23m。壁：ほ  
ぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-44°-W。壁溝：検出されなかった。床面：壁際及び住居中央を  
除き、分断された状態で硬化面を検出した。貼床はやや薄く、3～8cmの厚さで施されていた。炉：住  
居中央からやや北方向に振れて位置する。楕円形を呈する地床炉で、中央部に被熱による赤化が確認さ  
れた。規模：長軸57cm／短軸44cm／深さ15cm。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかつ  
た。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：住居全体に2～10cm程  
度の深さの掘り込みが確認された（8・9層）。また、北コーナーから北東壁にかけて不整形の掘り込み  
（深さ10～12cm程度）が確認された。

[覆 土] 7層に分層される。

[遺 物] 住居東半部を中心に鉢・壺形土器が出土した。

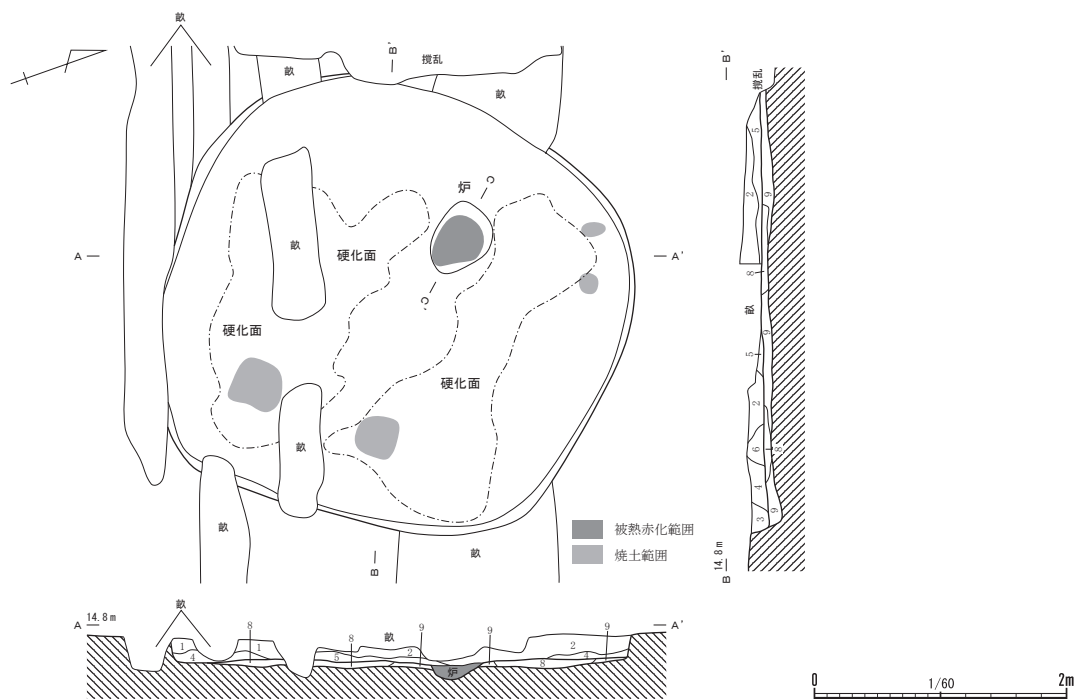
[時 期] 弥生時代後期後葉～末葉。

[所 見] 床面上から焼土や炭化材（柱状・板状）がまとまって検出されたことから、焼失住居と推測される。炭化材は住居西コーナーから南西壁沿いにかけて特に集中して検出された。

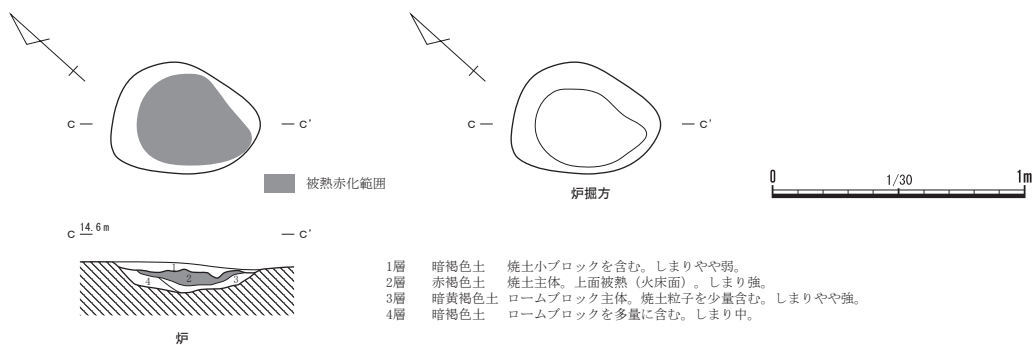
**遺 物**（第105図、図版47-2、第30表）

**土 器**（第105図1～3、図版47-2-1～3、第30表）

1は鉢形土器、2・3は壺形土器である。

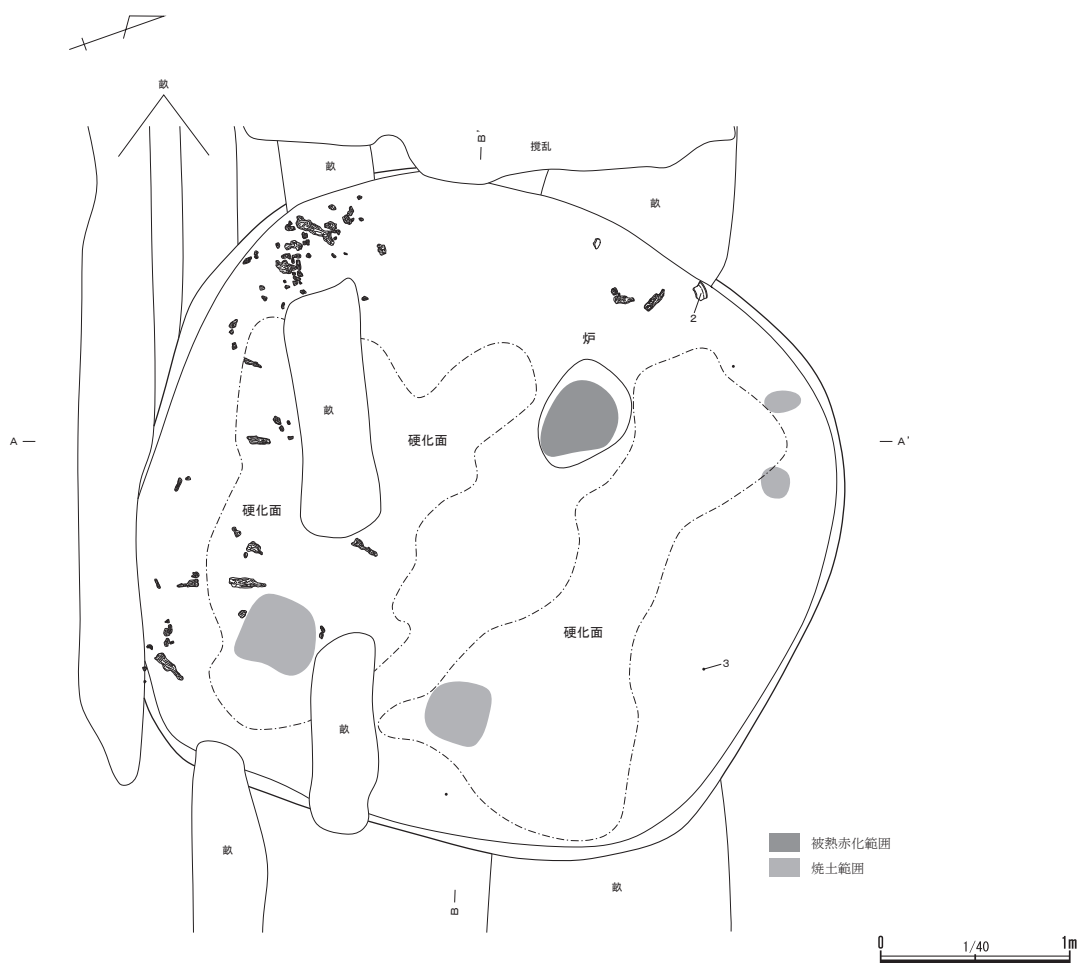
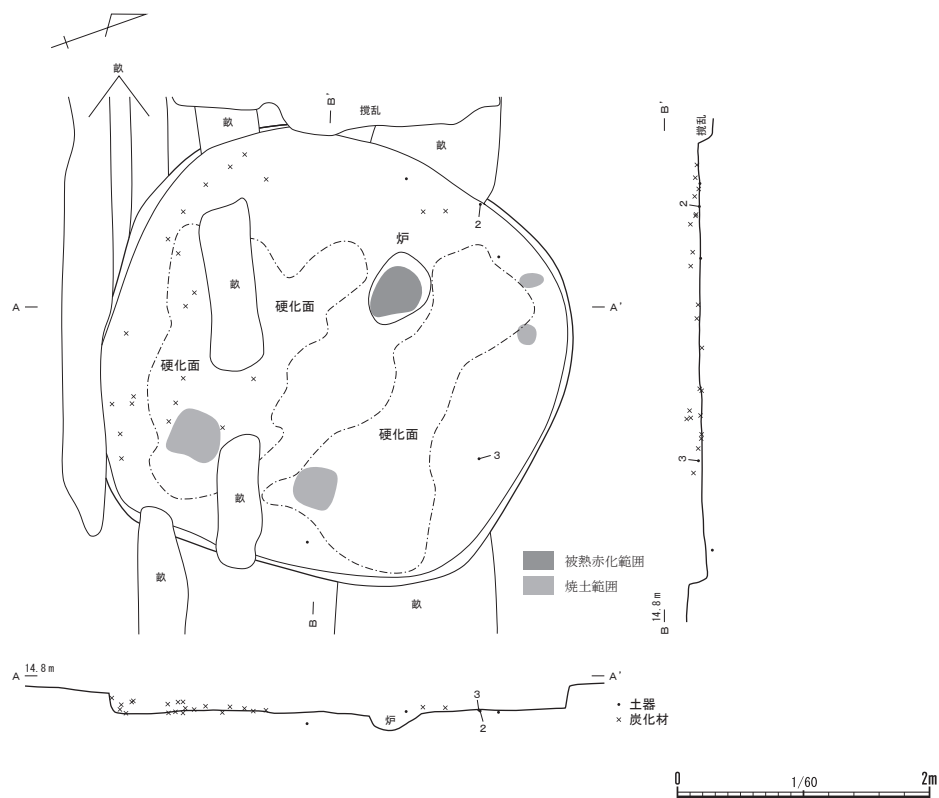


- |    |       |                                      |
|----|-------|--------------------------------------|
| 1層 | 黒褐色土  | 焼土小ブロック・ローム小ブロックを少量含み、炭化物を微量含む。しまり中。 |
| 2層 | 黒褐色土  | 焼土小ブロック・ローム小ブロックを少量含む。しまり中。          |
| 3層 | 黒色土   | 焼土小ブロックを微量含む。しまり中。                   |
| 4層 | 暗褐色土  | 焼土小ブロックを微量含み、ローム小ブロックを含む。しまり中。       |
| 5層 | 暗褐色土  | 焼土小ブロック・ローム小ブロックを少量含む。しまり中。          |
| 6層 | 暗赤褐色土 | 焼土小ブロック主体。黒褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱。     |
| 7層 | 暗褐色土  | 焼土小ブロック・炭化物を少量含み、ローム小ブロックを含む。しまり中。   |
| 8層 | 黒褐色土  | ローム小ブロックを少量含む。貼床。しまり強。               |
| 9層 | 黒褐色土  | ローム小ブロックを含む。掘り方覆土。しまり中。              |

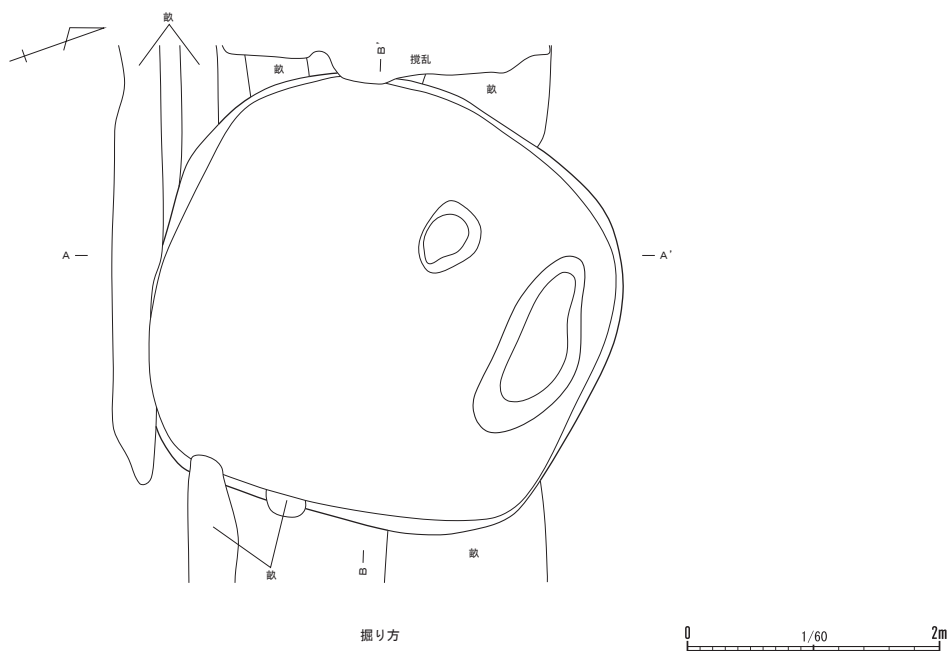


- |    |       |                              |
|----|-------|------------------------------|
| 1層 | 暗褐色土  | 焼土小ブロックを含む。しまりやや弱。           |
| 2層 | 赤褐色土  | 焼土主体。上面被熱（火床面）。しまり強。         |
| 3層 | 暗黄褐色土 | ローム小ブロック主体。焼土粒子を少量含む。しまりやや強。 |
| 4層 | 暗褐色土  | ローム小ブロックを多量に含む。しまり中。         |

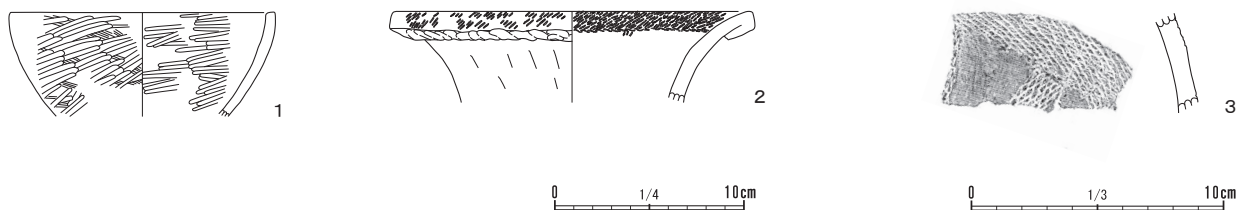
第102図 655号住居跡（1/60・1/30）



第103図 655号住居跡遺物出土状態 (1/60・1/40)



第 104 図 655 号住居跡掘り方 (1 / 60)



第 105 図 655 号住居跡出土遺物 (1 / 4 ・ 1 / 3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第105図1 図版 47-2-1	鉢	口縁部～ 体部 10%	口(13.9) 高[5.5]	口唇部は内傾し、面を有する／口縁部は僅かに内湾する／体部は内湾しながら立ち上がる	内面：横方向のへら磨き／外面：口唇部は横ナデ、口縁部～体部は斜・横方向のハケ目調整後、斜・横方向のへら磨き	褐灰色／シャモット中量、石英・砂粒少量	覆土下層一括
第105図2 図版 47-2-2	壺	口縁部～ 頸部 15%	口(18.8) 高[4.8]	幅狭の複合口縁／口縁部は大きく外反する	内面：口縁部に斜縄文LR(下端部端末結節)施文、頸部はナデ／外面：口唇部に斜縄文LR施文、複合口縁部下端は指頭押捺、頸部は横方向のへらナデ後ナデ	にぶい黄橙色／シャモット・砂粒少量	床面上(北西壁沿い)
第105図3 図版 47-2-3	壺	胴部 破片	厚 0.8	僅かに内湾する	内面：横方向の丁寧なへらナデ(へら磨きに近い)／外面：縦方向のへら磨き、網目状燃糸文を斜格子状に施文、無文部赤彩	にぶい黄橙色／砂粒・小礫微量	床面上(北東壁付近)

第 30 表 655 号住居跡出土土器一覧

## 第4節 古墳時代後期の遺構・遺物

### (1) 概要

古墳時代後期の遺構については、住居跡1軒(31H)が検出された(第106図)。時期は出土土器から古墳時代後期(5世紀末葉)と考えられ、本遺跡でこれまでに確認されているカマドを有する住居跡では最古段階に位置付けられる。

### (2) 住居跡

#### 31号住居跡

**遺 構** (第107～110図)

**[位 置]** (A・B-4・5) グリッド。

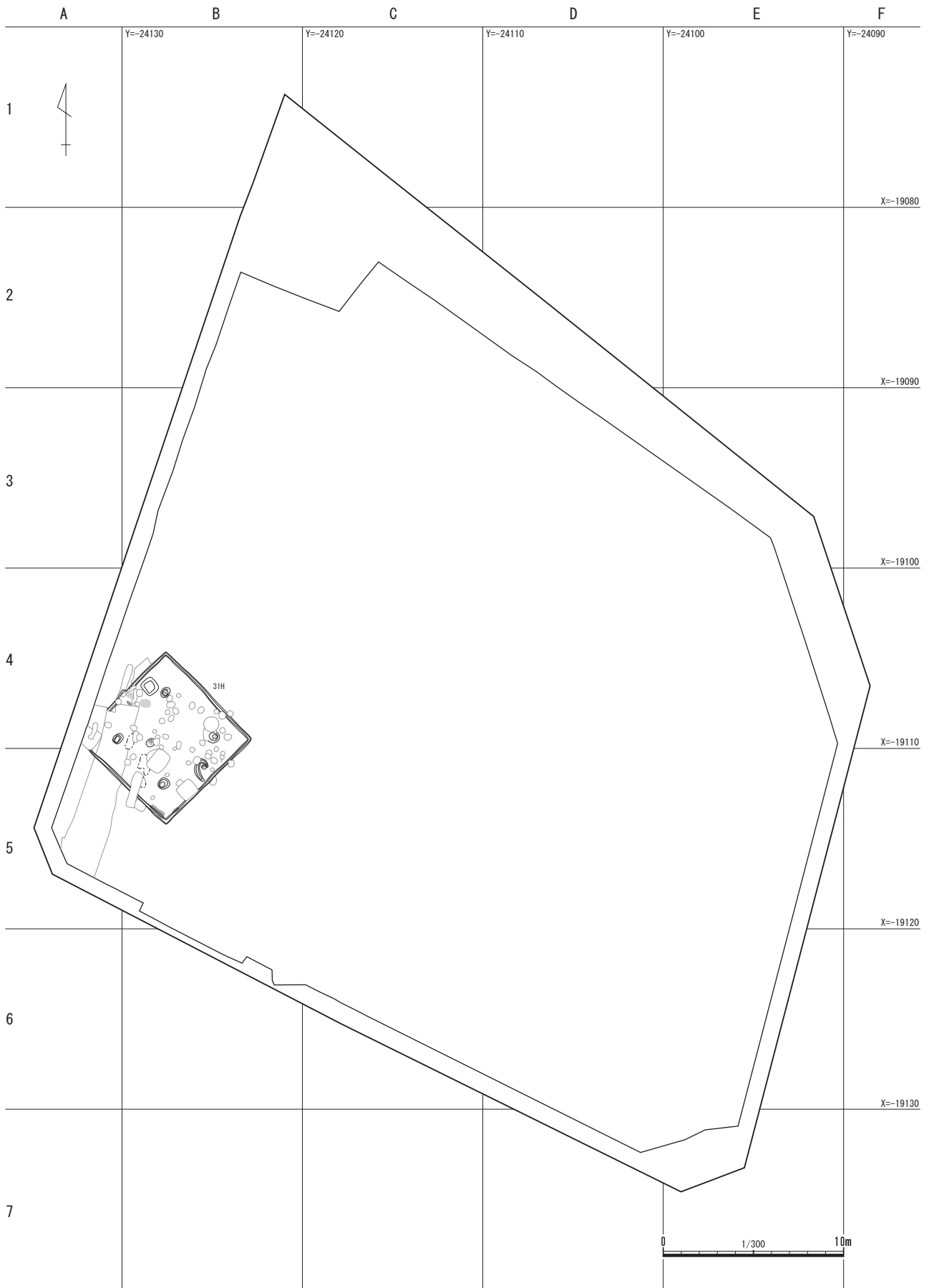
**[検出状況]** 中世の地下式坑(956D)、中世以降の土坑5基(961～965D)・ピット39本(38・40・56～60・63～68・87～112P)の他、複数の攪乱に切られ、遺存状態はあまり良好ではない。

**[構 造]** 平面形：方形。規模：長軸6.92m/短軸6.86m/確認面からの深さ0.30m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-45°-W。壁溝：カマド及び他遺構・攪乱に切られる部分を除き、全周する。上幅14～21cm/下幅5～12cm/深さ13～26cm。床面：住居南西半部で疎らに硬化面を検出した。貼床は薄く、4～6cmの厚さで施されていた。カマド：北西壁の中央部に位置する。主軸方位はN-45°-W。長さ99cm/幅83cm以上/壁への掘り込み16cm。袖部はローム層を馬蹄状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられるが、南西側は攪乱に切られ、片側(北東側)のみ残存する。貯蔵穴：カマド右脇で検出された。平面形は隅丸方形を呈し、土師器壺・甔形土器が1点ずつ出土した。規模：長軸88cm/短軸81cm/床面からの深さ56cm。柱穴：P1～P4は支柱穴と考えられる。P1は深さ73cm、P2は深さ73cm、P3は深さ75cm、P4は深さ76cmを測る。入口施設：P5は入口梯子穴と考えられる。平面形は不整円形を呈する。規模：長軸26cm/短軸24cm/床面からの深さ42cm。周囲には幅17～30cm、高さ6～7cmの凸堤が馬蹄形に巡る。その他付帯施設：カマド・貯蔵穴に近接して、カマド袖部に用いられていたと考えられる粘土を覆土としたP6が検出された。平面形は概ね隅丸方形を呈する。規模：長軸61cm/短軸47cm/床面からの深さ17cm。炉：住居中央やや西寄り、楕円形の掘方を有する粘土板炉が検出された。攪乱により上面は削平され、遺存状態はあまり良好ではなかったが、検出された範囲内では火皿全面に被熱による赤化が確認された。また、火皿の周囲では北側を主体に広く灰が検出された。火皿規模：長軸27cm以上/短軸10cm以上/厚み1～2cm。掘方規模：長軸51cm/短軸42cm/深さ8cm。掘り方：住居全体に2～8cm程度の深さの掘り込みが確認された(16・17層)。また、P3の西・北側は他の箇所よりも更に4～6cm程度深く不整形に掘り込まれている。その他、南西壁沿いでは壁溝に直交する溝状の掘り込み(幅18～28cm、深さ6～11cm)も2か所確認された。内1か所はP3と壁溝を結ぶ間仕切り溝とも考えられる。

**[覆 土]** 15層に分層される。

**[遺 物]** 住居東コーナー、貯蔵穴内及びその周辺を中心に、土師器坏・鉢・壺(短頸壺・小型壺)・甕・甔形土器、ミニチュア土器、石製品(砥石)が出土した。

**[時 期]** 古墳時代後期(5世紀末葉)。



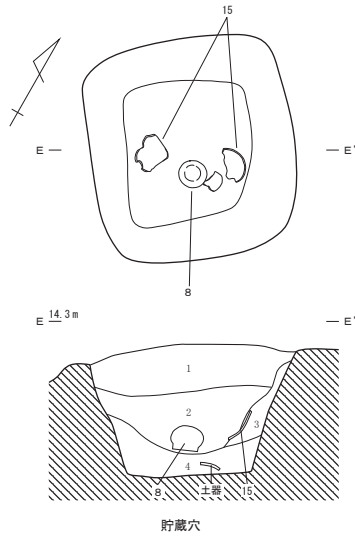
第106図 古墳時代後期遺構分布図(1/300)



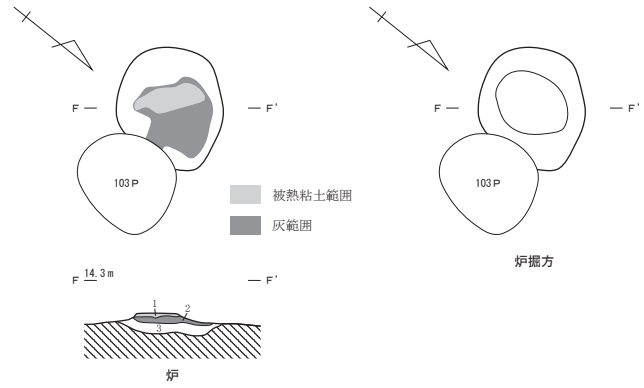


- 1層 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ローム粒子を微量含む。しまり中。
- 3層 暗褐色土 ローム小ブロックを多量に含む。しまり中。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。しまりやや強。
- 5層 暗褐色土 ローム大ブロックを少量含む。しまりやや強。
- 6層 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 7層 暗褐色土 焼土粒子を含む。しまり中。
- 8層 褐色土 焼土粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 9層 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまりやや強。
- 10層 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。しまりやや弱。
- 11層 褐色土 ローム粒子を多量に含む。しまりやや強。
- 12層 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。
- 13層 黄褐色土 ロームブロック主体(充填)。しまり強。
- 14層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。貼床。しまりやや強。
- 15層 暗褐色土 ロームブロックを含む。貼床。しまり強。
- 16層 黒褐色土 ローム大ブロックを多量に含む。掘り方覆土。しまりやや強。
- 17層 暗褐色土 ロームブロックを含む。掘り方覆土。しまりやや強。

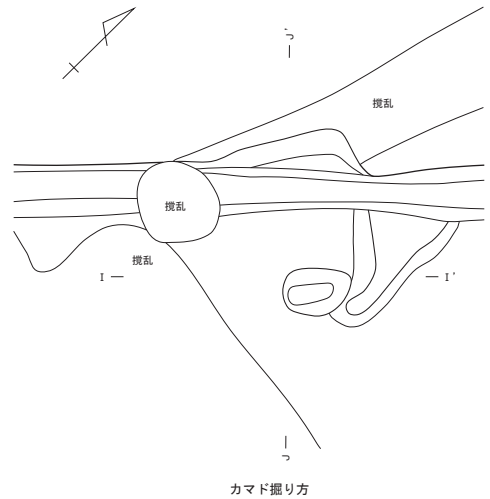
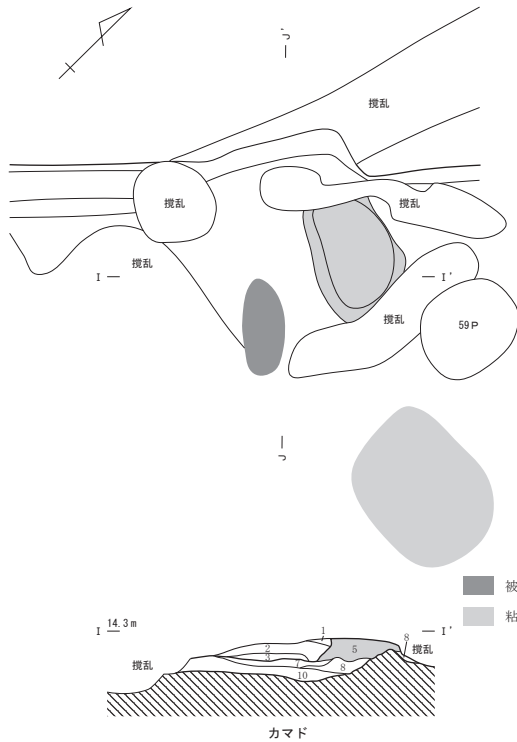
- 18層 暗褐色土 ローム小ブロックを少量含む。P4覆土。しまりやや強。
- 19層 褐色土 ローム粒子を含む。P4覆土。しまりやや強。
- 20層 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。P4覆土。しまりやや強。
- 21層 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。P1覆土。しまり中。
- 22層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。P1・3覆土。しまり中。
- 23層 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。P1覆土。しまり中。
- 24層 暗黄褐色土 ロームブロック主体。P1覆土。しまり中。
- 25層 黒褐色土 ローム小ブロックを微量含む。P3覆土。しまり中。
- 26層 黒褐色土 ローム粒子・ブロックを含む。P3覆土。しまり中。
- 27層 暗褐色土 ローム粒子・ブロックを多量に含む。P3覆土。しまり中。
- 28層 暗褐色土 ロームブロックを含む。P3覆土。しまり中。
- 29層 暗褐色土 ローム小ブロックを少量含む。P2覆土。しまりやや強。
- 30層 褐色土 ロームブロックを含む。P2覆土。しまり中。
- 31層 褐色土 ローム粒子を含む。P2覆土。しまり中。
- 32層 暗黄褐色土 ローム土主体。P2覆土。しまり中。
- 33層 暗黄褐色土 ロームブロック主体。P2覆土。しまりやや強。



- 1層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 3層 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。しまり中。
- 4層 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。



- 1層 灰白色粘土 上面著しく被熱。火皿。しまり強。
- 2層 暗褐色土 灰を多量に含み、焼土小ブロックを少量含む。しまり中。
- 3層 暗黄褐色土 灰を少量含む。しまり強。

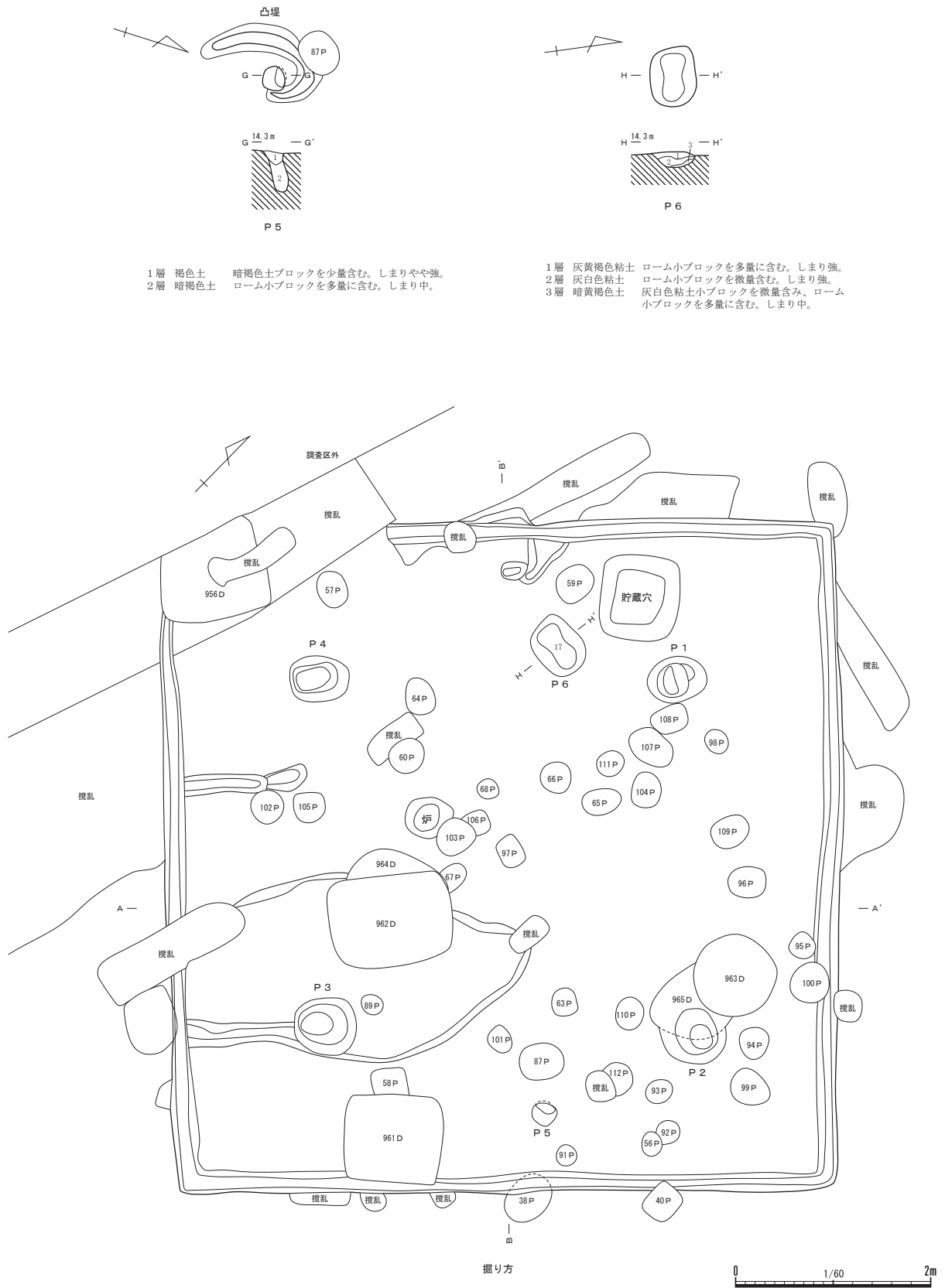


- 1層 暗灰褐色土 灰白色粘土小ブロックを含み、焼土小ブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 焼土ブロックを含み、ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 3層 褐色土 ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 4層 暗褐色土 焼土小ブロックを含み、ローム粒子を少量含む。しまり中。
- 5層 灰白色粘土 カマド袖。しまり強。
- 6層 暗褐色土 上面被熱(火床面)。焼土小ブロックを多量に含む。しまりやや強。
- 7層 暗褐色土 カマド掘り方覆土。焼土小ブロックを微量含み、ロームブロックを多量に含む。しまり中。
- 8層 暗黄褐色土 カマド掘り方覆土。ローム土主体。灰白色粘土小ブロックを少量含む。しまりやや強。
- 9層 暗褐色土 住居跡掘り方覆土。ロームブロックを含む。しまりやや強。
- 10層 暗黄褐色土 カマド掘り方覆土。ローム土主体。しまり強。
- 11層 黒褐色土 掘り方(周溝)覆土。焼土小ブロック・ローム粒子を少量含む。しまり中。



第108図 31号住居跡貯蔵穴・炉・カマド (1/30)

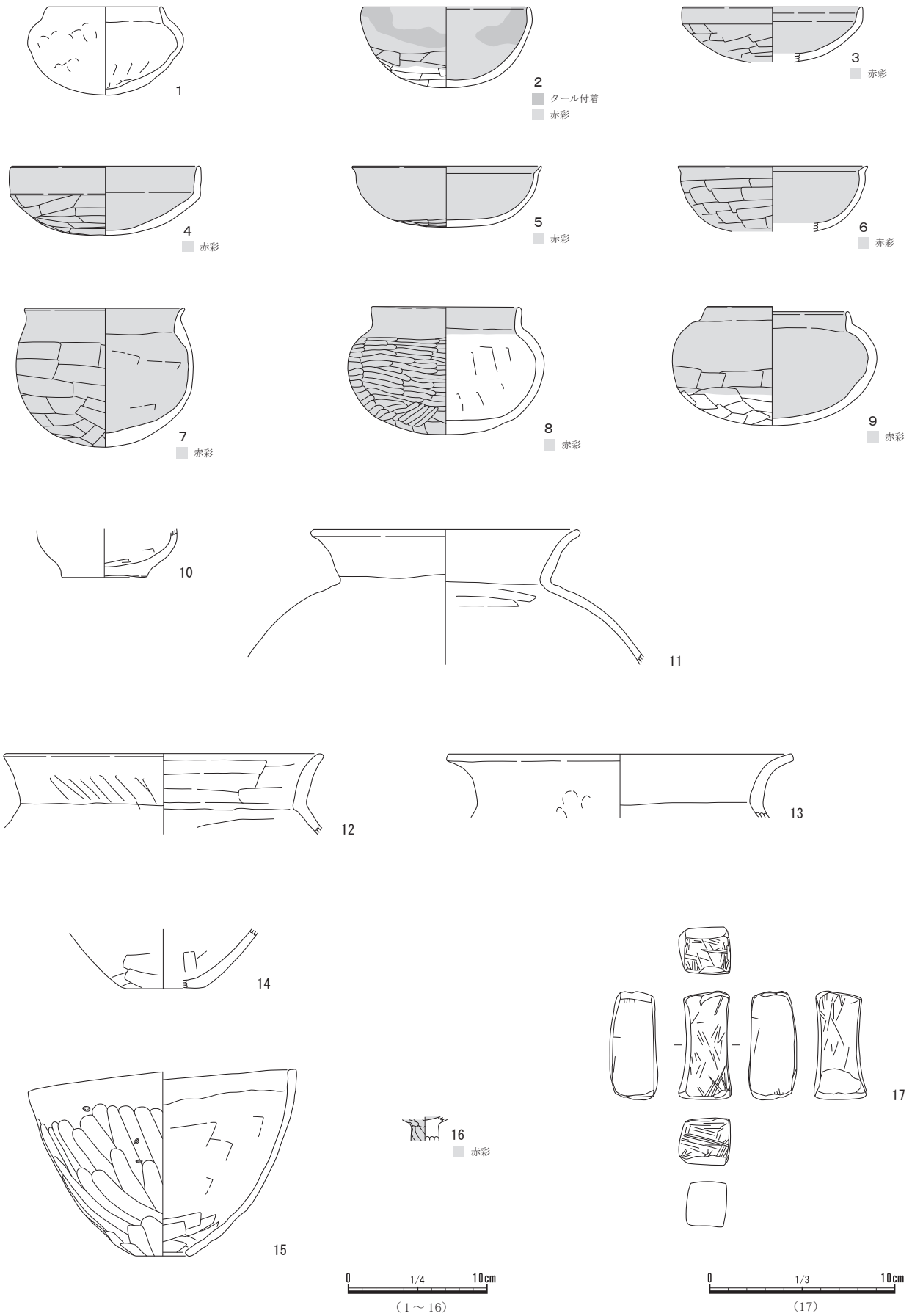
第3章 検出された遺構と遺物



第109図 31号住居跡P 5・P 6・掘り方(1/60)



第3章 検出された遺構と遺物



第111図 31号住居跡出土遺物(1/4・1/3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第111図1 図版47-3-1	土師器 環	完形	口8.1 高6.4	無彩色有段環/やや深身 /口縁部は短く内傾する /口縁部と体部の境に段 を有する	内面:口縁部は横ナデ、体部~底部は横方向のヘラナデ後 ナデ/外面:口縁部は横ナデ、体部~底部は指頭押捺後 ナデ	にぶい橙色/小礫 中量、石英・長石・ 砂粒少量	床面上 (南東周溝 沿い)
第111図2 図版47-3-2	土師器 環	口縁部~ 底部 95%	口11.8 高5.8	赤色系無稜環/碗状/口 縁部は短く内湾する	内面:横ナデ/外面:口縁部は横ナデ、底部は横方向の ヘラ削り/内面全面赤彩/外面は底部周縁を除き赤彩 (底部周縁のみ顔料をふき取った可能性あり)/口縁部 内外面の約半周にわたり、帯状にタール付着	にぶい黄橙色/砂 粒中量、雲母・石 英・橙色粒子少量	床面上 (南東周溝 付近)
第111図3 図版47-3-3	土師器 環	口縁部~ 底部 15%	口(12.8) 高[4.0]	赤色系有稜環/口縁部は 僅かに内傾する/口縁部 と体部の境に緩やかな稜 を有する	内面:横ナデ/外面:口縁部は横ナデ、底部は横方向の ヘラ削り/内外面全面赤彩	にぶい橙色/砂粒 中量、石英・小礫 少量、金雲母微量	覆土下層 一括
第111図4 図版47-3-4	土師器 環	口縁部~ 底部 30%	口(13.4) 高(5.0)	赤色系有段環/口縁部は ほぼ直立し、口唇部は僅 かに内湾する/口縁部と 体部の境に段を有する	内面:横ナデ/外面:口縁部は横ナデ、底部は横方向の ヘラ削り/内外面全面赤彩	橙色/砂粒中量、 金雲母・小礫少 量、長石微量	覆土下層 一括
第111図5 図版47-3-5	土師器 環	口縁部~ 底部 95%	口13.5 高4.4	内斜口縁環/全体に扁平 な形状を呈する/口縁部 と体部の境に明瞭な段を 有する	内面:横ナデ/外面:口縁部は横ナデ、底部は横方向の ヘラ削り/内外面全面赤彩	にぶい橙色/小礫 中量、雲母・石英・ 長石・砂粒少量	床面上 (東コーナー)
第111図6 図版47-3-6	土師器 環	口縁部~ 底部 15%	口(13.5) 高[4.7]	内斜口縁環/口縁部と体 部の境に明瞭な段を有す る	内面:横ナデ/外面:口縁部は横ナデ、体部~底部は横 方向のヘラ削り/内外面全面赤彩	にぶい橙色/石 英・砂粒・小礫 少量、長石微量	床面上 (貯蔵穴 北東部)
第111図7 図版47-3-7	土師器 鉢	口縁部~ 底部 95%	口11.4 高10.0	口縁部は短く外反する/ 口縁部と体部の境に稜を 有する/体部は球形を呈 する/底部は丸底である	内面:口縁部は横ナデ、体部~底部は横方向のヘラナデ 後ナデ/外面:口縁部は横ナデ、体部~底部は横方向の ヘラ削り/内外面全面赤彩	にぶい褐色/砂粒 中量、雲母・石英・ 小礫少量	P1 覆土 (底上41cm)
第111図8 図版47-3-8	土師器 壺	ほぼ完形	口10.5 高9.2	短頸壺/口縁部は直立な いし外傾する/胴部は扁 平な球形を呈する/底部 は丸底だが、内面側は平 坦で器厚も厚く、安定し て握る	内面:口縁部~頸部は横ナデ、胴部~底部は横方向のヘ ラナデ後ナデ/外面:口縁部~頸部は横ナデ、胴部は横方 向のヘラ磨き、底部は縦方向のヘラ削り/口縁部内面及び外 面全面赤彩/外面はほぼ全面に煤付着	にぶい橙色/石 英・長石・角閃石・ 砂粒・小礫少量	貯蔵穴覆土 (底上8cm)
第111図9 図版47-3-9	土師器 壺	口縁部~ 底部 50%	口10.0 高8.6	短頸壺/口縁部は短く内 傾する/頸部は鋭角に屈 曲する/胴部は扁平な球 形を呈する/底部は丸底 である	内面:口縁部は横ナデ、頸部~底部はナデ/外面:口縁 部~頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り、底部は横 方向のヘラ削り/底部外面を除き、内外面赤彩	にぶい黄橙色/ 砂粒多量、石英・ 長石少量	床面上 (P1 南東部、 中央部北 寄り)
第111図10 図版48-10	土師器 壺	胴部~ 底部 70%	高[3.5] 底6.1	小型壺/胴部は丸みを もって立ち上がる/底部 はドーナツ底で、中央部 が凹む	内面:横方向のヘラナデ後ナデ/外面:胴部はナデ、底部 は外縁部に粘土紐貼付後ナデ	にぶい褐色/砂粒 中量、石英・小礫 少量	床面上 (P1 北東部)
第111図11 図版48-11	土師器 甗	口縁部~ 肩部 15%	口(19.0) 高[9.7]	口縁部は大きく外反する /頸部は鋭角な「く」字 状に屈曲する	内面:口縁部は横ナデ、頸部~肩部は横方向のヘラナデ /外面:口縁部は横ナデ、頸部~肩部はナデ	にぶい橙色/砂粒 中量、石英・小礫 少量、雲母微量	床面上 (貯蔵穴 北東部)
第111図12 図版48-12	土師器 甗	口縁部~ 頸部 10%	口(22.6) 高[5.8]	口縁部は外傾しながら立 ち上がる/頸部は「く」 字状に屈曲する	内面:口唇部は横ナデ、口縁部~頸部は横方向のヘラナデ /外面:口唇部は横ナデ、口縁部は幅広い横ナデ、頸部は 斜方向のヘラナデ後ナデ	にぶい橙色/砂粒 中量、雲母・白色 粒子・小礫少量	床面上 (中央部 付近)
第111図13 図版48-13	土師器 甗	口縁部~ 頸部 10%	口(24.7) 高[4.6]	口唇部に面を有する/口 縁部は大きく外反する	内面:横ナデ/外面:口唇部~口縁部は横ナデ、頸部は 指頭押捺後ナデ	にぶい褐色/砂粒 多量、雲母・石英 少量	床面上 (貯蔵穴 北東部)
第111図14 図版48-14	土師器 甗	胴部~ 底部 破片	高[4.3] 底(6.0)	胴部は内湾気味に立ち上 がる/底部は平底で、中央 部に向かって僅かに凹む	内面:縦・斜方向のヘラナデ/外面:胴部は横方向のヘ ラ削り、底部はナデ	橙色/砂粒・小礫 少量、長石微量	貯蔵穴 覆土一括
第111図15 図版48-15	土師器 甗	口縁部~ 底部 60%	口19.3 高13.4 底3.8	鉢形/口唇部に面を有す る/口縁部~胴部は内湾 しながら立ち上がる/底 部は筒抜け式	内面:口縁部は横ナデ、胴部は横方向のヘラナデ後ナデ、 胴部下端~底部は横方向のヘラ削り/外面:口縁部は横 ナデ、胴部は斜方向のヘラ削り後、縦・斜方向のナデ(ス リップか)、底部は縦方向のヘラ削り/胴部外面を中心に、 イネ科種実圧痕を6か所残す	にぶい橙色/砂粒 中量、小礫少量、 石英微量	貯蔵穴覆土 (底上12cm)
第111図16 図版48-16	ミニ チュア 土器	脚部 10%	高[1.7]	高環形/環底部は中央部 が僅かに凹む/脚部は中 実で、柱状を呈する	内面:ナデ/外面:ナデ、指頭によるナデ/内外面赤彩	明赤褐色/砂粒・ 小礫少量	覆土下層 一括

第31表 31号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第111図17 図版48-17	砥石	凝灰岩	5.8	2.8	2.4	63.69	全6面を砥面として使用/上面・下面を粗砥、表面・裏面を 中砥、右面・左面を仕上げ砥として使い分けていた可能性が考え られる	床面上 (北東周溝 沿い)

第32表 31号住居跡出土石製品一覧

## 第5節 中世以降の遺構・遺物

### (1) 概要

中世以降の遺構については、掘立柱建築遺構1棟(5T)、土坑26基(952～977D)、井戸跡2基(11・12W)、畝状遺構群1か所、ピット112本が検出された(第112図)。検出された土坑のうち、956・964Dの2基は地下式坑である。

なお、各遺構の時代設定は、遺物が出土した場合は陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は原則として中世以降と表記した。

### (2) 掘立柱建築遺構

#### 5号掘立柱建築遺構

**遺 構** (第113図)

[位 置] (B・C-5) グリッド。

[検出状況] 959Dと重複する(新旧関係は不明)。P6・7は攪乱に切られる。

[構 造] 平面形式：桁行3間×梁行1間、東西棟の側柱建物。規模：桁行総長5.36m/梁行総長3.53m。主軸方位：N-74°-W。柱穴：P1～P8の8本を検出。平面形：楕円形ないし不整形円形。規模：長軸0.45～0.57m/短軸0.34～0.49m/確認面からの深さ0.45～0.78m。柱間隔：〈桁行〉P1-2間1.78m、P2-3間1.80m、P3-4間1.78m、P5-6間1.79m、P6-7間1.92m、P7-8間1.65m、〈梁行〉P1-5間3.38m、P4-8間3.53m。

[覆 土] 暗褐色土・黒褐色土を基調とし、ロームブロックの多寡により互層状を呈する。P4・5・7では柱痕跡が確認された。

[遺 物] 北西隅を形成するP1・2・5から陶器(碗・香炉)計4点が出土した。

[時 期] 近世(17世紀後葉)。

**遺 物** (第114図、図版49-1、第33表)

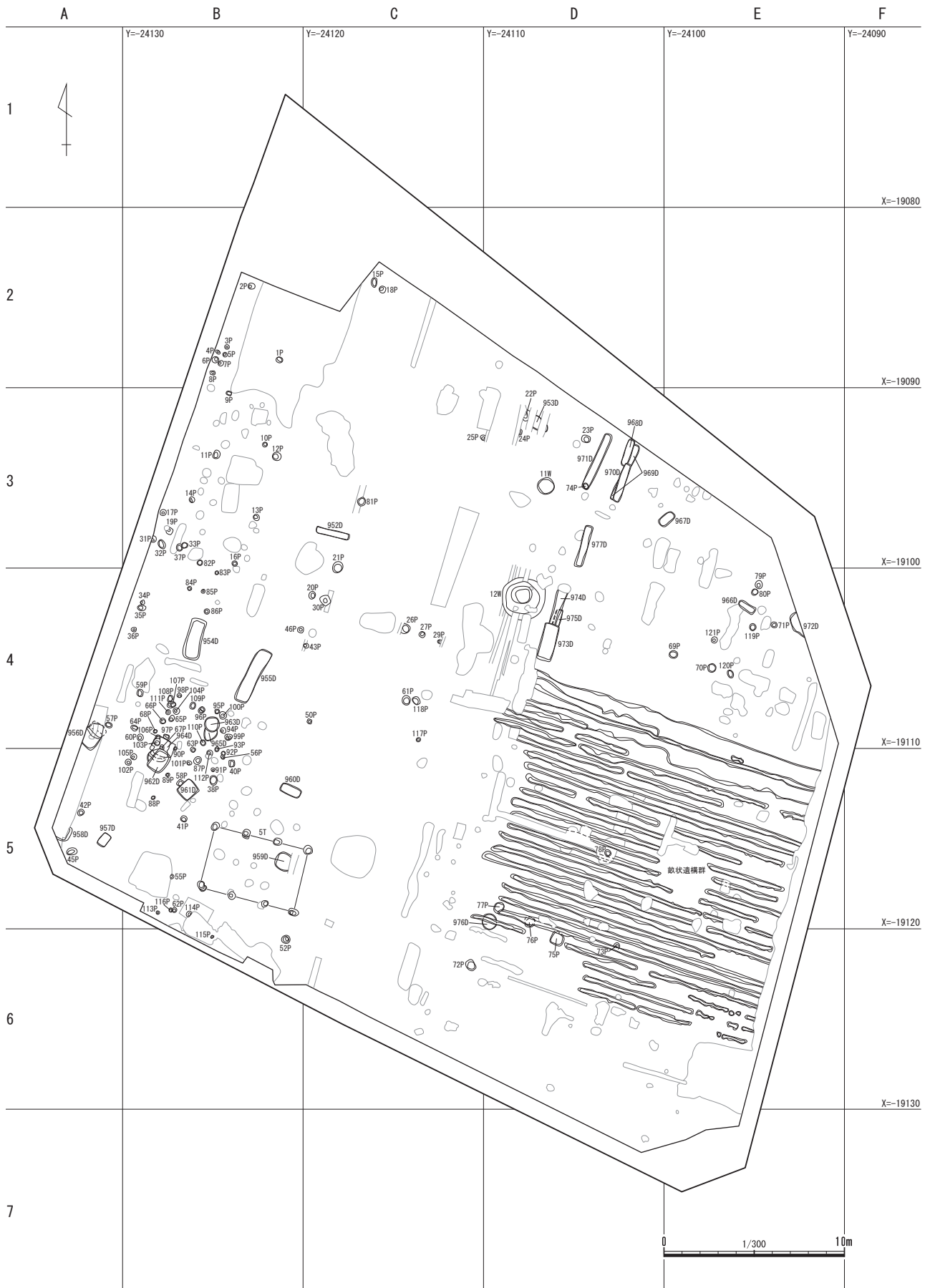
[陶 器] (第114図1～4、図版49-1-1～4、第33表)

1～4は陶器で、1はP2から出土した瀬戸・美濃系の天目形中碗、2・3はP5から出土した肥前系(嬉野)の中碗、4はP1から出土した瀬戸・美濃系の香炉である。4点の陶器はいずれも口縁部が概ね半周分欠損しており、人為的な打ち欠きが想定される。

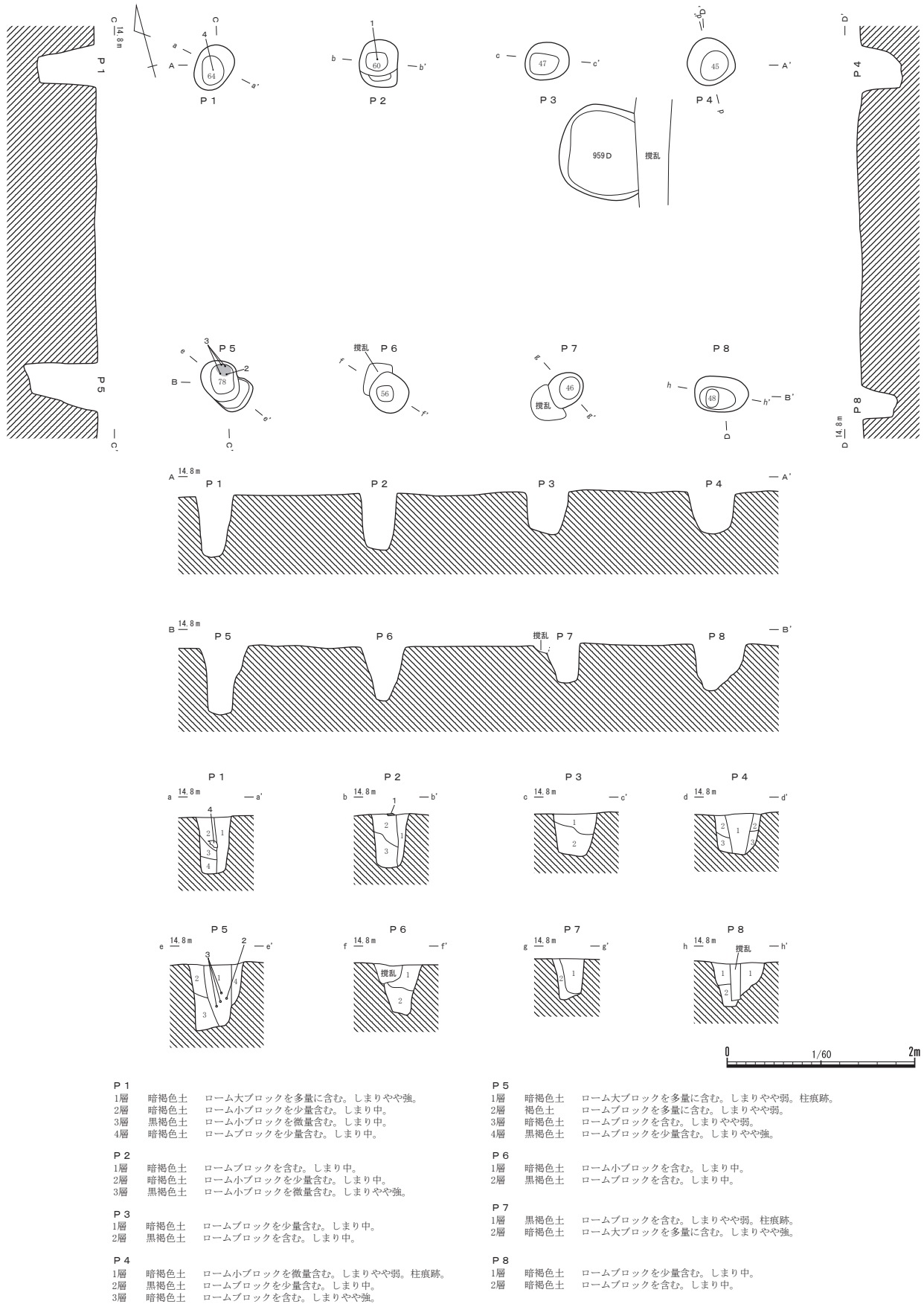
### (3) 土 坑

平面形及び細部の形態的な特徴を城山遺跡第42地点で報告された分類基準に当てはめて説明することにする(尾形・深井・青木 2005)。F群については、中野遺跡第95地点(徳留・尾形・青木 2017)の分類を使用し、G群については、中野遺跡第102地点(尾形・大久保・深井・青木 2019)の分類を使用する。検出された土坑の総数は26基である。基本構造については第35表を参照されたい。なお、下記分類のうち、A・F・G群に該当する遺構は本地点では検出されなかった。

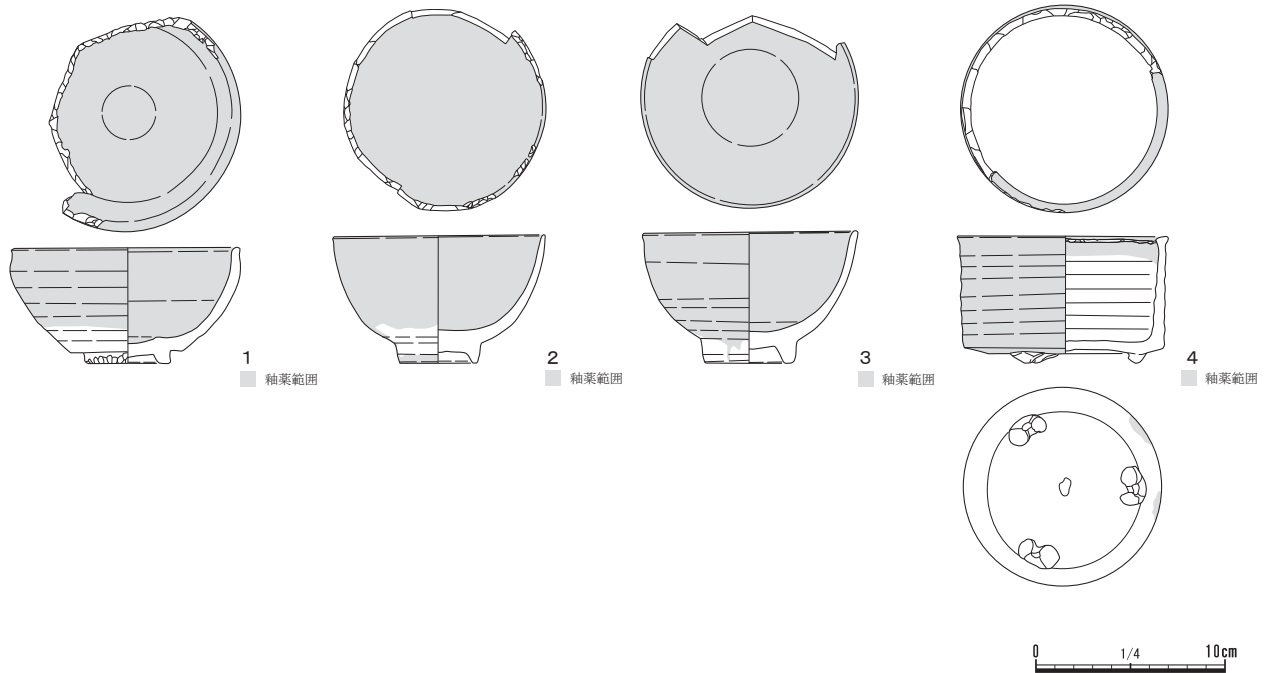




第 112 図 中世以降の遺構分布図 (1 / 300)



第 113 図 5号掘立柱建築遺構 (1 / 60)



第 114 図 5号掘立柱建築遺構出土遺物（1 / 4）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第114図1 図版49-1-1	陶器 碗	口縁部～ 底部 65%	口(11.7) 高6.1 底4.3	高台上側面を水平に削り出し、丸みを持って立ち上がる／口縁下部で窄み口唇部で外反する	天目形中碗／内外面：天目釉／瀬戸・美濃系	黄白色／砂粒少量	近世 1675～1700年代	P 2
第114図2 図版49-1-2	陶器 碗	口縁部～ 底部 75%	口(11.1) 高6.8 底4.1	小高台から丸みを持って立ち上がる	中碗／内外面：銅緑釉／肥前系（嬉野）	明灰色／砂粒中量	近世 1690～1740年代	P 5
第114図3 図版49-1-3	陶器 碗	口縁部～ 底部 80%	口11.2 高7.0 底4.6	小高台から丸みを持って立ち上がる	中碗／内外面：銅緑釉／肥前系（嬉野）	黄白色／砂粒中量	近世 1690～1740年代	P 5
第114図4 図版49-1-4	陶器 香炉	口縁部～ 底部 75%	口(11.1) 高6.7 底8.1	底部ベタ底／三足半筒形で外面轆轤目	外面：鉄釉、内面、底部：無釉／口縁敲打痕／瀬戸・美濃系	黄白色／砂粒少量	近世 1675～1700年代	P 1

第 33 表 5号掘立柱建築遺構出土陶器一覧

A群 方形の土坑 0基

- 1類 袋状の構造を呈する 0基
- 2類 袋状の構造ではなく、単純構造を呈する 0基

B群 長方形の土坑 18基（1類－3基、2類－15基、3類－0基、4類－0基）

- 1類 溝状土坑 3基（955・969・971 D）
- 2類 幅狭の長方形土坑 15基（952・954・957・958・960～962・966～968・970・973～975・977 D）
- 3類 幅広の長方形土坑 0基
- 4類 火床部を有する土坑 0基

C群 円形・楕円形の土坑 5基（953・959・963・965・976 D）

D群 不整形の土坑 1基（972 D）

E群 地下室・地下坑、地下式坑 2基（1類-2基、2類-0基）

1類 1 縦坑1 主体部タイプ 2基（956・964 D）

2類 特殊タイプ 0基

F群 T字形の土坑 0基

G群 その他 0基

B群 長方形の土坑（第115～117図、第35表）

18基検出された。本地点では最も多く検出された群であり、全26基中の約7割（69.2%）を占める。更に1類3基、2類15基、3類0基、4類0基に細分され、1・2類に限定される状況が認められる。分布に関しては1区南西部の（B-4・5）グリッド、2区北西部の（D-3・4）グリッド内に集中する傾向が認められる。

B群1類 溝状土坑（第115図、第35表）

955・969・971 Dの3基が該当する。長軸方位はほぼ合致し、N-25°～28°-Eの範囲内に納まる。

955号土坑

**遺 構**（第115図）

[位 置]（B-4）グリッド。

[構 造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸3.21 m／短軸0.79 m／深さ0.32 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-28°-E。

[覆 土] 2層に分層される。

[遺 物] 陶器1点（碗）が出土した。

[時 期] 近世（1670～1780年代）。

**遺 物**（第121図、図版49-2、第34表）

[陶 器]（第121図1、図版49-2-1、第34表）

1は瀬戸・美濃系の天目形中碗である。

969号土坑

**遺 構**（第115図）

[位 置]（D-3）グリッド。

[検出状況] 968・970 Dに切られる。971 Dと並列して構築される。

[構 造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸3.35 m／短軸0.35 m以上／深さ0.20 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-25°-E。

[覆 土] 単層。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 中世以降。

971号土坑

**遺 構** (第115図)

[位 置] (D-3) グリッド。

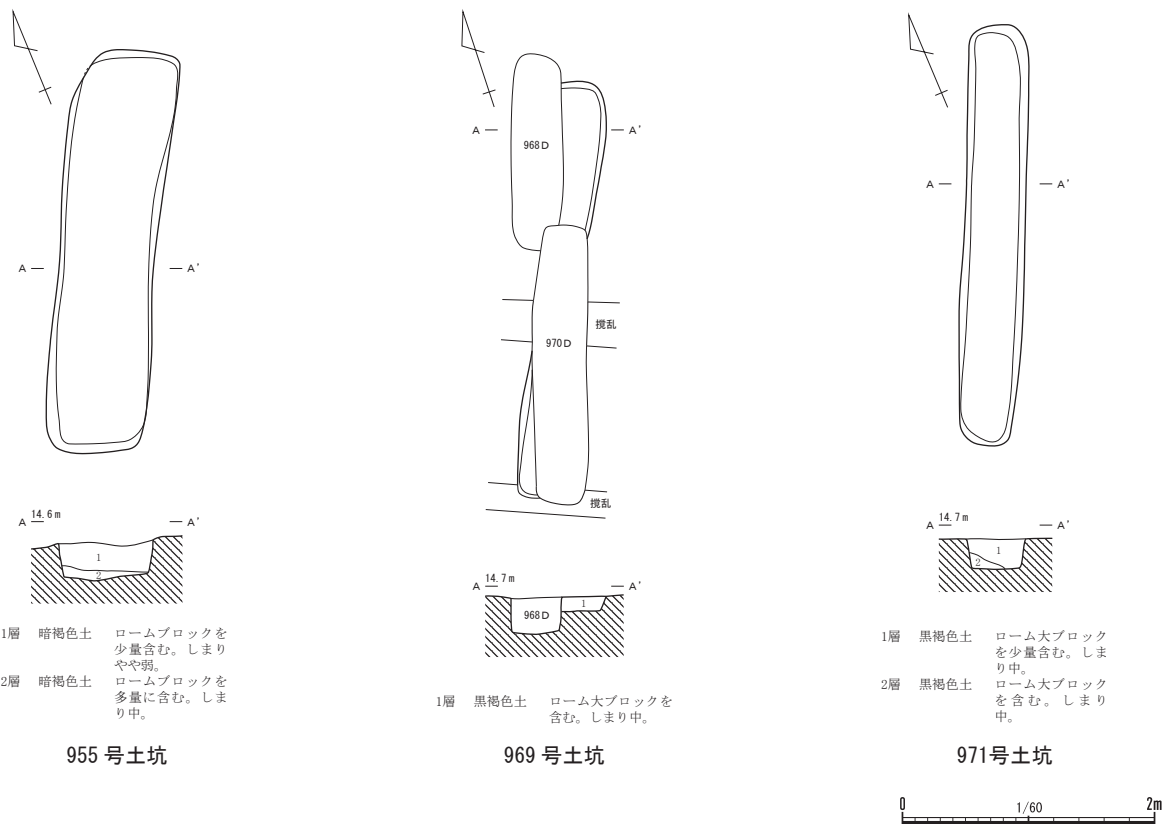
[検出状況] 74 Pを切る。969 Dと並列して構築される。

[構 造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸 3.35 m／短軸 0.48 m／深さ 0.28 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-26°-E。

[覆 土] 2層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 中世以降。



第115図 土坑 B群1類 (1/60)

B群2類 幅狭の長方形土坑 (第116・117図、第35表)

952・954・957・958・960～962・966～968・970・973～975・977 Dの15基が該当する。概ね南北軸を示すものが主体を占め、主軸方向はB群1類とほぼ合致する。

952号土坑

**遺 構** (第116図)

[位 置] (C-3) グリッド。

[検出状況] 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡 (640 Y) を切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 1.90 m／短軸 0.36 m／深さ 0.29 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－76°－W。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

#### 954号土坑

遺構 (第116図)

[位置] (B－4) グリッド。

[検出状況] 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡(641 Y)を切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 2.32 m／短軸 0.88 m／深さ 0.35 m。壁：70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－16°－E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

#### 957号土坑

遺構 (第116図)

[位置] (A－5) グリッド。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 0.78 m／短軸 0.52 m／深さ 0.39 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－37°－E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

#### 958号土坑

遺構 (第116図)

[位置] (A－5) グリッド。

[検出状況] 北・西側は攪乱に切られる。

[構造] 平面形：長方形か。規模：長軸 0.84 m以上／短軸 0.71 m以上／深さ 0.49 m。壁：75°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－66°－W。

[覆土] 3層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

## 960号土坑

**遺 構** (第116図)

[位 置] (B-5) グリッド。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸 1.18 m／短軸 0.57 m／深さ 0.20 m。壁：70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-64°-W。

[覆 土] 単層。

[遺 物] 陶器1点(皿)が出土した。

[時 期] 近世(1670～1770年代)。

**遺 物** (図版49-2、第34表)

[陶 器] (図版49-2-1、第34表)

1は瀬戸・美濃系の小皿である。

## 961号土坑

**遺 構** (第116図)

[位 置] (B-5) グリッド。

[検出状況] 古墳時代後期の住居跡(31 H)、中世以降のピット(58 P)を切る。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸 1.00 m／短軸 0.90 m／深さ 0.36 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-49°-E。

[覆 土] 3層に分層される。

[遺 物] 土器1点(皿)が出土した。

[時 期] 中世(15～16世紀)。

**遺 物** (第121図、図版49-2、第34表)

[土 器] (第121図1、図版49-2-1、第34表)

1は非江戸在地系の小皿である。

## 962号土坑

**遺 構** (第116図)

[位 置] (B-5) グリッド。

[検出状況] 古墳時代後期の住居跡(31 H)、中世以降の土坑(964 D)を切る。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸 1.26 m／短軸 0.93 m／深さ 0.41 m。壁：80°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-39°-E。

[覆 土] 6層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 中世以降。

## 966号土坑

**遺 構** (第116図)

[位 置] (E-4) グリッド。



[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 1.02 m／短軸 0.45 m／深さ 0.30 m。壁：75°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－56°－W。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

#### 967号土坑

**遺構** (第116図)

[位置] (D・E－3) グリッド。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 0.98 m／短軸 0.56 m／深さ 0.18 m。壁：75°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－50°－E。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

#### 968号土坑

**遺構** (第116図)

[位置] (D－3) グリッド。

[検出状況] 969 Dを切り、970 Dに切られる。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 1.56 m／短軸 0.42 m／深さ 0.30 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－19°－E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

#### 970号土坑

**遺構** (第117図)

[位置] (D－3) グリッド。

[検出状況] 968・969 Dを切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 2.21 m／短軸 0.43 m／深さ 0.41 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－20°－E。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

#### 973号土坑

**遺構** (第117図)

[位置] (D－4) グリッド。

[検出状況] 974・975 Dを切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 2.09 m／短軸 0.85 m／深さ 0.44 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－15°－E。

[覆土] 3層に分層される。

[遺物] 磁器1点（碗）が出土した。

[時期] 近世（1630～1650年代）。

**遺物**（第121図、図版49－2、第34表）

[磁器]（第121図1、図版49－2－1、第34表）

1は肥前系（初期伊万里様式）の中碗である。

### 974号土坑

**遺構**（第117図）

[位置]（D－4）グリッド。

[検出状況] 975 Dを切り、973 D及び攪乱に切られる。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 1.93 m以上／短軸 0.54 m／深さ 0.26 m。壁：75°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－16°－E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

### 975号土坑

**遺構**（第117図）

[位置]（D－4）グリッド。

[検出状況] 973・974 Dに切られる。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 0.90 m以上／短軸 0.41 m／深さ 0.41 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－17°－E。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

### 977号土坑

**遺構**（第117図）

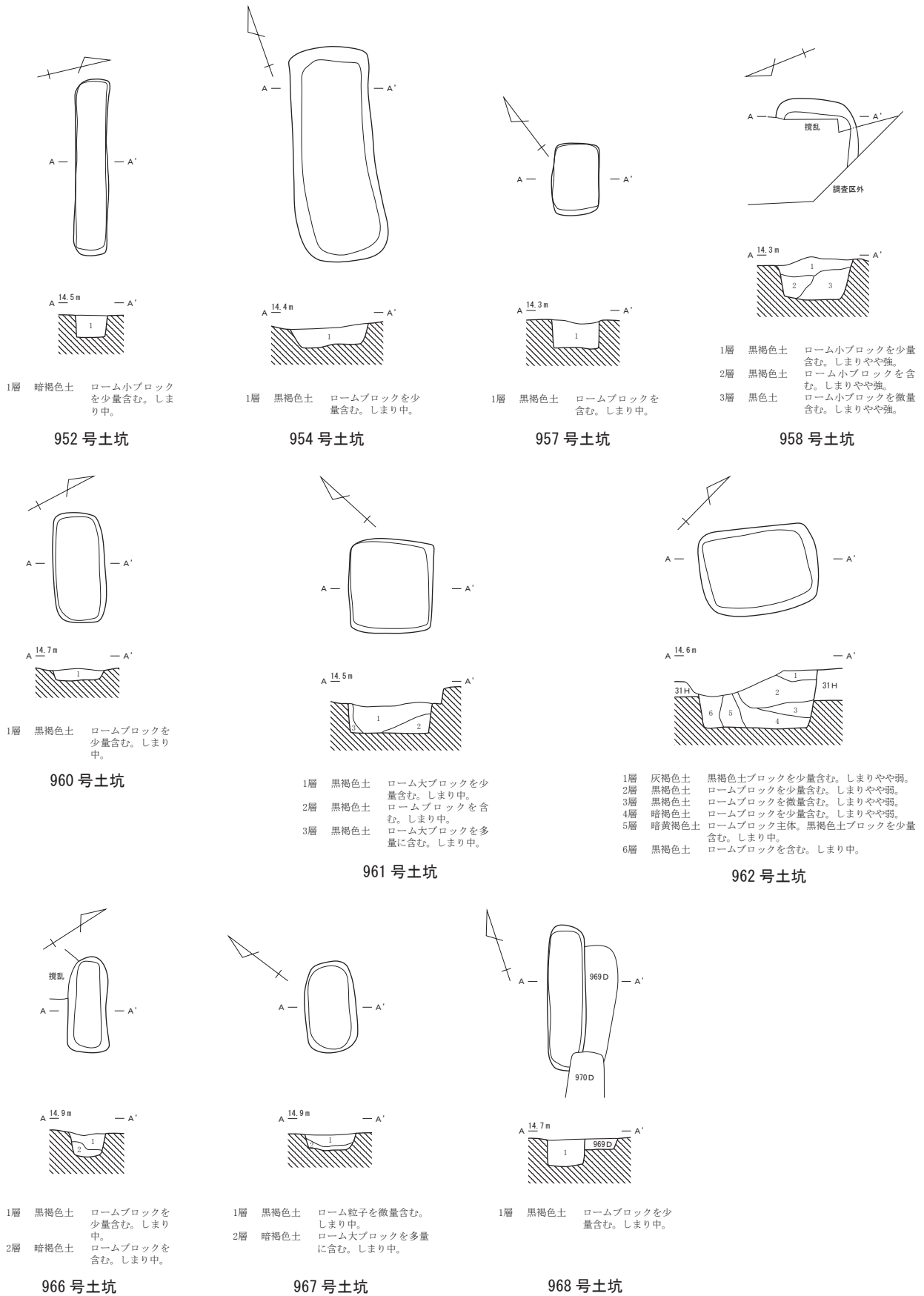
[位置]（D－3）グリッド。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 2.37 m／短軸 0.45 m／深さ 0.41 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－16°－E。

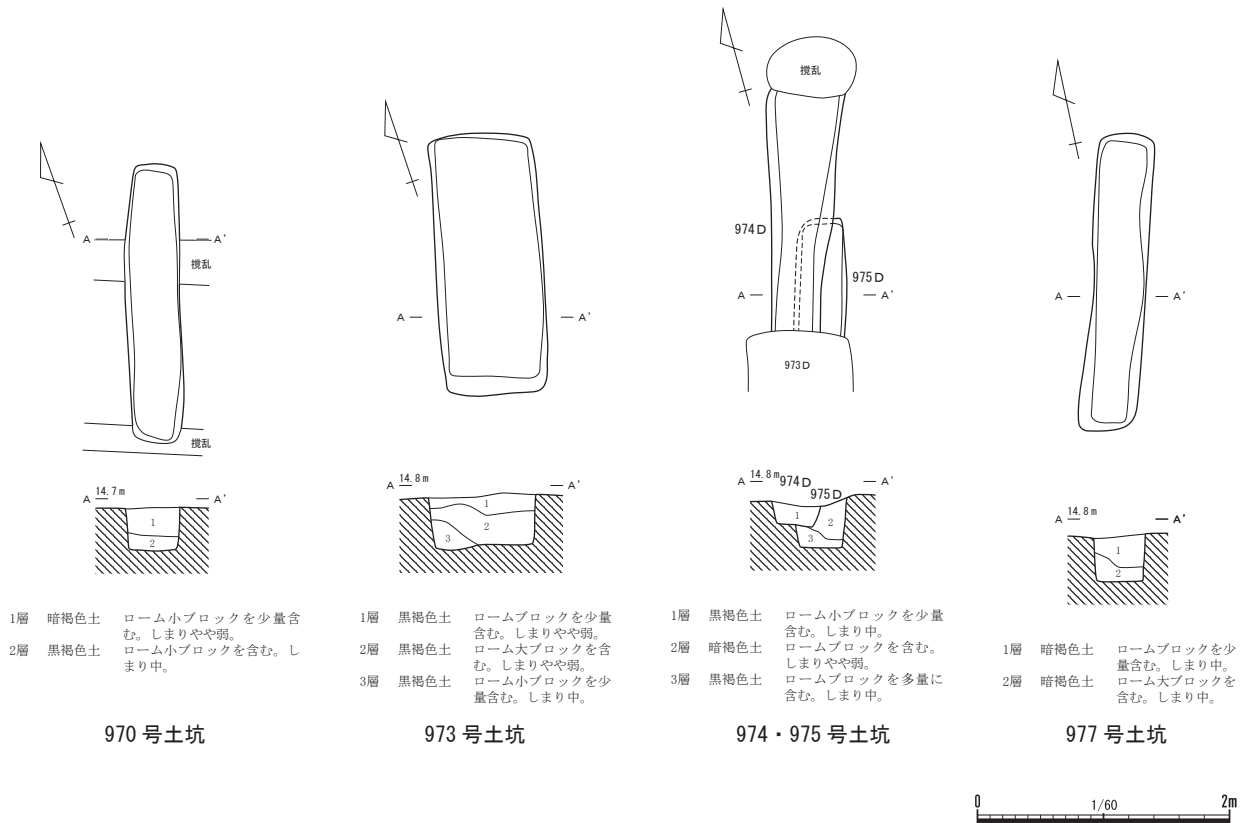
[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。



第116図 土坑 B群2類1 (1/60)



第 117 図 土坑 B群2類2 (1/60)

C群 円形・楕円形の土坑 (第 118 図、第 35 表)

953・959・963・965・976 Dの5基が該当する。963・965 Dは重複するが、それ以外に目立った分布の集中傾向は認められず、調査区全域に散在して検出された。

953 号土坑

**遺 構** (第 118 図)

[位 置] (D-3) グリッド。

[検出状況] 西側は攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸 0.87 m以上／短軸 0.72 m／深さ 0.09 m。壁：70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-57°-W。

[覆 土] 単層。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 中世以降。

959 号土坑

**遺 構** (第 118 図)

[位 置] (B-5) グリッド。

[検出状況] 5 Tと重複する（新旧関係は不明）。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸 0.98 m／短軸 0.93 m以上／深さ 0.12 m。壁：65°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－28°－E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

#### 963号土坑

**遺構**（第118図）

[位置]（B－4）グリッド。

[検出状況] 古墳時代後期の住居跡（31 H）、中世以降の土坑（965 D）を切る。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸 0.86 m／短軸 0.83 m／深さ 0.14 m。壁：65°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－28°－E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

#### 965号土坑

**遺構**（第118図）

[位置]（B－4）グリッド。

[検出状況] 古墳時代後期の住居跡（31 H）を切り、中世以降の土坑（963 D）に切られる。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸 0.78 m以上／短軸 0.71 m／深さ 0.14 m。壁：65°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－23°－E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

#### 976号土坑

**遺構**（第118図）

[位置]（C－5、D－5・6）グリッド。

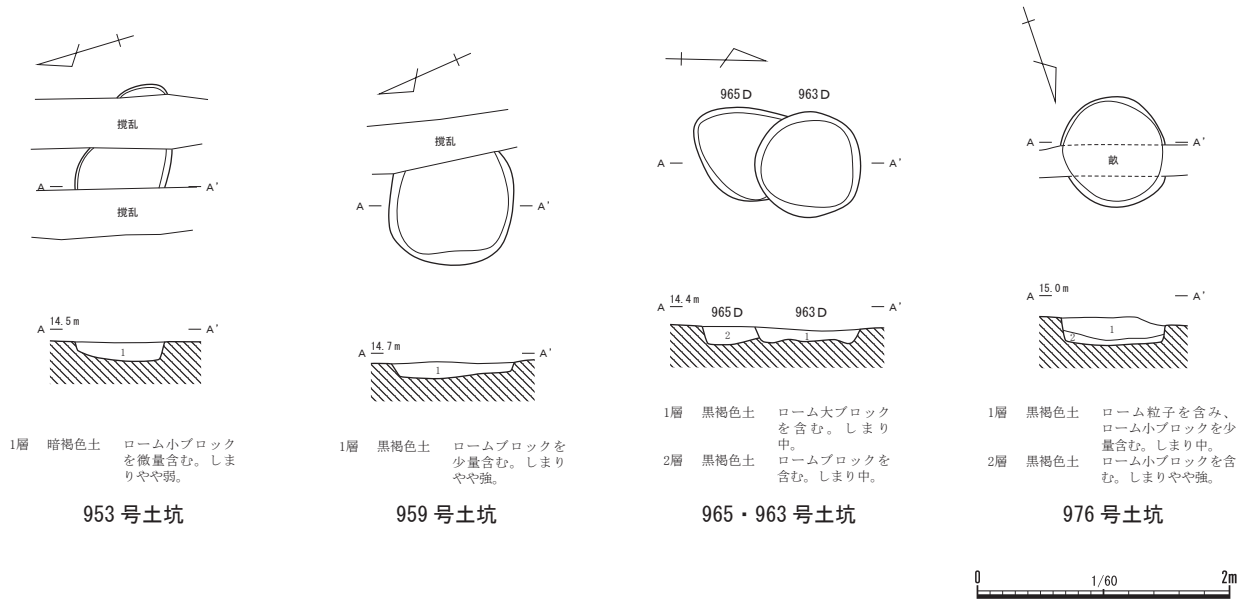
[検出状況] 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（653 Y）を切り、中世以降の畝状遺構群に切られる。

[構造] 平面形：不整形円形。規模：長軸 0.89 m／短軸 0.82 m／深さ 0.21 m。壁：40°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－21°－E。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。



第118図 土坑 C群 (1/60)

D群 不整形の土坑 (第119図、第35表)

972 Dの1基が該当する。本地点では客体的なタイプである。

972号土坑

**遺 構** (第119図)

**[位 置]** (E-4) グリッド。

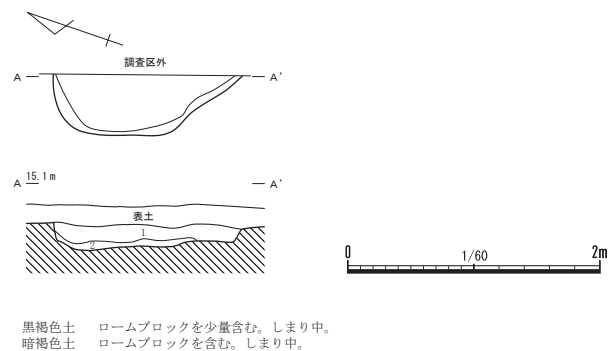
**[検出状況]** 東側は調査区外に延びる。

**[構 造]** 平面形：不整形。規模：長軸 1.43 m以上／短軸 0.83 m以上／深さ 0.13 m。壁：70°の角度で立ち上がる。長軸方位：不明。

**[覆 土]** 2層に分層される。

**[遺 物]** 出土しなかった。

**[時期]** 中世以降。



972号土坑

第119図 土坑 D群 (1/60)

## E群 地下室・地下坑、地下式坑（第120図、第35表）

956・964 Dの2基が該当する。共に地下式坑で、1類とした1 縦坑1 主体部タイプである。1区南西部の（A・B-4・5）グリッド内で近接して検出された。

### 956号土坑

**遺 構**（第120図）

[位 置]（A-4・5）グリッド。

[検出状況] 南西側は調査区外に延びる。

[構 造] 地下式坑の形態をもつ。

[主 体 部] 平面形：主軸に対して横長の長方形を呈する。天井部が僅かに残存し、主体部は立川ローム第IV～第V層を掘り抜いて構築されている。規模：長軸 0.94 m／短軸 0.81 m／深さ 0.55 m。964 D及び周辺の調査地点（第234地点等）で検出された地下式坑に比して狭小で深度も浅いため、地下式坑としての用途を果たしていたのか不明な点が認められる。長軸方位：N-48°-W。

[入口竪坑部] 平面形：開口部は方形を呈する。開口部規模：長軸 1.07 m以上／短軸 1.12 m／深さ 0.32 m。長軸方位：N-39°-W。坑底は概ね平坦で、主軸に対して縦長の隅丸方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。坑底規模：長軸 0.97 m以上／短軸 0.81 m。長軸方位：N-45°-W。

[覆 土] 7層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 中世。

### 964号土坑

**遺 構**（第120図）

[位 置]（B-4・5）グリッド。

[検出状況] 古墳時代後期の住居跡（31 H）を切り、中世以降の土坑（962 D）・ピット（67・90・97・103・106 P）に切られる。その内、67・103 Pは天井部上面の削平に留まる。

[構 造] 地下式坑の形態をもつ。

[主 体 部] 平面形：主軸に対して横長の長方形を呈する。天井部が残存し、主体部は立川ローム第VI層を掘り抜いて構築されている。規模：長軸 1.26 m／短軸 0.95 m／深さ 1.38 m。東壁を中心に壁面は大きくオーバーハングする。長軸方位：N-65°-W。

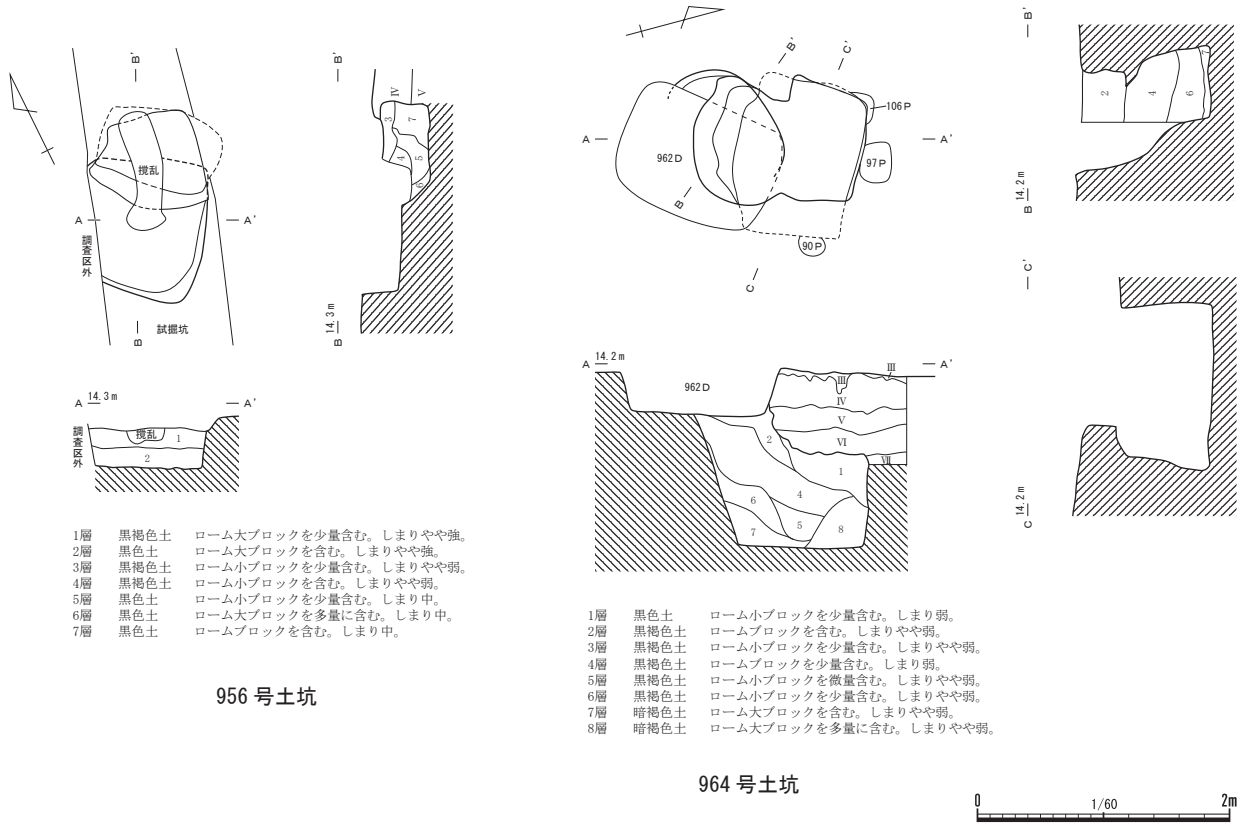
[入口竪坑部] 平面形：開口部は主軸に対して横長の楕円形を呈する。主体部への連絡は70°の角度で、0.72 m下がる。開口部規模：長軸 1.16 m／短軸 0.74 m以上／深さ 0.62 m。長軸方位：N-82°-E。坑底は概ね平坦であるが、大部分が962 Dに切られるため、規模・長軸方位等は不明である。

[覆 土] 8層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 中世。





第120図 土坑 E群 (1/60)



第121図 中世以降の土坑出土遺物 (1/4)

挿図番号 図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第121図1 図版49-2-1	955 D	陶器 碗	口縁部～ 胴部 破片	口(12.0) 高[3.0]	丸みを持って立 ち上がり、口縁 下部で窄み口唇 部で外反する	天目形中碗/内外面：天目釉/ 瀬戸・美濃系	乳白色/砂粒少 量	近世 1670～1780年代	覆土中
図版49-2-1	960 D	陶器 皿	口縁部 破片	厚0.5	浅い体部	小皿/内外面：灰釉/瀬戸・美濃 系	黄色/砂粒微量	近世 1670～1770年代	覆土中
第121図1 図版49-2-1	961 D	土器 皿	底部 破片	高[1.2] 底(7.2)	やや厚みのある 底部	小皿/底部：左回転系切底/非江 戸在地系	黄白色/白色粒 子・赤色粒子・ 雲母少量	中世 15～16世紀	覆土中
第121図1 図版49-2-1	973 D	磁器 碗	胴部～ 底部 破片	高[4.2] 底(4.2)	削り出し高台か ら丸みを持って 立ち上がる	中碗/内面：透明釉、外面：鉄釉 /肥前系(初期伊万里様式)	明灰色/緻密	近世 1630～1650年代	覆土中

第34表 中世以降の土坑出土陶磁器・土器一覧

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	位置	平面形	分類	規模 (m)			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時期	
				長軸	短軸	深さ					
952 D	(C-3)G	長方形	B群2類	1.90	0.36	0.29	N-76° -W	単層(第116図) / 640Yを切る	遺物なし	中世以降	
953 D	(D-3)G	楕円形	C群	(0.87)	0.72	0.09	N-57° -W	単層(第118図) / 西側は攪乱に切られる	遺物なし	中世以降	
954 D	(B-4)G	長方形	B群2類	2.32	0.88	0.35	N-16° -E	単層(第116図) / 641Yを切る	遺物なし	中世以降	
955 D	(B-4)G	溝状土坑	B群1類	3.21	0.79	0.32	N-28° -E	2層(第115図)	陶器(碗)1点	近世	
956 D	(A-4・5)G	地下式坑	主体部:長方形	E群1類	0.94	0.81	0.55	N-48° -W	7層(第120図) / 南西側は調査区外 / 1 竪坑1 主体部タイプ	遺物なし	中世
			竪坑部:方形		(1.07)	1.12	0.32	N-39° -W			
957 D	(A-5)G	長方形	B群2類	0.78	0.52	0.39	N-37° -E	単層(第116図)	遺物なし	中世以降	
958 D	(A-5)G	長方形か	B群2類	(0.84)	(0.71)	0.49	N-66° -W	3層(第116図) / 北・西側は攪乱に切られる	遺物なし	中世以降	
959 D	(B-5)G	円形	C群	0.98	(0.93)	0.12	N-28° -E	単層(第118図) / 東側は攪乱に切られる	遺物なし	中世以降	
960 D	(B-5)G	長方形	B群2類	1.18	0.57	0.20	N-64° -W	単層(第116図)	陶器(皿)1点	近世	
961 D	(B-5)G	長方形	B群2類	1.00	0.90	0.36	N-49° -E	3層(第116図) / 31H、58Pを切る	土器(皿)1点	中世以降	
962 D	(B-5)G	長方形	B群2類	1.26	0.93	0.41	N-39° -E	6層(第116図) / 31H、964Dを切る	遺物なし	中世以降	
963 D	(B-4)G	円形	C群	0.86	0.83	0.14	N-28° -E	単層(第118図) / 31H、965Dを切る	遺物なし	中世以降	
964 D	(B-4・5)G	地下式坑	主体部:長方形	E群1類	1.26	0.95	1.38	N-65° -W	8層(第120図) / 31Hを切り、962D、67・90・ 97・103・106Pに切られる / 1 竪坑1 主体部タイプ	遺物なし	中世
			竪坑部:楕円形		1.16	(0.74)	0.62	N-82° -E			
965 D	(B-4)G	楕円形	C群	(0.78)	0.71	0.14	N-23° -E	単層(第118図) / 31Hを切り、963Dに切られる	遺物なし	中世以降	
966 D	(E-4)G	長方形	B群2類	1.02	0.45	0.30	N-56° -W	2層(第116図)	遺物なし	中世以降	
967 D	(D・E-3)G	長方形	B群2類	0.98	0.56	0.18	N-50° -E	2層(第116図)	遺物なし	中世以降	
968 D	(D-3)G	長方形	B群2類	1.56	0.42	0.30	N-19° -E	単層(第116図) / 969Dを切り、970Dに切られる	遺物なし	中世以降	
969 D	(D-3)G	溝状土坑	B群1類	3.35	(0.35)	0.20	N-25° -E	単層(第115図) / 968・970Dに切られる	遺物なし	中世以降	
970 D	(D-3)G	長方形	B群2類	2.21	0.43	0.41	N-20° -E	2層(第117図) / 968・969Dを切る	遺物なし	中世以降	
971 D	(D-3)G	溝状土坑	B群1類	3.35	0.48	0.28	N-26° -E	2層(第115図) / 74Pを切る	遺物なし	中世以降	
972 D	(E-4)G	不整形	D群	(1.43)	(0.83)	0.13	不明	2層(第119図) / 東側は調査区外	遺物なし	中世以降	
973 D	(D-4)G	長方形	B群2類	2.09	0.85	0.44	N-15° -E	3層(第117図) / 974・975Dを切る	磁器(碗)1点	近世	
974 D	(D-4)G	長方形	B群2類	(1.93)	0.54	0.26	N-16° -E	単層(第117図) / 975Dを切り、973Dに切られる	遺物なし	中世以降	
975 D	(D-4)G	長方形	B群2類	(0.90)	0.41	0.41	N-17° -E	2層(第117図) / 973・974Dに切られる	遺物なし	中世以降	
976 D	(C-5)G (D-5・6)G	不整形円形	C群	0.89	0.82	0.21	N-21° -E	2層(第118図) / 653Yを切り、畝状遺構群に切られる	遺物なし	中世以降	
977 D	(D-3)G	長方形	B群2類	2.37	0.45	0.41	N-16° -E	2層(第117図)	遺物なし	中世以降	

第35表 中世以降の土坑一覧

(4) 井戸跡

11号井戸跡

遺 構 (第122図)

[位置] (D-3) グリッド。

[構造] 平面形:不整形円形。規模:0.85 m×0.78 m/開口部0.91 m×0.90 m。危険を伴うため、

深さ 1.90 m までの精査で終了した。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。足掛け穴は東・西壁で 3 か所ずつ確認され、壁への掘り込みは 4～18cm を測る。長軸方位：N-58°-E。

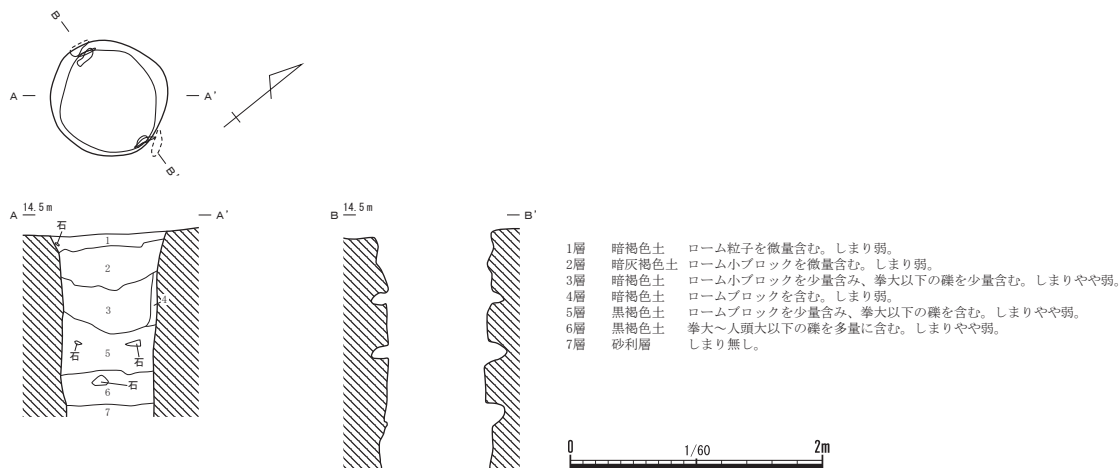
[遺物] 磁器 1 点 (杯)、陶器 2 点 (碗・播鉢) が出土した。

[時期] 近世 (17 世紀後葉)。

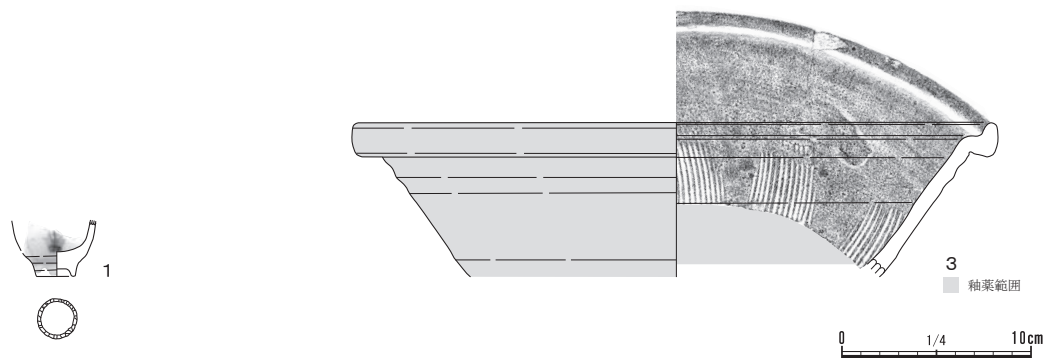
**遺物** (第 123 図、図版 49-3、第 36 表)

**陶器** (第 123 図 1・3、図版 49-3-1～3、第 36 表)

1 は磁器で、肥前系 (初期伊万里様式) の小杯である。2・3 は陶器で、2 は瀬戸・美濃系の小碗、3 は瀬戸・美濃系の播鉢である。



第 122 図 11 号井戸跡 (1/60)



第 123 図 11 号井戸跡出土遺物 (1/4)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第123図1 図版49-3-1	磁器 杯	胴部～ 底部 50%	高 [3.0] 底 2.1	削り出し高台から やや窄まりながら 胴部に立ち上がる	小杯/外面：稲束文染付、高台を除 く全面に透明釉 (生掛け) / 肥前系 (初期伊万里様式)	白色/緻密	近世 1630～1650年代	覆土上層
図版49-3-2	陶器 碗	口縁部～ 胴部 破片	厚 0.5	丸みを持った胴部 から口縁部に立ち 上がる	小碗/内外面：灰釉/瀬戸・美濃系	灰色/砂粒微量	近世 1670～1750年代	覆土上層
第123図3 図版49-3-3	陶器 播鉢	口縁部～ 胴部 20%	口 [33.6] 高 [8.1]	口縁部は折縁形を 呈する	内面：櫛目歯数 13 本 / 1.2mm～5mm / 内外面：鉄釉/瀬戸・美濃系	黄白色/砂粒少量	近世 1670～1720年代	覆土上層

第 36 表 11 号井戸跡出土陶磁器一覧

## 12号井戸跡

**遺 構** (第124図)

[位 置] (D-4) グリッド。

[検出状況] 現代の耕作痕(トレンチャー)等の複数の攪乱に切られる。

[構 造] 平面形: 隅丸長方形。開口部は隅丸方形。規模: 1.15 m × 0.95 m / 開口部 2.42 m × 2.35 m。危険を伴うため、深さ 2.20 m までの精査で終了した。壁: 開口部は漏斗状に大きく広がり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。足掛け穴は北西・南東壁で計 10 か所確認され、壁への掘り込みは 6 ~ 22 cm を測る。長軸方位: N - 81° - E。

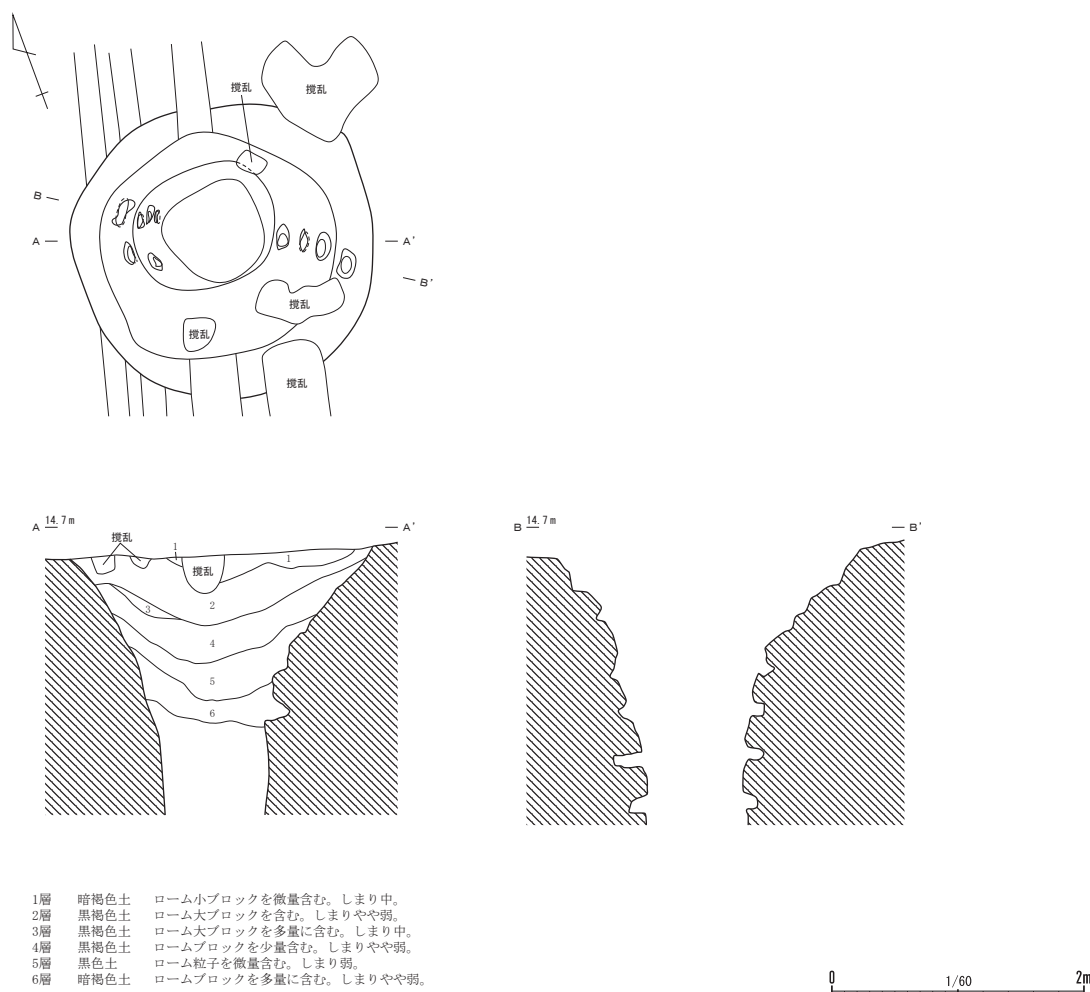
[遺 物] 磁器 1 点(碗)、陶器 1 点(播鉢)が出土した。

[時 期] 近世(17世紀後葉)。

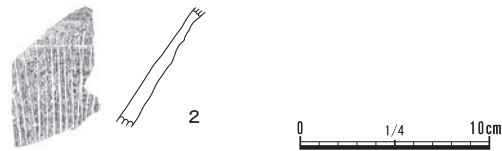
**遺 物** (第125図、図版 49-4、第37表)

[陶 器] (第125図2、図版 49-4-1・2、第37表)

1は磁器で、肥前系(初期伊万里様式)の小碗である。2は陶器で、丹波系の播鉢である。



第124図 12号井戸跡 (1/60)



第125図 12号井戸跡出土遺物（1／4）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
図版 49-4-1	磁器 碗	口縁部 破片	厚 0.4	胴部はやや丸みを持ち、垂直に立ち上がる	小碗／外面：窓、崩し網目文、内外面：透明釉（生掛け）／肥前系（初期伊万里様式）	明灰色／緻密	近世 1630～1650年代	覆土中層
第125図2 図版 49-4-2	陶器 播鉢	胴部 破片	厚 0.8	体部は外傾する	内面：櫛目歯数6本／2.1mm～3.7mm ／内外面：無釉／丹波系	灰色／長石多量	近世 1650～1720年代	覆土上層

第37表 12号井戸跡出土陶磁器一覧

### （5）畝状遺構群

**遺 構**（第126図）

[位 置]（C-5、D・E-4～6）グリッド。

[検出状況] 2区中央部で検出された。東側は攪乱に切られ、東端は調査区外に延びると推測される。広範囲に広がるため、多くの遺構と重複し、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡7軒（647～649・652～655 Y）、中世以降のピット4本（73・75～77 P）を切る。

[構 造] 規模：北西-南東方向 18.21 m、北東-南西方向 15.77 mの範囲で、51本の畝状遺構を検出した。溝状タイプとピット状タイプの2種が認められ、溝状タイプが9割以上を占める。溝状タイプは0.25～0.35mの間隔を置いて整然と構築され、走行方位は合致する。走行方位：N-72°-W。

[覆 土] 9層に分層される。

[遺 物] 陶器1点（皿）が出土した。

[時 期] 近世以降。

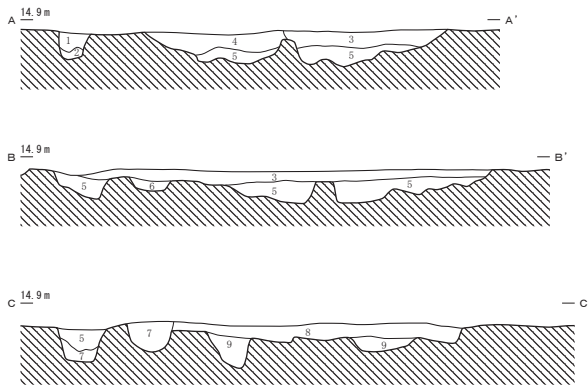
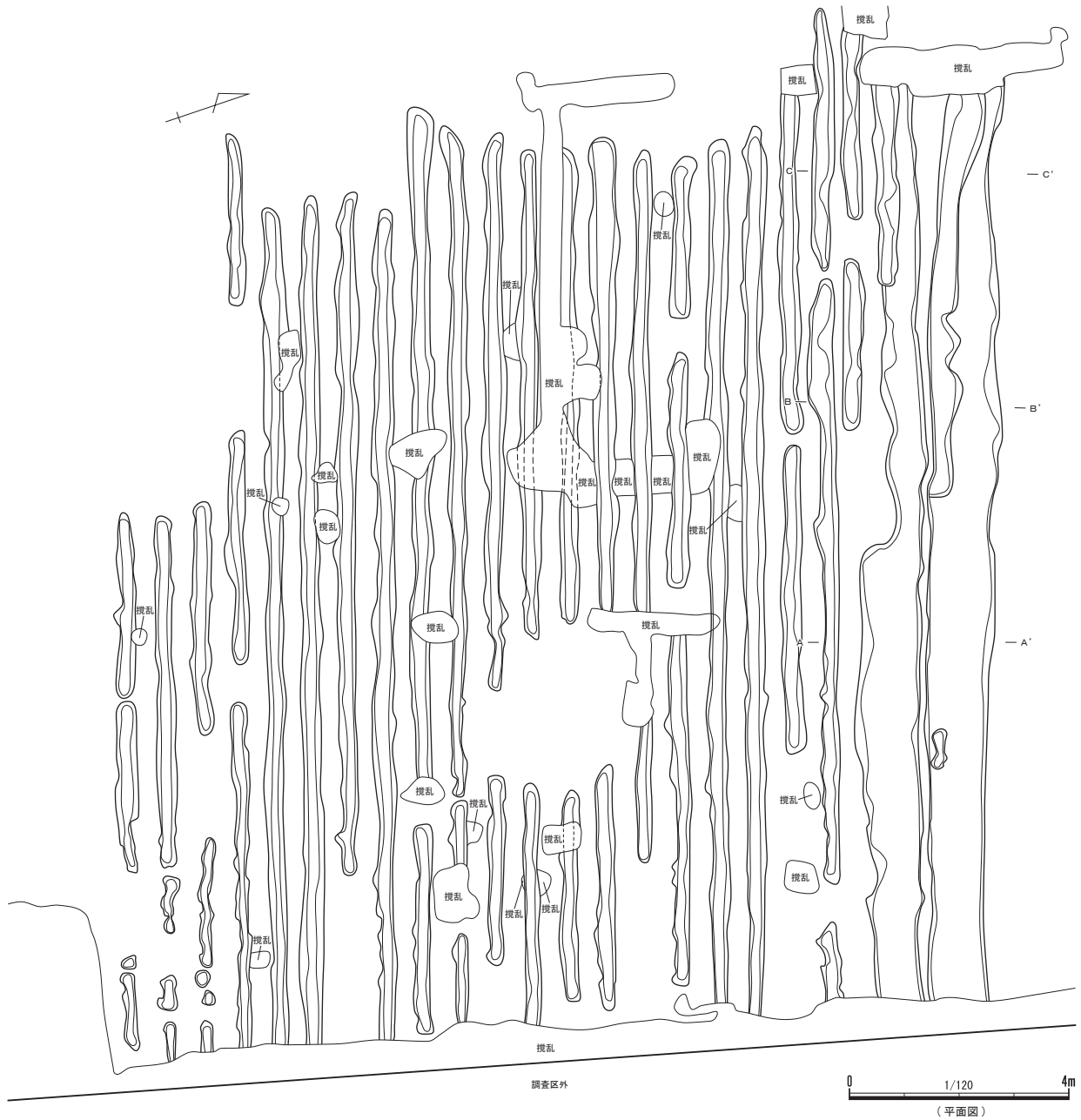
**遺 物**（図版49-5、第38表）

[陶 器]（図版49-5-1、第38表）

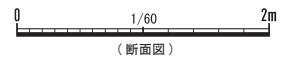
1は陶器で、瀬戸・美濃系の小皿である。

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
図版 49-5-1	陶器 皿	口縁部 破片	厚 0.4	やや深い体部	小皿／内外面：長石釉／瀬戸・美濃系	乳白色／砂粒少量	近世 1670～1770年代	覆土中

第38表 畝状遺構群出土陶器一覧



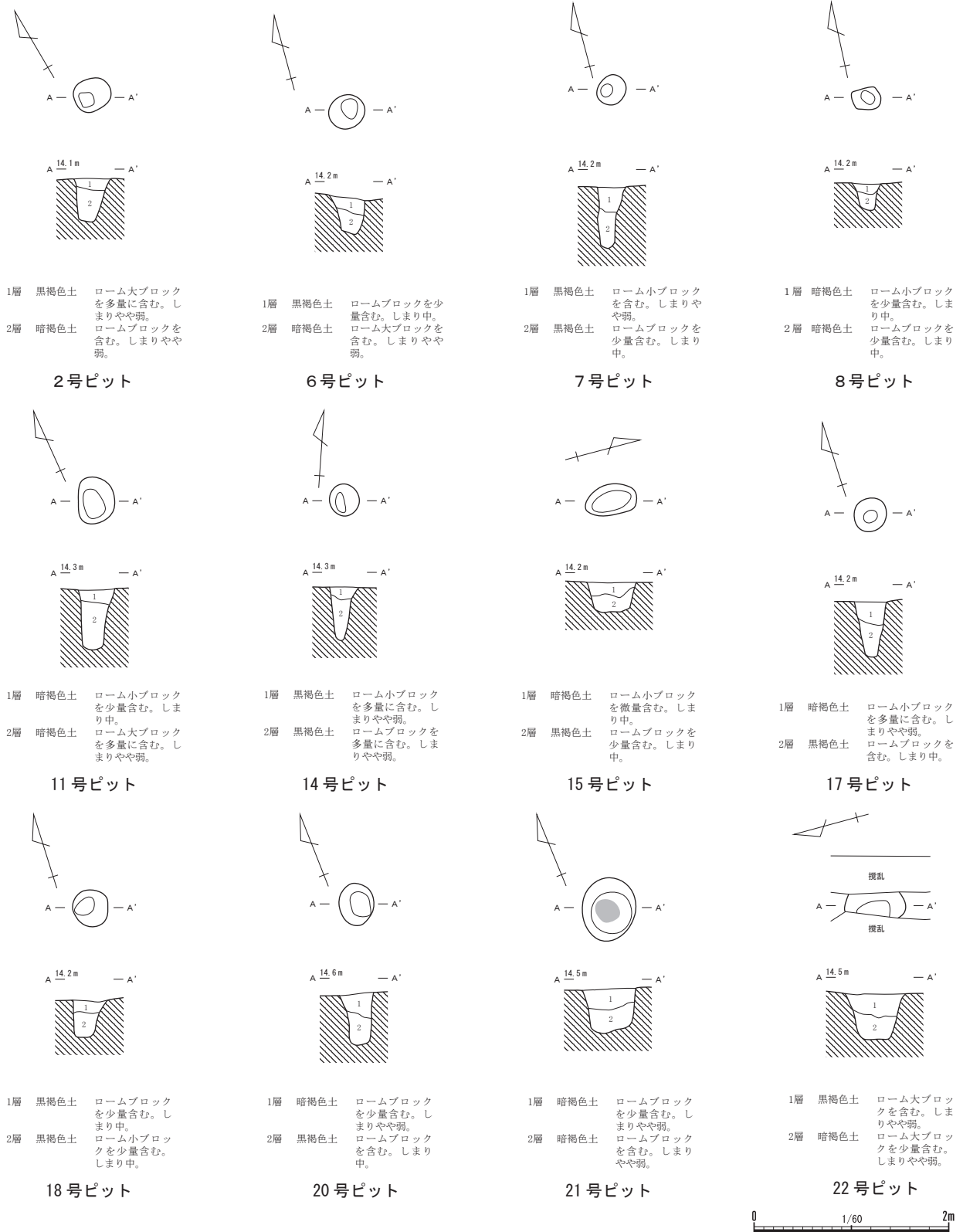
- 1層 暗黄褐色土 ローム大ブロック主体。しまりやや強。
- 2層 暗褐色土 ローム大ブロックを多量に含む。しまり中。
- 3層 灰褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 4層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり中。
- 5層 暗褐色土 ローム大ブロックを含む。しまり中。
- 6層 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。しまり中。
- 7層 暗褐色土 ローム大ブロックを少量含む。しまり中。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。しまり中。
- 9層 暗褐色土 ローム大ブロックを多量に含む。しまり中。



第126図 畝状遺構群 (1/120・1/60)

(6) ピット

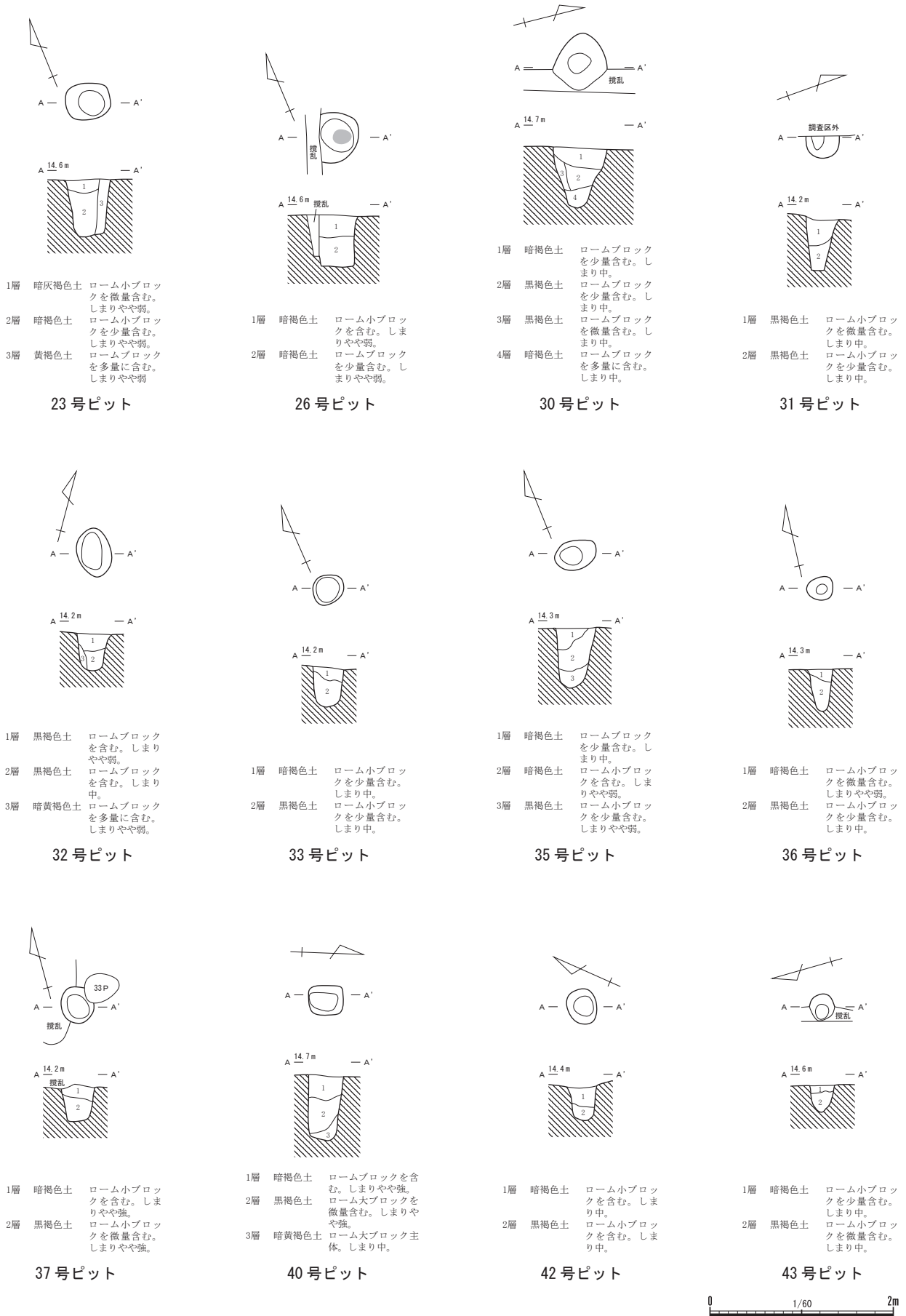
本地点では、計 121 本のピットが検出された。その内、縄文時代のピット 1 本、5 T P 1～P 8 に振り替えたピット 8 本を除いた 112 本が、中世以降のピットに比定される。全てのピットの基本構造については、第 40 表を参照されたい。



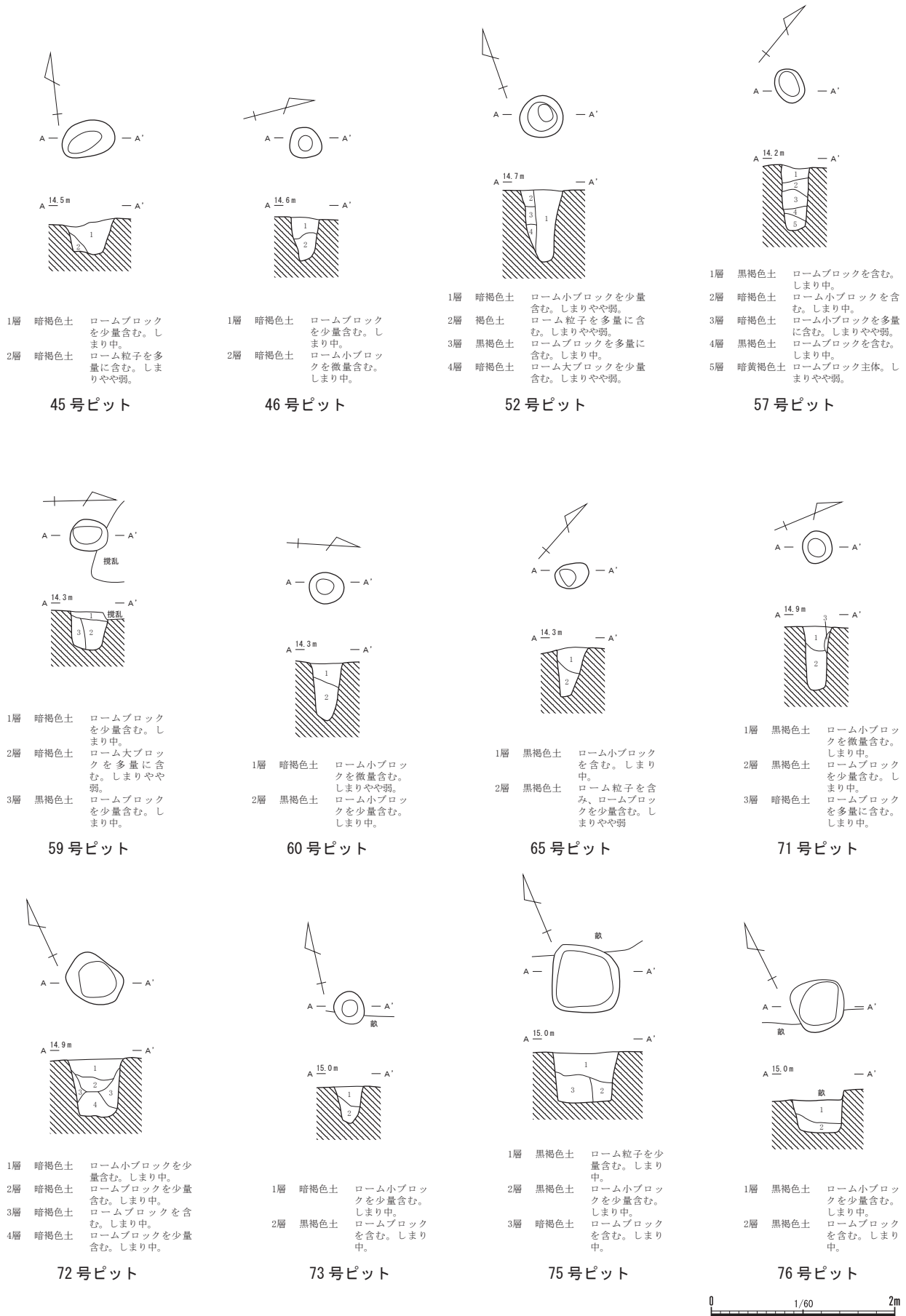
第 127 図 中世以降のピット 1 (1/60)



第3章 検出された遺構と遺物

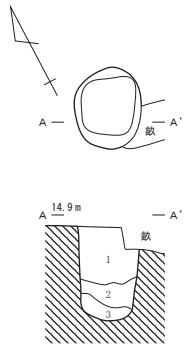


第128図 中世以降のピット2 (1/60)



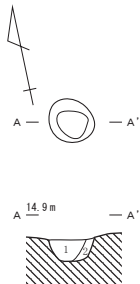
第129図 中世以降のピット3 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



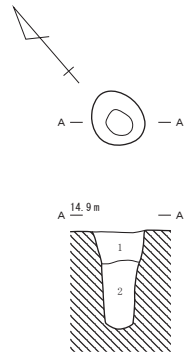
- 1層 暗褐色土 ローム小ブロックを微量含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり中。
- 3層 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。

77号ピット



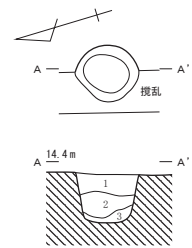
- 1層 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。

78号ピット



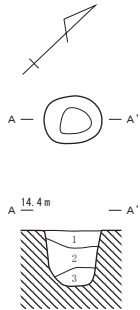
- 1層 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ローム小ブロックを多量に含む。しまり中。

79号ピット



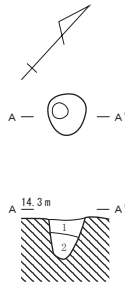
- 1層 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまりやや弱。
- 2層 黒褐色土 ローム小ブロックを含む。しまりやや弱。
- 3層 暗褐色土 ローム小ブロックを多量に含む。しまりやや弱。

81号ピット



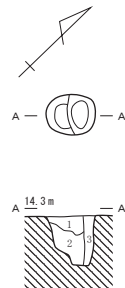
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含み、ロームブロックを含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 3層 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。しまり中。

87号ピット



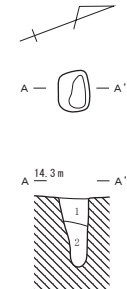
- 1層 暗褐色土 ロームブロックを微量含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。

94号ピット



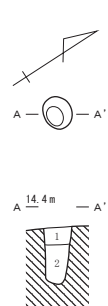
- 1層 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 黒色土 ロームブロックを含む。しまりやや強。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。しまりやや弱。

96号ピット



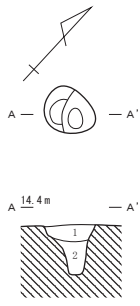
- 1層 黒褐色土 ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。

97号ピット



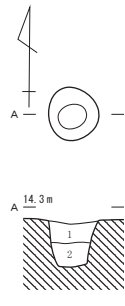
- 1層 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。

98号ピット



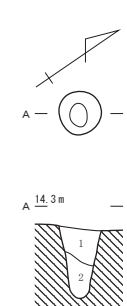
- 1層 黒褐色土 ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
- 2層 黒褐色土 ローム大ブロックを含む。しまり中。

99号ピット



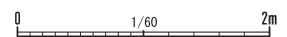
- 1層 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり中。

100号ピット

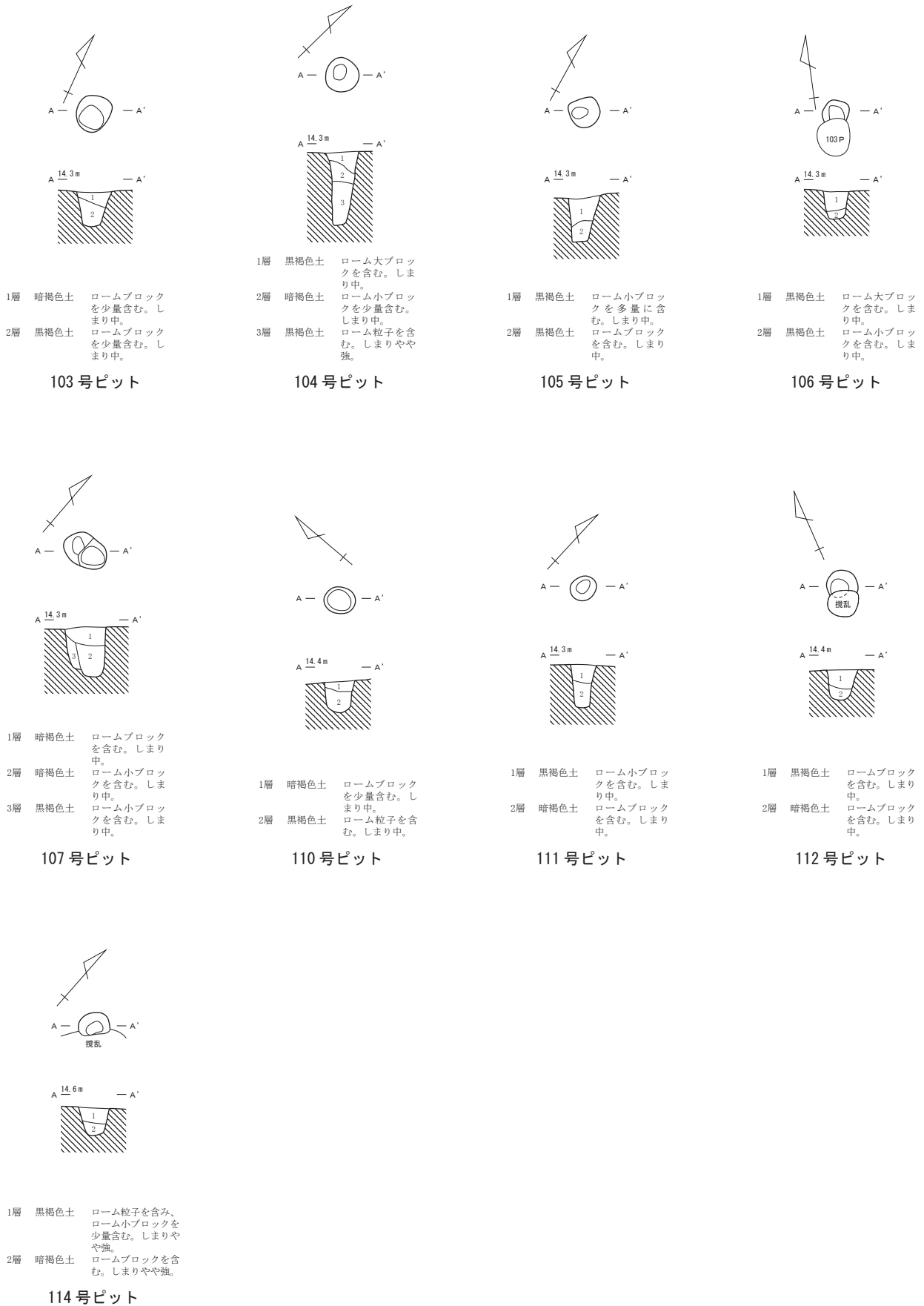


- 1層 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまりやや弱。
- 2層 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。

102号ピット



第130図 中世以降のピット4 (1/60)



第131図 中世以降のピット5 (1/60)



第132図 中世以降のピット出土遺物（1／4）

挿図番号 図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第132図1 図版49-6-1	38 P	陶器 碗	底部破片	高 [2.0] 底 4.1	水平に高台上側 面を削り出し、 斜め方向に立ち 上がる	天目形中碗／内面：鉄釉／瀬戸・ 美濃系	乳白色／砂粒微 量	近世 1670～1780年代	覆土中

第39表 中世以降のピット出土陶器一覧

遺構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
1 P	(B-2)G	楕円形	37	33	14	単層／ローム小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
2 P	(B-2)G	楕円形	38	33	44	2層 (第127図)	なし	中世以降
3 P	(B-2)G	円形	27	26	19	単層／ロームブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
4 P	(B-2)G	楕円形	28	18	22	単層／ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
5 P	(B-2)G	円形	26	25	19	単層／ローム大ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
6 P	(B-2)G	楕円形	37	33	38	2層 (第127図)	なし	中世以降
7 P	(B-2)G	楕円形	32	28	63	2層 (第127図)	なし	中世以降
8 P	(B-2)G	不整形	29	22	31	2層 (第127図)	なし	中世以降
9 P	(B-3)G	不整形	30	23	30	単層／ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
10 P	(B-3)G	円形	28	26	23	単層／ロームブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
11 P	(B-3)G	楕円形	48	37	62	2層 (第127図)	なし	中世以降
12 P	(B-3)G	円形	48	46	28	単層／ロームブロックを多量に含む暗褐色土	なし	中世以降
13 P	(B-3)G	楕円形	37	33	28	単層／ローム小ブロックを多量に含む黒褐色土	なし	中世以降
14 P	(B-3)G	楕円形	33	30	56	2層 (第127図)	なし	中世以降
15 P	(C-2)G	楕円形	57	32	32	2層 (第127図)	なし	中世以降
16 P	(B-3)G	円形	30	30	19	単層／ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
17 P	(B-3)G	楕円形	36	33	57	2層 (第127図)	なし	中世以降
18 P	(C-2)G	不整形	38	36	39	2層 (第127図)	なし	中世以降
19 P	(B-3)G	不整形	36	34	24	単層／ローム大ブロックを含む黒褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降
20 P	(C-4)G	楕円形	43	36	53	2層 (第127図)	なし	中世以降
21 P	(C-3・4)G	楕円形	66	55	46	2層 (第127図)	なし	中世以降
22 P	(D-3)G	楕円形か	61	(26)	47	2層 (第127図)／攪乱に切られる	なし	中世以降
23 P	(D-3)G	隅丸方形	48	39	62	3層 (第128図)	なし	中世以降
24 P	(D-3)G	不明	(32)	(21)	18	単層／ロームブロックを含む黒褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降
25 P	(C・D-3)G	不整形	30	28	28	単層／ロームブロックを少量含む暗褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降
26 P	(C-4)G	楕円形	56	(47)	52	2層 (第128図)／攪乱に切られる	なし	中世以降
27 P	(C-4)G	隅丸方形	33	32	25	単層／ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
29 P	(C-4)G	楕円形	(21)	22	25	単層／ロームブロックを含む黒褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降
30 P	(C-4)G	不整形	56	52	66	4層 (第128図)／攪乱に切られる	なし	中世以降
31 P	(B-3)G	楕円形	36	(24)	56	2層 (第128図)／西側が調査区外	なし	中世以降
32 P	(B-3)G	楕円形	47	38	41	3層 (第128図)	なし	中世以降

第40表 ピット一覧 (1)

遺構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
33 P	(B-3)G	楕円形	37	32	43	2層 (第 128 図) / 37P を切る	なし	中世以降
34 P	(B-4)G	不整形	24	23	28	単層 / ロームブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
35 P	(B-4)G	楕円形	46	32	65	3層 (第 128 図)	なし	中世以降
36 P	(B-4)G	不整形	28	27	46	2層 (第 128 図)	なし	中世以降
37 P	(B-3)G	楕円形	40	34	39	2層 (第 128 図) / 33P に切られる	なし	中世以降
38 P	(B-5)G	楕円形	54	41	12	単層 / ローム大ブロックを含む暗褐色土 / 31H を切る	陶器 (碗) 1 点	近世
(39 P)	5 T P 1 に変更のため、欠番							
40 P	(B-5)G	隅丸方形	38	33	72	3層 (第 128 図) / 31H を切る	なし	中世以降
41 P	(B-5)G	不整形	35	34	27	単層 / ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
42 P	(A-5)G	楕円形	39	32	36	2層 (第 128 図)	なし	中世以降
43 P	(C-4)G	不整形	29	27	30	2層 (第 128 図) / 攪乱に切られる	なし	中世以降
(44 P)	5 T P 2 に変更のため、欠番							
45 P	(A-5)G	楕円形	58	38	41	2層 (第 129 図)	なし	中世以降
46 P	(B・C-4)G	不整形	35	34	46	2層 (第 129 図)	なし	中世以降
(47 P)	5 T P 6 に変更のため、欠番							
(48 P)	5 T P 5 に変更のため、欠番							
(49 P)	5 T P 7 に変更のため、欠番							
50 P	(C-4)G	不整形	26	25	22	単層 / ローム粒子を少量含む暗褐色土	なし	中世以降
(51 P)	5 T P 8 に変更のため、欠番							
52 P	(B-6)G	円形	47	46	78	4層 (第 129 図)	なし	中世以降
(53 P)	5 T P 4 に変更のため、欠番							
(54 P)	5 T P 3 に変更のため、欠番							
55 P	(B-5)G	楕円形	27	(21)	21	単層 / ローム小ブロックを少量含む黒褐色土 / 攪乱に切られる	なし	中世以降
56 P	(B-5)G	楕円形	25	21	24	単層 / ローム粒子を微量含む黒褐色土 / 92P・31H を切る	なし	中世以降
57 P	(A-4)G	楕円形	38	31	71	5層 (第 129 図) / 31H を切る	なし	中世以降
58 P	(B-5)G	方形	35	(30)	15	単層 / ローム大ブロックを含む暗褐色土 / 961D に切られ、31H を切る	なし	中世以降
59 P	(B-4)G	楕円形	42	36	41	3層 (第 129 図) / 攪乱に切られ、31H を切る	なし	中世以降
60 P	(B-4)G	楕円形	38	34	63	2層 (第 129 図) / 攪乱に切られ、31H を切る	なし	中世以降
61 P	(C-4)G	楕円形	54	45	25	単層 / ロームブロックを少量含む黒褐色土 / 644Y を切る	なし	中世以降
62 P	(B-5)G	楕円形	29	25	25	単層 / ローム小ブロックを少量含む黒褐色土 / 642Y を切る	なし	中世以降
63 P	(B-4・5)G	隅丸方形	28	26	26	単層 / ローム大ブロックを少量含む黒褐色土 / 31H を切る	なし	中世以降
64 P	(B-4)G	楕円形	38	30	24	単層 / ローム小ブロックを含む黒褐色土 / 31H を切る	なし	中世以降
65 P	(B-4)G	楕円形	37	27	54	2層 (第 129 図) / 31H を切る	なし	中世以降
66 P	(B-4)G	円形	32	32	29	単層 / ロームブロックを少量含む黒褐色土 / 31H を切る	なし	中世以降
67 P	(B-4・5)G	楕円形	(29)	24	25	単層 / ローム小ブロックを少量含む黒褐色土 / 962D に切られ、964D・31H を切る	なし	中世以降
68 P	(B-4)G	円形	21	20	12	単層 / ローム小ブロックを少量含む暗褐色土 / 31H を切る	なし	中世以降
69 P	(E-4)G	楕円形	47	43	15	単層 / ローム小ブロックを微量含む暗褐色土	なし	中世以降
70 P	(E-4)G	楕円形	49	45	14	単層 / ローム小ブロックを微量含む暗褐色土	なし	中世以降
71 P	(E-4)G	楕円形	36	33	79	3層 (第 129 図)	なし	中世以降
72 P	(C-6)G	隅丸方形	60	47	64	4層 (第 129 図)	なし	中世以降
73 P	(D-6)G	楕円形	36	31	40	2層 (第 129 図) / 畝状遺構群に切られる	なし	中世以降
74 P	(D-3)G	楕円形	36	27	28	単層 / ローム粒子を含み、ロームブロックを少量含む暗褐色土 / 971D に切られる	なし	中世以降
75 P	(D-6)G	不整形	74	72	56	3層 (第 129 図) / 畝状遺構群に切られ、652Y を切る	なし	中世以降
76 P	(D-5)G	不整形	57	56	46	2層 (第 129 図) / 畝状遺構群に切られ、652Y を切る	なし	中世以降
77 P	(D-5)G	楕円形	65	53	73	3層 (第 130 図) / 畝状遺構群に切られ、653Y を切る	なし	中世以降

第 40 表 ピット一覧 (2)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
78 P	(D-5)G	楕円形	37	33	23	2層 (第 130 図) / 攪乱に切られる	なし	中世以降
79 P	(E-4)G	楕円形	46	39	77	2層 (第 130 図)	なし	中世以降
80 P	(E-4)G	楕円形	37	33	22	単層 / ロームブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
81 P	(C-3)G	楕円形	52	45	39	3層 (第 130 図) / 攪乱に切られ、640Y を切る	なし	中世以降
82 P	(B-3)G	円形	31	30	8	単層 / ローム小ブロックを少量含む黒褐色土 / 641Y を切る	なし	中世以降
83 P	(B-4)G	円形	22	21	11	単層 / ローム小ブロックを少量含む黒褐色土 / 641Y を切る	なし	中世以降
84 P	(B-4)G	不整形円形	23	22	15	単層 / ローム小ブロックを少量含む黒褐色土 / 641Y を切る	なし	中世以降
85 P	(B-4)G	不整形円形	23	22	26	単層 / ローム粒子を多量に含み、ロームブロックを含む暗褐色土 / 641Y を切る	なし	中世以降
86 P	(B-4)G	円形	30	29	18	単層 / ローム大ブロックを含む暗褐色土 / 641Y を切る	なし	中世以降
87 P	(B-5)G	楕円形	46	37	44	3層 (第 130 図) / 31H を切る	なし	中世以降
88 P	(B-5)G	楕円形	24	18	12	単層 / ローム小ブロックを含む黒褐色土 / 31H を切る	なし	中世以降
89 P	(B-5)G	楕円形	23	20	14	単層 / ロームブロックを含む黒褐色土 / 31H を切る	なし	中世以降
90 P	(B-4・5)G	楕円形	22	17	12	単層 / ロームブロックを少量含む暗褐色土 / 964D・31H を切る	なし	中世以降
91 P	(B-5)G	円形	21	21	14	単層 / ローム小ブロックを微量含む黒褐色土 / 31H を切る	なし	中世以降
92 P	(B-5)G	円形	25	24	24	単層 / ロームブロックを少量含む黒褐色土 / 56P に切られ、31H を切る	なし	中世以降
93 P	(B-4・5)G	楕円形	29	23	13	単層 / ローム小ブロックを微量含む黒褐色土 / 31H を切る	なし	中世以降
94 P	(B-4)G	楕円形	33	30	32	2層 (第 130 図) / 31H を切る	なし	中世以降
95 P	(B-4)G	不整形円形	26	26	24	単層 / ローム小ブロックを少量含む黒褐色土 / 31H を切る	なし	中世以降
96 P	(B-4)G	楕円形	39	32	39	3層 (第 130 図) / 31H を切る	なし	中世以降
97 P	(B-4)G	隅丸方形	32	25	53	2層 (第 130 図) / 31H を切る	なし	中世以降
98 P	(B-4)G	楕円形	26	22	45	2層 (第 130 図) / 31H を切る	なし	中世以降
99 P	(B-4)G	楕円形	43	35	39	2層 (第 130 図) / 31H を切る	なし	中世以降
100 P	(B-4)G	楕円形	42	39	35	2層 (第 130 図) / 31H を切る	なし	中世以降
101 P	(B-5)G	楕円形	29	24	19	単層 / ローム小ブロックを少量含む黒褐色土 / 31H を切る	なし	中世以降
102 P	(B-5)G	円形	34	34	57	2層 (第 130 図) / 31H を切る	なし	中世以降
103 P	(B-4)G	楕円形	40	35	36	2層 (第 131 図) / 106P・964D・31H を切る	なし	中世以降
104 P	(B-4)G	不整形円形	36	36	80	3層 (第 131 図) / 31H を切る	なし	中世以降
105 P	(B-5)G	不整形方形	32	31	46	2層 (第 131 図) / 31H を切る	なし	中世以降
106 P	(B-4)G	隅丸方形	28	26	29	2層 (第 131 図) / 103P に切られ、964D・31H を切る	なし	中世以降
107 P	(B-4)G	楕円形	49	33	51	3層 (第 131 図) / 31H を切る	なし	中世以降
108 P	(B-4)G	隅丸方形	38	28	22	単層 / ロームブロックを含む黒褐色土 / 31H を切る	なし	中世以降
109 P	(B-4)G	楕円形	40	32	25	単層 / ローム大ブロックを含む黒褐色土 / 31H を切る	なし	中世以降
110 P	(B-4)G	楕円形	34	28	34	2層 (第 131 図) / 31H を切る	なし	中世以降
111 P	(B-4)G	楕円形	29	25	46	2層 (第 131 図) / 31H を切る	なし	中世以降
112 P	(B-5)G	楕円形	34	(26)	33	2層 (第 131 図) / 攪乱に切られ、31H を切る	なし	中世以降
113 P	(B-5)G	円形	19	19	10	単層 / ローム粒子を含み、ローム小ブロックを少量含む黒褐色土 / 642Y を切る	なし	中世以降
114 P	(B-5)G	隅丸方形	33	(23)	29	2層 (第 131 図) / 攪乱に切られ、642Y を切る	なし	中世以降
115 P	(B-6)G	不整形方形	19	13	14	単層 / ロームブロックを含む黒褐色土 / 攪乱に切られ、642Y を切る	なし	中世以降
116 P	(B-5)G	楕円形	24	18	15	単層 / ロームブロックを含む黒褐色土 / 642Y を切る	なし	中世以降
117 P	(C-4)G	円形	25	23	11	単層 / ロームブロックを含む暗褐色土 / 644Y を切る	なし	中世以降
118 P	(C-4)G	隅丸方形	47	37	19	単層 / ローム小ブロックを含む暗褐色土 / 644Y を切る	なし	中世以降
119 P	(E-4)G	楕円形	40	36	10	単層 / ロームブロックを含む暗褐色土 / 646Y を切る	なし	中世以降
120 P	(E-4)G	楕円形	45	32	10	単層 / ロームブロックを含む暗褐色土 / 646Y を切る	なし	中世以降
121 P	(E-4)G	円形	34	32	17	単層 / ローム小ブロックを少量含む黒褐色土 / 646Y を切る	なし	中世以降

第40表 ピット一覧 (3)



## 第6節 遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、旧石器時代の石器、縄文時代の遺物、弥生時代後期～古墳時代前期の土器、中世以降の遺物に分類する。

### (1) 旧石器時代の石器 (第133・134 図1～13、図版50-1～13、第41表)

1はナイフ形石器、2・3は尖頭器、4・5は両面調整石器、6は尖頭器調整剥片である。7は両極剥片、8は打面調整剥片、9～11は二次加工のある剥片、12は石核、13は縦長剥片である。なお、1・9は21号石器集中地点が検出されたTP4内から出土したが、出土地点・層位が不明で、21号石器集中地点に帰属するのかが不確定であるため、遺構外遺物として取り扱った。

### (2) 縄文時代の遺物 (第135～137 図14～75、図版51・52-1-14～75、第42～44表)

#### [土器] (第135～137 図14～68、図版51-14～68、第42表)

早期～晩期の縄文土器が出土した。14～20は早期の条痕文系土器である。21～48は前期の土器で、21は花積下層式土器、22～26は関山・黒浜式土器、27～41は諸磯a式土器、42～44は諸磯b式土器、45～47は浮島式土器、48は前期末葉の十三菩提式土器である。49～54は中期の土器で、49は中期初頭の五領ヶ台式土器、50・51は勝坂式土器、52～54は加曾利E式土器である。55～65は後期の土器で、55～61は堀之内式土器、62～65は加曾利B式土器である。66～68は晩期の土器で、66・67は安行式土器、68は安行3c式土器である。

#### [土製品] (第137 図69、図版51-69、第43表)

69は深鉢形土器の胴部破片を転用した土器片錘である。

#### [石器] (第137 図70～75、図版52-1-70～75、第44表)

70～73は石鏃で、石質は70・71が黒曜石、72・73がチャートである。74はホルンフェルス製の打製石斧、75は花崗岩製の石皿である。

### (3) 弥生時代後期～古墳時代前期の土器 (第138 図76～78、図版52-2-76～78、第45表)

#### [土器] (第138 図76～78、図版52-2-76～78、第45表)

76・77は弥生時代後期～古墳時代前期の土器で、76は高環形土器、77は高環形土器を模したミニチュア土器である。78は古墳時代前期の土師器埴形土器である。

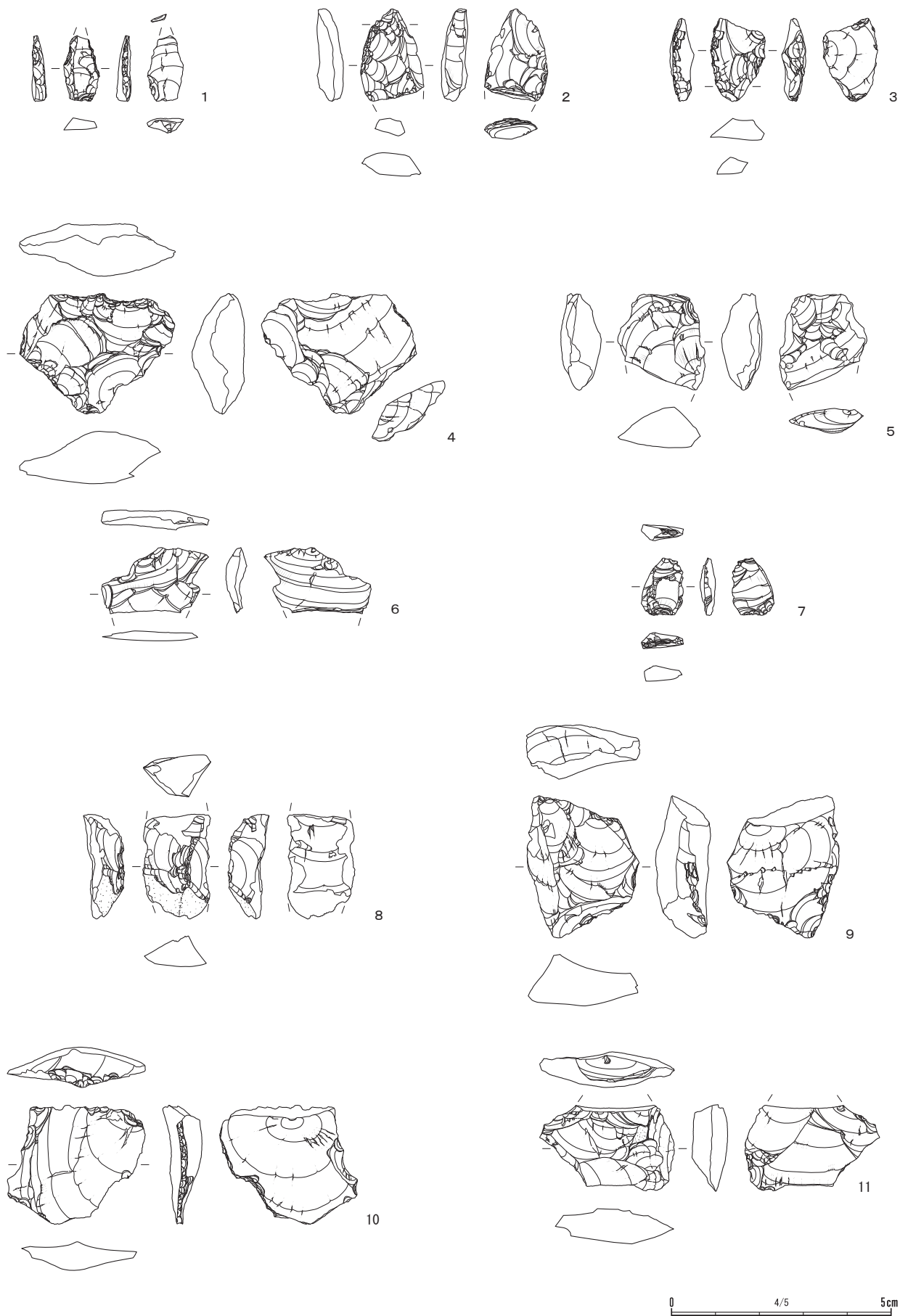
### (4) 中世以降の遺物 (第139 図80・81、図版52-3-79～81、第46・47表)

#### [陶磁器] (第139 図80、図版52-3-79・80、第46表)

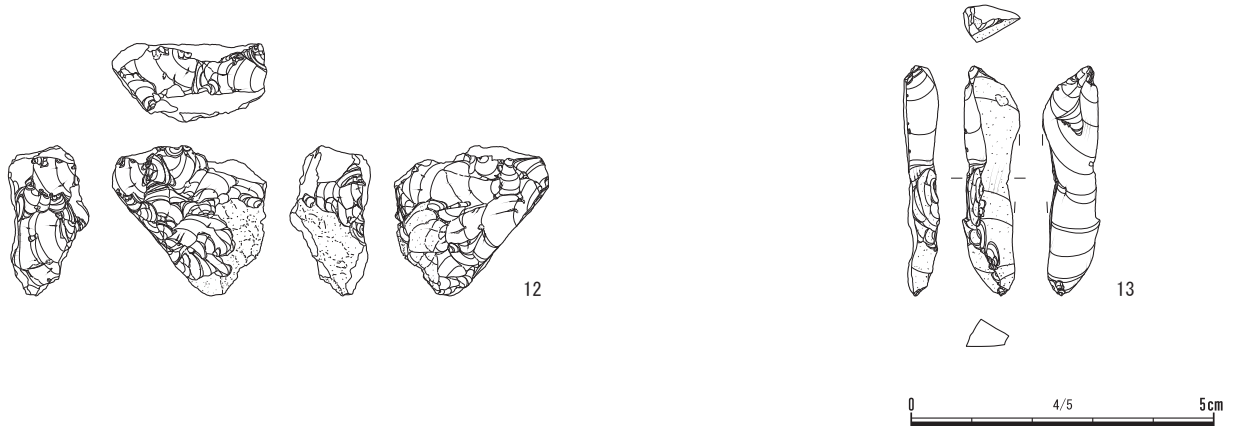
79は龍泉窯産と考えられる青磁碗である。80は陶器で、瀬戸・美濃系の擂鉢である。

#### [石製品] (第139 図81、図版52-3-81、第47表)

81は凝灰質砂岩製の砥石である。



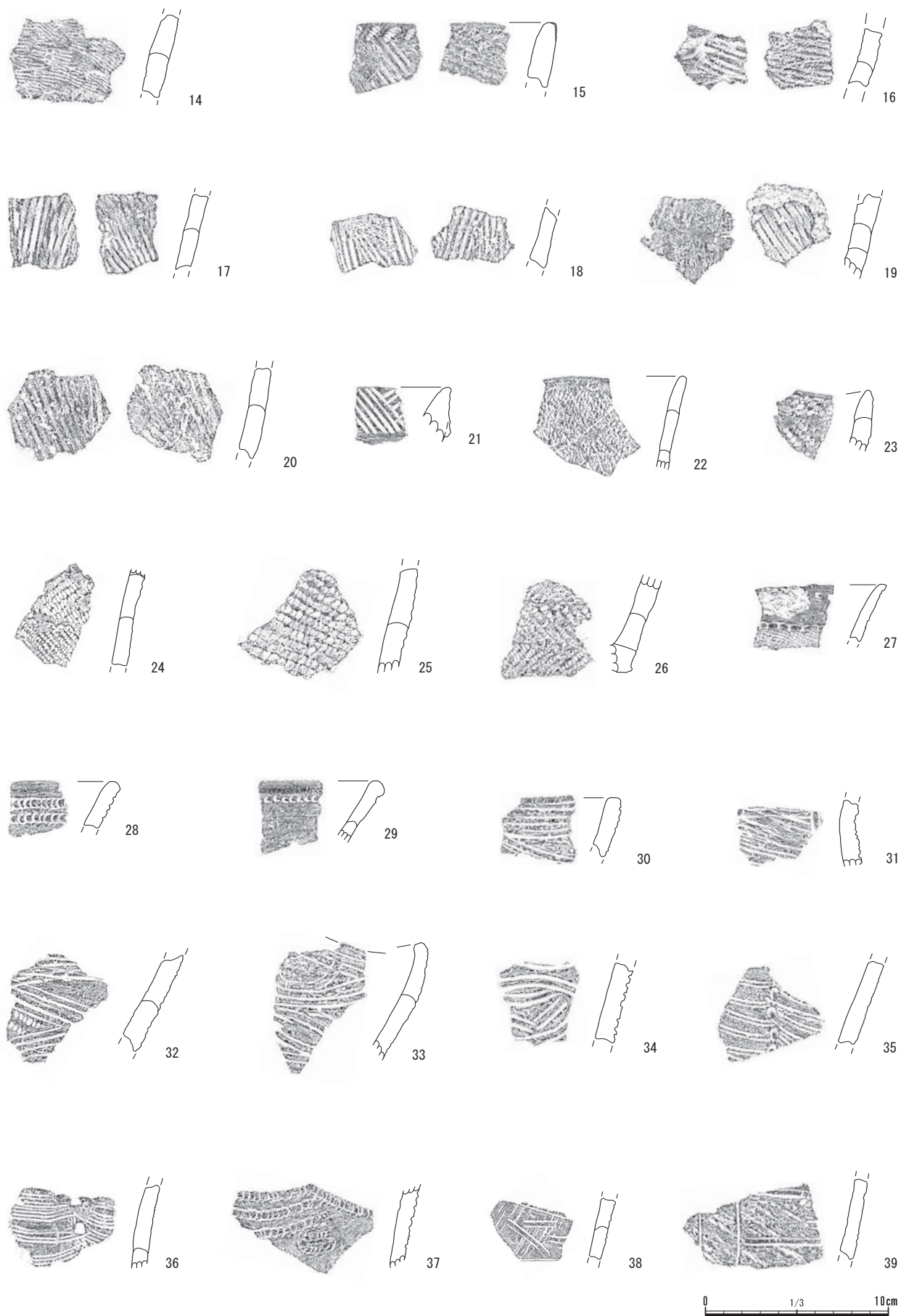
第133図 遺構外出土旧石器時代石器1 (4/5)



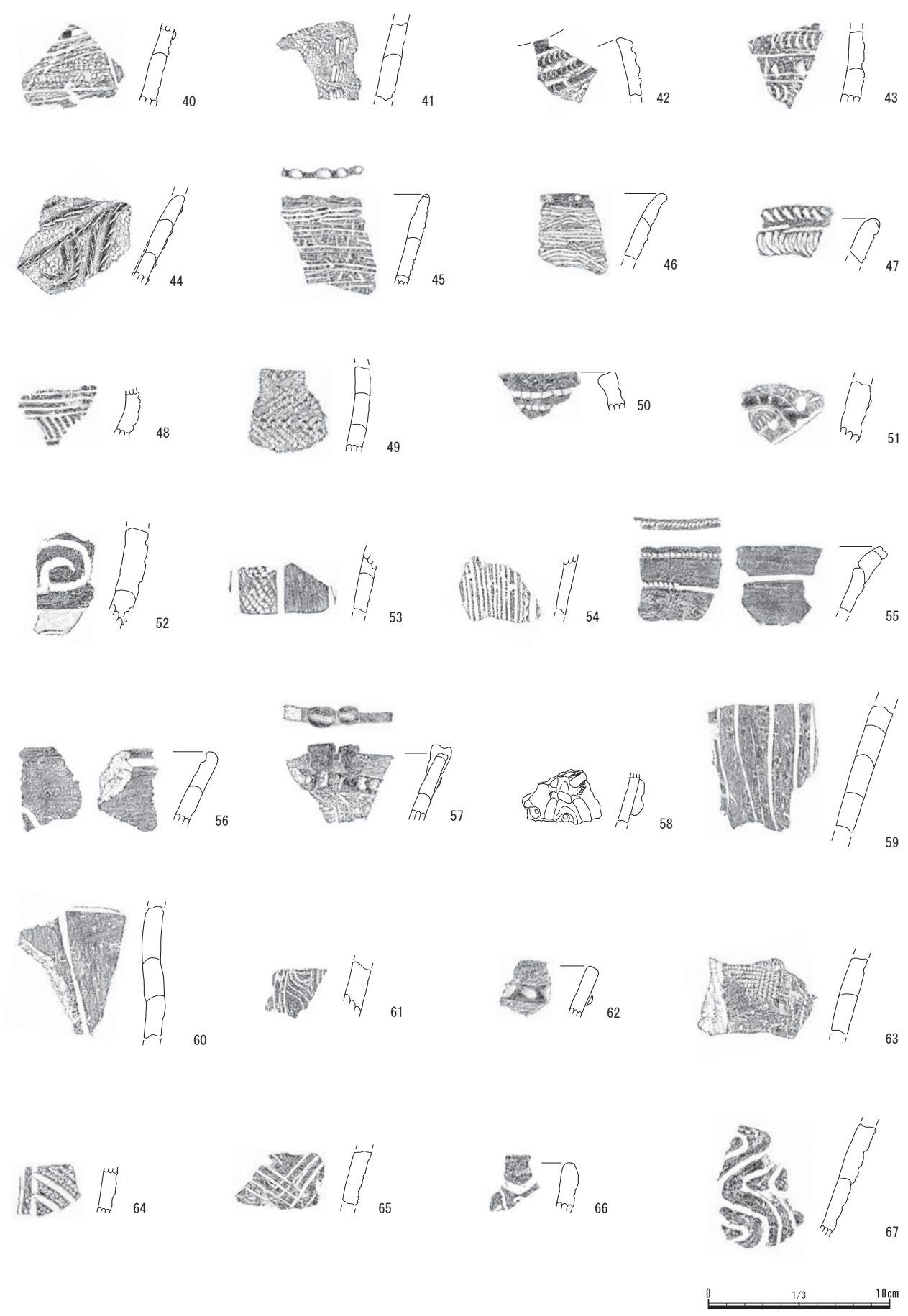
第134図 遺構外出土旧石器時代石器2（4／5）

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置 出土遺構
第133図1 図版50-1	ナイフ形石器	チャート	1.49	0.81	0.33	0.43	上下端部欠損／縦長剥片を素材とし、縦位に用いられる／二側縁加工／正面側の両側縁にプランテイング	T P 4
第133図2 図版50-2	尖頭器	黒曜石	2.10	1.44	0.59	3.40	有種尖頭器／下端部欠損／加工によって素材剥片の形状は不明だが、残存する素材主要剥離面から幅広剥片を横位に用いたと推測される／素材打面は左側縁側／両面平坦剥離加工／右側縁に槌状剥離／信州霧ヶ峰産	遺構外
第133図3 図版50-3	尖頭器	チャート	1.89	1.24	0.54	1.18	完形／幅広の剥片を素材とし、横位に用いられる／素材打面は右側縁側／正面側左側縁全縁に二次加工／両面右側縁に部分的な二次加工／正面側の二次加工は剥片剥離時の頭部調整の可能性もあり、ナイフ形石器として分類も可能	遺構外
第133図4 図版50-4	両面調整石器	チャート	2.74	3.53	1.19	9.81	完形／正面側に周縁を打点とした求心状の二次加工／両面右側縁に入れ子状の剥離	31 H 掘り方
第133図5 図版50-5	両面調整石器	黒曜石	2.18	1.99	0.91	1.68	末端部欠損／素材は両面ボジ面の剥片／正面右側縁に二次加工／神津島産	遺構外
第133図6 図版50-6	尖頭器調整剥片	黒曜石	1.50	2.43	0.47	1.09	末端部欠損／打面は単剥離面／背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離方向で構成／神津島産	T P 5
第133図7 図版50-7	両極剥片	黒曜石	1.30	0.95	0.34	0.40	完形／両面上下端から加撃され、剥離面が形成／神津島産	651 Y
第133図8 図版50-8	打面調整剥片	黒曜石	2.38	1.54	0.93	2.91	打面側欠損／背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交した剥離方向で構成／背面の中央の稜から左右方向に剥離／信州八ヶ岳産	643 Y
第133図9 図版50-9	二次加工のある剥片	チャート	3.24	2.55	1.25	10.01	完形／打面は単剥離面／背面構成は主要剥離軸方向に順行・逆行した剥離方向で構成／両面右側縁側に部分的な二次加工	T P 4
第133図10 図版50-10	二次加工のある剥片	チャート	2.71	3.13	0.89	5.96	完形／打面調整あり／背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交した剥離方向で構成／主要剥離面側の右側縁全縁に二次加工／主要剥離面側の左側縁に部分的な二次加工	640 Y 掘り方
第133図11 図版50-11	二次加工のある剥片	チャート	1.95	3.06	0.80	4.92	打面側欠損／背面構成は主要剥離軸方向に順行・逆行・直交した剥離方向で構成／主要剥離面側の右側縁に部分的な二次加工	653 Y
第134図12 図版50-12	石核	黒曜石	2.48	2.55	1.33	7.32	完形／剥片素材／頻繁に打面転位して剥離を行なったため、正面は周縁を打点として求心的に剥離面が形成／神津島産	遺構外
第134図13 図版50-13	縦長剥片	黒曜石	3.79	0.94	0.60	1.63	完形／打面は原礫面／背面構成は主要剥離軸方向に順行した剥離方向で構成／神津島産	653 Y

第41表 遺構外出土旧石器時代石器一覧

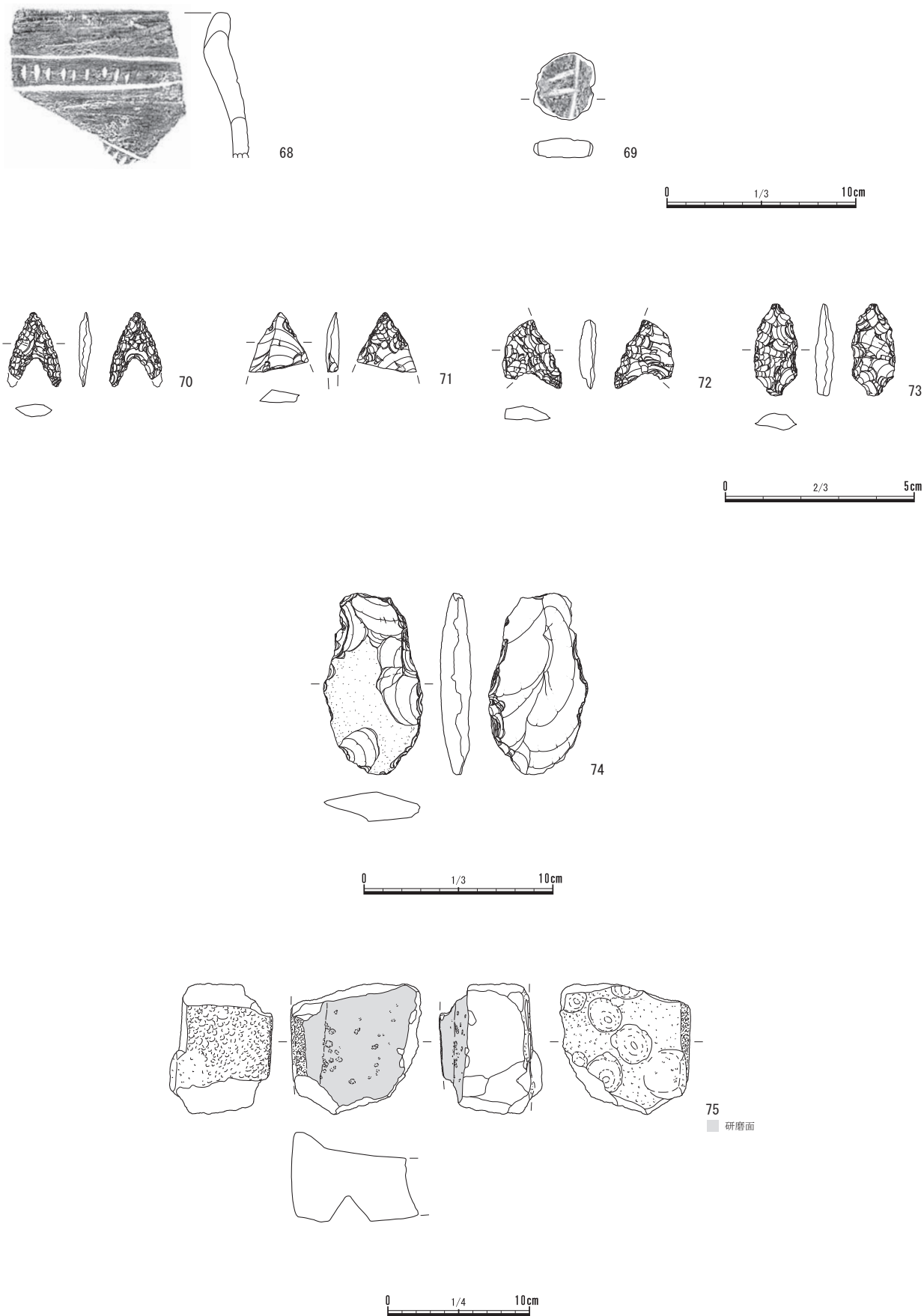


第 135 図 遺構外出土縄文時代遺物 1 (1 / 3)



第 136 図 遺構外出土縄文時代遺物 2 (1 / 3)





第137図 遺構外出土縄文時代遺物3 (1/3・2/3・1/4)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置 出土遺構
第135図 14 図版 51-14	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	外傾する	貝殻腹縁による条痕文	灰黄褐色／繊維中 量、砂粒少量	縄文早期後葉 条痕文系	12W
第135図 15 図版 51-15	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	口縁部は僅かに外傾 する	条痕文／口唇部に条痕文と同一工具 による刻目	にぶい黄褐色／繊 維・砂粒・小礫少 量	縄文早期後葉 条痕文系	652Y
第135図 16 図版 51-16	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	僅かに内湾する	条痕文	にぶい褐色／繊維 多量、砂粒少量、 石英微量	縄文早期後葉 条痕文系	遺構外
第135図 17 図版 51-17	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	外傾する	条痕文	灰黄褐色／繊維・ 砂粒少量	縄文早期後葉 条痕文系	644Y
第135図 18 図版 51-18	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	外傾する	条痕文	にぶい褐色／繊 維・石英・砂粒少 量	縄文早期後葉 条痕文系	654Y 掘り方
第135図 19 図版 51-19	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	外傾する	条痕文	灰黄褐色／繊維多 量、石英・砂粒少 量	縄文早期後葉 条痕文系	畝状遺構
第135図 20 図版 51-20	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに内湾する	条痕文	にぶい黄褐色／繊 維中量、石英・砂 粒・小礫少量	縄文早期後葉 条痕文系	遺構外
第135図 21 図版 51-21	深鉢	口縁部 破片	厚 1.4	口縁部は肥厚し、ほ ぼ直立する	鋸歯状文	にぶい黄褐色／繊 維中量、砂粒少量	縄文前期前葉 花積下層式	648Y
第135図 22 図版 51-22	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	口縁部は外傾する	単節 RL 縄文	にぶい黄褐色／砂 粒中量、繊維・小 礫少量	縄文前期前半 関山・黒浜式	649Y
第135図 23 図版 51-23	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	波状口縁／口縁部は ほぼ直立する	単節 RL 縄文	褐灰色／繊維・赤 色粒子・砂粒少量	縄文前期前半 関山・黒浜式	遺構外
第135図 24 図版 51-24	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	外傾する	羽状縄文 (LR・RL)	にぶい黄褐色／繊 維・砂粒・小礫少 量	縄文前期前半 関山・黒浜式	654Y 掘り方
第135図 25 図版 51-25	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	僅かに内湾する	単節 LR 縄文	にぶい黄褐色／繊 維中量、石英・砂 粒少量	縄文前期前半 関山・黒浜式	26P
第135図 26 図版 51-26	深鉢	底部 破片	[高 5.3] 厚 1.7	僅かに上げ底	羽状縄文 (LR・RL・LR)	にぶい黄褐色／繊 維中量、砂粒少量	縄文前期前半 関山・黒浜式	648Y
第135図 27 図版 51-27	深鉢	口縁部 破片	厚 0.6	口縁部は外傾する	半截竹管による爪形文／単節 RL 縄文	にぶい褐色／砂粒・ 小礫少量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	遺構外
第135図 28 図版 51-28	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部は外傾する	半截竹管による連続爪形文 2 条	にぶい黄褐色／砂 粒・小礫少量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	651Y
第135図 29 図版 51-29	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部は僅かに肥厚 し、外傾する	半截竹管による連続爪形文	にぶい赤褐色／金 雲母多量、石英中 量、砂粒微量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	644Y
第135図 30 図版 51-30	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部は僅かに内湾 する	横位・斜位の平行沈線文	にぶい褐色／雲母・ 石英・砂粒中量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	遺構外
第135図 31 図版 51-31	深鉢	頸部 破片	厚 1.0	頸部は僅かに屈曲 し、外傾しながら立 ち上がる	半截竹管による平行沈線文	にぶい褐色／砂粒 中量、石英少量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	653Y
第135図 32 図版 51-32	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	外傾する	平行沈線による米字状文	にぶい褐色／砂粒 中量、白色針状物 質・石英少量、雲 母微量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	653Y
第135図 33 図版 51-33	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	波状口縁／口縁部は 内湾する	地文に縄文／竹管状工具による渦巻 状・斜位・横位沈線文	灰黄褐色／雲母・ 砂粒・小礫少量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	遺構外
第135図 34 図版 51-34	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外傾する	地文に縄文／平行沈線による入組木葉 文	にぶい褐色／雲母 中量、石英・砂粒 少量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	648Y
第135図 35 図版 51-35	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外傾する	円形刺突と平行沈線による肋骨文	にぶい黄褐色／石 英・砂粒・小礫中 量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	遺構外
第135図 36 図版 51-36	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	僅かに外反する	地文に縄文／円形刺突と平行沈線に よる肋骨文	灰黄褐色／雲母・ 石英・砂粒・小礫 少量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	遺構外

第 42 表 遺構外出土縄文土器一覧 (1)



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置 出土遺構
第135図 37 図版 51-37	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	外傾する	爪形文による弧線文	にぶい黄褐色／砂粒中量、雲母・小礫少量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	651Y
第135図 38 図版 51-38	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	外傾する	半截竹管による平行沈線文	にぶい黄褐色／雲母・石英・砂粒少量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	遺構外
第135図 39 図版 51-39	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに内湾する	地文に縄文 RL／半截竹管による平行沈線文	にぶい黄褐色／雲母・石英中量、砂粒少量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	651Y
第136図 40 図版 51-40	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	外傾する	地文に縄文 RL／半截竹管による平行沈線文／浮線文	にぶい褐色／砂粒・小礫少量、雲母微量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	653Y
第136図 41 図版 51-41	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外傾する	地文に縄文 RL／櫛歯状工具による刺突	にぶい黄褐色／雲母中量、石英・砂粒少量	縄文前期後葉 諸磯 a 式か	畝状遺構
第136図 42 図版 51-42	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	波状口縁／口縁部は内湾する	地文に縄文 LR／連続爪形文／平行沈線文／	褐色／雲母中量、砂粒少量	縄文前期後葉 諸磯 b 式	遺構外
第136図 43 図版 51-43	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	僅かに内湾する	連続爪形文／平行沈線文	にぶい黄褐色／砂粒少量、石英微量	縄文前期後葉 諸磯 b 式	11P
第136図 44 図版 51-44	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	外傾する	地文に縄文 LR／矢羽状の刻目を有する浮線文	にぶい褐色／砂粒・小礫少量	縄文前期後葉 諸磯 b 式	畝状遺構
第136図 45 図版 51-45	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	口縁部は外傾する	地文に貝殻腹縁による条痕文／口唇部に指頭による押捺／竹管状工具による平行沈線文	灰黄褐色／砂粒中量、石英少量	縄文前期後葉 浮島式	遺構外
第136図 46 図版 51-46	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部は外反する	櫛歯状工具による直線・波状文	にぶい褐色／石英・砂粒・小礫少量	縄文前期後葉 浮島式	653Y
第136図 47 図版 51-47	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	口縁部は外傾する	口唇部に棒状工具による刻み／連続爪形文／平行沈線文	灰黄褐色／砂粒中量、石英微量	縄文前期後葉 浮島式	遺構外
第136図 48 図版 51-48	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	内湾する	横位・鋸歯状の沈線文	にぶい褐色／石英・砂粒中量、金雲母・雲母少量	縄文前期末葉 十三菩提式	642Y
第136図 49 図版 51-49	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	内湾する	羽状縄文 (LR・RL・LR)	灰褐色／金雲母・雲母・石英・砂粒中量	縄文中期初頭 五領ヶ台式	641Y
第136図 50 図版 51-50	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.0	口縁部は内傾する	キャタピラー文	にぶい褐色／金雲母多量、砂粒中量、石英少量	縄文中期中葉 勝坂式	18P
第136図 51 図版 51-51	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	外傾する	隆帯貼付／円形刺突	灰褐色／砂粒中量、石英微量	縄文中期中葉 勝坂式	遺構外
第136図 52 図版 51-52	浅鉢	胴部 破片	厚 1.3	僅かに内湾する	棒状工具による渦巻文	橙色／砂粒中量、石英少量	縄文中期後葉 加曾利 E 式	654Y 掘り方
第136図 53 図版 51-53	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	外傾する	沈線区画内に無節縄文 RL 充填	にぶい黄褐色／雲母・砂粒少量	縄文中期後葉 加曾利 E III 式	653Y
第136図 54 図版 51-54	深鉢	胴部 破片	厚 0.6	外傾する	条線文	褐色／土器破片多量、砂粒少量	縄文中期後葉 加曾利 E IV 式	畝状遺構
第136図 55 図版 51-55	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部は外反する／口縁部内面に太い沈線が巡る	棒状工具による細かい刻み・押し引き	灰黄褐色／石英・砂粒少量	縄文後期前葉 堀之内式	遺構外
第136図 56 図版 51-56	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部は外傾する／口縁部内面に太い沈線が巡る	棒状工具による弧状沈線文	にぶい褐色／砂粒中量、雲母・石英少量	縄文後期前葉 堀之内式	遺構外
第136図 57 図版 51-57	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	口縁部は肥厚し、外傾する	口唇部把手貼付 (1 単位 2 個)／隆帯貼付／隆帯押捺	にぶい褐色／雲母・石英中量、砂粒少量	縄文後期前葉 堀之内式	遺構外
第136図 58 図版 51-58	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	僅かに内湾する	隆帯貼付／円形刺突	にぶい黄褐色／砂粒少量	縄文後期前葉 堀之内式	遺構外
第136図 59 図版 51-59	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	外傾する	複数沈線による懸垂文	にぶい黄褐色／砂粒中量、石英微量	縄文後期前葉 堀之内式	654Y 掘り方
第136図 60 図版 51-60	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	直立気味に立ち上がる	複数沈線による懸垂文	にぶい黄褐色／砂粒少量、石英微量	縄文後期前葉 堀之内式	57P

第 42 表 遺構外出土縄文土器一覧 (2)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置 出土遺構
第136図 61 図版 51-61	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	外傾する	波状条線文	にぶい褐色／砂粒 中量、小礫少量、 石英微量	縄文後期前葉 堀之内式	遺構外
第136図 62 図版 51-62	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	口縁部は外傾する	紐線文／指頭押捺	橙色／砂粒中量、 石英少量	縄文後期中葉 加曾利 B 式	遺構外
第136図 63 図版 51-63	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外傾する	単節縄文 RL	にぶい黄褐色／砂 粒中量、小礫少量	縄文後期中葉 加曾利 B 式	653 Y
第136図 64 図版 51-64	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに外傾する	地文に縄文 LR／棒状工具による斜位 沈線文	赤褐色／石英・砂 粒・小礫少量	縄文後期中葉 加曾利 B 式	653 Y
第136図 65 図版 51-65	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	外傾する	斜交沈線文	にぶい褐色／雲母・ 石英・砂粒少量	縄文後期中葉 加曾利 B 式	遺構外
第136図 66 図版 51-66	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	口縁部はほぼ直立す る	沈線による意匠文	にぶい黄褐色／砂 粒少量	縄文晩期中葉 安行式	遺構外
第136図 67 図版 51-67	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外傾する	沈線による意匠文	にぶい黄褐色／砂 粒中量、雲母少量	縄文晩期中葉 安行式	648 Y
第137図 68 図版 51-68	深鉢	口縁部 破片	厚 1.4	口縁部は僅かに外傾 する	横位沈線文／列点文	にぶい黄褐色／雲 母・石英・砂粒少 量	縄文晩期中葉 安行 3c 式	648 Y

第 42 表 遺構外出土縄文土器一覧 (3)

挿図番号 図版番号	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第137図 69 図版 51-69	土器片鉢	3.5	3.3	1.0	12.3	深鉢形土器の胴部破片を転用／後期前葉 堀之内式	遺構外

第 43 表 遺構外出土縄文時代土製品一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置 出土遺構
第137図 70 図版 52-1-70	石鏃	黒曜石	1.97	1.38	0.33	0.29	凹基無茎／左脚部欠損／両面平坦剥離／信州霧ヶ峰産	651 Y
第137図 71 図版 52-1-71	石鏃	黒曜石	1.58	1.56	0.35	1.47	基部欠損／素材剥片の背面・主要剥離面を多く残す／裏面 先端部両側縁に平坦剥離／神津島産	遺構外
第137図 72 図版 52-1-72	石鏃	チャート	1.81	1.57	0.45	1.06	凹基無茎／左側（先端部～脚部）欠損／両面平坦剥離	31 H
第137図 73 図版 52-1-73	石鏃	チャート	2.43	1.15	0.50	1.39	有茎／茎部欠損／両面平坦剥離	26 P
第137図 74 図版 52-1-74	打製石斧	ホルンフェルス	9.62	5.26	1.62	82.09	完形／背面に原礫面を多く残す幅広の剥片を素材とし、横位 に用いる／周縁を両面から部分的に加工し、刃部が弧状で下 膨れした形に成形	35 P
第137図 75 図版 52-1-75	石皿	花崗岩	9.27	9.24	7.28	601.0	欠損品／磨面を有する／磨面は縁をもつ箱形に成形／左面・ 裏面は敲打によって立方体状に成形／裏面に脚部あり／裏面 に蜂の巣状の凹みが4か所以上残る	653 Y

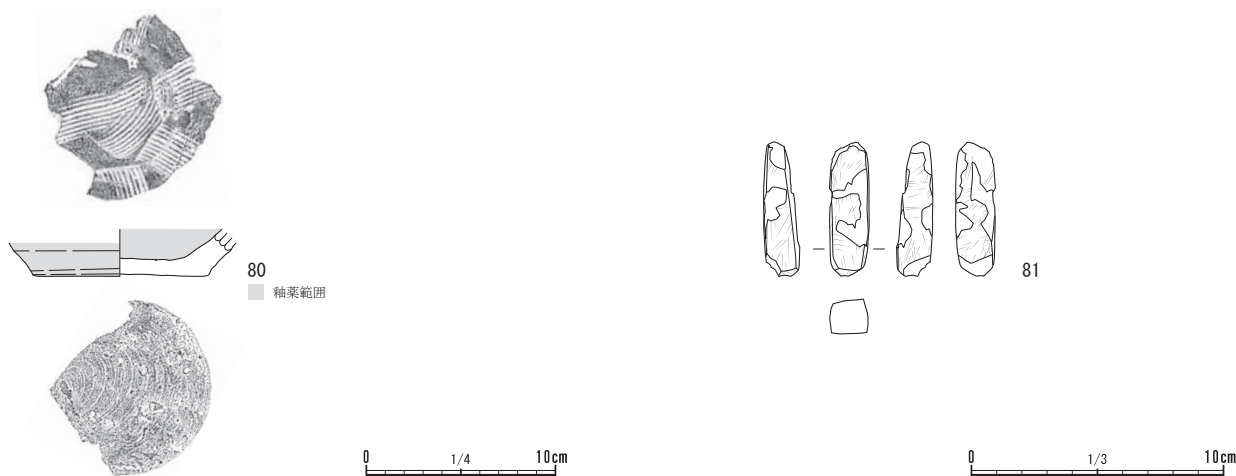
第 44 表 遺構外出土縄文時代石器一覧



第138図 遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期の土器（1/4）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置 出土遺構
第138図76 図版52-2-76	高環	脚部 20%	高[4.0]	脚部は八の字状に大きく外方に開く	内面：横方向のハケ目調整／外面：縦方向のヘラ磨き／脚部3方に円形の透孔（孔径1.0cm）／外面赤彩	にぶい橙色／砂粒少量、雲母微量	弥生後期～古墳前期	畝状遺構
第138図77 図版52-2-77	ミニチュア土器	脚部 20%	高[2.1] 底(3.8)	高環形／脚部は八の字状に外方に開く	内外面：手づくね成形／内外面赤彩	にぶい橙色／石英・砂粒少量	弥生後期～古墳前期	畝状遺構
第138図78 図版52-2-78	土師器 罌	底部 40%	高[1.5] 底(2.8)	胴部は丸みをもって立ち上がる／底部は上げ底である	内面：横方向のヘラナデ後ナデ／外面：胴部下端は横方向のヘラ磨き、底部は縦方向のヘラ磨き	橙色／砂粒少量	古墳前期	遺構外

第45表 遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期の土器一覧



第139図 遺構外出土中世以降の遺物（1/4・1/3）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置 出土遺構
図版52-3-79	青磁碗	胴部 破片	厚0.6	—	中碗／内外面：青磁釉、外面に鑄蓮弁文／中国浙江省龍泉窯	灰色／緻密	中世 15世紀代	遺構外
第139図80 図版52-3-80	陶器 挿鉢	底部 破片	高[2.5] 底9.3	見込み、体部下に櫛目	内面：櫛目歯数9本／1.2mm～2.0mm／内外面：鉄釉／底部右回転糸切底／瀬戸・美濃系	褐色／砂粒中量	近世 1670～1720年代	遺構外

第46表 遺構外出土中世以降の陶磁器一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置 出土遺構
第139図81 図版52-3-81	砥石	凝灰質砂岩	5.3	1.5	1.4	16.4	上・下端欠損／平面形は長方形、断面形は方形／小型で砥面4面の中砥	遺構外

第47表 遺構外出土中世以降の石製品一覧

## 第4章 調査のまとめ

### 第1節 旧石器時代

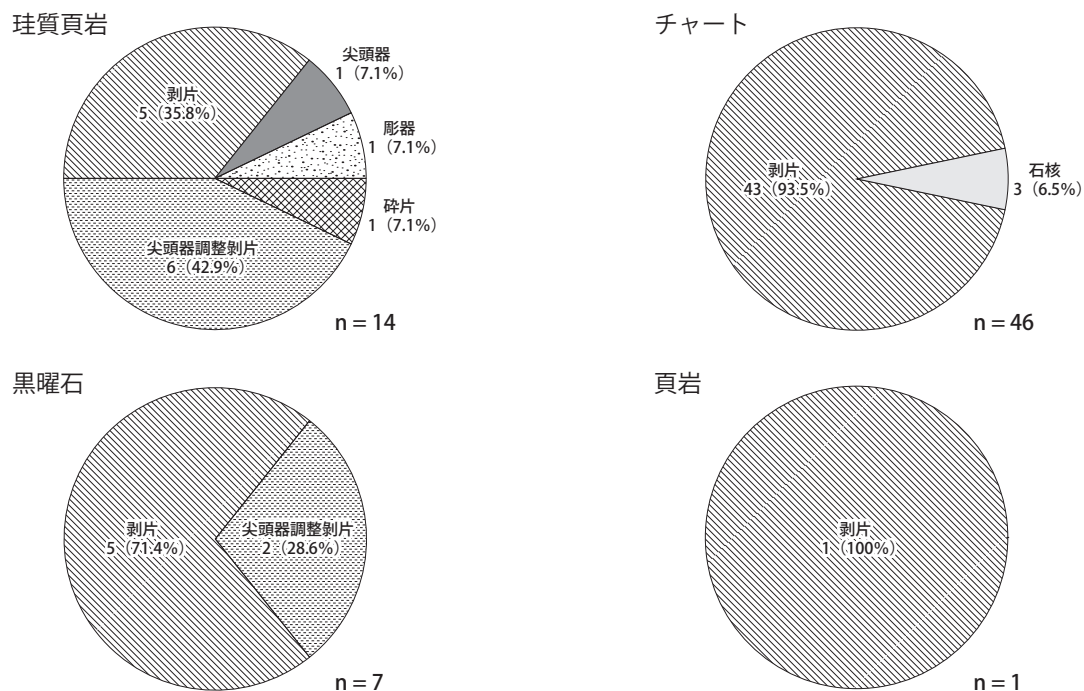
旧石器時代の遺構として、石器集中地点3か所（20～22号石器集中地点）、礫群3か所（5～7号礫群）が検出された（第10図）。ここでは石器集中地点ごとの石器分布・製作状況等の様相を取りまとめるとともに、礫群に関しては、本遺跡他地点及び市内他遺跡での検出事例との比較検討を行ってみたい。

#### （1）各石器集中地点の様相

##### ① 20号石器集中地点（第11～25図）

立川ローム第IV層上～中部を主体に、立川ローム第III層下部から第V層下部にかけて計68点の石器が出土した。器種別の内訳は、尖頭器1点、彫器1点、石核3点、尖頭器調整剥片8点、剥片54点、碎片1点で、石質別では、チャート46点、珪質頁岩14点、黒曜石7点、頁岩1点となる。また、石質別の器種組成は下記のとおりである（第140図）。

珪質頁岩製の石器は、尖頭器1点、彫器1点、尖頭器調整剥片6点、剥片5点、碎片1点である。ツールは珪質頁岩を素材とするものにほぼ限定され、本石器集中地点では珪質頁岩がメインの石器石材であったと考えられる。石核が出土しておらず、尖頭器調整剥片が6点と比較的多く出土していることから、第13図1の尖頭器以外にも別の珪質頁岩製の尖頭器ないしはブランクが本地点に持ち込まれたと推測される。また、尖頭器の器面調整を行った後、本地点に遺棄された第13図1以外の尖頭器は本地点外に持ち出されたと考えられる。



第140図 20号石器集中地点 石質別器種組成

チャート製の石器は、石核3点、剥片43点で、石核3点の内2点（第18・19図23・24）は拳大を上回る大型品である。接合関係が多く認められ、その多くは同一母岩である可能性が考えられる。接合資料の分布は比較的広範囲に広がり、東西方向4.61m、南北方向4.35mを測る。接合資料の大半が原礫面及び節理面を多く残すことから、チャート製の石器に関しては、ほぼ原礫の状態で本地点に持ち込まれ、分割された後、礫面除去作業や剥片剥離等を行い、不要な部分を遺棄・廃棄したものと推測される。また、ツールが1点も出土していないことから、剥離後の良質な剥片の多くは本地点外に持ち出されたと考えられる。

黒曜石製の石器は、尖頭器調整剥片2点、剥片5点である。垂直分布に関しては同様の傾向を示すものの、珪質頁岩・チャート製の石器が中央部一帯に広く分布するのに対し、黒曜石製の石器は西端部に集中する点が着目される。チップや小剥片の出土は確認できなかったが、分布にまとまりがみられることから、本地点で剥片剥離が行われた可能性が考えられる。また、尖頭器調整剥片が2点出土していることから、黒曜石製尖頭器の調整を行い、遺棄された調整剥片以外の石器（尖頭器本体及びブランク）については本地点外に持ち出された可能性が考えられる。

なお、黒曜石製の石器に関しては、産地同定を行った（付編2参照）。全7点を分析し、信州霧ヶ峰6点（85.7%）、神津島1点（14.3%）という結果が得られた。

20号石器集中地点と同様に尖頭器を組成に含む石器集中地点として、区画整理第11地点で検出された4号石器集中地点が挙げられる。尖頭器1点の他、ナイフ形石器3点、石錐1点、剥片8点、碎片49点、礫4点が出土している（第141図）。尖頭器（4）は黒曜石製で、使用石材は本石器集中地点と異なるが、出土層位は立川ローム第IV層上部であり、同一層準となる。なお、礫群としては報告されていないものの、出土礫4点にはいずれも被熱による赤化がみられる。

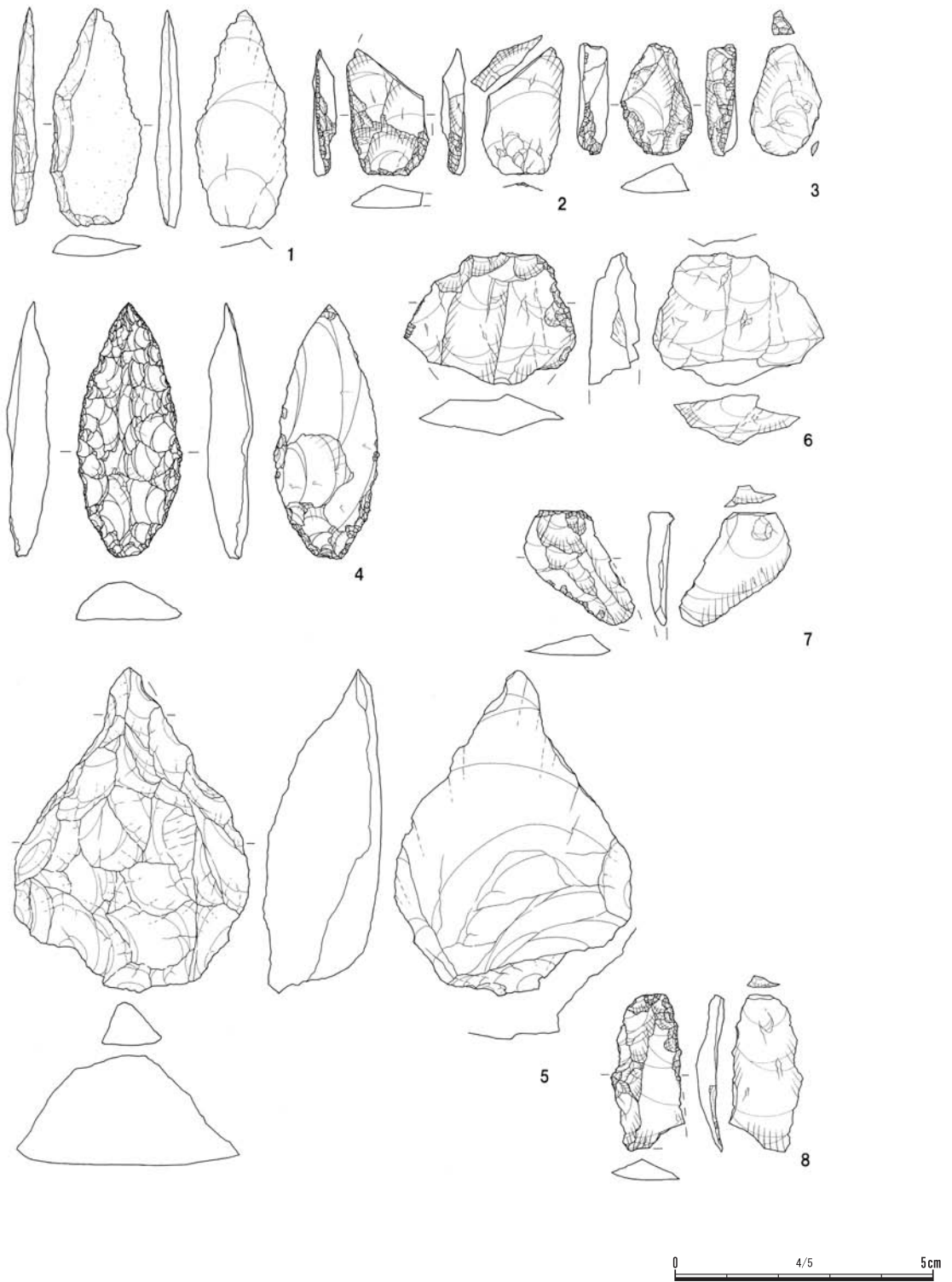
その他、東京都西多摩郡瑞穂町に所在する松原遺跡（瑞穂町教育委員会ほか編 2011）では、第13図1に類似する珪質頁岩製の尖頭器を伴う石器集中部（ブロック1・2）が検出されており（第142図）、ブロック1・2に共伴する炭化材に対して加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定が行われている。ブロック1と分布範囲が重複する炭化材集中Bでは、 $18,550 \pm 60^{14} \text{C BP}$ 、 $18,720 \pm 50^{14} \text{C BP}$ 、ブロック2の北側に隣接する炭化材集中Aでは、 $17,190 \pm 50^{14} \text{C BP}$ 、 $16,640 \pm 45^{14} \text{C BP}$ という測定結果が得られており、20号石器集中地点に伴う5号礫群に与えられた  $16,985 \pm 50^{14} \text{C BP}$  という  $^{14} \text{C}$  年代に近似し、本遺跡との関連性が大いに着目される。

## ② 21号石器集中地点（第26～31図）

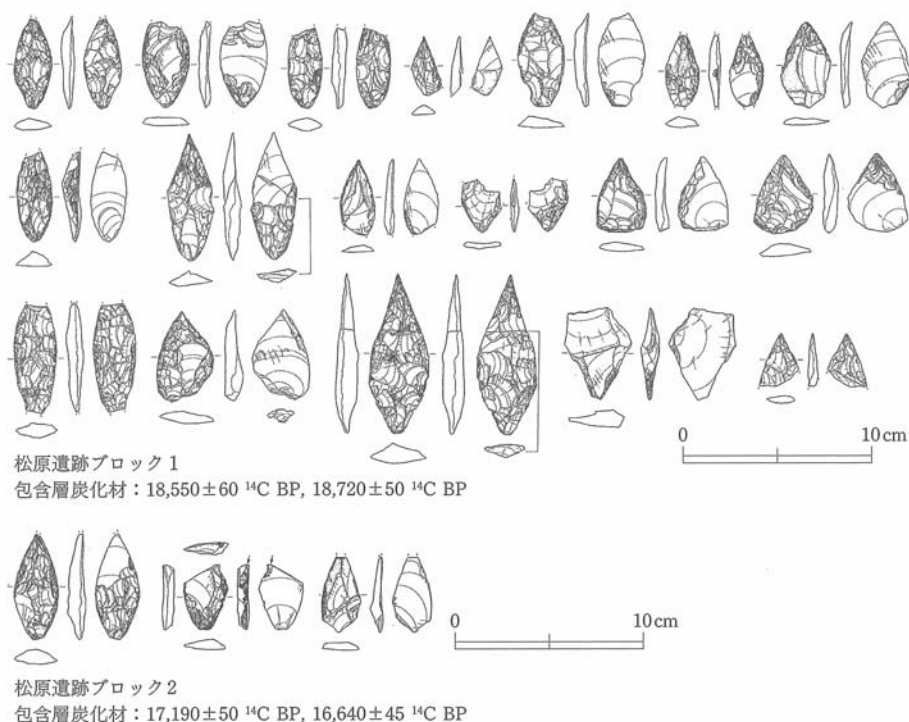
立川ローム第IX層上部を主体に、立川ローム第V層下部から第IX層下部にかけて計113点の石器が出土した。器種別の内訳は、ナイフ形石器1点、石錐2点、削器1点、二次加工のある剥片9点、石核1点、剥片91点、碎片8点で、石質は全てチャートである。

石器分布範囲の全域に及ぶ広範囲で計6例の接合関係が認められ、垂直分布の上下幅もやや大きい。微細な剥片が多く出土し、石核や二次加工のある剥片と接合されることから、本地点で剥片剥離等が行われたと推測される。また、ナイフ形石器（第28図1）に関しては先端部が欠落した状態で出土しており、先端部は本地点外に持ち出され、再利用された可能性が考えられる。





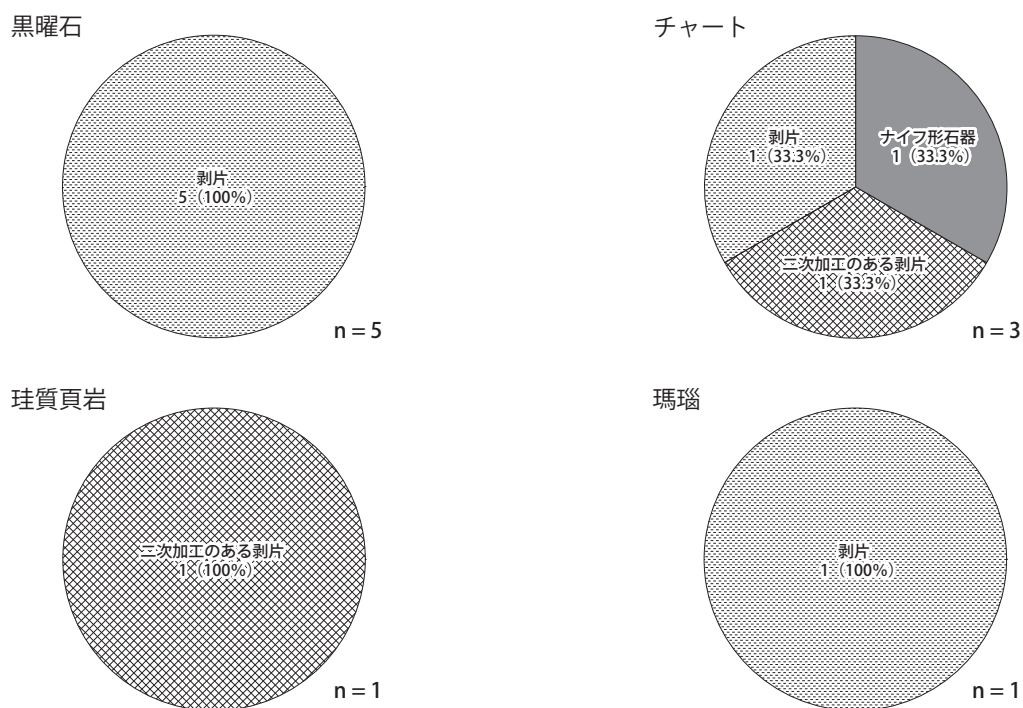
第141図 4号石器集中地点出土遺物（4／5）（佐々木ほか 2009を改変）



第 142 図 松原遺跡出土遺物（1 / 4）（工藤 2012 より転載）

③ 22 号石器集中地点（第 32 ～ 34 図）

Ⅱ層下部～立川ローム第Ⅲ層上部にまとまりをみせ、計 10 点の石器が出土した。器種別の内訳は、ナイフ形石器 1 点、二次加工のある剥片 2 点、剥片 7 点で、石質別では黒曜石 5 点、チャート 3 点、珪質頁岩 1 点、瑪瑙 1 点となる。また、石質別の器種組成は下記のとおりである（第 143 図）。



第 143 図 22 号石器集中地点 石質別器種組成



黒曜石製の石器は剥片5点である。20号石器集中地点と同様に産地同定を行った。全5点を分析し、神津島2点(40.0%)、信州霧ヶ峰1点(20.0%)、天城柏峠1点(20.0%)、産地不明1点(20.0%)という結果が得られた。複数の産地で採取された黒曜石を使用している点が着目される。

本遺構は規模が小さく、石器製作活動についての検証材料が少ないが、ナイフ形石器(第34図1)に関しては基部のみが出土していることから、刃部ほか主要部分は本地点外に持ち出され、再利用された可能性が考えられる。

#### ④遺構外出土石器(第133・134図)

遺構外から出土した黒曜石製の石器に関しても産地同定を行った。対象とした石器は計21点で、神津島12点(57.1%)、信州霧ヶ峰6点(28.6%)、信州八ヶ岳2点(9.5%)、天城柏峠1点(4.8%)という結果が得られた。ツール及びツールに関わる調整剥片については、有樋尖頭器(第133図2)が信州霧ヶ峰産、尖頭器調整剥片(第133図6)が神津島産という状況である。出土層位不詳の資料が大半を占め、縄文時代に下る資料が数点含まれる可能性があるが、尖頭器調整剥片をはじめとする神津島産黒曜石を使用した石器が確認された事は、石器の搬出入を考える上で、貴重なデータとなろう。

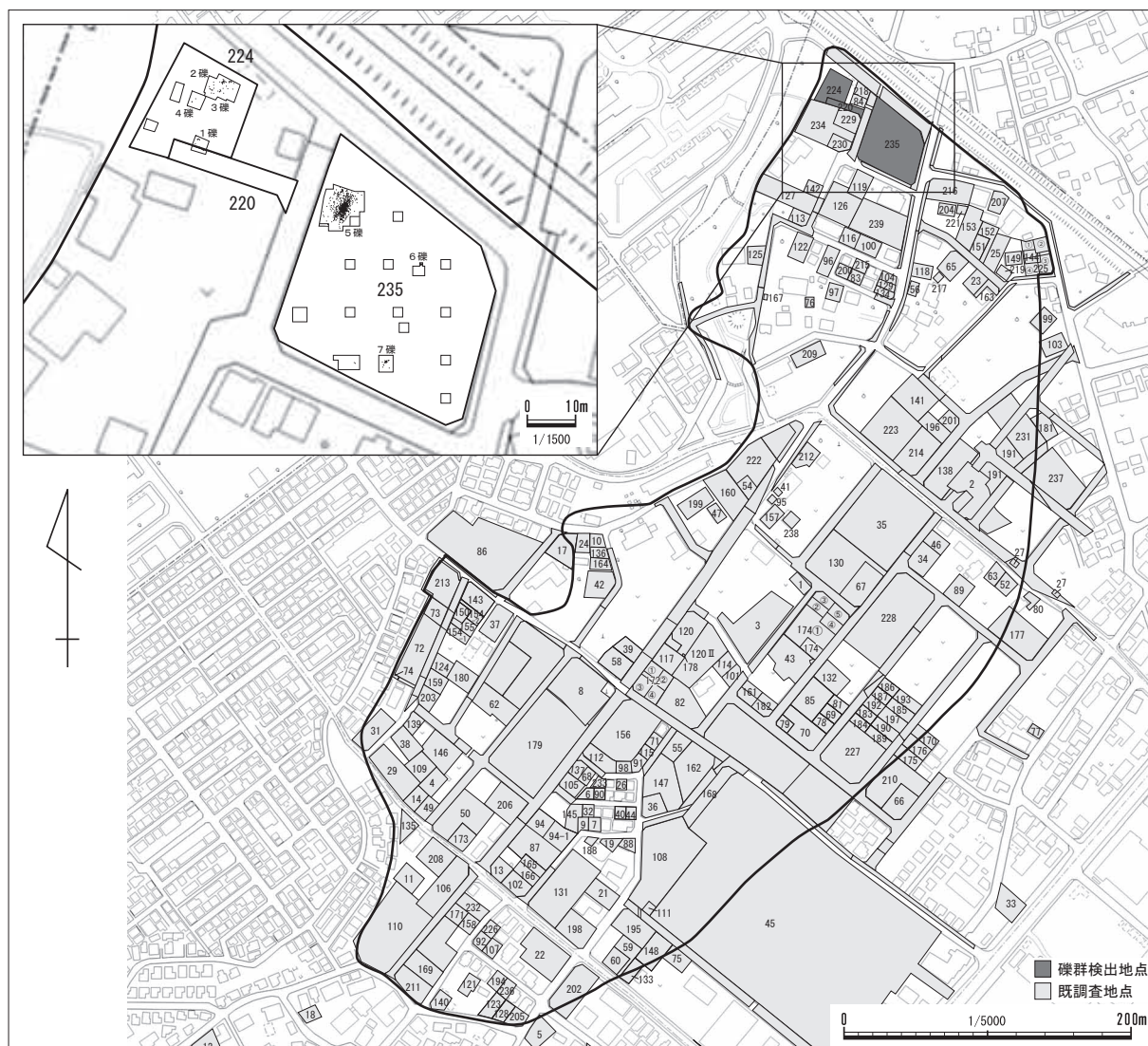
## (2) 本遺跡における礫群の様相

本遺跡では、本地点の他に第220・224地点で旧石器時代の礫群が計7か所(令和5年1月18日時点)確認されている(第144図)。いずれも本遺跡の北端部に位置し、地勢的には武蔵野台地北東端部に形成されたとく緩やかな斜面地に所在する。

第48表に本遺跡で検出された礫群の一覧を示した。層位的にみると3時期の文化層が確認され、6・7号礫群が第1文化層(Ⅱ層下部～立川ローム第Ⅲ層)、1・2・5号礫群が第2文化層(立川ローム第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部)、3・4号礫群が第3文化層(立川ローム第Ⅵ層下部～第Ⅶ層)に相当する。上記のとおり、現時点では各礫群の検出層位に差異があるため、同一尺度での比較検討は難しい状況であるが、本遺跡における旧石器時代の礫群の使用状況を考察すべく、各礫群の様相について概観してみたい。

1～7号礫群の特徴の1点目として、使用石材は砂岩を主体とし、次いでチャート・ホルンフェルス等、本遺跡の近隣で比較的採取が容易であったと推測される石材に限られる点が挙げられる。近隣でこれらの石材が採取可能な場所としては、柳瀬川の河床が想定されよう。2点目は、3～898点(接合後は661点)と点数は大小様々であるが、いずれも礫の完形率が低い点である。1・4・7号礫群は全て破碎礫で、最も礫の完形率が高い6号礫群でも18.2%という算出結果であった。3点目は5号礫群を除き、礫の接合関係がほとんど認められず、接合資料が少ない点である。礫の完形率が低い点と相関関係にあるものと推測され、接合を経て完形礫になるものは各礫群で1点も認められなかった。

礫の完形率が低い点、並びに接合資料が少ない点から、本遺跡では欠損礫を二次使用していた可能性が考えられる。また、礫の点数が他の礫群に比して3～12点と少なく、全て破碎礫で構成される1・4号礫群については、移動時に再使用可能な礫を抜き取り、使用不可となった礫のみを遺棄した結果、相対的に礫点数が減少した可能性も想定される。ただし、6号礫群については礫の点数が11点と少数ではあるものの、内2点は完形礫であり、1・4号礫群とは異なる使用状況を示している。



第 144 図 西原大塚遺跡検出礫群分布図（1 / 5,000・1 / 1,500）

### ①城山遺跡検出礫群との比較検討

次に本遺跡と同じく柳瀬川下流域の武蔵野台地北東端部に所在し、本遺跡の北東方向約 500 m に位置する城山遺跡で検出された礫群との比較検討を行いたい。

城山遺跡ではこれまでに礫群 11 か所（1～11 号礫群）が検出されている（第 49 表）。城山遺跡 1～9 号礫群は本遺跡で検出された礫群とは異なる層位で検出されたため、直接的な検証は難しいが、城山遺跡 10 号礫群は、1・2・5 号礫群と同一文化層（立川ローム第 IV 層下部～第 V 層上部）、城山遺跡 11 号礫群は、3・4 号礫群と同一文化層（立川ローム第 VI 層下部～第 VII 層）に比定される。

城山遺跡 1～11 号礫群の使用礫は砂岩を主体とし、次いでチャート・ホルンフェルスと続き、本遺跡と同様に近隣での採取が可能であった 3 種の石材に限定される。礫の完形率は本遺跡に反して高く、中でも城山遺跡 3・4 号礫群は完形率 40.7～42.2%、城山遺跡 6 号礫群は完形率 59.1% と高い数値を示し、城山遺跡 1～11 号礫群の礫の完形率の平均値は、30.9% という算出結果が得られた。接合関係も多く認められ、接合を経て完形礫となるものが多いのが特徴的である。

遺構番号	規模	検出層位	文化層	標高(m)	重複遺構	石材	備考	礫の完形率	検出地点
1 礫	東西 2.80 m 南北 2.40 m	立川ローム第Ⅳ層下部 ～第Ⅴ層上部	②	13.10 ～ 13.24	16 号石器集中地点 (平面分布)	砂岩	礫点数 12 点、 全て破碎礫。 接合関係 1 例。	0.0%	第 220 地点 第 224 地点
2 礫	東西 1.36 m 南北 1.34 m	立川ローム第Ⅳ層下部 ～第Ⅴ層下部	②	12.89 ～ 13.14	17 号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩	礫点数 21 点、 内 1 点完形礫。 接合関係 0。	4.8%	第 224 地点
3 礫	東西 5.20 m 南北 2.60 m	立川ローム第Ⅵ層下部 ～第Ⅶ層下部	③	12.66 ～ 12.80	18 号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート 頁岩 ホルンフェルス	礫点数 33 点、 内 4 点完形礫。 接合関係 3 例。	12.1%	第 224 地点
4 礫	東西 0.44 m 南北 1.04 m	立川ローム第Ⅶ層	③	12.77	なし	砂岩	礫点数 3 点、 全て破碎礫。 接合関係 1 例。	0.0%	第 224 地点
5 礫	東西 8.06 m 南北 8.58 m	立川ローム第Ⅳ層下部 ～第Ⅴ層上部 (集中域)	②	13.15 ～ 14.12	20 号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート 泥岩 礫岩 ホルンフェルス	礫点数 898 点、 内 6 点完形礫。 接合関係 127 例。	0.7%	第 235 地点
6 礫	東西 0.21 m 南北 0.31 m	Ⅱ層下部～ 立川ローム第Ⅲ層上部	①	14.62 ～ 14.73	22 号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩	礫点数 11 点、 内 2 点完形礫。 接合関係 1 例。	18.2%	第 235 地点
7 礫	東西 1.44 m 南北 1.65 m	Ⅱ層下部～ 立川ローム第Ⅲ層上部	①	14.53 ～ 14.77	なし	砂岩 チャート	礫点数 30 点、 全て破碎礫。 接合関係 4 例。	0.0%	第 235 地点

第 48 表 西原大塚遺跡検出礫群一覧

遺跡名 遺構番号	規模	検出層位	文化層	標高(m)	重複遺構	石材	その他特徴等	礫の完形率	検出地点
城山 1号礫群	東西 1.70 m 南北 1.40 m	立川ローム第Ⅴ層上部 ～第Ⅵ層下部	②、	10.05 ～ 10.36	1号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 46 点、 内 11 点完形礫。 接合関係 10 例。	23.9%	第 71 地点
城山 2号礫群	東西 1.00 m 南北 0.80 m	立川ローム第Ⅴ層上部 ～第Ⅵ層下部	②、	10.02 ～ 10.27	1号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 11 点、 内 2 点完形礫。 接合関係 4 例。	18.2%	第 71 地点
城山 3号礫群	東西 2.30 m 南北 2.00 m	立川ローム第Ⅴ層上部 ～第Ⅵ層下部	②、	10.05 ～ 10.31	1号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート ホルンフェルス	礫点数 140 点、 内 57 点完形礫。 接合関係 19 例。	40.7%	第 71 地点
城山 4号礫群	東西 1.20 m 南北 1.10 m	立川ローム第Ⅴ層上部 ～第Ⅵ層下部	②、	10.16 ～ 10.34	1号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート ホルンフェルス	礫点数 83 点、 内 35 点完形礫。 接合関係 12 例。	42.2%	第 71 地点
城山 5号礫群	東西 2.50 m 南北 1.70 m	立川ローム第Ⅴ層上部 ～第Ⅵ層下部	②、	10.10 ～ 10.31	1号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 120 点、 内 43 点完形礫。 接合関係 17 例。	35.8%	第 71 地点
城山 6号礫群	東西 1.60 m 南北 1.70 m	立川ローム第Ⅴ層上部 ～第Ⅵ層下部	②、	10.22 ～ 10.34	1号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 22 点、 内 13 点完形礫。 接合関係 17 例。	59.1%	第 71 地点
城山 7号礫群	東西 1.80 m 南北 1.90 m	立川ローム第Ⅴ層上部 ～第Ⅵ層下部	②、	9.34 ～ 9.57	2号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 29 点、 内 6 点完形礫。 接合関係 17 例。	20.7%	第 71 地点
城山 8号礫群	東西 2.00 m 南北 2.10 m	立川ローム第Ⅴ層上部 ～第Ⅵ層下部	②、	9.14 ～ 9.43	2号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート ホルンフェルス	礫点数 107 点、 内 40 点完形礫。 接合関係 9 例。	37.4%	第 71 地点
城山 9号礫群	東西 1.80 m 南北 1.60 m	立川ローム第Ⅴ層上部 ～第Ⅵ層下部	②、	9.09 ～ 9.39	2号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート ホルンフェルス	礫点数 36 点、 内 7 点完形礫。 接合関係 4 例。	19.4%	第 71 地点
城山 10号礫群	東西 5.67 m 南北 5.55 m	立川ローム第Ⅳ層下部 ～第Ⅴ層上部	②	11.10 ～ 11.50	9号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 301 点、 内 18 点完形礫。 接合関係 44 例。	6.0%	第 96 地点
城山 11号礫群	東西 1.83 m 南北 2.19 m	立川ローム第Ⅶ層	③	11.20 ～ 10.45	10号石器集中地点 (平面分布) 11号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 22 点、 内 8 点完形礫。 接合関係 2 例。	36.4%	第 96 地点

※文化層②'：文化層②に一部並行し、先行する文化層

第 49 表 城山遺跡検出礫群一覧



## ② 5号礫群について

礫群は調理用の装置・施設として現状理解されていることを踏まえ（鈴木 2005 ほか）、本章では調理行為によって表面ないし破断面が赤化した礫の分布状況に着目してみたい。総点数 898 点中、表面・破断面の双方が赤化するものが 571 点（63.6%）、表面・破断面のいずれかが赤化するものが 208 点（23.2%）、赤化が認められないものが 119 点（13.2%）となり、赤化するものが 86.8%を占める。

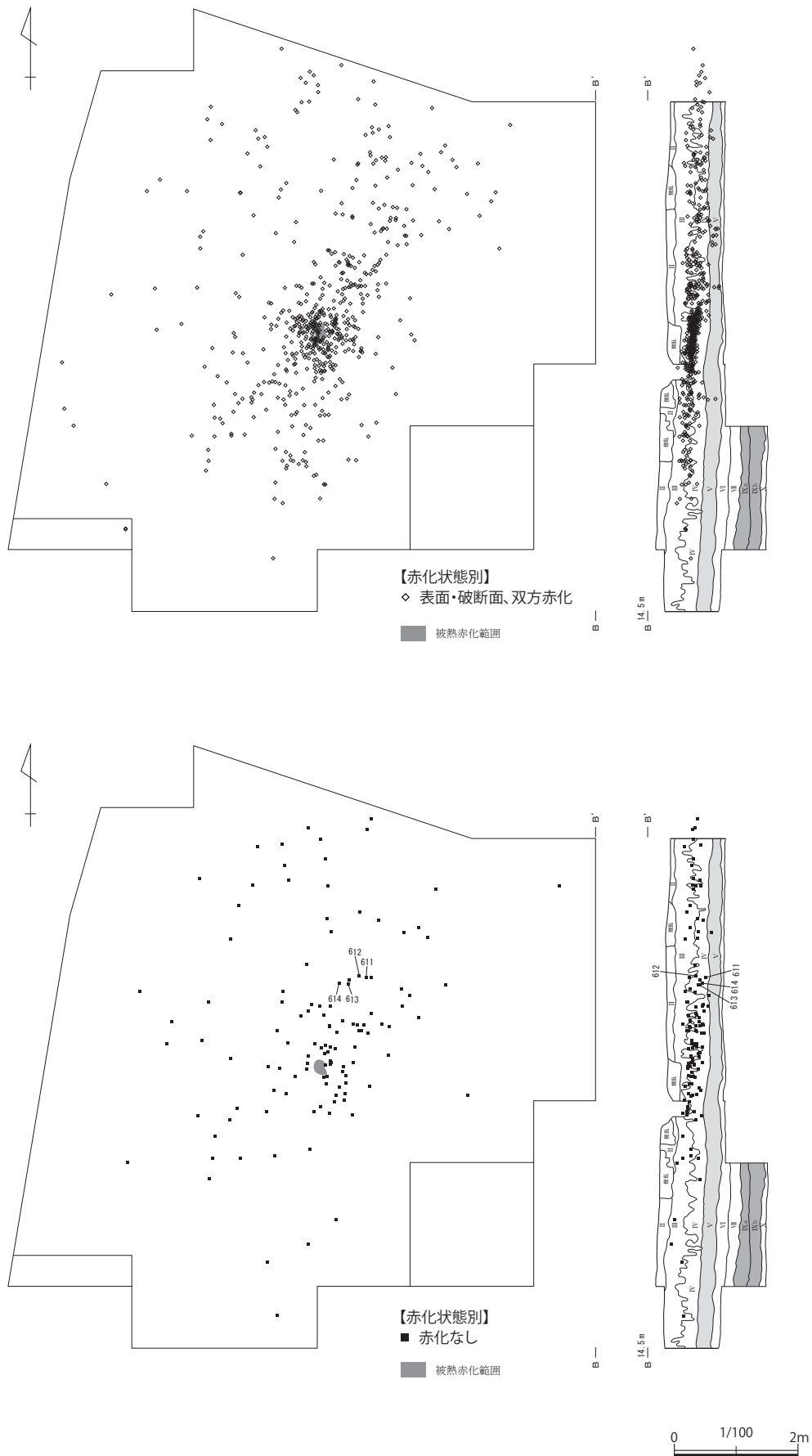
第 145 図上段は赤化礫、下段は非赤化礫の分布図である。両図を比較すると、点数の多寡を除けば大きな差異は認められない。被熱によるローム層の赤化が確認された中心部に集中域がみられる点は、赤化・非赤化礫に共通して認められ、垂直分布も概ね合致するが、平面分布に関しては、非赤化礫の平面分布の方が幾分コンパクトとなる傾向にある。要因として、被熱によって破碎された軽量の礫が外縁部に拡散した可能性や、使用不可となった破碎礫を人為的に外縁部に撤去した可能性等が推測される。

他の礫群も 6 号礫群以外は礫の被熱赤化率が極めて高く、1・3・4 号礫群は 100%という高い数値を示している（第 146 図）。6 号礫群については礫の総点数が 11 点と少なく、また礫の完形率が 18.2%と本遺跡で検出された礫群の中では相対的に高い比率を示す点との関連性が考えられる。

一概には言えないが、礫の総点数に比例して使用期間が長くなることが想定され、その観点からすれば、6 号礫群は使用期間が短く、898 点の礫が出土した 5 号礫群は長期間の使用が想定される。使用期間が長くなれば礫の被熱赤化率は増加し、それに付随して礫は破碎され、礫の完形率は減少する。5 号礫群の礫の完形率は 0.7%と低く、同一文化層で検出され、301 点の礫が出土した城山遺跡 10 号礫群も礫の完形率は 6.0%と低い。ただし、礫点数が 3～30 点と少ない 1・4・7 号礫群は全て破碎礫で構成され、完形率 0%のため、礫の完形率と総点数は比例関係にはない。現状、礫の完形率と被熱赤化率が逆比例の関係にあると考えられ、礫の完形率が低い 1～5・7 号礫群は被熱赤化率が 80%以上と高く、反して礫の完形率が高い城山遺跡 3～5 号礫群の被熱赤化率は 50%前後と相対的に低い数値を示す。

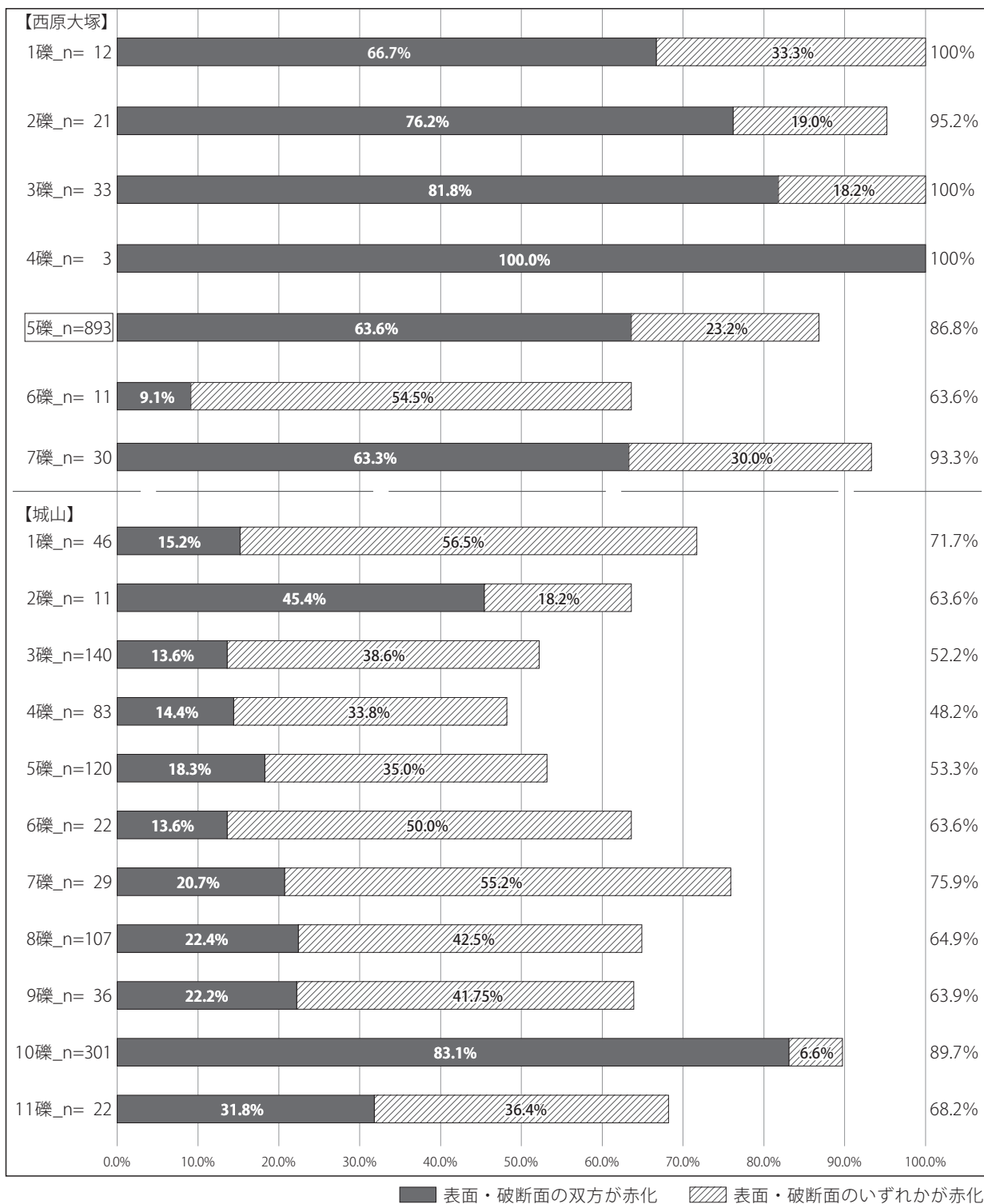
5 号礫群は、規模や礫の被熱赤化率の高さから比較的長期間使用されたことが想定される。また、5 号礫群と平面・垂直分布が一致する 20 号石器集中地点から出土した石器はさほど多くないため、活発な石器製作を想定することは難しい。規模等から想定される 5 号礫群の使用頻度は高かったと思われ、石器製作よりも礫群使用がメインの場であったと推測される。中心部から 1.5 m ほど北に外れた箇所隣接して出土した完形礫 4 点（611～614）はいずれも非赤化礫で、設置に留まり未使用のまま遺棄されたと考えられる。最初期はこの様な完形礫の使用を前提とするのだろうが、5 号礫群では完形礫が 898 点中 6 点と極端に少なく、計 127 例の接合関係が認められながらも完形礫となるものが 1 点も認められないため、他の礫群から持ち込まれた欠損礫を二次使用した可能性が想定される。更には、再使用可能な礫の抜き取りの可能性も考えられよう（竹内 2005）。今後、同一文化層の礫群間での接合関係を確認することで、欠損礫の二次使用に関する知見が得られることを期待したい。

最後に石材ごとの分布・接合状況について触れたい。点数が多い砂岩・チャートは、被熱によるローム層の赤化が確認された中心部集中域を含め、全体的に広がるが、東西方向に比して南北方向に濃く分布し、接合線も南北方向に多く引かれる傾向が認められる。泥岩も同様の傾向が認められるが、特段南北方向に長い分布傾向を示している。礫岩については中心部にコンパクトに集中し、他の石材と同様に接合線は南北方向に多く引かれる。ホルンフェルスについても接合線は南北方向に引かれるが、点数が 4 点と少なく、いずれも破碎された軽量礫（最大 21.3 g）であるため、大部分は抜き取られ、本遺跡外に持ち出された可能性が高いと考えられる。



第 145 図 5号礫群赤化状態別分布図 (1 / 100)

接合線が南北方向に多く引かれる点から、礫群の中から調理した食料を取り出す際に、被熱赤化が確認された中心部集中域を起点として、主に南北方向に礫を移動させた可能性が推察される。また、共伴する20号石器集中地点の石器群は平面分布を重複させながらも、南北方向に多くの接合線が引かれる5号礫群中心部集中域東側を避ける形で、その西側に比較的多く分布することから、石器製作と調理施設の間が大まかにエリア分けされていた可能性が考えられる。



第146図 礫群出土礫の被熱赤化率

## 第2節 弥生時代後期～古墳時代前期

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構として、住居跡 16 軒（640～655 号住居跡）が検出された。ここでは、（1）住居跡出土土器の器種組成と形式分類、（2）住居跡の変遷について所見を述べ、まとめとしたい。

### （1）住居跡出土土器の器種組成と形式分類について

640～655 号住居跡から出土した鉢・高坏・埴・壺・甕・器台形土器の 6 器種を対象に形式分類を行いたい。なお、壺形土器に関しては小項を設け、壺・広口壺・小型壺の 3 器種に小分類して述べることとする。本分類は、先学諸氏の分類基準（佐々木ほか 2000、比田井 2001・2004、宮川 2003、大村 2004、松本 2005・2022、古谷 2013、安藤 2015）を参考とし、本地点の出土状況に即して変更を加えたものである。また、時期区分については弥生時代後期～古墳時代前期の南武蔵を網羅する比田井氏の編年案を主軸とし、他地域・他の研究者の時期区分と共に第 50 表に示す。

地域		南武蔵			東京湾東岸域	南武蔵南部	西相模	東遠江	尾張	畿内	
時期	文献	比田井 2001	安藤 2015	松本 2005	大村 2004	古谷 2013	地域と考古学の会編 2021	赤塚 1990 他	寺沢 1986		
弥生時代	中期末	宮ノ台式					IV-5	—	—	—	
	後期初頭	後期Ⅰ段階古	久ヶ原Ⅰ式古	久ヶ原Ⅰ式	久ヶ原Ⅰ式	北川谷Ⅰ期	(V-1)	菊川Ⅰ(古)	畿内Ⅴ		
	後期前葉	後期Ⅰ段階新	久ヶ原Ⅰ式新	久ヶ原Ⅱ式古	久ヶ原Ⅱ式古	北川谷Ⅱ期	V-2古	菊川Ⅱ(中)			
				久ヶ原Ⅱ式新	久ヶ原Ⅱ式新						
	後期中葉	後期Ⅱ段階古	久ヶ原Ⅱ式古	久ヶ原Ⅱ式新	山田橋Ⅰ式	北川谷Ⅲ期古	V-2新	—		山中Ⅱ	
					久ヶ原Ⅱ式新	山田橋Ⅱ式古				北川谷Ⅲ期新	V-3
	後期後葉	後期Ⅲ段階古	久ヶ原Ⅲ式	久ヶ原Ⅲ式	山田橋Ⅱ式古	北川谷Ⅳ期古	V-4	菊川Ⅳ(最新)		廻間Ⅰ式0	庄内0
					山田橋Ⅱ式新	北川谷Ⅳ期新			廻間Ⅰ式1		
	古墳時代	後期末～前期初頭	前期Ⅰ段階古	—	—	中台Ⅰ式	北川谷Ⅴ期古	—	三沢西原Ⅰ	廻間Ⅰ式2	庄内1
						中台2-1式				廻間Ⅰ式3	
前期前葉		前期Ⅰ段階新	—	—	中台2-2式	北川谷Ⅴ期新	—	三沢西原Ⅱ	廻間Ⅰ式4	庄内2	
					草刈Ⅰ式				廻間Ⅱ式1		
前期中葉		前期Ⅱ段階	—	—	草刈Ⅱ式	北川谷Ⅵ期	—	三沢西原Ⅲ	廻間Ⅱ式2	庄内3	
					草刈Ⅲ式				廻間Ⅱ式3		
前期後葉	前期Ⅲ段階	—	—	—	—	—	三沢西原Ⅲ	廻間Ⅲ式1	布留0		
—	—	—	—	—	—	—	—	廻間Ⅲ式2	布留1		
—	—	—	—	—	—	—	—	廻間Ⅲ式3	—		
—	—	—	—	—	—	—	—	廻間Ⅲ式4	—		
—	—	—	—	—	—	—	—	松河戸Ⅰ	布留2		

第 50 表 編年対応表 (案)



### ①鉢形土器

実測個体は3点である。648・651・655号住居跡から各1点出土した。

A類 口縁部が内湾するもの。……648 Y-1、655 Y-1

B類 口縁部と体部の境に段を有し、口縁部が外反するもの。……651 Y-1

A類とした2点は器高の違いはあるものの、全体形状を含め、内外面のヘラ磨き調整や口唇部に面を有する点に共通点がみられる。同一形式と考えられ、概ね比田井編年の弥生後期Ⅲ段階古・新相（以下、比田井編年は省略）の範疇に納まると推測される。B類は内外面に赤彩が施され、器形に小型丸底埴の影響がみられることから段階的に新しく、古墳前期Ⅰ段階新相以降に属すると考えられる。

### ②高坏形土器

実測個体は9点である。643・644・651・653・654号住居跡から出土した。高坏形土器はA類を除き、他地域の土器との関係性が極めて深い点が着目される。なお、( )で示した土器は破片資料のため、やや分類の精度を欠くが、参考として記した。

A類 坏部は碗状を呈し、脚部がハの字状に開くもの。…該当なし

B類 碗状ないし逆三角錘形の坏部をもち、口縁部は概ね水平に屈曲し、鰐状を呈するもの。  
……654 Y-1、(653 Y-1)

C類 坏部は中位から屈曲して外面に稜を有し、脚下半部がラッパ状に開くもの。  
……644 Y-1、(643 Y-1・2)

D類 坏部は稜をもち、碗状を呈するもの。……651 Y-2・3・4

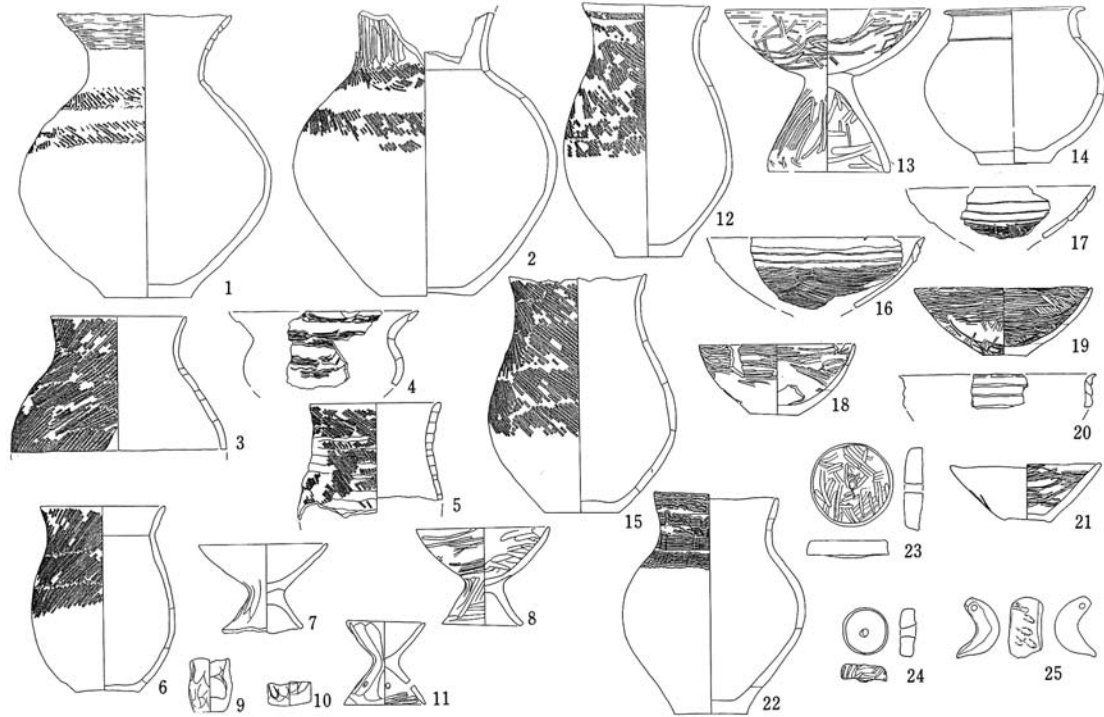
A類は東京湾沿岸域在来の形式で、口唇部や口縁部外面に縄文が施されるものが一般的である。本地点では出土しなかったが、本遺跡では11号方形周溝墓（佐々木ほか 2009）等で出土例が確認されている。弥生時代中期後半の宮ノ台式期末に初出し、A～D類の中では古相に位置付けられる。

B類は天竜川東岸域（東遠江）の菊川式土器を祖型とすると考えられる。従来みられた口縁部・脚部への施文（縄文・刺突文等）は省略され、脚端部（裾部）の段も消失していることから、外来系土器との折衷様式が多く誕生する弥生後期Ⅲ段階新相に位置付けられる。鰐状口縁を呈する長脚の高坏は中部高地地方の箱清水式土器でも広くみられ、25号方形周溝墓（佐々木ほか 2009）等で、その系譜に連なる土器が出土しているが、それら中部高地系の土器は坏部が箱形を呈し、脚部がラッパ状に大きく開く点が、654 Y-1と相違する。

653 Y-1は口縁部を欠くものの、坏下半の形状が654 Y-1と類似することからB類としたが、口縁部の形状によっては中部高地系の土器系譜に連なる可能性も考えられる。また、654 Y-2は上記の分類に該当するものは無かったが、深身で逆三角錘形の坏部を有する高坏は、群馬県赤城山南麓地域を中心に分布する赤井戸式土器（北武蔵に分布する吉ヶ谷式土器の異地域同型式）に類似例があり（第147図）、関連性が想起される。

C類の出自に関しては、東海西部地方（尾張）の山中式土器、中部高地地方の箱清水式土器の2系統が想定されている。山中式土器の系譜にある土器群は神奈川県下、特に相模湾沿岸域に広く分布し、直接的な搬入品と考えられる出土例も多く確認されているが、埼玉県内では東松山市五領遺跡等ごく僅かな出土に止まっており、客体的である。本地点出土の3点はいずれも破片資料のため、どちらの系統に属するかは不詳である。

D類は、東海西部地方（尾張～三河）に出自が求められる。坏部下端に稜を有し、口縁部が大きく立ち上がる元屋敷系高坏の派生形と考えられ、元屋敷系高坏にやや後出して出現する。A～D類の中では新相に位置付けられ、小型器台が盛行する布留0式並行期以降に広く分布し、651 Y-2～4は概ね古墳前期I段階新相に位置付けられる。



第147図 赤井戸式土器（大川ほか編 1996より転載）

### ③ 埴形土器

実測個体は4点である。640・641・644・646号住居跡から各1点出土した。なお、646 Y-1は口縁部破片のため、形式分類はできなかった。

A類 小型で平底（上げ底含む）のもの。

1 口縁部が外反するもの。…… 641 Y-1

2 口縁部が直立気味に立ち上がるもの。…… 644 Y-2

B類 小型で丸底のもの。…… 640 Y-1

古墳前期I段階古層のメルクマールとされる小型器台の出現に後出して、埴形土器は出現する。相対的にA類（小型平底埴）が先行し、B類（小型丸底埴）は後出すると捉えられており、B類は古墳前期II段階に広く波及する。

### ④ 壺形土器

実測個体は29点である。640～644・646・648・651～655号住居跡から出土した。壺形土器に関しては全体形状が分かる資料が少ないため、A) 口縁部形態による分類、B) 器形による分類、C) 口縁部文様帯による分類、D) 胴部文様帯による分類、の4つの構成要素に基づき、それぞれ分類を行うものとし、上記要素を含まない破片資料については分類対象から除外した。

A) 口縁部形態による分類

a類 幅狭の複合口縁をもつもの（折り返し口縁も含む）。

…… 640 Y-5、643 Y-3、(652 Y-5)、654 Y-3、655 Y-2

b類 幅広の複合口縁をもつもの。… 644 Y-10、652 Y-4

c類 単口縁のもの。…… 644 Y-3～9

B) 器形による分類

a類 胴下部に最大径を有するもの。…… 641 Y-3・4、653 Y-2

b類 胴中央部に最大径を有するもの。…… 644 Y-5・6

c類 胴部が球形を呈するもの。…… 644 Y-3・4、651 Y-5、652 Y-2

C) 口縁部文様帯による分類

a類 縄文が施されるもの。…… 652 Y-4（外面）

b類 端末結節で、縄文帯の端部を区画するもの。…… 655 Y-2（内外面）

c類 櫛描波状文が施されるもの。…… 652 Y-5（内面）

D) 胴部文様帯による分類

a類 平行沈線・山形沈線等で、縄文帯を区画するもの。…… 648 Y-4

b類 S字状結節文で、縄文帯の端部を区画するもの。…… 641 Y-4

c類 縄文帯の上下端の区画が無いもの。…… 641 Y-3

d類 網目状撚糸文が施されるもの。…… 655 Y-3

e類 櫛描波状文ないし櫛描直線文が施されるもの。…… 643 Y-4、652 Y-6

上記4分類の傾向をまとめ、本地点出土の壺形土器の様相について、比田井編年に基づき概観してみたい。最初に口縁部形態によるA)分類については、3類型の内、A a・A c類は弥生後期Ⅰ段階古相から存在するが、A b類（幅広の複合口縁を有するもの）のみ出現が遅れ、他の器種との共伴関係からその時期は弥生後期Ⅱ段階新相と捉えられている。複合口縁部の頸状垂下は、時期が新しくなるにつれ小さくなる傾向が認められるが、644 Y-10は頸部との隙間が維持されており、最初期の弥生後期Ⅱ段階新相の特徴を残している。

次に器形によるB)分類について述べたい。大局として、B a→B b→B cの順に胴部の形態が変化すると考えられており、弥生後期Ⅱ段階古相まではほぼB a類に限定され、逆に古墳前期Ⅰ段階新相に至ると、B c類にほぼ一本化される。本地点で出土した壺形土器の中では、653 Y-2が算盤玉状の胴部形態を呈し、弥生後期Ⅱ段階新相～Ⅲ段階古相に比定される古い様相を示している。

三番目として口縁部文様帯によるC)分類について述べたい。後述する胴部文様帯も含め、本地点で出土した壺形土器の施文率は低く、無文の土器が約7割を占める。口縁部に文様帯が認められた土器は3点のみであった。652 Y-4は折り返し口縁部の外面に羽状縄文(RL・LR)、口唇部に縄文LRが施されており、東京湾沿岸域在来の形式と考えられる。655 Y-2は折り返し口縁部の内面に、端末結節を伴う縄文LR（以下、端末結節縄文と記す）が施される。端末結節縄文は、従来用いられていた沈線やS

字状結節文とは異なる手法で文様帯を区画する手法で、その出自は東海東部地方（東遠江）に求められると考えられており、後期中葉の菊川式新段階（Ⅲ式期）以降、端末結節縄文が施される壺形土器は駿河・相模地方に広く波及し、弥生後期Ⅲ段階には、東京湾東岸域を除いて南関東地方にも分布が広がっていく（鮫島 1994）。655 Y-2 の幅狭の複合口縁部は若干垂下しており、端末結節縄文以外にも菊川式土器の影響が窺える折衷様式の土器と考えられる。652 Y-5 は複合口縁部の内面に櫛描波状文が施される。口頸部は大きく外反し、口縁部も大きく垂下することが推測され、文様構成及び口縁部形態には東海西部地方を第一候補とする他地域の土器の影響が窺える。

四番目として胴部文様帯による D) 分類について述べたい。胴部に文様帯が認められた土器は 5 点と少なかったが、比較的多くのバリエーションがみられた。胴部文様帯は時期が下るごとに簡素化・省略化されていき、古墳前期Ⅱ段階にはほぼ消失し、無文となる。地域性や他の構成要素を考慮すると同様であるとは言えないものの、南関東地方では概ね D a → D b → D c → D d の順に形式が推移し、時期が下るに従い簡素化・省略化が進むと考えられている。D e 類は縄文・撚糸文をベースとした南関東地方在来の文様構成とは異なり、櫛描波状文・直線文で構成された文様帯を有することから他地域の土器の影響が窺える。

最後に上記分類外で特徴的な土器として、頸部に凸帯を有する 646 Y-2 について触れたい。646 Y-2 の系譜は東海西部地方（西遠江）に求められ、弥生後期Ⅱ段階新相に出現し、以後古墳前期Ⅰ段階まで散見される。最初期の凸帯は肩部への移行部に巡らされていたが、時期が新しくなるにつれ、頸部最細部に移行する傾向が認められる。646 Y-2 は「く」の字に屈曲した頸部の最細部に凸帯が巡り、頸部の形態も加味すると終末段階の古墳前期Ⅰ段階古相に位置付けられる。

次に壺形土器の中で、広口壺形土器、小型壺形土器を小分類し、それぞれについて述べたい。

#### 【広口壺形土器】

実測個体は 2 点である。652 号住居跡から出土した。

A 類 複合口縁をもつもの。…… 該当なし

B 類 単口縁のもの。

1 口唇部に刻みが施されるもの。…… 652 Y-1

2 口唇部に刻みが施されないもの。…… 652 Y-3

本地点では単口縁をもつ B 類のみが出土した。複合口縁をもつ A 類とは別系譜と考えられており、弥生後期Ⅰ段階から認められる A 類に後出して、弥生後期Ⅱ段階古相から出現する。全体的な器形の変化は壺形土器と同じ流れを辿り、B 2 類は頸部が「く」の字に屈曲し、胴部形態が球形を志向する古墳前期Ⅰ段階古相以降の特徴を有する。口唇部に刻みが施される B 1 類は頸部の屈曲が弱く、中央部より上位に胴部最大径を有することから、一段階古い弥生後期Ⅲ段階新相に位置付けられると考えられる。

#### 【小型壺形土器】

実測個体は 3 点である。641・651・653 号住居跡から出土した。なお、641 Y-2 は全体形状が不明であるため、形式分類からは除外する。

A 類 器高と胴部最大径の比率がほぼ一対一のもの。… 651 Y-6

B 類 胴部最大径より器高の方が高く、全体に細長くなるもの。…… 653 Y-4

小型壺形土器は弥生後期Ⅱ段階新相に出現し、同Ⅲ段階以降に出土数が増加する。A・B 類は併存し、ほぼ同様の消長をみせる。全体的な器形の変化は壺形土器と同じ流れを辿り、651 Y-6 は古墳前期Ⅰ



段階新相に位置付けられる。頸部の屈曲がやや緩やかな 653 Y-4 は段階的に古く、ドーナツ状の底部形態及び肩部文様帯（櫛描直線文・コンパス文）等から総合的に判断し、弥生後期Ⅲ段階新相に位置付けられると考えられる。

#### ⑤ 甕形土器

実測個体は 38 点である。640・641・644・646・648・649・651・653 号住居跡から出土した。該期の甕形土器は、底部の形態から大きく平底甕、丸底甕、台付甕の 3 種に分けられるが、本地点では畿内地方の布留式甕を祖形とする丸底甕は出土していない。また、16 点の土器は脚部が残存していたため、台付甕と判別できたが、脚部及び底部を欠くため、区分ができなかった土器が多く存在する。そのため、本稿では平底甕、台付甕を総括し、「甕形土器」として形式分類を行い、比田井編年を参照しながら概観してみたい。なお、下記の形式分類において、平底甕と判別できた土器には下線、台付甕と判別できた土器に関しては二重下線を付した。

A 類 輪積痕を複数段残すもの。… 649 Y-1

B 類 輪積痕を一段残すもの。… 640 Y-3、649 Y-2

C 類 外面にナデ調整が施されるもの（※）。…… 644 Y-14、648 Y-3、653 Y-8

D 類 外面にハケ目調整が施されるもの。

1 口唇部に刻みが施されるもの。…… 641 Y-5、644 Y-19・23、653 Y-5・6

2 口唇部に刻みが施されないもの。…… 644 Y-15～18・20～22・24、646 Y-3、651 Y-7

O 類 残存部位が少なく、細分できなかったもの（いずれも外面にハケ目調整が施される）。

…… 644 Y-25～28、644 Y-29～32、648 Y-2、649 Y-3、651 Y-8、653 Y-7

（※）ナデに限らず、横ナデ・ヘラナデ・ヘラ削り等で、輪積痕・ハケ目調整痕を消した土器全般を指す。また、痕跡が完全には消し切れておらず、僅かに残存する土器も便宜上含む。

口縁部から頸部にかけて輪積痕を複数段残す A 類は、最古段階に位置付けられる類型である。弥生時代中期後半の宮ノ台式期末での確認例は未だ無いことから、弥生後期 I 段階古相に出現すると考えられている。B 類は A 類の輪積痕をナデ消して一段にしたもので、一段階後の弥生後期 I 段階新相に出現する。A 類は時期が新しくなるにつれ、輪積痕の段数を減少させ、B 類と共に古墳前期 I 段階古相まで残るが、同新相にはほぼ消失する。A 類の 649 Y-1（台付甕）は、最初期には十段階前後残されていた輪積痕が 4 段にまで減少するが、頸部は緩やかに屈曲し、口縁部から胴部下端にかけての全体形状が下膨れ状となる古い様相を残しており、弥生後期 II 段階新相に位置付けられる。B 類の内、649 Y-2 は、最初期は下膨れ状を呈していた胴部が緩やかな球形に転じていることから、概ね弥生後期Ⅲ段階古相に位置付けられる。ほぼ完形となる 640 Y-3 は単口縁の平底甕で、頸部接合部に明瞭な輪積痕を残しているが、胴部の球形化が進行しており、古墳前期 I 段階新相に位置付けられる。

C 類は輪積痕を全てナデ消すことによって成立した土器で、B 類より更に一段階遅れて弥生後期 II 段階古相に出現すると考えられている。本地点では全体形状が分かる資料は出土していないが、644 Y-13 は胴部中位より上部（肩部付近）に最大径を有し、同類の中では新しい様相を呈する。胴部が球形を呈する 648 Y-3（台付甕）と共に概ね弥生後期Ⅲ段階新相に位置付けられる。

D類は、弥生時代中期後半宮ノ台式の平底甕の系譜の直系として、弥生後期Ⅰ段階古相から存在する最古の類型である。弥生後期Ⅰ段階新相までは平底甕と台付甕が併存するが、古墳前期Ⅰ段階新相以降は、台付甕に一本化される。口唇部の刻みの有無により、D 1・D 2類に細分され、刻みが施されるD 1類は古墳前期Ⅰ段階新相まで存続する。古墳前期Ⅱ段階以降は刻みが施されないD 2類のみとなり、上述した台付甕への一本化と連動する点が興味深い。なお、古墳前期Ⅰ段階新相までD 1・D 2類は併存し、両者に新旧関係は認められないが、押しなべてD 1類の頸部の屈曲度は弱く、古い段階の形態を呈しており、相対的にみるとD 1類の方が古い印象を受ける。

台付甕の脚部は最初期の弥生後期Ⅰ段階古相ではバランス的に小さく、やや不安定であったが、時期が新しくなるにつれ器高に対する比率が増加し、安定化していく。形態は弥生時代後期を通じて、外傾（後期Ⅰ段階）→内湾（後期Ⅱ段階）→外反（後期Ⅲ段階）と概ね移行していくが、古墳時代前期に至ると大型化する傾向のみが認められ、形態は多様化する。なお、古墳前期Ⅰ段階新相以降は、外来系土器であるE類を除く他の類型は淘汰され、D類のみが存続し、形状を変化させつつ古墳時代中期まで連続と製作されていく。

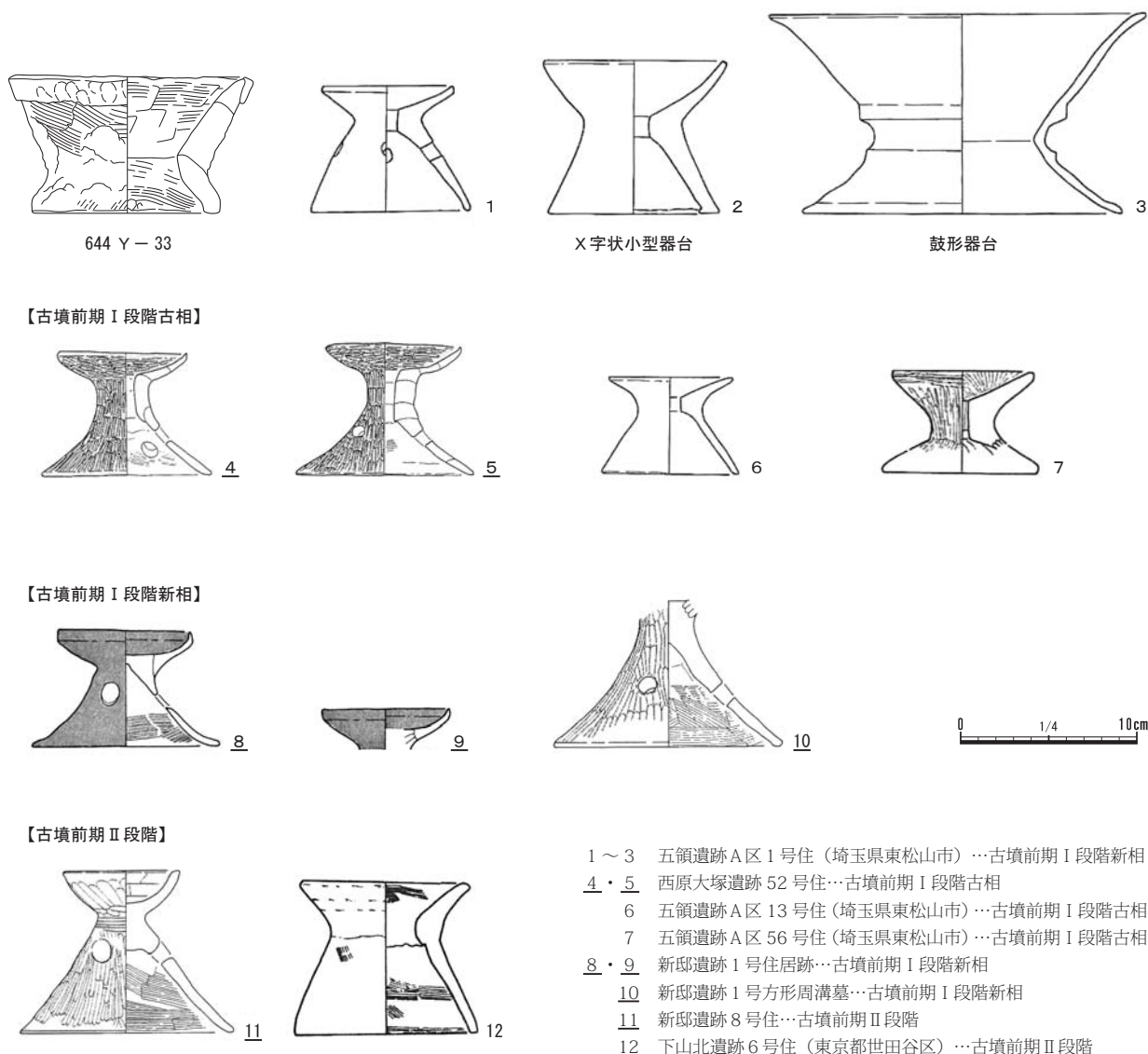
D類とした甕形土器で全体形状が分かる資料は出土しておらず、詳細な時期決定はできないが、D 1類（641 Y-5、644 Y-19・23、653 Y-5・6）はいずれも弥生後期Ⅱ・Ⅲ段階の範疇に納まると考えられる。また、D 2類の内、644 Y-15・20～22・24、646 Y-3、651 Y-7は頸部の屈曲度が強く、胴部は球形を志向することから、古墳前期Ⅰ段階新相以降に位置付けられる。

最後にS字状口縁台付甕について触れたい。該当資料は640 Y-6・7、641 Y-6の計3点である。S字状口縁台付甕は伊勢湾沿岸域（伊勢・尾張）を出自とする外来系土器で、S字状を呈する特異な口縁部を最大の特徴とし、その他にも精製された緻密な胎土に起因して、極限まで薄く仕上げられた器壁を有する特徴的な土器である。廻間Ⅱ式期Ⅰ段階に至り、汎東日本的に広範に拡散し、認識を容易とする形態的特徴も相まって該期のメルクマールとして広く認知されている。本地点で出土した3点はいずれも小片で不詳な点も多いが、いずれも模倣品と考えられ、口縁部が残る641 Y-7に関しては概ね古墳前期Ⅰ段階古相に位置付けられると考えられる。

### ◎器台形土器

実測個体は1点である。644号住居跡から出土した。古墳時代に入り、弥生時代では客体的であった器台形土器が新たに主要器種組成に加わる。その中でも畿内地方を出自とする小型器台は南関東地方に広く分布し、古墳前期Ⅰ段階古相のメルクマールとされている。市内では新邸遺跡において1号方形周溝墓、1・8号住居跡（第148図8～11）で比較的まとまった出土例が確認されており（佐々木・尾形 1987、尾形・深井・青木 2007）、本遺跡においても52号住居跡（第148図4・5）等で出土しているが（佐々木ほか 2009）、本地点で出土した644 Y-33はそれらとは系譜を異とした特異な形態をもち、注目される。

庄内式期末に出現した小型器台はいわゆる小型精製器種の一つで、ヘラ磨きを多用した非常に精緻な土器であるが、644 Y-33は粗雑な調整が施されたのみで対極に位置する。同一住居から出土した埴形土器（第68図2）とセットにするには器受部が大き過ぎるが、厚手で安定した脚部形態から器台としての用途が最優先で考えられる土器であり、出自に関して検証を試みたが、管見の限りでは類例が確認されず、特定には至らなかった。鼓形を呈し、上辺（器受部）と下辺（脚部）の比率が2：1で上辺



第148図 器台形土器の諸類型（1／4）

が長くなる全体形状は、山陰系の鼓形器台（第148図3）に類似するが、類似点はその1点のみで、細部の形状、器厚、調整技法には大きな隔たりがあり、同一系譜にあるとは考え難い。古墳前期Ⅲ段階に登場する畿内系のX型器台及び変容形式のX字状小型器台（第148図2）に関しても同様である。第148図に644 Y-33を含めた器台形土器の諸類型を取りまとめたので参照されたい。

644 Y-33については、他地域の土器の影響下から離れ、南関東地方在来の土器から発達した器形である可能性も考えたが、前型式となる宮ノ台式土器において器台形土器の出土例は非常に希少で、且つ市内における該期の住居跡の検出件数は、現時点で城山遺跡第96地点10号住居跡1軒のみであるため、宮ノ台式土器から派生したと考えるには検証材料が乏しいのが実情である。

系譜が追えないのであれば、祖形となる土器を持たず、突然変異的に発生したイレギュラーな形式である可能性を想定し、ここで参考となり得る1つの論考を提示したい（藤岡 1983）。藤岡氏は著作において、東京湾東岸域、印旛沼周辺地域、霞ヶ浦周辺地域に限定して分布する「器台状脚形土器」について集成している。時期的には弥生時代後期後半から古墳時代前期前半にかけてごく短期間に認められ



る土器で、盛行期間は本遺跡と合致する。「器台状脚形土器」は現在、「炉器台（形土器）」と呼称されるのが一般化し、藤岡氏集成時から出土点数は大きく増加したが、分布域は依然として上記3地域に限定されている。

炉器台は千葉県印西市天神前遺跡等での出土事例（第149図左）から、地床炉に甕を据えて煮炊きを行う際に甕を火床面から浮かせて固定するための器種と考えられている（広瀬 2011）。3点1セットでの使用が一般的で、現代の五徳、古墳時代後期～平安時代のカマドに伴う支脚と同じ発想で製作された器種と捉えられる。また、炉器台は通常の器台との共伴例が数多く確認されており、炉での使用に特化した器種であるとも言える。本地点から出土した器台形土器（644 Y-33）とは形態的特徴が大きく異なるため、同一系譜にあるとは考え難いが、炉の直ぐ南脇から甕形土器と共に出土しており、炉付近で使用された可能性が考えられるため、用途については一考の余地がある。千葉県袖ヶ浦市下向山遺跡では、頸部から上部のみが残存した壺形土器3点を逆位にして炉器台に転用する事例（第149図右）が確認されており（公益財団法人千葉県教育振興財団 2019）、壺形土器の口頸部に類似した形態とも言える644 Y-33も、炉器台と同一の用途を求めて製作された可能性が想定される。従来の系譜から外れたイレギュラーな遺物は未だ数多く存在し、その解明のためには地道に調査を進め、類例を蓄積させていく事が重要である。今後の土器研究の深化によって、644 Y-33の性格が解明されることを切に願いたい。

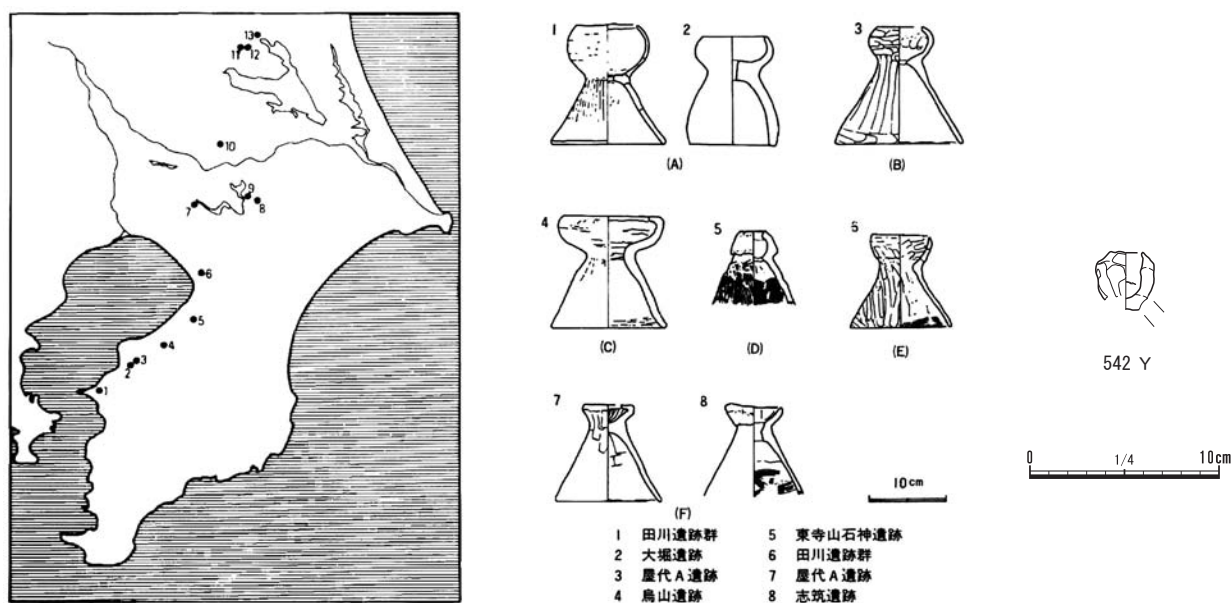
最後に本地点出土遺物ではないが、弊社が調査支援を委託された本遺跡第108地点542号住居跡（佐々木ほか 2009）から炉器台が1点出土していたことが、本書整理作業の過程で新たに判明したので関連事例として紹介したい（第150図）。これまで捉えられていた炉器台の分布範囲を大きく拡大させる成果であるとともに、本遺跡集団と東京湾東岸地域の集団間での交流を示す資料として注目される。



第149図 天神前遺跡・下向山遺跡炉器台出土事例

（（財）印旛郡市文化財センター 2011、（公財）千葉県教育振興財団 2019より転載）

また、本地点 641 号住居跡から出土した穿孔貝巢穴痕跡軟質泥岩（第 59 図 7）は房総半島から三浦半島にかけての海岸地域の地層中にみられ、同海岸地域で製塩作業が行われた際に混入し、塩と共に移動した遺物と考えられており（坂本 2015）、上記海岸地域との交易を示す資料として注目されている。本遺跡で弊社が調査支援を委託された 2 地点において、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての地域間交流・交易を示唆する新たな類例を蓄積できたことは大きな成果であった。



第 150 図 炉器台（藤岡 1983 を改変・加筆）

## （2）住居跡の変遷について

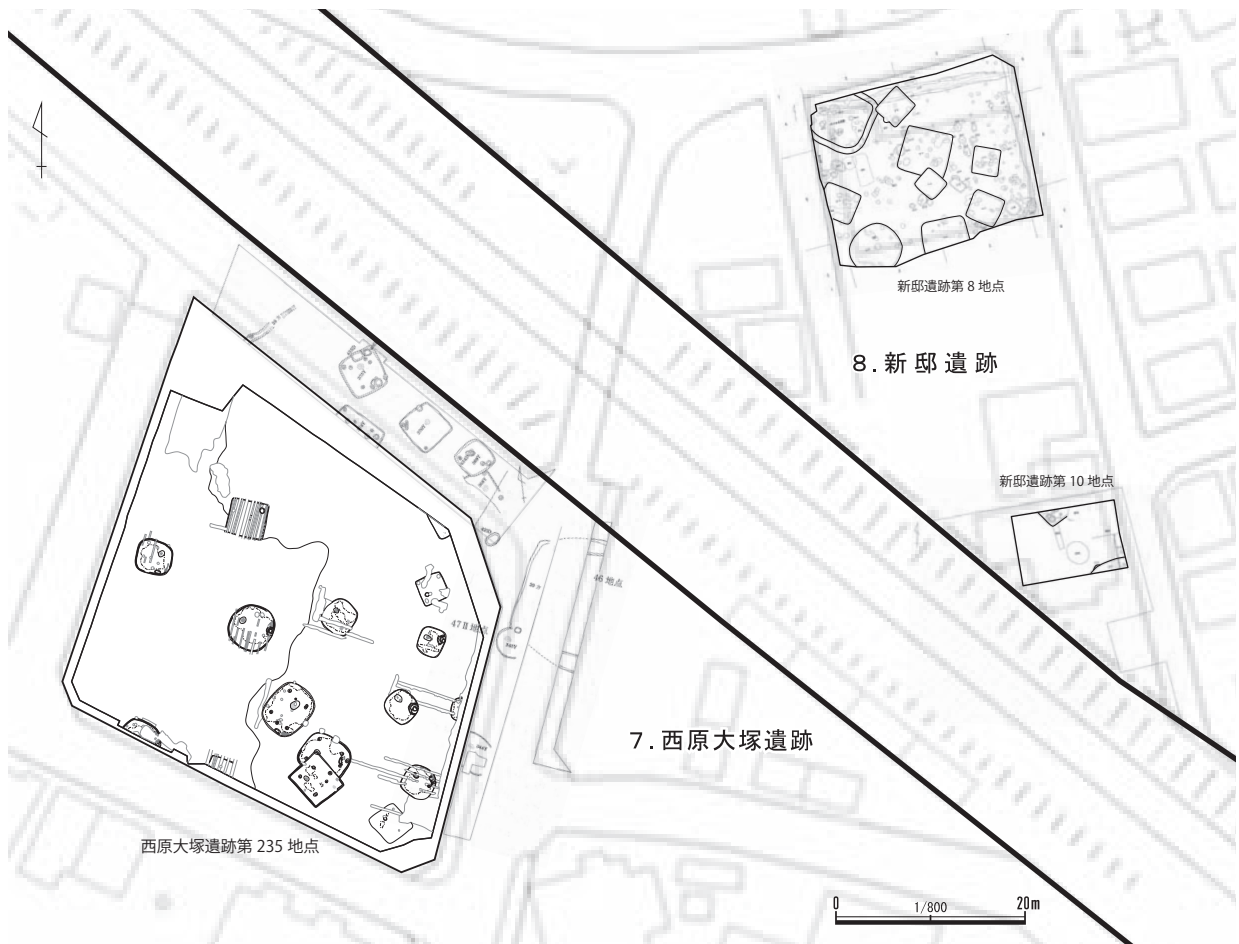
前述した出土土器の形式分類に基づき、各住居跡の時期は下記に比定される。詳細時期が不明である 642・647 Y を除くと、平面形は概ね楕円形（下線無し）→隅丸方形（一重下線）→方形（二重下線）という変遷を辿り、古墳時代前期初頭以降は方形のみとなる。

- 弥生時代後期後葉 …………… 649・653・654 Y
- 弥生時代後期後葉～末葉 …………… 644・648・652・655 Y
- 弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭 …… 641・643 Y
- 古墳時代前期初頭～前葉 …………… 645・646・650 Y
- 古墳時代前期前葉 …………… 640・651 Y
- 弥生時代後期～古墳時代前期（検証資料が少なく、詳細時期不明）…… 642・647 Y（2軒）

この中で最も新しい段階に位置付けられる 640・651 Yは、出土遺物や住居跡の平面形・付帯施設が本遺跡北側に所在する新邸遺跡の住居跡群に類似し、関連性が注目される。

新邸遺跡ではこれまでに古墳時代前期に属する住居跡が13軒検出されており、出土遺物からこれらの住居跡の時期は本遺跡より一段階新しい古墳時代前期前葉～中葉に比定されている。新邸遺跡で検出された古墳時代前期の住居跡の特徴として、該期の西原大塚遺跡の住居跡では広く認められ、祭壇状遺構と考えられている赤色砂利層の検出が1例もないことが、第8地点の報告中で述べられている（尾形・深井・青木 2007）。

先述した 640・651 Yの他、新邸遺跡に近い調査地点北東部に位置する 645・646・654・655 Yでも、南半部に位置する他の住居跡では検出されている赤色砂利層が検出されておらず、新邸遺跡の住居跡の特徴に共通する。現代においては鉄道線路により二分されている西原大塚遺跡と新邸遺跡ではあるが、往時は一連の集落であり、古墳時代前期前葉以降、西原大塚遺跡集落の範囲が北東方向（新邸遺跡範囲）へと広がっていったものと推測される。



第 151 図 西原大塚遺跡北部・新邸遺跡の弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡分布図（1 / 800）

## 第3節 古墳時代後期

古墳時代後期の遺構として、住居跡1軒（31号住居跡）が検出された。ここでは31号住居跡出土土師器について若干の考察を行うと共に、これまでに本遺跡で検出された古墳時代後期の住居跡について集成してみたい。

### （1）古墳時代後期31号住居跡出土土師器について

本住居跡から出土した土師器の実測個体は計16点で、その内訳は坏形土器6点、鉢形土器1点、壺形土器3点、甕形土器4点、甑形土器1点、ミニチュア土器1点である。主要器種（坏・甕・甑形土器）については、志木市内の土器を対象とした詳細な編年が組まれており（尾形 1999・2000・2001）、ここでは尾形氏の分類基準、並びに1世紀を20年ごと5段階に分割する編年案に準拠して、器種ごとの様相を取りまとめてみたい。

#### ①土師器坏形土器（第111図1～6）

1を除き、2～6は内外面に赤彩が施される。以下、形式分類を示す。なお、該当・関連類型のみ表記し、その他の類型については表記を割愛する。

A類 頸部にくびれを有し、器高が高いもの（第111図1）。

B類 口縁部が「S」次状を呈するもの。

2 いわゆる内斜口縁坏と呼ばれるもの（第111図5・6）。

C類 底部から口縁部にかけて、大きく内湾するもの。

1 器高の高いもの（第111図2）

2 1より扁平のもの。

D類 有段口縁を呈するもの。

2 赤色系土器。

a 口径12～14cmを基本とするもの（第111図3・4）

b 口径15～16cmを基本とし、大型のもの。

次に各土器の所見を述べる。A類とした1は口縁部が短く内傾し、須恵器坏身模倣とも捉えられる。A類は5世紀4/5段階以降に出現し、口縁部が短く外反するものが多くみられる。2は扁平化し、後出するC2類ではなく、器高の高いC1類の器形を留めている。D2類とした3・4は、6世紀1/5段階に口径が15～16cmと大型化するD2b類に先行するD2a類である。5世紀3/5段階に出現し、5世紀5/5段階になり一般に分布する。B2類とした5・6は出現期にみられた内面の放射状暗文が省略され、やや扁平化が進行している。B2類は5世紀5/5には消失すると考えられている（尾形 2000）。以上を総合すると、坏形土器は5世紀5/5段階（5世紀末葉）に比定される。

#### ②土師器鉢形土器（第111図7）

坏形土器A類と器形が類似するが、器高が高く深身のため、鉢形土器と分類した。内外面に赤彩が施され、胎土は坏形土器と類似する。

## ③土師器壺形土器（第111図8～10）

8・9は共に内外面に赤彩が施された短頸壺である。扁平な全体形状と丸底である点は共通するが、外面調整、口縁部の形状等に差異がみられる。10は小型壺である。上半部を欠くため、全体形状は不明である。

## ④土師器甕形土器（第111図11～14）

全体形状の分かる資料は出土しなかったため、あまり細分化はできなかった。以下、形式分類を示すが、坏形土器と同様に該当・関連類型のみ表記し、その他の類型については表記を割愛する。

A類 頸部に稜をもつ壺形土器に類似するもの。

B類 「く」の字口縁を呈するもの。

- 1 口縁部が比較的長く、壺形土器に類似するもの（第111図11）。
- 2 B1類に比べ、やや口縁部が短いもの（第111図12）。

C類 B類の「く」の字口縁がやや崩れたもの（第111図13）。

次に各土器の所見を述べる。11はB1類としたが、稜とは言えない不明瞭なものであるものの頸部にごく僅かな段差が認められ、A類に類似する。B2類とした12は「く」の字口縁を呈する。13は残存部位が少ないため、判別が困難であったがC類とした。C類は6世紀1/5段階になり、一般に分布すると考えられている。14は胴部～底部の破片のため、形式分類はできなかったが、胴部には若干長胴化の兆しが認められる。以上を総合すると、甕形土器は5世紀5/5段階～6世紀1/5段階（5世紀末葉～6世紀初頭）に比定される。

## ⑤土師器甑形土器（第111図15）

最初に形式分類を示す。坏・甕形土器と同様に該当・関連類型のみ表記し、その他の類型については表記を割愛する。

A類 筒抜け式のもので、複合口縁を呈するもの。

- 1 口縁部から底部にかけて、大きく逆三角形にすばまるもの。
  - a 大型のもの。
  - b 小型のもの。

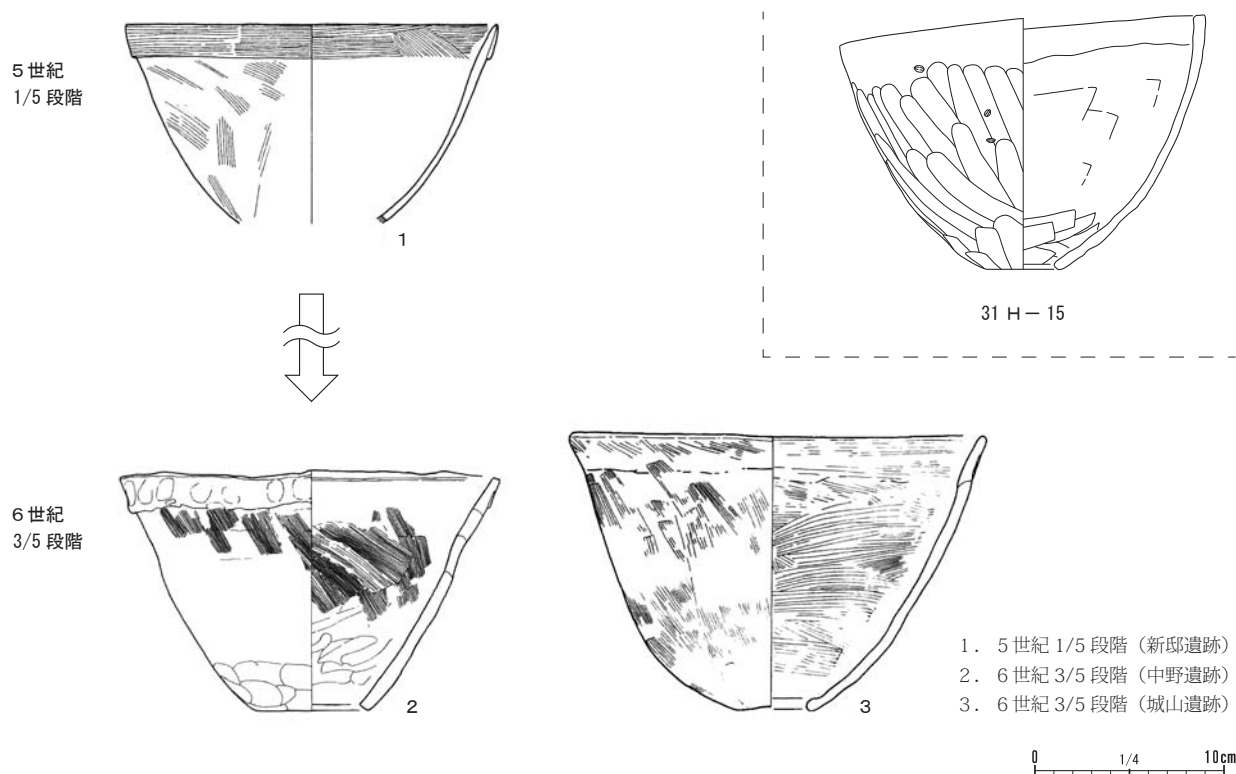
B類 筒抜け式のもので、単純口縁を呈するもの。

- 1 大型のもの。
- 2 小型のもの。

上記の分類に倣うと、15はB2類とするのが妥当であるが、B2類の出現は早くとも7世紀1/5段階と考えられており、他の器種との年代観に大きな齟齬がみられる。単純口縁を呈する点や外面調整（ハケ目調整の有無）に相違点はみられるが、器形に関してはA1b類（第152図）に類似する。A1b類は最初期に出現した類型で、5世紀1/5段階に出現して以降、6世紀3/5段階まで連綿と残る。A1b類の退化・簡略化として捉えることができるならば、他の器種の年代観と合致する。

以上、本住居跡の時期については、完形資料の多い坏形土器の形式的特徴を軸に据え、他の器種の特徴も加味して総合的に判断し、5世紀5/5段階（5世紀末葉）に比定できると考えられる。





第152図 甔形土器A 1 b類の形態変遷（1／4）

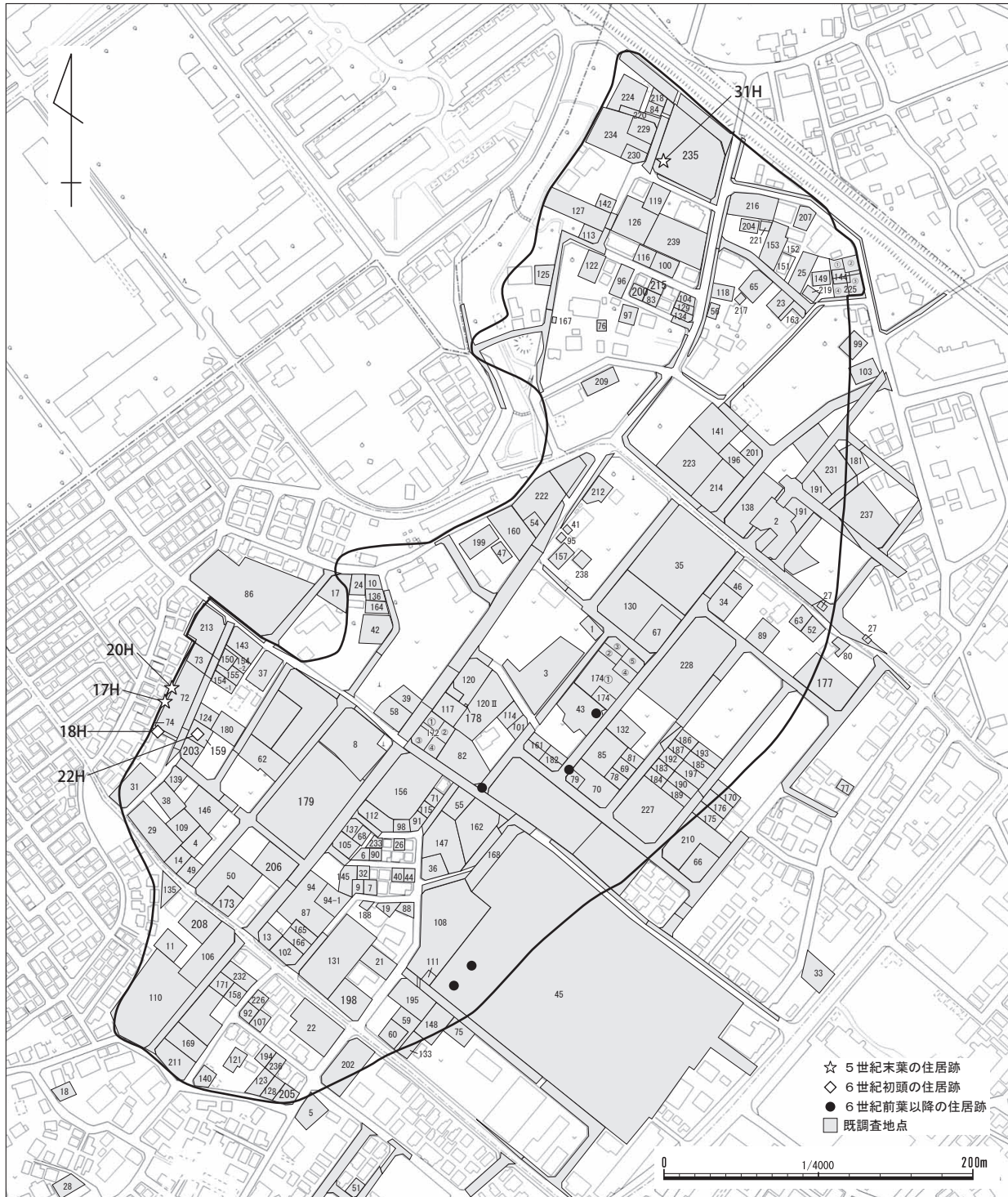
## （2）本遺跡における古墳時代後期の住居跡について

本遺跡では、これまでに古墳時代～平安時代に帰属する住居跡が計31軒検出されている（第51表）。本遺跡は弥生時代後期～古墳時代前期にかけて655軒以上（令和5年1月19日時点）の住居跡が築造された市内最大の集落であるが、古墳時代前期前半以降、集落の規模は一気に縮小し、古墳時代後期に至り、市内及び周辺に所在する他の遺跡では爆発的に住居数が増加する中、本遺跡では小規模に留まることがこれまでの調査で明らかにされている。未報告資料も含まれるため、今後の整理作業の進捗及び新規の発掘調査により増減が見込まれるが、現時点では11・14・16・18・20・22号住居跡、そして31号住居跡の計10軒が古墳時代後期に帰属すると捉えられている。その分布は遺跡範囲の南半部に偏在するが、31号住居跡のみが北端部で孤立しており、特筆される（第153図）。

先述のとおり、31号住居跡の築造時期は本遺跡においてカマドを有する住居跡では最古段階の5世紀末葉に比定される。その他、17・20号住居跡も同時期の5世紀末葉に比定され、後続する時期の住居跡として18・22号住居跡が6世紀初頭に比定される。17・18・20・22号住居跡は、いずれも遺跡西端部から近接して検出されており、連続性が認められるが、現時点で31号住居跡に近接する同時期・後続時期の住居跡は検出されていない。5世紀代に遡る住居跡は、本遺跡の北東方向約300mに位置する中道遺跡第37地点で、カマドを有する住居跡では市内最古の5世紀中葉に比定される19号住居跡が検出されているほか、更に北東方向に位置する城山・中野遺跡でも5世紀後葉～末葉の住居跡が十数件以上検出されている。31号住居跡に関しては、むしろ中道・城山・中野遺跡に属する集団との関連性を問うべきかもしれない。



5世紀末葉に17・20・31号住居跡が築造された後、後続して6世紀初頭に20・22号住居跡が築造される。次いで6世紀前葉から後半にかけて連綿と住居跡が築造されていくが、現時点で7世紀代の住居跡は確認されておらず、7世紀代に本遺跡の集落は一度断絶ないしは大幅に縮小するようである。奈良時代（8世紀前葉）以降、再び住居跡が散在して築造されるが、小規模に留まり、この段階では完全に集落の中心は他の遺跡に移行していったものと推測される。



第153図 西原大塚遺跡古墳時代後期住居跡分布図（1 / 4,000）

第4章 調査のまとめ

遺構番号	地点	時代	長軸(m)	短軸(m)	カマド方位	掲載報告書
1H	8	平安	(5.30)	(2.50)	北	佐々木・尾形 1990 佐々木・内野・宮川 2009
2H	8	平安	(4.50)	(1.20)	東	佐々木・尾形 1990
3H	8	平安	(2.20)	(2.00)	東	佐々木・尾形 1990
4H	4 II	平安	(3.60)	(2.90)	—	佐々木・内野・宮川 2009
5H	15 II	平安	4.60	4.20	北東	佐々木・内野・宮川 2009
6H	34	平安	3.80	3.05	北	佐々木・尾形 1997
7H	欠番					
8H	7 V	奈良(8世紀後葉)	4.50	4.25	北	佐々木・内野・宮川 2009
9H	35	奈良(8世紀前葉)	—	—	—	未報告
10H	35	奈良(8世紀前葉)	—	—	—	未報告
11H	45	古墳後期(6世紀後半)	5.20	5.16	北	佐々木・関根・上田・内野・宮川 2000
12H	45	古墳後期(6世紀後半)	5.70	5.60	東	佐々木・関根・上田・内野・宮川 2000
13H	43	古墳後期か	7.40	7.40	北	尾形・佐々木・内野・宮川 2001
14H	24 II	古墳後期(6世紀中葉)☆	(3.80)	4.56	—	佐々木・内野・宮川 2009
15H	13 IV	古墳後期～平安	(2.10)	(2.00)	—	佐々木・内野・宮川 2009
16H	13 IV	古墳後期(6世紀前葉)☆	(3.20)	(3.15)	北西	佐々木・内野・宮川 2009
17H	74	古墳後期(5世紀末葉)☆	4.30	(3.35)	北東	佐々木・内野・宮川 2009
18H	74	古墳後期(6世紀初頭)☆	10.00	(6.80)	北東	佐々木・内野・宮川 2009
19H	67 II	奈良(8世紀中葉)	4.62	4.15	北西	佐々木・内野・宮川 2009
19H(※)	154	奈良(8世紀前葉)	(2.75)	4.85	北東	尾形・深井・青木 2008
20H	74	古墳後期(5世紀末葉)☆	(4.95)	4.60	西か	佐々木・内野・宮川 2009
21H	130	奈良(8世紀後葉)	4.55	4.20	北	佐々木・内野・宮川 2009
22H	159	古墳後期(6世紀初頭)	(1.23)	(0.85)	—	尾形・徳留・深井・青木 2013
23H	228	奈良(8世紀後半)	3.72	3.56	北	尾形・徳留・大久保・宅間・小森 2021
24H	228	奈良～平安	3.50	3.08	北	尾形・徳留・大久保・宅間・小森 2021
25H	228	奈良(8世紀前葉)	4.18	3.30	北	尾形・徳留・大久保・宅間・小森 2021
26H	223	奈良(8世紀後葉)	3.84	3.78	北	尾形・徳留・大久保・坂下・遠藤・小森 2021
27H	223	奈良(8世紀中葉)	3.93	3.12	北	尾形・徳留・大久保・坂下・遠藤・小森 2021
28H	231	古墳後期～平安	2.70	2.60	北	大久保・尾形 2021
29H	234	古墳前期後半～中期初頭	(3.17)	(3.00)	なし	尾形・徳留・大久保・小林・福泉・石川 2022
30H	225④	古墳後期～平安	—	—	—	未報告
31H	235	古墳後期(5世紀末葉)	6.92	6.86	北西	本書

☆今年度刊行予定の『埋蔵文化財発掘調査報告書9』志木市の文化財第91集にて再考察された時期を提示。  
 ※19Hは遺構番号が重複する。また7Hは欠番のため、差し引き31軒となる。

第51表 西原大塚遺跡古墳時代～平安時代住居跡一覧

---

## 第4節 中世以降

---

中世以降の遺構として、掘立柱建築遺構1棟、土坑26基（内2基は地下式坑）、井戸跡2基、畝状遺構群1か所、ピット112本が検出された。ここでは良好な遺物が出土した5号掘立柱建築遺構について、若干の考察を行いたい。

### （1）5号掘立柱建築遺構について

5号掘立柱建築遺構は、桁行3間×梁行1間、東西棟の側柱建物である。時期は出土遺物から近世（17世紀後葉）に比定される。規模は桁行総長5.36m、梁行総長3.53m、柱間隔は桁行方向1.65～1.92m、梁行方向3.38～3.53mを測る（第113図）。束柱は確認されなかったが、建物内部で959号土坑（長軸0.98m×短軸0.93m以上×深さ0.12m）が検出された。床面または床面の一部に竪穴状の掘り込みを有する建物は、竪穴付掘立柱建物と呼称され、竪穴部の用途として鍛冶工房・厩舎・風呂等が想定される遺構が複数例検出されているが（第153図）、959号土坑は単純な構造で掘り込みも浅いことから、付帯施設となる可能性は低いと考えられる。

外部施設に目を向けると、東西南北全方位で庇・塀等は確認されなかったが、P1西側で検出された41号ピットは、P1～P4を結ぶ軸線と同一軸に位置し、P8南側で検出された52号ピットは、P4・P8を結ぶ軸線と同一軸に位置することから、5号掘立柱建築遺構との関連性が窺える（第112図）。

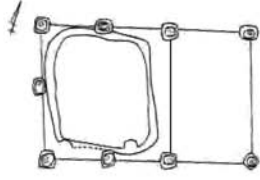
次に出土遺物について述べたい。北西隅を形成するP1・2・5から陶器（碗・香炉）計4点が出土した。以下にそれぞれの出土状況について概観する。

P1からは瀬戸・美濃系の香炉（第114図4）が1点出た。出土層位は互層状を呈する柱掘方の覆土中層である。P2からは瀬戸・美濃系の天目形中碗（第114図1）が1点出た。出土層位は柱掘方の覆土上層である。P5からは肥前系（嬉野）の中碗（第114図2・3）が2点出た。出土層位は共に柱痕跡部覆土中層である。2・3については柱の根腐れ時に移動した可能性が考えられるが、本来は4点全て柱掘方覆土内に遺棄ないし埋納されたものと推測される。4点の陶器はいずれも口縁部が概ね半周分欠損しており、人為的な打ち欠きが想定されることから、遺棄と捉えるよりは、柱を立てる際に一緒に埋納されたかと捉えるのが妥当と考えられるが、管見の限りでは他に類例は確認されていない。

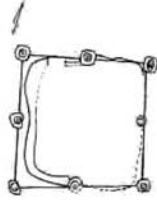
「埋納」とは、何らかの意図をもって地中にモノを埋める行為であり、埋納行為の一形態として「地鎮」がある。地鎮とは建物の建築に先立って行われる、土地を鎮めるための宗教儀礼であり、古代から現代に至るまで様々な地鎮が全国各地で執り行われている。5号掘立柱建築遺構が築造された近世前半期においても、江戸遺跡を中心に33例が確認されている（関口 2004）。埋納された遺物は、仏像・仏具・呪符木簡・墨書かわらけ等の宗教関連遺物や銭貨・装飾品等の副葬関連遺物を中心とする。これらの遺物に共伴して日常什器が埋納される例も少ないながら確認されているが、5号掘立柱建築遺構の様に日常什器のみを埋納する例は未だ確認されていない。忌むべき方位である鬼門を示す北東、対をなす裏鬼門を示す南西ではなく、北西に打ち欠かれた陶器を埋納した意図は図りかねるが、風水では北西は主人の方位と呼ばれ、出世運や金運に影響すると言われていることから、都市部から離れた農村部における民間信仰（験担ぎ）である可能性を提示するに留めたい。



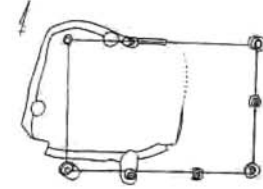
217. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡  
K27号掘立柱建物址



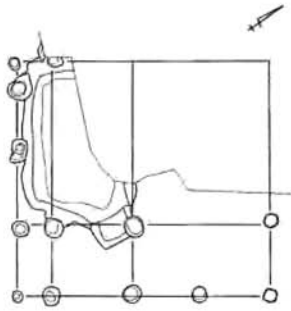
218. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡  
K28号掘立柱建物址



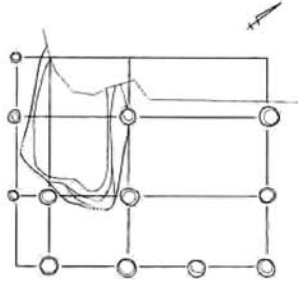
224. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡  
K37号掘立柱建物址



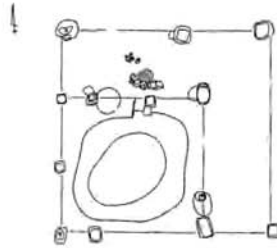
144. 半原向原遺跡  
K1号掘立柱建物址



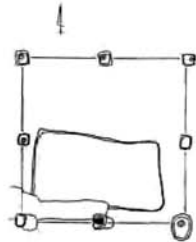
145. 半原向原遺跡  
K2号掘立柱建物址



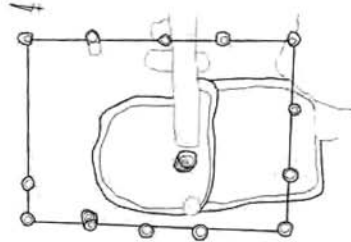
174. 宮ヶ瀬遺跡群北原(No.9)遺跡  
K10号掘立柱建物址



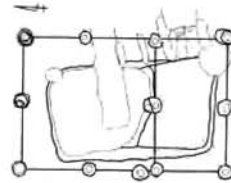
176. 宮ヶ瀬遺跡群北原(No.9)遺跡  
K12号掘立柱建物址



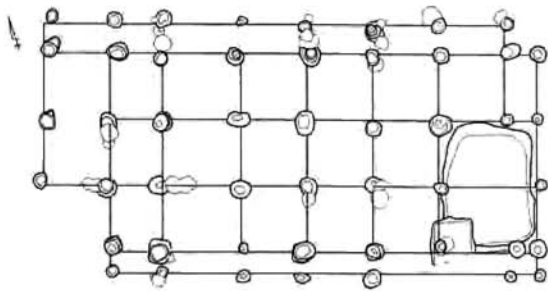
250. 津久井城跡馬込地区  
K4号掘立柱建物址



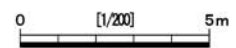
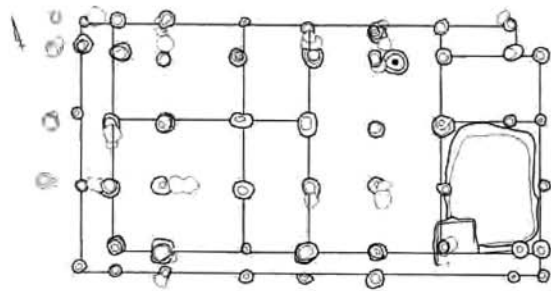
251. 津久井城跡馬込地区  
K5号掘立柱建物址



240. はじめ沢下遺跡  
K1号掘立柱建物址a



241. はじめ沢下遺跡  
K1号掘立柱建物址b



第154図 竪穴付掘立柱建物(1/200)(近世研究プロジェクトチーム 2015より転載)

## [引用・参考文献]

- 愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』
- 青嶋邦夫 2005「集石遺構・礫群における礫の移動について」『静岡県考古学研究』37号 静岡県考古学会
- 赤塚次郎 1990『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第10集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 赤塚次郎 1992『山中遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第40集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 赤塚次郎 1997『西上免遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第73集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 安藤広道 2015「久ヶ原・弥生町期の未来？」『考古学リーダー24 列島東部における弥生後期の変革』六一書房
- 石坂俊郎 2017「屋内祭祀の舞台ー赤砂・小砂利の「祭壇状遺構」ー」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第10号 埼玉県立さきたま史跡の博物館
- 2018「屋内祭祀の舞台（2）ームラの中の祭壇付住居ー」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第11号 埼玉県立さきたま史跡の博物館
- 2019「屋内祭祀の舞台（3）ー「貯蔵穴」の諸相」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第12号 埼玉県立さきたま史跡の博物館
- 大川 清・鈴木公雄・工楽善通編 1996『日本土器事典』雄山閣
- 大久保聡・尾形則敏 2020『西原大塚遺跡第220地点 西原大塚遺跡第222地点 西原大塚遺跡第227地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第75集 埼玉県志木市教育委員会
- 大久保聡・尾形則敏 2021『西原大塚遺跡第231地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第80集 埼玉県志木市教育委員会
- 大田区立郷土博物館 2017『土器から見た大田区の弥生時代ー久ヶ原遺跡発見、90年ー』平成28年度特別展図録
- 大村 直 2004「久ヶ原式・山田橋式の構成原理ー東京湾岸地域後期弥生土器型式の特質と移住・物流ー」『史館』第33号 史館同人
- 尾形則敏 1999「いわゆる「比企型坏」の編年基準の要点ー小地域を対象とした編年の確立に向けてー」『あらかわ』第2号 あらかわ考古談話会
- 2000「志木市における古墳時代の土師器の編年（1）ー5世紀から7世紀の环形土器の変遷ー」『あらかわ』第3号 あらかわ考古談話会
- 2001「志木市における古墳時代の土師器の編年（2）ー5世紀から7世紀の甑・甕形土器の変遷ー」『あらかわ』第4号 あらかわ考古談話会
- 2002「武蔵野台地北西部における古墳時代の地域性ー集落を中心とする5世紀から7世紀の土器様相ー」『あらかわ』第5号 あらかわ考古談話会
- 2004「荒川下流域右岸地域における古墳時代中・後期の様相ー東京西北～東北部を中心とした5～7世紀の遺跡と土器様相ー」『あらかわ』第7号 あらかわ考古談話会
- 尾形則敏・佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳 2001『志木市遺跡群11』志木市の文化財第30集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・深井恵子 2001『埋蔵文化財調査報告書2』志木市の文化財第31集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・深井恵子・青木 修 2005『城山遺跡第42地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 尾形則敏・深井恵子・青木 修 2007『新邸遺跡第8地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第11集 埼玉県志木市遺跡調査会

#### 第4章 調査のまとめ

- 尾形則敏・深井恵子・青木 修 2008『西原大塚遺跡第138地点 西原大塚遺跡第154地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』  
志木市遺跡調査会調査報告第14集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 尾形則敏・徳留彰紀・深井恵子・青木 修 2013『志木市遺跡群20』志木市の文化財第51集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・大久保聡・中山哲也・二瓶秀幸・稲村太郎・加藤夏姫 2013『城山遺跡第71地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』  
志木市の文化財第54集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・大久保聡・深井恵子・青木 修 2019『西原大塚遺跡第213地点 中野遺跡第102地点 中野遺跡第104地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第72集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・大久保聡・成島一也・西川忠春 2020『西原大塚遺跡第224地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第74集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡・遠竹陽一郎・坂下貴則・宅間清公 2021『城山遺跡第96地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第78集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡・宅間清公・小森暁生 2021『西原大塚遺跡第228地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第79集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡・坂下貴則・遠藤知成・小森暁生 2021『西原大塚遺跡第223地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第83集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡・小林陽子・福泉 藍・石川安司 2022『西原大塚遺跡第234地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第86集 埼玉県志木市教育委員会
- 加納俊介・石黒立人編 2002『弥生土器の様式と編年—東海編』木耳社
- 近世研究プロジェクトチーム 2015「近世民家の集成(11)」『研究紀要20 かながわの考古学』公益財団法人かながわ考古学財団
- 工藤雄一郎 2012『旧石器・縄文時代の環境文化史—高精度放射性炭素年代測定と考古学—』新泉社
- 黒澤 聡 1994『千葉県袖ヶ浦市下向山遺跡』財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書94 財団法人君津郡市文化財センター
- 黒沢 浩 2004「五領遺跡出土土器の再検討に向けて—「五領式土器」見直しへの序説—」『明治大学博物館研究報告』第9号 明治大学博物館
- 公益財団法人千葉県教育振興財団 2019『eco 生活事始め』令和元年度出土遺物公開事業図録
- 小林達雄編 2008『総覧 縄文土器』株式会社UM Promotion
- 財団法人印旛郡市文化財センター 2010『広報誌 フィールドブック』vol.31
- 坂本和俊 2015「古墳時代東国の土器を使わない製塩と塩の流通痕跡」『埼玉考古』第50号 埼玉考古学会
- 佐々木保俊・尾形則敏 1986『新邸遺跡発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第2集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 佐々木保俊・尾形則敏 1987『新邸遺跡第2地点 西原大塚遺跡第4地点 発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第3集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 佐々木保俊・尾形則敏 1989『志木市遺跡群I』志木市の文化財第13集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・尾形則敏 1990『志木市遺跡群II』志木市の文化財第14集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・尾形則敏 1991『西原大塚遺跡第7地点 新邸遺跡第3地点 中野遺跡第7地点 中野遺跡第8地点 城山遺跡第6地点 発掘調査報告書』志木市の文化財第15集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・尾形則敏 1992『志木市遺跡群IV』志木市の文化財第17集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・尾形則敏 1997『志木市遺跡群VII』志木市の文化財第25集 埼玉県志木市教育委員会



- 佐々木保俊・関根正明・上田 寛・内野美津江・宮川幸佳 2000『西原大塚遺跡第45地点 発掘調査報告書』志木市遺跡調査  
会調査報告第6集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳 2009『西原大塚遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』志木市遺跡調査会調査報告第13集 埼玉県志木市遺跡  
調査会
- 佐々木保俊・尾形則敏・坂上直嗣・青池紀子・高瀬克範・鈴木伸哉・能城修一 2009『西原大塚遺跡第108地点 埋蔵文化財発  
掘調査報告書』志木市の文化財第42集  
埼玉県志木市教育委員会
- 鯨島和大 1994「南関東弥生時代後期における縄文施文の二つの系統」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第12号
- 十菱駿武 1984『下山北遺跡』世田谷区教育委員会
- 鈴木忠司 2005「石蒸し調理実験の成果と岩宿時代の植物食」『月刊考古学ジャーナル』No.531 ニューサイエンス社
- 関口慶久 2004「江戸の地鎮と埋納」『江戸の祈り 信仰と願望』吉川弘文館
- 竹内直文 2005「礫群の重量分布検討の意義」『月刊考古学ジャーナル』No.531 ニューサイエンス社
- 田村 隆 2015「礫群の形成、特に閉鎖式ピット・オープンについて」『研究連絡誌』No.76 公益財団法人千葉県教育振興財団  
文化財センター
- 地域と考古学の会編 2021『東海と関東の後期弥生社会と交流(1)・(2)・(3)』地域と考古学の会
- 中世土器研究会 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 都出比呂志 1989『日本農耕社会の成立過程』岩波書店
- 寺沢 薫 1986「畿内産古式土師器の編年と二・三の問題」『矢部遺跡』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告49 奈良県教育委  
員会
- 徳留彰紀・尾形則敏・青木 修 2017『市場裏遺跡第23地点 城山遺跡第87地点 西原大塚遺跡第207地点 中野遺跡第95  
地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第68集 埼玉県志木市教育委員会
- 中嶋郁夫 1991「東遠江における後期弥生土器編年と土器移動」『東海系土器の移動から見た東日本の後期弥生土器』東海埋蔵文  
化財研究会
- 中村倉司 1989「関東地方における竈・大形甕・須恵器出現時期の地域差」『研究紀要』第6号 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査  
事業団
- 1999「埼玉県における5世紀代の土器—和泉式土器の行方—」『東国土器研究』第5号 東国土器研究会
- 比田井克仁 2001『関東における古墳出現期の変革』雄山閣
- 2004『古墳出現期の土器交流とその原理』雄山閣
- 広瀬千絵 2011『千葉県印西市天神前遺跡』財団法人印旛都市文化財センター発掘調査報告書292 財団法人印旛都市文化財セ  
ンター
- 藤岡孝司 1983「粗製な器台状脚形土器について」『研究連絡誌』No.2 公益財団法人千葉県教育振興財団文化財センター
- 古谷紀之 2013「横浜市都筑区北川谷遺跡群における弥生時代後期～古墳時代前期の土器編年」『横浜市歴史博物館紀要』第17号
- 保坂康夫 2005「礫群研究の新視点」『月刊考古学ジャーナル』No.531 ニューサイエンス社
- 松本 完 2005「久ヶ原式」『考古学リーダー5 南関東の弥生土器』六一書房
- 2022「児玉地域における古墳時代前期の土器様相(上)—女堀川・旧赤根川流域の古墳時代前期の土器の分析を中心  
として—」『調査研究報告』第1号 本庄早稲田の杜ミュージアム
- 瑞穂町教育委員会・シン技術コンサル編 2011『松原遺跡』東京都西多摩郡瑞穂町教育委員会
- 宮川幸佳 2003「西原大塚遺跡における方形周溝墓出土土器」『埼玉考古—弥生時代特集—』第38号 埼玉考古学会

第4章 調査のまとめ

築瀬裕一 2006「地下式坑の分類と編年試論—中馬場遺跡他の千葉県事例をもとに—」『房総中近世考古』第2号 房総中近世考古学研究会

吉田 格・横山昭一・藤沼由貴子・松澤浩一 1996『東京都目黒区 円融寺南遺跡』目黒区埋蔵文化財発掘調査報告書第8集 目黒区円融寺南遺跡調査会

[付 編]

自 然 科 学 分 析



# I. 西原大塚遺跡第 235 地点の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtadze・黒沼保子

## (1) はじめに

埼玉県志木市の西原大塚遺跡第 235 地点から出土した炭化材について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

## (2) 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第 52 表のとおりである。試料は、旧石器時代の遺構と推測される 5 礫から出土した炭化材 2 点（遺物 No. 5 礫-炭 1 : PLD - 47250、遺物 No. 5 礫-炭 2 : PLD - 47251）と、古墳時代前期の遺構と推測される住居跡 651 Y から出土した炭化材 2 点（遺物 No.651 Y \_ H - 1 : PLD - 47252、遺物 No.651 Y \_ L - 4 : PLD - 47253）の、合計 4 点である。炭化材はいずれも最終形成年輪が残存しておらず、部位不明であった。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた  $^{14}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD - 47250	遺構 : 5 礫 遺物 No. 5 礫-炭 1	種類 : 炭化材 (不明) 試料の性状 : 最終形成年輪以外、部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L, 塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD - 47251	遺構 : 5 礫 遺物 No. 5 礫-炭 2	種類 : 炭化材 (不明) 試料の性状 : 最終形成年輪以外、部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L, 塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD - 47252	遺構 : 651 Y 遺物 No.651 Y _ H - 1	種類 : 炭化材 (コナラ属コナラ節) 試料の性状 : 最終形成年輪以外、部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L, 塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD - 47253	遺構 : 651 Y 遺物 No.651 Y _ L - 4	種類 : 炭化材 (コナラ属コナラ節) 試料の性状 : 最終形成年輪以外、部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L, 塩酸 : 1.2 mol/L)

第 52 表 測定試料および処理

## (3) 結果

第 53 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した  $^{14}\text{C}$  年代、第 155 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$  年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$  年代 (yrBP) の算出には、 $^{14}\text{C}$

の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した  $^{14}\text{C}$  年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその  $^{14}\text{C}$  年代誤差内に入る確率が 68.27% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された  $^{14}\text{C}$  年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、および半減期の違い ( $^{14}\text{C}$  の半減期 5730  $\pm$  40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$  年代の暦年較正には OxCal4.4 (較正曲線データ: IntCal20) を使用した。なお、 $1\sigma$  暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された  $^{14}\text{C}$  年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に  $2\sigma$  暦年代範囲は 95.45% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は  $^{14}\text{C}$  年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				$1\sigma$ 暦年代範囲	$2\sigma$ 暦年代範囲
PLD - 47250 遺物 No.5 礫-炭 1	$-27.78 \pm 0.29$	$16984 \pm 48$	$16985 \pm 50$	18613 - 18499 cal BC (68.27%)	18759 - 18432 cal BC (95.45%)
PLD - 47251 遺物 No.5 礫-炭 2	$-25.99 \pm 0.28$	$2804 \pm 20$	$2805 \pm 20$	986 - 922 cal BC (68.27%)	1010 - 904 cal BC (95.45%)
PLD - 47252 遺物 No.651Y_H-1	$-26.61 \pm 0.28$	$1776 \pm 20$	$1775 \pm 20$	244 - 254 cal AD (14.25%) 287 - 325 cal AD (54.02%)	234 - 261 cal AD (25.43%) 276 - 340 cal AD (70.02%)
PLD - 47253 遺物 No.651Y_L-4	$-27.57 \pm 0.28$	$1731 \pm 20$	$1730 \pm 20$	256 - 284 cal AD (26.74%) 326 - 364 cal AD (38.19%) 370 - 375 cal AD (3.34%)	250 - 294 cal AD (33.78%) 314 - 404 cal AD (61.67%)

第 53 表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

#### (4) 考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち、 $2\sigma$  暦年代範囲 (確率 95.45%) に着目して結果を整理する。なお、縄文時代の土器編年と暦年代の対応関係については小林 (2017) を、弥生時代の暦年代については藤尾 (2013) を、古墳時代の暦年代については赤塚 (2009) を参照した。

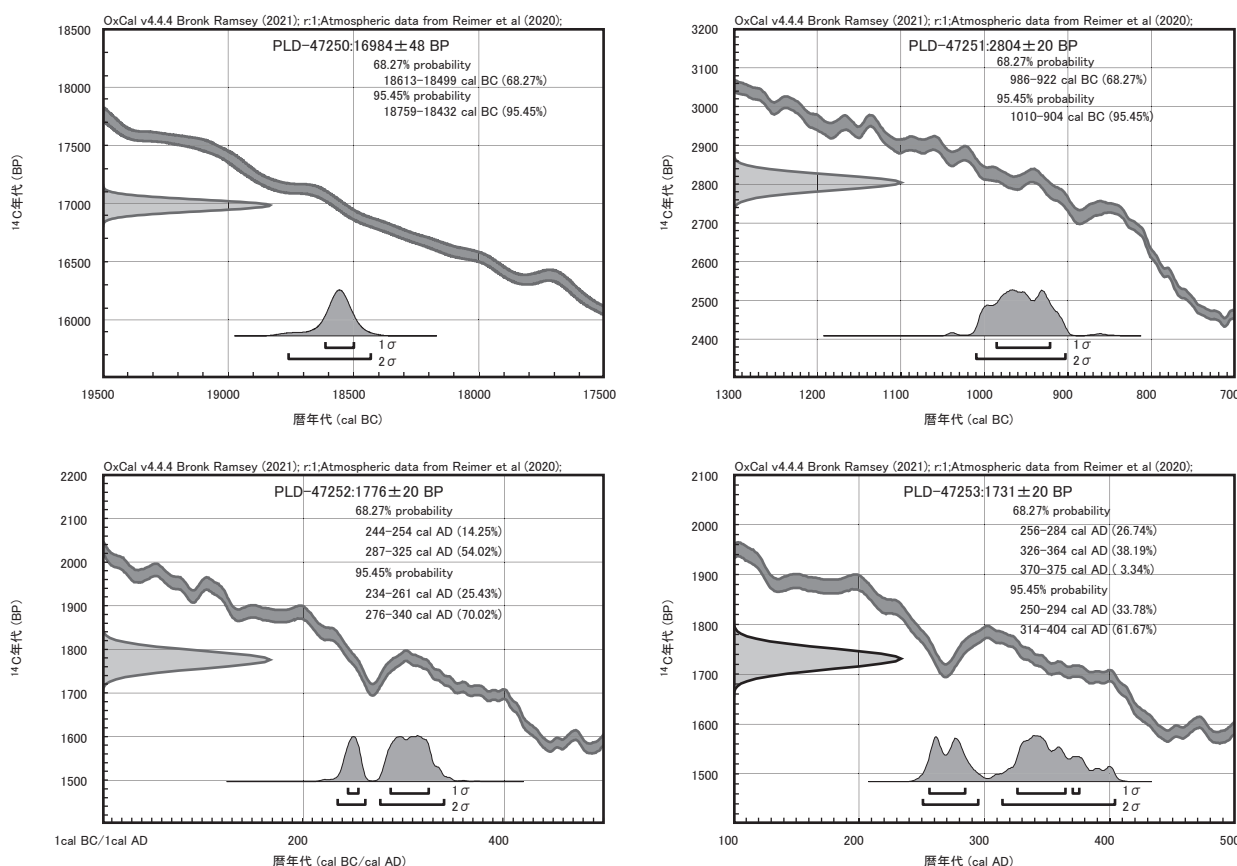
遺物 No.5 礫-炭 1 (PLD - 47250) は、18759 - 18432 cal BC (95.45%) の暦年代範囲を示した。これは後期旧石器時代に相当し、推定時期の旧石器時代に対して整合的である。遺物 No.5 礫-炭 2 (PLD - 47251) は、1010 - 904 cal BC (95.45%) の暦年代範囲を示した。これは、縄文時代晩期前葉~中葉に相当し、推定時期よりも新しい年代であった。

遺物 No.651Y\_H-1 (PLD - 47252) は、234 - 261 cal AD (25.43%) および 276 - 340 cal AD (70.02%) の暦年代範囲を示した。これは、弥生時代後期~古墳時代前期に相当する。遺物 No.651Y\_L-4 (PLD - 47253) は、250 - 294 cal AD (33.78%) および 314 - 404 cal AD (61.67%) の暦年代範囲を示した。これは、古墳時代前期~中期に相当する。どちらも遺構の推定時期である古墳時代前期に対して整合的である。

木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる (古木効果)。今回の試料は、いずれも最終形成年輪が残存して



おらず、残存している最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずである。したがって、その木が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられる。



第 155 図 暦年較正結果

### 【引用・参考文献】

- 赤塚次郎 2009「弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代」『日本文化財科学会第 26 回大会研究発表要旨集』 p14-20 日本文化財科学会
- Bronk Ramsey, C. 2009 『Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51 (1)』 p337-360
- 藤尾慎一郎 2013 『弥生文化像の新構築』 p292 吉川弘文館
- 小林謙一 2017 『縄紋時代の実年代—土器型式編年と炭素 14 年代—』 p263 同成社
- 中村俊夫 2000 「日本先史時代の  $^{14}\text{C}$  年代」『放射性炭素年代測定法の基礎 日本先史時代の  $^{14}\text{C}$  年代編集委員会編』 p3-20 日本第四紀学会
- Reimer, P. J., Austin, W. E. N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., Heaton, T. J., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kromer, B., Manning, S. W., Muscheler, R., Palmer, J. G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Turney, C. S. M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S. M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62 (4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

## II. 西原大塚遺跡第 235 地点の黒曜石産地同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

田中 義文

### (1) 試料

分析に供された試料は、志木市西原大塚遺跡から出土した、黒曜石製の石器 36 点である。なお、試料名は試料に記述してある名称を用いた。

### (2) 分析方法

#### 1. エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 (EDX) による測定

本分析の特徴は、試料の非破壊による測定が可能であり、かつ多元素を同時に分析できることが利点として挙げられる。一方、非破壊分析である以上、測定は試料表面のみが対象となることから、表面が汚れた試料や風化してしまっている試料については試料の洗浄あるいは測定面の選択が必要となる。本分析では試料が貴重な遺物であることから、汚れが少なく、風化が進んでいない面を選択して測定を行っている。ただし、表面の風化、汚れが目立つ場合は、メラミンスポンジを用いて洗浄したあと分析を実施している。

本分析で使用した装置は、セイコーインスツルメンツ製エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 (SEA 2120L) であり、X 線管球はロジウム (Rh)、検出器は Si (Li) 半導体検出器である。測定条件は、励起電圧 50kV、管電流自動設定 ( $\mu$ A)、測定時間 600 秒、コリメータ (照射径)  $\phi$  10.0mm、フィルターなし、測定室雰囲気は真空である。測定元素は、Al (アルミニウム)、Si (ケイ素)、K (カリウム)、Ca (カルシウム)、Ti (チタン)、Mn (マンガン)、Fe (鉄)、Rb (ルビジウム)、Sr (ストロンチウム)、Y (イットリウム)、Zr (ジルコニウム) の 11 元素であり、測定試料全てにおいてマイラー膜 (PE, 2.5  $\mu$ m; ケンプレックス製 CatNo107) を介して元素 X 線強度 (cps) を測定した。

#### 2. 産地推定方法

産地推定は、望月 (2004 など) による方法に従い、測定結果 (元素 X 線強度 (cps)) から、5 つの判別指標値を求める。5 つの判別指標値は、Rb 分率  $\{Rb \times 100 / (Rb + Sr + Y + Zr)\}$ 、Sr 分率  $\{Sr \times 100 / (Rb + Sr + Y + Zr)\}$ 、Zr 分率  $\{Zr \times 100 / (Rb + Sr + Y + Zr)\}$ 、 $Mn \times 100 / Fe$ 、 $\text{Log} (Fe/K)$  である。

一方、産地推定に必要な原産地の資料に関しては、望月 (2004) で用いられている原産地試料の分析データを使い、原産地判定用資料を作成する。今回産地推定に用いた黒曜石原産地を第 156 図に示す。

原産地試料のデータを、Rb 分率と  $Mn \times 100 / Fe$ 、Sr 分率と  $\text{Log} (Fe/K)$  についてグラフ化する。また、グラフを元に作成した二次元正規密度分布、ならびに判別指標値から作成した多次元密度分布の結果から、原産地を元にした判別群を設定する。その名称ならびに判別群と原産地との関係を第 54 表に示す。

Rb 分率と  $Mn \times 100 / Fe$ 、Sr 分率と  $\text{Log} (Fe/K)$  のグラフ中に、各判別群の重心より  $2\sigma$  (約 95%) の範囲を示す楕円を書く (原産地試料の各分析データは図が煩雑になるため割愛する)。これに、遺跡出土試料の分析結果を重ね合わせることで、産地推定の指標の一つとなる。



第 156 図 黒曜石産地一覽

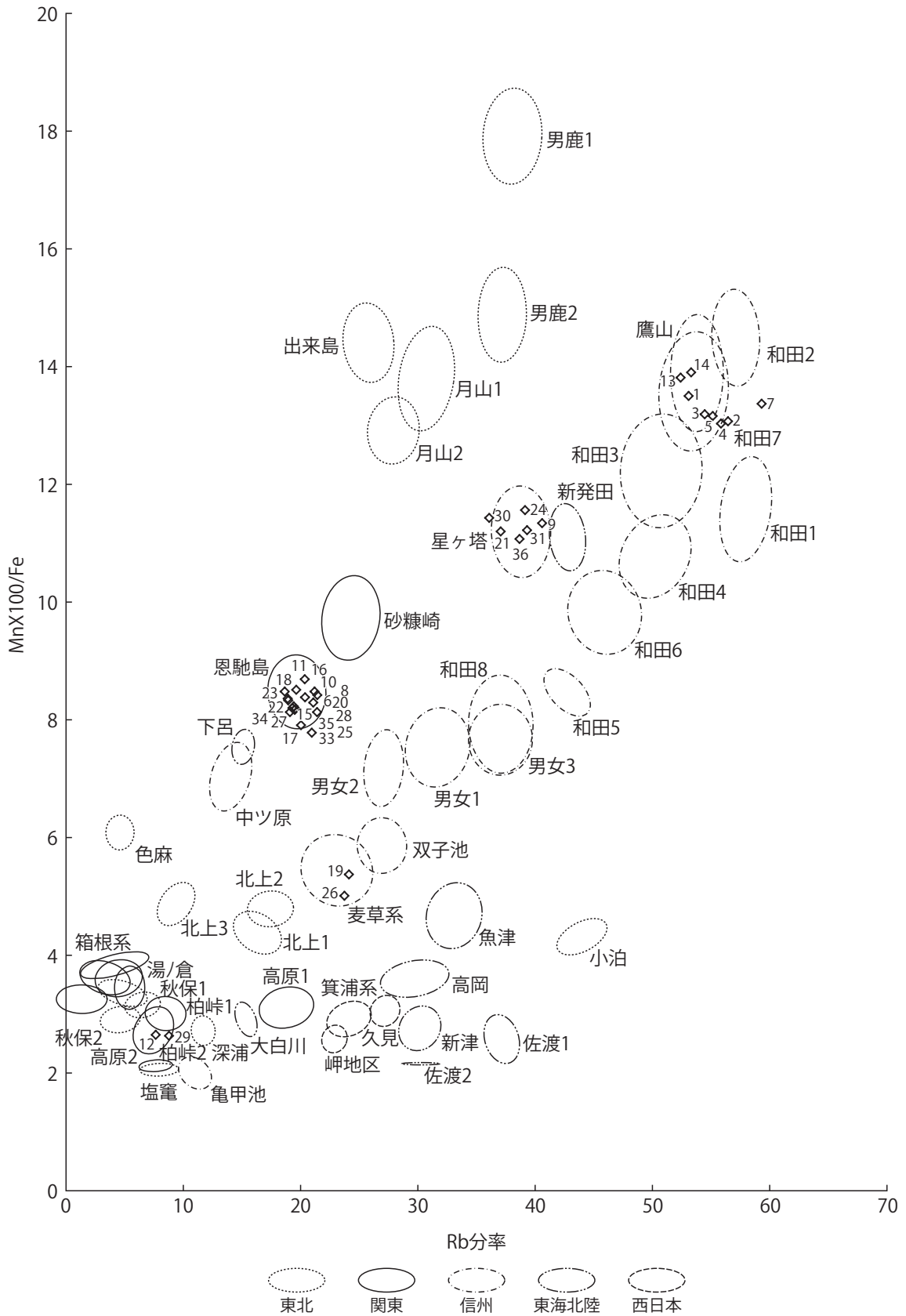
II. 西原大塚遺跡第 235 地点の黒曜石産地同定

大分類	中分類	判別群	記号	該当する原産地
東北	深浦	深浦	深浦	岡崎浜、深浦公園、日和見、六角沢、八森山
東北	岩木山	出来島	出来島	出来島
東北	男鹿	男鹿 1 群	男鹿 1	金ヶ崎、脇本
東北	男鹿	男鹿 2 群	男鹿 2	脇本
東北	月山	月山 1 群	月山 1	西川町志津、朝日町田代沢など
東北	月山	月山 2 群	月山 2	鶴岡市今野川、鶴岡市大綱川
東北	北上	北上 1 群	北上 1	水沢折居、花泉日形田ノ沢、雫石小赤沢
東北	北上	北上 2 群	北上 2	水沢折居、花泉日形田ノ沢、雫石小赤沢
東北	北上	北上 3 群	北上 3	水沢折居
東北	湯ノ倉	湯ノ倉	湯ノ倉	湯ノ倉
東北	秋保	秋保 1 群	秋保 1	秋保土蔵
東北	秋保	秋保 2 群	秋保 2	秋保土蔵
東北	色麻	色麻	色麻	色麻町根岸
東北	塩竈	塩竈港群	塩竈	塩竈市塩竈漁港
東北	小泊	小泊	小泊	青森小泊村折腰内
関東	天城	柏峠 1 群、2 群	柏峠 1, 柏峠 2	天城柏峠
関東	箱根	畑宿	畑宿	箱根畑宿
関東	箱根	鍛冶屋	鍛冶屋	箱根鍛冶屋
関東	箱根	黒岩橋	黒岩橋	箱根黒岩橋
関東	箱根	上多賀	上多賀	箱根上多賀
関東	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯	箱根芦ノ湯
関東	神津島	恩馳島	恩馳島	恩馳島、長浜
関東	神津島	砂糠崎	砂糠崎	砂糠崎、長浜
関東	高原山	高原 1 群	高原 1	甘湯沢、桜沢
関東	高原山	高原 2 群	高原 2	七尋沢
信州	霧ヶ峰	男女倉 1 群	男女 1	ぶどう沢、牧ヶ沢、高松沢、本沢下
信州	霧ヶ峰	男女倉 2 群	男女 2	ぶどう沢、牧ヶ沢
信州	霧ヶ峰	男女倉 3 群	男女 3	ぶどう沢、牧ヶ沢、高松沢、本沢下
信州	霧ヶ峰	鷹山系	鷹山	星糞峠、鷹山
信州	霧ヶ峰	西霧ヶ峰系	星ヶ塔	星ヶ塔、星ヶ台
信州	霧ヶ峰	和田峠 1 群	和田 1	古峠、土屋橋北
信州	霧ヶ峰	和田峠 2 群	和田 2	丁子御領、芙蓉パーライト、鷲ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠 3 群	和田 3	小深沢、芙蓉パーライト、新和田トンネル、土屋橋北、土屋橋東、18 地点、24 地点、26 地点、丁子御領、鷲ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠 4 群	和田 4	小深沢、芙蓉パーライト、新和田トンネル、土屋橋北、土屋橋西、土屋橋東、18 地点、24 地点、26 地点、丁子御領、鷲ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠 5 群	和田 5	24 地点、25 地点、26 地点、小深沢
信州	霧ヶ峰	和田峠 6 群	和田 6	小深沢、芙蓉パーライト、24 地点、25 地点、26 地点、土屋橋西、土屋橋東
信州	霧ヶ峰	和田峠 7 群	和田 7	東餅屋、芙蓉パーライト、古峠、丁子御領、鷲ヶ峰、土屋橋北
信州	霧ヶ峰	和田峠 8 群	和田 8	25 地点、26 地点、土屋橋東
信州	北八ヶ岳	横岳系双子池	双子池	双子池
信州	北八ヶ岳	横岳系亀甲池	亀甲池	亀甲池 播鉢池
信州	北八ヶ岳	冷山・麦草系	麦草系	冷山、麦草峠、双子池、渋ノ湯、八ヶ岳 7、八ヶ岳 9、長門美しの森
信州	北八ヶ岳	中ツ原	中ツ原	中ツ原（遺跡試料）
東海・北陸	新潟	新発田	新発田	新発田板山
東海・北陸	新潟	新津	新津	新津金津
東海・北陸	新潟	大白川	大白川	大白川
東海・北陸	新潟	佐渡 1 群、2 群	佐渡 1, 佐渡 2	真光寺、金井ニッ坂
東海・北陸	富山	魚津	魚津	草月上野
東海・北陸	富山	高岡	高岡	二上山
東海・北陸	岐阜	下呂市	下呂	湯ヶ峰
中国・四国	隠岐	久見	久見	久見
中国・四国	隠岐	岬地区	岬地区	隠岐岬
中国・四国	隠岐	箕浦系	箕浦系	箕浦、加茂赤土、岸浜

第 54 表 黒曜石原産地試料一覧

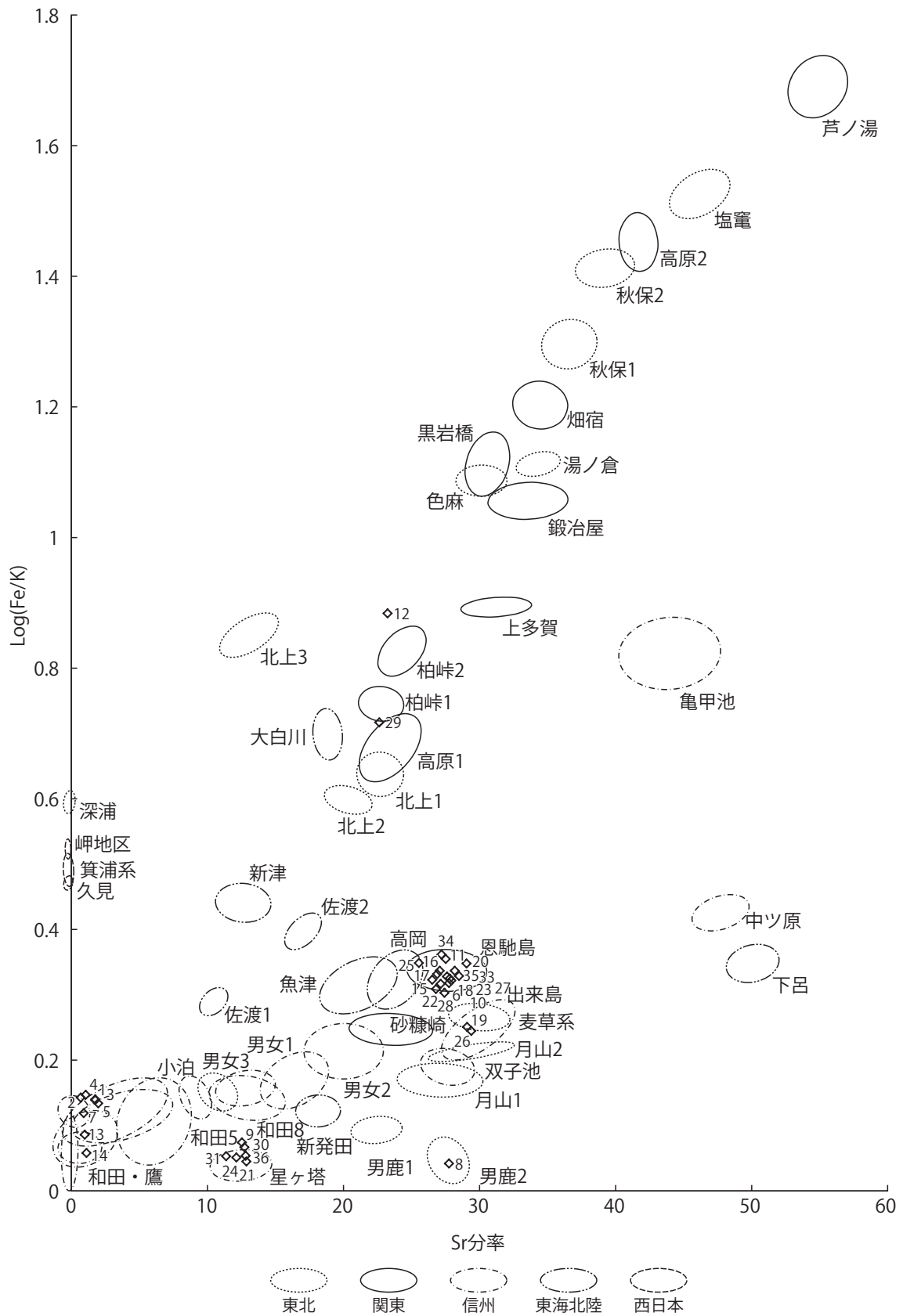
NO.	強度 (cps)												判別指標					試料名	挿図番号
	Al	Si	K	Ca	Ti	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb 分率	Sr 分率	Zr 分率	Mn×100 /Fe	log (Fe/K)			
1	62.61	514.13	64.41	18.38	1.61	11.99	88.82	31.79	1.05	13.89	13.15	53.09	1.75	21.96	13.50	0.140	20 U NO. 3	第14図9	
2	76.99	634.24	80.30	25.09	2.38	14.60	111.71	32.06	0.39	12.35	12.00	56.45	0.69	21.12	13.07	0.143	20 U NO. 4	—	
3	66.46	558.59	69.72	20.33	1.93	12.51	94.88	30.97	1.12	12.70	12.08	54.45	1.98	21.24	13.19	0.134	20 U NO. 5	—	
4	75.41	623.90	80.77	24.50	2.05	14.75	113.21	33.34	0.63	12.72	13.02	55.84	1.06	21.80	13.03	0.147	20 U NO. 6	—	
5	69.89	574.66	74.75	22.61	2.01	13.56	103.02	33.97	1.08	14.11	12.47	55.13	1.75	20.23	13.16	0.139	20 U NO. 8	—	
6	66.48	550.46	51.63	25.51	4.87	9.11	107.09	7.03	9.73	5.75	13.33	19.63	27.14	37.20	8.51	0.317	20 U NO. 9	—	
7	93.93	800.71	100.62	31.49	2.45	17.68	132.28	31.33	0.48	11.64	9.37	59.32	0.91	17.74	13.37	0.119	20 U NO.21	—	
8	83.99	692.39	111.91	37.96	5.46	10.37	123.14	7.41	9.59	5.63	11.93	21.44	27.75	34.52	8.42	0.042	22 U NO. 1	—	
9	75.44	631.39	79.27	28.34	3.93	10.66	94.04	16.55	5.11	6.67	12.44	40.60	12.53	30.51	11.34	0.074	22 U NO. 2	—	
10	76.55	651.00	60.09	27.88	5.56	10.23	120.59	6.68	9.83	5.85	13.48	18.64	27.42	37.62	8.48	0.303	22 U NO. 6	—	
11	59.74	484.76	41.43	27.39	4.10	8.15	93.78	6.42	8.68	3.93	12.52	20.36	27.51	39.68	8.69	0.355	22 U NO. 8	—	
12	65.11	472.20	32.55	42.50	9.65	6.61	248.97	4.09	12.42	6.58	30.37	7.65	23.23	56.81	2.65	0.884	22 U NO.11	—	
13	58.78	488.22	59.69	16.79	1.75	10.04	72.74	26.81	0.50	11.30	12.55	52.40	0.98	24.53	13.81	0.086	T P 14 NO. 1	第49図1	
14	55.23	453.78	64.56	17.37	1.80	10.26	73.75	27.19	0.57	11.71	11.55	53.30	1.11	22.64	13.90	0.058	2区攪乱	第133図2	
15	58.51	474.29	43.37	20.60	3.58	7.57	93.14	5.93	8.35	4.23	12.54	19.10	26.89	40.39	8.13	0.332	2区攪乱	第133図5	
16	60.59	498.31	47.98	24.28	4.29	8.67	102.18	6.96	9.07	4.17	12.64	21.20	27.61	38.50	8.48	0.328	T P 5	第133図6	
17	60.66	486.01	44.30	22.86	4.23	7.62	96.34	6.17	8.34	4.06	12.23	20.05	27.07	39.71	7.91	0.337	1区攪乱	第134図12	
18	58.81	479.81	44.46	20.57	3.84	7.73	92.54	6.14	9.02	4.90	12.44	18.90	27.75	38.27	8.36	0.318	641 Y	—	
19	55.28	466.57	53.53	19.74	5.13	5.12	95.36	9.45	11.39	3.66	14.67	24.12	29.09	37.44	5.37	0.251	643 Y	第133図8	
20	61.74	518.97	45.04	22.50	4.30	8.41	100.33	6.27	8.94	4.09	11.48	20.38	29.04	37.30	8.38	0.348	651 Y	第133図7	
21	60.59	491.92	65.82	18.76	2.88	8.18	73.06	13.39	4.65	6.89	11.21	37.07	12.86	31.01	11.20	0.045	653 Y	第134図13	
22	57.21	468.49	41.03	20.07	3.66	7.06	86.41	5.86	7.97	4.45	11.76	19.50	26.52	39.15	8.17	0.323	640 Y	—	
23	55.12	453.18	44.01	22.73	4.39	7.69	92.37	5.89	8.67	4.65	11.84	18.96	27.92	38.13	8.33	0.322	642 Y	—	
24	73.81	620.90	80.72	26.24	3.51	10.50	90.86	13.89	4.30	6.29	11.00	39.15	12.12	31.00	11.56	0.051	653 Y	—	
25	64.55	522.75	46.65	23.19	4.83	8.47	104.26	7.63	9.11	5.91	13.00	21.41	25.55	36.46	8.13	0.349	655 Y	—	
26	61.75	528.04	60.41	22.78	6.09	5.32	106.29	10.70	13.26	4.42	16.71	23.74	29.40	37.06	5.01	0.245	40 P	—	
27	65.56	536.61	51.65	25.71	5.02	9.07	110.22	6.88	10.09	5.40	13.04	19.42	28.50	36.83	8.23	0.329	T P 3	—	
28	77.64	652.04	60.87	30.24	5.46	10.28	123.97	7.78	9.88	5.92	13.29	21.09	26.80	36.06	8.29	0.309	T P 10	—	
29	56.18	473.37	39.12	37.17	6.63	5.36	203.69	4.56	11.75	5.63	30.00	8.78	22.63	57.76	2.63	0.717	1区攪乱	—	
30	56.89	461.37	60.42	17.69	2.81	8.05	70.44	12.30	4.33	6.18	11.27	36.09	12.72	33.07	11.43	0.067	2区攪乱	—	
31	58.51	488.60	62.42	17.01	3.16	7.92	70.54	13.16	3.81	5.51	11.00	39.31	11.37	32.86	11.22	0.053	2区攪乱	—	
32	58.27	346.60	17.47	706.84	7.22	125.32	53.60	0.12	22.25	2.88	48.31	0.16	30.24	65.68	233.80	0.487	2区攪乱	—	
33	62.26	515.47	47.95	24.33	4.61	8.11	104.28	7.45	10.01	4.77	13.29	20.97	28.18	37.43	7.78	0.337	2区攪乱	—	
34	60.16	473.91	43.17	20.74	5.46	8.16	99.46	6.31	8.89	4.70	12.78	19.32	27.20	39.10	8.20	0.362	1区表土	—	
35	57.38	483.36	43.35	22.10	4.00	7.51	91.60	6.20	8.81	4.80	11.87	19.57	27.81	37.48	8.19	0.325	1区攪乱	第137図71	
36	65.39	542.00	68.49	19.57	3.04	8.58	77.50	14.53	4.81	5.74	12.48	38.68	12.81	33.23	11.07	0.054	651 Y	第137図70	

第 55 表 スペクトル強度と判別指標値



第 157 図 黒曜石産地推定結果 (1)





第 158 図 黒曜石産地推定結果 (2)

II. 西原大塚遺跡第 235 地点の黒曜石産地同定

NO.	4 成分									5 成分								
	第 1 候補			第 2 候補			第 3 候補			第 1 候補			第 2 候補			第 3 候補		
	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定
1	和田 7	13.1	TRUE	和田 3	18.7	FALSE	和田 2	36.5	FALSE	和田 3	23.6	FALSE	和田 7	24.2	FALSE	和田 2	37.0	FALSE
2	和田 7	19.3	FALSE	和田 2	21.3	FALSE	和田 3	30.0	FALSE	和田 7	23.7	FALSE	和田 2	24.2	FALSE	和田 3	31.3	FALSE
3	和田 7	10.1	TRUE	和田 3	16.7	FALSE	和田 2	32.1	FALSE	和田 7	18.2	FALSE	和田 3	20.6	FALSE	和田 2	33.5	FALSE
4	和田 7	18.4	FALSE	和田 2	26.1	FALSE	和田 3	26.9	FALSE	和田 7	20.0	FALSE	和田 3	27.1	FALSE	和田 2	33.7	FALSE
5	和田 7	13.6	TRUE	和田 3	21.4	FALSE	和田 2	27.6	FALSE	和田 2	27.6	FALSE	和田 3	30.1	FALSE	和田 7	31.3	FALSE
6	恩馳島	4.4	TRUE	砂糠崎	80.3	FALSE	男女 1	180.7	FALSE	恩馳島	6.4	TRUE	砂糠崎	81.1	FALSE	男女 1	229.6	FALSE
7	和田 2	20.5	FALSE	和田 7	37.7	FALSE	和田 1	54.1	FALSE	和田 2	21.2	FALSE	和田 1	55.3	FALSE	和田 7	57.6	FALSE
8	男女 2	201.7	FALSE	麦草系	267.4	FALSE	和田 8	292.0	FALSE	男女 2	264.6	FALSE	麦草系	301.7	FALSE	和田 8	335.6	FALSE
9	星ヶ塔	14.6	TRUE	和田 6	59.1	FALSE	和田 3	88.7	FALSE	星ヶ塔	14.7	TRUE	和田 6	69.0	FALSE	和田 3	106.3	FALSE
10	恩馳島	11.7	TRUE	砂糠崎	76.4	FALSE	男女 1	188.1	FALSE	恩馳島	13.4	TRUE	砂糠崎	78.0	FALSE	男女 1	243.5	FALSE
11	恩馳島	1.9	TRUE	砂糠崎	135.5	FALSE	男女 1	213.9	FALSE	恩馳島	3.1	TRUE	砂糠崎	144.7	FALSE	男女 1	217.2	FALSE
12	柏峠 2	28.4	FALSE	上多賀	141.8	FALSE	柏峠 1	171.6	FALSE	柏峠 2	31.7	FALSE	上多賀	153.4	FALSE	柏峠 1	189.3	FALSE
13	和田 7	2.6	TRUE	鷹山	4.5	TRUE	和田 3	21.3	FALSE	和田 7	3.1	TRUE	鷹山	4.8	TRUE	和田 3	21.3	FALSE
14	和田 7	2.3	TRUE	鷹山	2.4	TRUE	和田 3	29.5	FALSE	和田 7	3.8	TRUE	鷹山	4.0	TRUE	和田 3	32.6	FALSE
15	恩馳島	4.7	TRUE	砂糠崎	113.2	FALSE	男女 1	179.4	FALSE	恩馳島	5.6	TRUE	砂糠崎	123.3	FALSE	男女 1	191.2	FALSE
16	恩馳島	2.9	TRUE	砂糠崎	89.4	FALSE	男女 1	180.3	FALSE	恩馳島	3.7	TRUE	砂糠崎	95.6	FALSE	男女 1	186.0	FALSE
17	恩馳島	6.3	TRUE	砂糠崎	122.5	FALSE	男女 1	168.6	FALSE	恩馳島	7.2	TRUE	砂糠崎	130.4	FALSE	男女 1	177.6	FALSE
18	恩馳島	5.3	TRUE	砂糠崎	94.7	FALSE	男女 1	190.7	FALSE	恩馳島	5.6	TRUE	砂糠崎	98.2	FALSE	男女 1	224.3	FALSE
19	麦草系	1.5	TRUE	双子池	50.3	FALSE	男女 2	108.1	FALSE	麦草系	1.5	TRUE	双子池	59.2	FALSE	男女 2	111.5	FALSE
20	恩馳島	2.0	TRUE	砂糠崎	139.4	FALSE	男女 1	218.3	FALSE	恩馳島	2.0	TRUE	砂糠崎	142.3	FALSE	男女 1	232.2	FALSE
21	星ヶ塔	2.9	TRUE	和田 6	73.1	FALSE	和田 8	118.2	FALSE	星ヶ塔	3.5	TRUE	和田 6	73.5	FALSE	和田 8	121.5	FALSE
22	恩馳島	6.2	TRUE	砂糠崎	94.6	FALSE	男女 1	167.2	FALSE	恩馳島	6.2	TRUE	砂糠崎	99.1	FALSE	男女 1	193.4	FALSE
23	恩馳島	4.2	TRUE	砂糠崎	101.0	FALSE	男女 1	193.0	FALSE	恩馳島	4.5	TRUE	砂糠崎	104.3	FALSE	男女 1	226.0	FALSE
24	星ヶ塔	2.8	TRUE	和田 6	68.8	FALSE	和田 3	120.8	FALSE	星ヶ塔	3.0	TRUE	和田 6	73.9	FALSE	和田 3	130.5	FALSE
25	恩馳島	7.5	TRUE	砂糠崎	122.3	FALSE	男女 1	158.2	FALSE	恩馳島	12.2	TRUE	砂糠崎	122.5	FALSE	男女 1	214.7	FALSE
26	麦草系	4.2	TRUE	双子池	60.9	FALSE	男女 2	140.0	FALSE	麦草系	4.7	TRUE	双子池	68.7	FALSE	男女 2	147.5	FALSE
27	恩馳島	2.9	TRUE	砂糠崎	113.8	FALSE	男女 1	196.9	FALSE	恩馳島	4.4	TRUE	砂糠崎	114.7	FALSE	麦草系	235.2	FALSE
28	恩馳島	9.5	TRUE	砂糠崎	66.6	FALSE	男女 1	151.2	FALSE	恩馳島	12.2	TRUE	砂糠崎	66.6	FALSE	男女 1	202.1	FALSE
29	柏峠 1	22.7	FALSE	柏峠 2	71.7	FALSE	高原 1	169.2	FALSE	柏峠 1	26.3	FALSE	柏峠 2	72.1	FALSE	高原 1	191.3	FALSE
30	星ヶ塔	13.9	TRUE	和田 6	86.1	FALSE	和田 8	126.1	FALSE	星ヶ塔	16.2	FALSE	和田 6	90.1	FALSE	和田 8	126.3	FALSE
31	星ヶ塔	3.4	TRUE	和田 6	51.6	FALSE	和田 3	120.0	FALSE	星ヶ塔	5.3	TRUE	和田 6	62.8	FALSE	和田 8	123.8	FALSE
32	(黒曜石ではない?)																	
33	恩馳島	9.6	TRUE	砂糠崎	130.3	FALSE	男女 1	174.7	FALSE	恩馳島	9.6	TRUE	砂糠崎	132.7	FALSE	麦草系	189.5	FALSE
34	恩馳島	3.9	TRUE	砂糠崎	164.9	FALSE	男女 1	204.4	FALSE	恩馳島	4.0	TRUE	砂糠崎	168.7	FALSE	男女 1	225.7	FALSE
35	恩馳島	3.8	TRUE	砂糠崎	103.4	FALSE	男女 1	182.3	FALSE	恩馳島	4.6	TRUE	砂糠崎	105.0	FALSE	男女 1	218.7	FALSE
36	星ヶ塔	1.1	TRUE	和田 6	59.9	FALSE	和田 8	102.7	FALSE	星ヶ塔	8.2	TRUE	和田 6	77.8	FALSE	和田 8	108.7	FALSE

距離：マハラノビス平方距離 判定は $\chi$ 二乗検定(3 $\sigma$ )の結果

第 56 表 黒曜石判定結果

一方、各判別群の5つの判別指標値について、それぞれの基本統計量（平均値や分散、共分散など）を求める。この値をもとに、遺跡出土試料と各判別群とのマハラノビス平方距離を計算する。マハラノビス平方距離による判別は、先に述べた5つの判別指標値を使う方法（望月，2004 など）と、基本的にZr分率を除くグラフに使った4つの判別指標値を使うが、群間の判別が難しい場合にZr分率を加える方法（明治大学古文化財研究所，2009，2011；明治大学文学部，2014a，b）がある。今回は、4成分、5成分双方の結果を掲載する。測定試料と各判別群全てについて、4成分、5成分のマハラノビス平方距離を求め、測定試料に近いものから3判別群を表に示す。これらについてカイ二乗検定を行い、99.5%の範囲に入った場合を「TRUE」、入らなかった場合を「FALSE」とする。

### （3）結果および考察

各試料の詳細および元素X線強度（cps）および判別指標値を第55表に示す。また、Rb分率とMn×100/Fe、Sr分率－Log（Fe/K）について、原産地試料の重心から2σ（95%）の範囲を記したグラフに、各試料の結果を重ね合わせた図を、第157・158図に記す。第56表には、測定試料に近いものから3原産地分のマハラノビス平方距離を示し、これらについてカイ二乗検定を行なった結果を示す。

測定の結果、神津島が16点（NO. 6、NO.10、NO.11、NO.15、NO.16、NO.17、NO.18、NO.20、NO.22、NO.23、NO.25、NO.27、NO.28、NO.33、NO.34、NO.35）、信州霧ヶ峰が14点（NO. 1、NO. 2、NO. 3、NO. 4、NO. 5、NO. 7、NO. 9、NO.13、NO.14、NO.21、NO.24、NO.30、NO.31、NO.36）、信州八ヶ岳が2点（NO.19、NO.26）、天城柏峠が2点（NO.12、NO.29）である。この中には「FALSE」と判定されたものもあるが、第157・158図の結果や第2候補との差が大きいことなどから、各産地に比定した。なお、NO. 8の産地は不明である。おそらく、風化等の影響で化学組成が変化した可能性がある。また、NO.32は肉眼で鑑定を行うと黒曜石であるが、カルシウムやマンガンの元素X線強度が極端に高く、黒曜石ではない可能性がある。なお、前述した明治大学の文献から、南関東の黒曜石産地推定の傾向をまとめると、古い時代には近傍の産地の黒曜石を用いていたが、時代が新しくなるにつれて、遠方の産地の黒曜石が混じる傾向にある。

#### [引用文献]

明治大学古文化財研究所 2009『蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定 基礎データ集1』

明治大学古文化財研究所 2011『蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定 基礎データ集2』

明治大学文学部 2014a『蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定 基礎データ集3』

明治大学文学部 2014b『日本における黒曜石の産状と理化学分析 資料集75』杉原重夫編 森 義勝監修

望月明彦 2004「第5節 和野 I 遺跡出土黒曜石製石鏃の石材原産地分析」『和野 I 遺跡発掘調査報告書』p476 - 480 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 452 集 （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

## Ⅲ. 西原大塚遺跡第 235 地点の炭化材樹種同定

株式会社パレオ・ラボ  
黒沼 保子

### (1) はじめに

志木市の西原大塚遺跡第 235 地点から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、一部の試料については放射性炭素年代測定も行われている（Ⅰ. 西原大塚遺跡第 235 地点の放射性炭素年代測定参照）。

### (2) 試料と方法

試料は古墳時代前期の住居跡 651 Y から出土した炭化材 20 点である。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で 3 断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製 VHX-D 510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

### (3) 結果

樹種同定の結果、広葉樹のコナラ属コナラ節（以下、コナラ節）の 1 分類群のみが確認された。いずれも状態が悪く、木取りは不明であった。結果を第 57 表に示す。

通No	遺構名	遺物番号	X座標	Y座標	Z値	樹種	木取り	残存径	年代測定番号
1	651 Y	D-1	-19122.855	-24108.826	14.494	コナラ属コナラ節	不明	5.0 × 2.0cm	-
2	651 Y	D-2	-19122.911	-24108.791	14.503	コナラ属コナラ節	不明	1.5 × 4.0cm	-
3	651 Y	D-3	-19123.021	-24108.606	14.502	コナラ属コナラ節	不明	1.0 × 3.5cm	-
4	651 Y	E-3	-19123.785	-24109.144	14.528	コナラ属コナラ節	不明	0.5 × 3.5cm	-
5	651 Y	E-4	-19123.517	-24109.035	14.533	コナラ属コナラ節	不明	0.5 × 1.8cm	-
6	651 Y	F-1	-19124.285	-24107.911	14.479	コナラ属コナラ節	不明	2.0 × 2.5cm	-
7	651 Y	G-1	-19124.163	-24106.984	14.506	コナラ属コナラ節	不明	2.5 × 5.0cm	-
8	651 Y	G-2	-19124.137	-24106.874	14.508	コナラ属コナラ節	不明	4.0 × 5.0cm	-
9	651 Y	H-1	-19124.589	-24110.114	14.494	コナラ属コナラ節	不明	3.5 × 3.0cm	PLD-47252
10	651 Y	H-3	-19124.096	-24110.283	14.416	コナラ属コナラ節	不明	0.5 × 2.5cm	-
11	651 Y	I-1	-19125.588	-24105.767	14.696	コナラ属コナラ節	不明	2.5 × 4.5cm	-
12	651 Y	J-2	-19125.026	-24106.798	14.448	コナラ属コナラ節	不明	2.0 × 5.5cm	-
13	651 Y	J-3	-19125.534	-24106.903	14.518	コナラ属コナラ節	不明	2.0 × 4.0cm	-
14	651 Y	L-1	-19126.759	-24108.210	14.538	コナラ属コナラ節	不明	3.5 × 2.5cm	-
15	651 Y	L-4	-19125.837	-24108.154	14.501	コナラ属コナラ節	不明	3.0 × 5.0cm	PLD-47253
16	651 Y	L-5	-19125.946	-24107.977	14.526	コナラ属コナラ節	不明	1.5 × 3.0cm	-
17	651 Y	L-6	-19126.305	-24108.028	14.521	コナラ属コナラ節	不明	2.0 × 4.5cm	-
18	651 Y	L-7	-19126.659	-24107.881	14.545	コナラ属コナラ節	不明	4.0 × 3.5cm	-
19	651 Y	L-12	-19126.453	-24107.524	14.560	コナラ属コナラ節	不明	3.5 × 2.0cm	-
20	651 Y	L-13	-19126.113	-24107.310	14.538	コナラ属コナラ節	不明	1.5 × 5.0cm	-

第 57 表 樹種同定結果一覧

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版 53 に示す。

(1) コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科 図版 53 1a-1c (No.651 Y\_D-1)、2a (No.651 Y\_E-3)、3a (No.651 Y\_G-2)、4a (No.651 Y\_H-1)、5a (No.651 Y\_I-1)、6a (No.651 Y\_L-4)、7a (No.651 Y\_L-13)

大型の道管が年輪のはじめに 1 列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の 2 種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

#### (4) 考察

住居跡 651 Y から出土した炭化材 20 点は、いずれもコナラ節であった。コナラ節は日当たりのよい環境に生育する陽樹で、二次林の主要構成樹木である。遺跡周辺に生育していた樹木が伐採利用されたと推測される。また、埼玉県内で確認されている弥生時代～古墳時代の住居跡出土の炭化材ではコナラ節やクヌギ節が多くみられる (伊東・山田編 2012)。今回の分析結果も、周辺地域の木材利用傾向と類似している。

#### [引用・参考文献]

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂 2011 『日本有用樹木誌』 p238 海青社

伊東隆夫・山田昌久編 2012 『木の考古学 - 出土木製品用材データベース -』 p449 海青社

平井信二 1996 『木の百科』 p394 朝倉書店

## IV. 西原大塚遺跡第 235 地点の土器種実圧痕同定

株式会社パレオ・ラボ

山本 華

#### (1) はじめに

西原大塚遺跡第 235 地点の古墳時代後期の土師器に確認された種実圧痕の可能性のある圧痕について、レプリカ法による同定を行った。

#### (2) 資料と方法

資料はあらかじめ大成エンジニアリング株式会社によって複数の種実圧痕がついている可能性があると判断され、抽出された古墳時代後期の土師器甑 1 点である。

分析では、まず土師器を肉眼および拡大鏡を用いて観察し、圧痕について（丑野・田川 1991）などを参考に、次の手順でレプリカを作製した。はじめに、圧痕内を水で洗い、パラロイド B 72 の 9% アセトン溶液を離型剤として圧痕内および周辺に塗布した後、シリコン樹脂（JM シリコン インジェクションタイプ）を圧痕部分に充填した。レプリカ作製後は、アセトンを用いて圧痕内および周囲の離型剤を除去した。

次に、作製したレプリカを実体顕微鏡下で観察し、同定の根拠となる部位が残っている圧痕レプリカを同定した。その後、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製 超深度マルチアングルレンズ VHX - D 500/ D 510）で観察し、撮影を行った。

### （3）結果

土師器を観察したところ、6 点の種実圧痕が確認された。圧痕についてレプリカを作製し、同定した結果、すべて草本植物のイネ粃・粃殻であった（第 58 表）。

以下では、同定された種実圧痕について記載を行い、図版 54 に走査型電子顕微鏡写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は（米倉・梶田 2003）に準拠した。

#### （1）イネ *Oryza sativa* L. 粃・粃殻

粃は上面観が楕円形で、側面観が長楕円形。2 条の稜があり、表面には四角形の網目状の隆線と隆線上の顆粒状突起が規則正しくならぶ。No. 1 は、一部粃が破損して内部の種子が見えている状態と考えられる。粃殻は薄い破片状。溝とゆるやかな隆起が観察され、表面が平滑な試料は粃殻の内面側と判断した。

### （4）考察

西原大塚遺跡第 235 地点出土の古墳時代後期の土師器甑に確認された種実圧痕のレプリカを同定した結果、6 点が同定され、いずれも栽培植物のイネであった。確認されたイネ圧痕は粃と粃殻であり、イネの脱穀や粃摺り作業、貯蔵などの場と、土器製作の場が近かった可能性などが考えられる。また、今回は一個体の土器の表面に複数のイネ圧痕が確認されているため、土器胎土内にも種実の痕跡が残っている可能性がある。

#### [引用・参考文献]

丑野 毅・田川裕美 1991 「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学 第 24 号』 p13 - 36

米倉浩司・梶田 忠 2003 『BG Plants 和名-学名インデックス (Y List)』 <http://ylist.info>

No.	種別	器種	時期	圧痕のある部位	圧痕のある位置	分類群	部位	備考	大きさ (mm)		
									長さ	幅	厚さ
1	土師器	甑	古墳時代後期	口縁部	外面	イネ	粃	破損	(5.4)	3.1	(1.3)
2				胴部	外面	イネ	粃		5.9	3.0	2.3
3				胴部	外面	イネ	粃殻	内面側破片	(3.7)	(2.1)	(0.2)
4				口縁部	外面	イネ	粃		6.2	3.4	(2.2)
5				口縁部	内面	イネ	粃		6.1	3.2	2.3
6				胴部	外面	イネ	粃殻	外面側破片	(4.7)	(2.5)	(0.8)

(括弧内は残存値)

第 58 表 西原大塚遺跡第 235 地点出土土器の圧痕同定結果



圖 版





1.1区完掘全景（東から）



2.2区完掘全景（西から）





1. 調査前現況（南東から）



2. 遺構精査風景（南東から）



3. 遺構精査風景（西から）



4. 遺構精査風景（東から）



5. 1号試掘坑南壁（北から）



6. 1号試掘坑南壁東側（北から）



7. 1号試掘坑東壁（西から）



8. 1号試掘坑東壁南側（西から）





1. 2号試掘坑南壁（北から）



2. 2号試掘坑東壁（西から）



3. 3号試掘坑南壁（北から）



4. 3号試掘坑東壁（西から）



5. 4号試掘坑北壁（南から）



6. 4号試掘坑東壁（西から）



7. 5号試掘坑南壁（北から）



8. 5号試掘坑西壁（東から）





1. 6号試掘坑南壁（北から）



2. 6号試掘坑東壁（西から）



3. 7号試掘坑南壁（北から）



4. 7号試掘坑西壁（東から）



5. 8号試掘坑南壁（北から）



6. 8号試掘坑西壁（東から）



7. 9号試掘坑南壁（北から）



8. 9号試掘坑西壁（東から）





1. 10号試掘坑南壁（北から）



2. 10号試掘坑西壁（東から）



3. 11号試掘坑南壁（北から）



4. 11号試掘坑西壁（東から）



5. 12号試掘坑北壁（南から）



6. 12号試掘坑西壁（東から）



7. 13号試掘坑北壁（南から）



8. 13号試掘坑西壁（東から）





1. 14号試掘坑北壁（南から）



2. 14号試掘坑西壁（東から）



3. 15号試掘坑北壁（南から）



4. 15号試掘坑東壁（西から）



5. 20号石器集中地点遺物出土状態（東から）



6. 20号石器集中地点遺物出土状態（南から）



7. 20号石器集中地点遺物出土状態（北西から）



8. 20号石器集中地点遺物出土状態（南から）





1. 21 号石器集中地点遺物出土状態（南東から）



2. 21 号石器集中地点遺物出土状態（西から）



3. 21 号石器集中地点礫出土状態（東から）



4. 22 号石器集中地点遺物出土状態（南から）



5. 20 号石器集中地点・5 号礫群遺物出土状態（北から）





1. 5号礫群下層遺物出土状態（北から）



2. 5号礫群下層遺物出土状態（南から）



3. 5号礫群下層遺物出土状態（北から）



4. 5号礫群下層遺物出土状態（南から）



5. 5号礫群下層遺物出土状態（南から）





1. 5号礫群中央部被熱状態（南から）



2. 5号礫群下層遺物出土状態（南から）



3. 6号礫群遺物出土状態（東から）



4. 7号礫群遺物出土状態（南から）



5. 7号礫群遺物出土状態（南から）





1. 3号旧石器試掘坑遺物出土状態（西から）



2. 7号旧石器試掘坑遺物出土状態（東から）



3. 14号旧石器試掘坑遺物出土状態（南から）



4. 22号炉穴（西から）



5. 640号住居跡（南から）



6. 640号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）



7. 641号住居跡遺物出土状態（南から）



8. 641号住居跡（南から）





1. 641 号住居跡炉（北東から）



2. 642 号住居跡（北東から）



3. 643 号住居跡（南から）



4. 644 号住居跡遺物出土状態（西から）



5. 644 号住居跡遺物出土状態（西から）





1. 644号住居跡遺物出土状態（北から）



2. 644号住居跡（南東から）



3. 645号住居跡（南西から）



4. 646号住居跡（北東から）



5. 647号住居跡（東から）



6. 648号住居跡遺物出土状態（南東から）



7. 648号住居跡遺物出土状態（北東から）



8. 648号住居跡赤色砂利層検出状態（南東から）





1. 648号住居跡（南東から）



2. 648号住居跡炉（南東から）



3. 648号住居跡掘り方（南東から）



4. 649号住居跡遺物出土状態（南東から）



5. 649号住居跡遺物出土状態（南西から）



6. 649号住居跡（南東から）



7. 649号住居跡炉（南東から）



8. 649号住居跡掘り方（南東から）





1. 650号住居跡（南東から）



2. 650号住居跡掘り方（南東から）



3. 651号住居跡遺物出土状態（南西から）



4. 651号住居跡遺物出土状態（南西から）



5. 651号住居跡（南東から）



6. 651号住居跡掘り方（南東から）



7. 652号住居跡遺物出土状態（南東から）



8. 652号住居跡遺物出土状態（南東から）





1. 652 号住居跡 (南東から)



2. 652 号住居跡炉 (南東から)



3. 651・652 号住居跡 (空撮東から)



4. 653 号住居跡 (南西から)



5. 653 号住居跡炉新段階 (南西から)



6. 653 号住居跡炉旧段階 (南西から)



7. 653 号住居跡赤色砂利層検出状態 (西から)



8. 653 号住居跡掘り方 (南西から)





1. 654号住居跡遺物出土状態（東から）



2. 654号住居跡遺物出土状態（南から）



3. 654号住居跡（東から）



4. 654号住居跡炉（東から）



5. 654号住居跡掘り方（東から）



6. 655号住居跡遺物出土状態（南東から）



7. 655号住居跡遺物出土状態（北東から）



8. 655号住居跡（南東から）





1. 31号住居跡遺物出土状態（南東から）



2. 31号住居跡遺物出土状態（南東から）



3. 31号住居跡遺物出土状態（南東から）



4. 31号住居跡貯蔵穴脇遺物出土状態（南東から）



5. 31号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南東から）





1. 31号住居跡（空撮南東から）



2. 31号住居跡（南東から）



3. 31号住居跡貯蔵穴（南東から）



4. 31号住居跡カマド（南東から）



5. 31号住居跡粘土検出状態（東から）



6. 31号住居跡P 6断面（東から）



7. 31号住居跡炉（南西から）



8. 31号住居跡掘り方（南東から）





1. 5号掘立柱建築遺構（北から）



2. 5号掘立柱建築遺構（東から）



3. 5号掘立柱建築遺構P 1 遺物出土状態  
（南西から）



4. 5号掘立柱建築遺構P 1（南西から）



5. 5号掘立柱建築遺構P 2 遺物出土状態(南から)



6. 5号掘立柱建築遺構P 2（南から）



7. 5号掘立柱建築遺構P 3（南から）



8. 5号掘立柱建築遺構P 4（東から）





1. 5号掘立柱建築遺構P5遺物出土状態1 (南西から)



2. 5号掘立柱建築遺構P5遺物出土状態2 (南西から)



3. 5号掘立柱建築遺構P5 (南西から)



4. 5号掘立柱建築遺構P6 (南西から)



5. 5号掘立柱建築遺構P7 (南から)



6. 5号掘立柱建築遺構P8 (南から)



7. 955号土坑 (B群1類) (南西から)



8. 968～971号土坑 (B群1・2類) (南西から)





1. 952号土坑（B群2類）（西から）



2. 957号土坑（B群2類）（南西から）



3. 960号土坑（B群2類）（北西から）



4. 961号土坑（B群2類）（南西から）



5. 962号土坑（B群2類）（南西から）



6. 966号土坑（B群2類）（北西から）



7. 977号土坑（B群2類）（南から）



8. 976号土坑（C群）（北から）





1. 956号土坑（E群1類）（北西から）



2. 956号土坑（E群1類）（南西から）



3. 964号土坑（E群1類）断面（東から）



4. 964号土坑（E群1類）（西から）



5. 11号井戸跡遺物出土状態（東から）



6. 11号井戸跡（東から）



7. 12号井戸跡（南から）

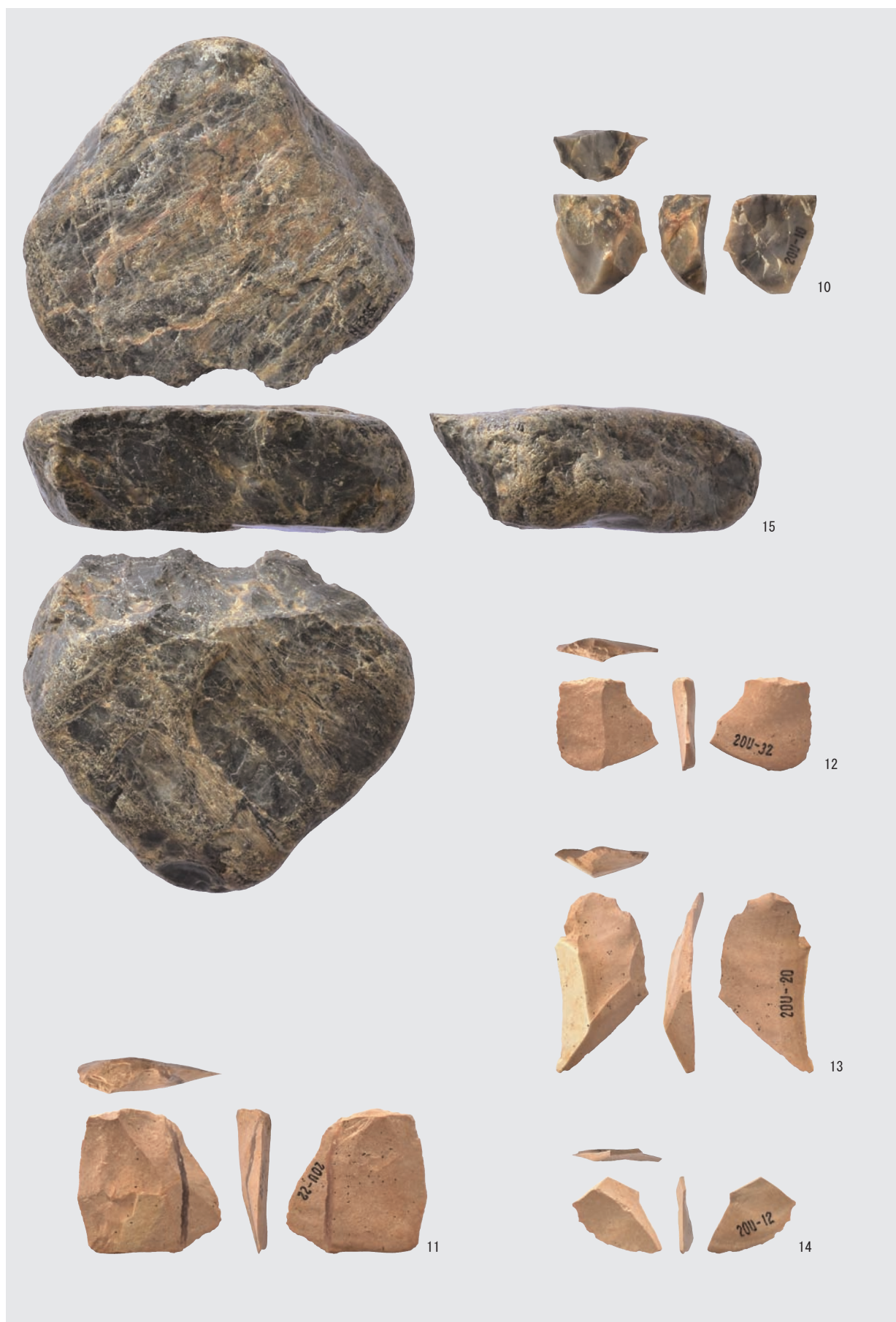


8. 畝状遺構群北側（東から）

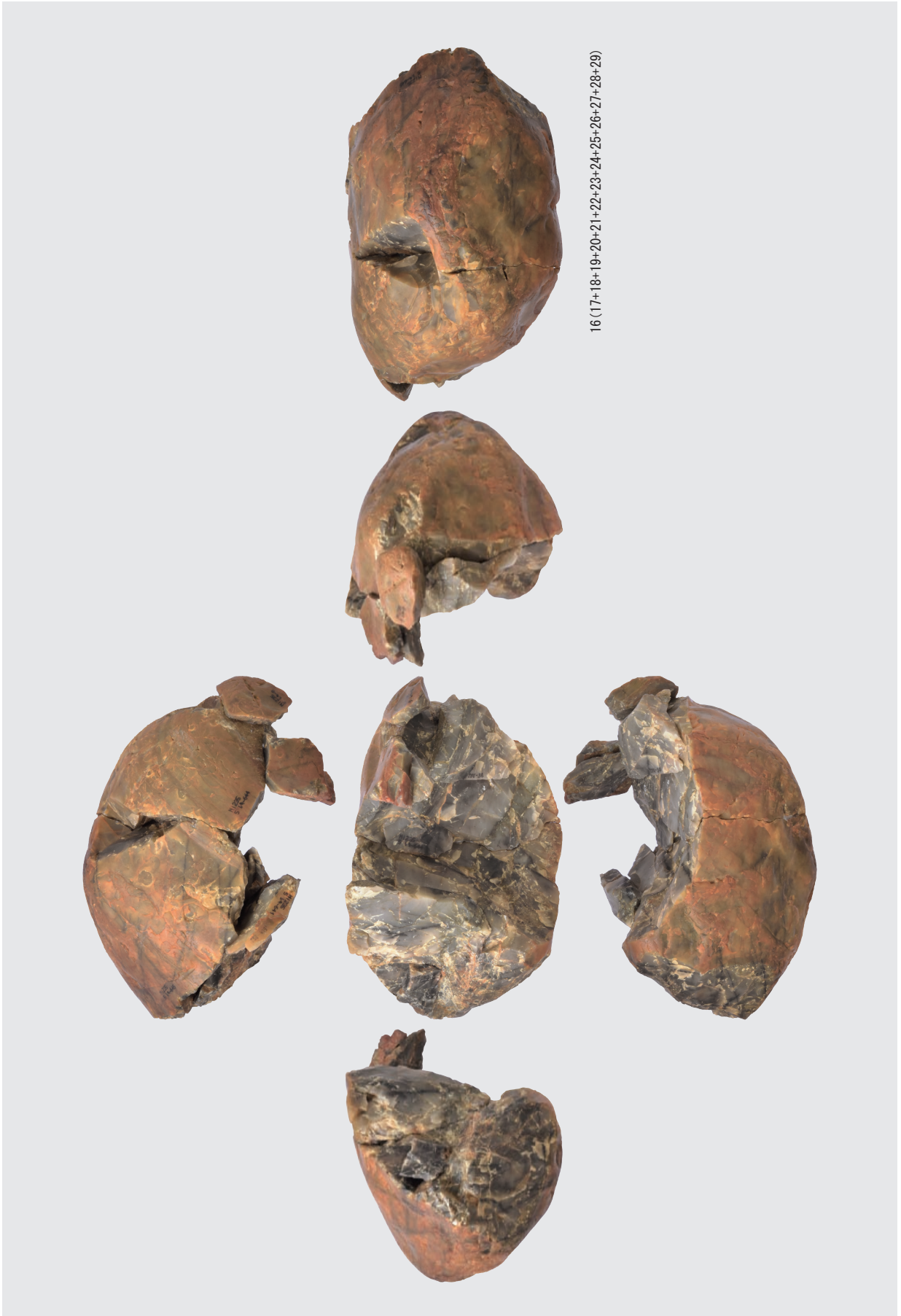




20 号石器集中地点出土遺物 1



20 号石器集中地点出土遺物 2

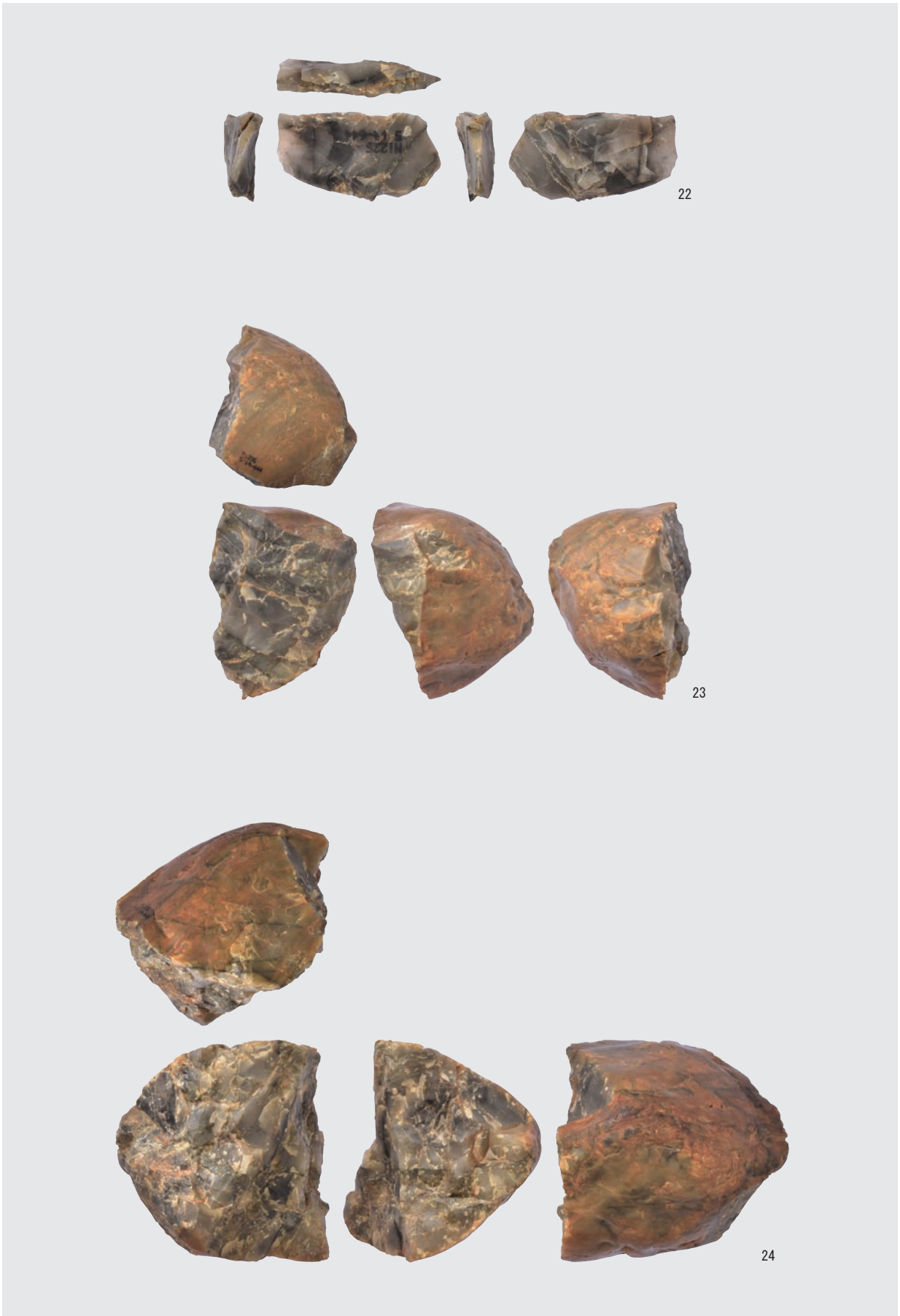


20 号石器集中地点出土遺物 3



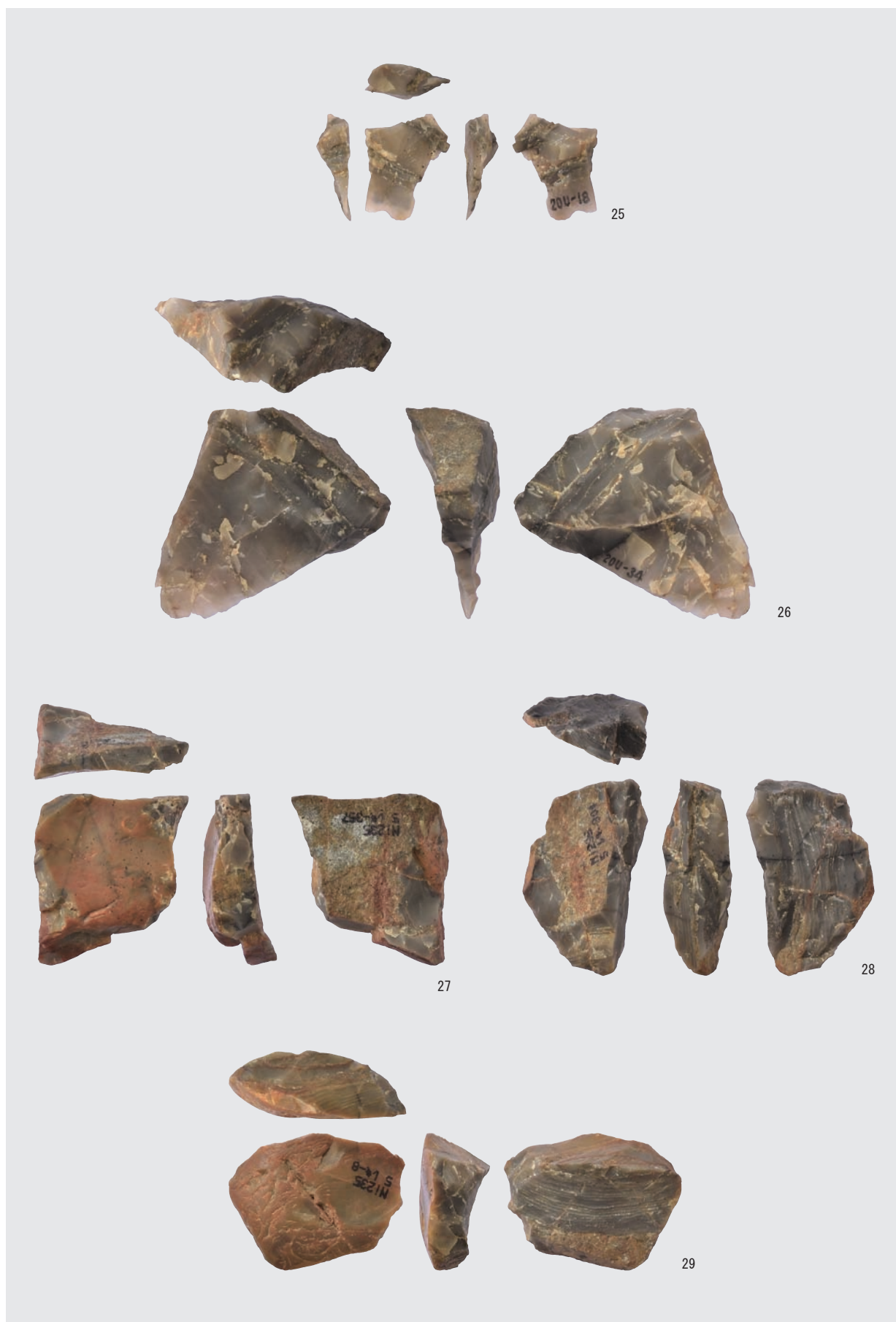
20 号石器集中地点出土遺物 4





20 号石器集中地点出土遺物 5

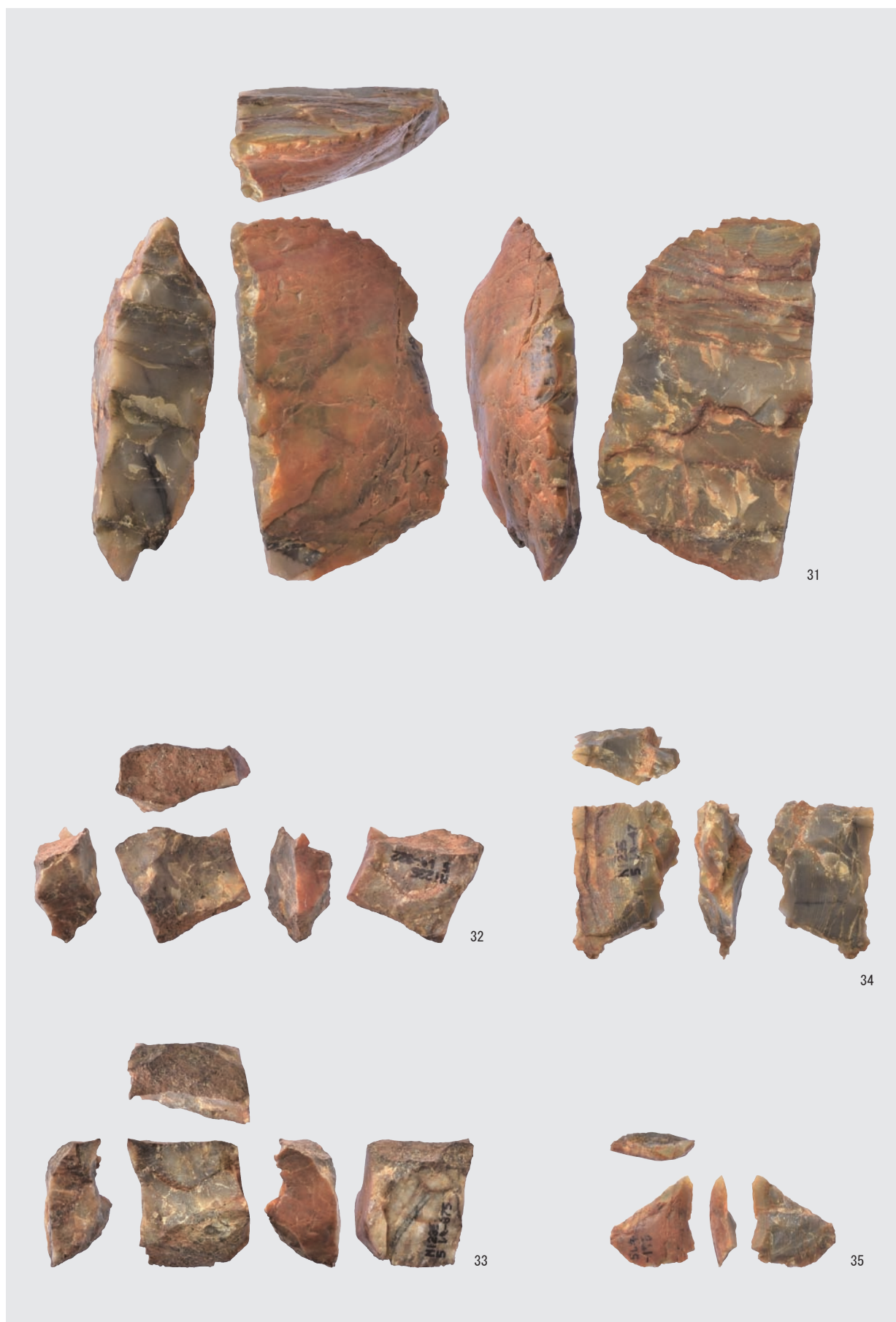




20 号石器集中地点出土遺物 6



20 号石器集中地点出土遺物 7



20号石器集中地点出土遺物8



20 号石器集中地点出土遺物 9



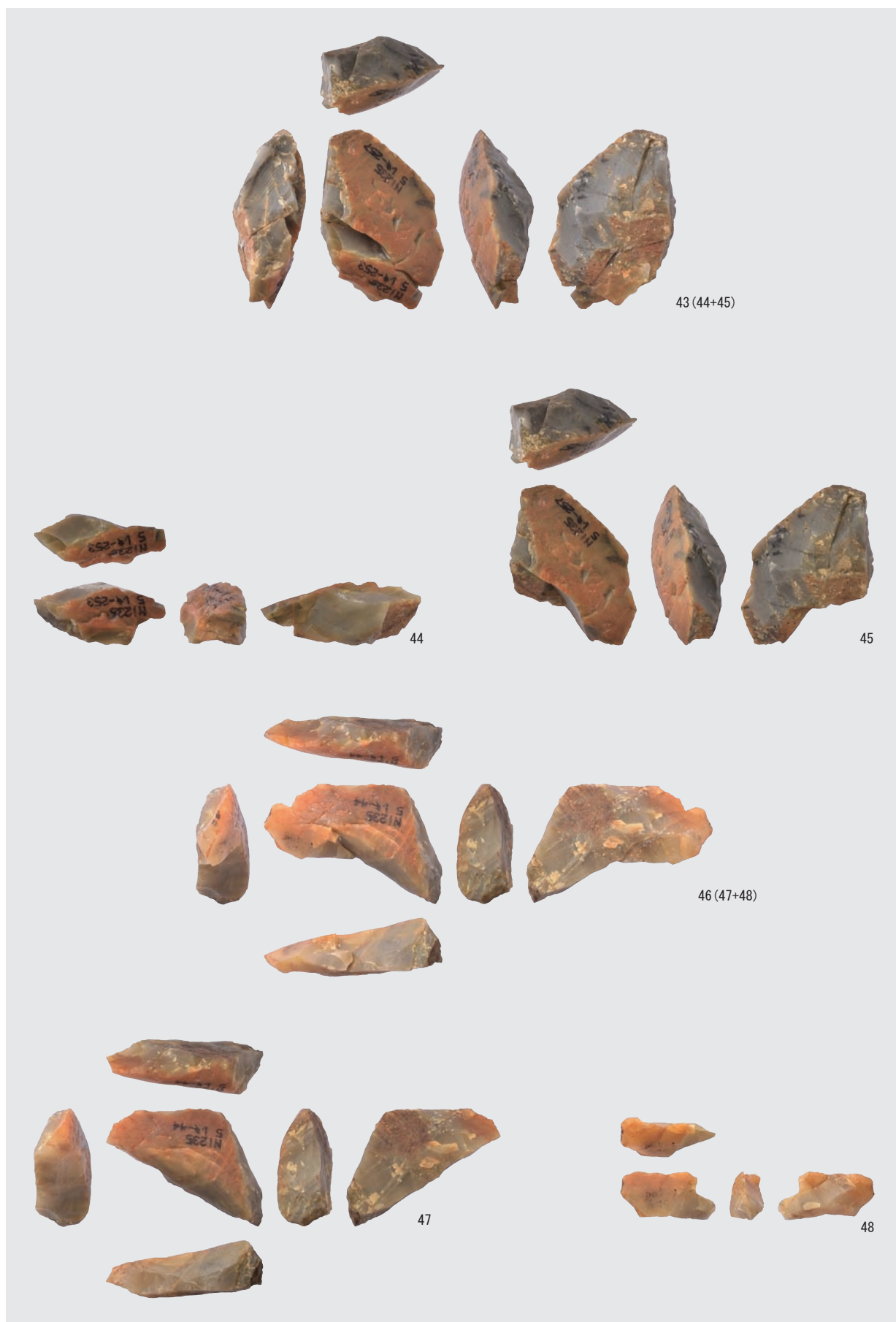


20 号石器集中地点出土遺物 10





20 号石器集中地点出土遺物 11



20 号石器集中地点出土遺物 12



21 号石器集中地点出土遺物 1



21 号石器集中地点出土遺物 2



21号石器集中地点出土遺物3





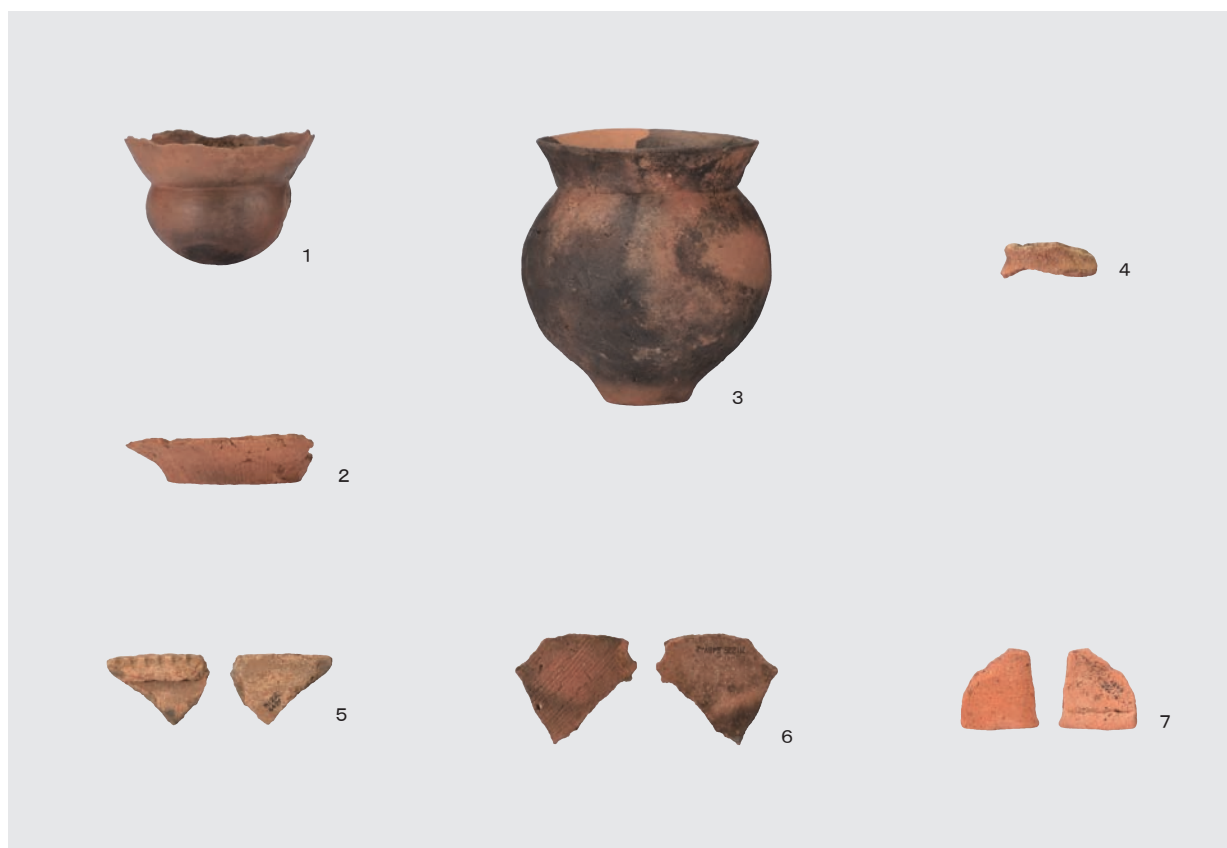
21 号石器集中地点出土遺物 4



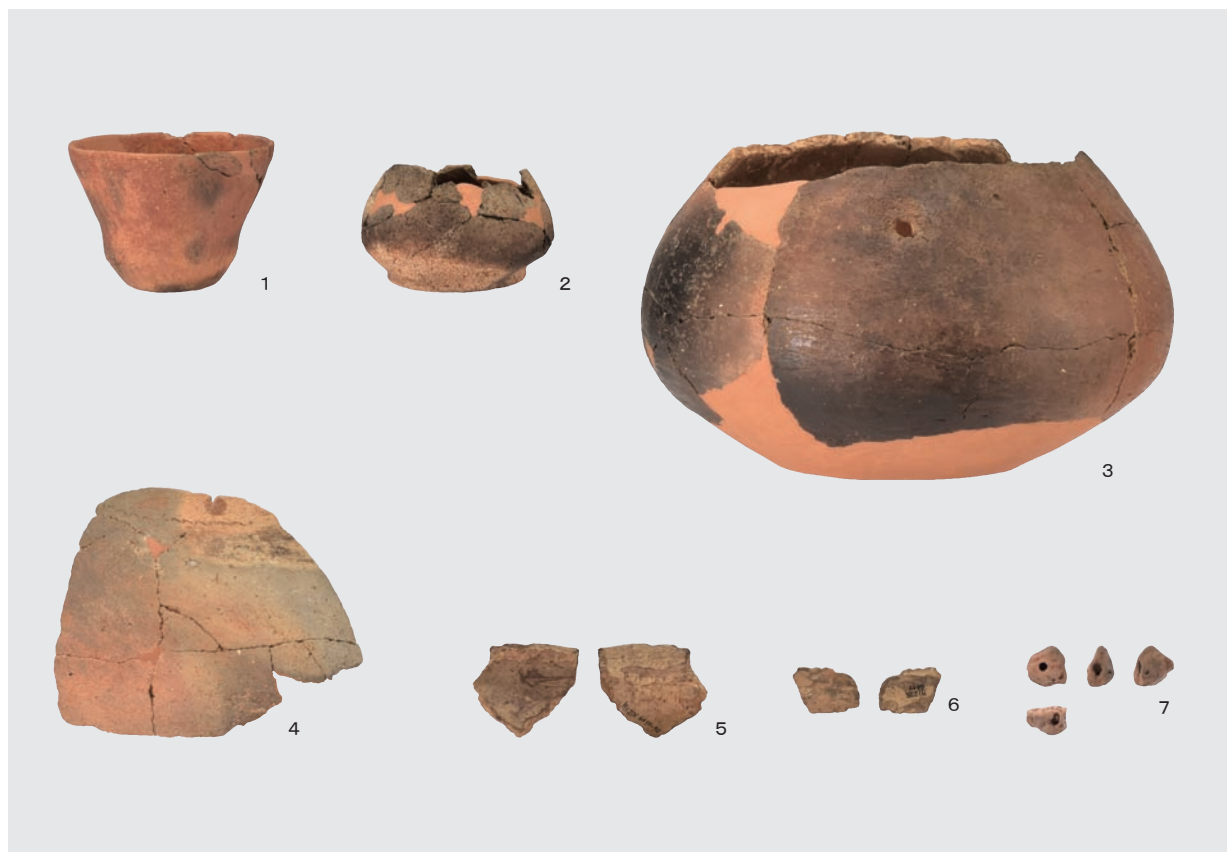
1. 22 号石器集中地点出土遺物



2. 旧石器試掘坑出土遺物



1. 640号住居跡出土遺物



2. 641号住居跡出土遺物



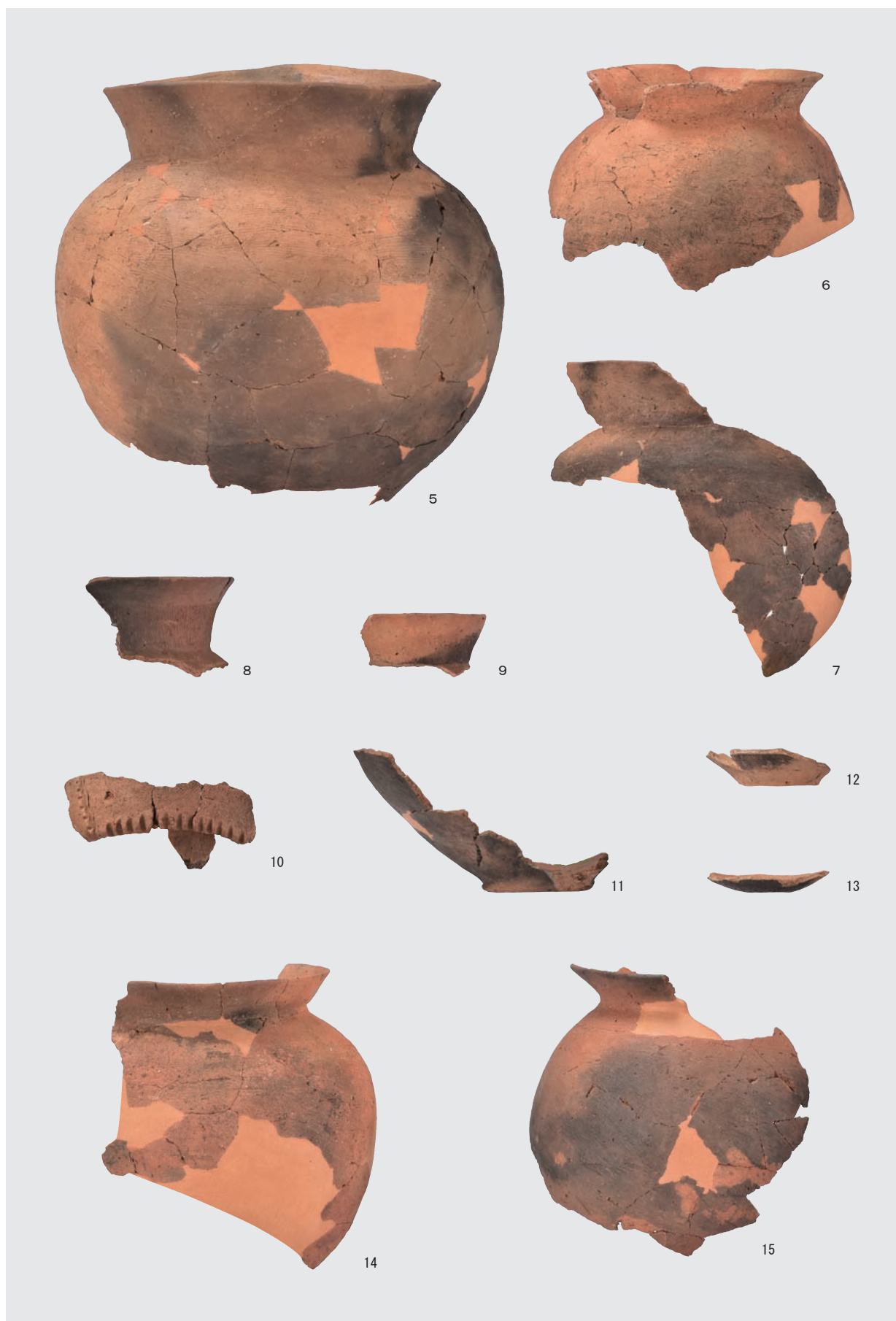
1. 642 号住居跡出土遺物



2. 643 号住居跡出土遺物

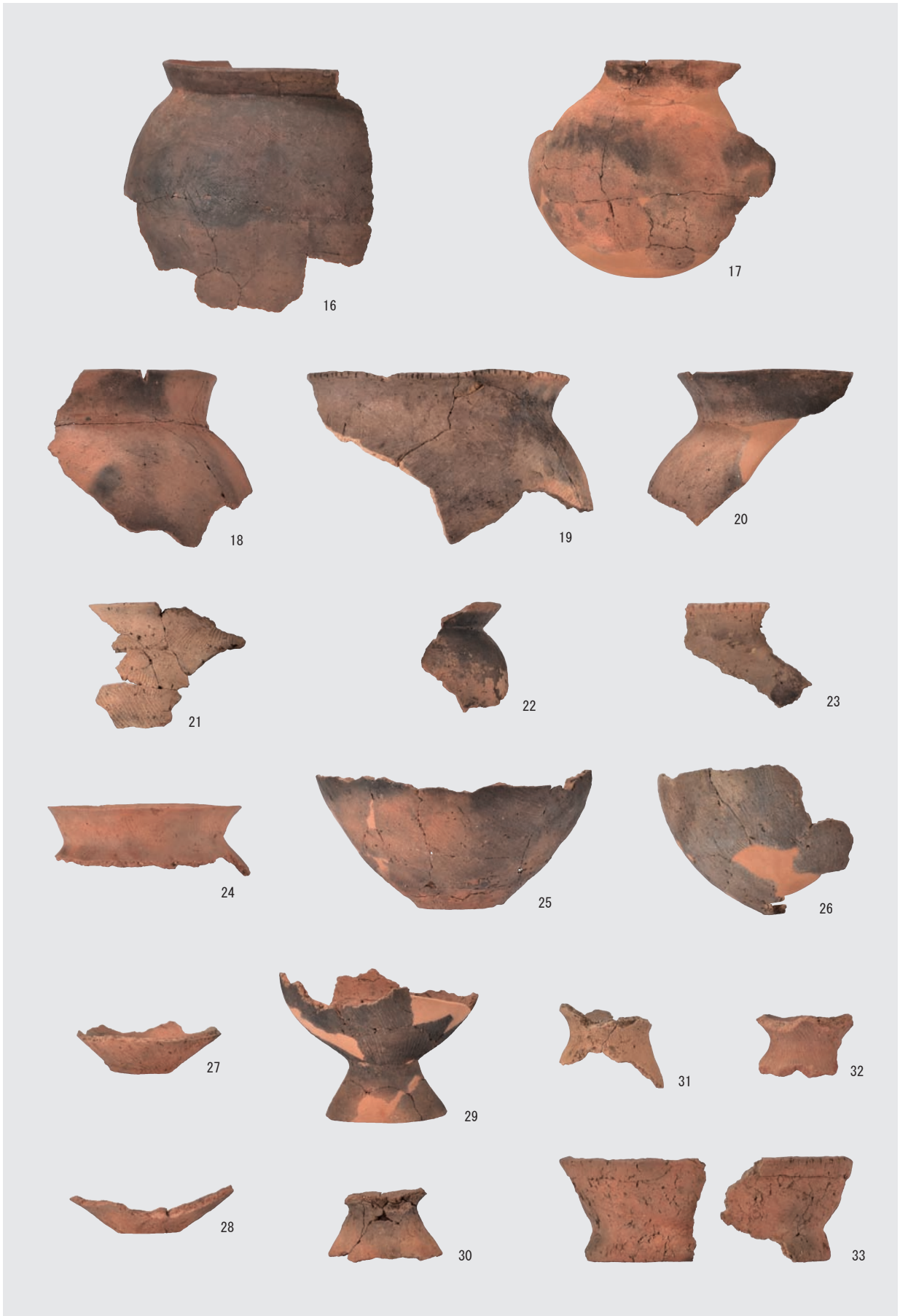


3. 644 号住居跡出土遺物 1



644号住居跡出土遺物2





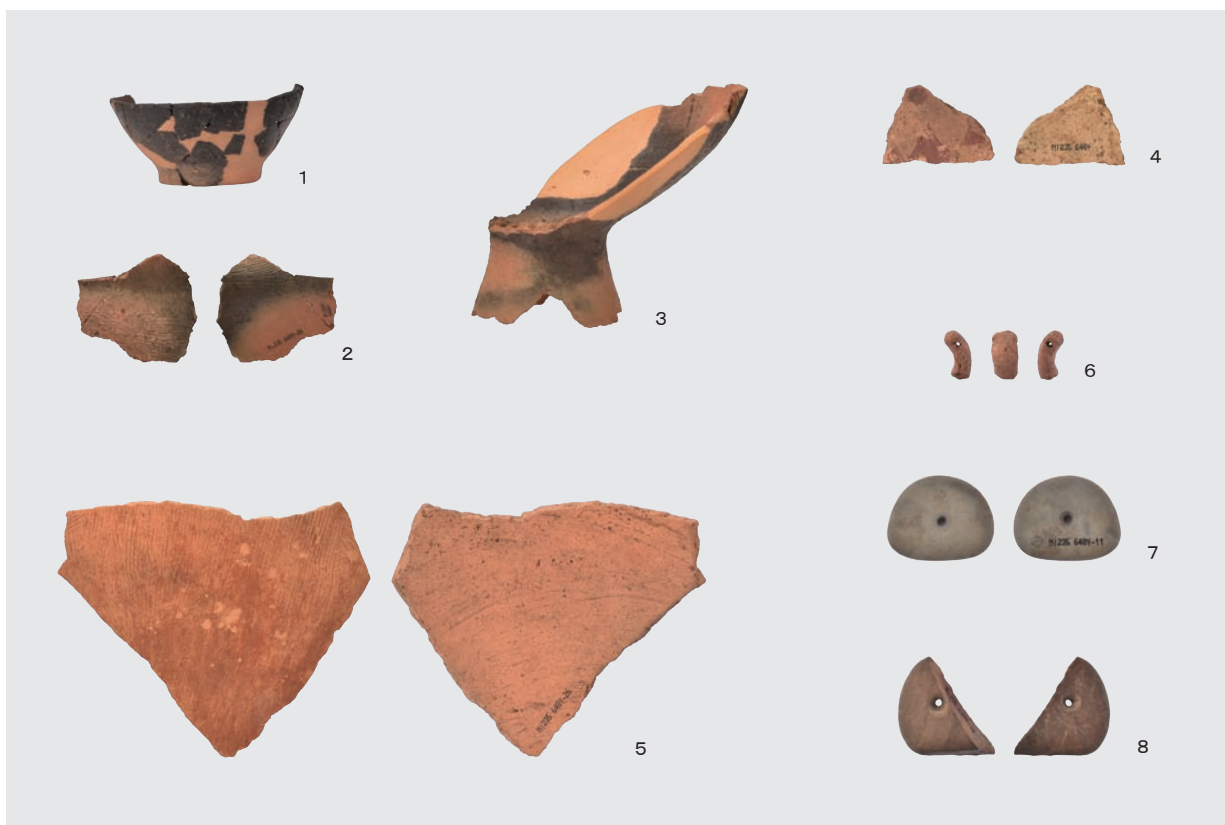
644 号住居跡出土遺物 3



1. 644号住居跡出土遺物4



2. 646号住居跡出土遺物



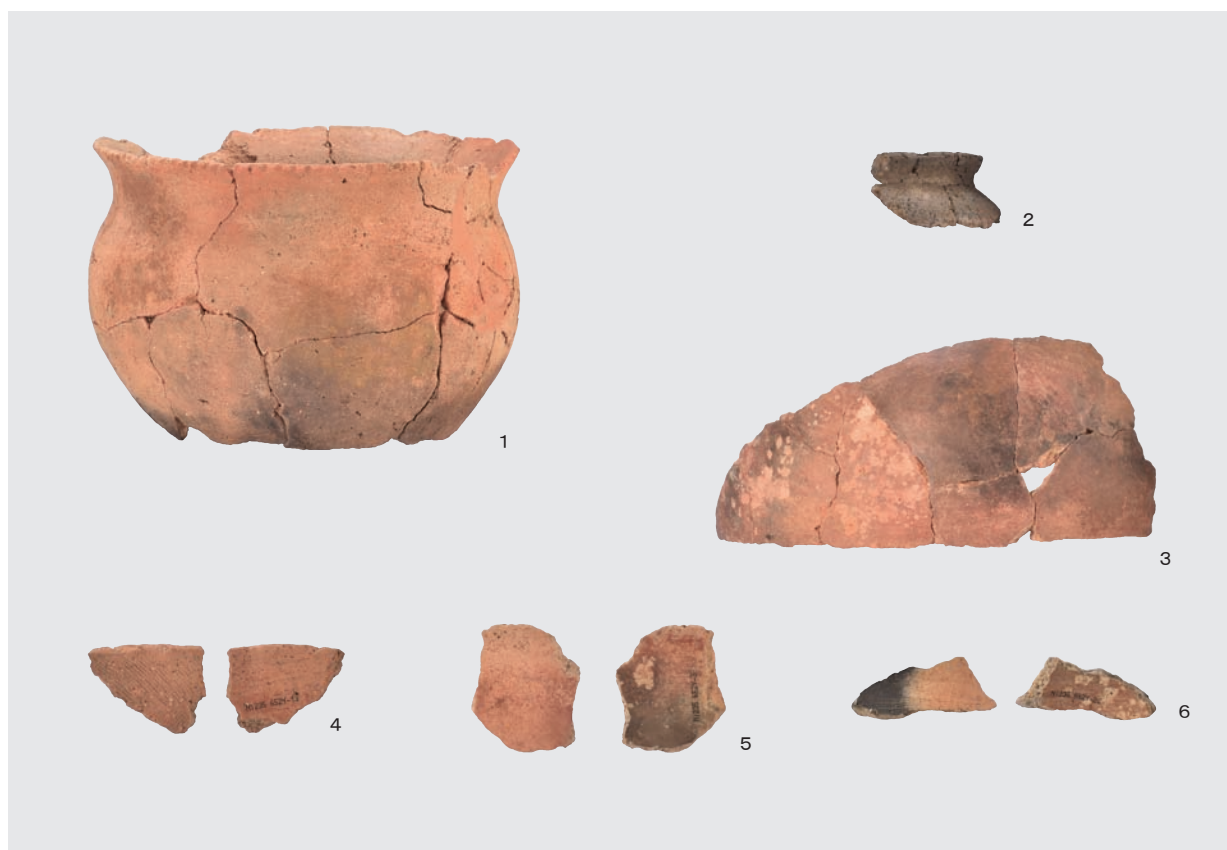
3. 648号住居跡出土遺物



1. 649号住居跡出土遺物



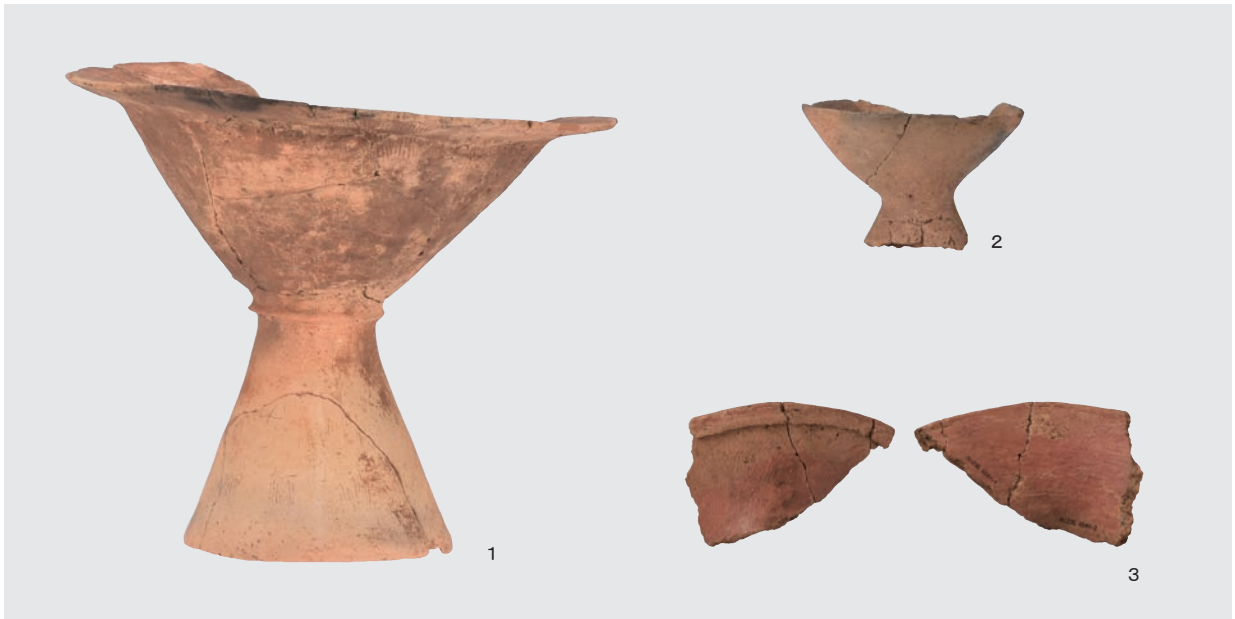
2. 651号住居跡出土遺物



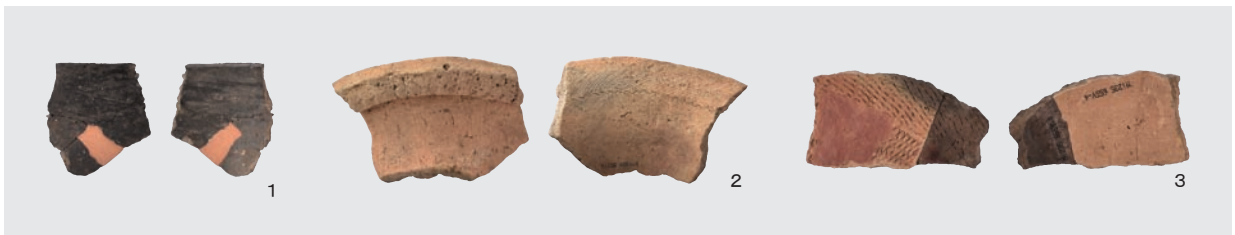
1. 652号住居跡出土遺物



2. 653号住居跡出土遺物



1. 654号住居跡出土遺物

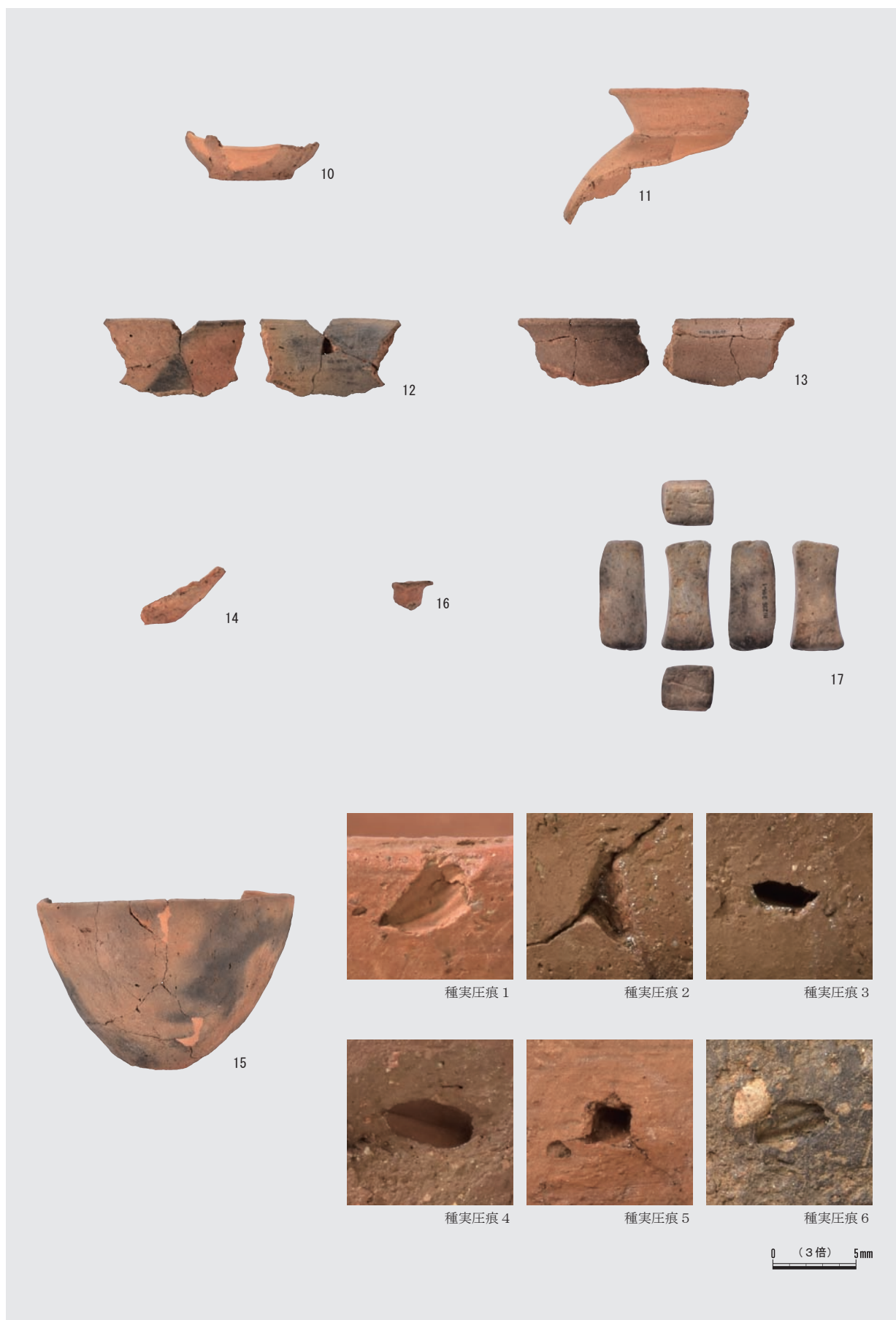


2. 655号住居跡出土遺物



3. 31号住居跡出土遺物 1





31 号住居跡出土遺物 2



1. 5号掘立柱建築遺構出土遺物



2. 中世以降の土坑出土遺物

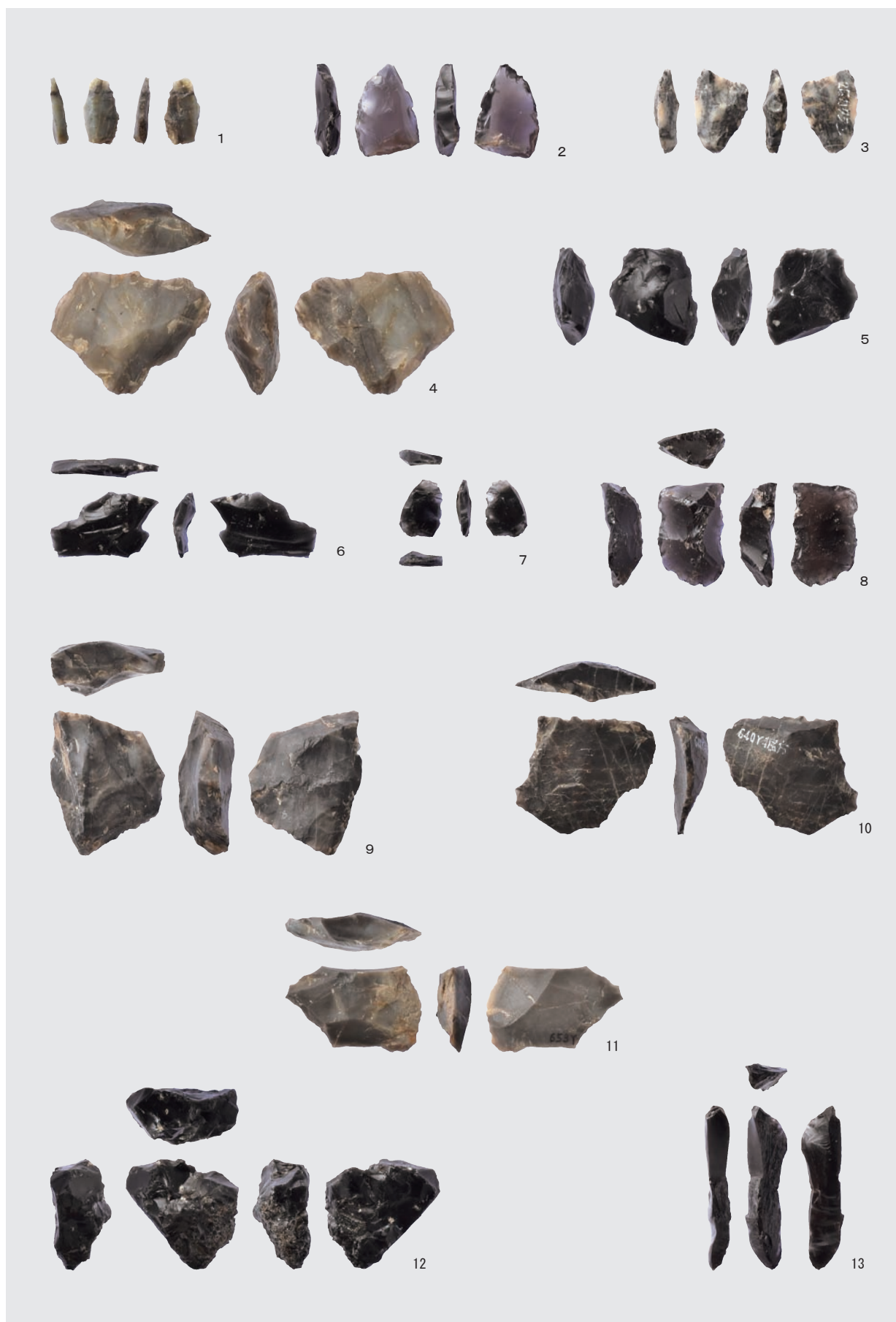


3. 11号井戸跡出土遺物

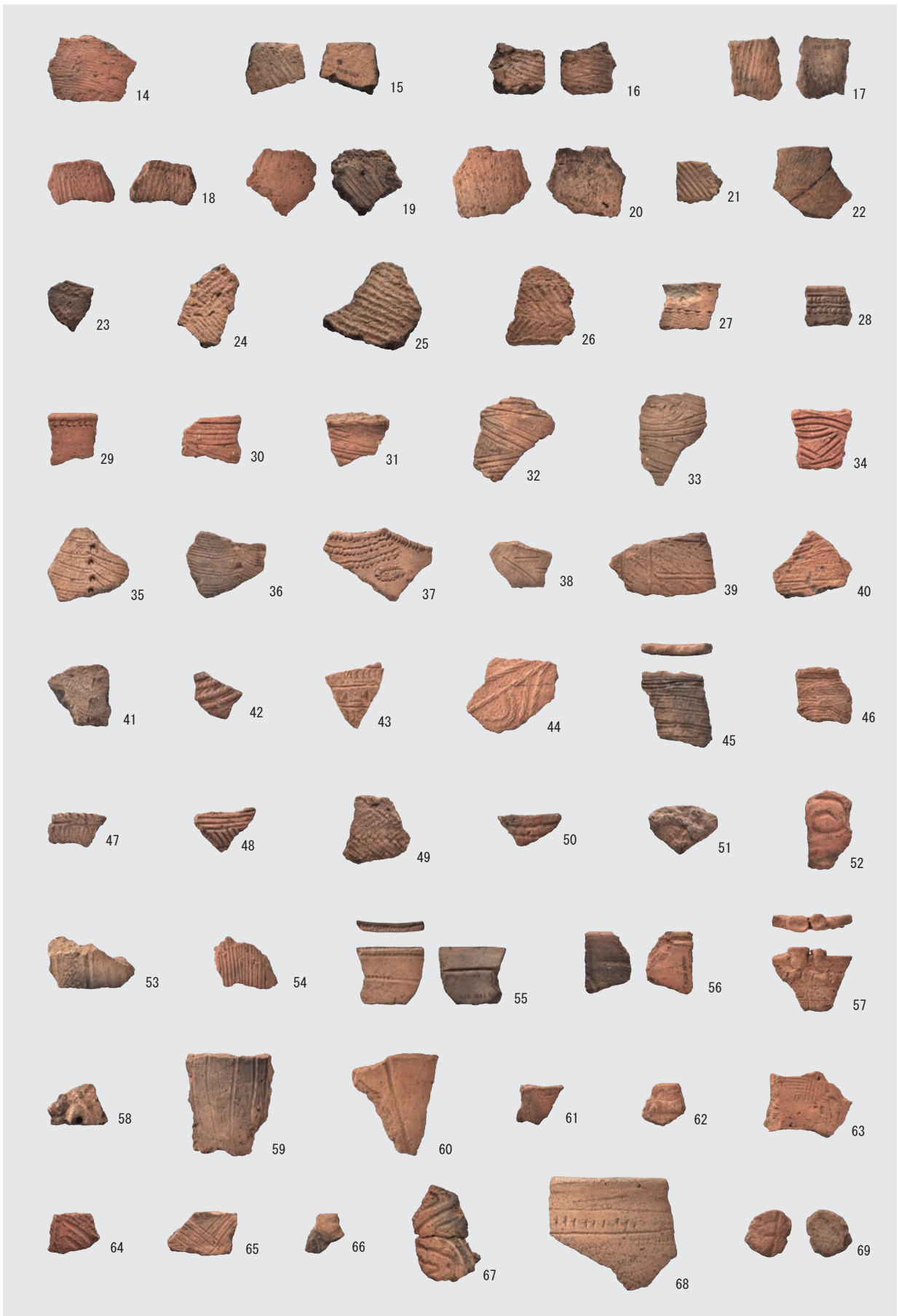


4. 12号井戸跡出土遺物

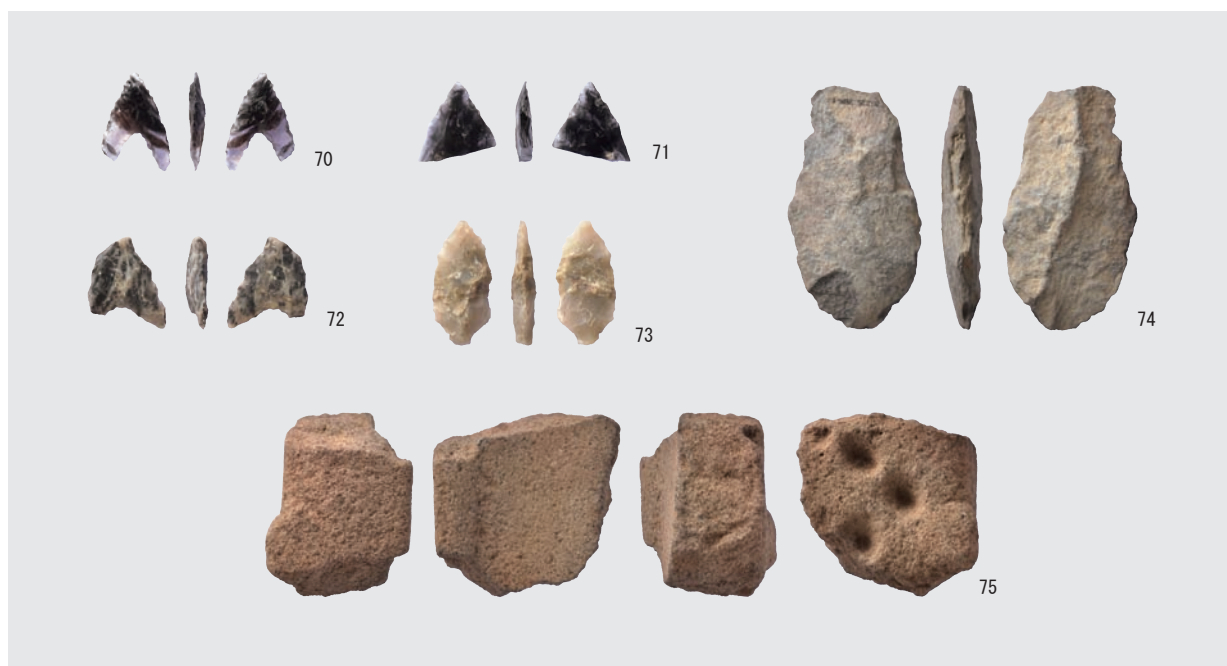
5. 畝状遺構群出土遺物 6. 38号ピット出土遺物



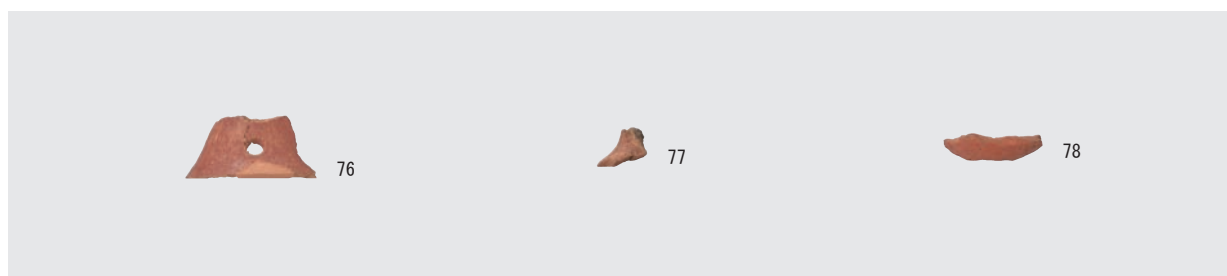
遺構外出土旧石器時代遺物



遺構外出土縄文時代遺物 1



1. 遺構外出土縄文時代遺物 2

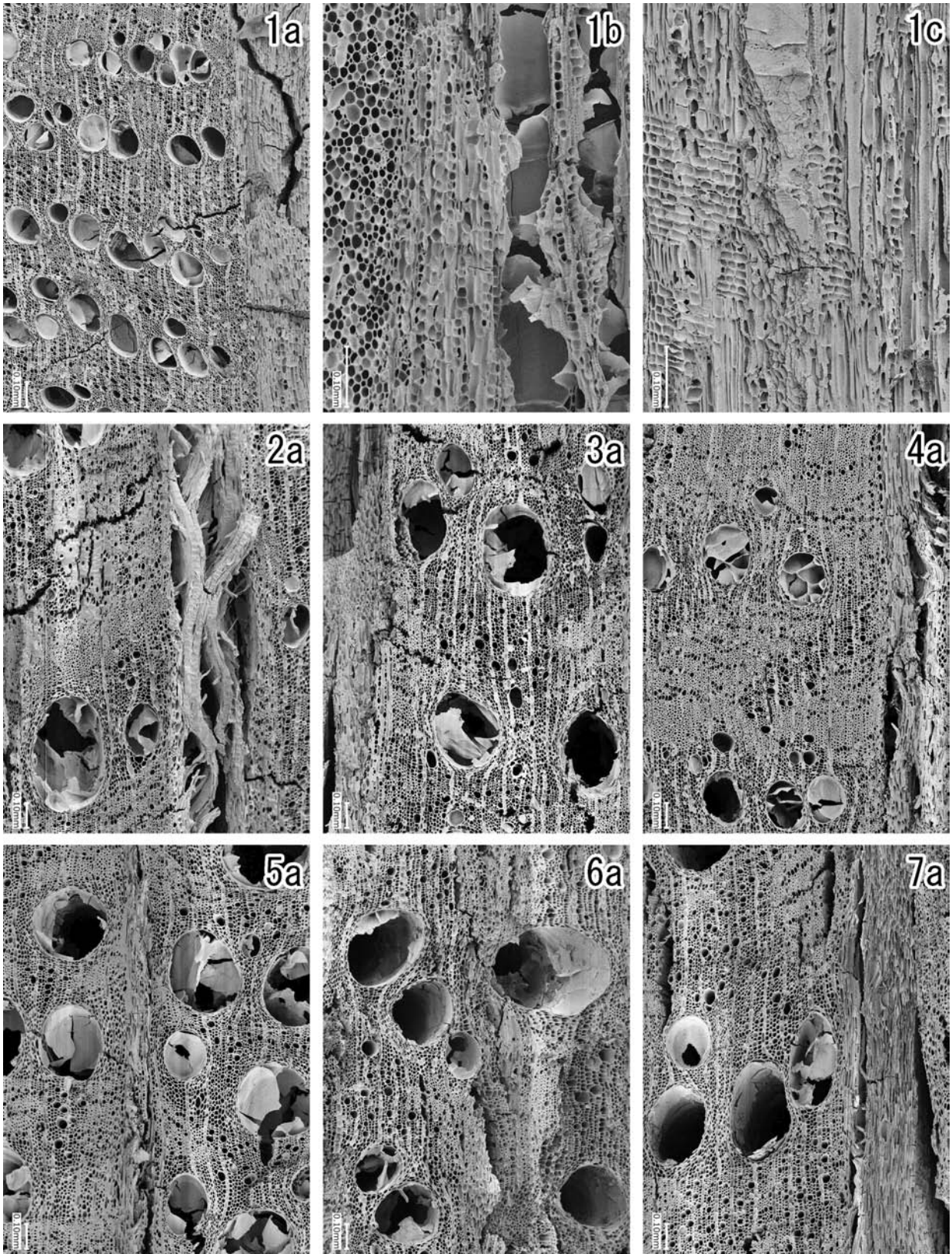


2. 遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期遺物



3. 遺構外出土中世以降の遺物

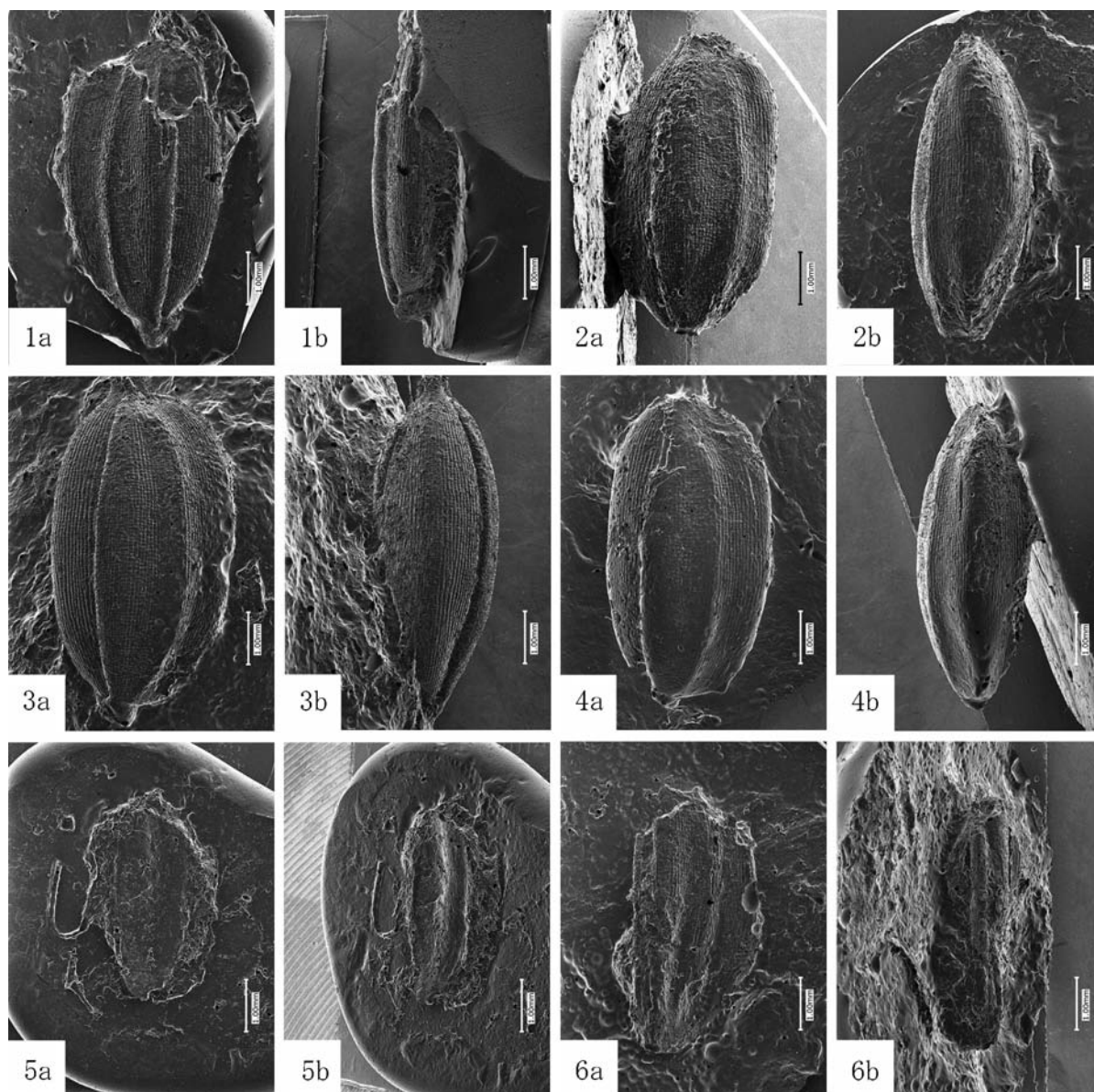




炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1 a - 1 c. コナラ属コナラ節 (No.651 Y \_ D - 1)、2 a. コナラ属コナラ節 (No.651 Y \_ E - 3)、3 a. コナラ属コナラ節 (No.651 Y \_ G - 2)、4 a. コナラ属コナラ節 (No.651 Y \_ H - 1)、5 a. コナラ属コナラ節 (No.651 Y \_ I - 1)、6 a. コナラ属コナラ節 (No.651 Y \_ L - 4)、7 a. コナラ属コナラ節 (No.651 Y \_ L - 1 3)  
a : 横断面、b : 接線断面、c : 放射断面





西原大塚遺跡第 235 地点出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真

1. イネ粉 (No. 1)、2. イネ粉 (No. 2)、3. イネ粉 (No. 4)、4. イネ粉 (No. 5)、  
5. イネ粉殻 (No. 3)、6. イネ粉殻 (No. 6)

報 告 書 抄 録

ふりがな	にしはらおおつかいせきだい 235 ちてん まいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ							
書名	西原大塚遺跡第 235 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	志木市の文化財							
シリーズ番号	第 89 集							
編著者	徳留彰紀 大久保 聡 尾形則敏 木村結香 市川康弘							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒 353-0002 埼玉県志木市中宗岡 1 丁目 1 番 1 号 TEL 048 (473) 1111							
発行年月日	令和 5 (2023) 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡ (全体面積)	調査原因
		市町村	遺跡番号	(°' ")	(°' ")			
にしはらおおつかいせき 西原大塚遺跡 (第 235 地点)	しきしさいちろう 志木市幸町 2 丁目 6226、6227	11228	09-007	35° 49' 39"	139° 33' 59"	20211025 ～ 20220331	1,542.37 (1,724.00)	分譲住宅建設 及び 道路新設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
西原大塚遺跡 (第 235 地点)	集落跡	旧石器時代	石器集中地点	3 か所	石器	中世以降の掘立柱建築遺構(5 T) から陶器碗・香炉がまとめて出土した。		
		縄文時代	礫群	3 か所	礫・炭化物			
			炉穴	1 基	なし			
			ピット	1 本	なし			
		弥生時代後期 ～古墳時代前期	住居跡	16 軒	土器・土製品・石器			
		古墳時代後期	住居跡	1 軒	土器・石製品			
		中世以降	掘立柱建築遺構	1 棟	陶器			
			土坑	26 基	陶器・土器			
			井戸跡	2 基	陶磁器			
			畝状遺構群	1 か所	陶器			
			ピット	112 本	陶器			
要 約								
<p>西原大塚遺跡は柳瀬川の南東、武蔵野台地北東端部に所在する縄文時代中期の環状集落や弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡を主体とする遺跡である。今回は遺跡の北東部に位置する第 235 地点の調査成果を収録している。本地点では旧石器時代から近世までの遺構・遺物が確認された。</p> <p>旧石器時代では、T P 1 (立川ローム第Ⅳ～第Ⅴ層)において 5号礫群を伴う 20号石器集中地点、T P 4 (立川ローム第Ⅶ～第Ⅸ層)において 21号石器集中地点、T P 15 (立川ローム第Ⅲ層)において 6号礫群を伴う 22号石器集中地点、T P 9 (立川ローム第Ⅲ層)において 7号礫群を確認した。小計は石器集中地点 3か所、礫群 3か所となる。</p> <p>弥生時代後期～古墳時代前期では、16軒の住居跡(640～655号住居跡)を確認した。そのうち、651・655号住居跡の 2軒は床面上から多くの炭化材が出土していることから焼失住居と考えられる。古墳時代後期では、北西壁沿い中央部にカマドを有する 31号住居跡を確認した。出土遺物から 5世紀末葉の年代が与えられ、本遺跡でカマドを有する住居跡の中では最古段階に位置付けられると考えられる。</p> <p>中世以降では、掘立柱建築遺構 1棟、土坑 26基、井戸跡 2基などが確認された。5号掘立柱建築遺構は、東西方向に主軸を有する桁行 3間×梁行 1間の側柱建物で、北西隅を形成する 3基の柱掘方から、口縁部を人為的に半周打ち欠いた共通の形状を呈する陶器碗・香炉が計 4個体出土した。5号掘立柱建築遺構の築造年代は、出土遺物から 17世紀後葉に比定される。</p>								

志木市の文化財 第89集

## 西原大塚遺跡 第235地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 埼玉県志木市教育委員会  
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号  
発行日 令和5（2023）年3月31日  
印刷 能登印刷株式会社